

市政に関する世論調査 結 果 報 告 書

— 第57回 令和6年度 —

宇 都 宮 市

目次

I	調査の概要	- 1 -
1.	調査の目的	- 1 -
2.	調査の項目	- 1 -
3.	調査の設計	- 2 -
4.	回収結果	- 3 -
5.	標本誤差	- 4 -
6.	調査報告書の見方	- 4 -
II	調査回答者の属性	- 5 -
III	調査結果のあらまし	- 8 -
1.	宇都宮市に対する感じ方について	- 8 -
2.	広報媒体の活用状況について	- 8 -
3.	成年後見制度について	- 9 -
4.	生物多様性について	- 9 -
5.	宇都宮産の農産物について	- 9 -
6.	カーボンニュートラル（脱炭素）について	- 10 -
7.	水災害（洪水など）への備えについて	- 10 -
8.	雨水貯留・浸透施設の補助金制度について	- 10 -
9.	「宮っこを守り・育てる都市宣言」について	- 11 -
10.	まちづくり活動への参加意識について	- 11 -
11.	公共交通の運賃負担軽減策等について	- 11 -
12.	スポーツに関することについて	- 12 -
13.	自転車のまちづくりについて	- 12 -
14.	中心市街地の活性化について	- 12 -
15.	焼却ごみ削減の取組について	- 13 -
16.	自治会について	- 13 -
17.	良好な生活環境の確保に係る市民満足度について	- 13 -
18.	保健と福祉のまるごと相談窓口エールUについて	- 14 -
19.	健康づくりについて	- 14 -
20.	結婚・出産・子育てに関する意識について	- 14 -
21.	「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について	- 15 -
22.	生涯学習について	- 15 -
23.	火葬により生じる残骨灰の取り扱いについて	- 15 -
24.	地域共生社会について	- 15 -
25.	「大谷石文化」の日本遺産認定について	- 16 -
26.	選挙の投票率向上に向けた取組について	- 16 -
27.	「もったいない運動」について	- 16 -
28.	男女共同参画について	- 17 -

29. 防犯・交通安全に関する意識・状況について	- 17 -
30. デジタル化について	- 17 -
IV 第57回市政に関する世論調査の結果	- 18 -
1. 宇都宮市に対する感じ方について	- 18 -
2. 広報媒体の活用状況について	- 27 -
3. 成年後見制度について	- 66 -
4. 生物多様性について	- 68 -
5. 宇都宮産の農産物について	- 72 -
6. カーボンニュートラル（脱炭素）について	- 78 -
7. 水災害（洪水など）への備えについて	- 97 -
8. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について	- 104 -
9. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について	- 116 -
10. まちづくり活動への参加意識について	- 118 -
11. 公共交通の運賃負担軽減策等について	- 122 -
12. スポーツに関することについて	- 130 -
13. 自転車のまちづくりについて	- 137 -
14. 中心市街地の活性化について	- 141 -
15. 焼却ごみ削減の取組について	- 149 -
16. 自治会について	- 153 -
17. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について	- 167 -
18. 保健と福祉のまると相談窓口エールUについて	- 169 -
19. 健康づくりについて	- 175 -
20. 結婚・出産・子育てに関する意識について	- 183 -
21. 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について	- 187 -
22. 生涯学習について	- 197 -
23. 火葬により生じる残骨灰の取り扱いについて	- 199 -
24. 地域共生社会について	- 205 -
25. 「大谷石文化」の日本遺産認定について	- 209 -
26. 選挙の投票率向上に向けた取組について	- 213 -
27. 「もったいない運動」について	- 221 -
28. 男女共同参画について	- 229 -
29. 防犯・交通安全に関する意識・状況について	- 247 -
30. デジタル化について	- 253 -
V 調査結果の考察	- 259 -
VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果	- 275 -
1. あなたのことについて	- 275 -
2. 現在の宇都宮市について	- 285 -
3. 各施策についての重要度	- 289 -
4. 各施策についての満足度	- 295 -

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況、「広報うつのみや」の入手方法、「広報うつのみや」を入手していない理由、「広報うつのみや」で読んでいる主な記事、「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報、市のホームページを見るための主な手段、ホームページで知りたい情報はどこから探すか、ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか、ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報、市政情報をどんな手段で知りたいか
成年後見制度	成年後見制度の認知度
生物多様性	「生物多様性」の認知度、外来種が及ぼす影響の認知度
宇都宮産の農産物	宇都宮産の農産物の購入意欲、宇都宮の農業を大切にしたいと思うか、環境に配慮して生産された農産物の購入意欲
カーボンニュートラル(脱炭素)	カーボンニュートラルの認知度、カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか、カーボンニュートラルにつながる行動について、ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度
水災害（洪水など）への備え	ハザードマップの存在の認知度、住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か、水災害への備えに取り組んでいるか
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度、貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度、貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度、貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか、設置希望・既設置の理由、設置したくない理由
宮っこを守り・育てる都市宣言	「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度
まちづくり活動への参加意識	参加中または興味があるまちづくり活動、まちづくり活動に参加していない理由
公共交通の運賃負担軽減策等	普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度、交通系 IC カード「totra」の認知度、交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」の認知度、「totra」を利用した「乗継割引制度」の認知度
スポーツに関すること	大規模スポーツイベント開催の認知度、大規模スポーツイベントの会場観戦があるか、スポーツイベントを観戦するための要素、スポーツに関する指導を行ってみたいか、アーバンスポーツに関心があるか
自転車のまちづくり	自転車を使いやすいまちだと思うか、魅力ある「自転車のまち」を推奨していく上で必要な取組
中心市街地の活性化	中心市街地に住みたいと思うか、中心市街地に出かける頻度、中心市街地へ出かける目的、街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか

焼却ごみ削減の取組	焼却ごみ削減のため実施した取組，焼却ごみ削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組
自治会	自治会に加入しているか，加入したきっかけ，加入したことがない理由，退会した理由，住みよい暮らしのための今後の自治会活動，特にどのような活動に力をいれていくべきか，住まいについて
良好な生活環境の確保に係る市民満足度	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度
保健と福祉のまろごと相談窓口エール U	保健と福祉のまろごと相談窓口エール U の認知度，エール U の設置場所の認知度，エール U がどのような相談窓口かの認知度
健康づくり	主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度，がん検診を受診する間隔，直近のがん検診の受診先，歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるか
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか，結婚するつもりがあるか，結婚している場合，全部で何人のお子さんを持ちたいか，結婚を予定している場合，子どもは何人ほしいか
SDGs (エス・ディー・ジーズ)	SDGs についての認知度，SDGs につながる行動の中で日頃から取り組んでいるもの，SDGs のゴールの中で積極的に取り組みたい分野
生涯学習	現在，生涯学習として学習，文化・スポーツ（運動）活動をしているか
火葬により生じる残骨灰の取り扱い	残骨灰の中に金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることについての認知度，残骨灰に含まれる有価物を売却し，その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることについての認知度，残骨灰に含まれる有価物を市が売却し，その収入を火葬場などの財源に充てることについてどう思うか
地域共生社会	地域共生社会の認知度，どのようにして地域共生社会を知ったか
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度，「大谷石文化」を誇りに感じるか
選挙の投票率向上に向けた取組	最近の選挙について投票に行っているか，最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているか，昨年 4 月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由，投票環境の充実を図るために必要な取組
「もったいない運動」	「もったいない運動」の認知度，「もったいない運動」を知った経緯，日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間，社会的な活動の実施状況，配偶者からの暴力を受けた経験，LGBTQ（エルジービーティーキュー）の認知度
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができているか，自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況，自転車保険の加入状況
デジタル化	デジタル機器の所有状況，インターネットを利用しているか，インターネットを利用しない理由

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上の日本国籍を有する市民 5,400 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 6 年 8 月 19 日～9 月 6 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
5,400	2,767	51.2%

＜性別・年齢別の回収状況＞

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10 歳代	男性	42	1	2.4%	11	26.2%	12	28.6%
	女性	31	1	3.2%	9	29.0%	10	32.3%
	その他	0	0	—	0	—	0	—
	計	73	2	2.7%	20	27.4%	22	30.1%
20 歳代	男性	291	13	4.5%	63	21.6%	76	26.1%
	女性	240	19	7.9%	51	21.3%	70	29.2%
	その他	0	0	—	3	—	3	—
	計	531	32	6.0%	117	22.0%	149	28.1%
30 歳代	男性	376	30	8.0%	101	26.9%	131	34.8%
	女性	302	40	13.2%	115	38.1%	155	51.3%
	その他	0	0	—	1	—	1	—
	計	678	70	10.3%	217	32.0%	287	42.3%
40 歳代	男性	504	46	9.1%	141	28.0%	187	37.1%
	女性	444	75	16.9%	142	32.0%	217	48.9%
	その他	0	2	—	9	—	11	—
	計	948	123	13.0%	292	30.8%	415	43.8%
50 歳代	男性	483	83	17.2%	117	24.2%	200	41.4%
	女性	404	136	33.7%	116	28.7%	252	62.4%
	その他	0	0	—	1	—	1	—
	計	887	219	24.7%	234	26.4%	453	51.1%
60 歳代	男性	368	141	38.3%	74	20.1%	215	58.4%
	女性	363	186	51.2%	66	18.2%	252	69.4%
	その他	0	1	—	1	—	2	—
	計	731	328	44.9%	141	19.3%	469	64.2%
70 歳代	男性	387	224	57.9%	35	9.0%	259	66.9%
	女性	460	309	67.2%	20	4.3%	329	71.5%
	その他	0	0	—	0	—	0	—
	不明							
	計	847	533	62.9%	55	6.5%	588	69.4%
80 歳以上	男性	227	110	48.5%	6	2.6%	116	51.1%
	女性	478	208	43.5%	14	2.9%	222	46.4%
	その他	0	0	—	0	—	0	—
	不明	—	2	—	0	—	2	—
	計	705	320	45.4%	20	2.8%	340	48.2%
年代不明	男性	—	1	—	0	—	1	—
	女性	—	2	—	0	—	2	—
	その他	—	0	—	0	—	0	—
	不明	—	41	—	0	—	41	—
	計	—	44	—	0	—	44	—
全体	男性	2,678	649	24.2%	548	20.5%	1,197	44.7%
	女性	2,722	976	35.9%	533	19.6%	1,509	55.4%
	その他	0	3	—	15	—	18	—
	不明	0	43	—	0	—	43	—
合計		5,400	1,671	30.9%	1,096	20.3%	2,767	51.2%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として 95% がとられるケースが多い。信頼度 95% とは、100 回に 5 回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度 95% の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90% または 10% 前後	80% または 20% 前後	70% または 30% 前後	60% または 40% 前後	50% 前後
2,767	±1.11%	±1.49%	±1.70%	±1.82%	±1.86%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.70%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.83%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

< 標本誤差の算出方法 >

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満 18 歳以上の人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度 95% の場合 (信頼度 99% の場合は 2.58 を使用)

< 表の見方 >

この表の見方としては、例えば、回答者数が 2,767 で宇都宮市が「好き」との答えが 47.7% であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも 47.7% ± 1.86% 以内 (45.84% ~ 49.56%) である」とみることができる。

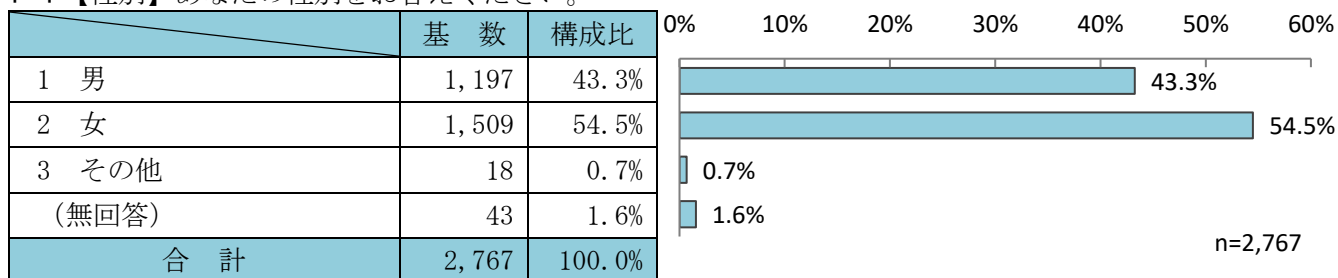
6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第 2 位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が 100.0% にならない場合がある。
- 回答比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0% を超えることがある。
- n 値が少ない属性は記述に含まれない場合がある。
- 世論調査のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。

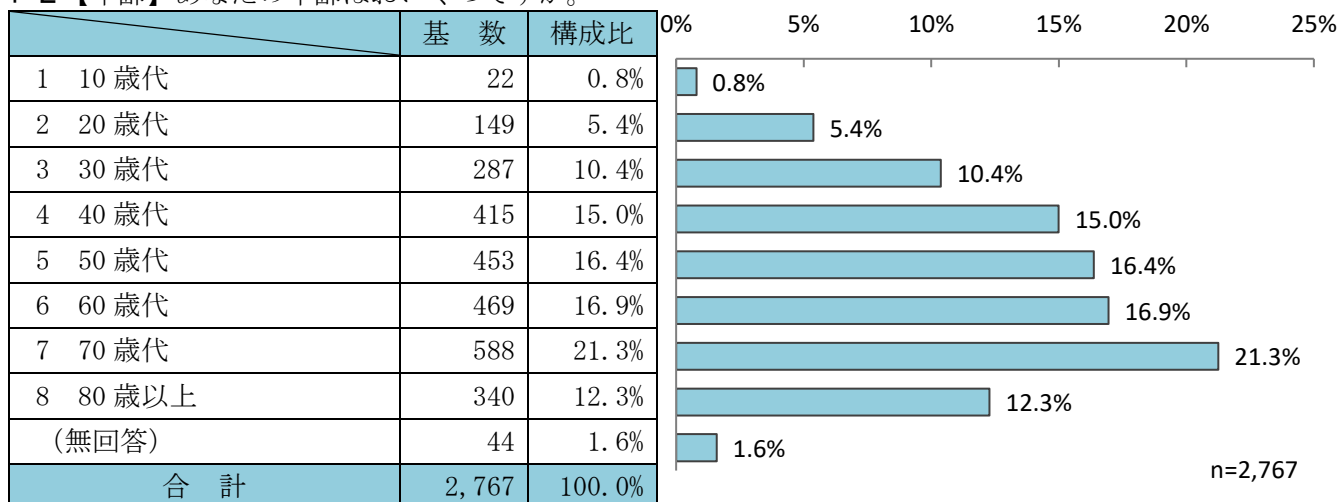
Ⅱ 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

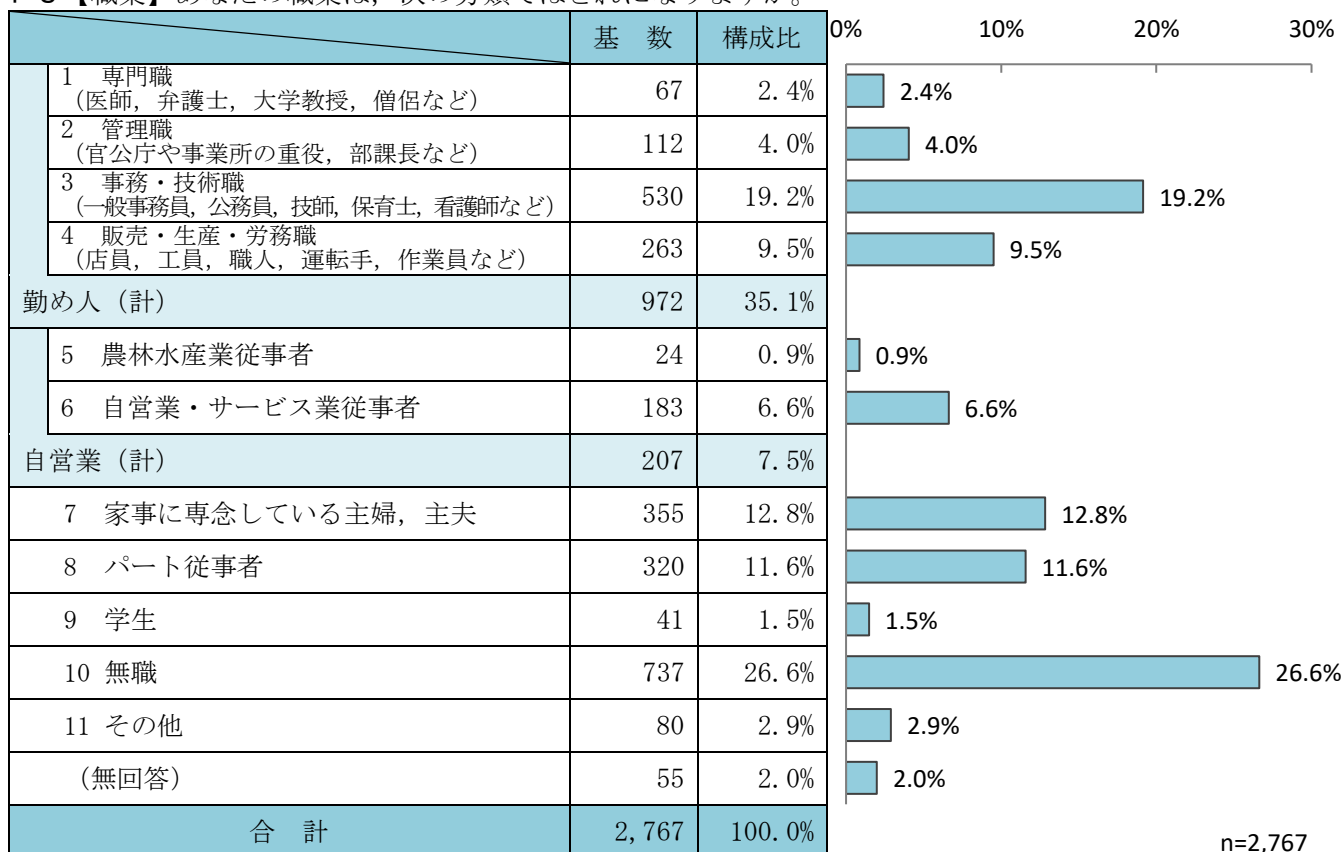
F 1 【性別】 あなたの性別をお答えください。



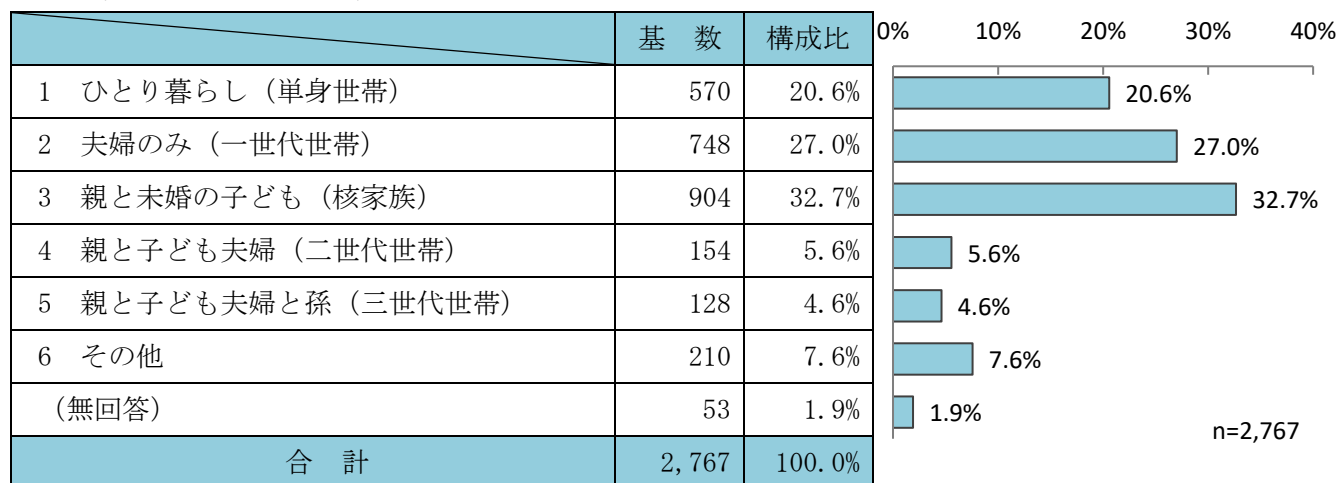
F 2 【年齢】 あなたの年齢はおいくつですか。



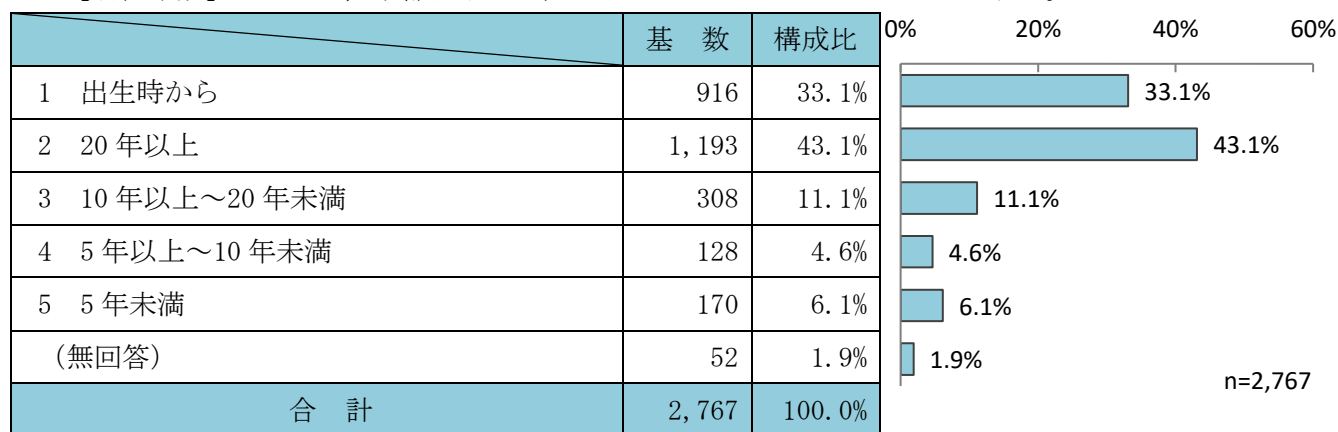
F 3 【職業】 あなたの職業は、次の分類ではどれになりますか。



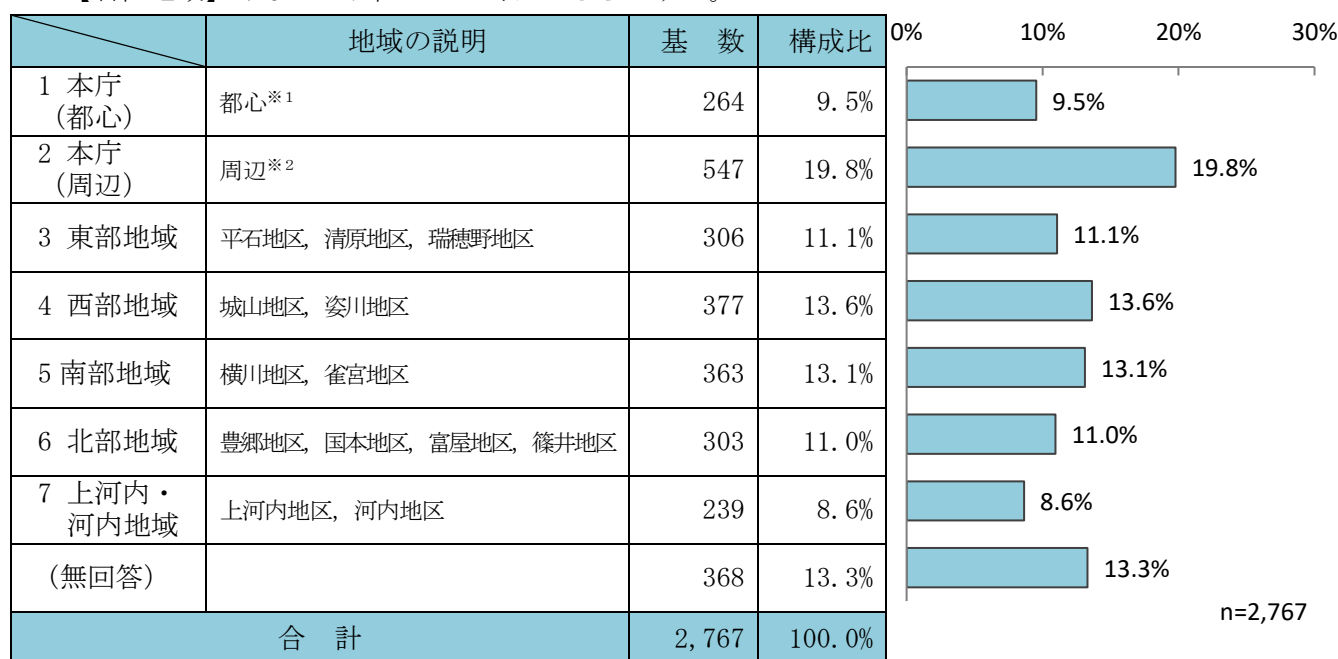
F 4 【家族構成】 あなたの家族構成はどれに該当しますか。



F 5 【居住年数】 あなたは、宇都宮市にお住まいになってどのくらいになりますか。



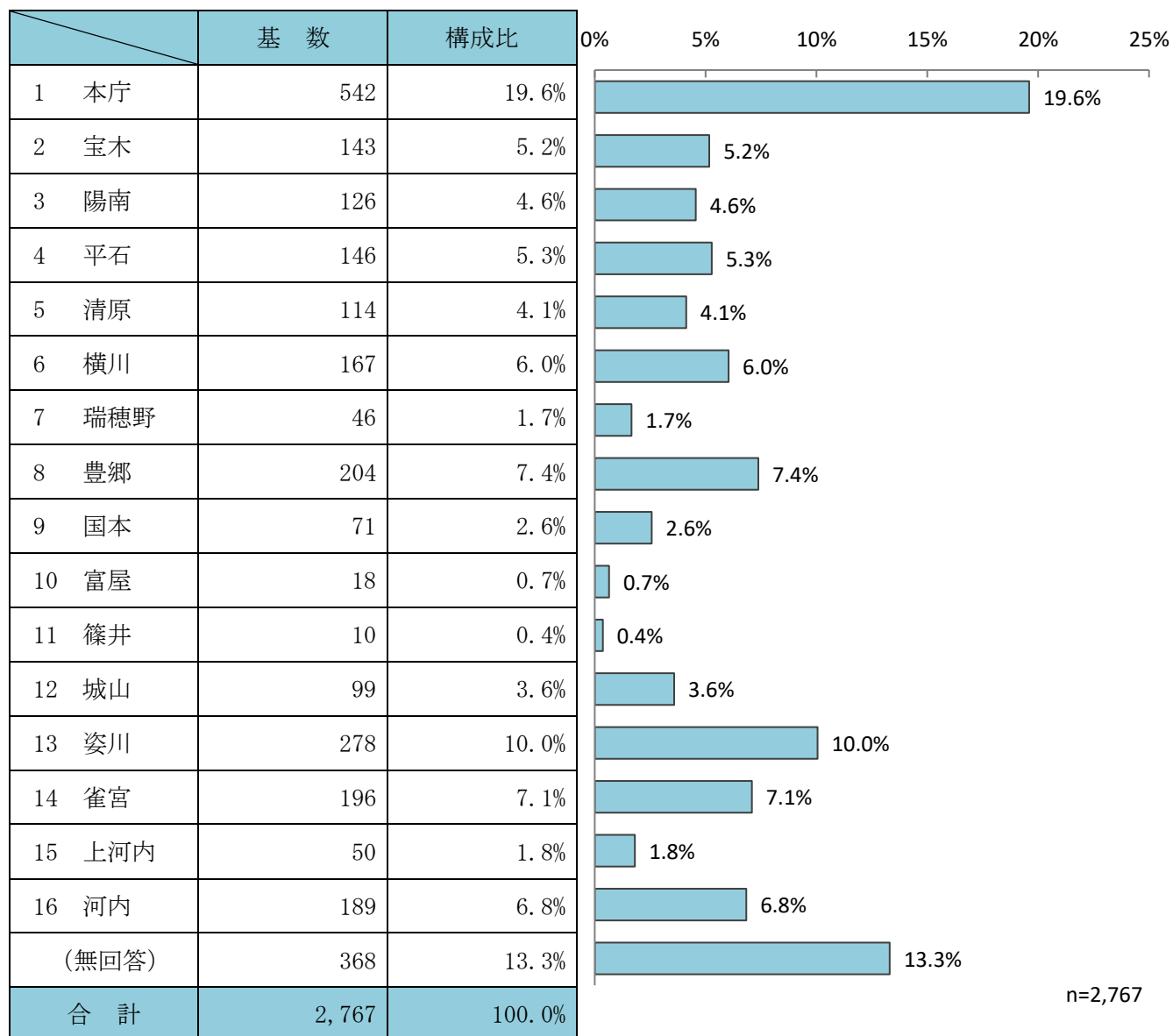
F 6 【居住地域】 あなたがお住まいの町はどちらですか。



※1 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りで囲まれた地域

※2 本庁管内で、【東】国道4号バイパス・【西】桜通り・【南】平成通り・【北】競輪場通りより外側の地域

F 6 【居住地区】



Ⅲ 調査結果のあらまし

III 調査結果のあらまし

第 57 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。一方、「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」を合わせた【嫌い（計）】は1割に満たなかった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が4割半ばで最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「慣れ親しんだところ」、「自然環境の豊かさ」と続いた。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が約3割で最も高く、次いで「交通渋滞の多さ」、「街に活気がないところ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いた。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「広報うつのみや」が約8割で最も高く、次いで「宇都宮市ホームページ」、「暮らしの便利帳」と続いた。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が5割半ばで最も高かった。一方、「手に入れていない」が2割半ばであった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が約5割で最も高く、次いで「入手方法を知らないため」が約3割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

「広報うつのみや」で読んでいる主な記事については、「市政情報」が5割半ばで最も高く、次いで「うつのみやのイベント」、「特集」、「情報ひろば」と続いた。

(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

地域活動の情報、イベント情報の更なる充実を求める声が多かった。一方、掲載内容に満足している声や見せ方の工夫を求める声もあった。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が4割強で最も高かった。

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「大分類（暮らし・手続き、子育て・教育など）」が5割強で最も高かった。

(8) ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか

ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい（計）】が6割半ばであった。一方、「どちらかといえば探しにくい」と「探しにくい」を合わせた【探しにくい（計）】は2割半ばであった。

(9) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

市政に関する情報、地域のイベント情報、災害時や緊急時等の情報の充実やカテゴリー分け等による情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が6割弱であった。

3. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度については、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」が4割強であった。

4. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っていた」が4割弱であった。

(2) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っていた」が9割弱であった。

5. 宇都宮産の農産物について

(1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

宇都宮産の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割強であった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割であった。

(3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

環境に配慮して生産された農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ばであった。

6. カーボンニュートラル（脱炭素）について

（１）カーボンニュートラルの認知度

カーボンニュートラルの認知度については、「言葉の意味も含めて知っている」が５割強であった。

（２）カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う（計）】が約９割であった。

（３）カーボンニュートラルにつながる行動について

カーボンニュートラルにつながる行動については、「実践している」は『ＬＥＤ照明の使用』が７割強で最も高く、次いで『運転の際のエコドライブ』、『給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用』と続いた。

（４）ライトラインが再生可能エネルギー１００％で走行していることの認知度

ライトラインが再生可能エネルギー１００％で走行していることの認知度については、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が６割半ばであった。

7. 水災害（洪水など）への備えについて

（１）ハザードマップの存在の認知度

ハザードマップの存在の認知度については、「知っており、内容を確認している」が５割弱であった。

（２）住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地しているかについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が６割弱であった。

（３）水災害への備えに取り組んでいるか

水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が５割強で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」が約５割であった。

8. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

（１）「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が約４割であった。

（２）貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が約７割であった。

（３）貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度については、「知らない」が約６割であった。

（４）貯留タンクや浸透ますを設置したいと思うか

貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うかについては、「わからない」が６割弱であった。

(5) 設置希望・既設置の理由

設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割半ばで最も高く、次いで「水の節約になるため」が5割弱であった。

(6) 設置したくない理由

設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」がいずれも4割強であった。

9. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

(1) 「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度

「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度については、「名称も内容も知らない」が5割半ばであった。

10. まちづくり活動への参加意識について

(1) 参加中または興味があるまちづくり活動

参加中または興味があるまちづくり活動については、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が2割半ばで最も高く、次いで「高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動」が2割強であった。

(2) まちづくり活動に参加していない理由

まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ばで最も高く、次いで「どのように参加すればいいかわからない」が約2割であった。

11. 公共交通の運賃負担軽減策等について

(1) 普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度

普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が7割強であった。

(2) 交通系 IC カード「totra」の認知度

交通系 IC カード「totra」の認知度については、「知っている」が約7割であった。

(3) 交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」の認知度

交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」の認知度については、「知らない」が7割強であった。

(4) 「totra」を利用した「乗継割引制度」の認知度

「totra」を利用した「乗継割引制度」の認知度については、「知らない」が7割強であった。

1 2. スポーツに関することについて

(1) 大規模スポーツイベント開催の認知度

大規模スポーツイベント開催の認知度については、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム」、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース ロードレース」が6割半ばであった。

(2) 大規模スポーツイベントの会場観戦があるか

大規模スポーツイベント会場観戦があるかについては、「会場で観戦がある」は『宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム』が3割弱で最も高く、次いで『宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース ロードレース』と『FIBA 3x3 ワールドツアー宇都宮オープナー』が2割弱であった。また『宇都宮シクロクロス』は約1割であった。

(3) スポーツイベントを観戦するための要素

スポーツイベントを観戦するための要素については、「駐車場など充実した交通環境」が約6割で最も高く、次いで「音楽や食を楽しめる」が2割半ばであった。

(4) スポーツに関する指導を行ってみたいか

スポーツに関する指導を行ってみたいかについては、「行いたくない」が6割強であった。

(5) アーバンスポーツに関心があるか

アーバンスポーツに関心があるかについては、「まったく関心がない」が約5割であった。

1 3. 自転車のまちづくりについて

(1) 自転車を使いやすいまちだと思うか

自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が2割半ばであった。一方、「そうは思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が4割強であった。

(2) 魅力ある「自転車のまち」を推奨していく上で必要な取組

魅力ある「自転車のまち」に推奨していく上で必要な取組については、「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」が5割強で最も高く、次いで「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」が約3割であった。

1 4. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に住みたいと思うか

中心市街地に住みたいと思うかについては、「住むことは考えていない」が約6割であった。

(2) 中心市街地に出かける頻度

中心市街地に出かける頻度については、「月1～2回程度」が3割半ばであった。

(3) 中心市街地へ出かける目的

中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が7割弱で最も高く、次いで「飲食」が3割半ばであった。

(4) 街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか

街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるかについては、「もっと楽しめる場所がほしい」が2割強で最も高く、次いで「もっとアクセスしやすくなってほしい」が2割であった。

15. 焼却ごみ削減の取組について

(1) 焼却ごみ削減のため実施した取組

焼却ごみ削減のため実施した取組については、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」が8割弱で最も高く、次いで「資源化できる紙（お菓子の箱等）の分別を徹底している」が6割強であった。

(2) 焼却ごみ削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組

焼却ごみ削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組については、「広報紙」が約5割で最も高く、次いで「自治会の回覧板」が4割半ばであった。

16. 自治会について

(1) 自治会に加入しているか

自治会に加入しているかについては、「加入している」が7割半ばであった。

(2) 加入したきっかけ

加入したきっかけについては、「昔から入っていてきっかけはない」が5割強で最も高く、次いで「自らの申込み」が3割半ばであった。

(3) 加入したことがない理由

加入したことがない理由については、「加入を勧められていない」が約4割で最も高く、次いで「単身である」が約3割であった。

(4) 退会した理由

退会した理由については、「役員や当番が負担である」が5割弱で最も高く、次いで「(高齢などにより) 会合や清掃などの自治会活動への参加が困難」が3割強であった。

(5) 住みよい暮らしのための今後の自治会活動

住みよい暮らしのための今後の自治会活動については、「自治会の活動を見直し(削減し)、自分たちの可能な範囲で活動する」が約5割であった。

(6) 特にどのような活動に力をいれていくべきか

特にどのような活動に力をいれていくべきかについては、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」、「高齢者・障がい者等の見守りなどの福祉活動」、「防犯灯の設置、防犯パトロールの実施などの防犯活動」がいずれも3割半ばであった。

(7) 住まいについて

住まいについては、「一戸建て」が8割半ばであった。

17. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

(1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度

環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているかについては、「満足」と「やや満足」を合わせた【満足(計)】が5割半ばであった。一方、「不満」と「やや不満」を合わせた【不満(計)】は約1割であった。

18. 保健と福祉のまると相談窓口エールUについて

(1) 保健と福祉のまると相談窓口エールUの認知度

保健と福祉のまると相談窓口エールUの認知度については、「知らない」が9割半ばであった。

(2) エールUの設置場所の認知度

エールU設置場所の認知度については、「知らない」が9割半ばであった。

(3) エールUがどのような相談窓口かの認知度

エールUがどのような相談窓口かの認知度については、「知らない」が9割半ばであった。

19. 健康づくりについて

(1) 主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度

主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度については、「ほぼ毎日」が5割半ばであった。

(2) がん検診を受診する間隔

がん検診を受診する間隔については、「毎年受診している」、「受診していない」がいずれも3割半ばであった。

(3) 直近のがん検診の受診先

直近のがん検診の受診先については、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」が3割弱であった。

(4) 歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるか

歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるかについては、「ある」が8割弱であった。

20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が6割強であった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「結婚するつもりはない」が約7割であった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が5割強であった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が約5割であった。

2 1. 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について

（1）SDGs についての認知度

SDGs についての認知度については、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が約 3 割であった。

（2）SDGs につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

SDGs につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「買い物をするときはマイバッグを使っている」、「水をだしっぱなしにしないようにしている」が約 7 割であった。

（3）SDGs のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野

SDGs のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野については、「すべての人に健康と福祉を」が 4 割半ばであった。

2 2. 生涯学習について

（1）現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているか

現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているかについては、「していない」が 6 割弱であった。

2 3. 火葬により生じる残骨灰の取り扱いについて

（1）残骨灰の中に金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることについての認知度

残骨灰の中に金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることについては、「知らなかった」が 4 割強であった。

（2）残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることについての認知度

残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることについては、「知らなかった」が 8 割強であった。

（3）残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることについてどう思うか

残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることをどう思うかについては、「賛成」と「どちらかという賛成」を合わせた【賛成（計）】が 8 割弱であった。

2 4. 地域共生社会について

（1）地域共生社会の認知度

地域共生社会の認知度については、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 4 割強であった。

（2）どのようにして地域共生社会を知ったか

どのようにして地域共生社会を知ったかについては、「広報紙」が約 3 割であった。

25. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知っている」、「知らない」がいずれも約5割であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が約7割であった。一方、「感じない」と「あまり感じない」を合わせた【感じない(計)】は約2割であった。

26. 選挙の投票率向上に向けた取組について

(1) 最近の選挙について投票に行っているか

最近の選挙について投票に行っているかについては、「毎回行っている」が4割強であった。

(2) 最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているか

最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているかについては、「テレビやニュース」が7割弱であった。

(3) 昨年4月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由

昨年4月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が5割半ばであった。

(4) 投票環境の充実を図るために必要な取組

投票環境の充実を図るために必要な取組については、「候補者や政党の情報を増やす」が4割弱であった。

27. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「内容を知っており、実践している」が3割弱、「内容を知っているが、実践はしていない」が2割弱であった。

(2) 「もったいない運動」を知った経緯

「もったいない運動」を知った経緯については、「今回の調査で初めて知った」が約5割で最も高く、次いで「広報紙」が約2割であった。

(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動(マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等)」が約6割であった。

28. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が4割半ばであった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が1割弱。介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が1割弱であった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が6割半ばで最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が約2割であった。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについては、「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「精神的な暴力」が1割に満たなかった。

(4) LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度

LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度については、「言葉も内容も知っている」が5割弱であった。

29. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

(1) 安心して暮らすことができているか

安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割であった。

(2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が約7割であった。

(3) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が5割半ばであった。

30. デジタル化について

(1) デジタル機器の所有状況

デジタル機器の所有状況については、「スマートフォン」が8割強であった。

(2) インターネットを利用しているか

インターネットを利用しているかについては、「利用している」が7割強であった。

(3) インターネットを利用しない理由

インターネットを利用しない理由については、「機器の操作方法等がわからない」が約6割であった。

IV 第 57 回市政に関する世論調査の結果

IV 第 57 回市政に関する世論調査の結果

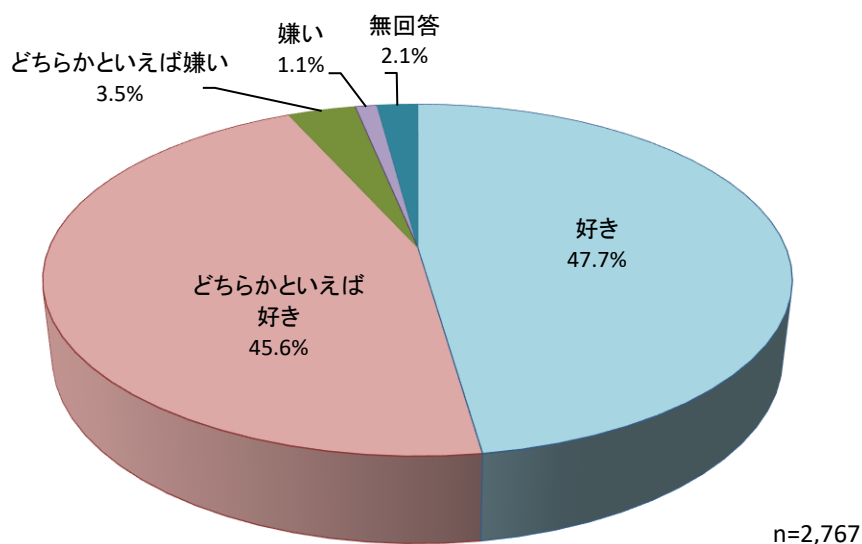
1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

◇「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】が 9 割強

問 1	宇都宮市を好きですか、それとも嫌いですか。	(○は 1 つ)
		n=2,767
1	好き	47.7%
2	どちらかといえば好き	45.6%
3	どちらかといえば嫌い	3.5%
4	嫌い	1.1%
	(無回答)	2.1%

<図Ⅳ－１－１>全体



宇都宮市を好きか、嫌いかを聞いたところ、「好き」が 47.7%、「どちらかといえば好き」が 45.6%で、これらを合わせた【好き（計）】が 93.3%であった。一方、「どちらかといえば嫌い」が 3.5%、「嫌い」が 1.1%で、これらを合わせた【嫌い（計）】が 4.6%と 1 割に満たなかった。(図Ⅳ－１－１)

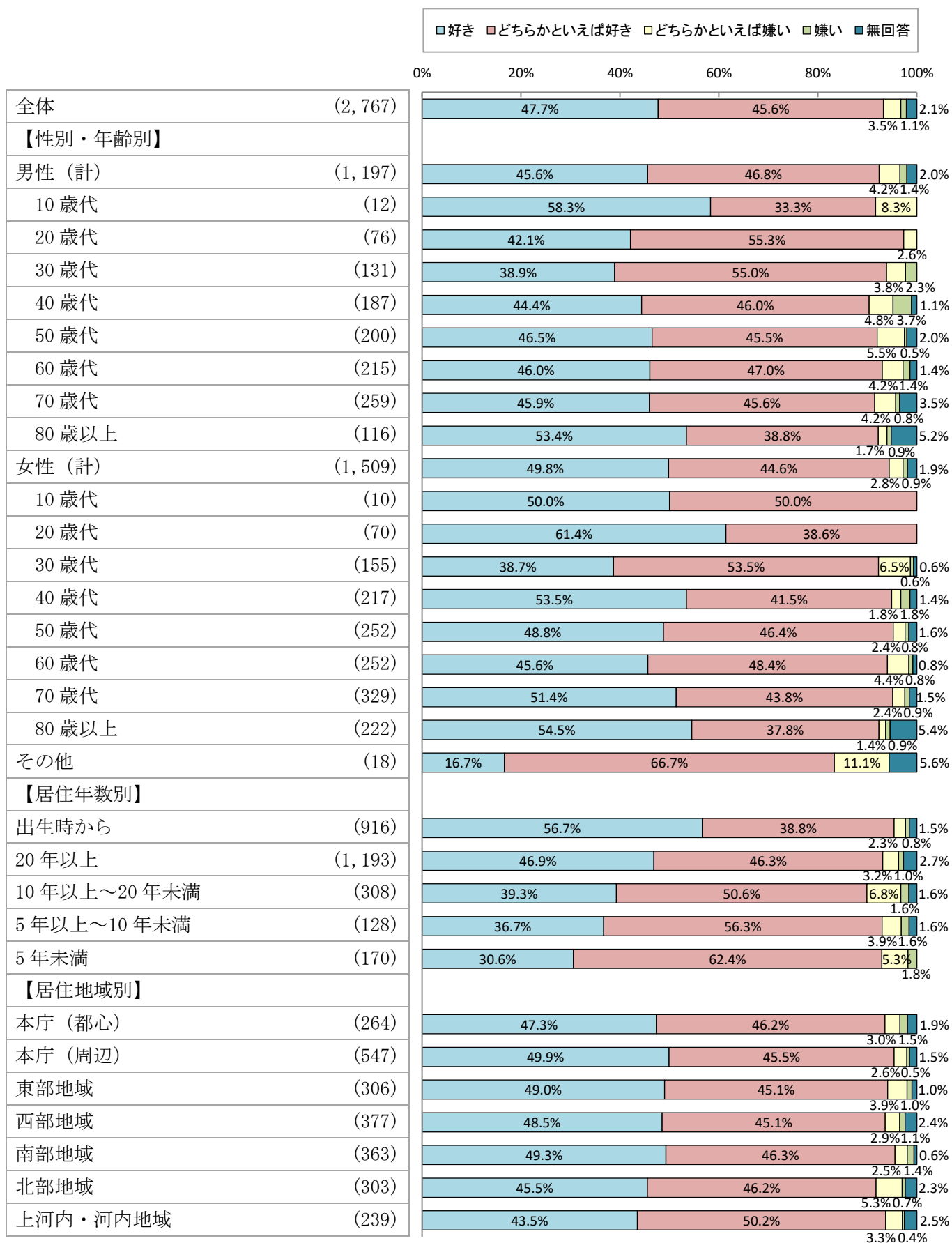
<参考>

性別・年齢別で見ると、【好き（計）】は<女性 10・20 歳代>がいずれも 100.0%、<男性 20 歳代>が 97.4%であった。【好き（計）】は、いずれの性別・年齢別で約 9 割を超えていた。一方、【嫌い（計）】は<その他>を除くと、<男性 40 歳代>が 8.5%で最も高く、次いで<男性 10 歳代>が 8.3%、<女性 30 歳代>が 7.1%と続いた。(図Ⅳ－１－２)

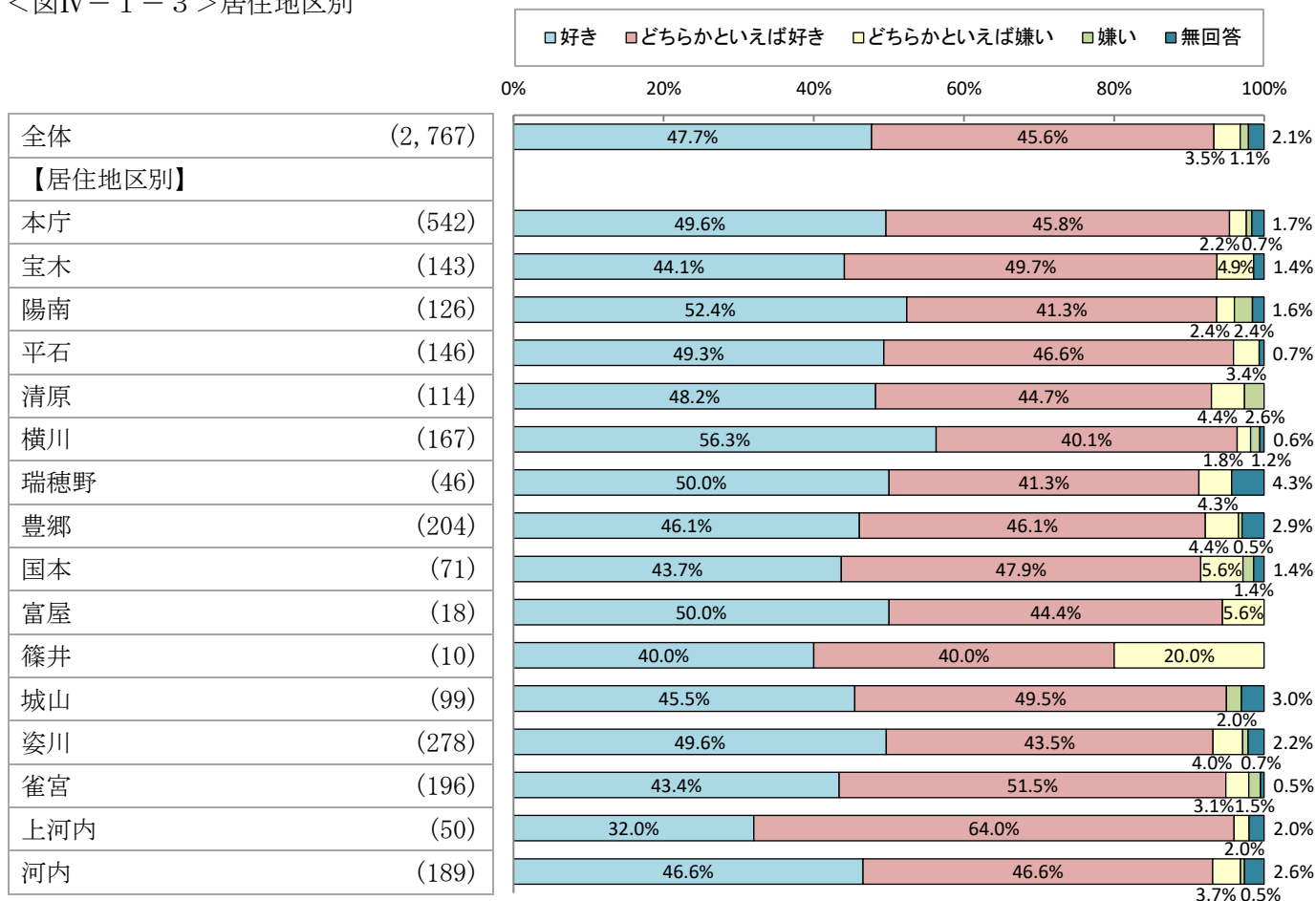
居住年数別で見ると、【好き（計）】は<出生時から>が 95.5%で最も高く、次いで<20 年以上>が 93.2%であった。一方、【嫌い（計）】は<10 年以上～20 年未満>が 8.4%で最も高く、次いで<5 年未満>が 7.1%であった。(図Ⅳ－１－２)

居住地域別で見ると、【好き（計）】は<南部地域>が 95.6%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 95.4%であった。一方、【嫌い（計）】は<北部地域>が 6.0%で最も高く、次いで<東部地域>が 4.9%であった。(図Ⅳ－１－２)

<図Ⅳ－１－２>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



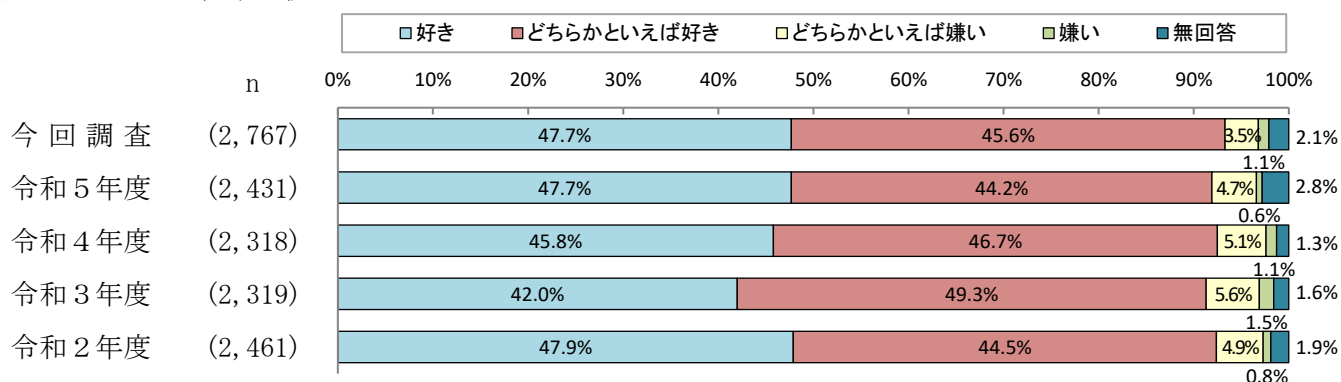
<図Ⅳ－１－３>居住地区別



【経年比較】

選択項目	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
令和6年度	47.7%	45.6%	3.5%	1.1%	2.1%
令和5年度	47.7%	44.2%	4.7%	0.6%	2.8%
令和4年度	45.8%	46.7%	5.1%	1.1%	1.3%
令和3年度	42.0%	49.3%	5.6%	1.5%	1.6%
令和2年度	47.9%	44.5%	4.9%	0.8%	1.9%

<図Ⅳ－１－４>経年比較



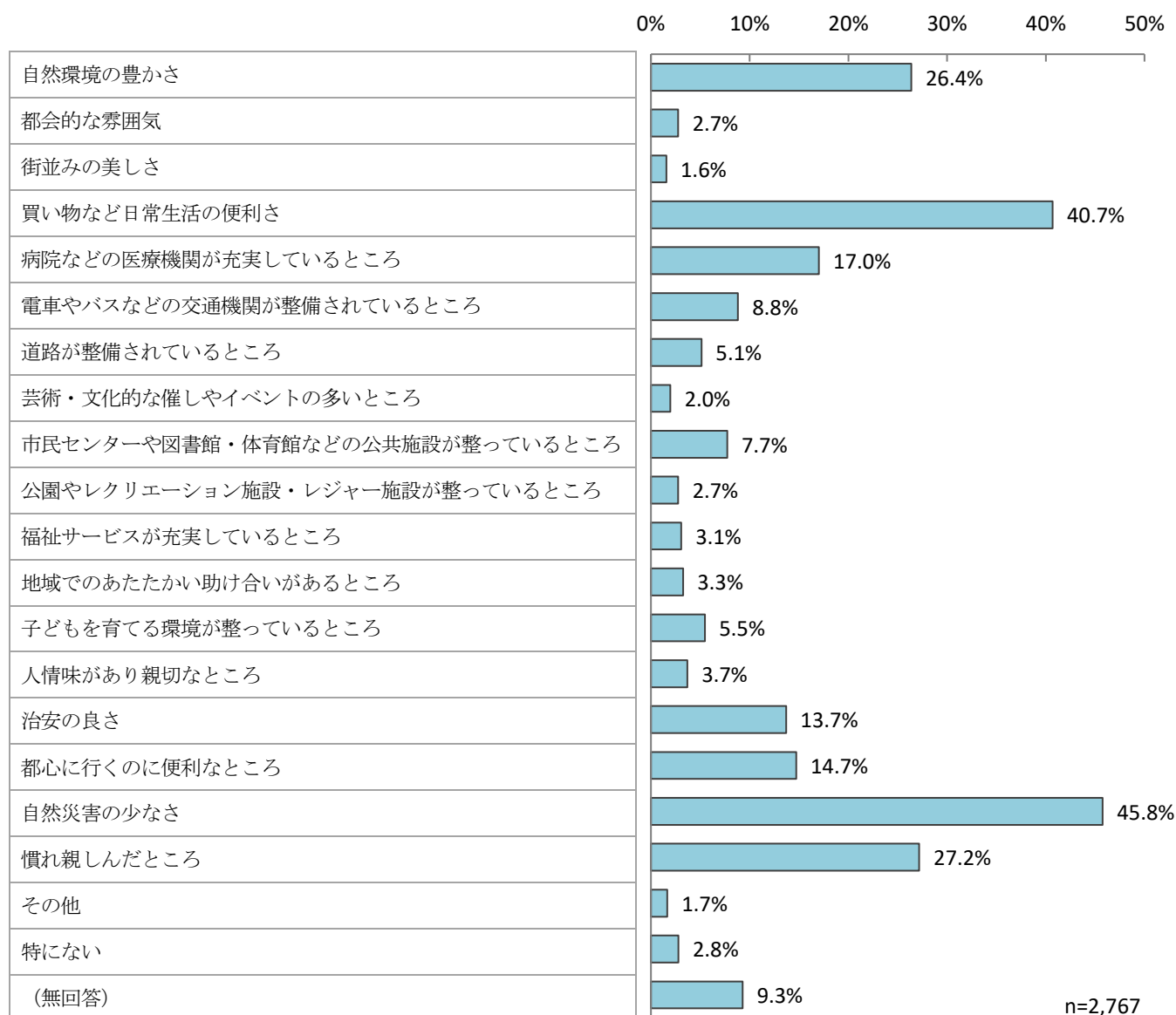
【好き（計）】及び【嫌い（計）】については、過去4年間と比較して、特に大きな違いはみられない。
 (図Ⅳ－１－４)

(2) 好きな理由

◇「自然災害の少なさ」が4割半ば

問2	宇都宮市の好きだと思うところをあげてください。	(○は3つまで)
		n=2,767
1	自然環境の豊かさ	26.4%
2	都会的な雰囲気	2.7%
3	街並みの美しさ	1.6%
4	買い物など日常生活の便利さ	40.7%
5	病院などの医療機関が充実しているところ	17.0%
6	電車やバスなどの交通機関が整備されているところ	8.8%
7	道路が整備されているところ	5.1%
8	芸術・文化的な催しやイベントの多いところ	2.0%
9	市民センターや図書館・体育館などの公共施設が整っているところ	7.7%
10	公園やレクリエーション施設・レジャー施設が整っているところ	2.7%
11	福祉サービスが充実しているところ	3.1%
12	地域でのあたたかい助け合いがあるところ	3.3%
13	子どもを育てる環境が整っているところ	5.5%
14	人情味があり親切なところ	3.7%
15	治安の良さ	13.7%
16	都心に行くのに便利なところ	14.7%
17	自然災害の少なさ	45.8%
18	慣れ親しんだところ	27.2%
19	その他	1.7%
20	特にない	2.8%
	(無回答)	9.3%

<図Ⅳ－１－５>全体



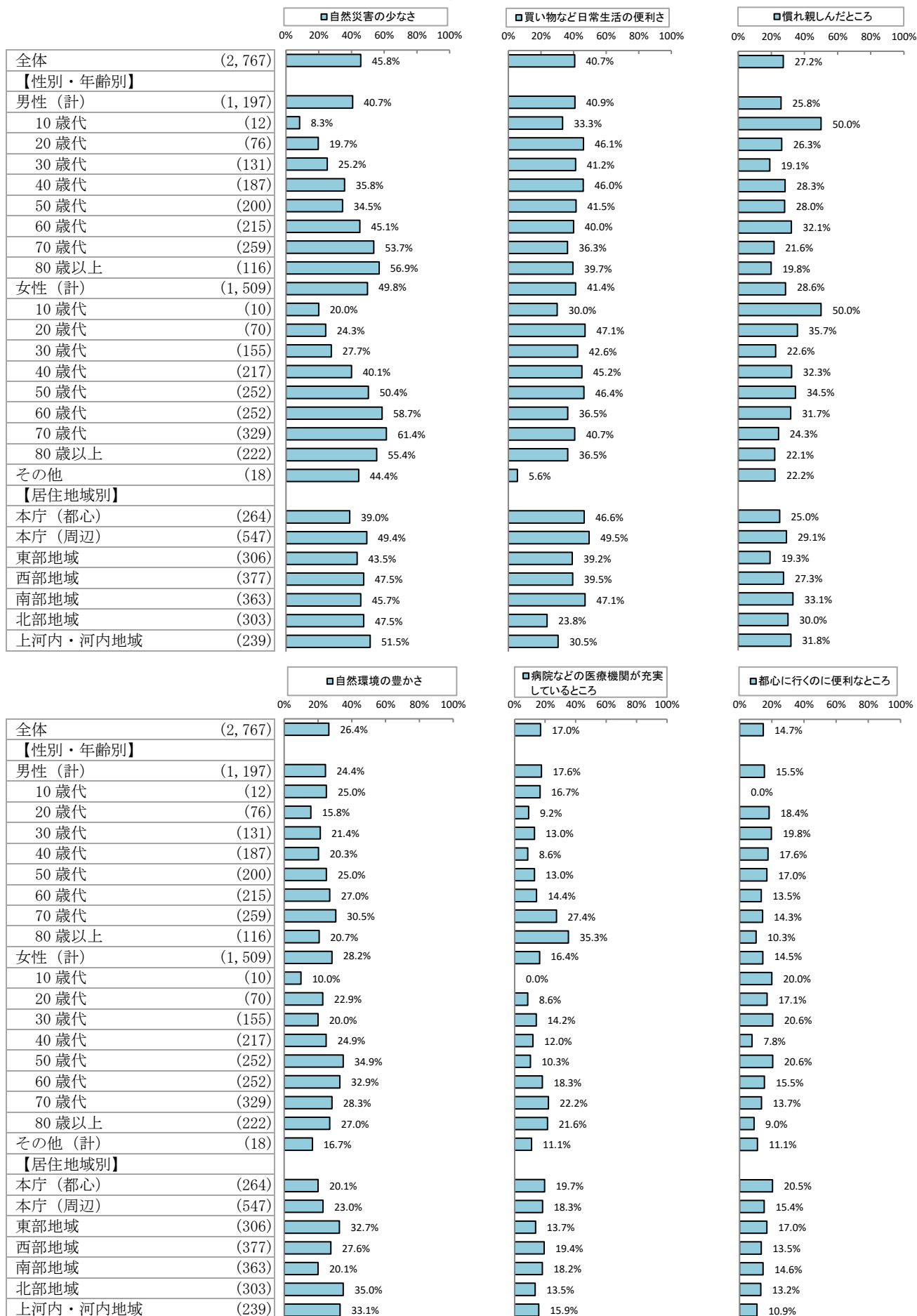
宇都宮市で好きだと思うところについて、1位が「自然災害の少なさ」で45.8%、2位「買い物など日常生活の便利さ」が40.7%、3位「慣れ親しんだところ」が27.2%、4位「自然環境の豊かさ」が26.4%、5位「病院などの医療機関が充実しているところ」が17.0%、6位「都心に行くのに便利なところ」が14.7%であった。(図Ⅳ－１－５)

<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「自然災害の少なさ」は<女性70歳代>が61.4%で最も高く、次いで<女性60歳代>が58.7%であった。「買い物など日常生活の便利さ」は<女性20歳代>が47.1%で最も高く、次いで<女性50歳代>が46.4%であった。「慣れ親しんだところ」は<男性・女性10歳代>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<女性20歳代>が35.7%であった。「自然環境の豊かさ」は<女性50歳代>が34.9%で最も高く、次いで<女性60歳代>が32.9%であった。「病院などの医療機関が充実しているところ」は<男性80歳以上>が35.3%で最も高く、次いで<男性70歳代>が27.4%であった。「都心に行くのに便利なところ」は<女性30・50歳代>がいずれも20.6%で最も高く、次いで<女性10歳代>が20.0%であった。(図Ⅳ－１－６)

居住地域別でみると、「自然災害の少なさ」は、各地域で約4割を超えた。「買い物など日常生活の便利さ」は<本庁(周辺)>が49.5%、「慣れ親しんだところ」は<南部地域>が33.1%、「自然環境の豊かさ」は<北部地域>が35.0%、「病院などの医療機関が充実しているところ」は<本庁(都心)>が19.7%、「都心に行くのに便利なところ」は<本庁(都心)>が20.5%で最も高かった。(図Ⅳ－１－６)

<図Ⅳ－１－６>性別・年齢別／居住地域別(上位6項目)

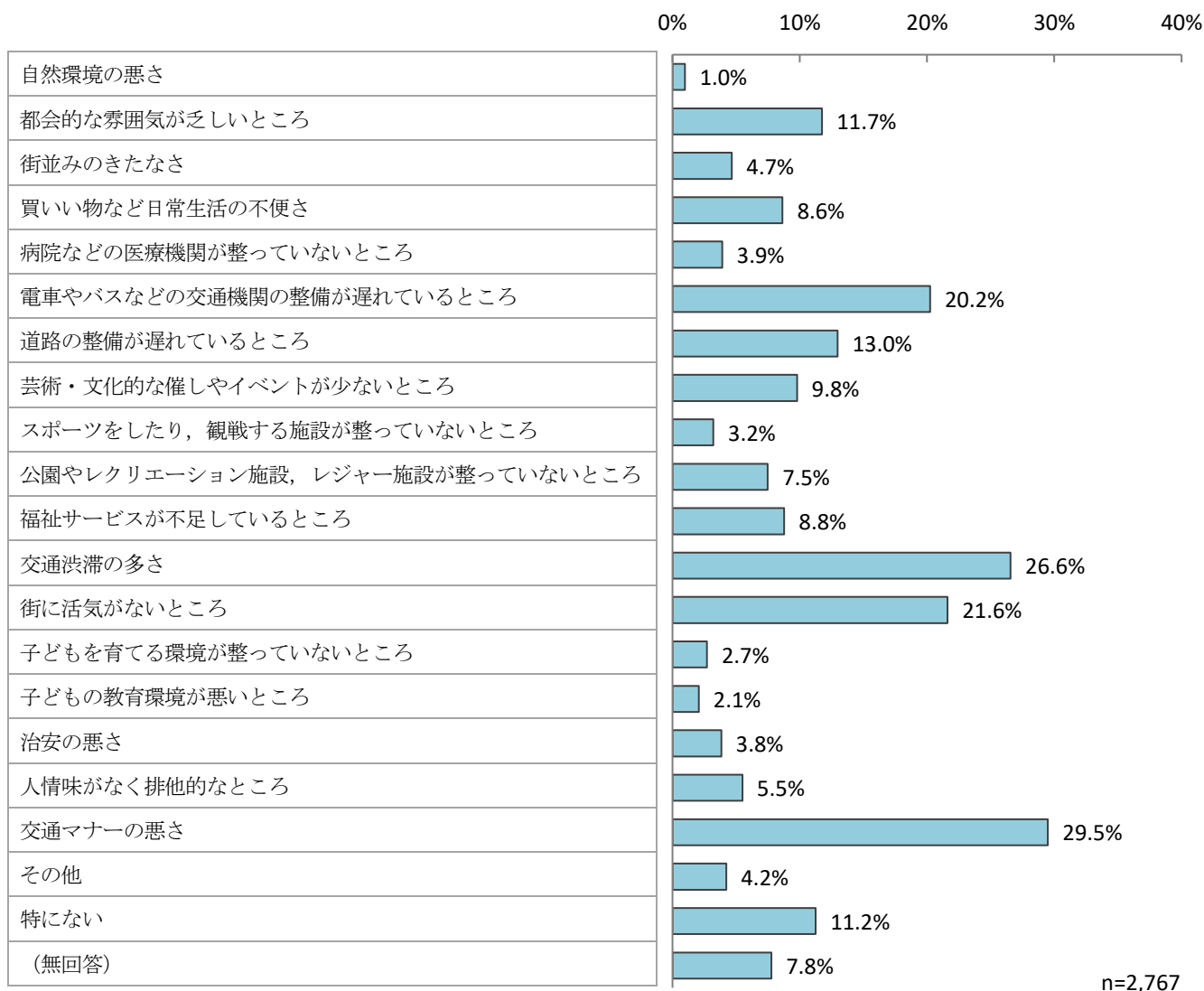


(3) 嫌いな理由

◇「交通マナーの悪さ」が約3割

問3 宇都宮市の嫌いだと思うところをあげてください。(〇は3つまで)	
	n=2,767
1 自然環境の悪さ	1.0%
2 都会的な雰囲気が乏しいところ	11.7%
3 街並みのきたなさ	4.7%
4 買い物など日常生活の不便さ	8.6%
5 病院などの医療機関が整っていないところ	3.9%
6 電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ	20.2%
7 道路の整備が遅れているところ	13.0%
8 芸術・文化的な催しやイベントが少ないところ	9.8%
9 スポーツをしたり、観戦する施設が整っていないところ	3.2%
10 公園やレクリエーション施設、レジャー施設が整っていないところ	7.5%
11 福祉サービスが不足しているところ	8.8%
12 交通渋滞の多さ	26.6%
13 街に活気がないところ	21.6%
14 子どもを育てる環境が整っていないところ	2.7%
15 子どもの教育環境が悪いところ	2.1%
16 治安の悪さ	3.8%
17 人情味がなく排他的なところ	5.5%
18 交通マナーの悪さ	29.5%
19 その他	4.2%
20 特にない	11.2%
(無回答)	7.8%

<図Ⅳ－１－７>全体



宇都宮市の嫌いだと思うところについては、1位が「交通マナーの悪さ」で29.5%、2位「交通渋滞の多さ」が26.6%、3位「街に活気がないところ」が21.6%、4位「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」が20.2%、5位「道路の整備が遅れているところ」が13.0%、6位「都会的な雰囲気が乏しいところ」が11.7%であった。(図Ⅳ－１－７)

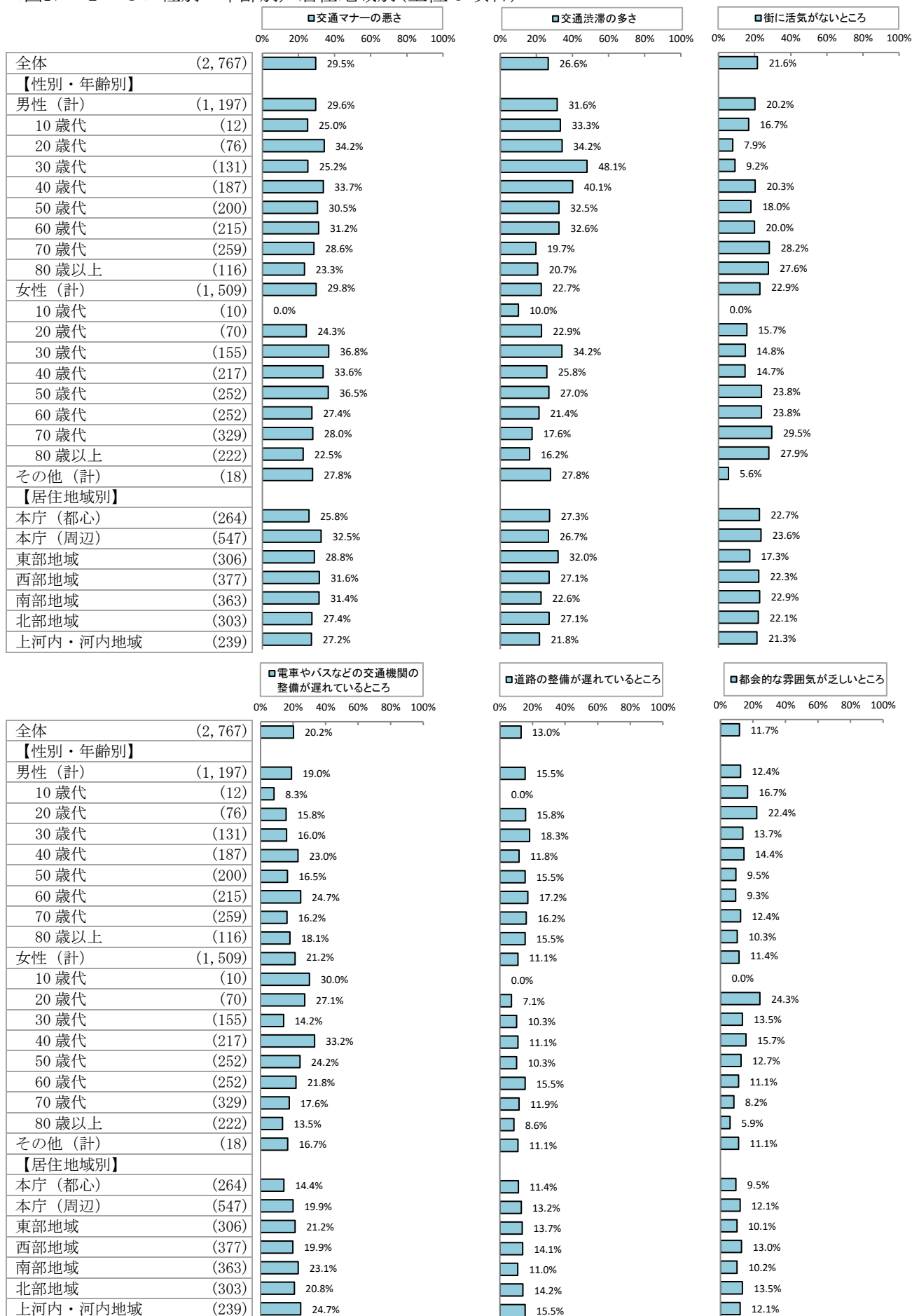
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「交通マナーの悪さ」は<女性30歳代>が36.8%で最も高く、次いで<女性50歳代>が36.5%であった。「交通渋滞の多さ」は<男性30歳代>が48.1%で最も高く、次いで<男性40歳代>が40.1%であった。「街に活気がないところ」は<女性70歳代>が29.5%で最も高く、次いで<男性70歳代>が28.2%であった。「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<女性40歳代>が33.2%で最も高く、次いで<女性10歳代>が30.0%であった。「道路の整備が遅れているところ」は<男性30歳代>が18.3%で最も高く、次いで<男性60歳代>が17.2%であった。「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<女性20歳代>が24.3%で最も高く、次いで<男性20歳代>が22.4%であった。

(図Ⅳ－１－８)

上位6項目について居住地域別でみると、「交通マナーの悪さ」は<本庁(周辺)>が32.5%、「交通渋滞の多さ」は<東部地域>が32.0%、「街に活気がないところ」は<本庁(周辺)>が23.6%、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」は<上河内・河内地域>が24.7%、「道路の整備が遅れているところ」は<上河内・河内地域>が15.5%、「都会的な雰囲気が乏しいところ」は<北部地域>が13.5%でそれぞれ最も高かった。(図Ⅳ－１－８)

<図Ⅳ－１－８>性別・年齢別／居住地域別(上位 6 項目)



2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

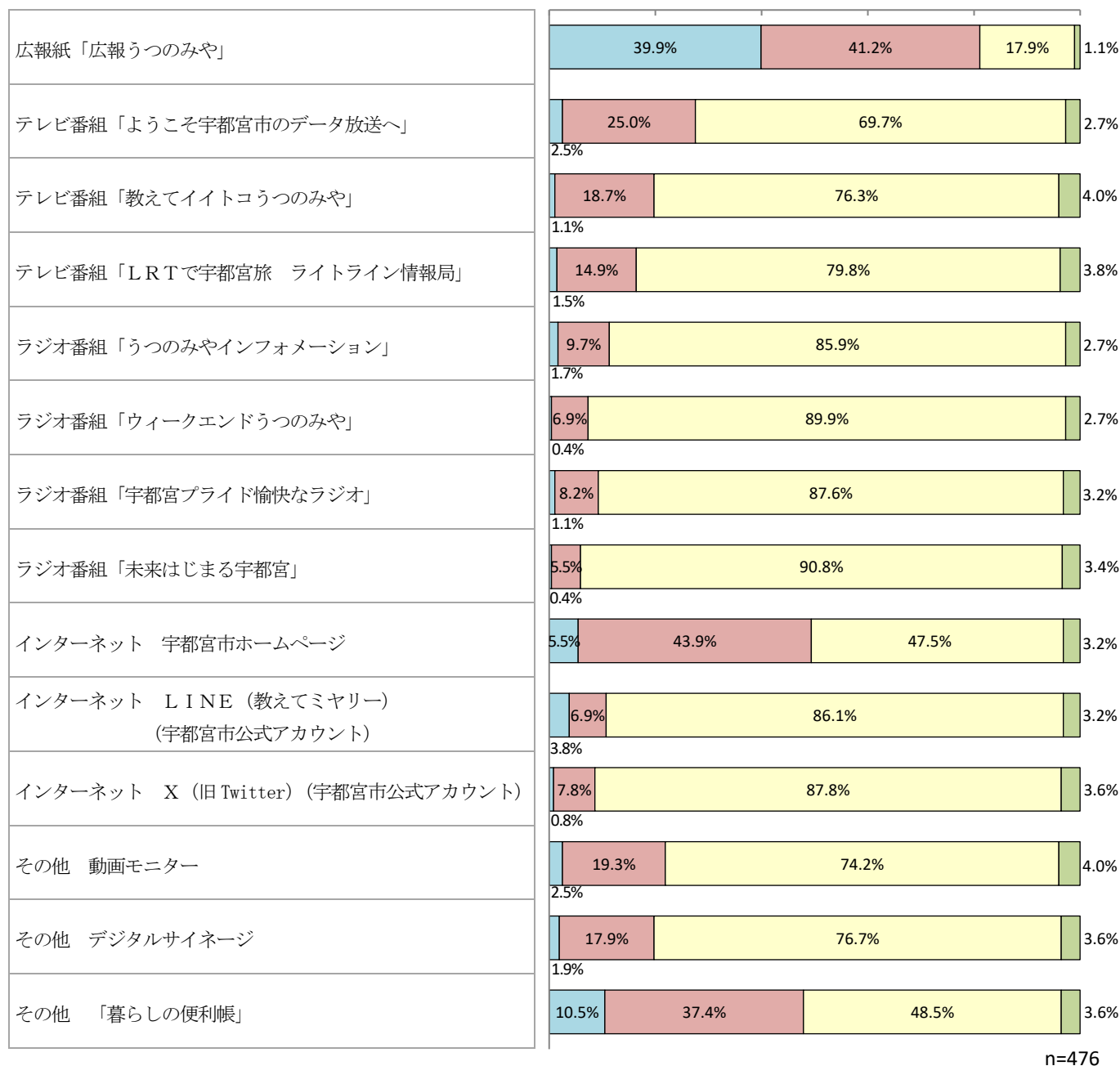
◇「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「広報うつのみや」が約8割

問4 宇都宮市では、次のような手段を使って、市政情報を市民の皆様に提供しています。次の各広報媒体について、それぞれの視聴状況にあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

n=476

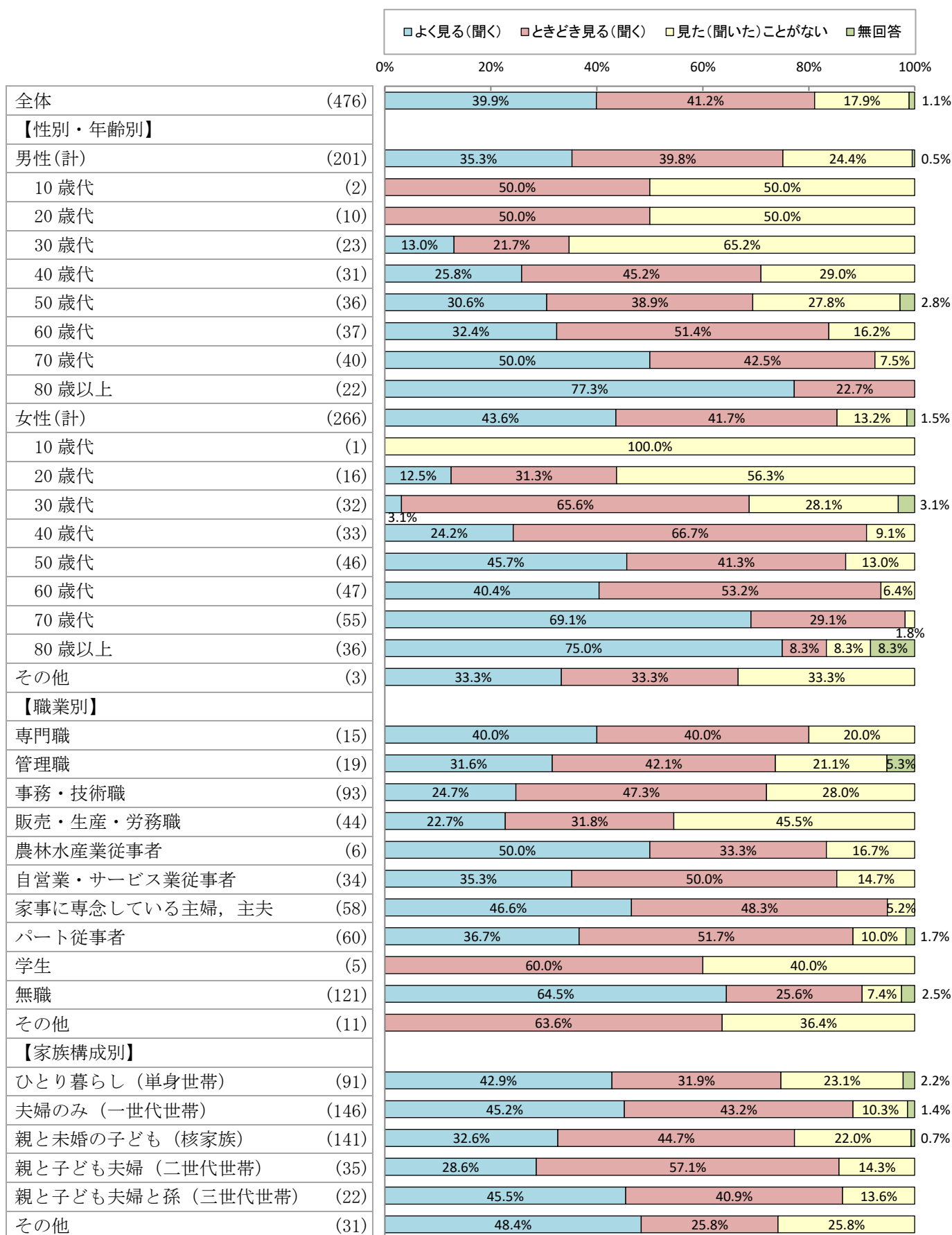
広報媒体		よく見る (聞く)	ときどき 見る(聞く)	見た (聞いた) ことがない	(無回答)	合計
広報紙	1 「広報うつのみや」 毎月1回, 新聞折込での配布や電子書籍等	39.9%	41.2%	17.9%	1.1%	100.0%
テレビ 番組	2 「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」 とちぎテレビ(データ放送): テレビ放映中は常時提供	2.5%	25.0%	69.7%	2.7%	100.0%
	3 「教えてイイトコうつのみや」 (とちぎテレビ: 毎月第4金曜日午後7時～)	1.1%	18.7%	76.3%	4.0%	100.0%
	4 「LRTで宇都宮旅 ライトライン情報局」 (宇都宮ケーブルテレビ: 毎月第4月曜日から7日間, 1日7回)	1.5%	14.9%	79.8%	3.8%	100.0%
ラジオ 番組	5 「うつのみやインフォメーション」 (栃木放送: 本放送 第1・3月曜日 午前10時15分～) (再放送 第1・3火曜日 午後5時20分～)	1.7%	9.7%	85.9%	2.7%	100.0%
	6 「ウィークエンドうつのみや」 (栃木放送: 毎週金曜日 午後5時20分～)	0.4%	6.9%	89.9%	2.7%	100.0%
	7 「宇都宮プライド愉快的ラジオ」 (エフエム栃木: 毎週金曜日 正午～)	1.1%	8.2%	87.6%	3.2%	100.0%
	8 「未来はじまる宇都宮」 (コミュニティFM「ミヤラジ」: 毎週水曜日 午前11時～)	0.4%	5.5%	90.8%	3.4%	100.0%
インター ネット	9 宇都宮市ホームページ	5.5%	43.9%	47.5%	3.2%	100.0%
	10 LINE(教えてミヤリー) (宇都宮市公式アカウント)	3.8%	6.9%	86.1%	3.2%	100.0%
	11 X(旧Twitter)(宇都宮市公式アカウント)	0.8%	7.8%	87.8%	3.6%	100.0%
その他	12 動画モニター 市民課や地区市民センターの窓口・主要道路沿い・ 大通りバス停などに設置	2.5%	19.3%	74.2%	4.0%	100.0%
	13 デジタルサイネージ ライトライン停留所・幹線道路などに設置されてい る大型モニター	1.9%	17.9%	76.7%	3.6%	100.0%
	14 「暮らしの便利帳」 2年に1度発行し, 行政情報や地域情報などを掲載	10.5%	37.4%	48.5%	3.6%	100.0%

<図Ⅳ－２－１>全体

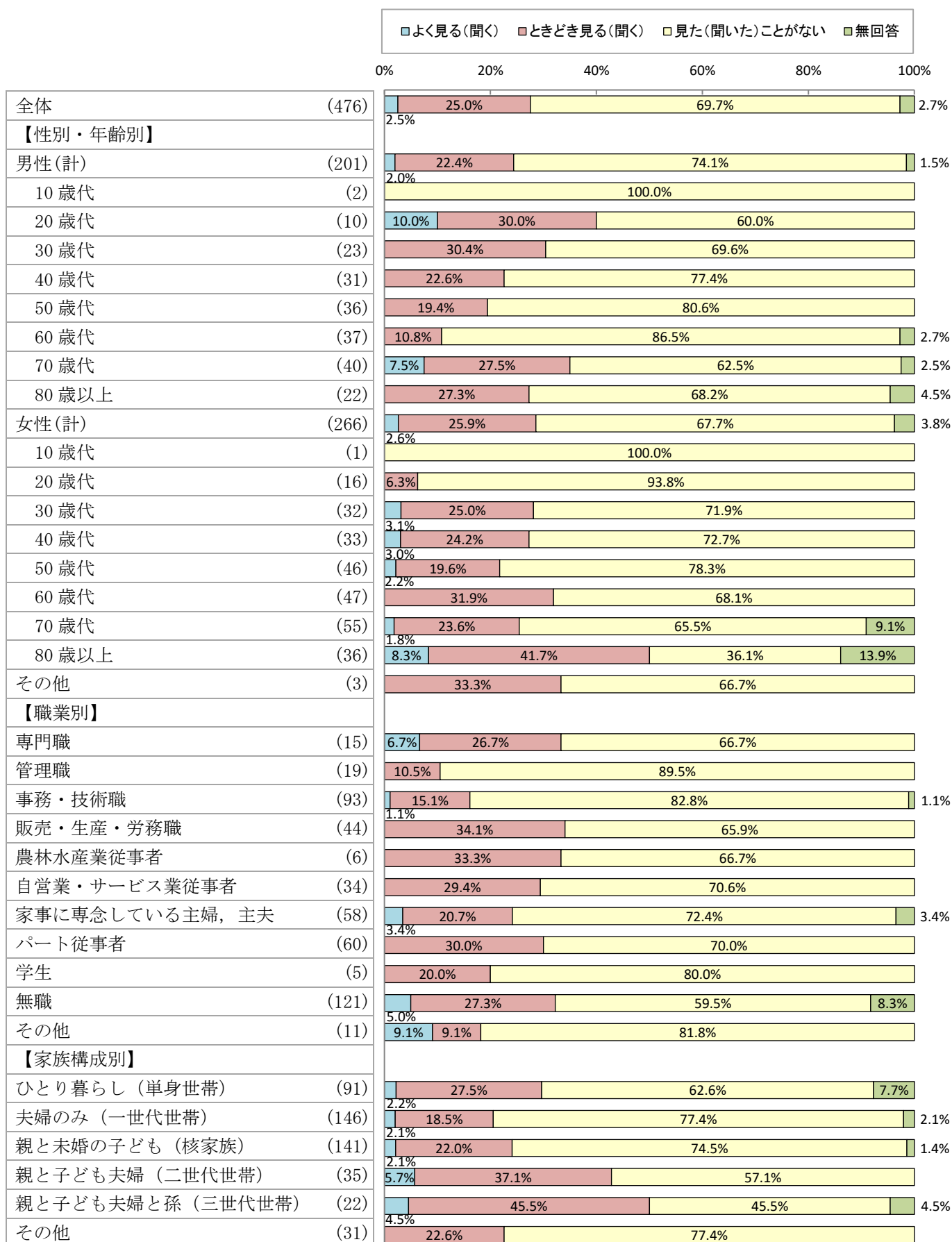


14種類の広報媒体について、それぞれの視聴状況については、「よく見る(聞く)」と「ときどき見る(聞く)」の2つを合わせた【見る(聞く)ことがある(計)】は、広報紙「広報うつのみや」が81.1%で最も高く、次いで「インターネット 宇都宮ホームページ」が49.4%、「暮らしの便利帳」が47.9%と続いた。(図Ⅳ－２－１)

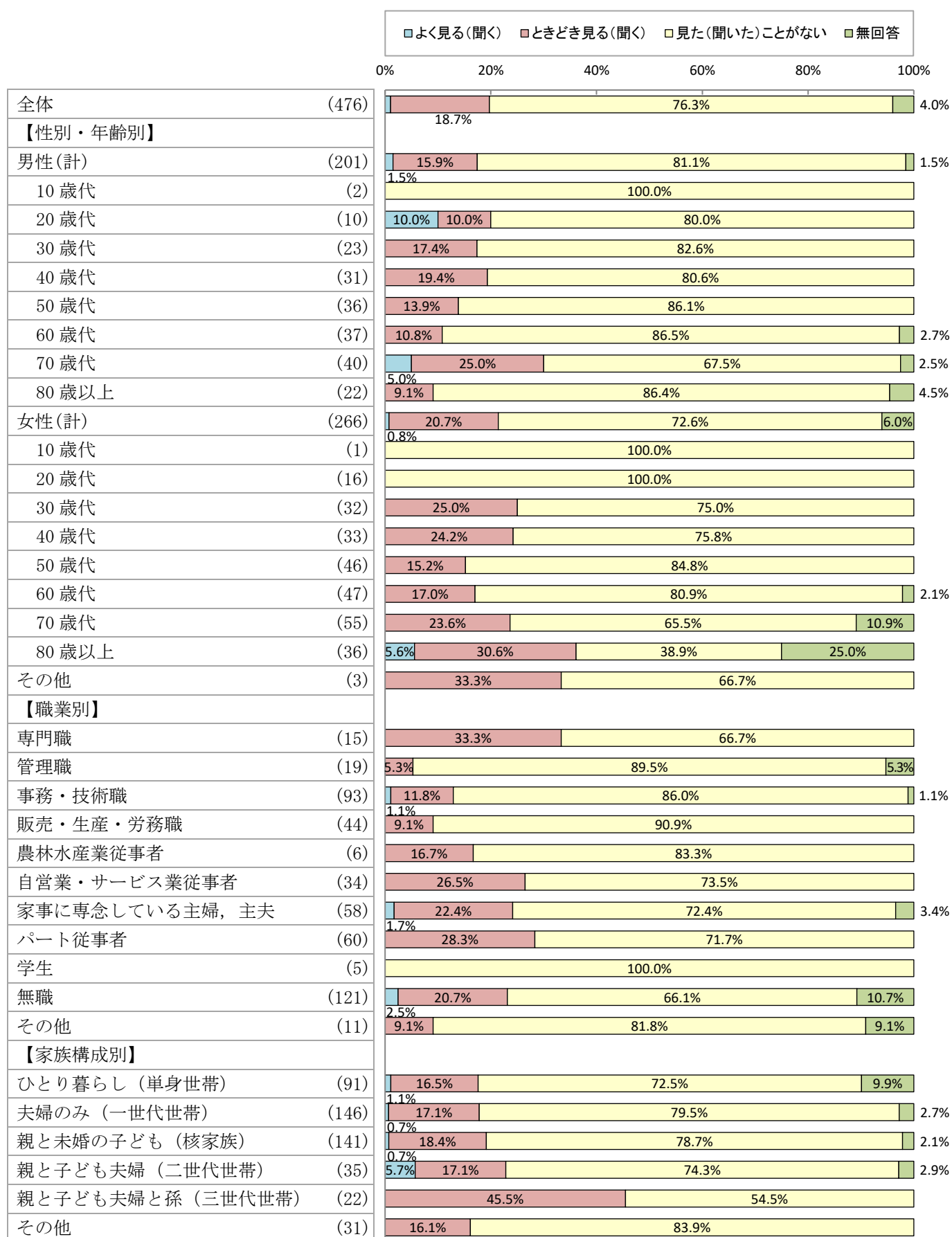
<図Ⅳ－２－２>性別・年齢別／職業別／家族構成別「広報紙「広報うつのみや」」



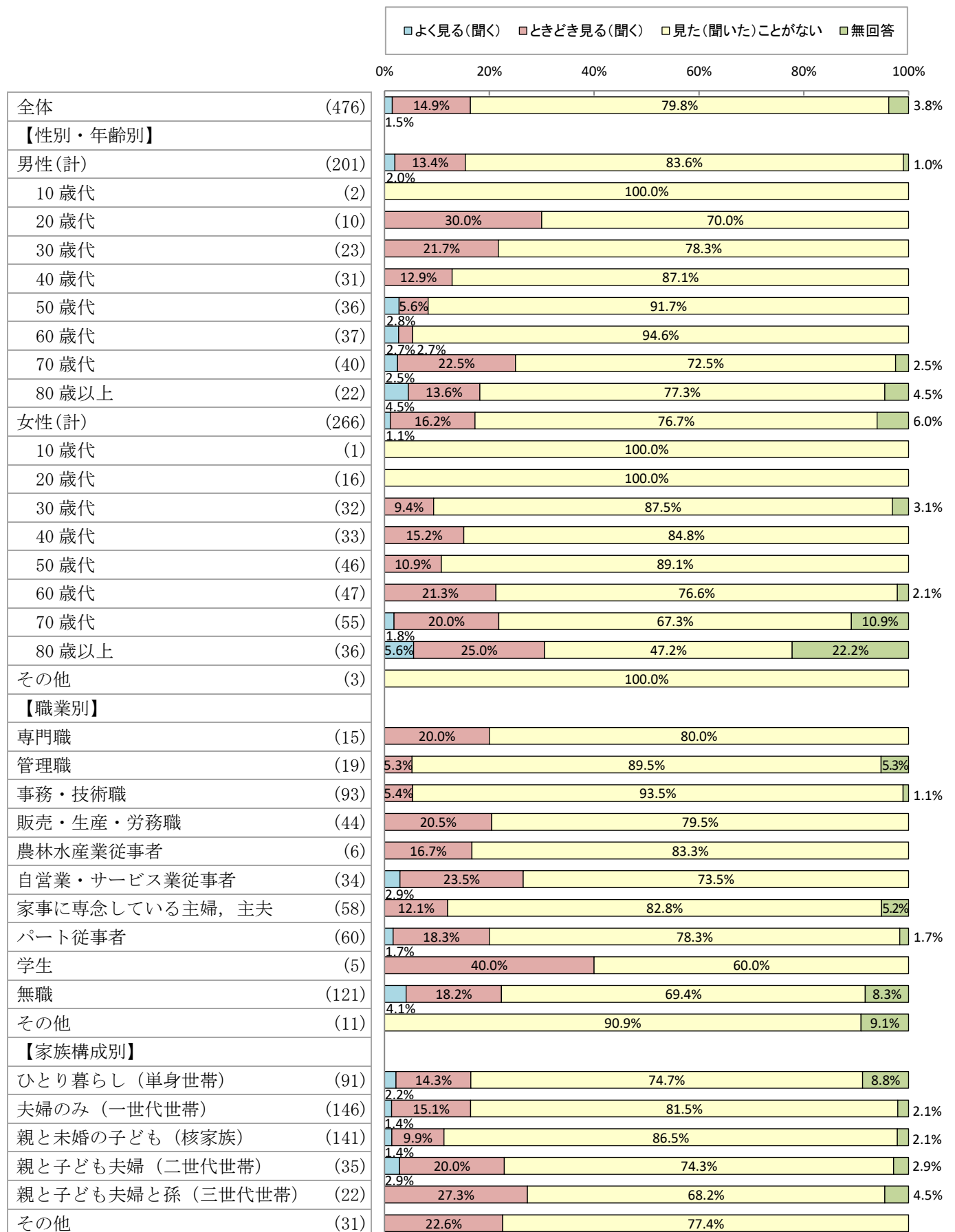
<図Ⅳ－２－３>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「ようこそ宇都宮市のデータ放送へ」



<図Ⅳ－２－４>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「教えてイイトコうつのみや」」



<図Ⅳ－２－５>性別・年齢別／職業別／家族構成別「テレビ番組「L R Tで宇都宮旅 ライトライン情報局」



<図Ⅳ－２－６>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「うつのみやインフォメーション」」



<図Ⅳ－２－７>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「ウィークエンドうつのみや」



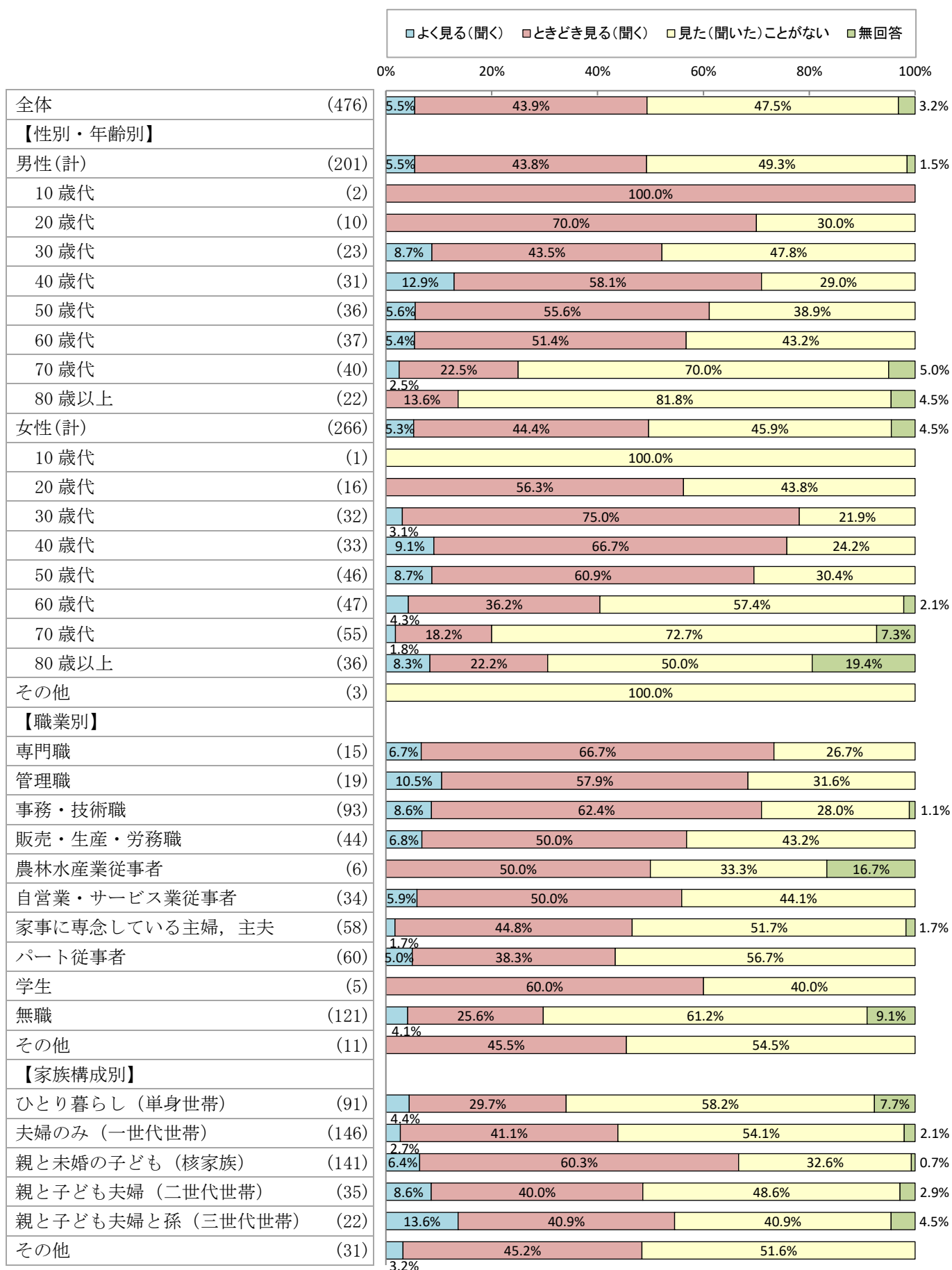
<図Ⅳ－２－８>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「宇都宮プライド愉快的ラジオ」」



<図Ⅳ－２－９>性別・年齢別／職業別／家族構成別「ラジオ番組「未来はじまる宇都宮」



<図Ⅳ－２－１０>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「宇都宮市ホームページ」」



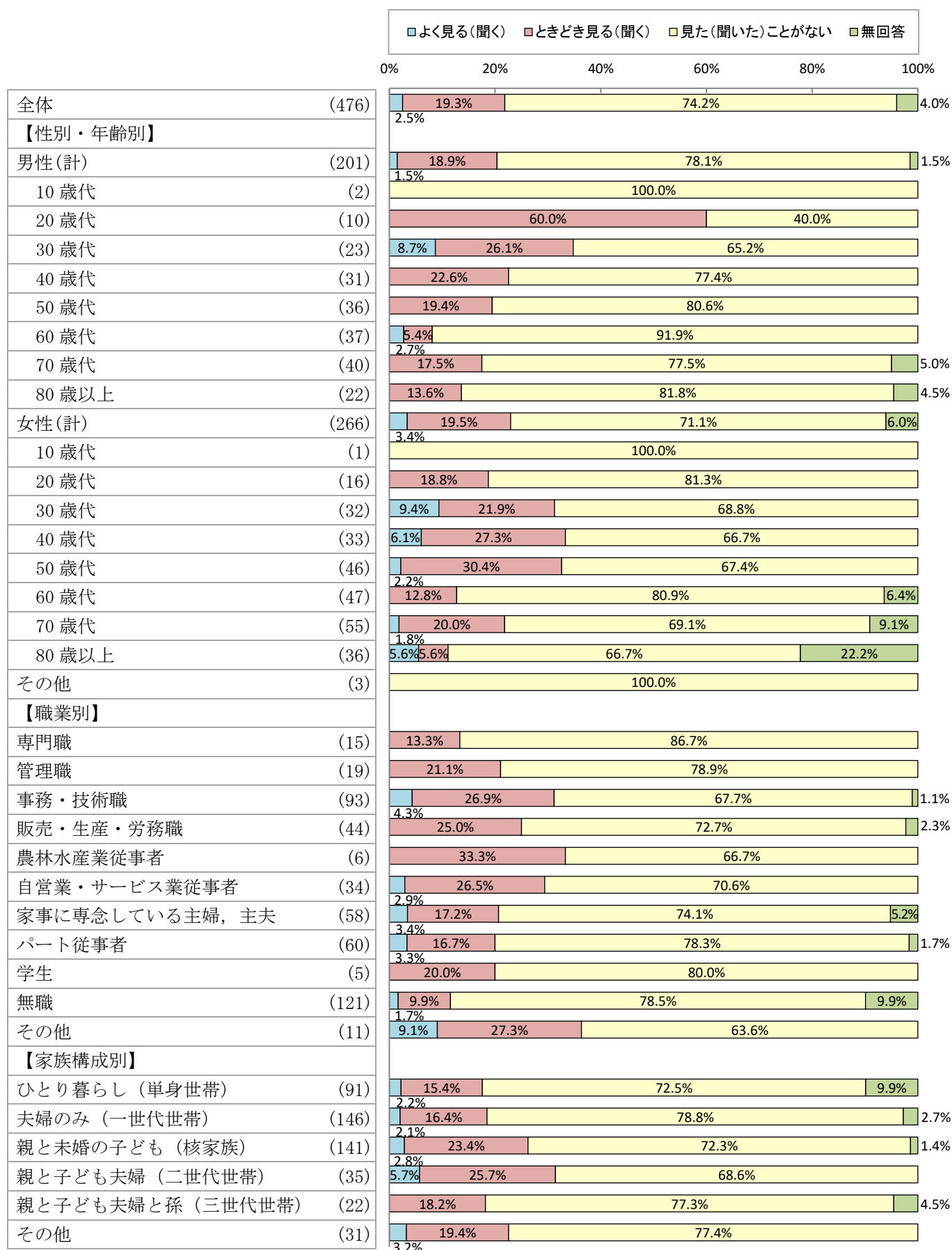
<図Ⅳ－２－１１>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「LINE（教えてミヤリー）」
（宇都宮市公式アカウント）」



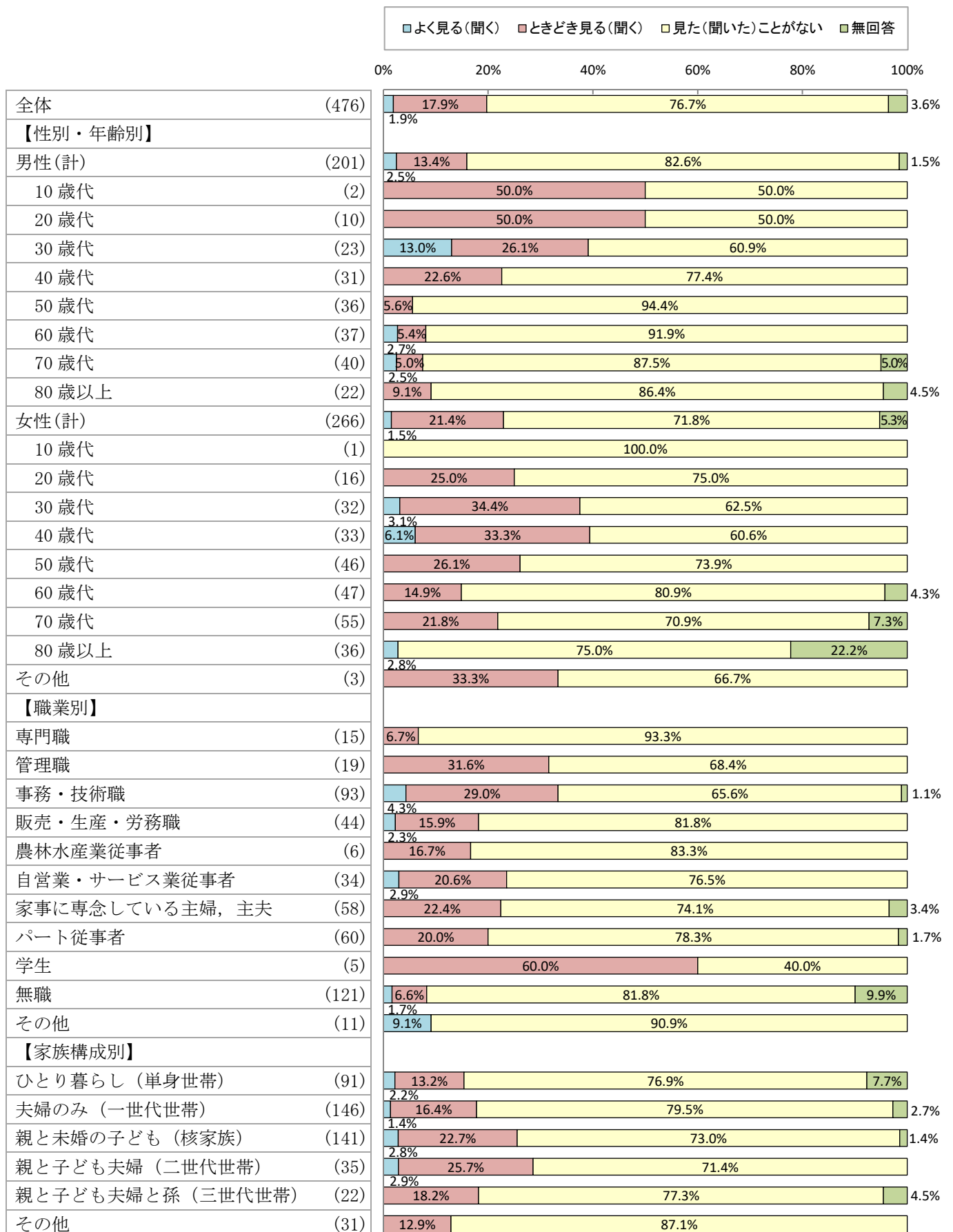
<図Ⅳ－２－１２>性別・年齢別／職業別／家族構成別「インターネット「X（旧 Twitter）（宇都宮市公式アカウント）」



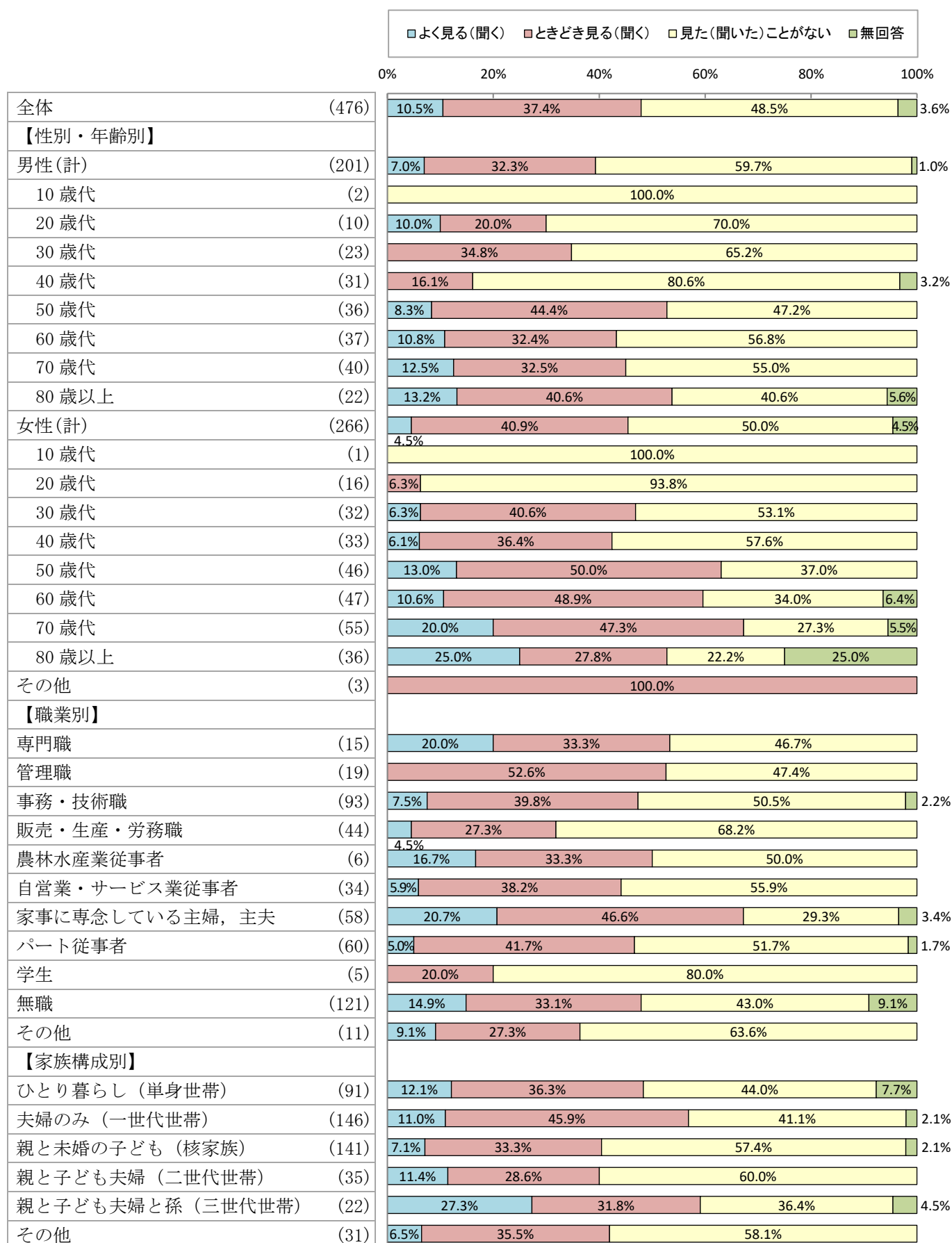
<図Ⅳ－２－１３>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「動画モニター」」



<図Ⅳ－２－１４>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「デジタルサイネージ」」



<図Ⅳ－２－１５>性別・年齢別／職業別／家族構成別「その他「暮らしの便利帳」」

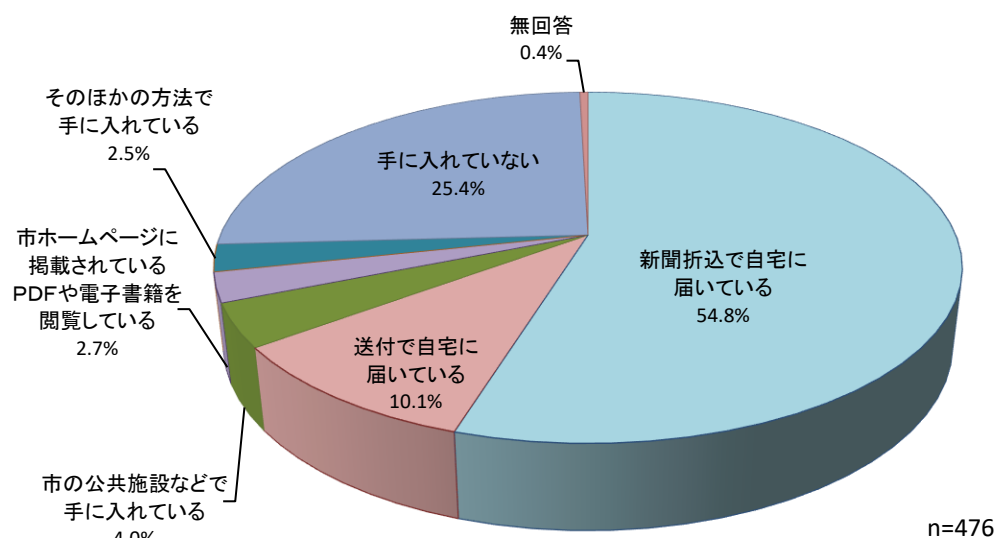


(2) 「広報うつのみや」の入手方法

◇「新聞折込で自宅に届いている」が5割半ば

問5 あなたはどのような方法で、「広報うつのみや」の情報を手に入れていますか。(〇は1つ)		
		n=476
1	新聞折込で自宅に届いている	54.8%
2	送付で自宅に届いている	10.1%
3	市の公共施設などで手に入れている	4.0%
4	市ホームページに掲載されているPDFや電子書籍を閲覧している	2.7%
5	マチイロ, TOCHIGI ebooks, マイ広報紙などのアプリやウェブサービスで閲覧している	0.0%
6	そのほかの方法で手に入れている	2.5%
7	手に入っていない	25.4%
	(無回答)	0.4%

<図Ⅳ－2－16>全体



「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が 54.8%で最も高かった。一方、「手に入っていない」は 25.4%であった。(図Ⅳ－2－16)

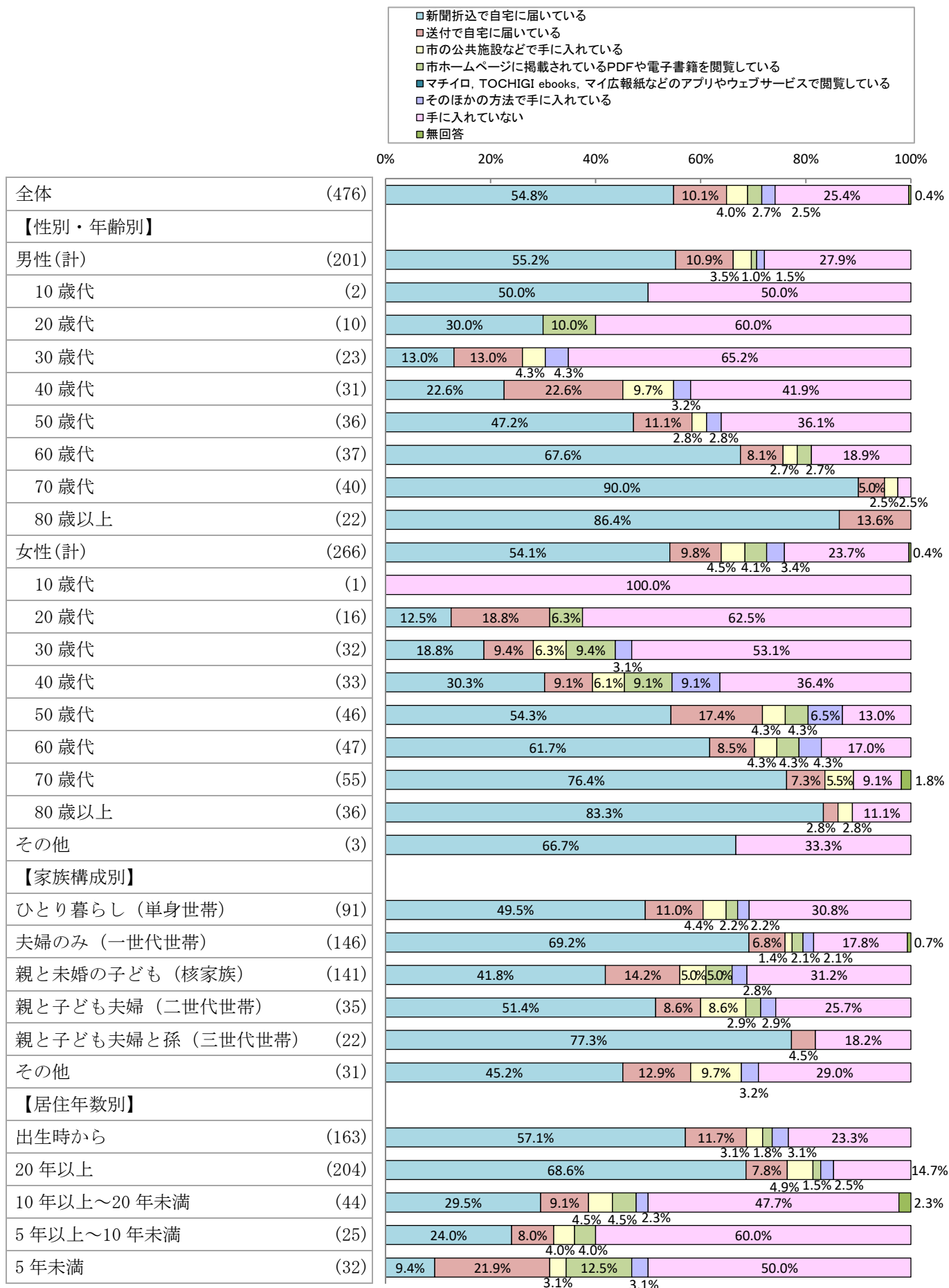
<参考>

性別・年齢別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<男性 70 歳代>が 90.0%で最も高く、次いで<男性 80 歳以上>が 86.4%，<女性 80 歳以上>が 83.3%と続いた。一方、「手に入っていない」は<女性 10 歳代>が 100.0%，<男性 30 歳代>が 65.2%であった。(図Ⅳ－2－17)

家族構成別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が 77.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 69.2%であった。一方、「手に入っていない」は<親と未婚の子ども(核家族)>が 31.2%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 30.8%であった。(図Ⅳ－2－17)

居住年数別でみると、「新聞折込で自宅に届いている」は<20 年以上>が 68.6%で最も高かった。一方、「手に入っていない」は<5 年以上～10 年未満>が 60.0%で最も高かった。(図Ⅳ－2－17)

<図Ⅳ－２－１７>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(3)「広報うつのみや」を入手していない理由

◇「特に必要でないため」が約5割

問6 問5で「7 手に入っていない」に○をつけた方にお伺いします。

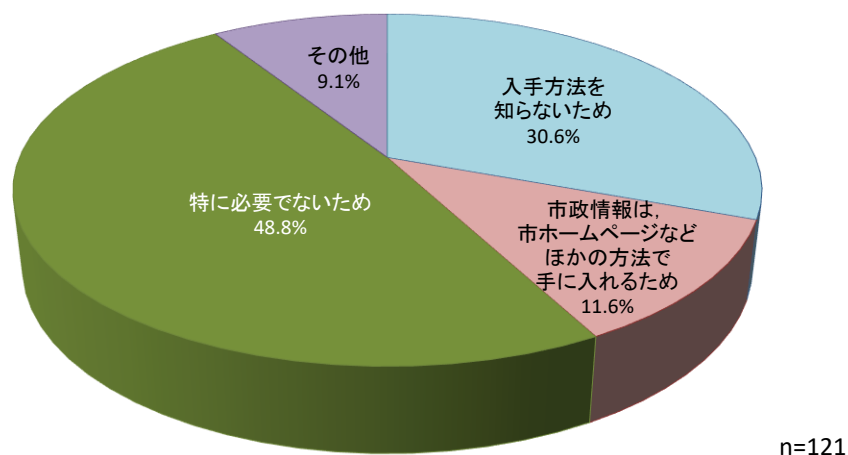
「広報うつのみや」の情報を入手していない理由を教えてください。

(○は1つ)

n=121

1	入手方法を知らないため	30.6%
2	市政情報は、市ホームページなどほかの方法で手に入れるため	11.6%
3	特に必要でないため	48.8%
4	その他	9.1%
	(無回答)	0.0%

<図IV-2-18>全体



「広報うつのみや」を入手していない理由については、「特に必要でないため」が48.8%で最も高く、次いで「入手方法を知らないため」が30.6%であった。(図IV-2-18)

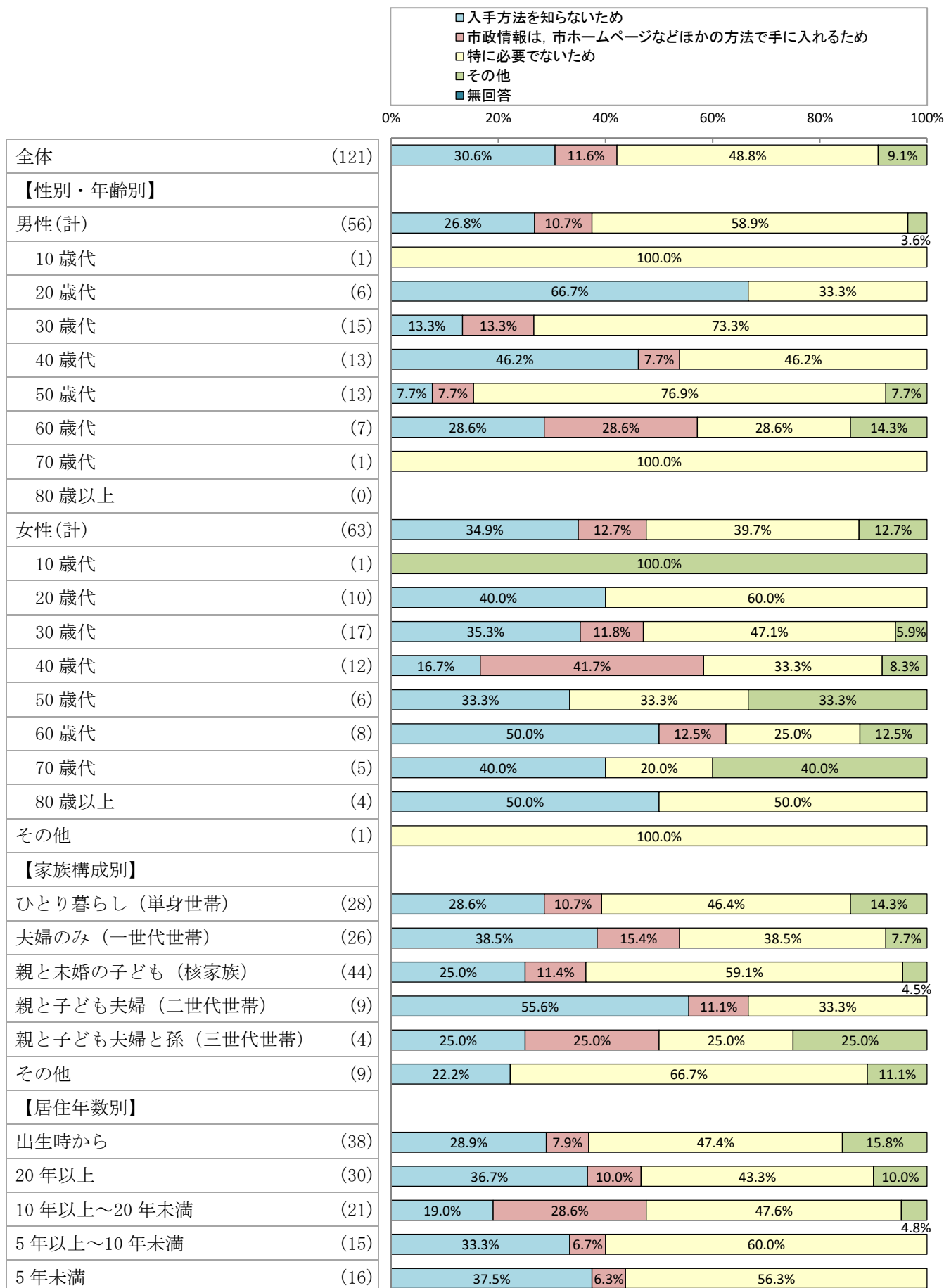
<参考>

性別・年齢別で見ると、「特に必要でないため」は<その他>を除くと、<男性10・70歳代>が100.0%、<男性50歳代>が76.9%、<男性30歳代>が73.3%と続いた。「入手方法を知らないため」は<男性20歳代>が66.7%、次いで<女性60・80歳以上>がいずれも50.0%であった。(図IV-2-19)

家族構成別で見ると、「特に必要でないため」は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども(核家族)>が59.1%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が46.4%だった。「入手方法を知らないため」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が55.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が38.5%であった。(図IV-2-19)

居住年数別で見ると、「特に必要でないため」は<5年以上～10年未満>が60.0%で最も高く、次いで<5年未満>が56.3%であった。「入手方法を知らないため」は<5年未満>が37.5%で最も高く、次いで<20年以上>が36.7%であった。(図IV-2-19)

<図Ⅳ－２－１９>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(4)「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

◇「市政情報」が5割半ば

問7 問5で1～6に○をつけた方にお伺いします。

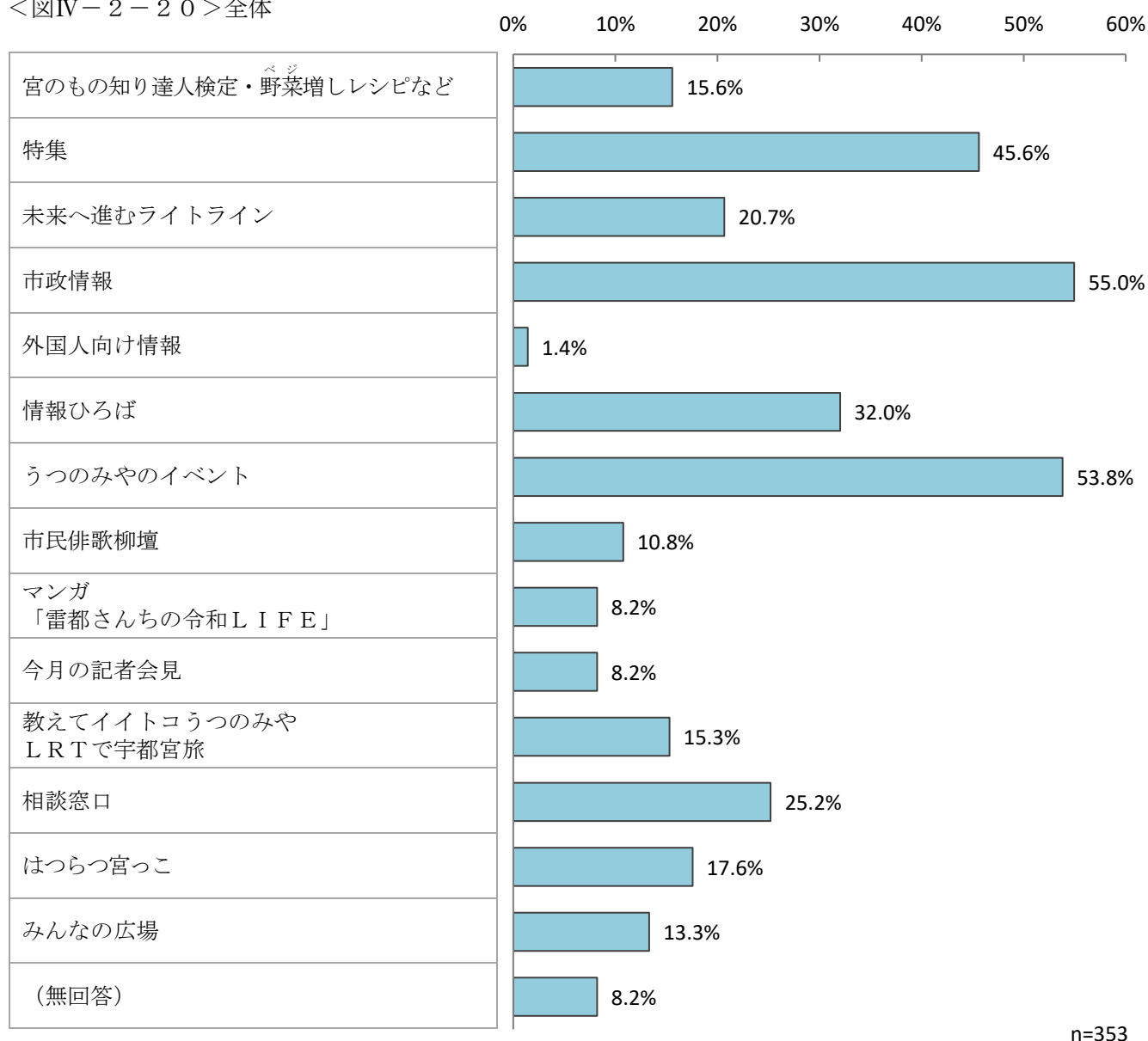
「広報うつのみや」では、どのような記事を主に読んでいますか。項目の番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

n=353

項目	ページ等	内容	
1 宮のもの知り達人検定・野菜増しレシピなど	目次	宇都宮にまつわる知識のクイズ、レシピの紹介など	15.6%
2 特集	カラー	市の重点事業や旬な話題など	45.6%
3 未来へ進むライトライン	カラー	ライトライン事業について	20.7%
4 市政情報	—	シニア・健康・子ども・暮らし・税・文化など	55.0%
5 外国人向け情報	—	外国人住民向けの相談窓口など	1.4%
6 情報ひろば	—	県や国などからのお知らせ	32.0%
7 うつのみやのイベント	カラー	各教室・講座・催し一覧、市内施設情報など	53.8%
8 市民俳歌柳壇	カラー	市民から投稿された俳句・短歌・川柳を紹介	10.8%
9 マンガ 「雷都さんちの令和LIFE」	カラー	マンガを通じて、耳寄り情報などを紹介	8.2%
10 今月の記者会見	カラー	市長の定例記者会見について紹介	8.2%
11 教えてイトコうつのみや LRTで宇都宮旅	カラー	とちぎテレビ、宇都宮ケーブルテレビ連動企画 市内の情報を紹介	15.3%
12 相談窓口	カラー	法律・行政・健康・福祉・子ども・女性に関する 相談窓口などの案内	25.2%
13 はつらつ宮っこ	カラー	輝いている市民を紹介	17.6%
14 みんなの広場	カラー	広報うつのみやを読んだ方からの意見、市民から 投稿された写真を紹介	13.3%
(無回答)			8.2%

<図Ⅳ－２－２０>全体



問5で「広報うつのみや」を入手していると答えた人（353人）に、どのような記事を主に読んでいるかについてお伺いしたところ、1位が「市政情報」で55.0%、2位「うつのみやのイベント」が53.8%、3位「特集」が45.6%、4位「情報ひろば」が32.0%、5位「相談窓口」が25.2%、6位「未来へ進むライトライン」が20.7%であった。（図Ⅳ－２－２０）

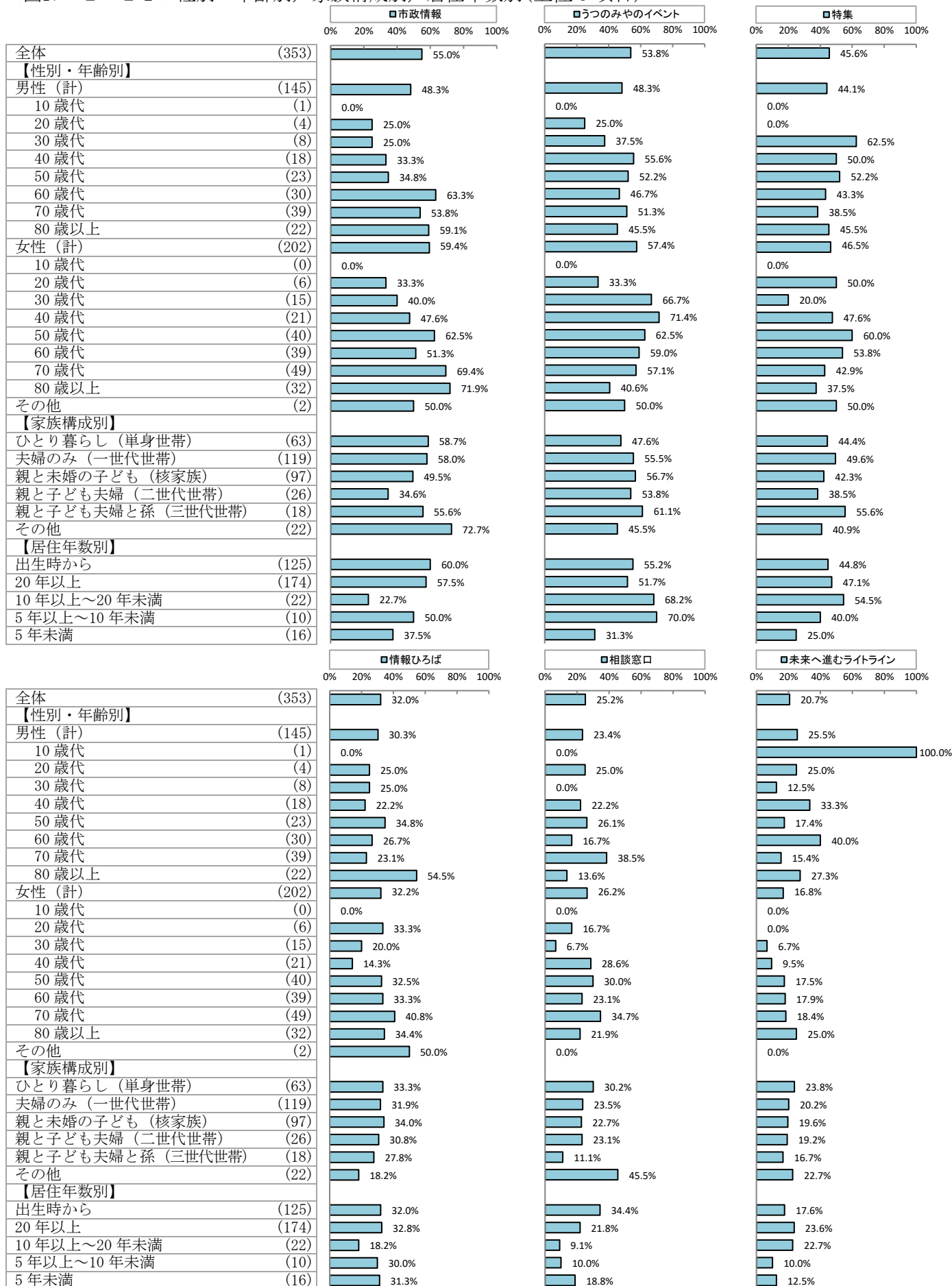
<参考>

上位6項目について性別・年齢別でみると、「市政情報」は＜女性80歳以上＞が71.9%、「うつのみやのイベント」は＜女性40歳代＞が71.4%、「特集」は＜男性30歳代＞が62.5%であった。（図Ⅳ－２－２１）

上位6項目について家族構成別でみると、＜その他＞を除くと、「市政情報」は＜ひとり暮らし（単身世帯）＞が58.7%で最も高かった。「うつのみやのイベント」は＜親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）＞が61.1%、「特集」は＜親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）＞が55.6%であった。（図Ⅳ－２－２１）

上位6項目について居住年数別でみると、「市政情報」は＜出生時から＞が60.0%で最も高かった。「うつのみやのイベント」は＜5年以上～10年未満＞が70.0%、「特集」は＜10年以上～20年未満＞が54.5%であった。（図Ⅳ－２－２１）

<図Ⅳ－２－２１>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別(上位6項目)



(5) 広報うつのみやに関する感想, 取り上げてほしい話題・情報

問 8 広報うつのみやに関する感想, 取り上げてほしい話題や情報などをお書きください。

広報紙やホームページで充実してほしい記事や情報, 改善してほしい点については, 以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ 宇都宮の病院紹介や福祉施設, 子供の習い事, 子供の施設等の掲載。
- ◆ 市民コミュニケーションとして必要な文化・スポーツ等。
- ◆ 宇都宮の人気スポット (催事, 自然, 花等)。
- ◆ オリオンスクエアのイベント。
- ◆ 通勤で今宮付近をとおりますが時間帯によっては大渋滞がおきます。日環アリーナの開催日程の細かくわかる記載と道路周りにも立て看板等早くから掲げていただけると助かります。
- ◆ 防災, 地震・・・どういった流れで対応するのか, 避難場所で水や薬をもらえるのか? 特に高齢者の方は, なかなかうごけないので。台風・ゲリラ豪雨等で冠水しがちな道路や地域を皆に知ってもらふ。その対策を教えて欲しいです。(市の備蓄状況など)
- ◆ 自転車専用道路網の整備。
- ◆ これからも L R T の情報を載せてほしい。
- ◆ 宇都宮が人の心をひきつける魅力ある街であることを多様な観点からイメージアップ出来るような情報。
- ◆ 宇都宮の未来創造等, 希望を持てる内容が欲しいです。
- ◆ 旬の食べ物 (特に地のもの) の紹介とおいしい食べ方の情報。
- ◆ 食育に関する情報をのせてほしい。

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ 若者でも読みやすいように, 手に取りやすいようにオシャレな広報にしてほしい。
- ◆ 工夫されていて魅力的。特に 1 ページのレシピはほんとにすぐ作ってしまいました。
- ◆ 宇都宮の情報がたくさん載っているので満足です。もう少し見やすいといいなと思います。

【その他】

- ◆ 宇都宮の各地区の特長等を知りたいです。県外で育った人間には町の名前を聞いただけではつかみどころがないので。
- ◆ 結果のいい所だけでなく, マイナスのアンケート結果も取り上げて改善策を考えて欲しい。
- ◆ 多面にわたり情報誌ありがとうございます。生活に役だっております。
- ◆ 毎月, 子どものイベント情報や催し物が載っていて, 宇都宮に引っ越してきたばかりの人も, まずは広報うつのみやを見れば情報が得られる。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

◇「スマートフォン」が4割強

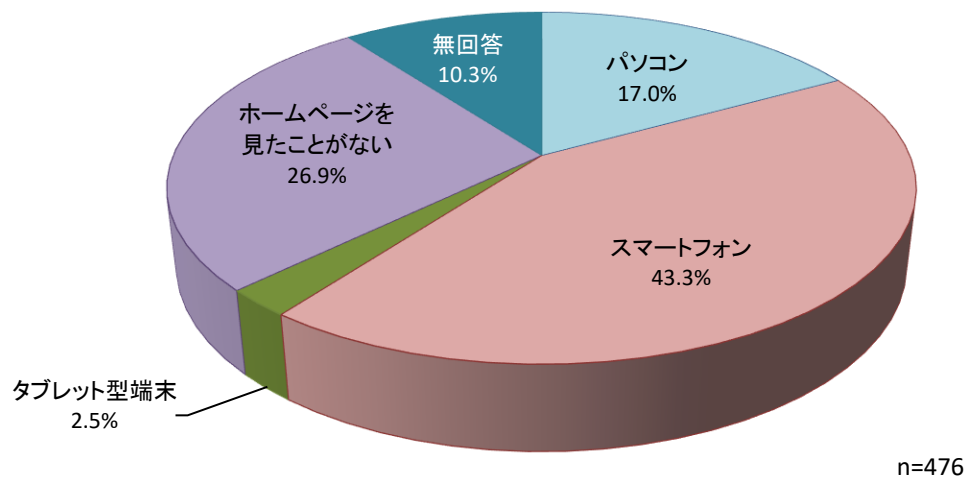
問9 市ではホームページを開設しています。ホームページを見るための主な手段は何ですか。

(○は1つ)

n=476

1	パソコン	17.0%
2	スマートフォン	43.3%
3	タブレット型端末	2.5%
4	ホームページを見たことがない	26.9%
	(無回答)	10.3%

<図Ⅳ－２－２２>全体



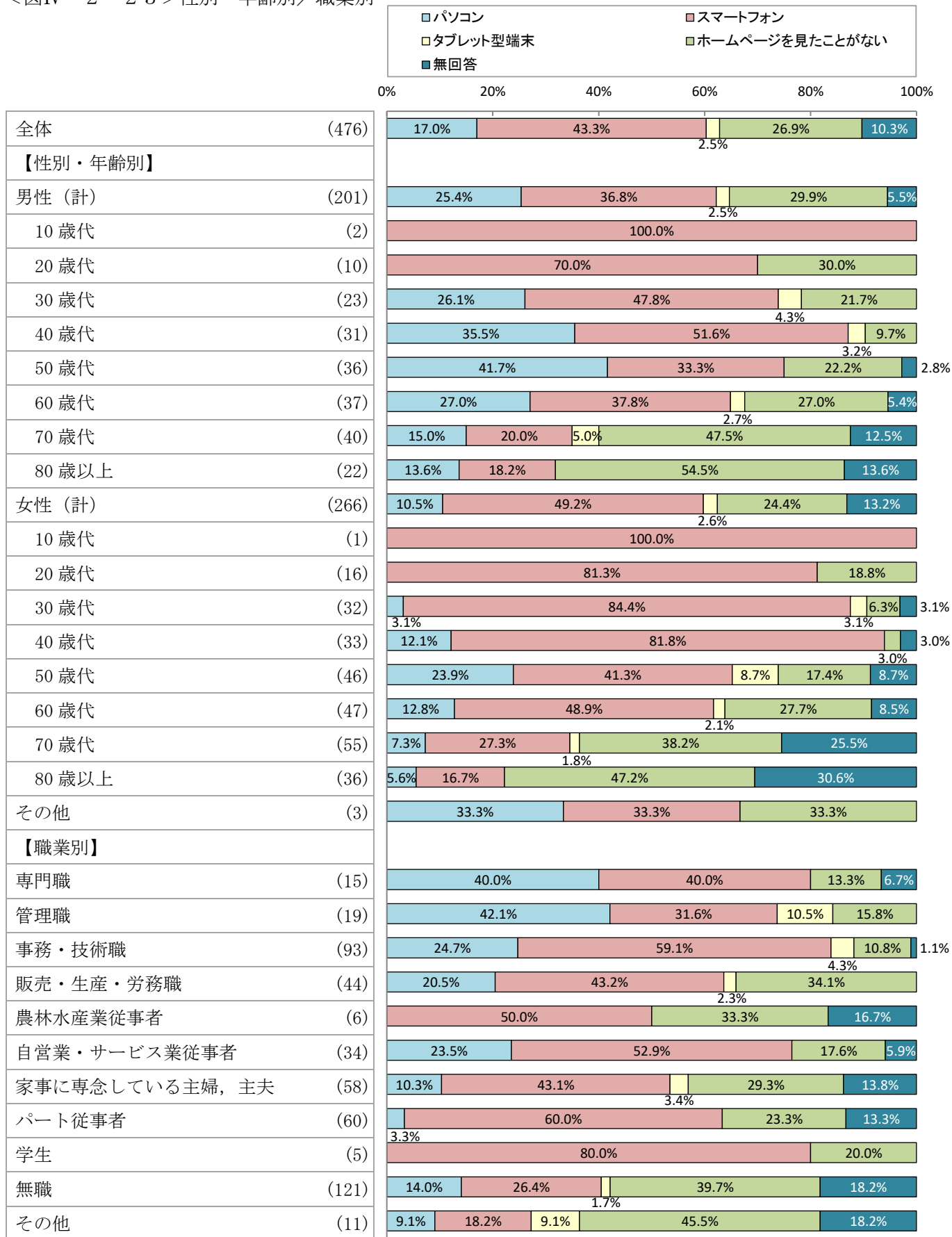
市のホームページを見るための主な手段については、「スマートフォン」が43.3%で最も高く、次いで「パソコン」が17.0%であった。(図Ⅳ－２－２２)

<参考>

性別・年齢別でみると、「スマートフォン」は<男性10歳代><女性10歳代>がいずれも100.0%、<女性30歳代>が84.4%、<女性40歳代>が81.8%と続いた。「パソコン」は<男性50歳代>が41.7%、<男性40歳代>が35.5%であった。(図Ⅳ－２－２３)

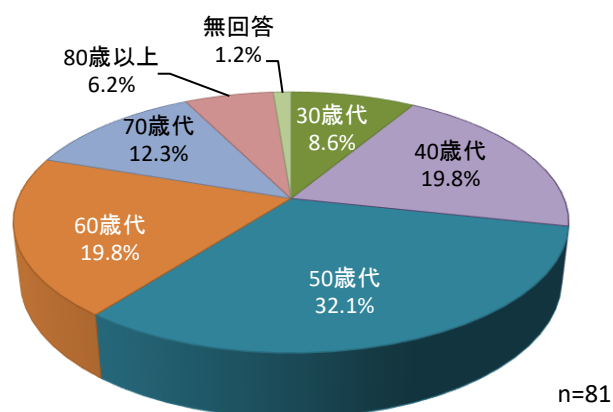
職業別でみると、「スマートフォン」は<学生>が80.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が60.0%であった。「パソコン」は<管理職>が42.1%で最も高かった。(図Ⅳ－２－２３)

<図Ⅳ－２－２３>性別・年齢別／職業別



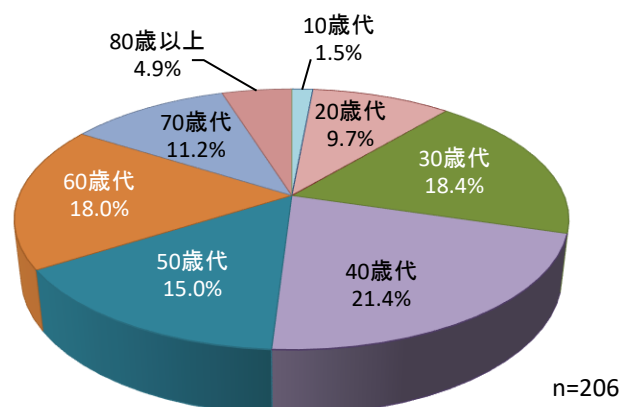
<図Ⅳ－２－２４> 【パソコン】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	0.0%
30 歳代	8.6%
40 歳代	19.8%
50 歳代	32.1%
60 歳代	19.8%
70 歳代	12.3%
80 歳以上	6.2%
無回答	1.2%



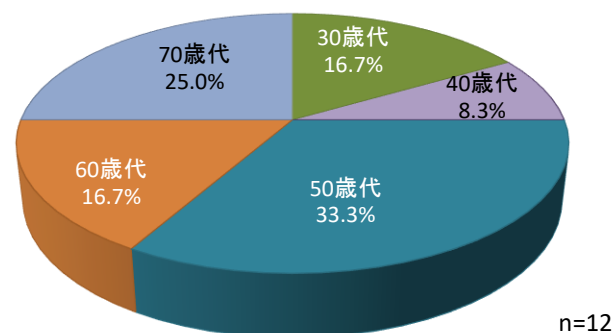
<図Ⅳ－２－２５> 【スマートフォン】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	1.5%
20 歳代	9.7%
30 歳代	18.4%
40 歳代	21.4%
50 歳代	15.0%
60 歳代	18.0%
70 歳代	11.2%
80 歳以上	4.9%
無回答	0.0%



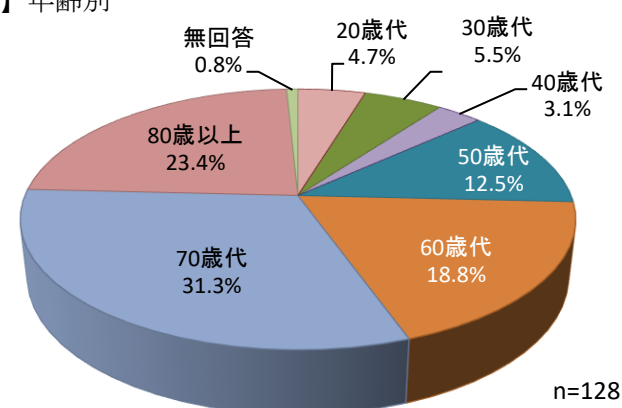
<図Ⅳ－２－２６> 【タブレット端末】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	0.0%
30 歳代	16.7%
40 歳代	8.3%
50 歳代	33.3%
60 歳代	16.7%
70 歳代	25.0%
80 歳以上	0.0%
無回答	0.0%



<図Ⅳ－２－２７> 【ホームページを見たことがない】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	4.7%
30 歳代	5.5%
40 歳代	3.1%
50 歳代	12.5%
60 歳代	18.8%
70 歳代	31.3%
80 歳以上	23.4%
無回答	0.8%

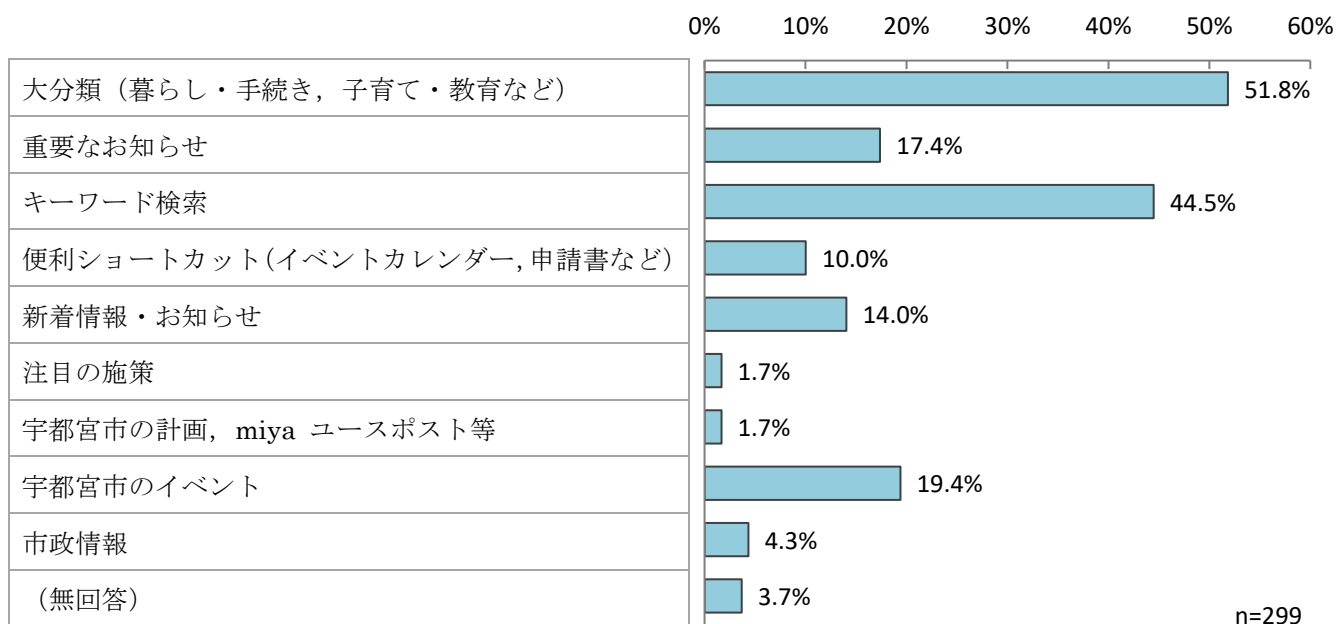


(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

◇「大分類（暮らし・手続き、子育て・教育など）」が5割強

問10	問9で1～3に○をつけた方にお伺いします。	
	ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探しますか。	(○は3つまで)
		n=299
1	大分類（暮らし・手続き、子育て・教育など）	51.8%
2	重要なお知らせ	17.4%
3	キーワード検索	44.5%
4	便利ショートカット（イベントカレンダー、申請書など）	10.0%
5	新着情報・お知らせ	14.0%
6	注目の施策	1.7%
7	宇都宮市の計画，miya ユースポスト等	1.7%
8	宇都宮市のイベント	19.4%
9	市政情報	4.3%
	（無回答）	3.7%

<図IV-2-28>全体



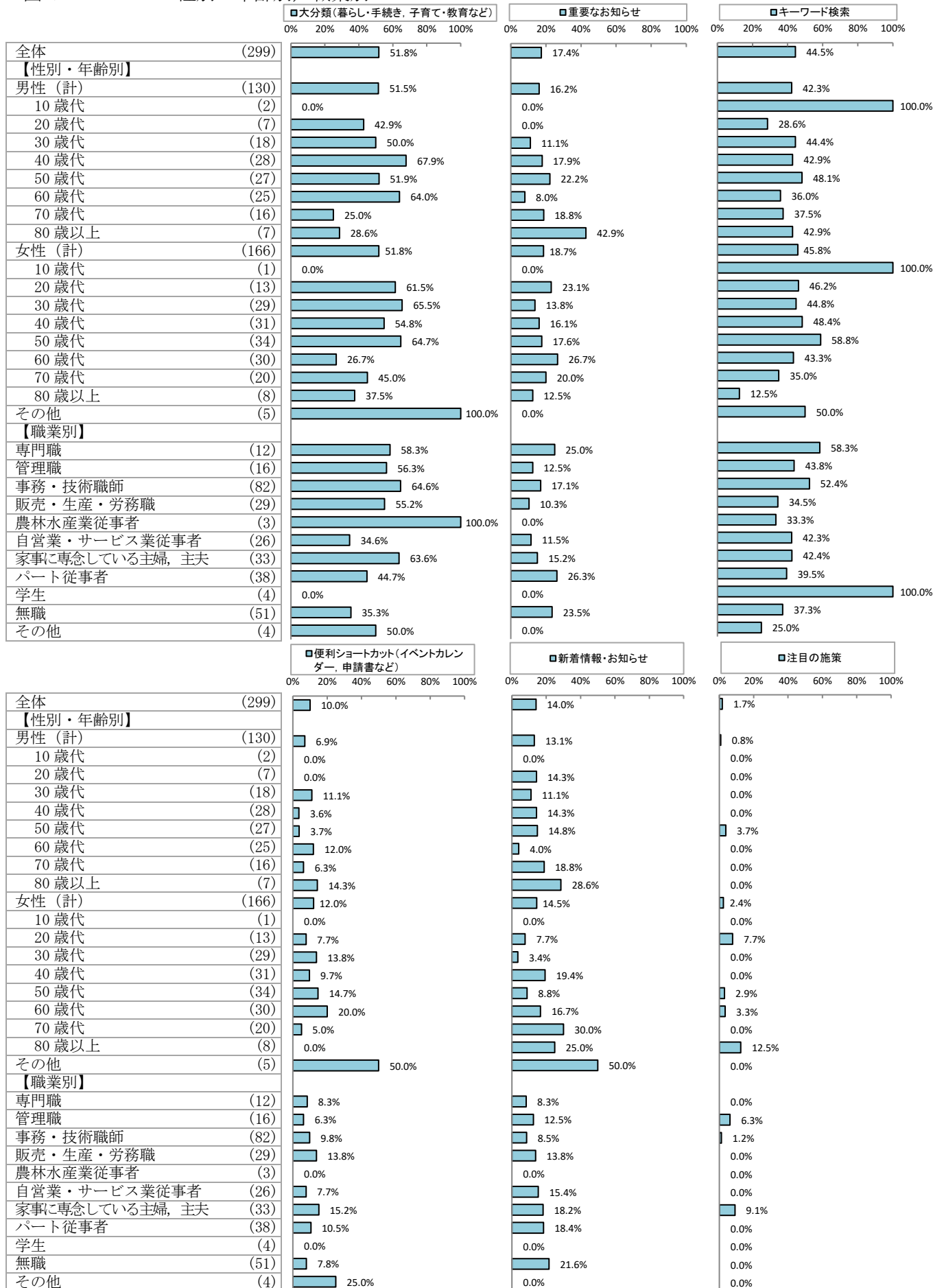
ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「大分類（暮らし・手続き，子育て・教育など）」が 51.8% で最も高く，次いで「キーワード検索」が 44.5%，「宇都宮市のイベント」が 19.4% と続いた。（図IV-2-28）

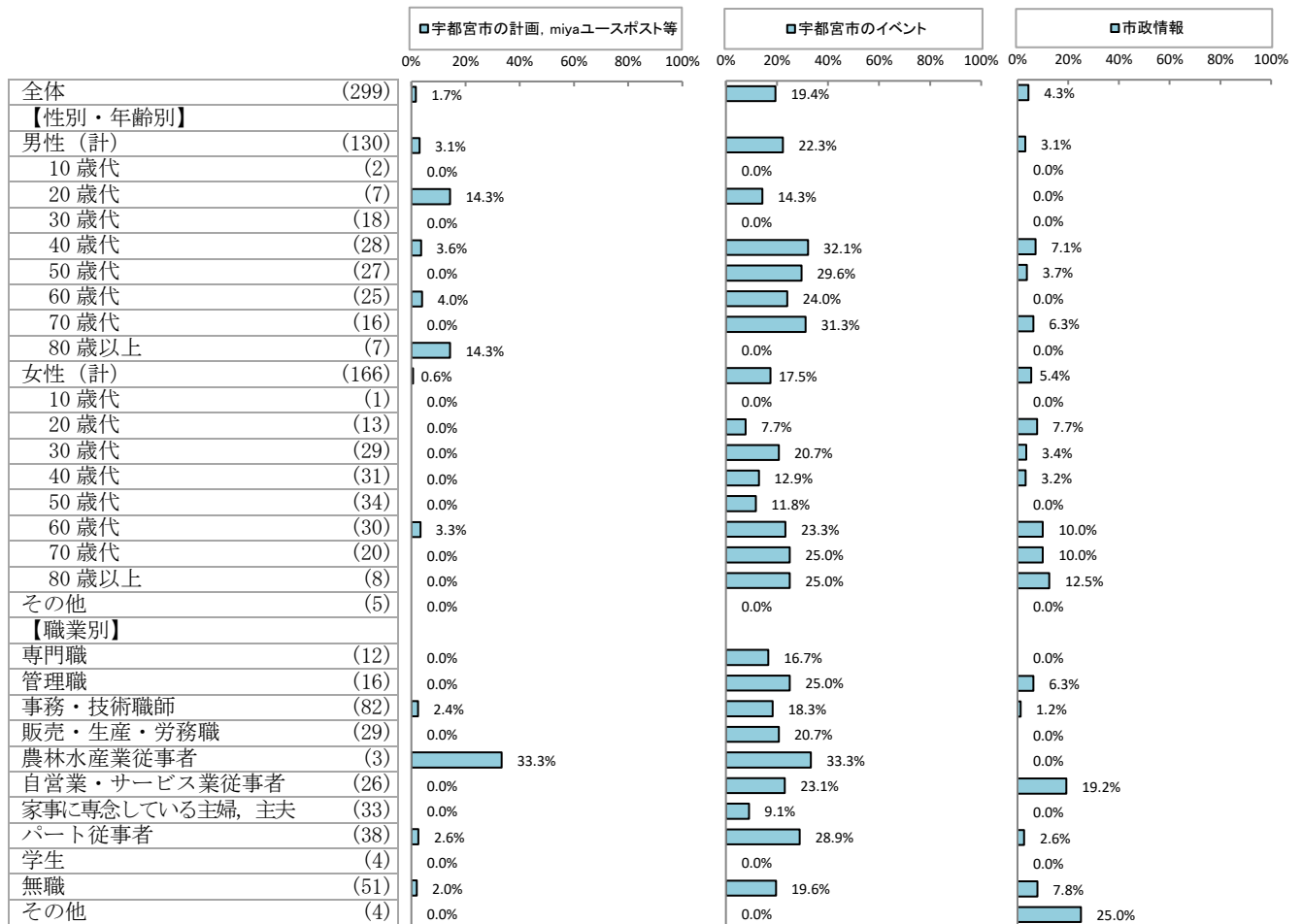
<参考>

性別・年齢別で、「大分類（暮らし・手続き，子育て・教育など）」は<その他>を除くと，<男性 40 歳代>が 67.9% で最も高く，次いで<女性 30 歳代>が 65.5% であった。「キーワード検索」は<男性 10 歳代><女性 10 歳代>がいずれも 100.0%，<女性 50 歳代>が 58.8% であった。（図IV-2-29）

職業別でみると，「大分類（暮らし・手続き，子育て・教育など）」は<農林水産業従事者>が 100.0%，<事務・技術職>が 64.6% であった。「キーワード検索」は<学生>が 100.0%，<専門職>が 58.3% であった。（図IV-2-29）

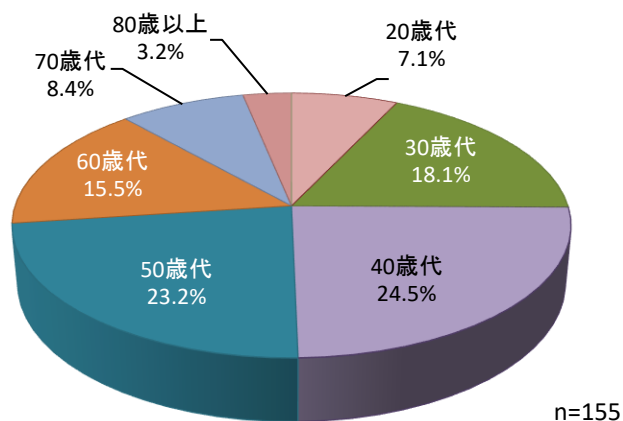
<図Ⅳ－２－２９>性別・年齢別／職業別





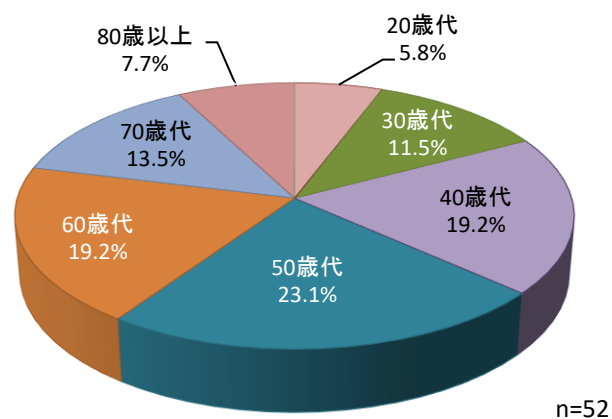
<図Ⅳ－２－３０> 【大分類（暮らし・手続き，子育て・教育など）】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	7.1%
30 歳代	18.1%
40 歳代	24.5%
50 歳代	23.2%
60 歳代	15.5%
70 歳代	8.4%
80 歳以上	3.2%
無回答	0.0%



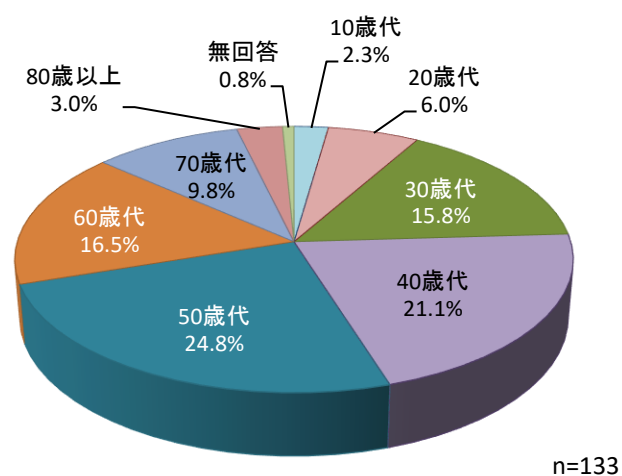
<図Ⅳ－２－３１> 【重要なお知らせ】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	5.8%
30 歳代	11.5%
40 歳代	19.2%
50 歳代	23.1%
60 歳代	19.2%
70 歳代	13.5%
80 歳以上	7.7%
無回答	0.0%



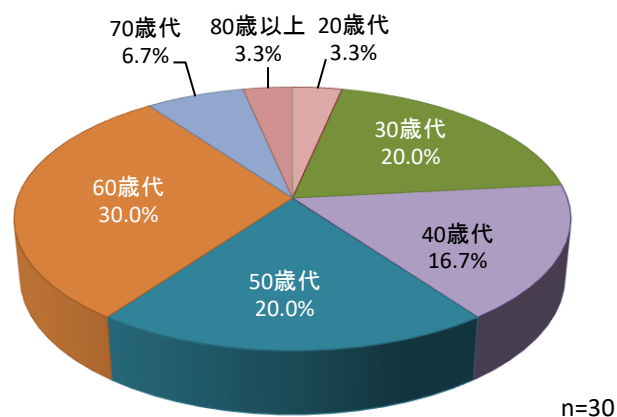
<図Ⅳ－２－３２> 【キーワード検索】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	2.3%
20 歳代	6.0%
30 歳代	15.8%
40 歳代	21.1%
50 歳代	24.8%
60 歳代	16.5%
70 歳代	9.8%
80 歳以上	3.0%
無回答	0.8%



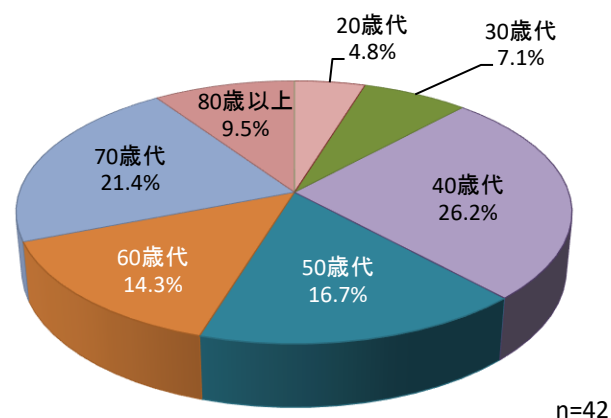
<図Ⅳ－２－３ 3> 【便利ショートカット（イベントカレンダー，申請書など）】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	3.3%
30 歳代	20.0%
40 歳代	16.7%
50 歳代	20.0%
60 歳代	30.0%
70 歳代	6.7%
80 歳以上	3.3%
無回答	0.0%



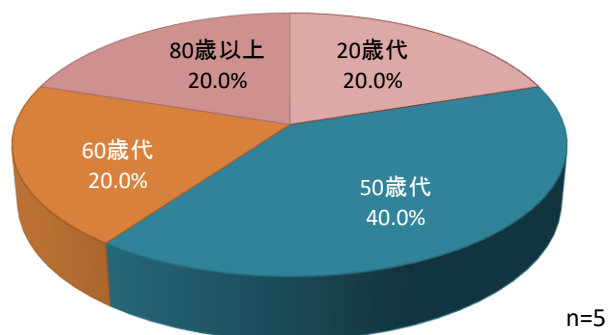
<図Ⅳ－２－３ 4> 【新着情報・お知らせ】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	4.8%
30 歳代	7.1%
40 歳代	26.2%
50 歳代	16.7%
60 歳代	14.3%
70 歳代	21.4%
80 歳以上	9.5%
無回答	0.0%



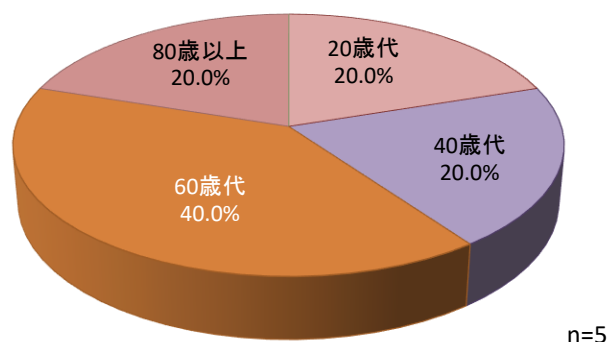
<図Ⅳ－２－３ 5> 【注目の施策】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	20.0%
30 歳代	0.0%
40 歳代	0.0%
50 歳代	40.0%
60 歳代	20.0%
70 歳代	0.0%
80 歳以上	20.0%
無回答	0.0%



<図Ⅳ－２－３６> 【宇都宮市の計画，miya ユースポスト等】 年齢別

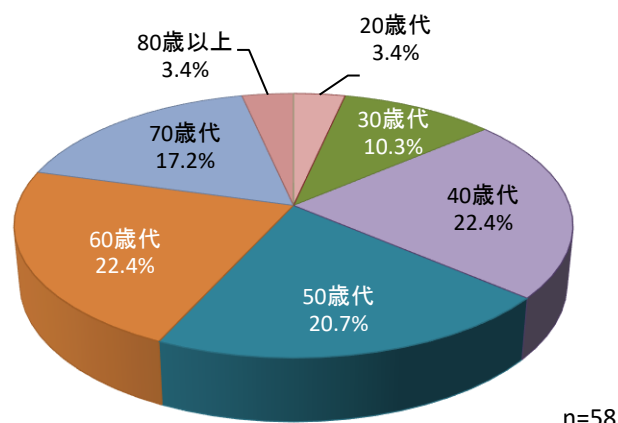
【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	20.0%
30 歳代	0.0%
40 歳代	20.0%
50 歳代	0.0%
60 歳代	40.0%
70 歳代	0.0%
80 歳以上	20.0%
無回答	0.0%



n=5

<図Ⅳ－２－３７> 【宇都宮市のイベント】 年齢別

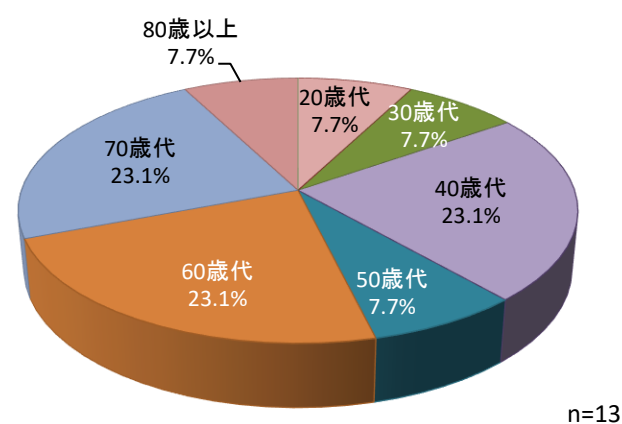
【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	3.4%
30 歳代	10.3%
40 歳代	22.4%
50 歳代	20.7%
60 歳代	22.4%
70 歳代	17.2%
80 歳以上	3.4%
無回答	0.0%



n=58

<図Ⅳ－２－３８> 【市政情報】 年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	7.7%
30 歳代	7.7%
40 歳代	23.1%
50 歳代	7.7%
60 歳代	23.1%
70 歳代	23.1%
80 歳以上	7.7%
無回答	0.0%



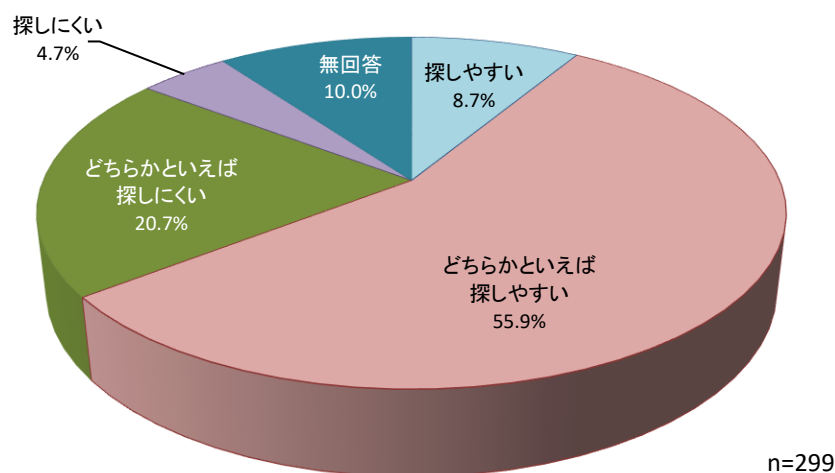
n=13

(8) ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか

◇「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が6割半ば

問11	問9で1～3に○をつけた方にお伺いします。	
	ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいですか。	(○は1つ)
		n=299
1	探しやすい	8.7%
2	どちらかといえば探しやすい	55.9%
3	どちらかといえば探しにくい	20.7%
4	探しにくい	4.7%
	(無回答)	10.0%

<図IV-2-39>全体



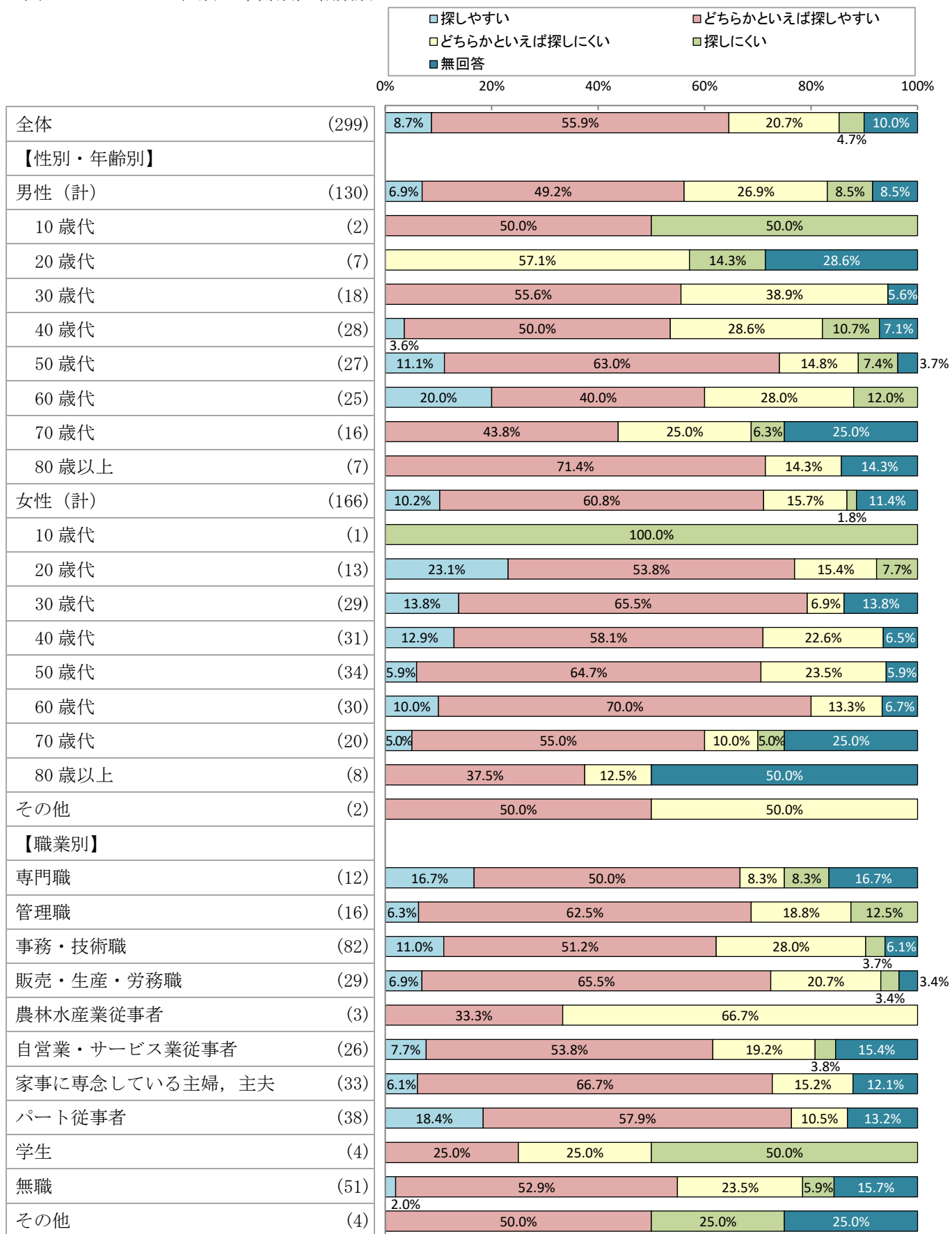
ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」が8.7%、「どちらかといえば探しやすい」が55.9%で、これらを合わせた【探しやすい(計)】が64.6%であった。一方、「どちらかといえば探しにくい」が20.7%、「探しにくい」が4.7%で、これらを合わせた【探しにくい(計)】が25.4%であった。(図IV-2-39)

<参考>

性別・年齢別でみると、【探しやすい(計)】は<女性60歳代>が80.0%、次いで<女性30歳代>が79.3%であった。一方、【探しにくい(計)】は<女性10歳代>が100.0%、<男性20歳代>が71.4%であった。(図IV-2-40)

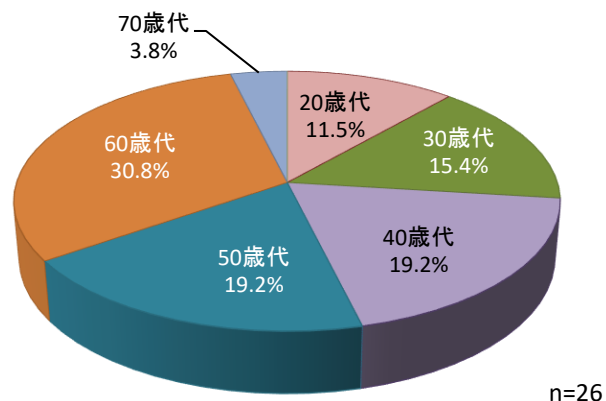
職業別でみると、【探しやすい(計)】は<パート従事者>が76.3%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が72.8%であった。一方、【探しにくい(計)】は<学生>が75.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が66.7%であった。(図IV-2-40)

<図Ⅳ－２－４０>性別・年齢別／職業別



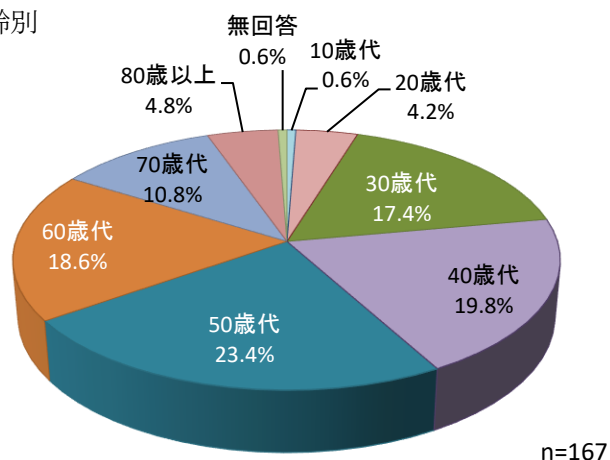
<図Ⅳ－２－４１> 【探しやすい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	11.5%
30 歳代	15.4%
40 歳代	19.2%
50 歳代	19.2%
60 歳代	30.8%
70 歳代	3.8%
80 歳以上	0.0%
無回答	0.0%



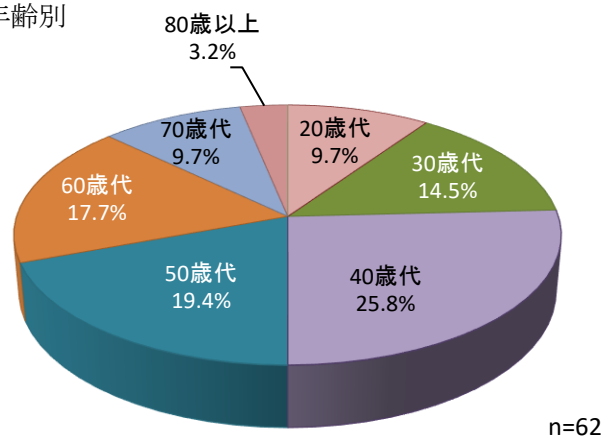
<図Ⅳ－２－４２> 【どちらかといえば探しやすい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.6%
20 歳代	4.2%
30 歳代	17.4%
40 歳代	19.8%
50 歳代	23.4%
60 歳代	18.6%
70 歳代	10.8%
80 歳以上	4.8%
無回答	0.6%



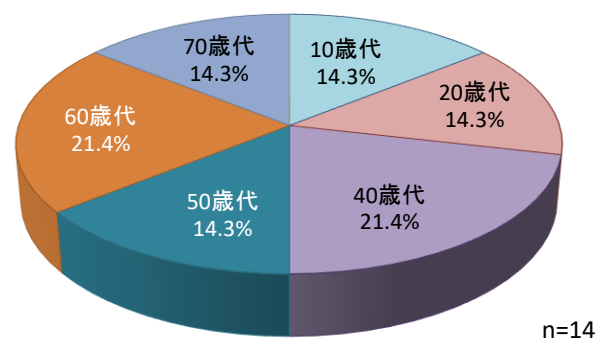
<図Ⅳ－２－４３> 【どちらかといえば探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	0.0%
20 歳代	9.7%
30 歳代	14.5%
40 歳代	25.8%
50 歳代	19.4%
60 歳代	17.7%
70 歳代	9.7%
80 歳以上	3.2%
無回答	0.0%



<図Ⅳ－２－４４> 【探しにくい】年齢別

【年齢別】	
10 歳代	14.3%
20 歳代	14.3%
30 歳代	0.0%
40 歳代	21.4%
50 歳代	14.3%
60 歳代	21.4%
70 歳代	14.3%
80 歳以上	0.0%
無回答	0.0%



(9) ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報

問 1 2 ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報などをお書きください。

ホームページに関する感想, 充実してほしい機能や情報については, 以下のような意見があった。(原文のまま)

【情報】

- ◆ 交通系の情報(料金)を入れて欲しい。
- ◆ 地域ごとのイベント情報, 子供達のスポーツ大会の情報・結果等明るい話題があるとホームページを見たい。
- ◆ スーパースマートシティに関する情報。
- ◆ これから老後を迎える世代なので, 高齢者向けの情報も充実してほしいです。それも介護や福祉関係でなく高齢者向けの娯楽や講座, 高齢者にもできるボランティア等をお願いいたします。
- ◆ コロナはまだまだ終息していません。コロナについて色々な情報を掲載してほしい。

【見やすさ・分かりやすさ】

- ◆ いつも見やすくとても有難いです。
- ◆ 表面的, 簡易な情報しか得られず, 結局電話で問合せないとよくわからなかったりする。
- ◆ ごちゃごちゃしていて読みづらい。レイアウト含めて工夫が必要。一方, 内容表記は画一的で, かゆい所に手が届いていない。
- ◆ 多数な情報があるため目的のページにたどりつけなかったりする。対象ページがネットの検索の段階で出ないと辿り着けないこともある。自ら調べにいかないとわからない情報(助成金等)はそーゆーコーナーみたいな感じでまとめといてもらえるとたすかる。
- ◆ スマホで見ると, 一画面が縦に長過ぎて見づらい。
- ◆ 市庁舎と出張所の窓口業務の案内と開庁時間の曜日の情報, どちらに行くかを比較検討するのが難しいと感じます。並べて比較できるようになっていると助かります。※例えば印鑑登録と証明書申請等の日常的な手づきです。
- ◆ 年代別に関連する情報にとぶことができる。
- ◆ スポーツイベントの日程優先の検索情報

【その他】

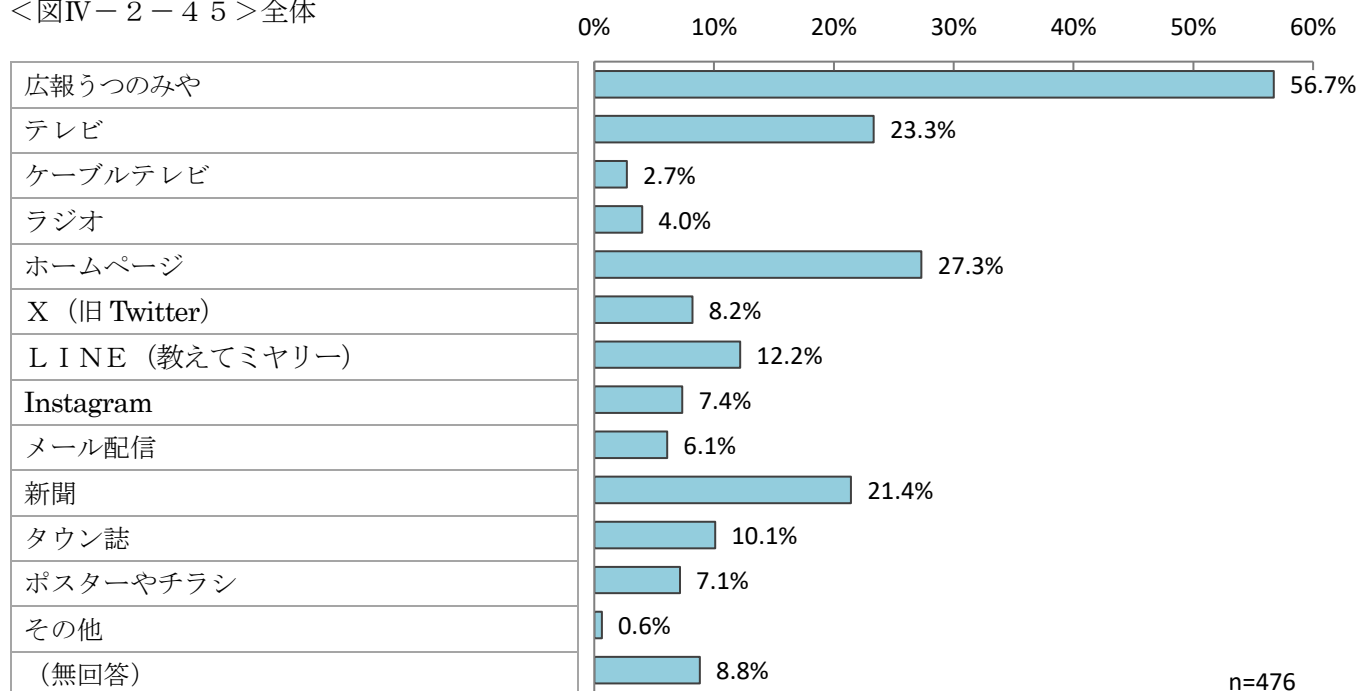
- ◆ 災害時にすぐに災害場所, 被害状況, 避難等へのすばやい情報がわかるように災害情報を充実して知ることができるようにしてほしい。
- ◆ 学校行事等教育関係の更新が少し遅いので早く載せるようにしてほしい。
- ◆ ごみ処理施設関連の情報が古い。
- ◆ 難しい専門用語には解説を付けて頂ければ見る気力も起きるかと思います。我々高齢者はカタカナに弱いのです。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

◇「広報うつのみや」が6割弱

問 1 3 今後、市政情報をどんな手段で知りたいですか。(○は3つまで)		n=476
1	広報うつのみや	56.7%
2	テレビ	23.3%
3	ケーブルテレビ	2.7%
4	ラジオ	4.0%
5	ホームページ	27.3%
6	X (旧 Twitter)	8.2%
7	L I N E (教えてミヤリー)	12.2%
8	Instagram	7.4%
9	メール配信	6.1%
10	新聞	21.4%
11	タウン誌	10.1%
12	ポスターやチラシ	7.1%
13	その他	0.6%
	(無回答)	8.8%

<図Ⅳ－２－４５>全体



市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が 56.7%で最も高く、次いで「ホームページ」が 27.3%、「テレビ」が 23.3%、「新聞」が 21.4%と続いた。(図Ⅳ－２－４５)

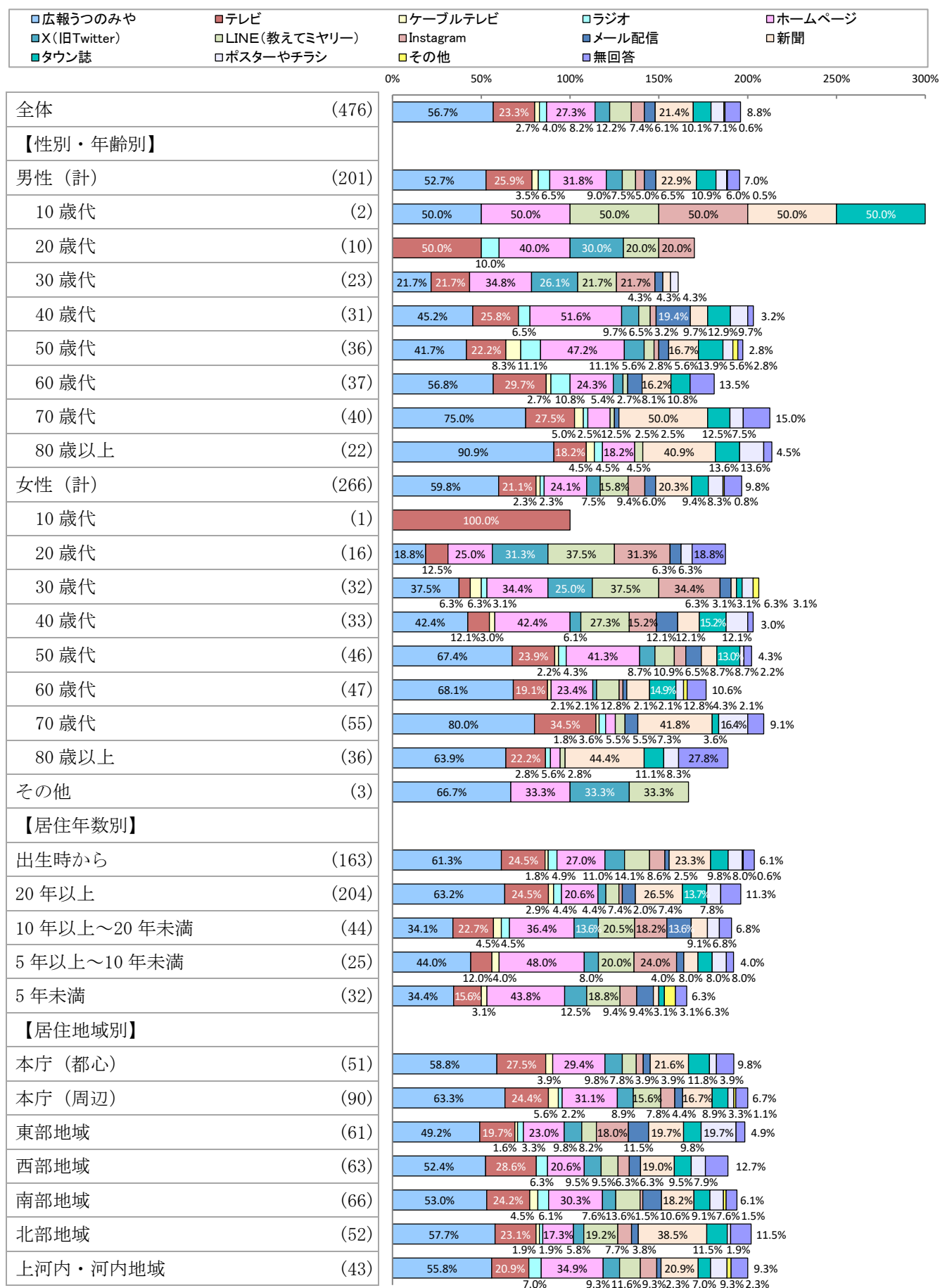
<参考>

性別・年齢別で見ると、「広報うつのみや」は<男性 80 歳以上>が 90.9%、次いで<女性 70 歳代>が 80.0%であった。(図Ⅳ－２－４６)

居住年数別で見ると、「広報うつのみや」は<20 年以上>が 63.2%で最も高かった。(図Ⅳ－２－４６)

居住地域別で見ると、「広報うつのみや」は<本庁(周辺)>が 63.3%で最も高かった。(図Ⅳ－２－４６)

<図Ⅳ－２－４６>性別・年齢別／居住年数別／居住地域別



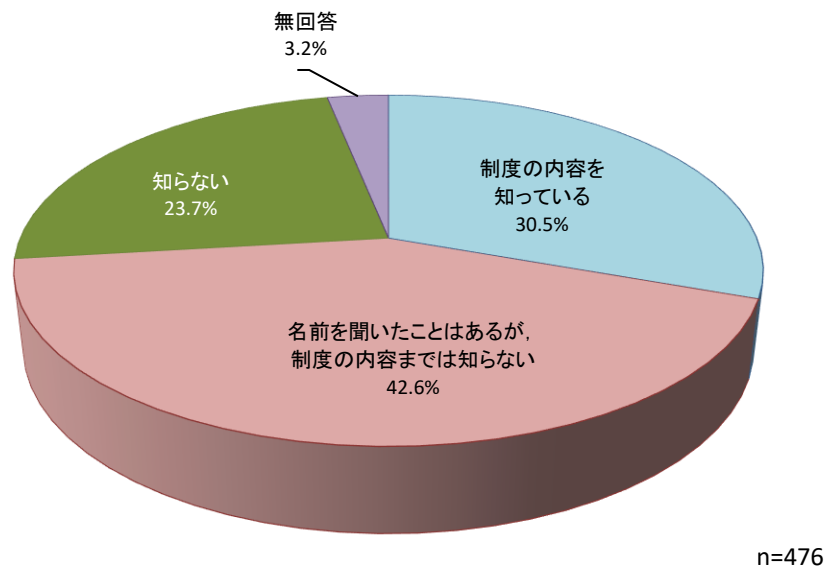
3. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

◇ 「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」が4割強

問14	宇都宮市では、「成年後見制度」の利用促進に取り組んでいます。あなたは「成年後見制度(※)」を知っていますか。	
	※ 成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分なため、日常生活で必要となる契約手続きや金銭管理などに支障がある人について、その不十分な判断能力を補い、本人の権利が守られるようにする制度	(○は1つ)
		n=476
1	制度の内容を知っている	30.5%
2	名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない	42.6%
3	知らない	23.7%
	(無回答)	3.2%

<図Ⅳ－3－1>全体

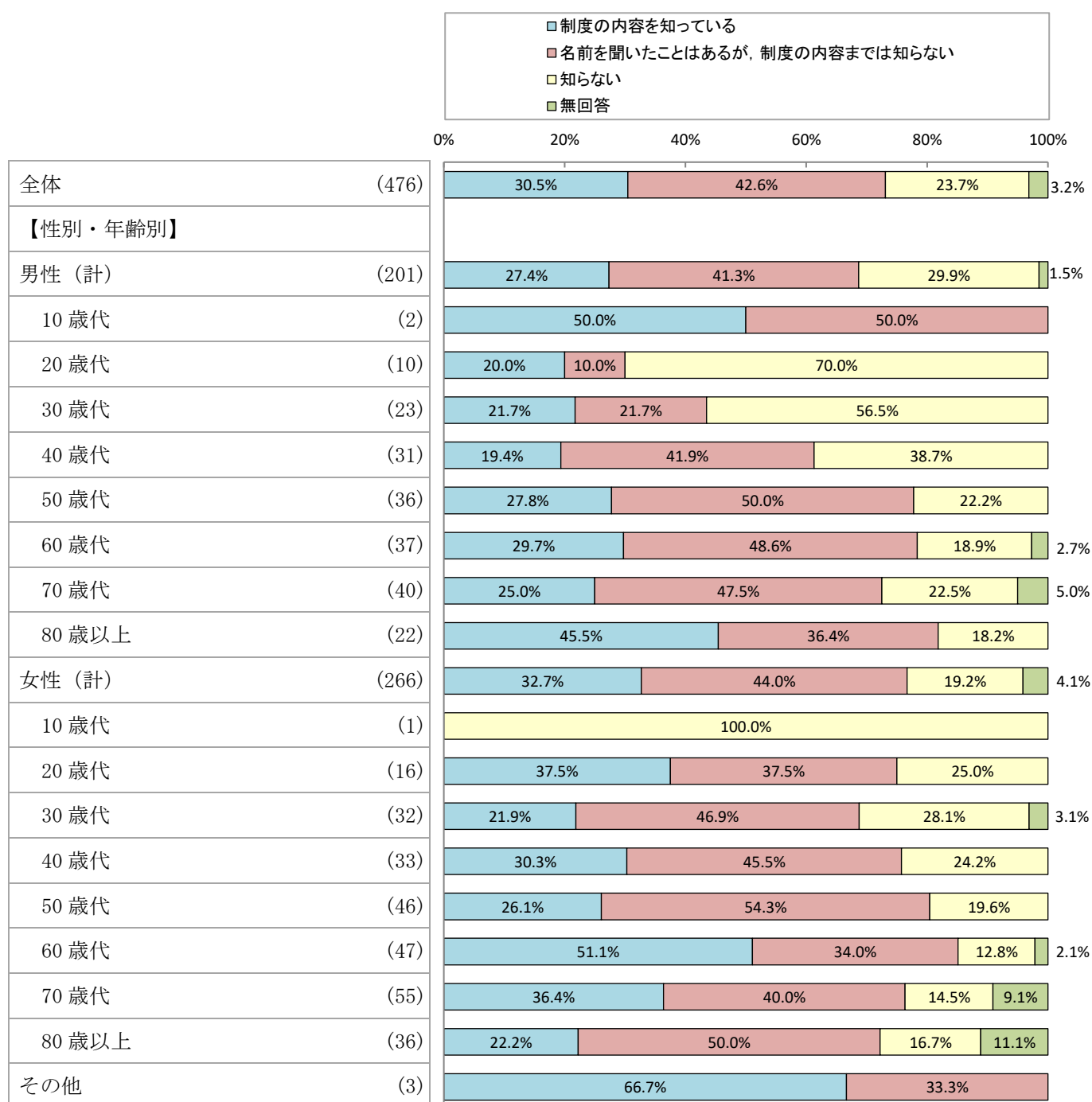


「成年後見制度」を知っているかについては、「名前を聞いたことがあるが、制度の内容までは知らない」が42.6%で最も高く、次いで「制度の内容を知っている」が30.5%であった。(図Ⅳ－3－1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「制度の内容を知っている」は<その他>を除くと、<女性60歳代>が51.1%で最も高く、次いで<男性10歳代>が50.0%であった。「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」は<女性50歳代>が54.3%で最も高く、次いで<男性10・50歳代><女性80歳以上>がいずれも50.0%であった。「知らない」は<女性10歳代>が100.0%、<男性20歳代>が70.0%であった。(図Ⅳ－3－2)

<図Ⅳ－３－２>性別・年齢別



4. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」の認知度

◇ 「言葉も意味も知っていた」が4割弱

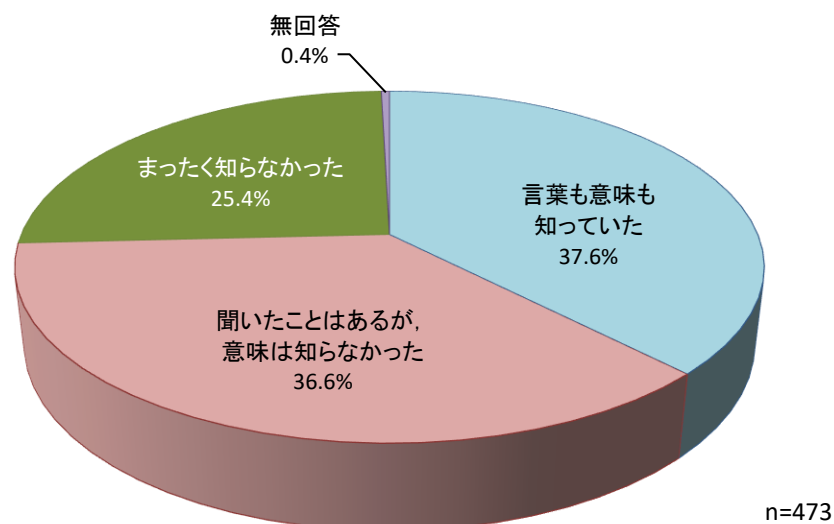
問15 「生物多様性」(※) という言葉を知っていますか。

※「生物多様性」とは、「生きものの個性と自然とのつながりの豊かさ」のことです。地球上には様々な個性を持った生きものがいて、それらが自然環境の中でつながりあっている、ということを知っていれば、「生物多様性」の言葉も意味も知っていたこととします。(○は1つ)

n=473

1	言葉も意味も知っていた	37.6%
2	聞いたことはあるが、意味は知らなかった	36.6%
3	まったく知らなかった	25.4%
	(無回答)	0.4%

<図IV-4-1>全体



「生物多様性」という言葉を知っているかについては、「言葉も意味も知っていた」が37.6%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が36.6%であった。(図IV-4-1)

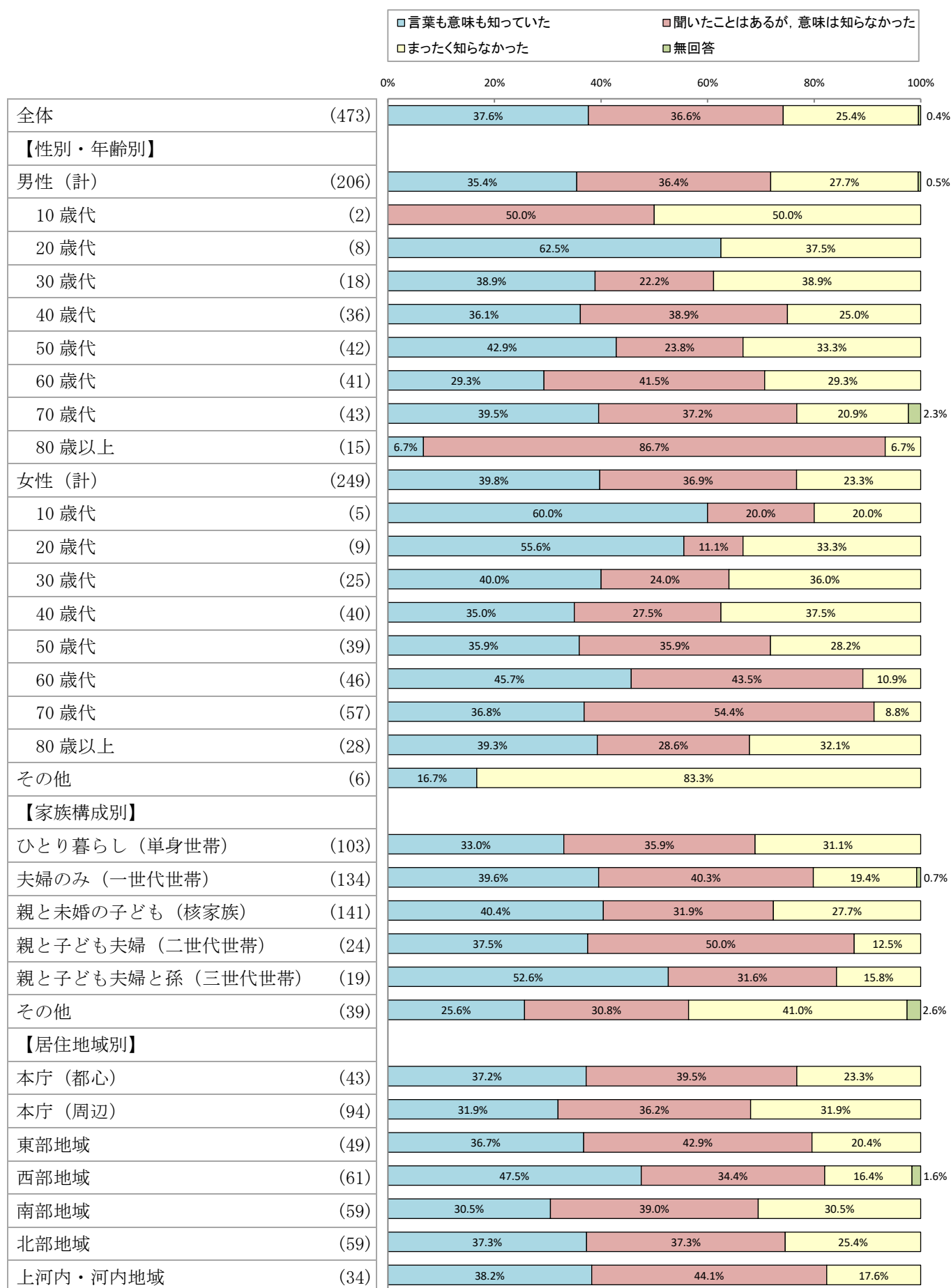
<参考>

性別・年齢別でみると、「言葉も意味も知っていた」は<男性20歳代>が62.5%で最も高く、次いで<女性10歳代>が60.0%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は<男性80歳以上>が86.7%で最も高く、次いで<女性70歳代>が54.4%であった。(図IV-4-2)

家族構成別でみると、「言葉も意味も知っていた」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が52.6%、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が40.4%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が50.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が40.3%であった。(図IV-4-2)

居住地域別でみると、「言葉も意味も知っていた」は<西部地域>が47.5%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が38.2%であった。「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」は<上河内・河内地域>が44.1%で最も高く、次いで<東部地域>が42.9%であった。(図IV-4-2)

<図Ⅳ－４－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(2) 外来種が及ぼす影響の認知度

◇「知っていた」が9割弱

問16 外来種(※)が及ぼす影響を知っていますか。

※「外来種」とは、「もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生きもの」のことです。

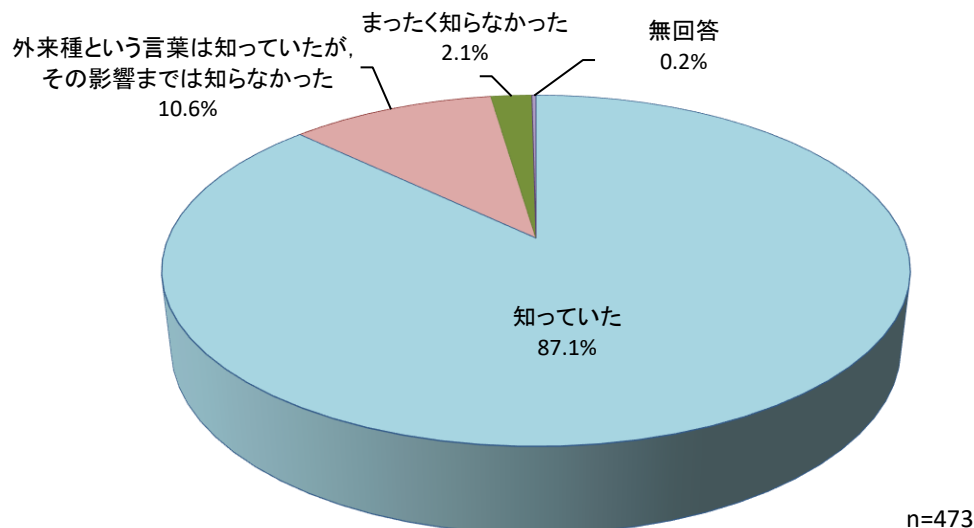
外来種は、もともといた在来の生きものの生息地を奪ったり、人の生命・身体に危険を及ぼしたり、田畑を荒らしたり、様々なことに悪影響を及ぼす場合があります。

このようなことを知っていれば、外来種が及ぼす影響を知っていたこととします。(○は1つ)

n=473

1	知っていた	87.1%
2	外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった	10.6%
3	まったく知らなかった	2.1%
	(無回答)	0.2%

<図IV-4-3>全体



外来種が及ぼす影響を知っているかについては、「知っていた」が87.1%で最も高く、次いで「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」が10.6%であった。(図IV-4-3)

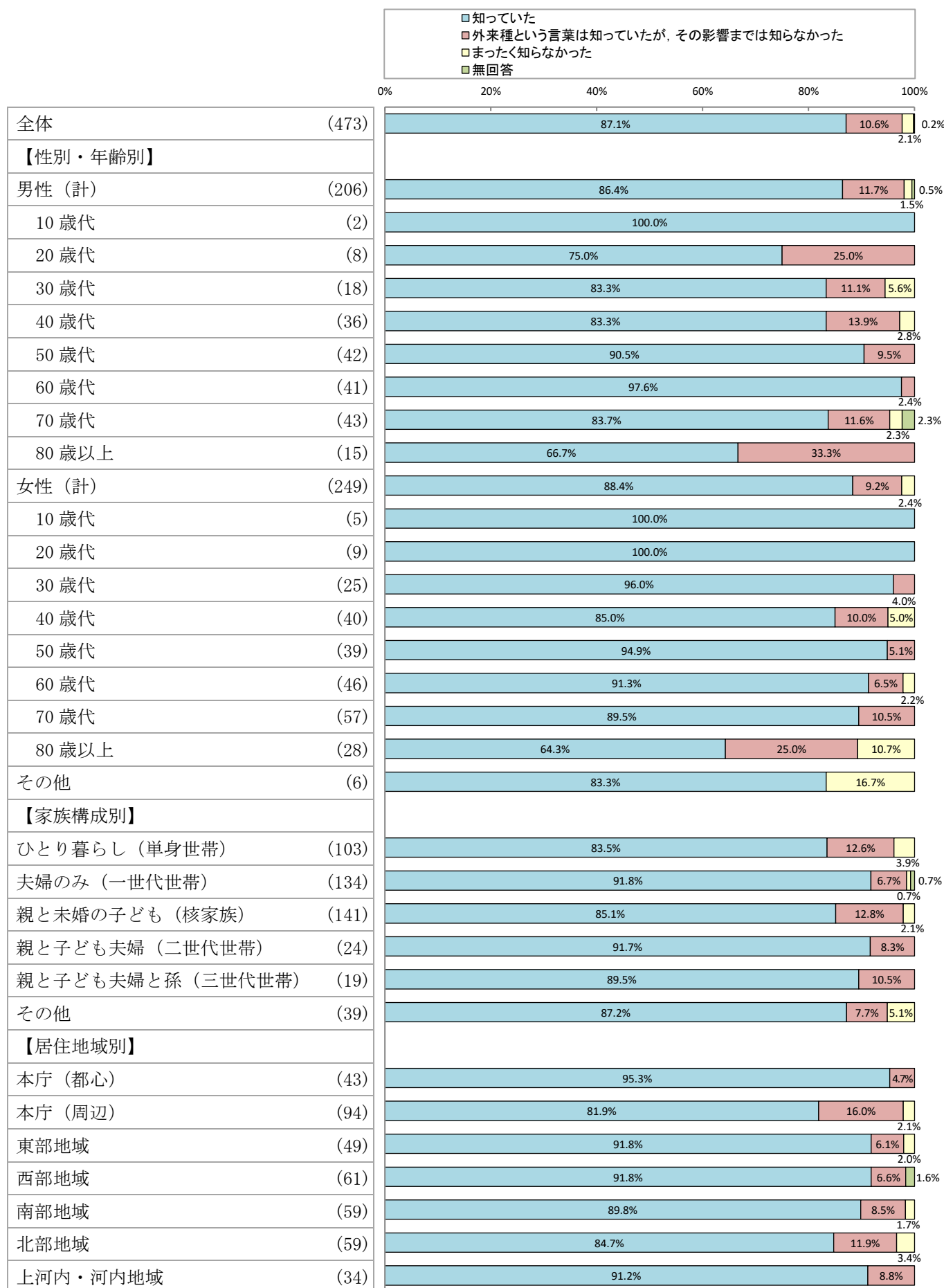
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っていた」は<男性10歳代><女性10・20歳代>がいずれも100.0%、<男性60歳代>が97.6%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<男性80歳以上>が33.3%で最も高く、次いで<男性20歳代><女性80歳以上>がいずれも25.0%であった。(図IV-4-4)

家族構成別でみると、「知っていた」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が91.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が91.7%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<親と未婚の子ども(核家族)>が12.8%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が12.6%であった。(図IV-4-4)

居住地域別でみると、「知っていた」は<本庁(都心)>が95.3%で最も高く、次いで<東部地域><西部地域>がいずれも91.8%であった。「外来種という言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」は<本庁(周辺)>が16.0%で最も高く、次いで<北部地域>が11.9%であった。(図IV-4-4)

<図Ⅳ－４－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



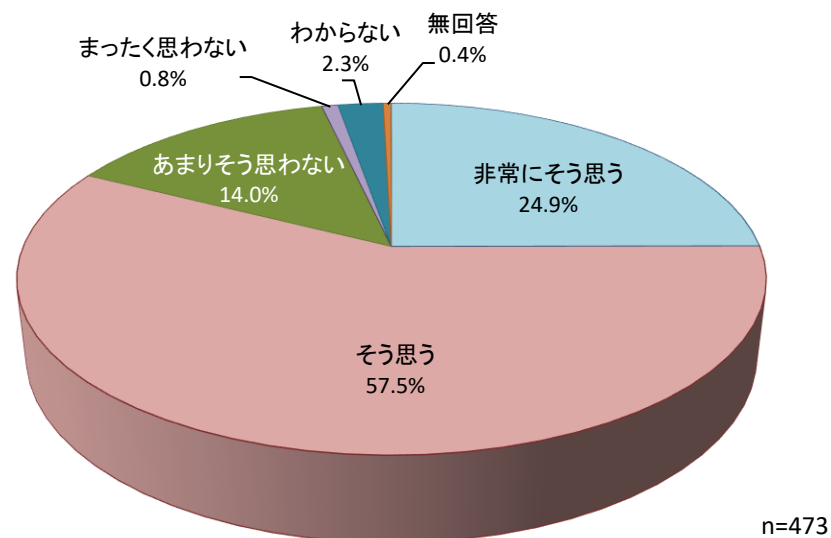
5. 宇都宮産の農産物について

(1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

◇「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割強

問17	市は地産地消を推進していますが、あなたは「宇都宮産」の農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。	(○は1つ)
		n=473
1	非常にそう思う	24.9%
2	そう思う	57.5%
3	あまりそう思わない	14.0%
4	まったく思わない	0.8%
5	わからない	2.3%
	(無回答)	0.4%

<図IV-5-1>全体



「宇都宮産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」が24.9%、「そう思う」が57.5%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は82.4%であった。一方、「あまりそう思わない」が14.0%、「まったく思わない」が0.8%で、これらを合わせた【思わない（計）】は14.8%であった。（図IV-5-1）

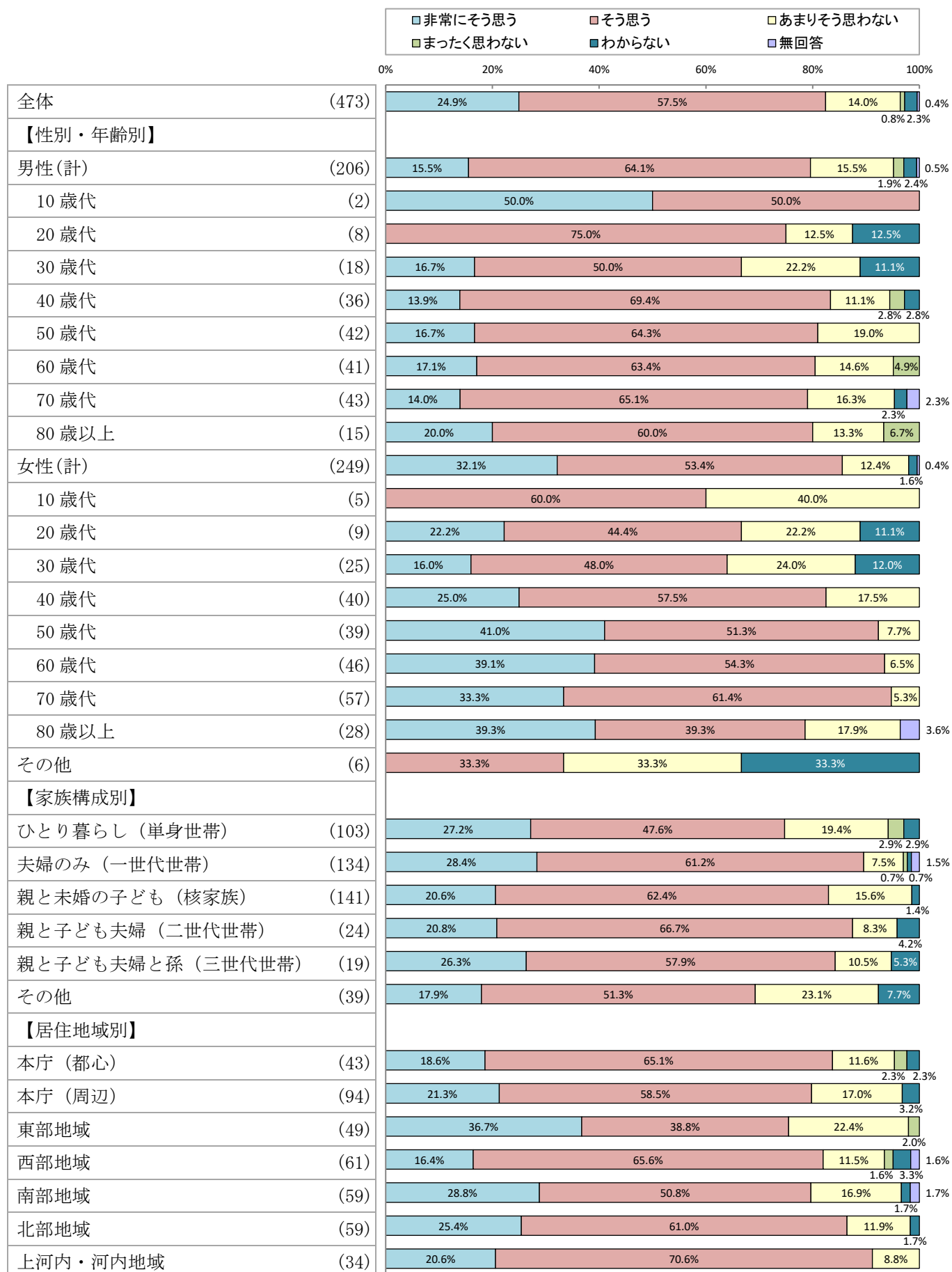
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は＜男性10歳代＞が100.0%、＜女性70歳代＞が94.7%であった。一方、【思わない（計）】は＜その他＞を除くと、＜女性10歳代＞が40.0%で最も高く、次いで＜女性30歳代＞が24.0%であった。（図IV-5-2）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞が89.6%で最も高く、次いで＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が87.5%であった。一方、【思わない（計）】は＜その他＞を除くと、＜ひとり暮らし（単身世帯）＞が22.3%で最も高く、次いで＜親と未婚の子ども（核家族）＞が15.6%であった。（図IV-5-2）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は＜上河内・河内地域＞が91.2%で最も高く、次いで＜北部地域＞が86.4%であった。一方、【思わない（計）】は＜東部地域＞が24.4%で最も高く、次いで＜本庁（周辺）＞が17.0%であった。（図IV-5-2）

<図Ⅳ－５－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

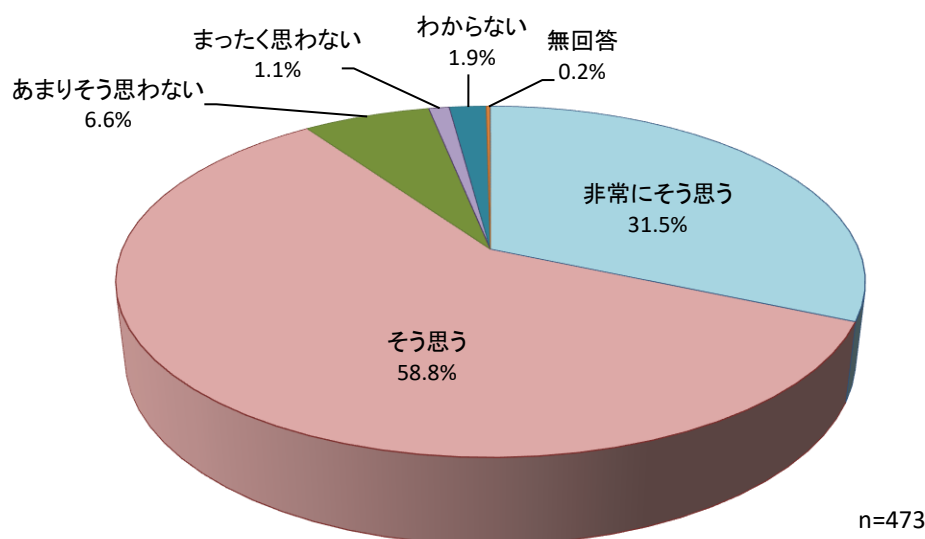


(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

◇「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割

問18	市は「農業王国うつのみや」の実現を目指した取組を推進していますが、あなたは宇都宮の農業を大切にしたいと思いますか。	(○は1つ) n=473
1	非常にそう思う	31.5%
2	そう思う	58.8%
3	あまりそう思わない	6.6%
4	まったく思わない	1.1%
5	わからない	1.9%
	(無回答)	0.2%

<図Ⅳ－5－3>全体



宇都宮の農業を大切にしたいかについては、「非常にそう思う」が 31.5%、「そう思う」が 58.8%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は 90.3%であった。一方、「あまりそう思わない」が 6.6%、「まったく思わない」が 1.1%で、これらを合わせた【思わない（計）】は 7.7%であった。（図Ⅳ－5－3）

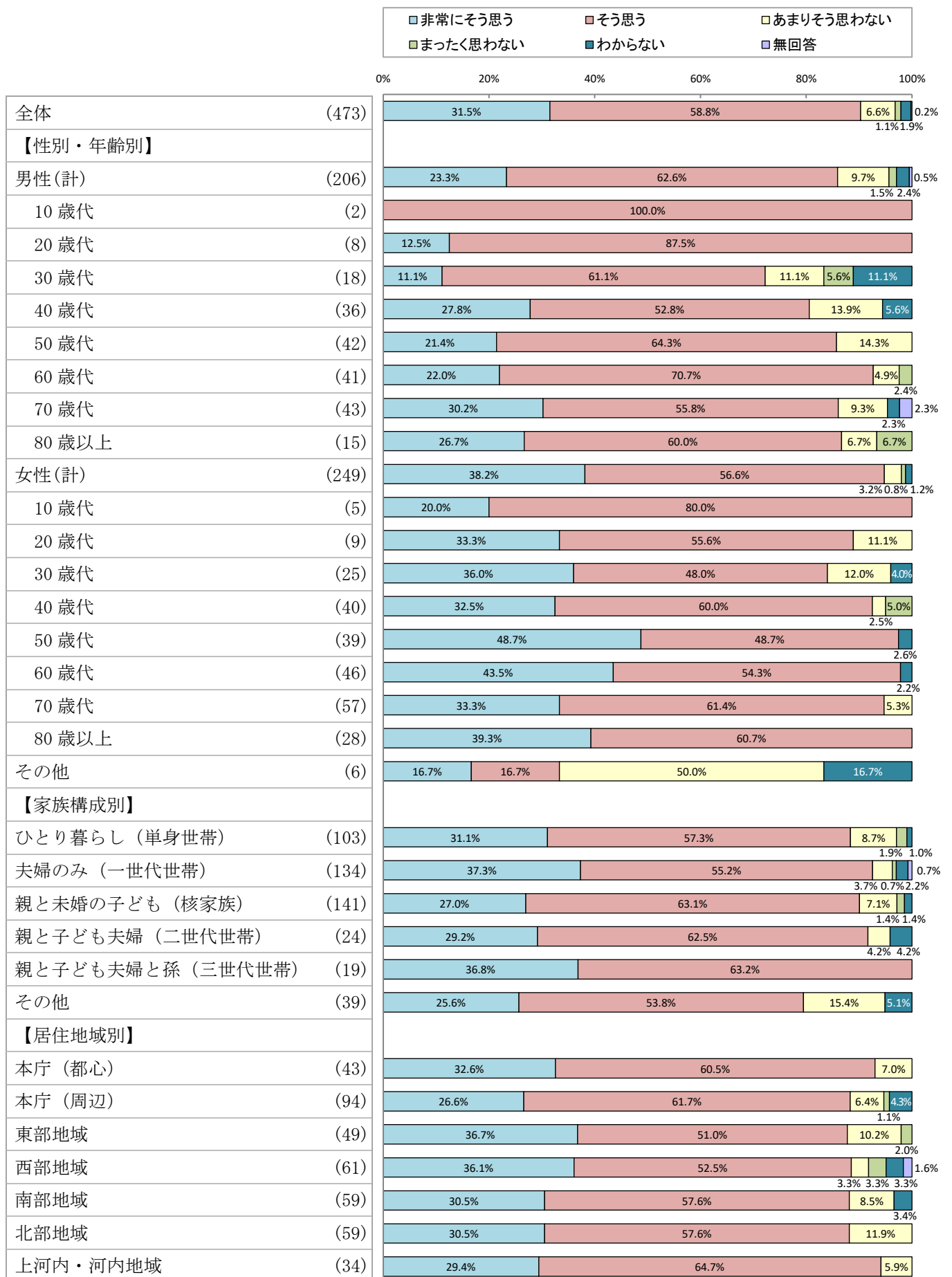
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は＜男性 10・20 歳代＞＜女性 10 歳代・80 歳以上＞がいずれも 100.0%、＜女性 60 歳代＞が 97.8%であった。一方、【思わない（計）】は＜その他＞を除くと、＜男性 30 歳代＞が 16.7%で最も高く、次いで＜男性 50 歳代＞が 14.3%であった。（図Ⅳ－5－4）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は＜親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）＞が 100.0%、＜夫婦のみ（一世代世帯）＞が 92.5%であった。一方、【思わない（計）】は＜その他＞を除くと、＜ひとり暮らし（単身世帯）＞が 10.6%で最も高く、次いで＜親と未婚の子ども（核家族）＞が 8.5%であった。（図Ⅳ－5－4）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は＜上河内・河内地域＞が 94.1%で最も高く、次いで＜本庁（都心）＞が 93.1%であった。一方、【思わない（計）】は＜東部地域＞が 12.2%で最も高く、次いで＜北部地域＞が 11.9%であった。（図Ⅳ－5－4）

<図Ⅳ－５－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

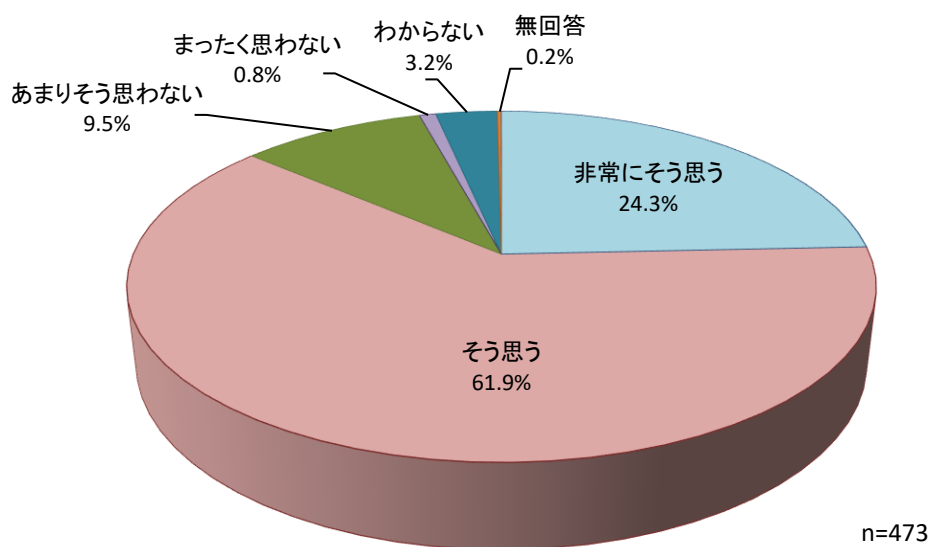


(3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

◇「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ば

問 1 9	市は環境に配慮した農業の取組を推進していますが，あなたは環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいと思いますか。	(○は1つ) n=473
1	非常にそう思う	24.3%
2	そう思う	61.9%
3	あまりそう思わない	9.5%
4	まったく思わない	0.8%
5	わからない	3.2%
	(無回答)	0.2%

<図IV－5－5>全体



環境に配慮して生産された農産物を積極的に購入したいかについては、「非常にそう思う」が24.3%、「そう思う」が61.9%で，これらを合わせた【そう思う（計）】は86.2%であった。一方、「あまりそう思わない」が9.5%、「まったく思わない」が0.8%で，これらを合わせた【思わない（計）】は10.3%であった。（図IV－5－5）

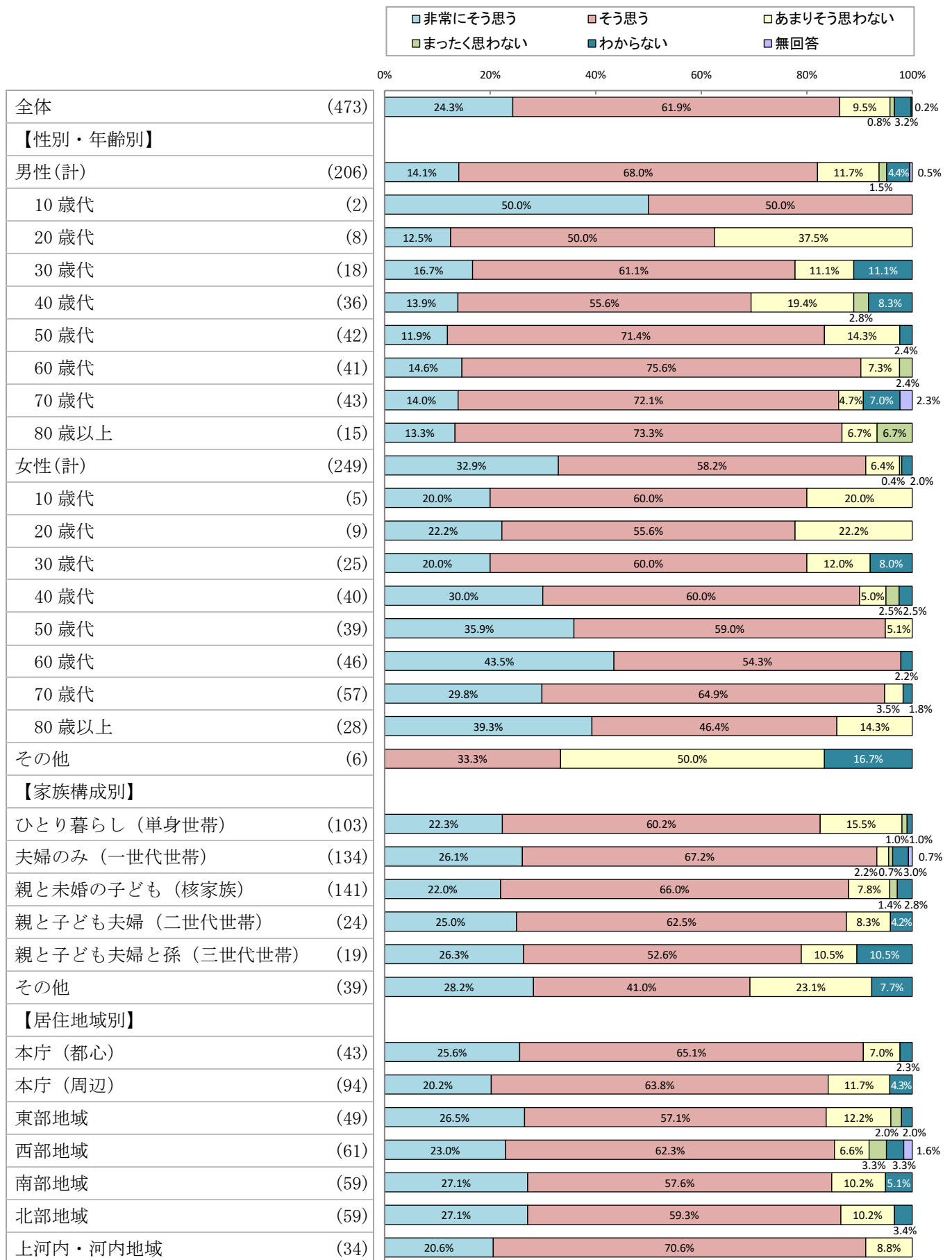
<参考>

性別・年齢別でみると，【そう思う（計）】は＜男性10歳代＞が100.0%，次いで＜女性60歳代＞が97.8%であった。一方，【思わない（計）】は＜その他＞を除くと，＜男性20歳代＞が37.5%で最も高く，次いで＜男性40歳代＞＜女性20歳代＞がいずれも22.2%であった。（図IV－5－6）

家族構成別でみると，【そう思う（計）】は＜夫婦のみ（一世代世帯）＞が93.3%で最も高く，次いで＜親と未婚の子ども（核家族）＞が88.0%であった。一方，【思わない（計）】は＜その他＞を除くと，＜ひとり暮らし（単身世帯）＞が16.5%で最も高く，次いで＜親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）＞が10.5%であった。（図IV－5－6）

居住地域別でみると，【そう思う（計）】は＜上河内・河内地域＞が91.2%で最も高く，次いで＜本庁（都心）＞が90.7%であった。一方，【思わない（計）】は＜東部地域＞が14.2%で最も高く，次いで＜本庁（周辺）＞が11.7%であった。（図IV－5－6）

<図Ⅳ－５－６>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



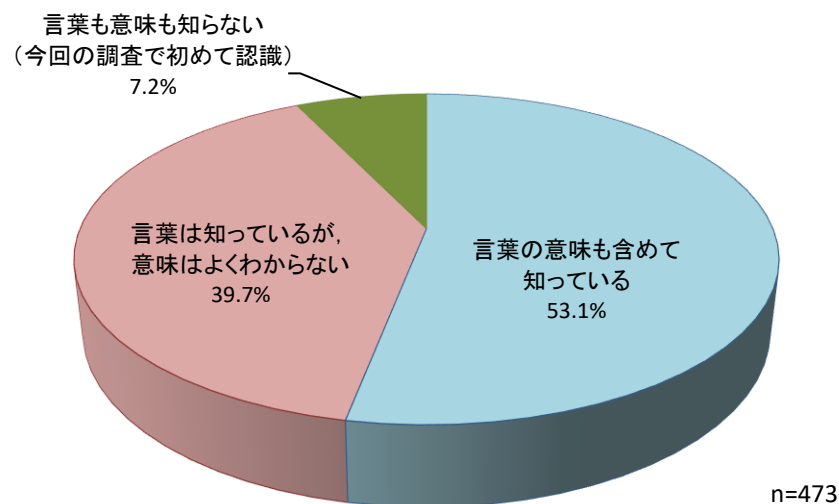
6. カーボンニュートラル（脱炭素）について

（１）カーボンニュートラルの認知度

◇「言葉の意味も含めて知っている」が５割強

問 2 0	あなたは、カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っていますか。	
	※ カーボンニュートラル（脱炭素）とは… 二酸化炭素等の温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理等による「吸収量」を差し引いて、その合計を実質的にゼロにすること。	(○は１つ)
		n=473
1	言葉の意味も含めて知っている	53.1%
2	言葉は知っているが、意味はよくわからない	39.7%
3	言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識）	7.2%
	（無回答）	0.0%

<図Ⅳ－６－１>全体



カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っているかについては、「言葉の意味も含めて知っている」が 53.1%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよくわからない」が 39.7%であった。（図Ⅳ－６－１）

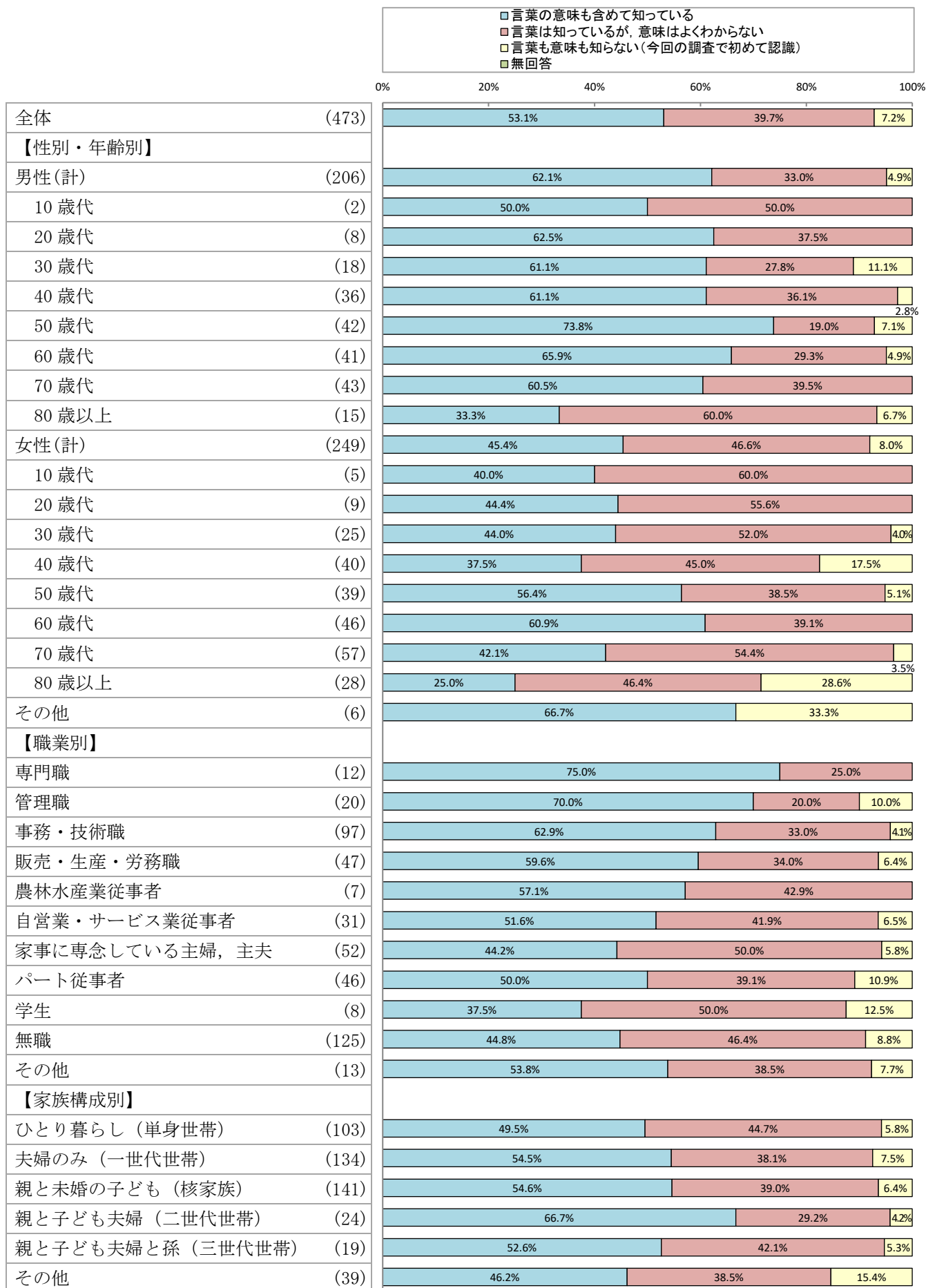
<参考>

性別・年齢別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<その他>を除くと、<男性 50 歳代>が 73.8%で最も高く、次いで<男性 60 歳代>が 65.9%，<男性 20 歳代>が 62.5%であった。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」は<男性 80 歳以上><女性 10 歳代>がいずれも 60.0%で最も高く、次いで<女性 20 歳代>が 55.6%であった。（図Ⅳ－６－２）

職業別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<専門職>が 75.0%で最も高く、次いで<管理職>が 70.0%，<事務・技術職>が 62.9%と続いた。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」は<家事に専念している主婦，主夫><学生>がいずれも 50.0%で最も高く、次いで<無職>が 46.4%であった。（図Ⅳ－６－２）

家族構成別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 66.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が 54.6%，<夫婦のみ（一世帯世帯）>が 54.5%と続いた。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が 44.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 42.1%であった。（図Ⅳ－６－２）

<図Ⅳ－6－2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

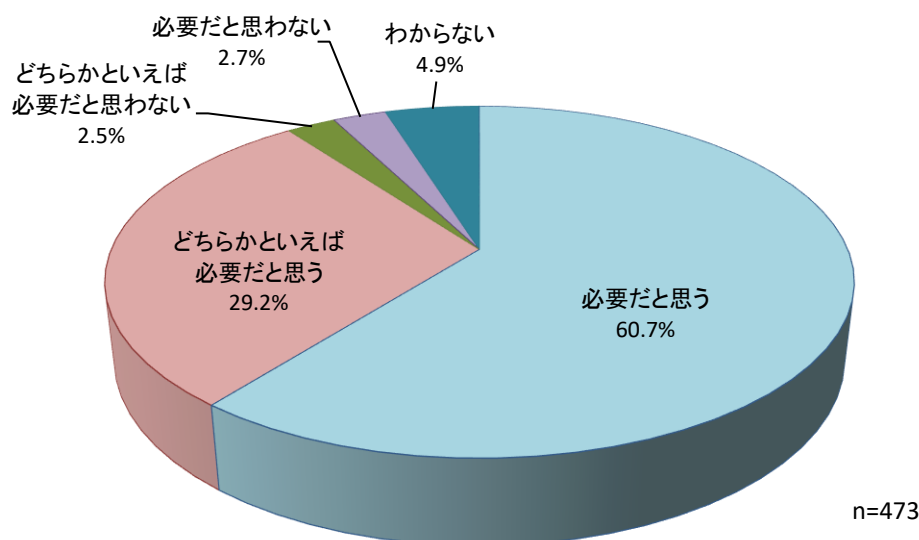


(2) カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

◇「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う（計）】が約9割

問 2 1	カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいくことは必要だと思いますか。宇都宮市は、2030年度市全体の温室効果ガス削減目標について、2030年度50%削減を掲げています。	(○は1つ)
		n=473
1	必要だと思う	60.7%
2	どちらかといえば必要だと思う	29.2%
3	どちらかといえば必要だと思わない	2.5%
4	必要だと思わない	2.7%
5	わからない	4.9%
	(無回答)	0.0%

<図IV-6-3>全体



カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」が60.7%、「どちらかといえば必要だと思う」が29.2%で、これらを合わせた【必要だと思う（計）】は89.9%であった。一方、「どちらかといえば必要だと思わない」が2.5%、「必要だと思わない」が2.7%で、これらを合わせた【必要だと思わない（計）】は5.2%であった。（図IV-6-3）

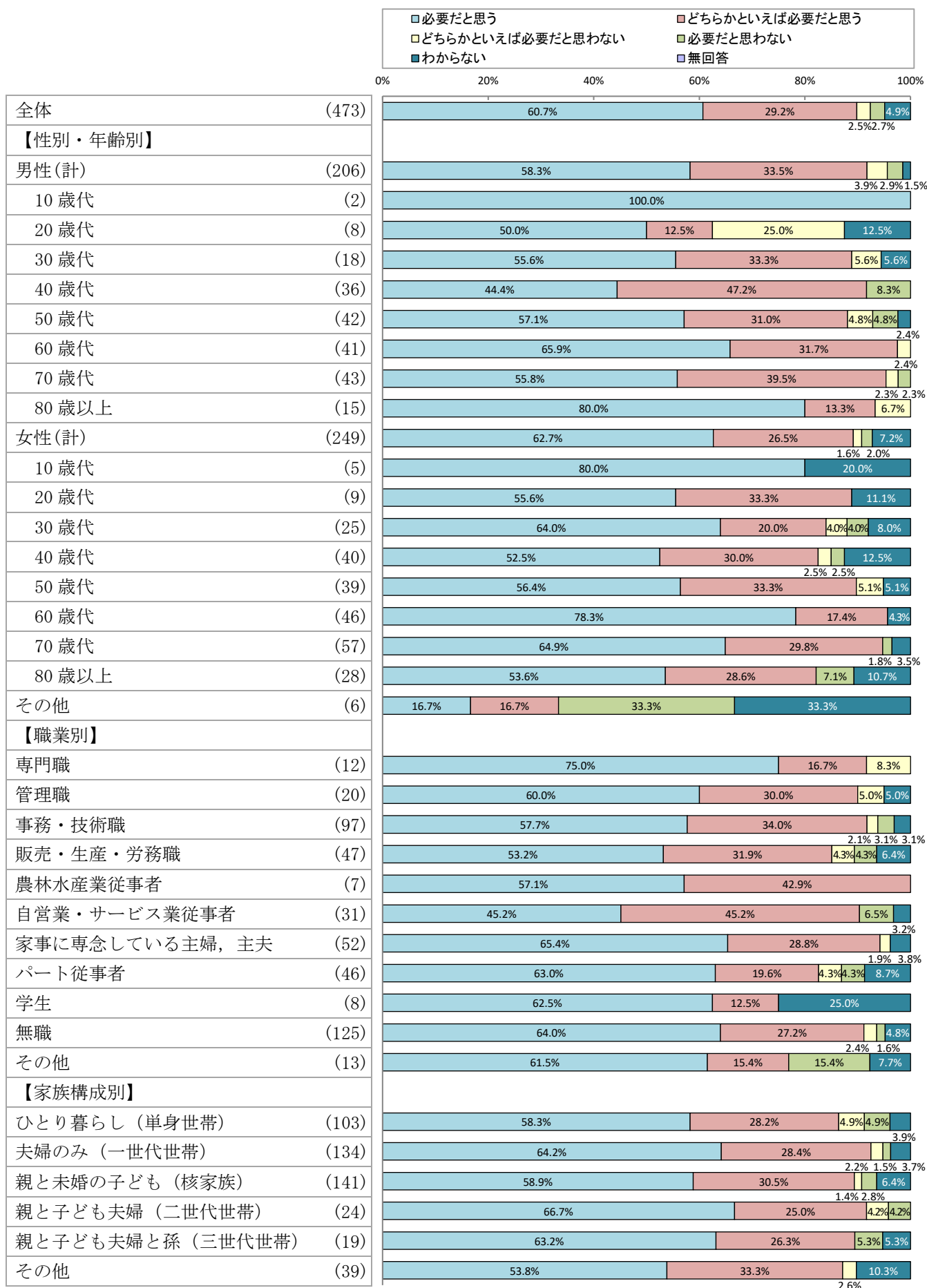
<参考>

性別・年齢別でみると、【必要だと思う（計）】は<男性20歳代>の62.5%を除き、いずれの年代でも80.0%を超えた。一方、【必要だと思わない（計）】は<その他>を除くと、<男性20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<男性50歳代>が9.6%であった。（図IV-6-4）

職業別でみると、【必要だと思う（計）】は<農林水産業従事者>が100.0%、<家事に専念している主婦、主夫>が94.2%であった。（図IV-6-4）

家族構成別でみると、<夫婦のみ一世帯世帯>が92.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が91.7%であった。一方、【必要だと思わない（計）】は<ひとり暮らし（単身世帯）>が9.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が8.4%であった。（図IV-6-4）

<図Ⅳ－６－４>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) カーボンニュートラルにつながる行動について

◇「実践している」は『LED照明の使用』が7割強

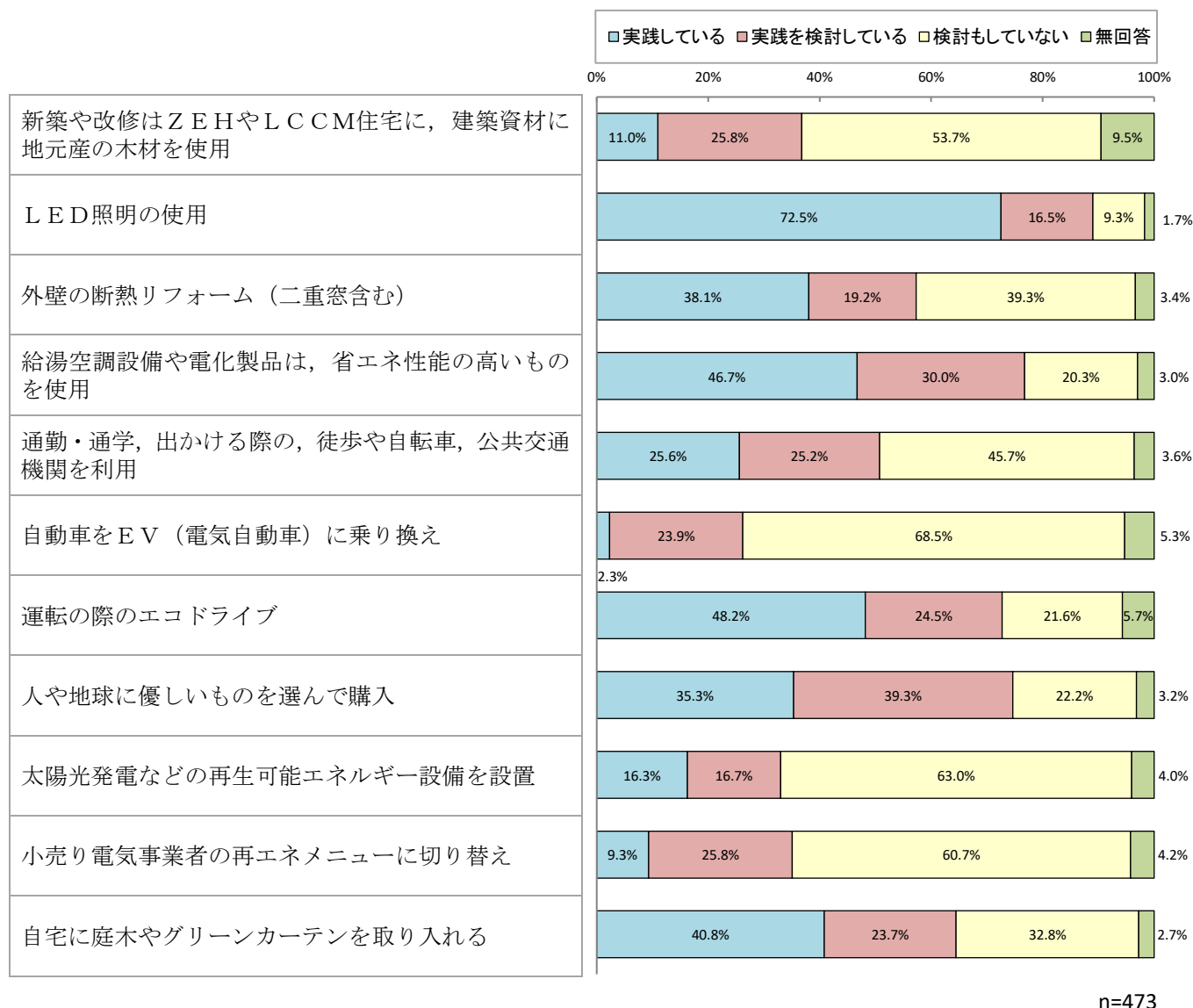
問22 以下のカーボンニュートラルにつながる各項目の行動について、「実践している」場合は1,「実践を検討している」場合は2,「検討もしていない」場合は3のいずれかに○をつけてください。

(○は1つ)

n=473

項目	実践している	実践を検討している	検討もしていない	(無回答)	合計
1 新築や改修はZEH(※1)やLCCM住宅(※2)に、建築資材に地元産の木材を使用 ※1 ZEH:外皮の断熱性能を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅 ※2 LCCM住宅:ライフ・サイクル・カーボン・マイナス住宅の略。建物を長寿命化するとともに、居住時だけでなく、住宅の建設から廃棄時に至るまでできるだけ省CO2に取り組み、ライフサイクルを通じてのCO2の収支をマイナスにする住宅	11.0%	25.8%	53.7%	9.5%	100.0%
2 LED照明の使用	72.5%	16.5%	9.3%	1.7%	100.0%
3 外壁の断熱リフォーム(二重窓含む)	38.1%	19.2%	39.3%	3.4%	100.0%
4 給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用	46.7%	30.0%	20.3%	3.0%	100.0%
5 通勤・通学、出かける際の、徒歩や自転車、公共交通機関を利用	25.6%	25.2%	45.7%	3.6%	100.0%
6 自動車をEV(電気自動車)に乗り換え	2.3%	23.9%	68.5%	5.3%	100.0%
7 運転の際のエコドライブ	48.2%	24.5%	21.6%	5.7%	100.0%
8 人や地球に優しいものを選んで購入	35.3%	39.3%	22.2%	3.2%	100.0%
9 太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置	16.3%	16.7%	63.0%	4.0%	100.0%
10 小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え	9.3%	25.8%	60.7%	4.2%	100.0%
11 自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる	40.8%	23.7%	32.8%	2.7%	100.0%

<図Ⅳ－６－５>全体



カーボンニュートラルにつながる行動については、「実践している」は『ＬＥＤ照明の使用』が 72.5%で最も高く、次いで『運転の際のエコドライブ』が 48.2%，『給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用』が 46.7%と続いた。「検討もしていない」は『自動車をＥＶ（電気自動車）に乗り換え』が 68.5%で最も高く、次いで『太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置』が 63.0%，『小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え』が 60.7%と続いた。（図Ⅳ－６－５）

<参考>

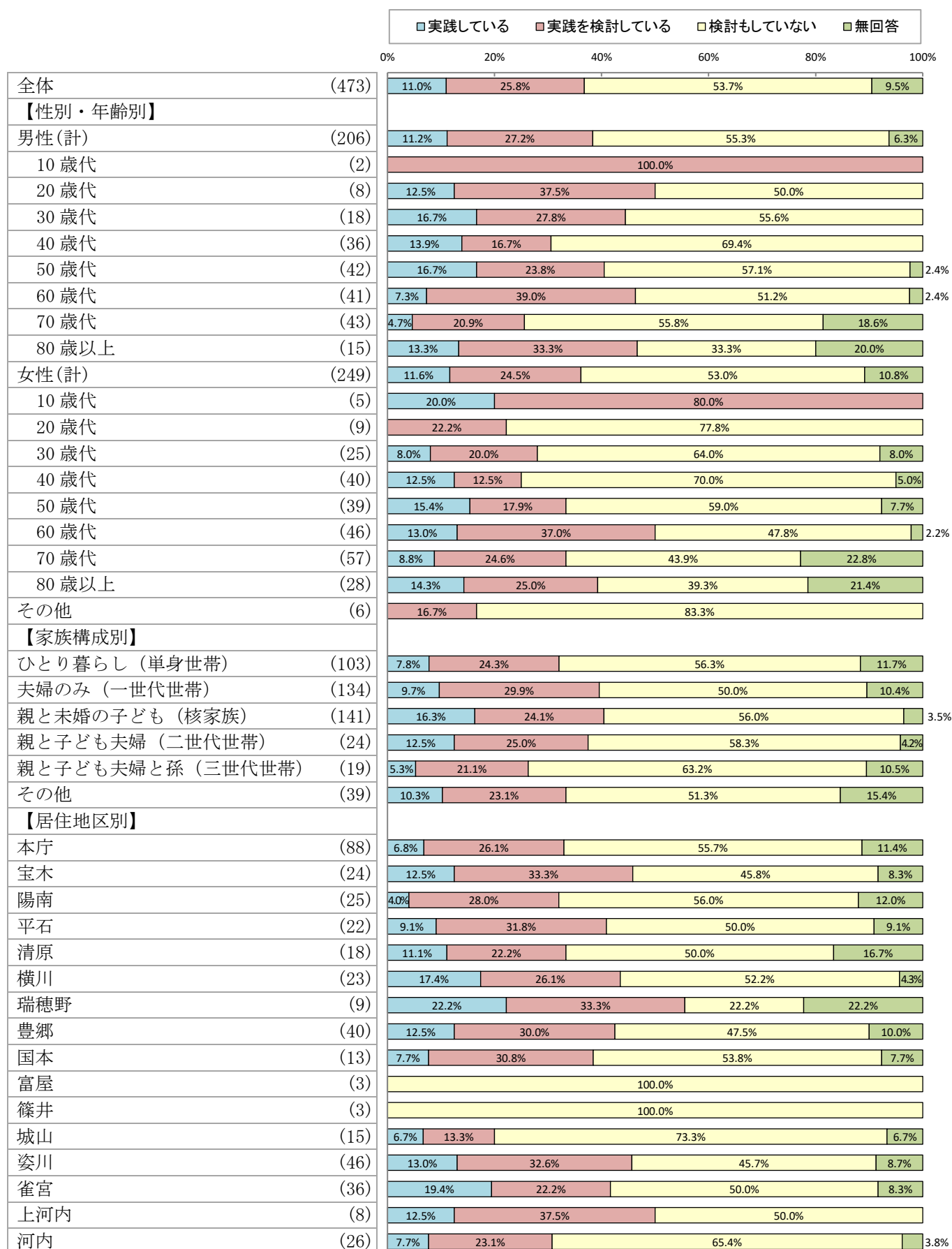
カーボンニュートラルにつながる行動について、「実践している」が最も高かった『ＬＥＤ照明の使用』を性別・年齢別でみると、いずれの年代でも 50.0%を超えた。（図Ⅳ－６－７）

家族構成別でみると、＜親と未婚の子ども（核家族）＞が 81.6%で最も高く、次いで＜夫婦のみ（一世代世帯）＞が 75.4%であった。（図Ⅳ－６－７）

居住地区別でみると、いずれの地区でも 60.0%を超えた。（図Ⅳ－６－７）

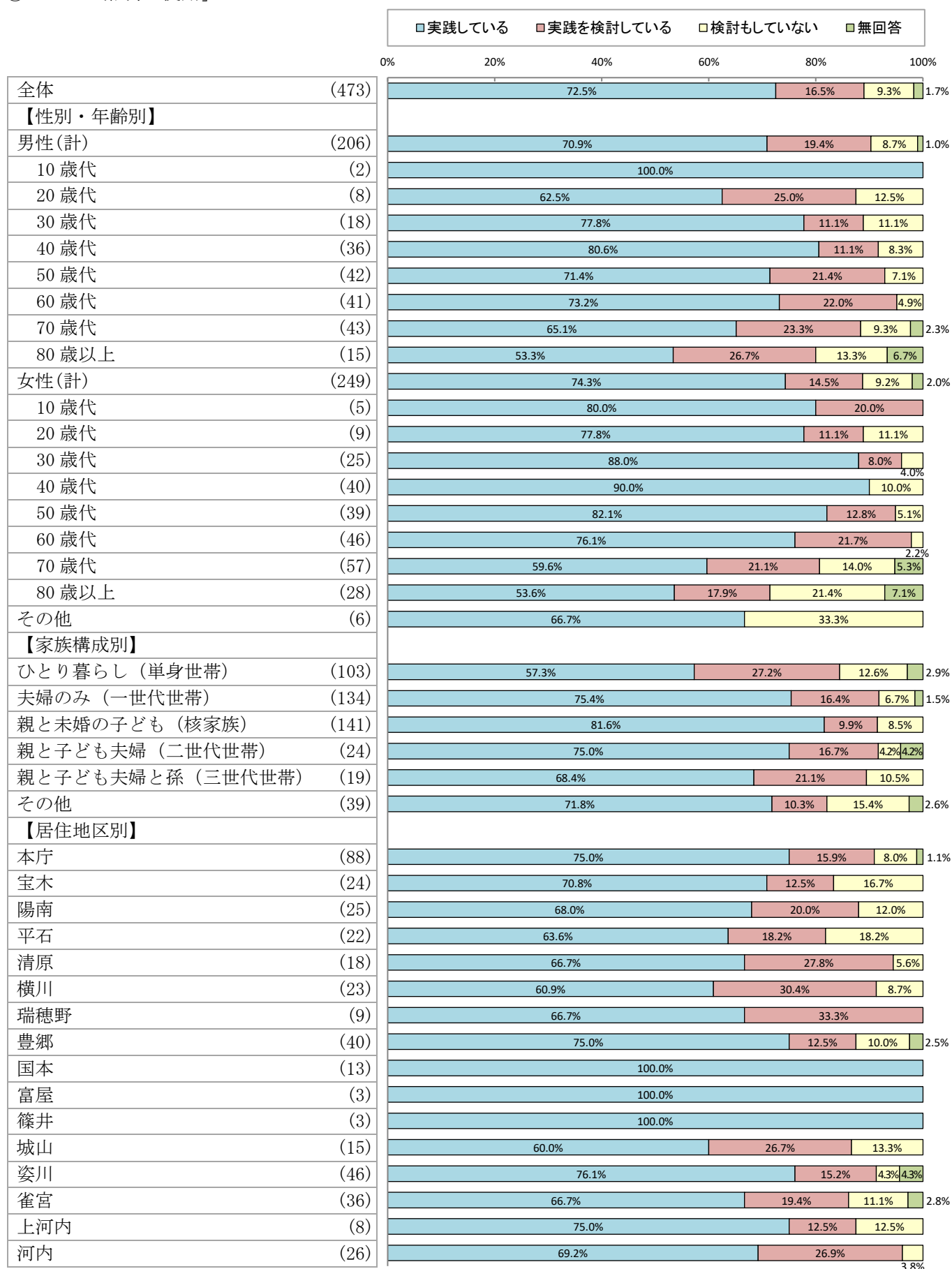
<図Ⅳ－６－６>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

①「新築や改修はZ E HやL C C M住宅に、建築資材に地元産の木材を使用」



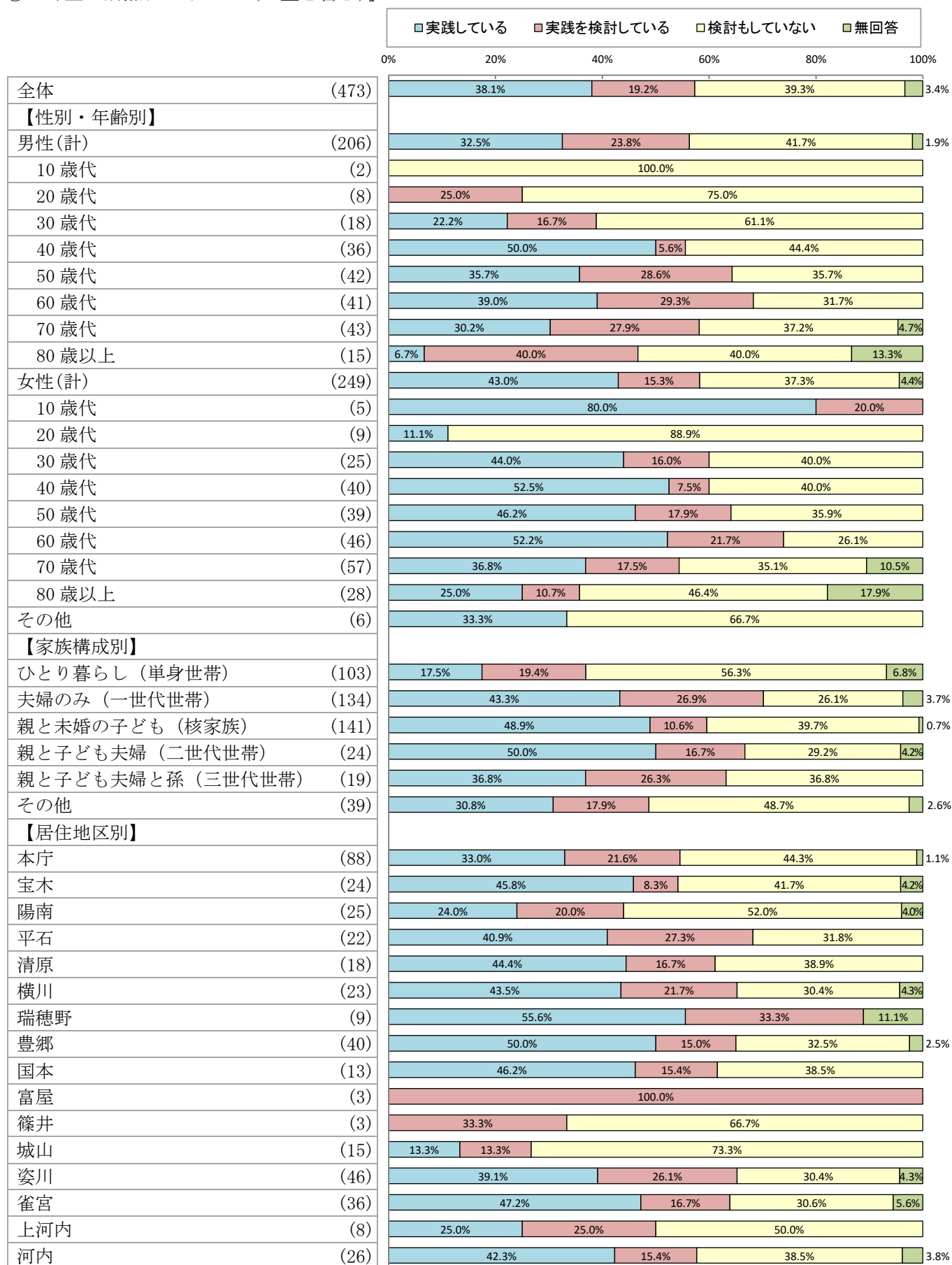
<図Ⅳ－６－７>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

②「LED照明の使用」



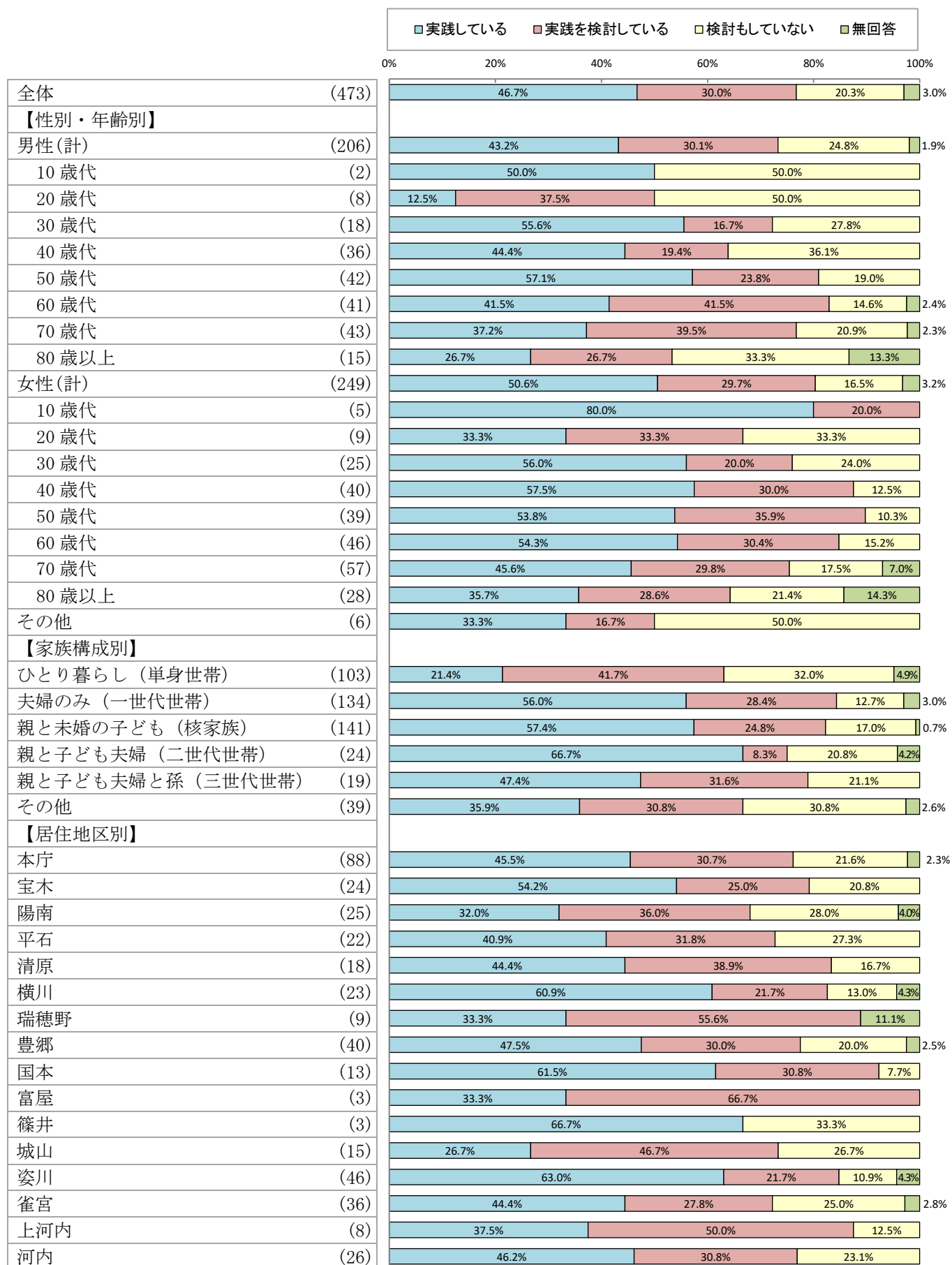
<図Ⅳ－６－８>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

③「外壁の断熱リフォーム（二重窓含む）」



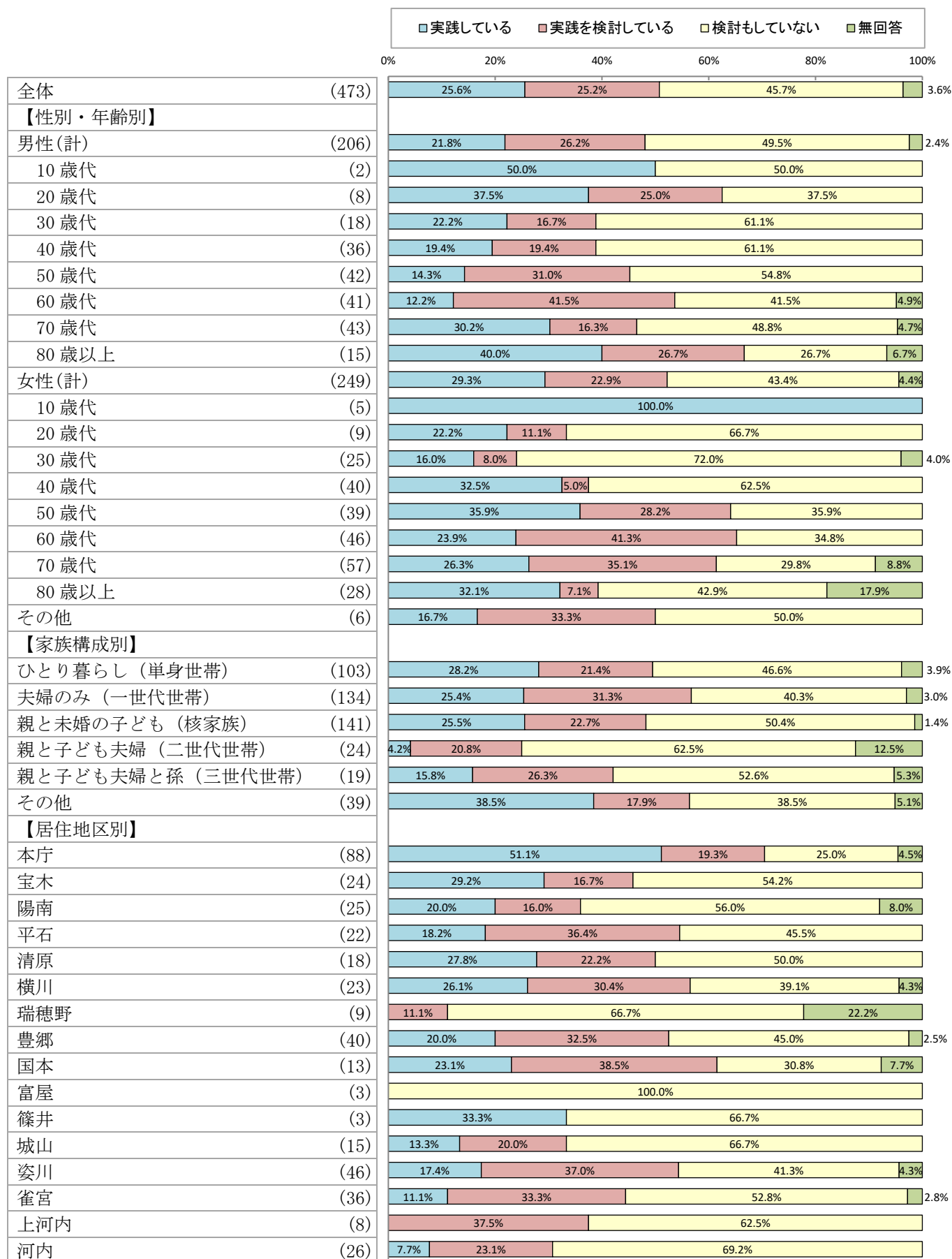
<図Ⅳ－６－９>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

④「給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用」



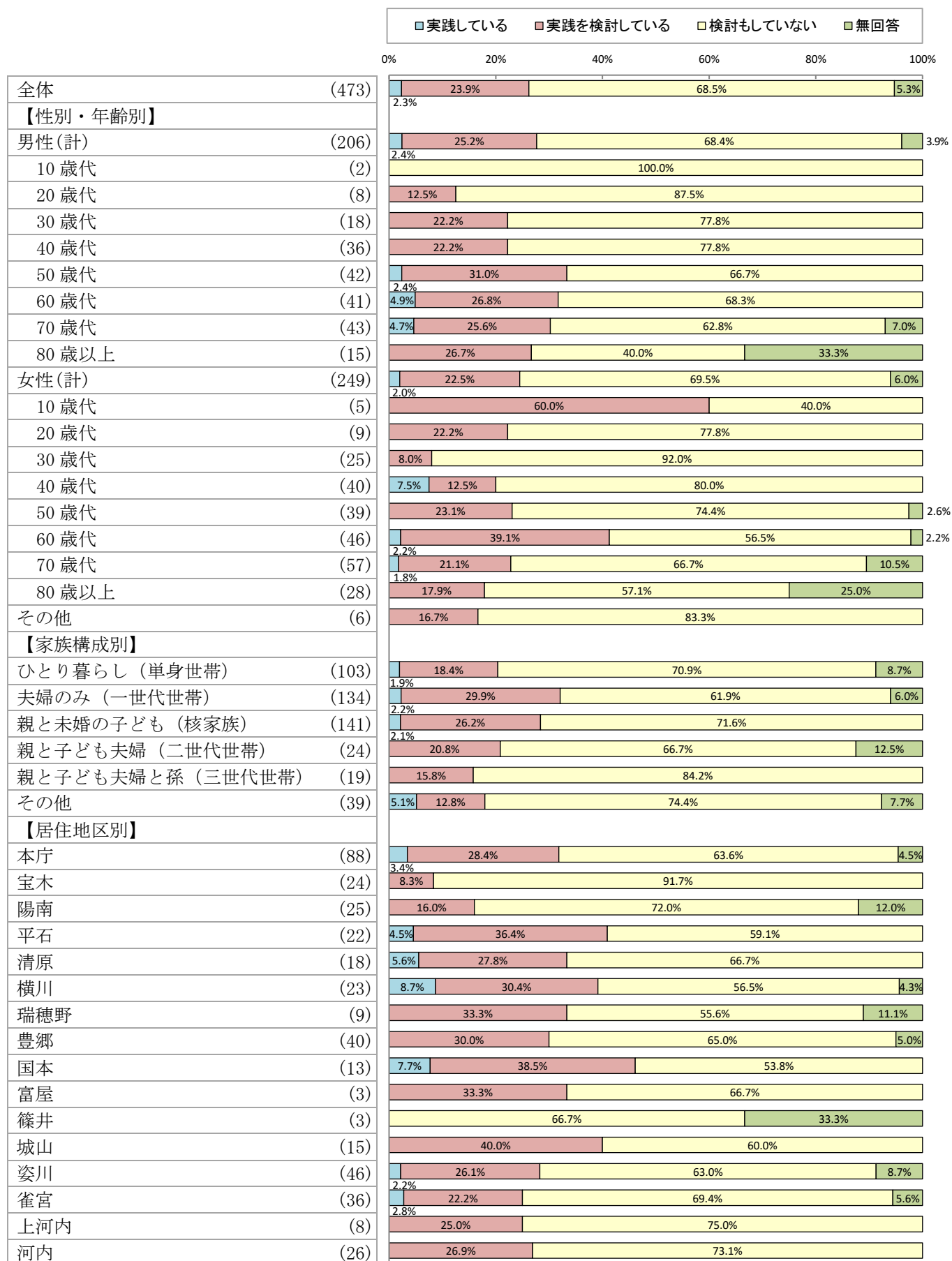
<図Ⅳ－６－１０>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑤「通勤・通学，出かける際の，徒歩や自転車，公共交通機関を利用」



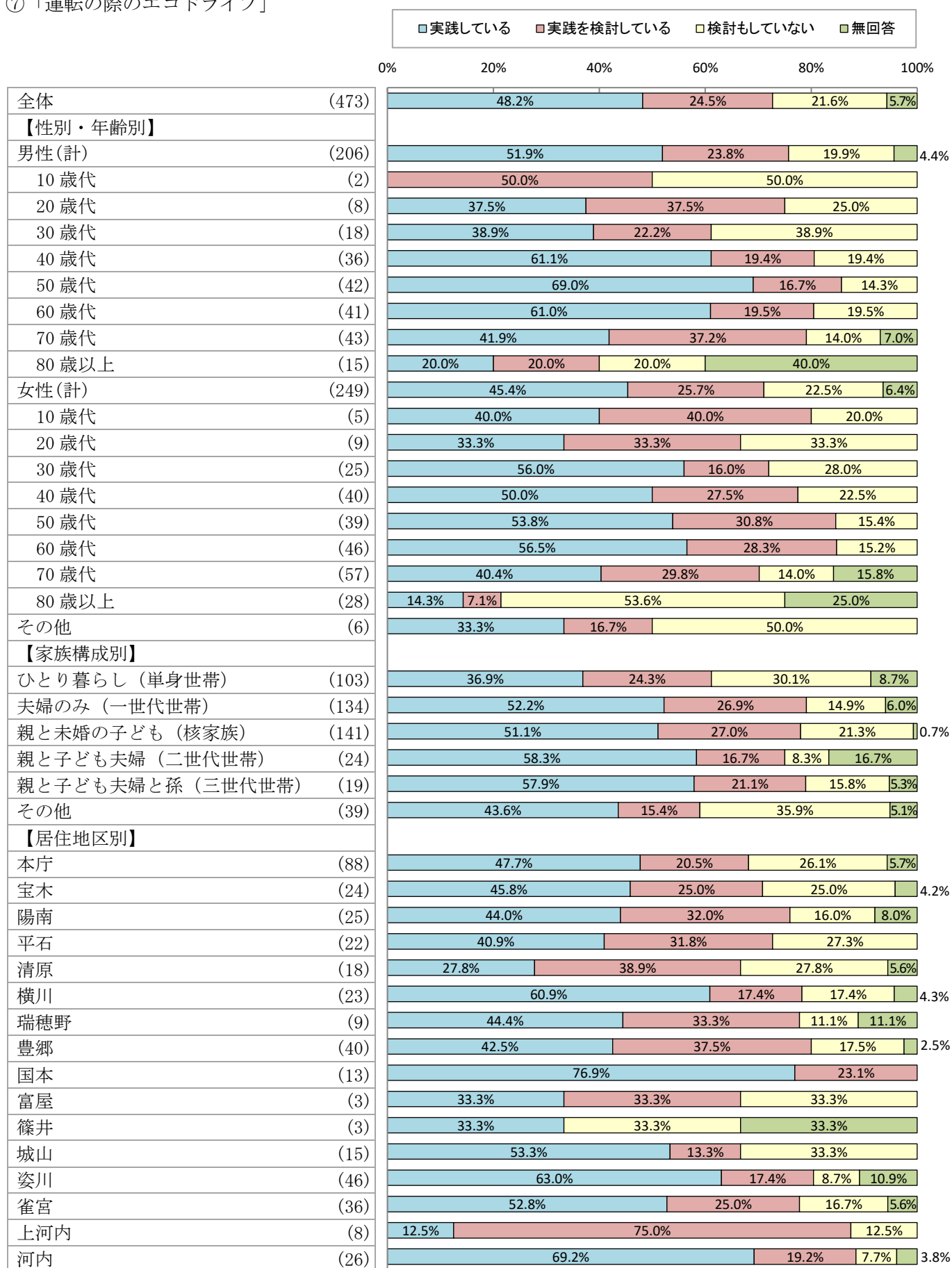
<図Ⅳ－６－１１>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑥「自動車をＥＶ（電気自動車）に乗り換え」



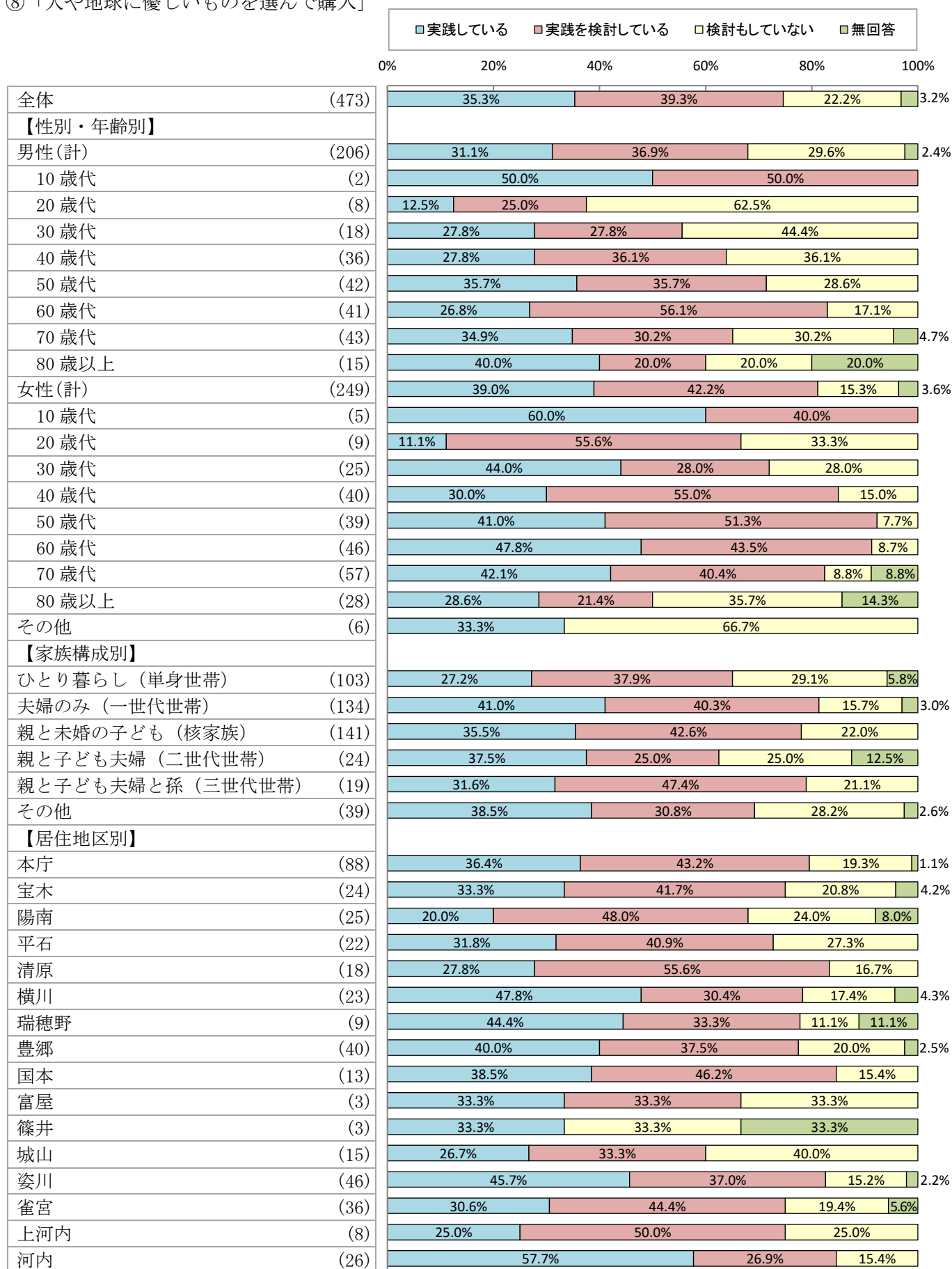
<図Ⅳ－６－１２>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑦「運転の際のエコドライブ」



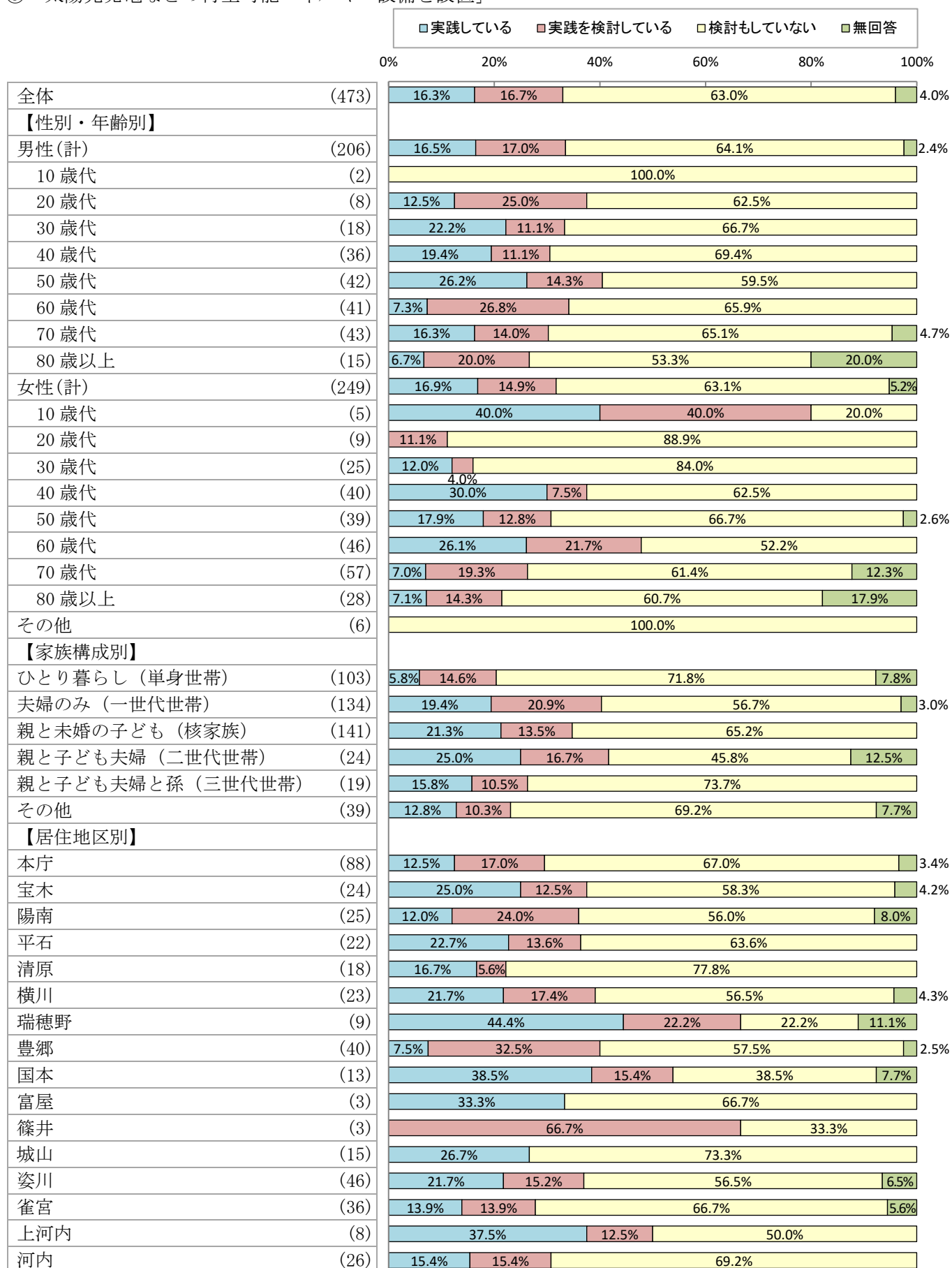
<図Ⅳ－６－１３>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑧「人や地球に優しいものを選んで購入」



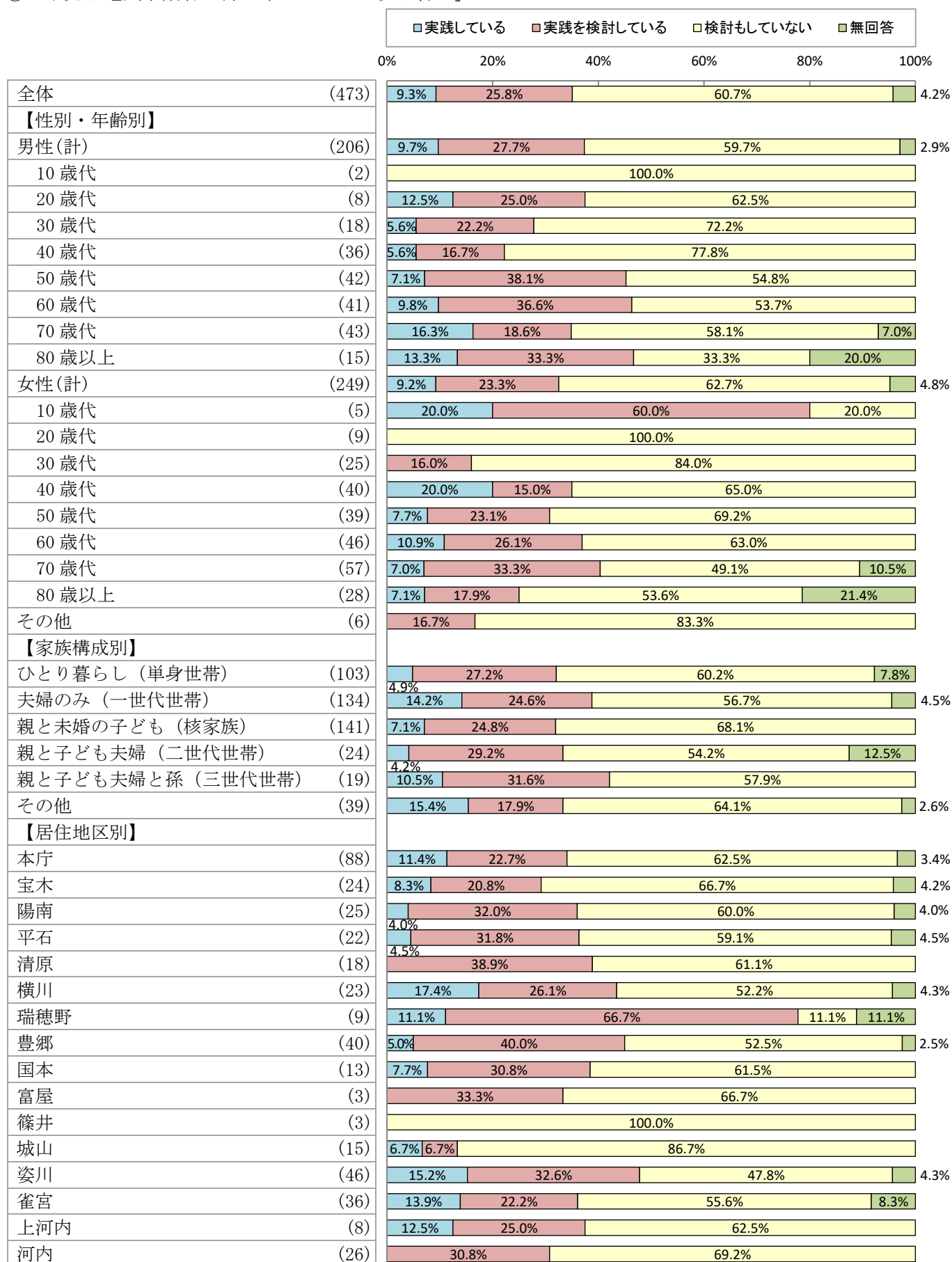
<図Ⅳ－６－１４>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑨「太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置」



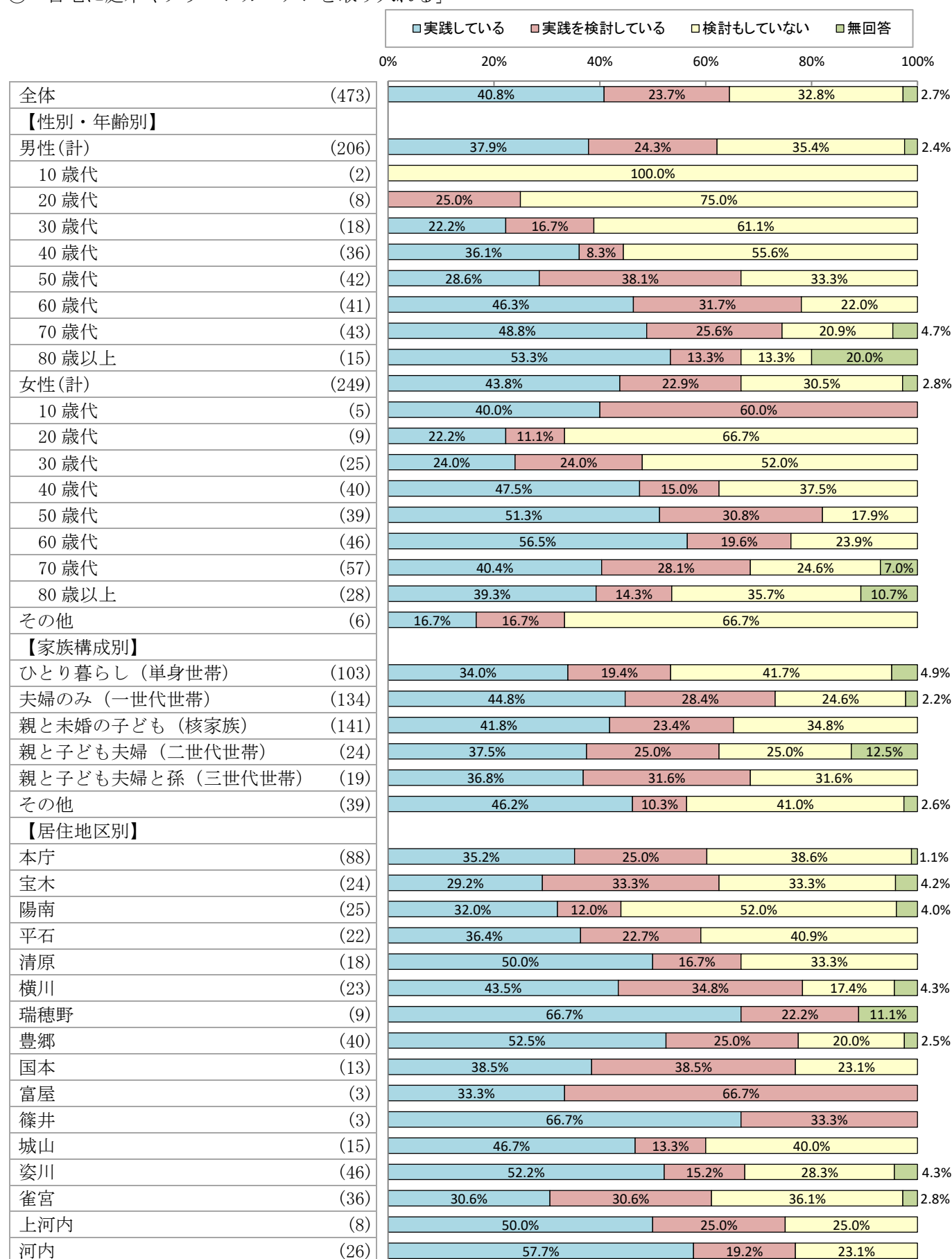
<図Ⅳ－６－１５>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑩「小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え」



<図Ⅳ－６－１６>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑪「自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる」



(4) ライトラインが再生可能エネルギー１００％で走行していることの認知度

◇「知らない（今回の調査で初めて認識）」が６割半ば

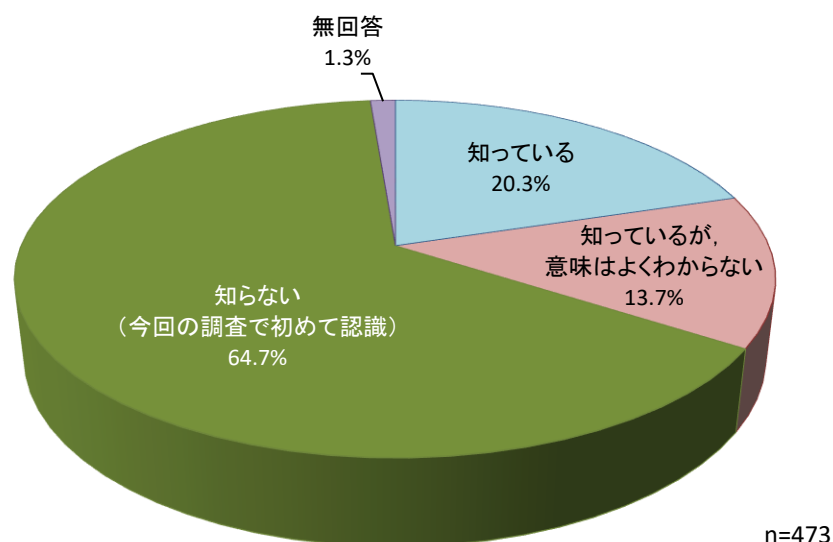
問２３ ライトラインは、宇都宮ライトパワー株式会社（※）の供給によるごみの焼却や家庭用太陽光発電により生み出される地域由来の再生可能エネルギー１００％で走行していること（ゼロカーボントランスポート）を知っていますか。

※「宇都宮ライトパワー株式会社」は再生可能エネルギーの地産地消を推進する、官民共同出資による地域新電力会社
(○は１つ)

n=473

1	知っている	20.3%
2	知っているが、意味はよくわからない	13.7%
3	知らない（今回の調査で初めて認識）	64.7%
	（無回答）	1.3%

<図Ⅳ－６－１７>全体



ライトラインは、宇都宮ライトパワー株式会社のゼロカーボントランスポートで走行していることを知っているかについては、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が 64.7%で最も高く、次いで「知っている」が 20.3%であった。（図Ⅳ－６－１７）

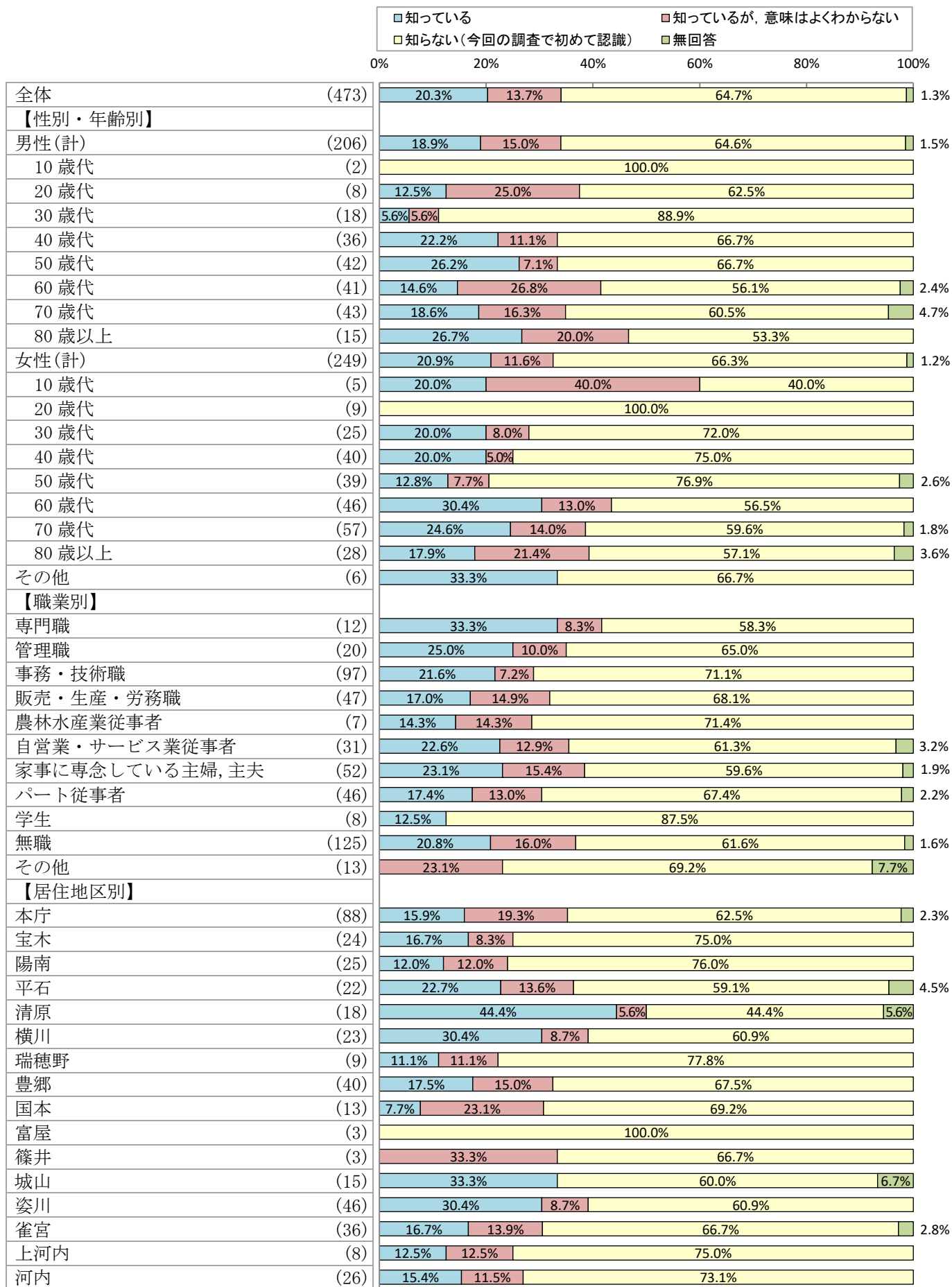
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<女性 60 歳代>が 30.4%で最も高く、次いで<男性 80 歳以上>が 26.7%であった。（図Ⅳ－６－１８）

職業別でみると、「知っている」は<専門職>が 33.3%で最も高く、次いで<管理職>が 25.0%、<家事に専念している主婦、主夫>が 23.1%と続いた。（図Ⅳ－６－１８）

居住地区別でみると、「知っている」は<清原>が 44.4%で最も高く、次いで<城山>が 33.3%、<横川> <姿川>がいずれも 30.4%と続いた。（図Ⅳ－６－１８）

<図Ⅳ－６－１８>性別・年齢別／職業別／居住地区別



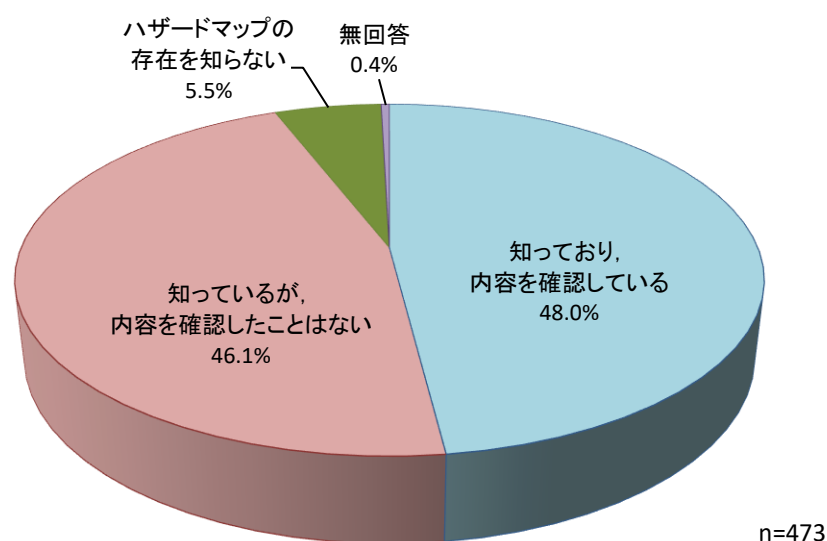
7. 水災害（洪水など）への備えについて

（1）ハザードマップの存在の認知度

◇ 「知っており、内容を確認している」が5割弱

問 2 4	あなたは、「ハザードマップ」の存在を知っていますか。	(○は1つ)
		n=473
1	知っており、内容を確認している	48.0%
2	知っているが、内容を確認したことはない	46.1%
3	ハザードマップの存在を知らない	5.5%
	(無回答)	0.4%

<図Ⅳ－7－1>全体



「ハザードマップ」の存在を知っているかについては、「知っており、内容を確認している」が48.0%で最も高く、次いで「知っているが、内容を確認したことはない」が46.1%であった。(図Ⅳ－7－1)

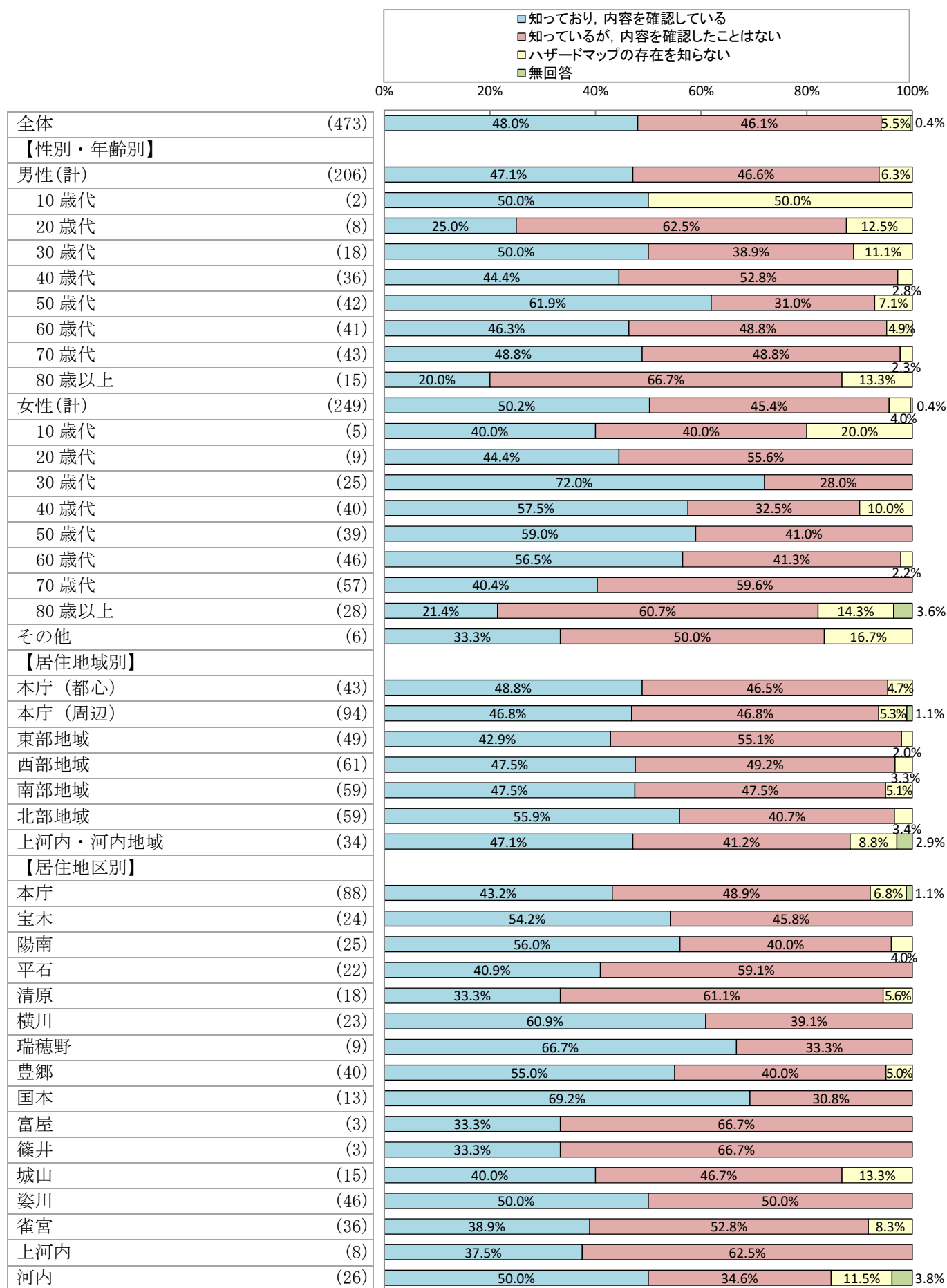
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っており、内容を確認している」は<女性30歳代>が72.0%で最も高く、次いで<男性50歳代>が61.9%であった。(図Ⅳ－7－2)

居住地域別でみると、「知っており、内容を確認している」は<北部地域>が55.9%で最も高く、次いで<本庁(都心)>が48.8%であった。(図Ⅳ－7－2)

居住地区別でみると、「知っており、内容を確認している」は<国本>が69.2%で最も高く、次いで<瑞穂野>が66.7%、<横川>が60.9%と続いた。(図Ⅳ－7－2)

<図Ⅳ－７－２>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別

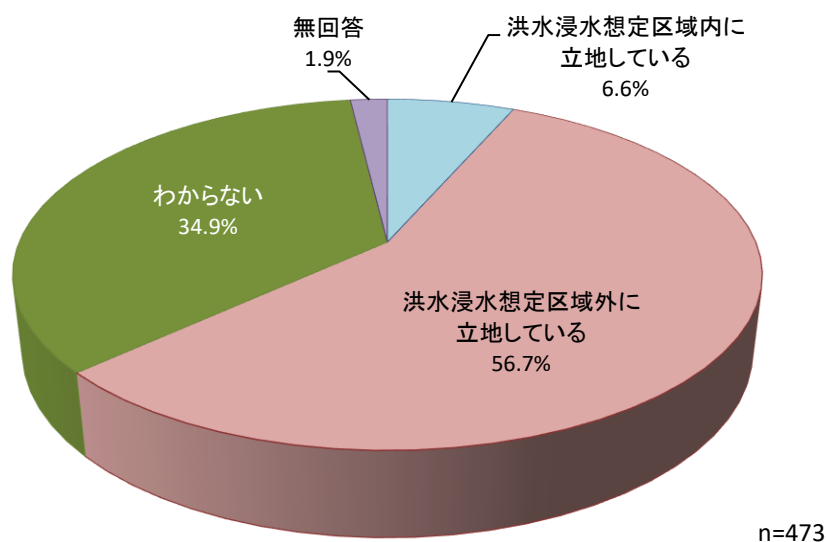


(2) 住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

◇ 「洪水浸水想定区域外に立地している」が6割弱

問 2 5	あなたの住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地していますか。	(○は1つ)
		n=473
1	洪水浸水想定区域内に立地している	6.6%
2	洪水浸水想定区域外に立地している	56.7%
3	わからない	34.9%
	(無回答)	1.9%

<図IV－7－3>全体



住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地しているかについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が 56.7%で最も高く、次いで「わからない」が 34.9%、「洪水浸水想定区域内に立地している」が 6.6%であった。（図IV－7－3）

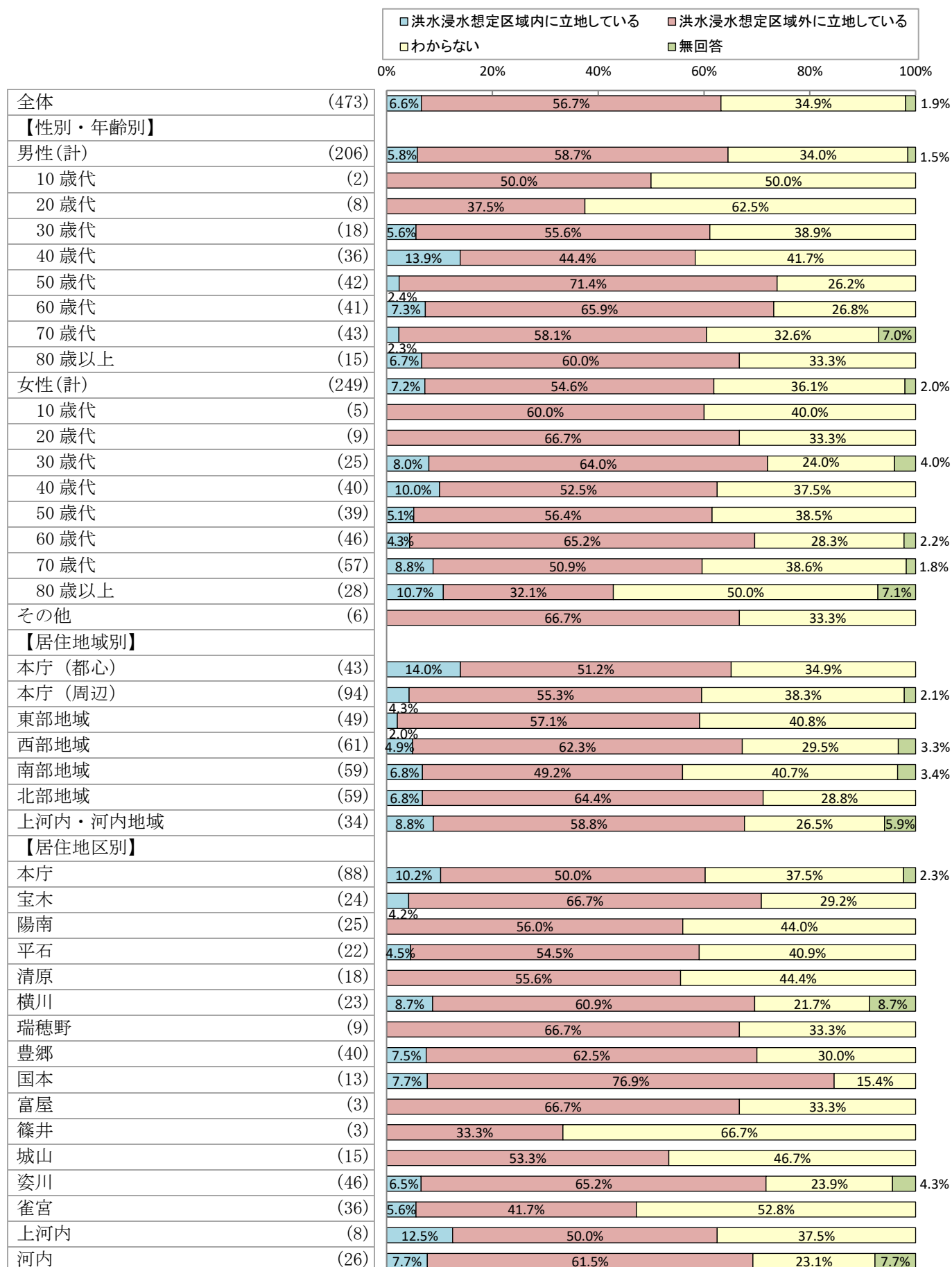
<参考>

「洪水浸水想定区域内に立地している」を性別・年齢別でみると、いずれの年代でも 15.0%に届かず、＜その他＞を除くと、＜男性 40 歳代＞が 13.9%で最も高く、次いで＜女性 80 歳代＞が 10.7%であった。（図IV－7－4）

居住地域別でみると、＜本庁（都心）＞が 14.0%で最も高く、次いで＜上河内・河内地域＞が 8.8%であった。（図IV－7－4）

居住地区別でみると、＜上河内＞が 12.5%で最も高く、次いで＜本庁＞が 10.2%、＜横川＞が 8.7%と続いた。（図IV－7－4）

<図IV－7－4>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別

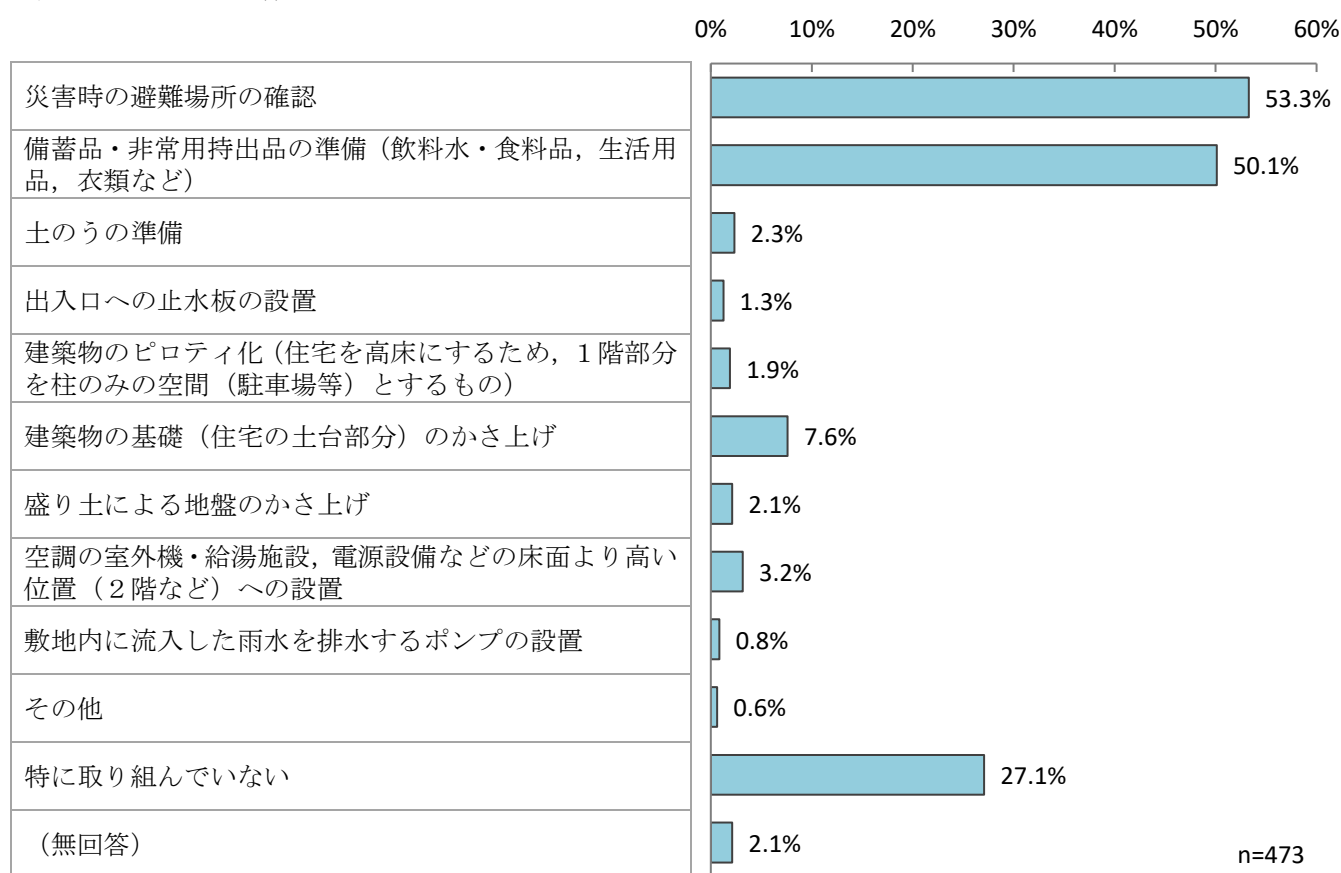


(3) 水災害への備えに取り組んでいるか

◇「災害時の避難場所の確認」が5割強

問 2 6	あなたは、水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えるため、以下の水災害への備えに取り組んでいますか。該当するものを全て選んでください。（○はいくつでも）	n=473
1	災害時の避難場所の確認	53.3%
2	備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）	50.1%
3	土のうの準備	2.3%
4	出入口への止水板の設置	1.3%
5	建築物のピロティ化（住宅を高床にするため、1階部分を柱のみの空間（駐車場等）とするもの）	1.9%
6	建築物の基礎（住宅の土台部分）のかさ上げ	7.6%
7	盛り土による地盤のかさ上げ	2.1%
8	空調の室外機・給湯施設、電源設備などの床面より高い位置（2階など）への設置	3.2%
9	敷地内に流入した雨水を排水するポンプの設置	0.8%
10	その他	0.6%
11	特に取り組んでいない	27.1%
	（無回答）	2.1%

<図IV－7－5>全体



水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えるため、水災害への備えに取り組んでいるものについては、「災害時の避難場所の確認」が 53.3%で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品物の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」が 50.1%、「特に取り組んでいない」が 27.1%と続いた。（図Ⅳ－7－5）

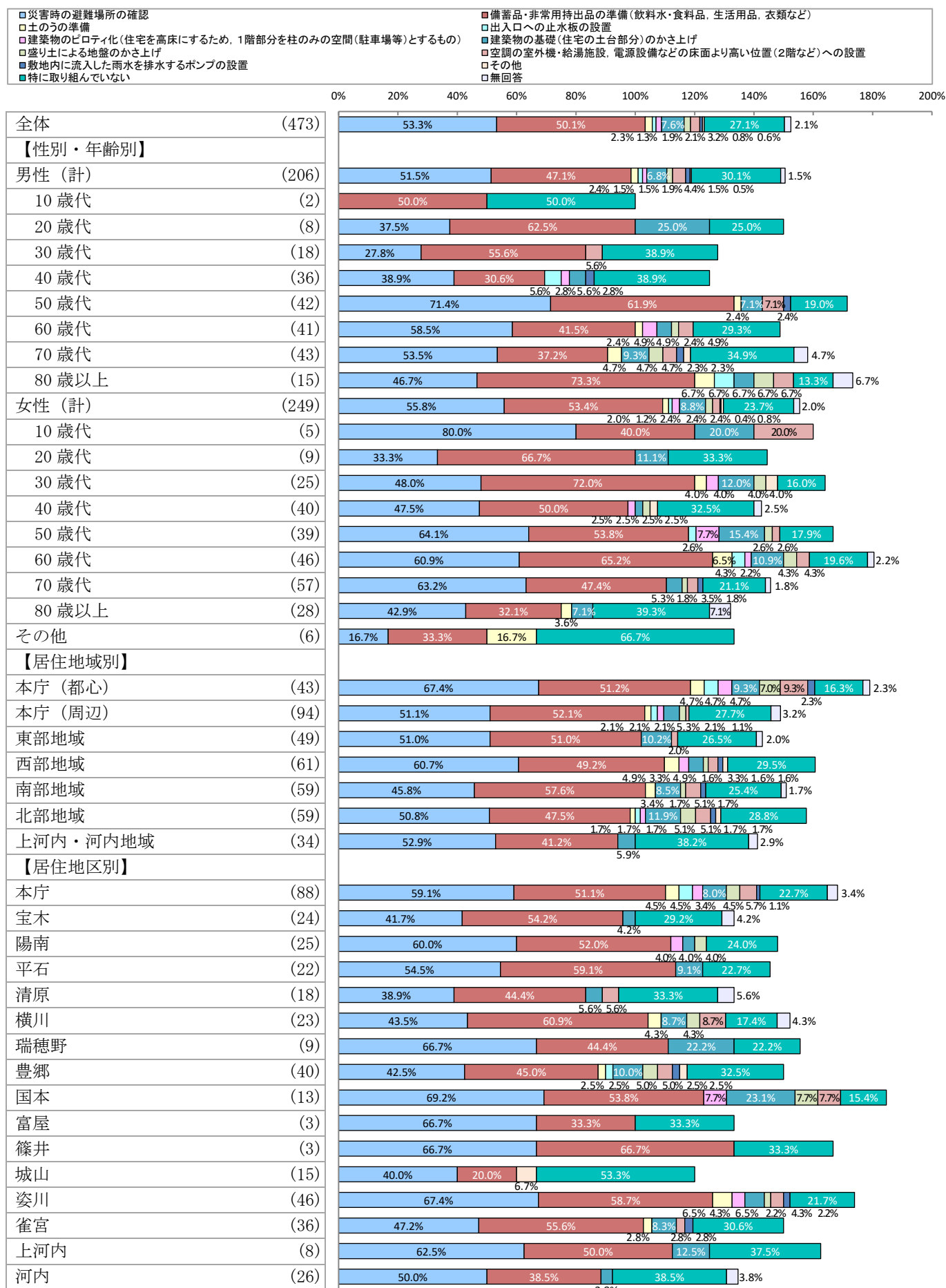
<参考>

性別・年齢別でみると、「災害時の避難場所の確認」は＜女性 10 歳代＞が 80.0%で最も高く、次いで＜男性 50 歳代＞が 71.4%、＜女性 50 歳代＞が 64.1%と続いた。「備蓄品・非常用持出品物の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」は＜男性 80 歳以上＞が 73.3%で最も高く、次いで＜女性 30 歳代＞が 72.0%、＜女性 20 歳代＞が 66.7%と続いた。一方、「特に取り組んでいない」は＜その他＞を除くと、＜男性 10 歳代＞が 50.0%で最も高く、次いで＜女性 80 歳以上＞が 39.3%、＜男性 30・40 歳代＞が 38.9%と続いた。（図Ⅳ－7－6）

居住地域別でみると、「災害時の避難場所の確認」は＜本庁（都心）＞が 67.4%で最も高く、次いで＜西部地域＞が 60.7%、＜上河内・河内地域＞が 52.9%と続いた。「備蓄品・非常用持出品物の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」は＜南部地域＞が 57.6%で最も高く、次いで＜本庁（周辺）＞が 52.1%、＜本庁（都心）＞が 51.2%、と続いた。一方、「特に取り組んでいない」は＜上河内・河内地域＞が 38.2%で最も高く、次いで＜西部地域＞が 29.5%、＜北部地域＞が 28.8%と続いた。（図Ⅳ－7－6）

居住地区別でみると、「災害時の避難場所の確認」は＜国本＞が 69.2%で最も高く、次いで＜姿川＞が 67.4%、＜瑞穂野＞＜富屋＞＜篠井＞が 66.7%と続いた。「備蓄品・非常用持出品物の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」は＜篠井＞が 66.7%で最も高く、次いで＜横川＞が 60.9%、＜平石＞が 59.1%と続いた。一方、「特に取り組んでいない」は＜城山＞が 53.3%で最も高く、次いで＜河内＞が 38.5%、＜上河内＞が 37.5%と続いた。（図Ⅳ－7－6）

<図Ⅳ－７－６>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別



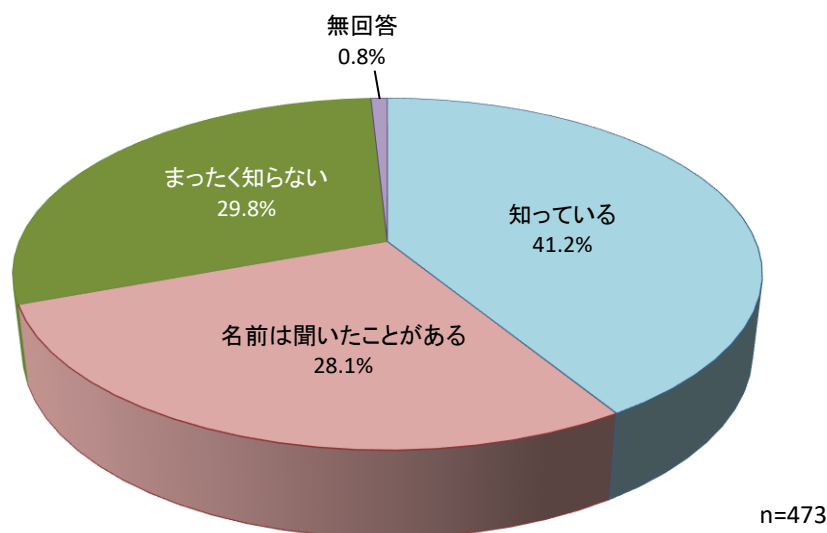
8. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

◇ 「知っている」が約4割

問27	ご家庭で使用する「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」について知っていますか。	(○は1つ)
		n=473
1	知っている	41.2%
2	名前は聞いたことがある	28.1%
3	まったく知らない	29.8%
	(無回答)	0.8%

<図Ⅳ－8－1>全体



ご家庭で使用する「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」について知っているかについては、「知っている」が41.2%で最も高く、次いで「まったく知らない」が29.8%「名前は聞いたことがある」が28.1%であった。（図Ⅳ－8－1）

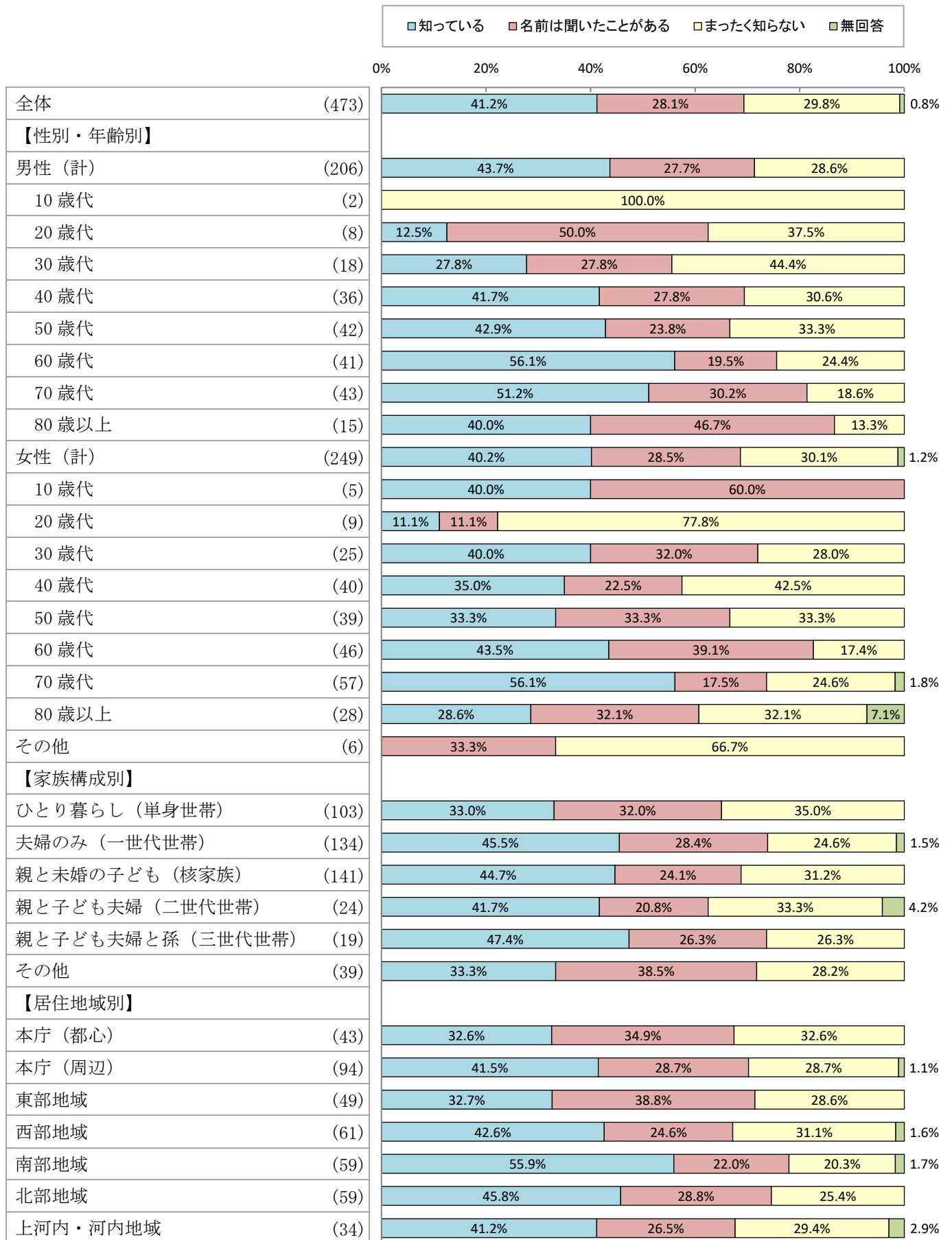
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は＜男性60歳代＞＜女性70歳代＞がいずれも56.1%で最も高く、次いで＜男性70歳代＞が51.2%、＜女性60歳代＞が43.5%と続いた。「名前は聞いたことがある」は＜女性10歳代＞が60.0%で最も高く、次いで＜男性20歳代＞が50.0%、＜男性80歳以上＞が46.7%と続いた。（図Ⅳ－8－2）

家族構成別でみると、「知っている」は＜親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）＞が47.4%で最も高く、次いで＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞が45.5%、＜親と未婚の子ども（核家族）＞が44.7%と続いた。「名前は聞いたことがある」は＜その他＞を除くと、＜ひとり暮らし（単身世帯）＞が32.0%で最も高く、次いで＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞が28.4%であった。（図Ⅳ－8－2）

居住地域別でみると、「知っている」は＜南部地域＞が55.9%で最も高く、次いで＜北部地域＞が45.8%、＜西部地域＞が42.6%と続いた。「名前は聞いたことがある」は＜東部地域＞が38.8%で最も高く、次いで＜本庁（都心）＞が34.9%、＜北部地域＞が28.8%と続いた。（図Ⅳ－8－2）

<図Ⅳ－８－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

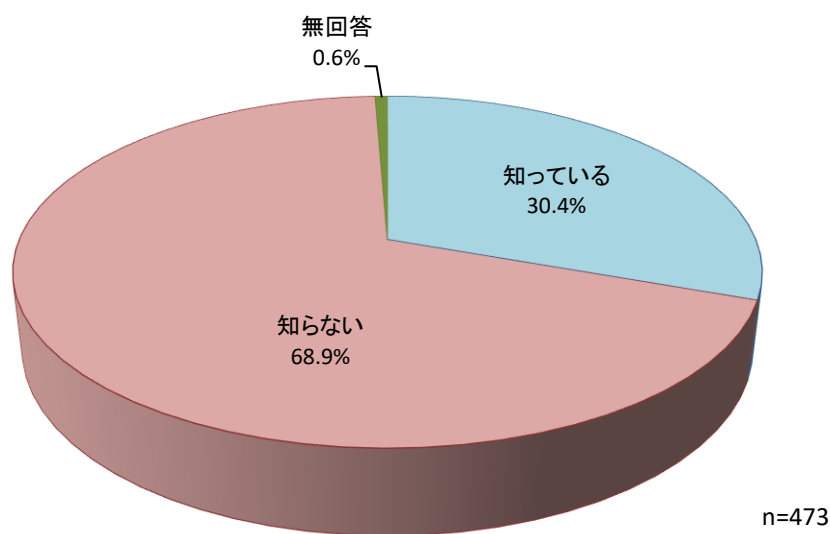


(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

◇ 「知らない」が約7割

問 2 8	貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度があることを知っていますか。(○は1つ)	n=473
1	知っている	30.4%
2	知らない	68.9%
	(無回答)	0.6%

<図Ⅳ－8－3>全体



貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度があることを知っているかについては、「知らない」が68.9%であった。一方、「知っている」が30.4%であった。(図Ⅳ－8－3)

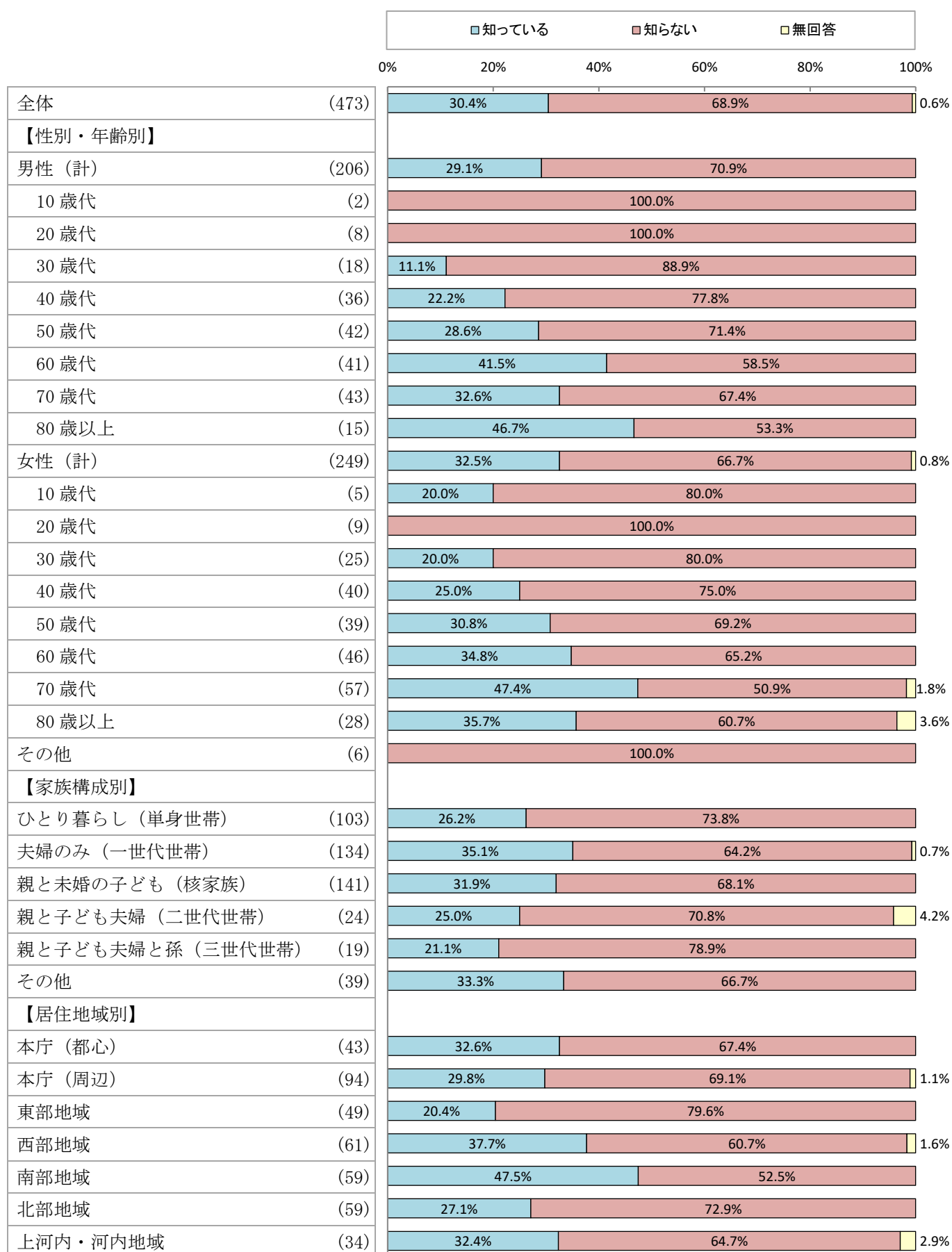
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性70歳代>が47.4%で最も高く、次いで<男性80歳以上>が46.7%、<男性60歳代>が41.5%と続いた。「知らない」は<その他>を除くと、<男性10・20歳代> <女性20歳代>がいずれも100.0%、<男性30歳代>が88.9%であった。(図Ⅳ－8－4)

家族構成別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が35.1%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が31.9%、<ひとり暮らし(単身世帯)>が26.2%と続いた。「知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が78.9%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が73.8%であった。(図Ⅳ－8－4)

居住地域別でみると、「知っている」は<南部地域>が47.5%で最も高く、次いで<西部地域>が37.7%、<本庁(都心)>が32.6%と続いた。「知らない」は<東部地域>が79.6%で最も高く、次いで<北部地域>が72.9%であった。(図Ⅳ－8－4)

<図Ⅳ－８－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

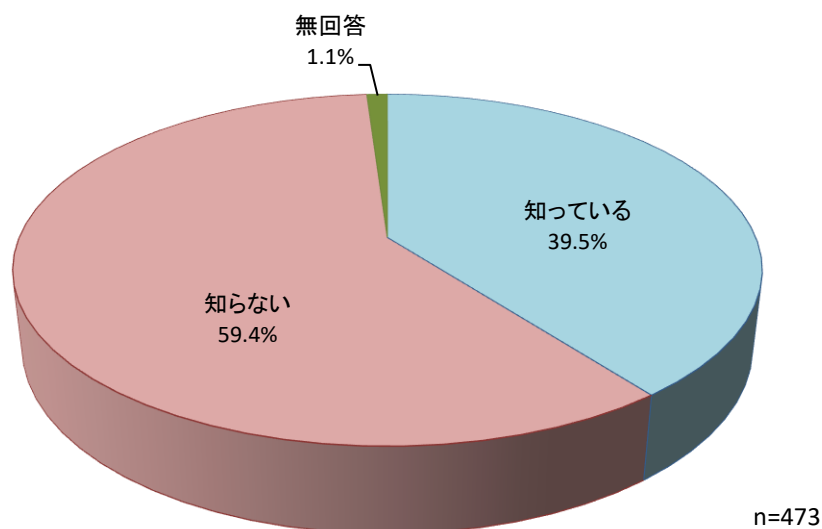


(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

◇ 「知らない」が約6割

問 2 9	貯留タンクや浸透ますなどを設置することが浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながることを知っていますか。	(○は1つ)
		n=473
1	知っている	39.5%
2	知らない	59.4%
	(無回答)	1.1%

<図IV－8－5>全体



貯留タンクや浸透ますなどを設置することが浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながることを知っているかについては、「知らない」が59.4%であった。一方、「知っている」が39.5%であった。

(図IV－8－5)

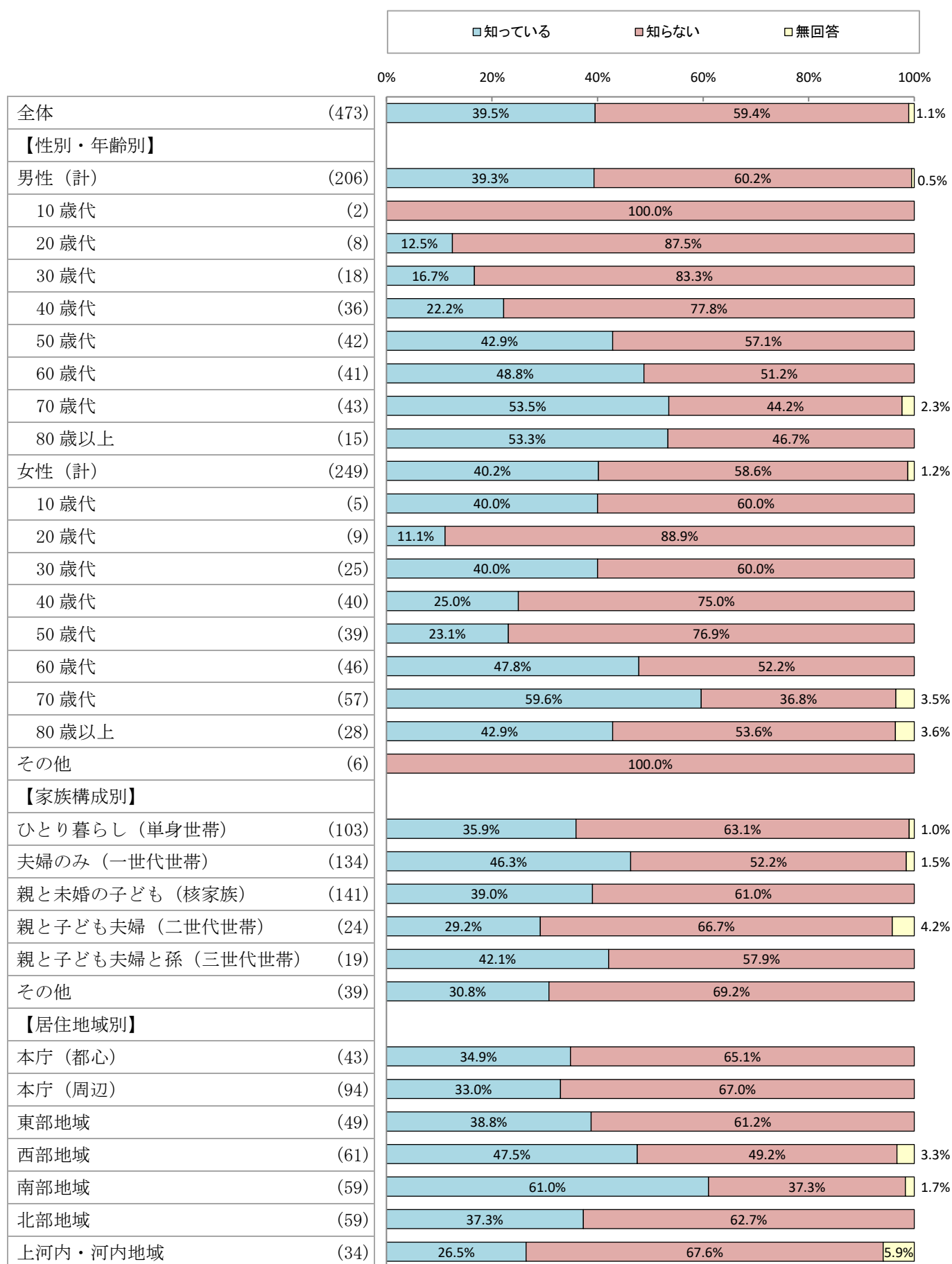
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<女性 70 歳代>が59.6%で最も高く、次いで<男性 70 歳代>が53.5%、<男性 80 歳以上>が53.3%と続いた。「知らない」は<その他>を除くと、<男性 10 歳代>が100.0%、<女性 20 歳代>が88.9%であった。(図IV－8－6)

家族構成別でみると、「知っている」は<夫婦のみ（一世代世帯）>が46.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が42.1%、<親と未婚の子ども（核家族）>が39.0%と続いた。「知らない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が66.7%で最も高く、次いで<ひとり暮らし（単身世帯）>が63.1%であった。(図IV－8－6)

居住地域別でみると、「知っている」は<南部地域>が61.0%で最も高く、次いで<西部地域>が47.5%、<東部地域>が38.8%と続いた。「知らない」は<上河内・河内地域>が67.6%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が67.0%であった。(図IV－8－6)

<図Ⅳ－８－６>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

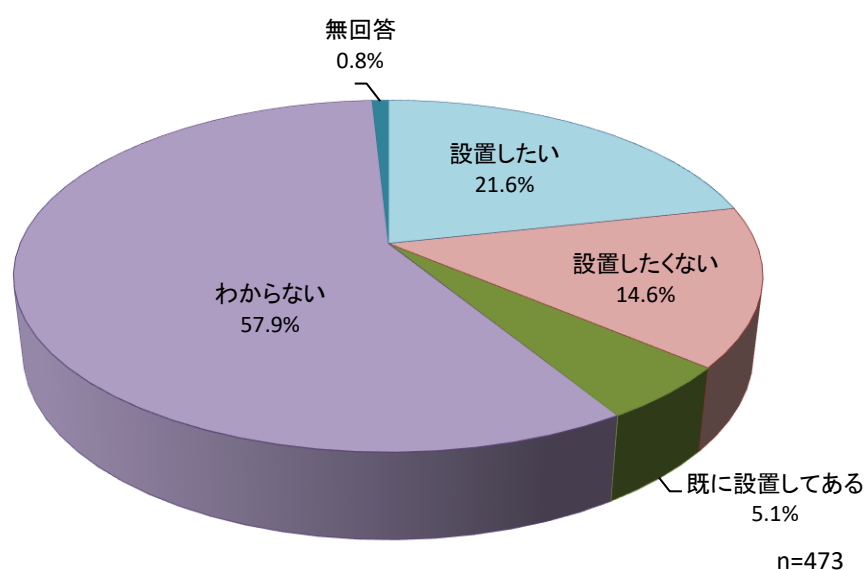


(4) 貯留タンクや浸透ますを設置したいと思うか

◇「わからない」が6割弱

問 3 0 貯留タンクや浸透ますを設置したいと思いますか。		(○は1つ)
		n=473
1	設置したい	21.6%
2	設置したくない	14.6%
3	既に設置してある	5.1%
4	わからない	57.9%
	(無回答)	0.8%

<図Ⅳ－8－7>全体



貯留タンクや浸透ますを設置したいと思うかについては、「わからない」が57.9%で最も高く、次いで「設置したい」が21.6%、「設置したくない」が14.6%であった。(図Ⅳ－8－7)

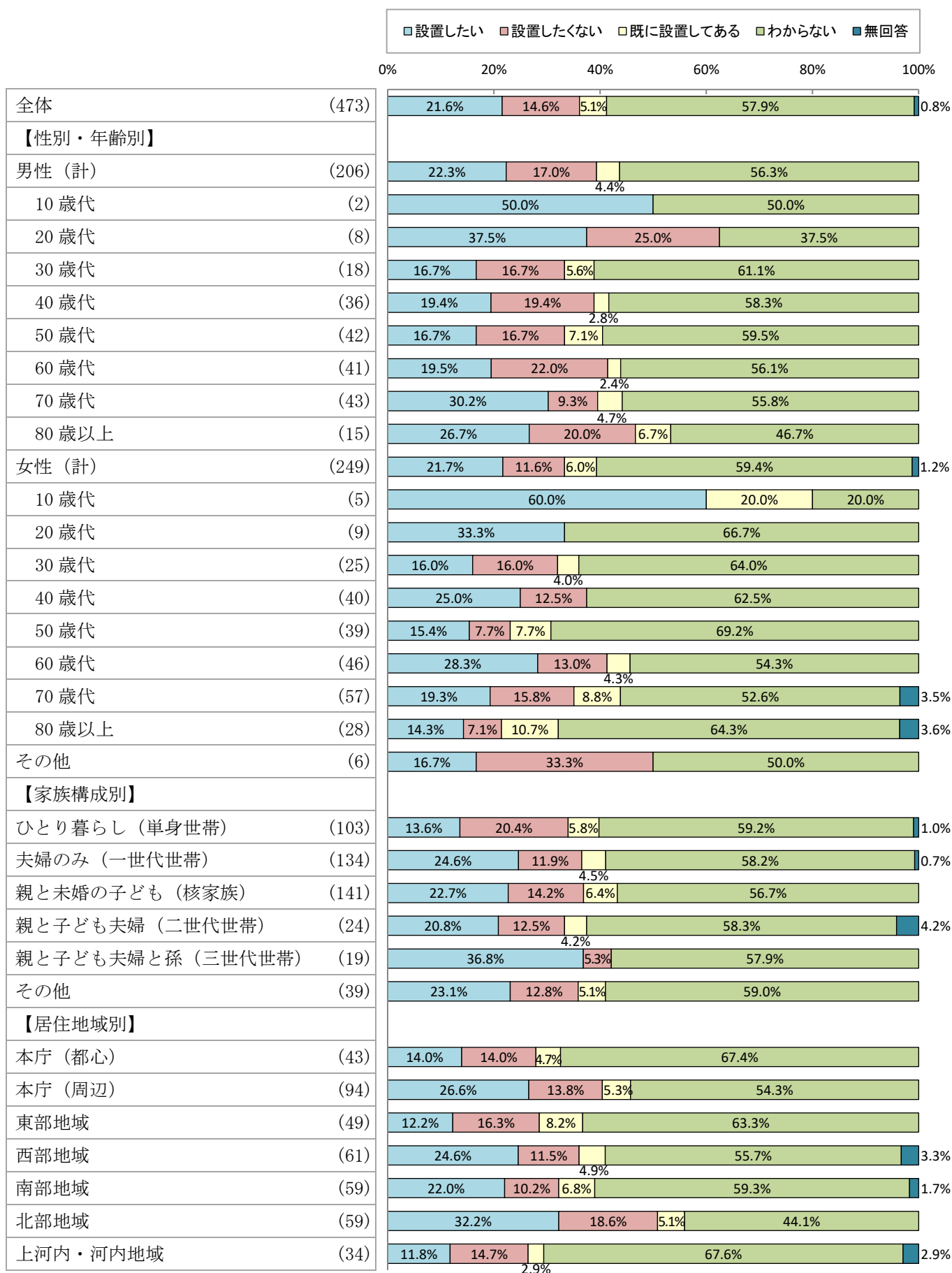
<参考>

性別・年齢別でみると、「設置したい」は<女性10歳代>が60.0%で最も高く、次いで<男性10歳代>が50.0%、<男性20歳代>が37.5%と続いた。「設置したくない」は<その他>を除くと、<男性20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<男性60歳代>が22.0%であった。(図Ⅳ－8－8)

家族構成別でみると、「設置したい」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が36.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が24.6%であった。「設置したくない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が20.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が14.2%であった。(図Ⅳ－8－8)

居住地域別でみると、「設置したい」は<北部地域>が32.2%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が26.6%であった。「設置したくない」は<北部地域>が18.6%で最も高く、次いで<東部地域>が16.3%であった。(図Ⅳ－8－8)

<図Ⅳ－８－８>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

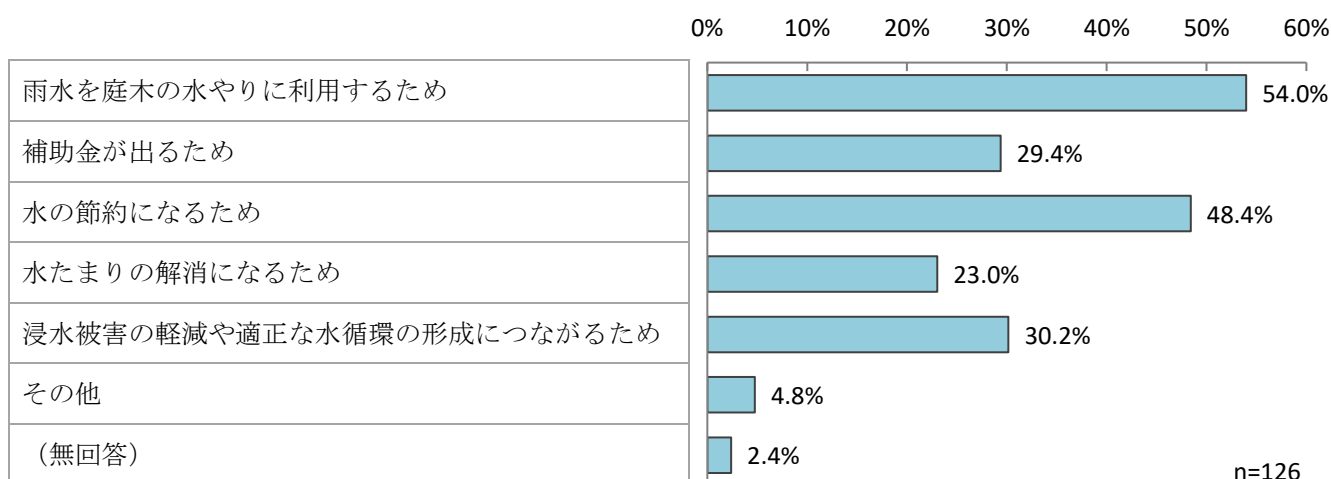


(5) 設置希望・既設置の理由

◇「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割半ば

問31 問30で「1 設置したい」「3 既に設置してある」と回答した方にお伺いします。その理由は 何ですか。		(〇はいくつでも)
		n=126
1	雨水を庭木の水やりに利用するため	54.0%
2	補助金が出るため	29.4%
3	水の節約になるため	48.4%
4	水たまりの解消になるため	23.0%
5	浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため	30.2%
6	その他	4.8%
	(無回答)	2.4%

<図IV-8-9>全体



設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が54.0%で最も高く、次いで「水の節約になるため」が48.4%、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が30.2%と続いた。(図IV-8-9)

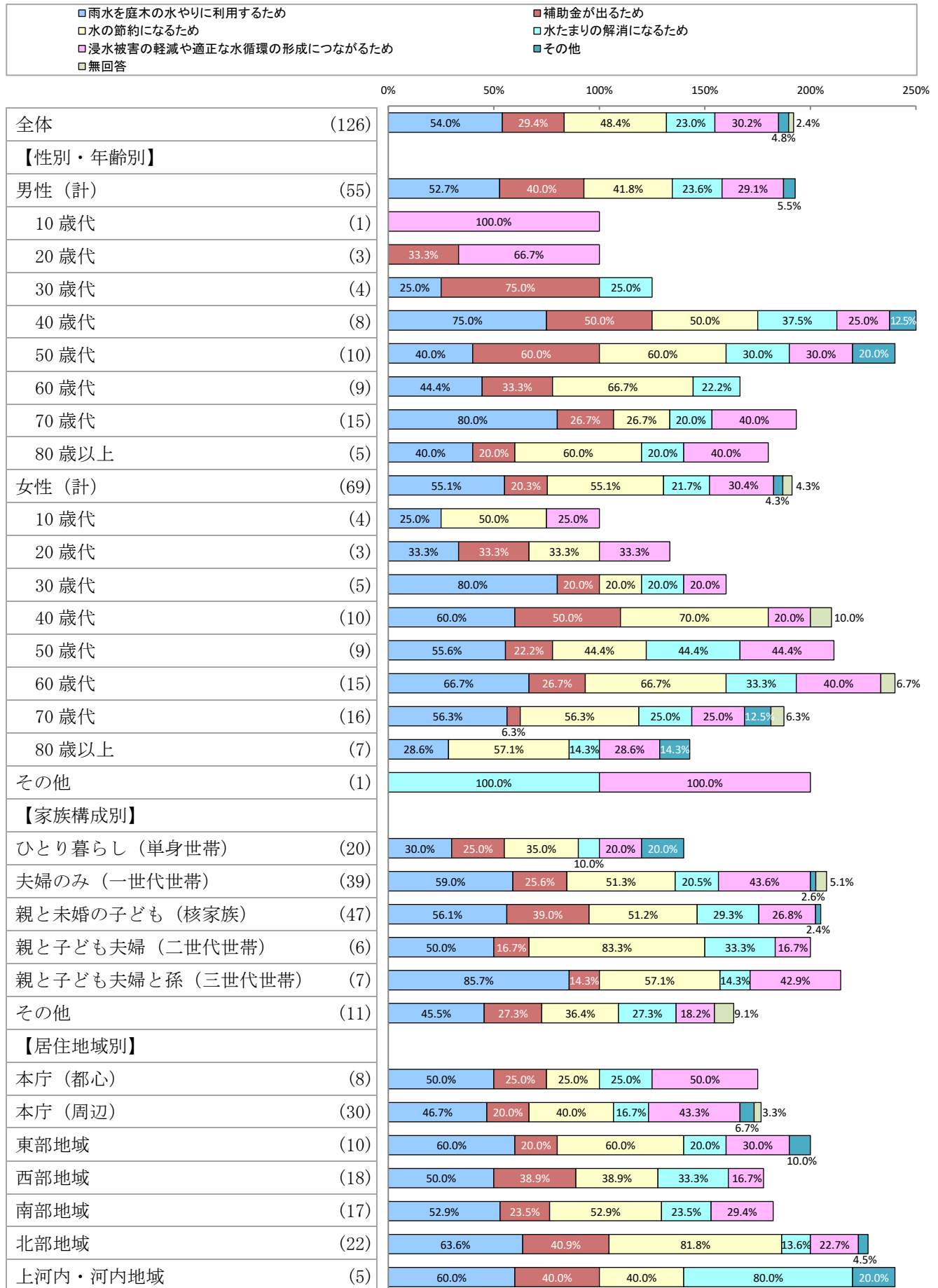
<参考>

性別・年齢別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<男性70歳代><女性30歳代>がいずれも80.0%で最も高く、次いで<男性40歳代>が75.0%、<女性60歳代>が66.7%と続いた。「水の節約になるため」は<女性40歳代>が70.0%で最も高く、次いで<男性・女性60歳代>がいずれも66.7%であった。(図IV-8-10)

家族構成別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が85.7%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が59.0%であった。「水の節約になるため」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が83.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が57.1%であった。(図IV-8-10)

居住地域別でみると、「雨水を庭木の水やりに利用するため」は<北部地域>が63.6%で最も高く、次いで<東部地域><上河内・河内地域>がいずれも60.0%であった。「水の節約になるため」は<北部地域>が81.8%で最も高く、次いで<東部地域>が60.0%であった。(図IV-8-10)

<図Ⅳ－８－１０>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

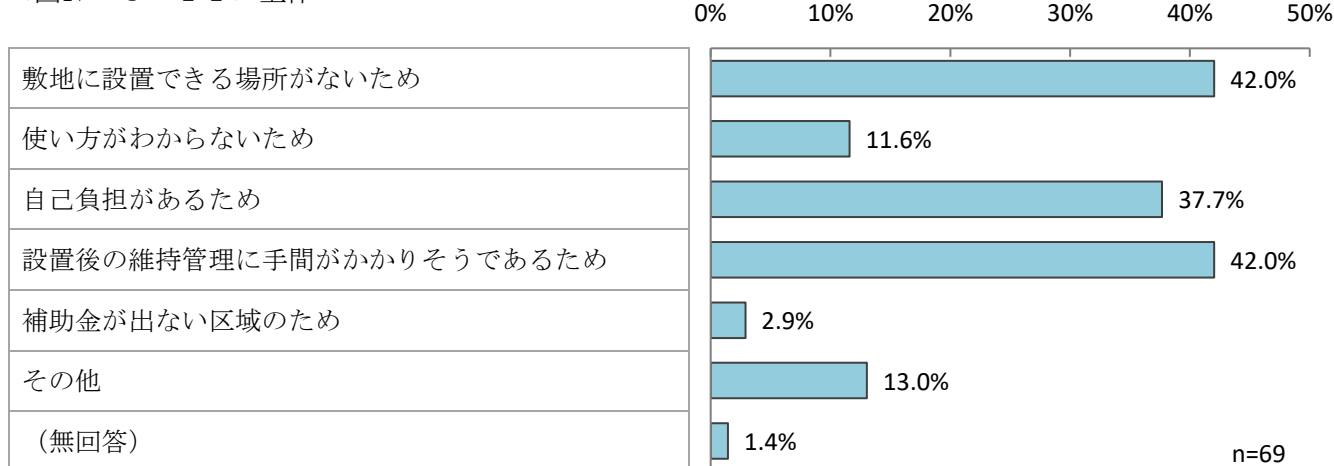


（６）設置したくない理由

◇「敷地に設置できる場所がないため」と「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」がいずれも４割強

問３２	問３０で「２ 設置したくない」と回答した方にお伺いします。その理由は何ですか。	
		(○はいくつでも)
		n=69
1	敷地に設置できる場所がないため	42.0%
2	使い方がわからないため	11.6%
3	自己負担があるため	37.7%
4	設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため	42.0%
5	補助金が出ない区域のため	2.9%
6	その他	13.0%
	(無回答)	1.4%

<図Ⅳ－８－１１>全体



設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」と「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」がいずれも42.0%で最も高く、次いで「自己負担があるため」が37.7%と続いた。

(図Ⅳ－８－１１)

<参考>

性別・年齢別でみると、「敷地に設置できる場所がないため」は<女性 60 歳代>が83.3%で最も高く、次いで<女性 30 歳代>が75.0%であった。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<男性 20 歳代><男性 80 歳以上>が100.0%、<男性 30 歳代><女性 60 歳代>が66.7%であった。

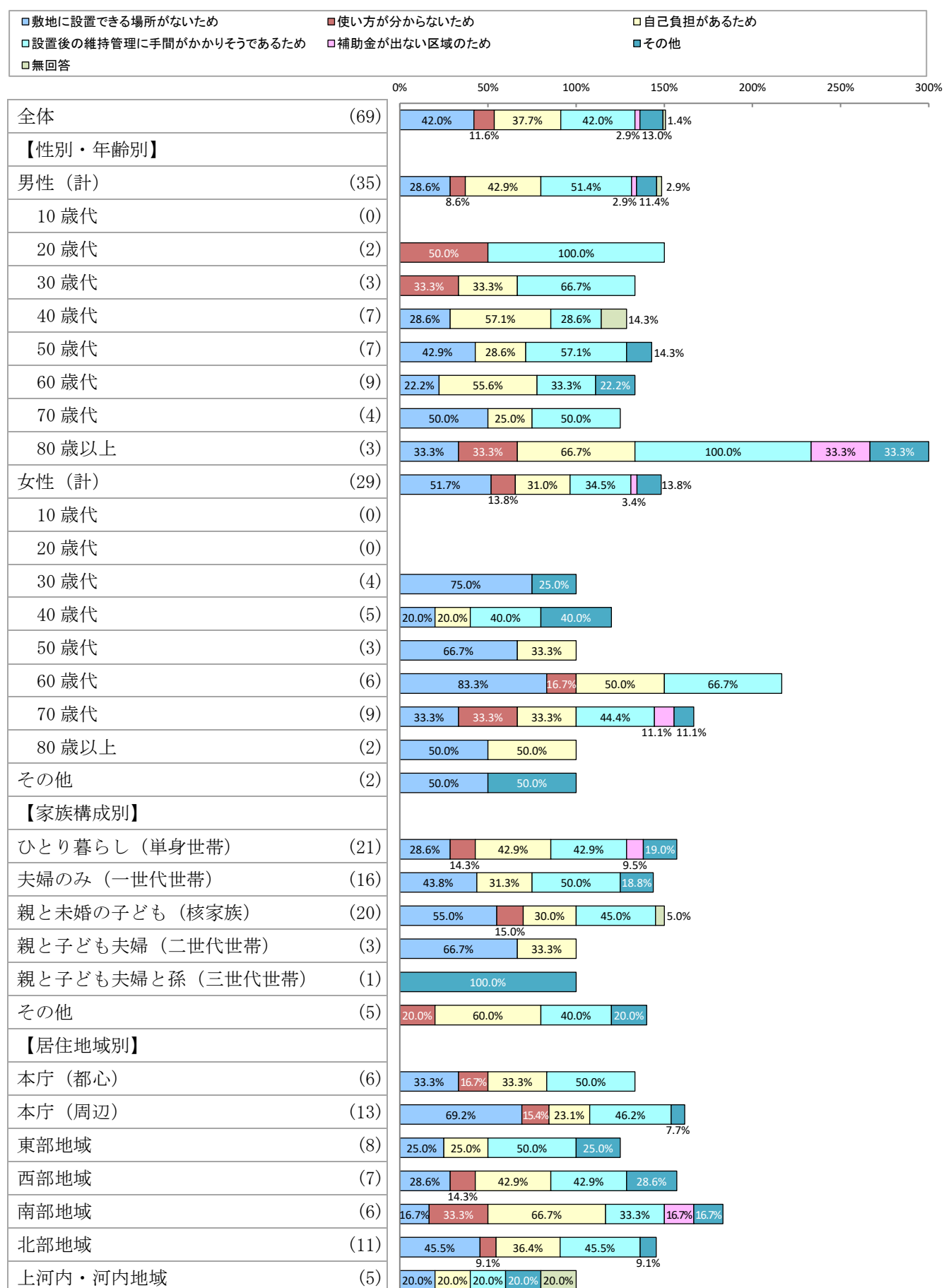
(図Ⅳ－８－１２)

家族構成別でみると、「敷地に設置できる場所がないため」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が66.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が55.0%であった。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が50.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が45.0%であった。(図Ⅳ－８－１２)

居住地域別でみると、「敷地に設置できる場所がないため」は<本庁（周辺）>が69.2%で最も高く、次いで<北部地域>が45.5%であった。「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」は<本庁（都心）><東部地域>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<本庁（周辺）>が46.2%であった。

(図Ⅳ－８－１２)

<図Ⅳ－８－１２>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



9. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

(1) 宮っこを守り・育てる都市宣言の認知度

◇ 「名称も内容も知らない」が5割半ば

問33 「宮っこを守り・育てる都市宣言」(※)を知っていますか。

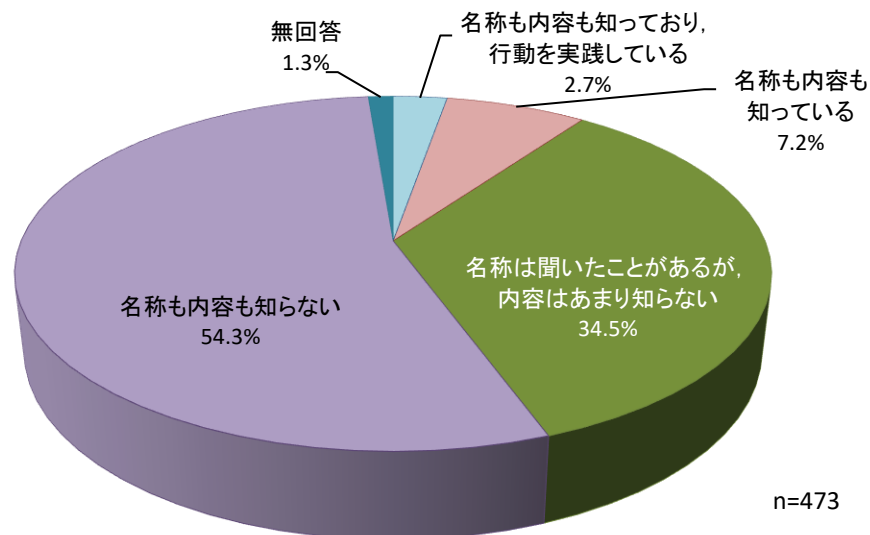
※ 本宣言は、子どもたち一人ひとりが、地域社会の中で、「人間力」を高めながら、自分らしく、当たり前に成長できるまち「宇都宮」を実現するため、大人の行動規範として制定した都市宣言です。

(○は1つ)

n=473

1	名称も内容も知っており、行動を実践している	2.7%
2	名称も内容も知っている	7.2%
3	名称は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない	34.5%
4	名称も内容も知らない	54.3%
	(無回答)	1.3%

<図IV-9-1>全体



「宮っこを守り・育てる都市宣言」を知っているかについては、「名称も内容も知らない」が54.3%で最も高く、次いで「名称は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」が34.5%であった。(図IV-9-1)

<参考>

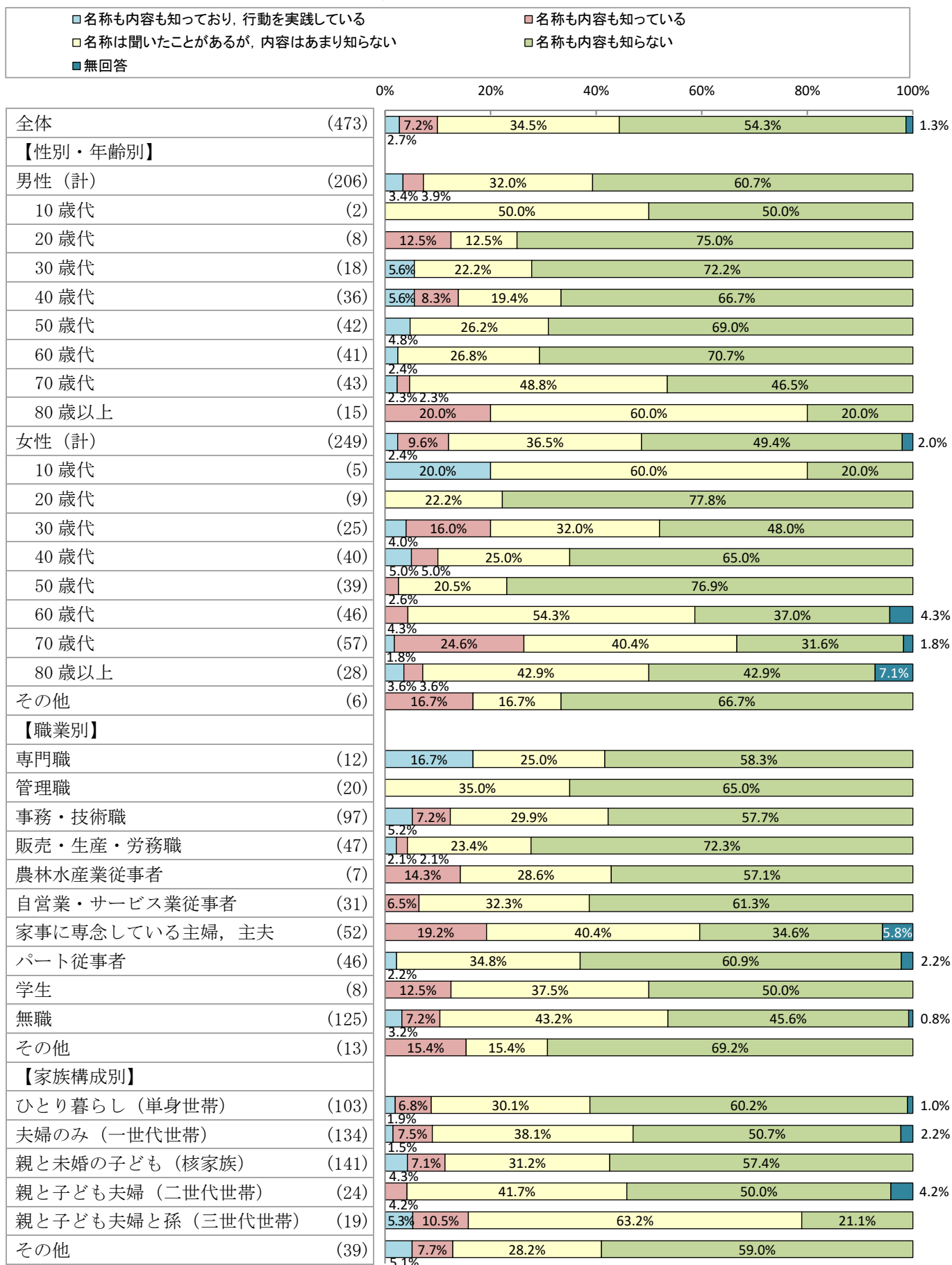
性別・年齢別でみると、「名称も内容も知らない」は<女性20歳代>が77.8%で最も高く、次いで<女性50歳代>が76.9%、<男性20歳代>が75.0%と続いた。「名称は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」は<男性80歳以上><女性10歳代>がいずれも60.0%で最も高く、次いで<女性60歳代>が54.3%であった。(図IV-9-2)

職業別でみると、「名称も内容も知らない」は<その他>を除くと、<販売・生産・労務職>が72.3%で最も高く、次いで<管理職>が65.0%、<自営業・サービス業従事者>が61.3%と続いた。「名称は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」は<無職>が43.2%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が40.4%であった。(図IV-9-2)

家族構成別でみると、「名称も内容も知らない」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が60.2%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が57.4%、<夫婦のみ(一世代世帯)>が50.7%と続いた。「名称は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が63.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が41.7%であった。

(図IV-9-2)

<図IV－9－2>性別・年齢別／職業別／家族構成別



10. まちづくり活動への参加意識について

(1) 参加中または興味があるまちづくり活動

◇「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が2割半ば

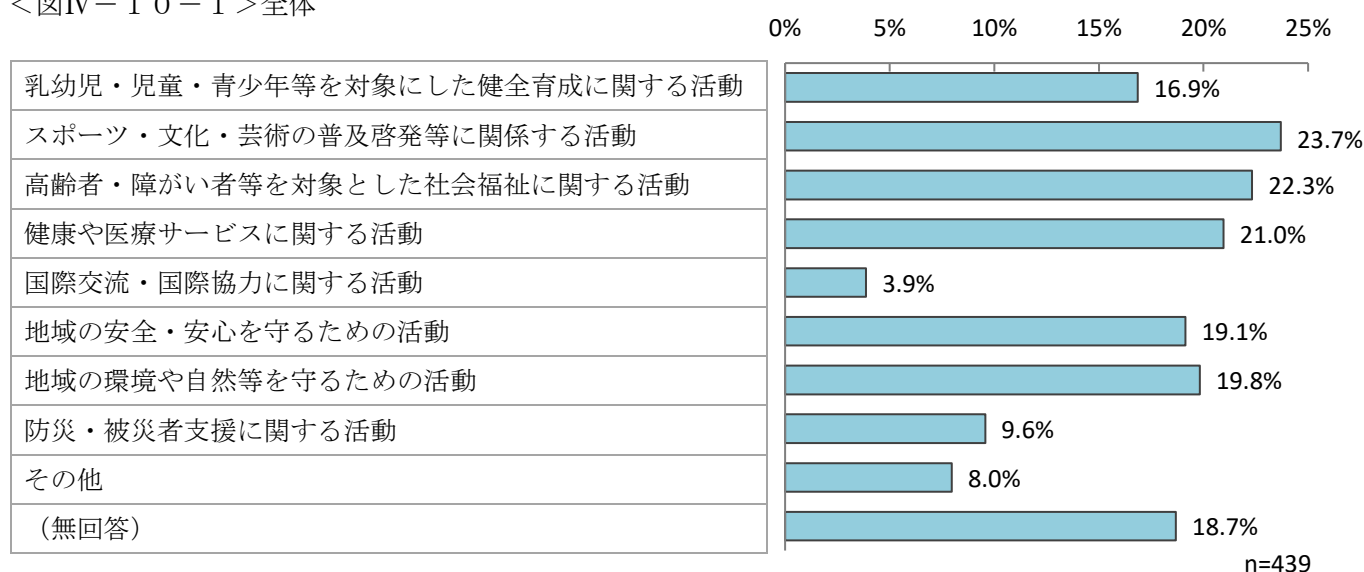
問34 あなたは、どのような種類のまちづくり活動に参加していますか。または興味がありますか。

(〇はいくつでも)

n=439

1	乳幼児・児童・青少年等を対象にした健全育成に関する活動	16.9%
2	スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動	23.7%
3	高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動	22.3%
4	健康や医療サービスに関する活動	21.0%
5	国際交流・国際協力に関する活動	3.9%
6	地域の安全・安心を守るための活動	19.1%
7	地域の環境や自然等を守るための活動	19.8%
8	防災・被災者支援に関する活動	9.6%
9	その他	8.0%
	(無回答)	18.7%

<図IV-10-1>全体



参加中または興味があるまちづくり活動については、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が23.7%で最も高く、次いで「高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動」が22.3%、「健康や医療サービスに関する活動」が21.0%、「地域の環境や自然等を守るための活動」が19.8%と続いた。(図IV-10-1)

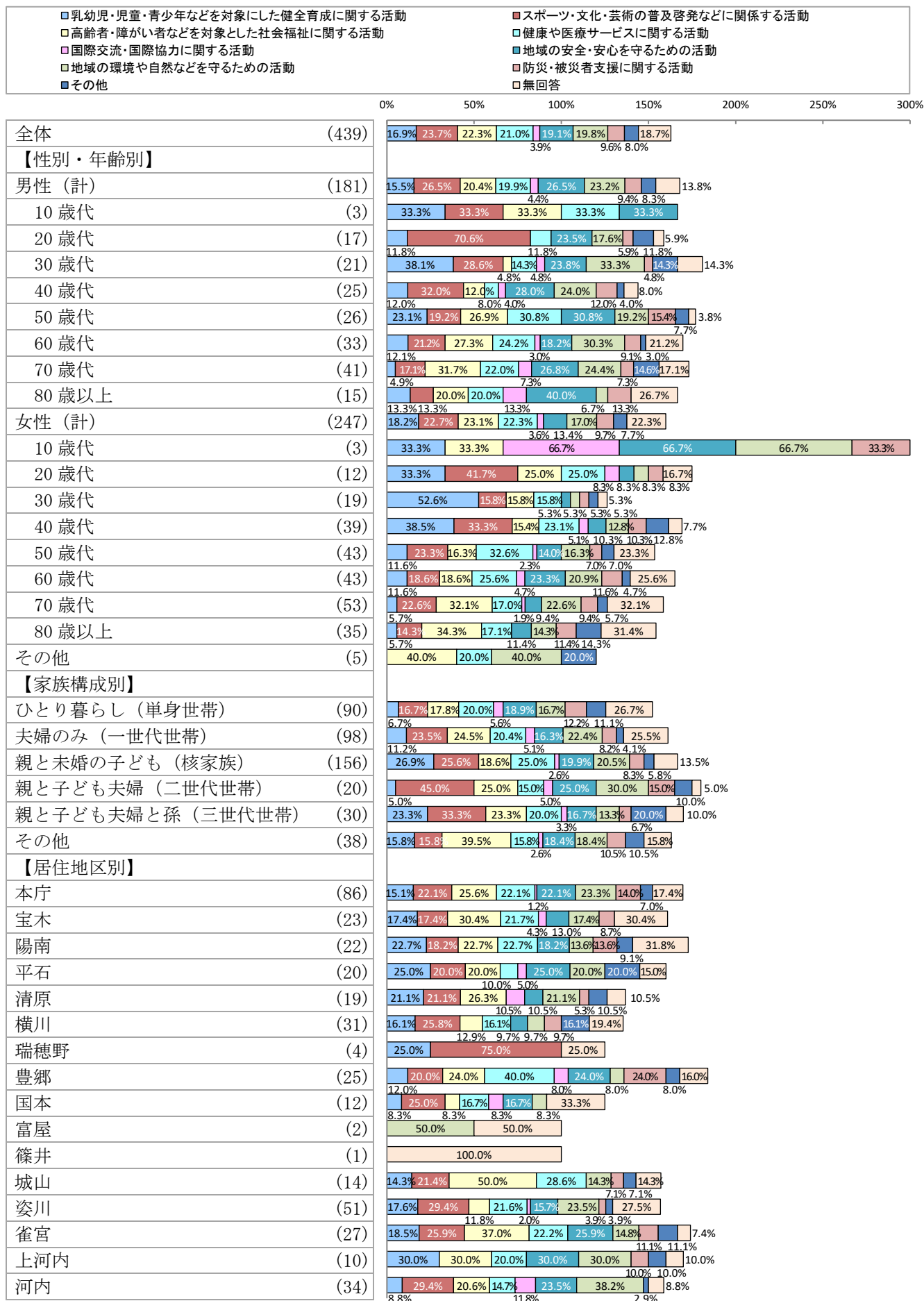
<参考>

性別・年齢別でみると、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」は<男性20歳代>が70.6%で最も高く、次いで<女性20歳代>が41.7%、<男性10歳代><女性40歳代>がいずれも33.3%と続いた。(図IV-10-2)

家族構成別でみると、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が45.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が33.3%であった。(図IV-10-2)

居住地区別でみると、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」は<瑞穂野>が75.0%で最も高く、次いで<姿川><河内>がいずれも29.4%であった。(図IV-10-2)

<図Ⅳ－１０－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別



(2) まちづくり活動に参加していない理由

◇「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ば

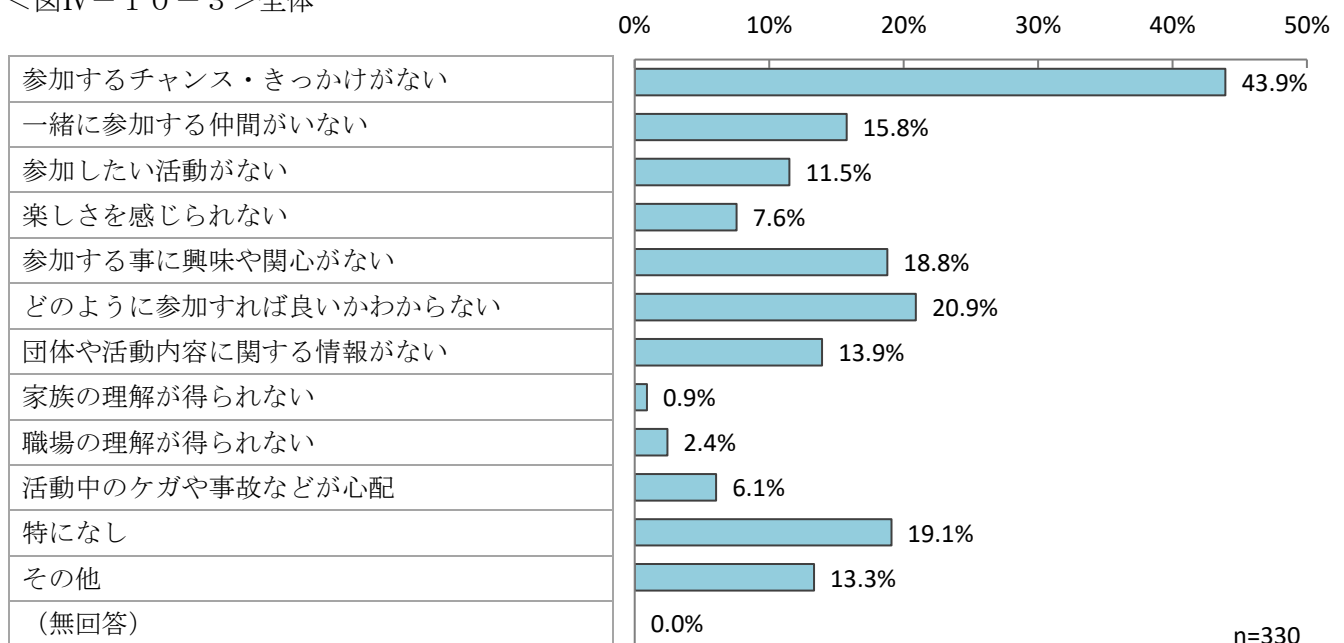
問35 まちづくり活動に参加していない方にお伺いします。参加していない理由は何ですか。

(〇はいくつでも)

n=330

1	参加するチャンス・きっかけがない	43.9%
2	一緒に参加する仲間がいない	15.8%
3	参加したい活動がない	11.5%
4	楽しさを感じられない	7.6%
5	参加する事に興味や関心がない	18.8%
6	どのように参加すれば良いかわからない	20.9%
7	団体や活動内容に関する情報がない	13.9%
8	家族の理解が得られない	0.9%
9	職場の理解が得られない	2.4%
10	活動中のケガや事故などが心配	6.1%
11	特になし	19.1%
12	その他	13.3%
	(無回答)	0.0%

<図IV-10-3>全体



まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が43.9%、次いで「どのように参加すれば良いかわからない」が20.9%であった。(図IV-10-3)

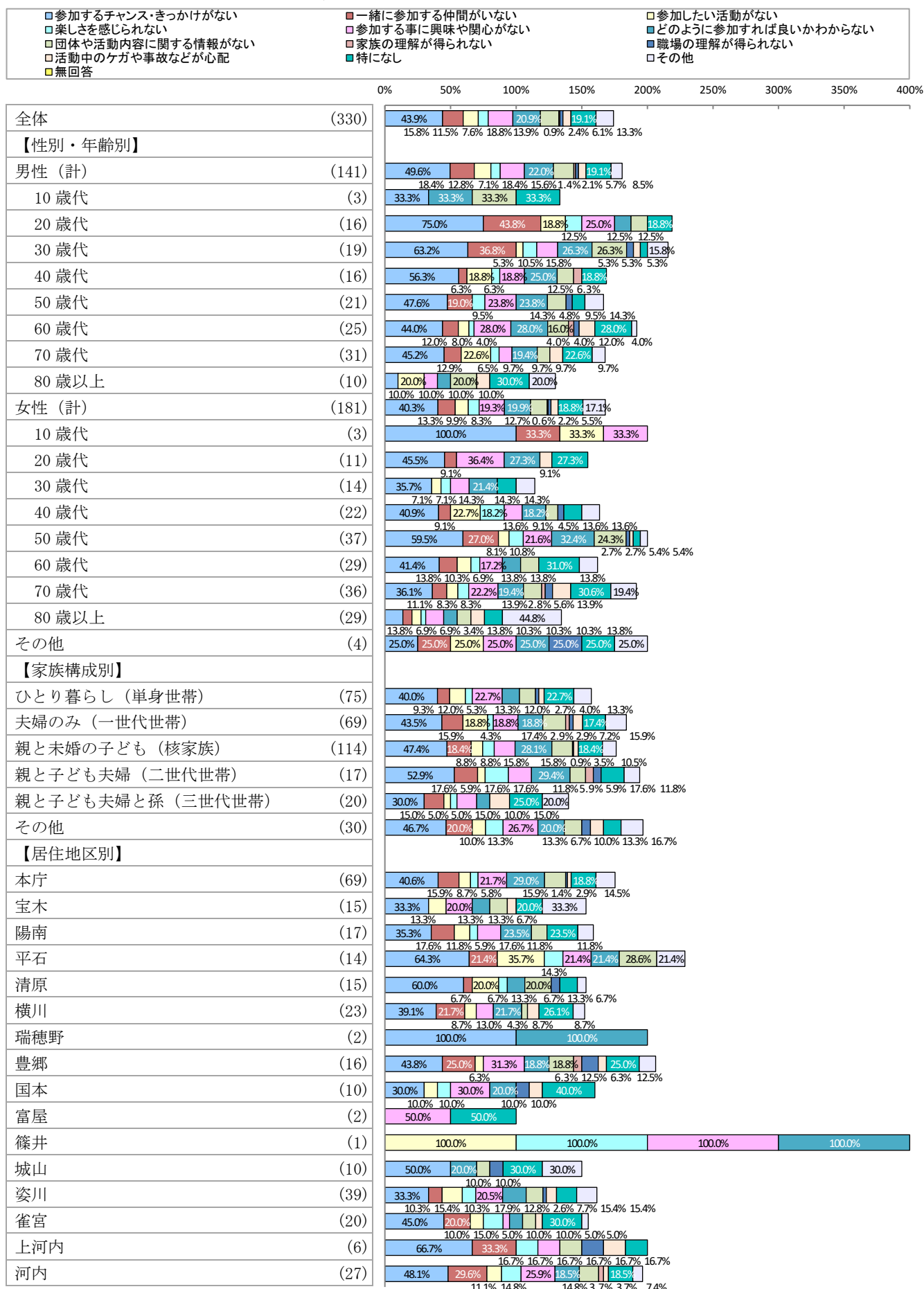
<参考>

性別・年齢別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<女性10歳代>が100.0%、<男性20歳代>が75.0%、<男性30歳代>が63.2%と続いた。(図IV-10-4)

家族構成別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が52.9%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が47.4%であった。(図IV-10-4)

居住地区別でみると、「参加するチャンス・きっかけがない」は<瑞穂野>が100.0%、<上河内>が66.7%であった。(図IV-10-4)

<図IV－１０－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別



1 1. 公共交通の運賃負担軽減策等について

(1) 普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度

◇ 「ほとんど利用しない」が7割強

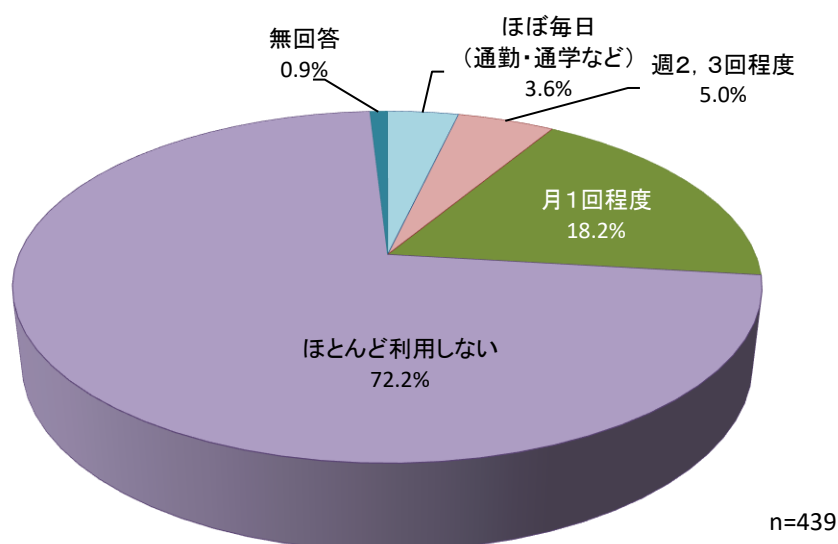
問 3 6 普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度はどの程度ですか。

(○は1つ)

n=439

1	ほぼ毎日（通勤・通学など）	3.6%
2	週2, 3回程度	5.0%
3	月1回程度	18.2%
4	ほとんど利用しない	72.2%
	(無回答)	0.9%

<図IV-11-1>全体



普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が72.2%で最も高く、次いで「月に1回程度」が18.2%であった。(図IV-11-1)

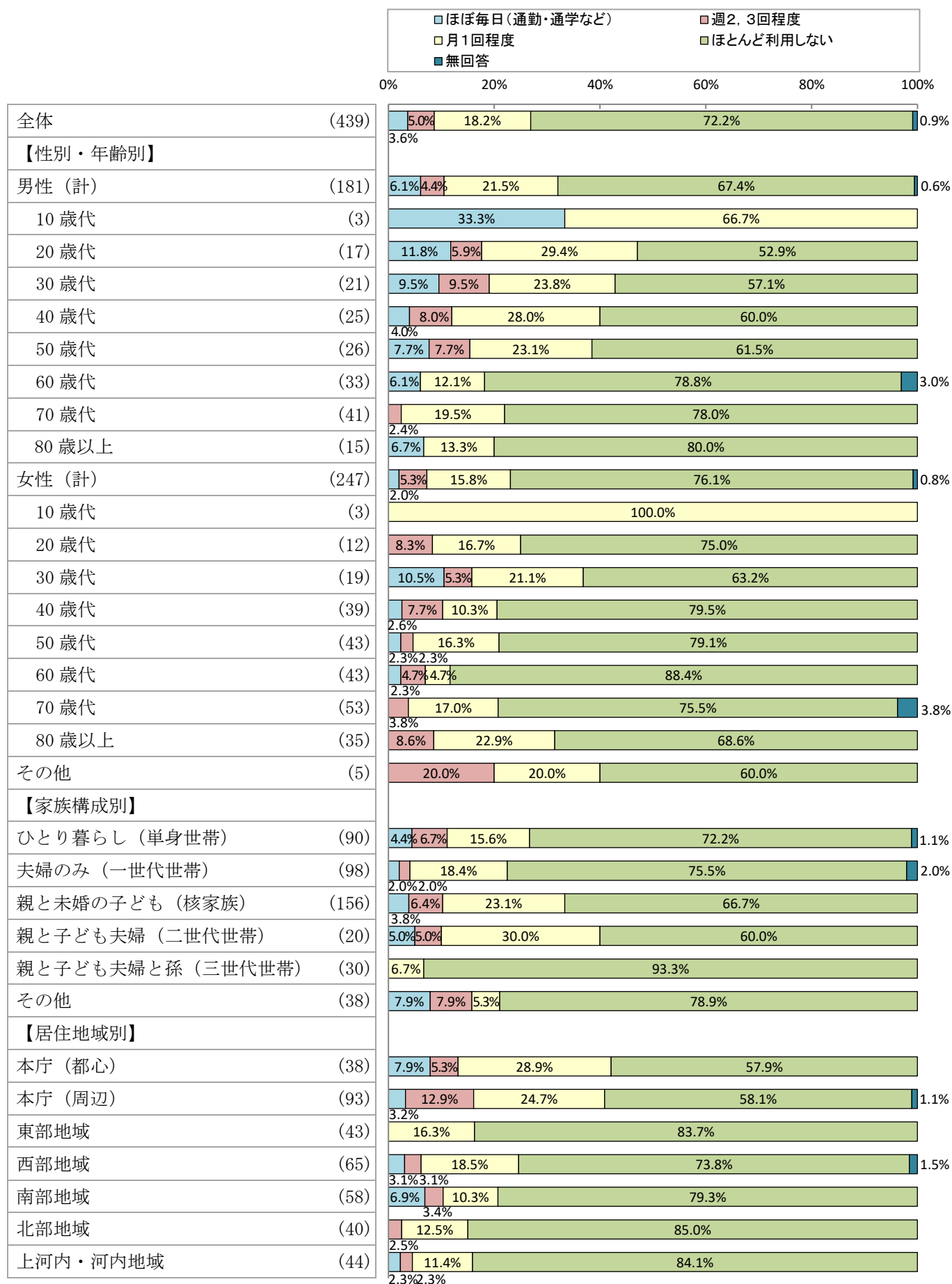
<参考>

性別・年齢別でみると、「ほとんど利用しない」は<女性 60 歳代>が88.4%で最も高く、次いで<男性 80 歳以上>が80.0%、<女性 40 歳代>が79.5%と続いた。(図IV-11-2)

家族構成別でみると、「ほとんど利用しない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が93.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が75.5%であった。(図IV-11-2)

居住地域別でみると、「ほとんど利用しない」は<北部地域>が85.0%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が84.1%であった。(図IV-11-2)

<図Ⅳ－１１－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

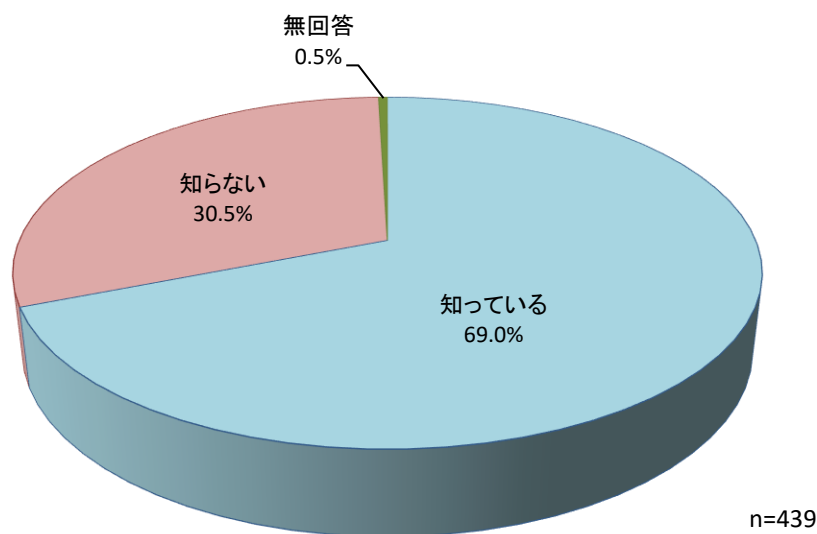


(2) 交通系 IC カード「totra」の認知度

◇ 「知っている」が約7割

問 3 7	Suica 機能を有し、本市独自の地域サービスが受けられる交通系 IC カード「totra」を知っていますか。	(○は1つ)
		n=439
1	知っている	69.0%
2	知らない	30.5%
	(無回答)	0.5%

<図Ⅳ－1 1－3>全体



Suica 機能を有し、本市独自の地域サービスが受けられる交通系 IC カード「totra」を知っているかについては、「知っている」が 69.0%，一方、「知らない」が 30.5%であった。(図Ⅳ－1 1－3)

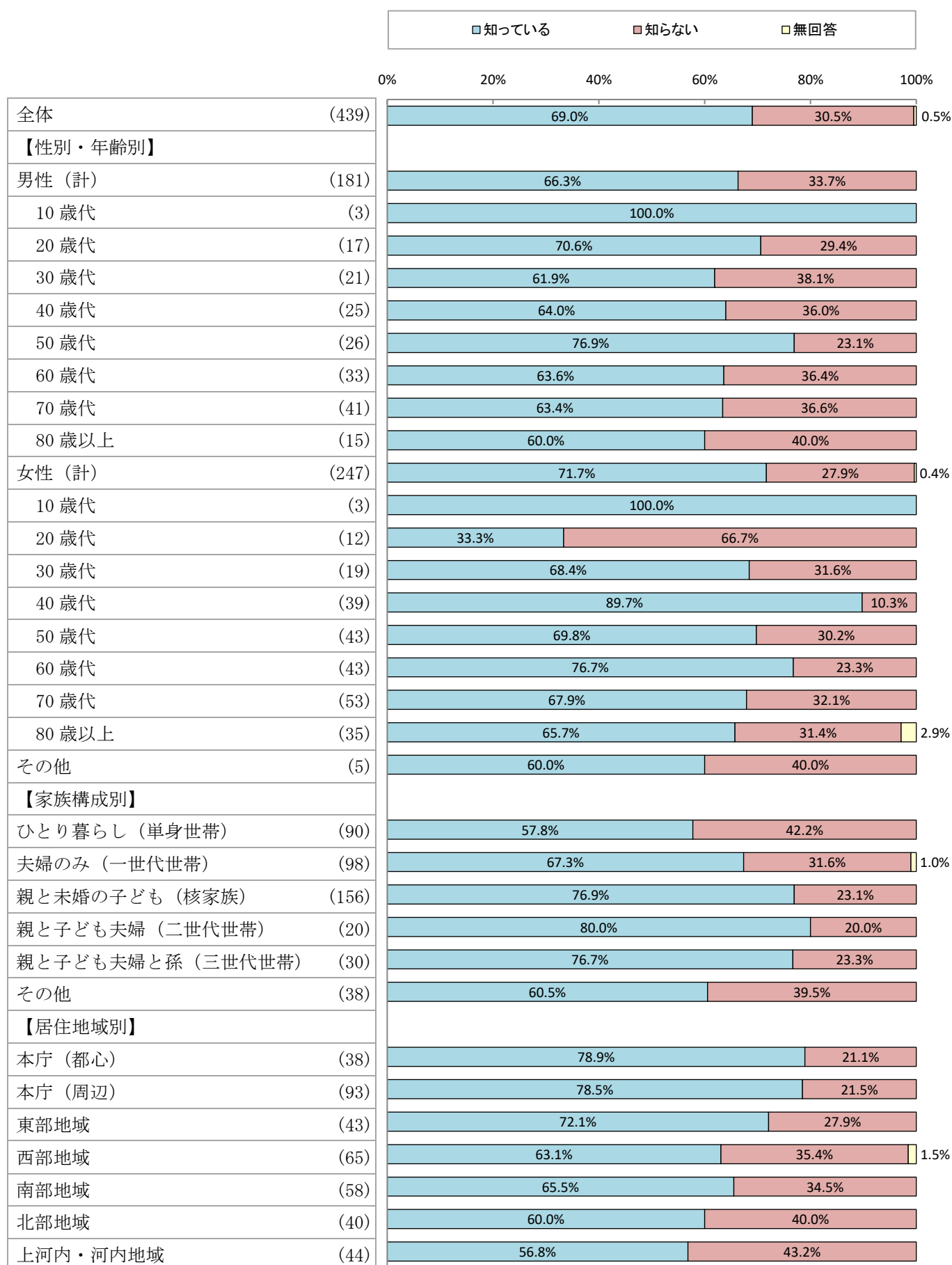
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<男性・女性 10 歳代>が 100.0%，<女性 40 歳代>が 89.7%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと、<女性 20 歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<男性 80 歳以上>が 40.0%であった。(図Ⅳ－1 1－4)

家族構成別でみると、「知っている」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 80.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 76.9%であった。一方、「知らない」は<その他>を除くと、<ひとり暮らし(単身世帯)>が 42.2%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 31.6%であった。(図Ⅳ－1 1－4)

居住地域別でみると、「知っている」は<本庁(都心)>が 78.9%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 78.5%であった。一方、「知らない」は<上河内・河内地域>が 43.2%で最も高く、次いで<北部地域>が 40.0%であった。(図Ⅳ－1 1－4)

<図Ⅳ－１１－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(3) 交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」の認知度

◇ 「知らない」が7割強

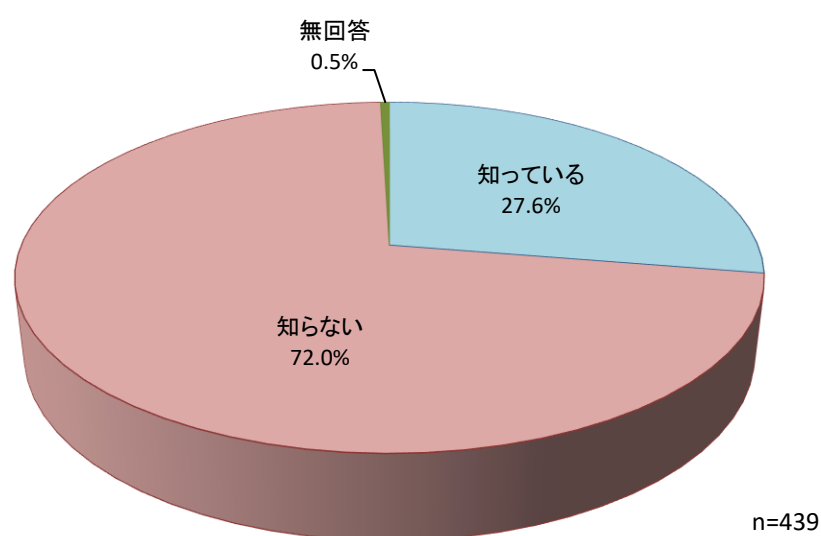
問38 交通系 IC カード (totra や Suica など) を利用して、日中 (9 時～16 時) にバスを利用すると、1 乗車あたりの運賃が最大 400 円になる「バスの上限運賃制度」を知っていますか。

(○は1つ)

n=439

1	知っている	27.6%
2	知らない	72.0%
	(無回答)	0.5%

<図Ⅳ－11－5>全体



交通系 IC カード (totra や Suica など) を利用して、日中 (9 時～16 時) にバスを利用すると、1 乗車あたりの運賃が最大 400 円になる「バスの上限運賃制度」を知っているかについては、「知らない」が 72.0%、一方、「知っている」が 27.6%であった。(図Ⅳ－11－5)

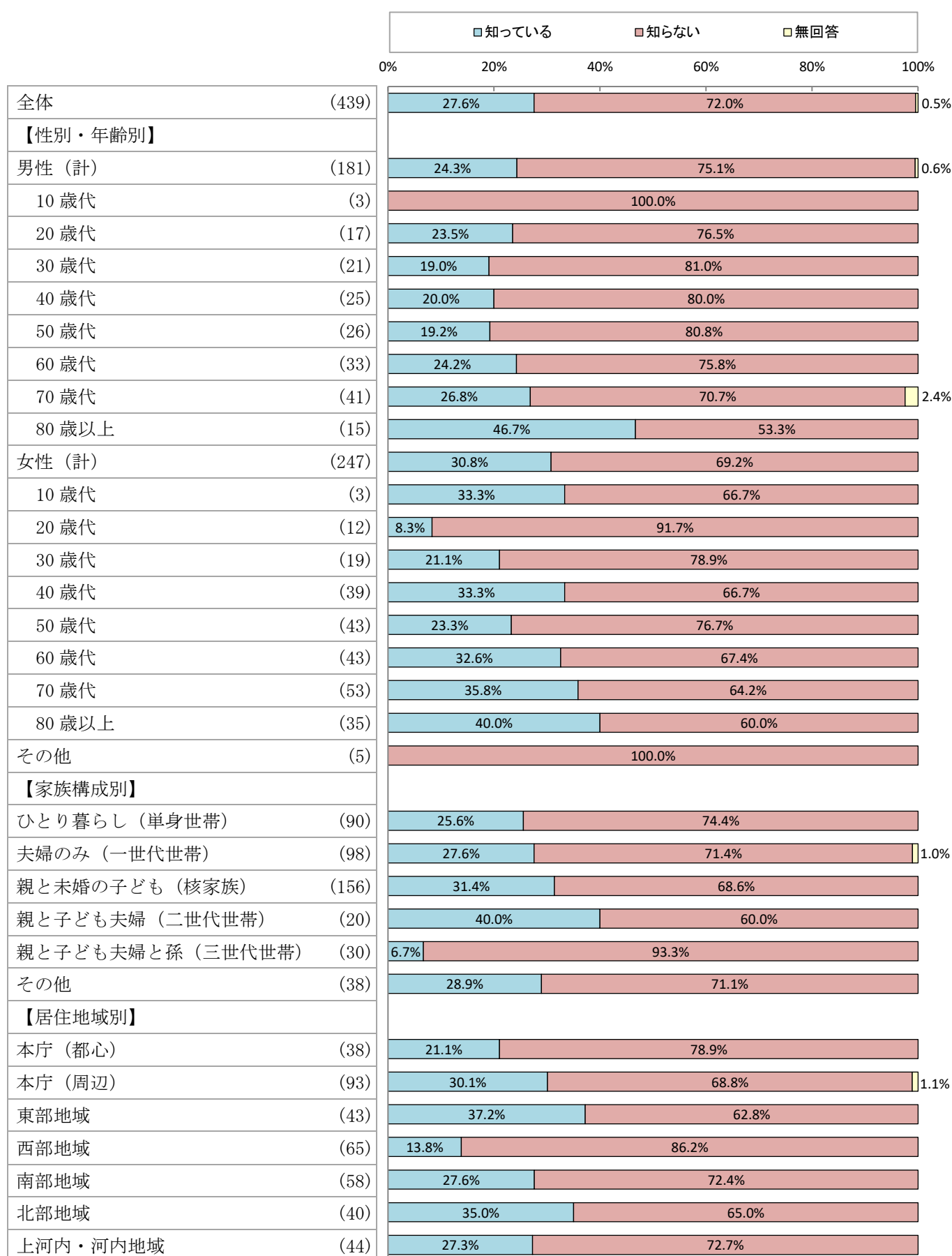
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<男性 10 歳代>が 100.0%、<女性 20 歳代>が 91.7%であった。一方、「知っている」は<男性 80 歳以上>が 46.7%で最も高く、次いで<女性 80 歳以上>が 40.0%であった。(図Ⅳ－11－6)

家族構成別でみると、「知らない」は<親と子ども夫婦と孫 (三世代世帯)>が 93.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし (単身世帯)>が 74.4%であった。一方、「知っている」は<親と子ども夫婦 (二世帯世帯)>が 40.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども (核家族)>が 31.4%であった。(図Ⅳ－11－6)

居住地域別でみると、「知らない」は<西部地域>が 86.2%で最も高く、次いで<本庁 (都心)>が 78.9%であった。一方、「知っている」は<東部地域>が 37.2%で最も高く、次いで<北部地域>が 35.0%であった。(図Ⅳ－11－6)

<図Ⅳ－１１－６>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

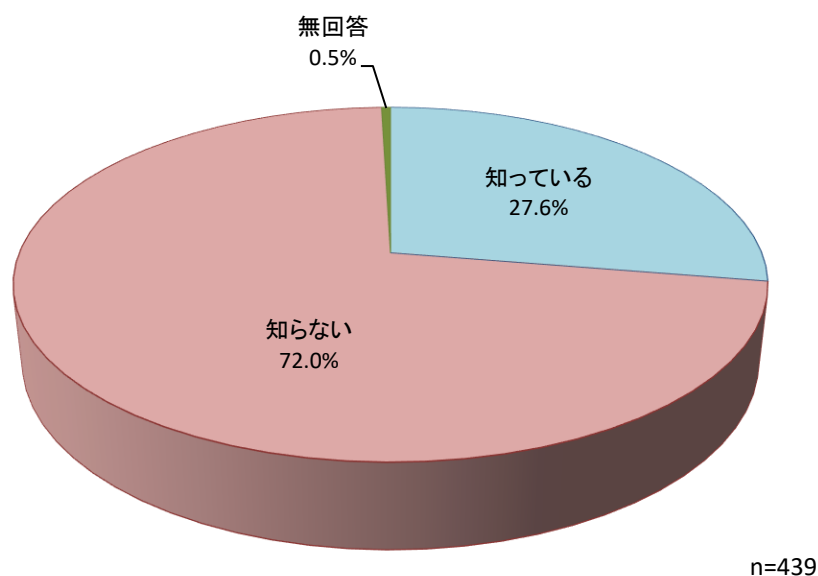


(4) 「totra」を利用した「乗継割引制度」の認知度

◇「知らない」が7割強

問 3 9	totra を利用して、ライトライン・バス・地域内交通を乗り継いだ際に運賃が割引となる「乗継割引制度」を知っていますか。		(○は1つ)
			n=439
1	知っている		27.6%
2	知らない		72.0%
	(無回答)		0.5%

<図Ⅳ－11－7>全体



totra を利用して、ライトライン・バス・地域内交通を乗り継いだ際に運賃が割引となる「乗継割引制度」を知っているかについては、「知らない」が 72.0%，一方、「知っている」が 27.6%であった。

(図Ⅳ－11－7)

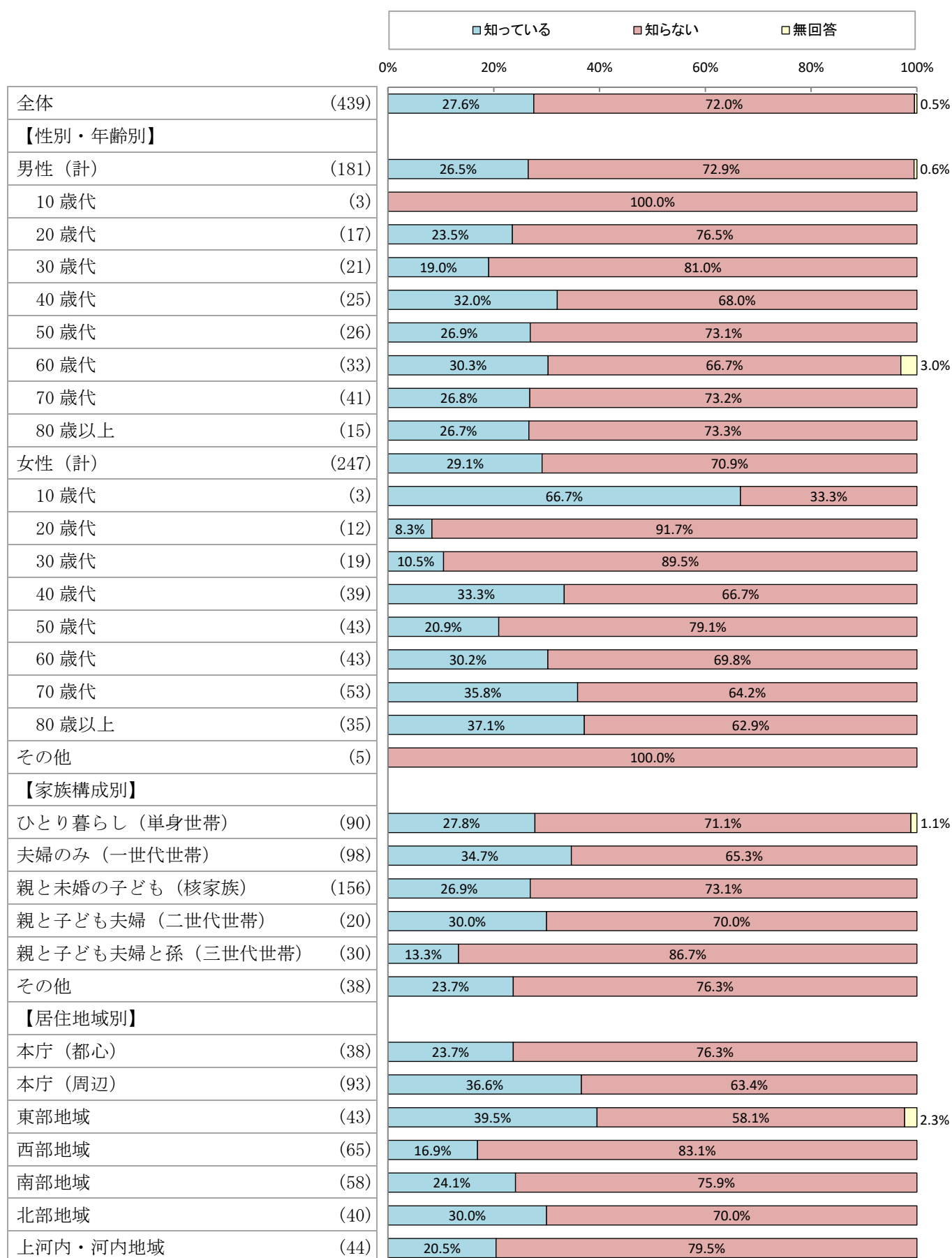
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<男性 10 歳代>が 100.0%，<女性 20 歳代>が 91.7%であった。一方、「知っている」は<女性 10 歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<女性 80 歳以上>が 37.1%であった。(図Ⅳ－11－8)

家族構成別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が 86.7%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 73.1%であった。一方、「知っている」は<夫婦のみ(一世代世帯)>が 34.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が 30.0%であった。(図Ⅳ－11－8)

居住地域別でみると、「知らない」は<西部地域>が 83.1%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が 79.5%であった。一方、「知っている」は<東部地域>が 39.5%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が 36.6%であった。(図Ⅳ－11－8)

<図Ⅳ－１１－８>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



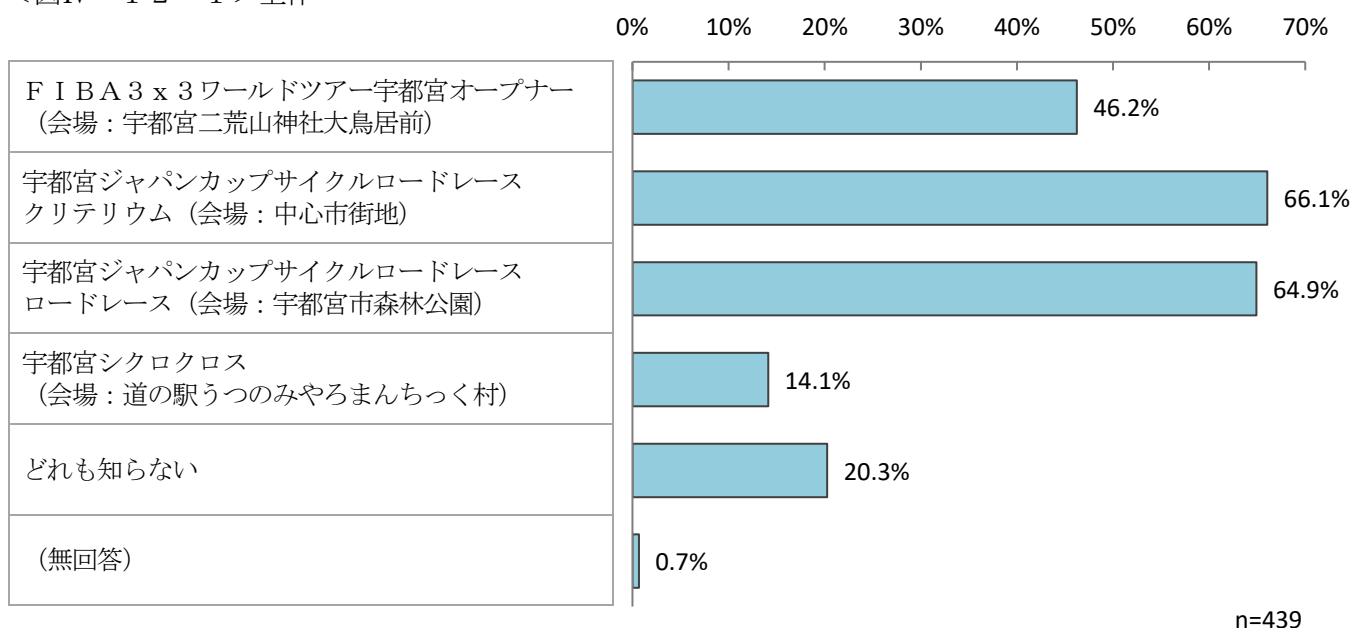
12. スポーツに関することについて

(1) 大規模スポーツイベント開催の認知度

◇「宇都宮ジャパンカップサイクルードレース クリテリウム」が6割半ば

問40	本市では、様々な大規模スポーツイベントを開催していますが、以下のうちあなたが知っているものはどれですか。 (〇はいくつでも)	n=439
1	F I B A 3 x 3 ワールドツアー宇都宮オープナー (会場：宇都宮二荒山神社大鳥居前)	46.2%
2	宇都宮ジャパンカップサイクルードレース クリテリウム (会場：中心市街地)	66.1%
3	宇都宮ジャパンカップサイクルードレース ロードレース (会場：宇都宮市森林公園)	64.9%
4	宇都宮シクロクロス (会場：道の駅うつのみやろまんちっく村)	14.1%
5	どれも知らない (無回答)	20.3% 0.7%

<図Ⅳ－12－1>全体



本市の大規模スポーツイベント開催で知っているものは、「宇都宮ジャパンカップサイクルードレース クリテリウム (会場：中心市街地)」が 66.1% で最も高く、次いで「宇都宮ジャパンカップサイクルードレース ロードレース (会場：宇都宮森林公園)」が 64.9% , 「F I B A 3 x 3 ワールドツアー宇都宮オープナー (会場：宇都宮二荒山神社大鳥居前)」が 46.2% と続いた。(図Ⅳ－12－1)

(2) 大規模スポーツイベントの会場観戦があるか

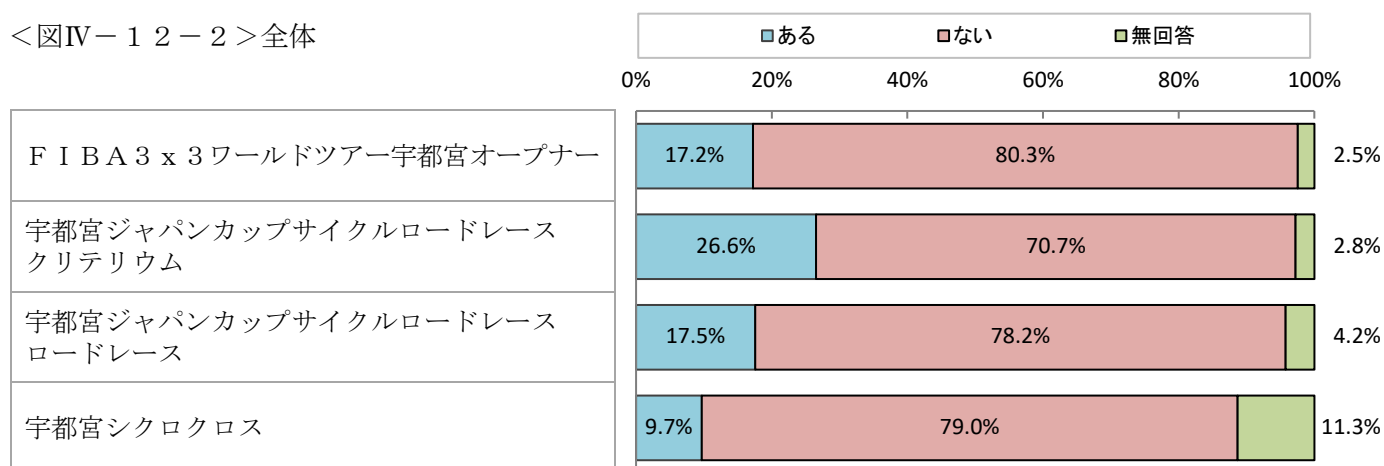
◇「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム」が3割弱

問41 問40でいずれかを「知っている」と回答した方にお伺いします。それぞれ知っている大規模スポーツイベントについて、会場で観戦したことはありますか。

(問40で知っていると回答したそれぞれの項目ごとに○は1つ)

	項目		ある	ない	無回答	合計
1	F I B A 3 x 3 ワールドツアー宇都宮オープナー	n=203	17.2%	80.3%	2.5%	100.0%
2	宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム	n=290	26.6%	70.7%	2.8%	100.0%
3	宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース ロードレース	n=285	17.5%	78.2%	4.2%	100.0%
4	宇都宮シクロクロス	n=62	9.7%	79.0%	11.3%	100.0%

<図Ⅳ－12－2>全体



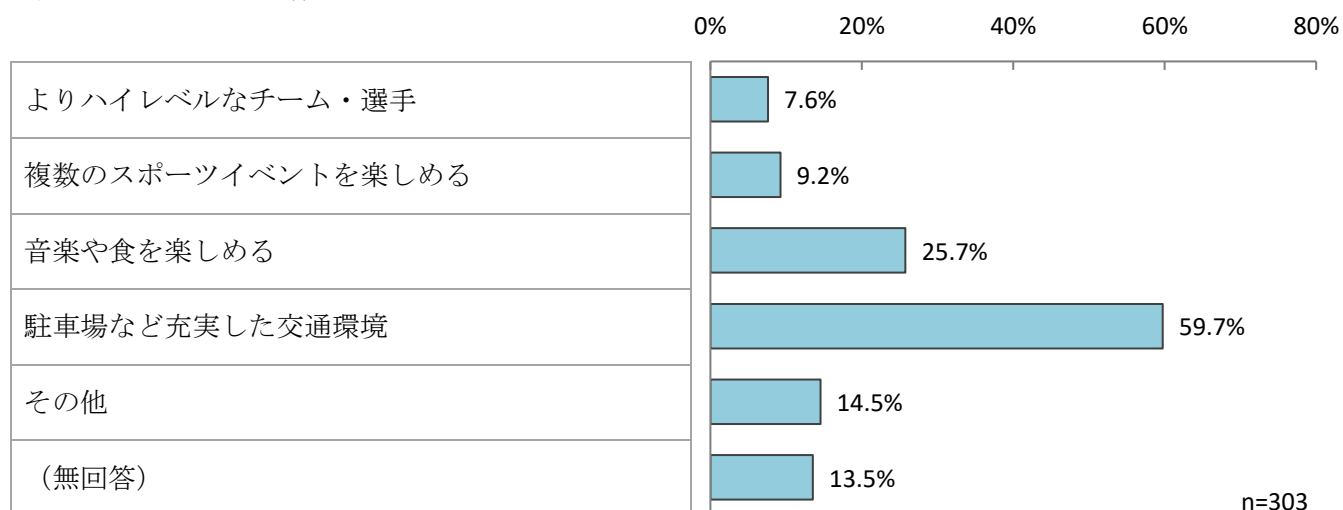
知っている大規模スポーツイベントを、会場で観戦したことがあるかについては、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム」が26.6%、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース ロードレース」が17.5%、「F I B A 3 x 3 ワールドツアー宇都宮オープナー」が17.2%、「宇都宮シクロクロス」が9.7%であった。(図Ⅳ－12－2)

(3) スポーツイベントを観戦するための要素

◇「駐車場など充実した交通環境」が約6割

問42	問41でいずれかに「ない」と回答した方にお伺いします。どのような要素があればスポーツイベントに行こうと思いますか。 (〇はいくつでも)	n=303
1	よりハイレベルなチーム・選手	7.6%
2	複数のスポーツイベントを楽しめる	9.2%
3	音楽や食を楽しめる	25.7%
4	駐車場など充実した交通環境	59.7%
5	その他	14.5%
	(無回答)	13.5%

<図IV-12-3>全体



スポーツイベントに行こうと思う要素については、「駐車場など充実した交通環境」が59.7%で最も高く、次いで「音楽や食を楽しめる」が25.7%であった。(図IV-12-3)

(4) スポーツに関する指導を行ってみたいか

◇「行いたくない」が6割強

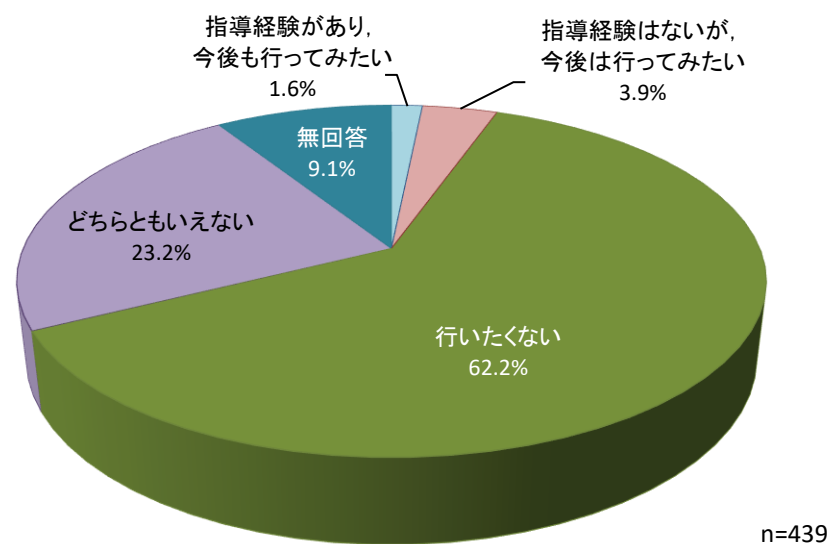
問 4 3 今後、スポーツに関する指導を行ってみたいと思いますか。

※ スポーツに関する指導経験とは、資格の有無に関係なく、個人や団体への技術的指導や監督・コーチなどの役割を担ったことがあるということを経験があるとしします。(○は1つ)

n=439

1	指導経験(※)があり、今後も行ってみたい	1.6%
2	指導経験はないが、今後は行ってみたい	3.9%
3	行いたくない	62.2%
4	どちらともいえない	23.2%
	(無回答)	9.1%

<図Ⅳ－1 2－4>全体



今後、スポーツに関する指導を行ってみたいかについては、「行いたくない」が62.2%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が23.2%であった。(図Ⅳ－1 2－4)

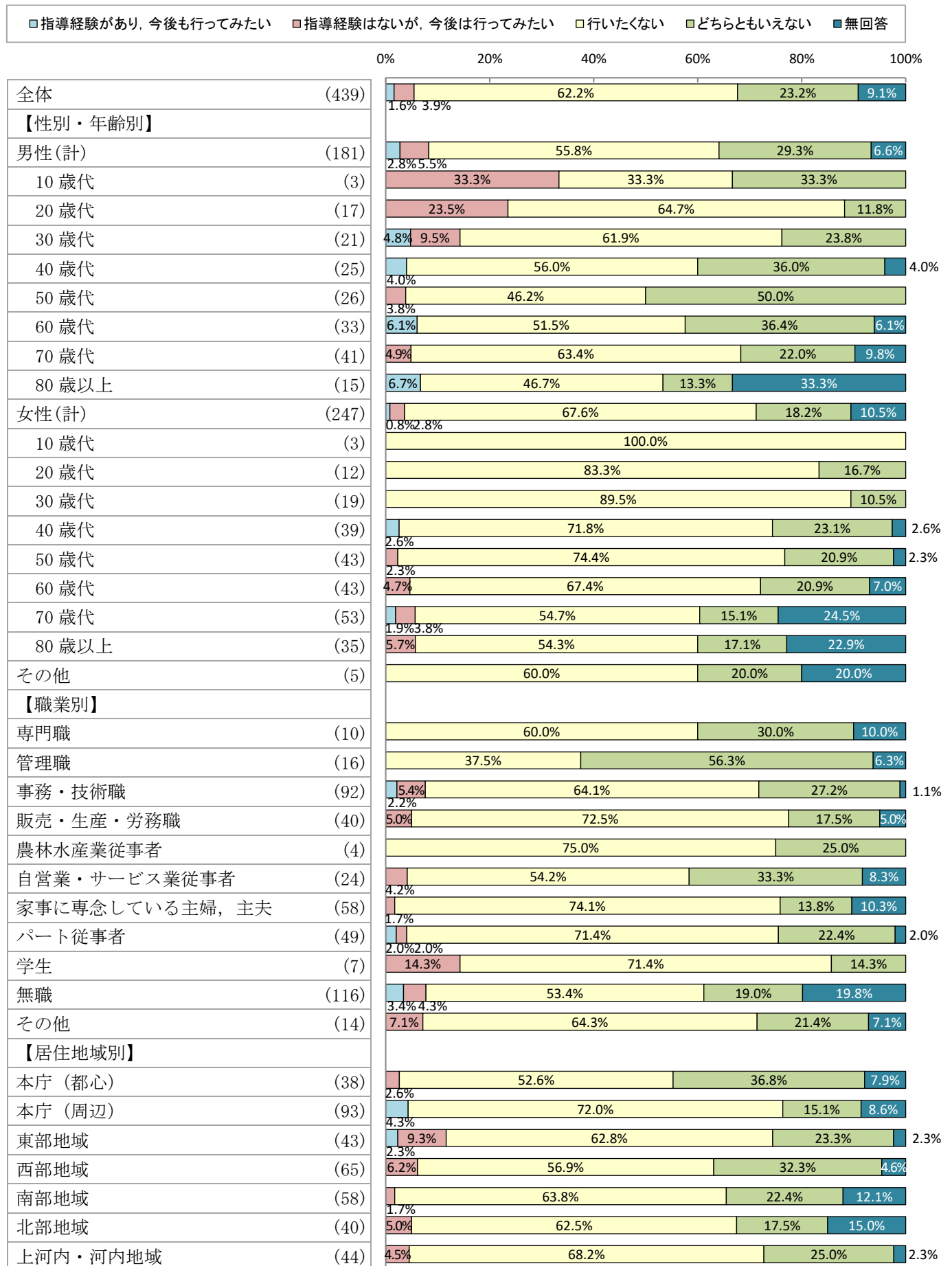
<参考>

性別・年齢別でみると、「行いたくない」は、＜女性10歳代＞が100.0%、＜女性30歳代＞が89.5%であった。「どちらともいえない」は＜男性50歳代＞が50.0%で最も高く、次いで＜男性60歳代＞が36.4%であった。(図Ⅳ－1 2－5)

職業別でみると、「行いたくない」は＜農林水産業従事者＞が75.0%で最も高く、＜家事に専念している主婦、主夫＞が74.1%であった。「どちらともいえない」は＜管理職＞が56.3%で最も高く、次いで＜自営業・サービス業従事者＞が33.3%であった。(図Ⅳ－1 2－5)

居住地域別でみると、「行いたくない」は＜本庁(周辺)＞が72.0%で最も高く、次いで＜上河内・河内地域＞が68.2%であった。「どちらともいえない」は＜本庁(都心)＞が36.8%で最も高く、次いで＜西部地域＞が32.3%であった。(図Ⅳ－1 2－5)

<図Ⅳ－１２－５>性別・年齢別／職業別／居住地域別



(5) アーバンスポーツに関心があるか

◇「まったく関心がない」が約5割

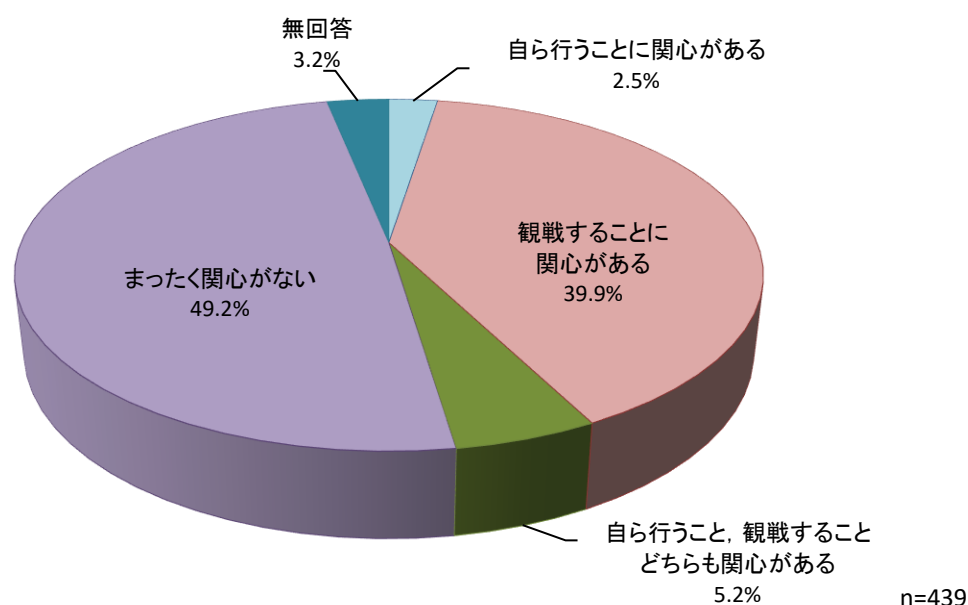
問44 アーバンスポーツ（※）に関心がありますか。

※ アーバンスポーツとは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技会」において採用された、スケートボード、スポーツクライミング、3人制バスケットボール、BMXなどをはじめとした、気軽に楽しめるような都市型スポーツのことです。（○は1つ）

n=439

1	自ら行うことに関心がある	2.5%
2	観戦することに関心がある	39.9%
3	自ら行うこと、観戦することどちらも関心がある	5.2%
4	まったく関心がない	49.2%
	（無回答）	3.2%

<図IV-12-6>全体



アーバンスポーツに関心があるかについては、「まったく関心がない」が49.2%で最も高く、次いで「観戦することに関心がある」が39.9%であった。（図IV-12-6）

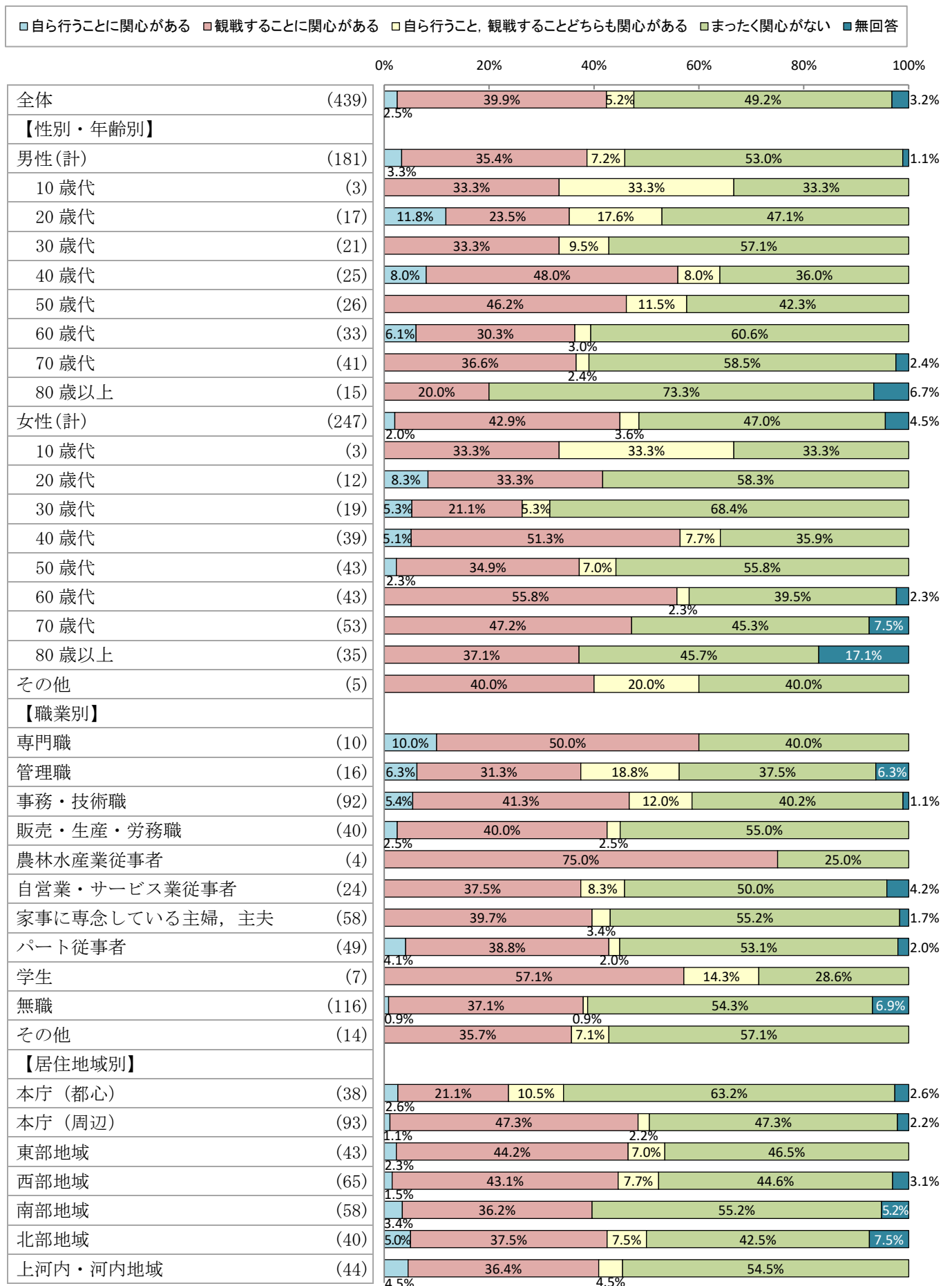
<参考>

性別・年齢別でみると、「まったく関心がない」は<男性 80歳以上>が73.3%で最も高く、次いで<女性 30歳代>が68.4%であった。「観戦することに関心がある」は<女性 60歳代>が55.8%で最も高く、次いで<女性 40歳代>が51.3%であった。（図IV-12-7）

職業別でみると、「まったく関心がない」は<その他>を除くと、<家事に専念している主婦、主夫>が55.2%で最も高く、<販売・生産・労務職>が55.0%であった。「観戦することに関心がある」は<農林水産業従事者>が75.0%で最も高く、次いで<学生>が57.1%であった。（図IV-12-7）

居住地域別でみると、「まったく関心がない」は<本庁（都心）>が63.2%で最も高く、次いで<南部地域>が55.2%であった。「観戦することに関心がある」は<本庁（周辺）>が47.3%で最も高く、次いで<東部地域>が44.2%であった。（図IV-12-7）

<図Ⅳ－１２－７>性別・年齢別／職業別／居住地域別



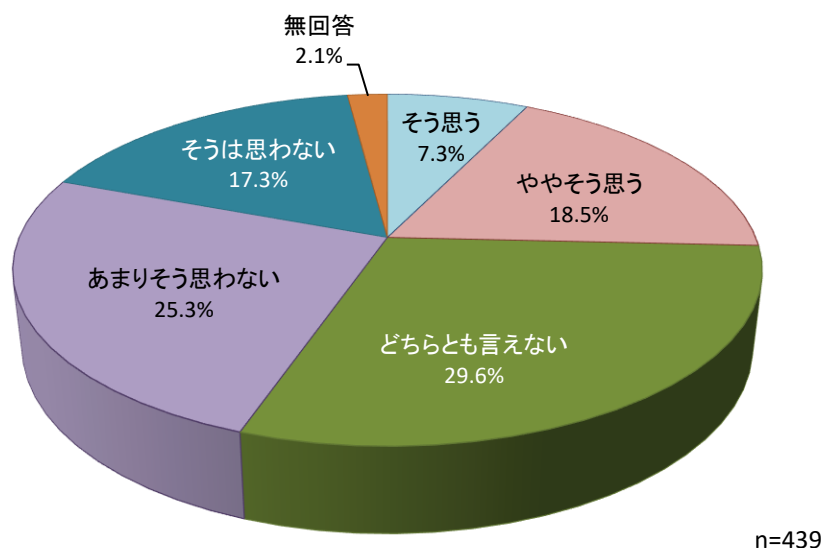
1 3. 自転車のまちづくりについて

(1) 自転車を使いやすいまちだと思うか

◇「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が2割半ば

問 4 5 宇都宮市は自転車を使いやすいまちだと思いますか。		(○は1つ)
		n=439
1	そう思う	7.3%
2	ややそう思う	18.5%
3	どちらとも言えない	29.6%
4	あまりそう思わない	25.3%
5	そうは思わない	17.3%
	(無回答)	2.1%

<図Ⅳ－1 3－1>全体



自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「そう思う」が7.3%、「ややそう思う」が18.5%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は25.8%であった。一方、「あまりそう思わない」が25.3%、「そうは思わない」が17.3%で、これらを合わせた【そう思わない（計）】は42.6%であった。（図Ⅳ－1 3－1）

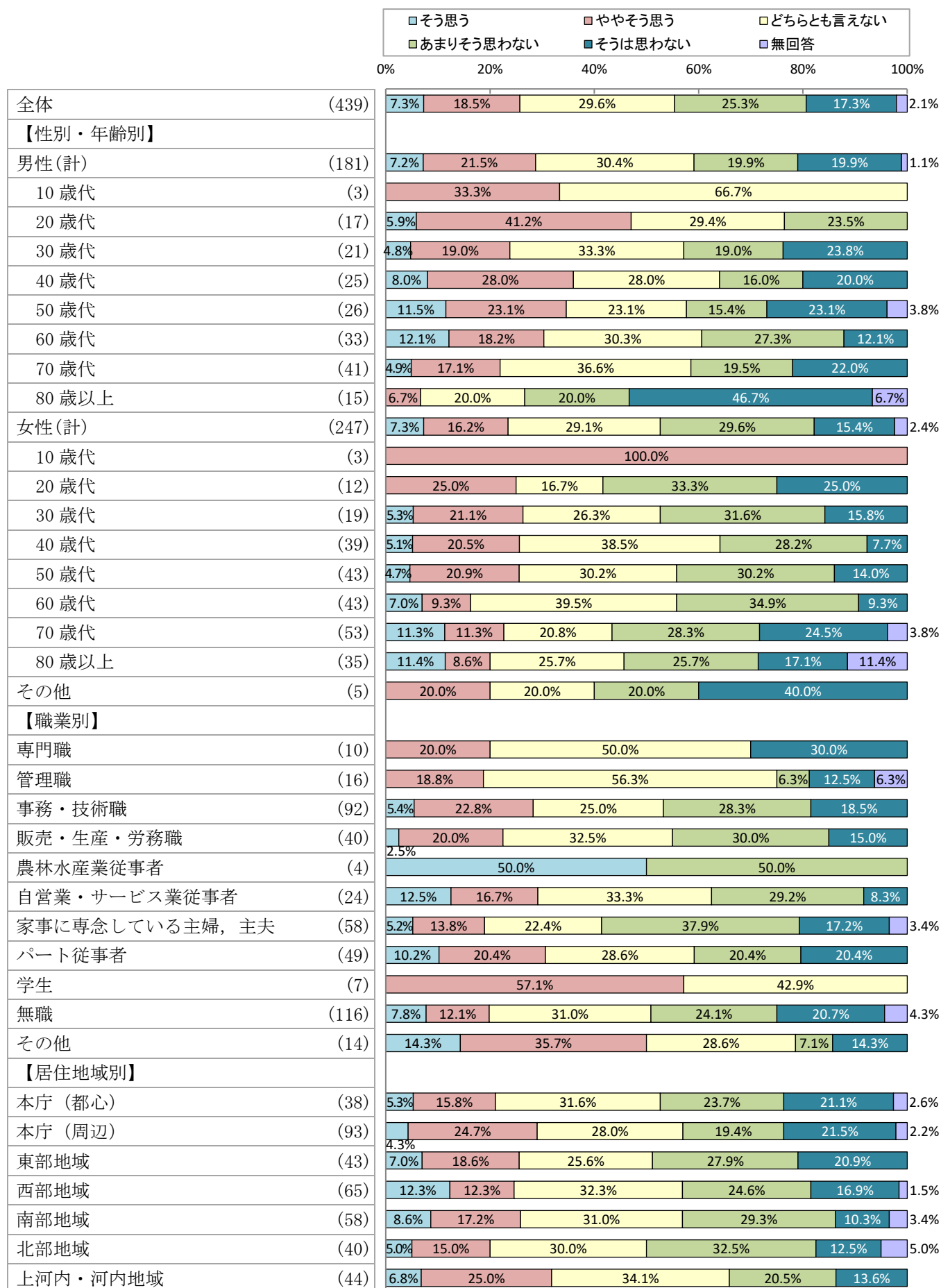
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は＜女性10歳代＞が100.0%、＜男性20歳代＞が47.1%であった。【そう思わない（計）】は＜その他＞を除くと、＜男性80歳以上＞が66.7%で最も高く、次いで＜女性20歳代＞が58.3%であった。（図Ⅳ－1 3－2）

職業別でみると、【そう思う（計）】は、＜その他＞を除くと、＜学生＞が57.1%で最も高く、＜農林水産業従事者＞が50.0%であった。【そう思わない（計）】は＜家事に専念している主婦、主夫＞が55.1%で最も高く、次いで＜農林水産業従事者＞が50.0%であった。（図Ⅳ－1 3－2）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は＜上河内・河内地域＞が31.8%で最も高く、次いで＜本庁（周辺）＞が29.0%であった。【そう思わない（計）】は＜東部地域＞が48.8%で最も高く、次いで＜北部地域＞が45.0%であった。（図Ⅳ－1 3－2）

<図Ⅳ－１３－２>性別・年齢別／職業別／居住地域別

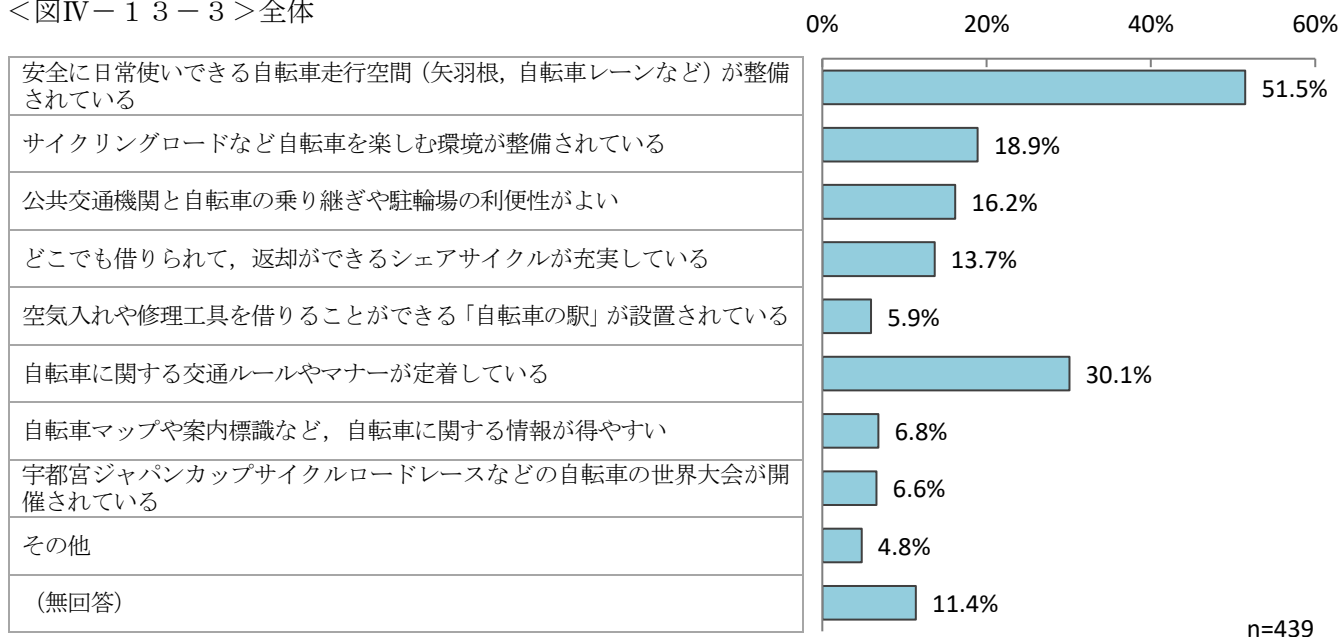


(2) 魅力ある「自転車のまち」を推奨していく上で必要な取組

◇「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」が5割強

問46 魅力ある「自転車のまち」を推進していく上で、必要な取組は何だと思いますか。		(○は2つまで) n=439
1	安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている	51.5%
2	サイクリングロードなど自転車を楽しむ環境が整備されている	18.9%
3	公共交通機関と自転車の乗り継ぎや駐輪場の利便性がよい	16.2%
4	どこでも借りられて、返却ができるシェアサイクルが充実している	13.7%
5	空気入れや修理工具を借りることができる「自転車の駅」が設置されている	5.9%
6	自転車に関する交通ルールやマナーが定着している	30.1%
7	自転車マップや案内標識など、自転車に関する情報が得やすい	6.8%
8	宇都宮ジャパンカップサイクルロードレースなどの自転車の世界大会が開催されている	6.6%
9	その他	4.8%
	(無回答)	11.4%

<図IV-13-3>全体



魅力ある「自転車のまち」を推進していく上で、必要な取組については、「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」が51.5%で最も高く、次いで「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」が30.1%、「サイクリングロードなど自転車を楽しむ環境が整備されている」が18.9%と続いた。(図IV-13-3)

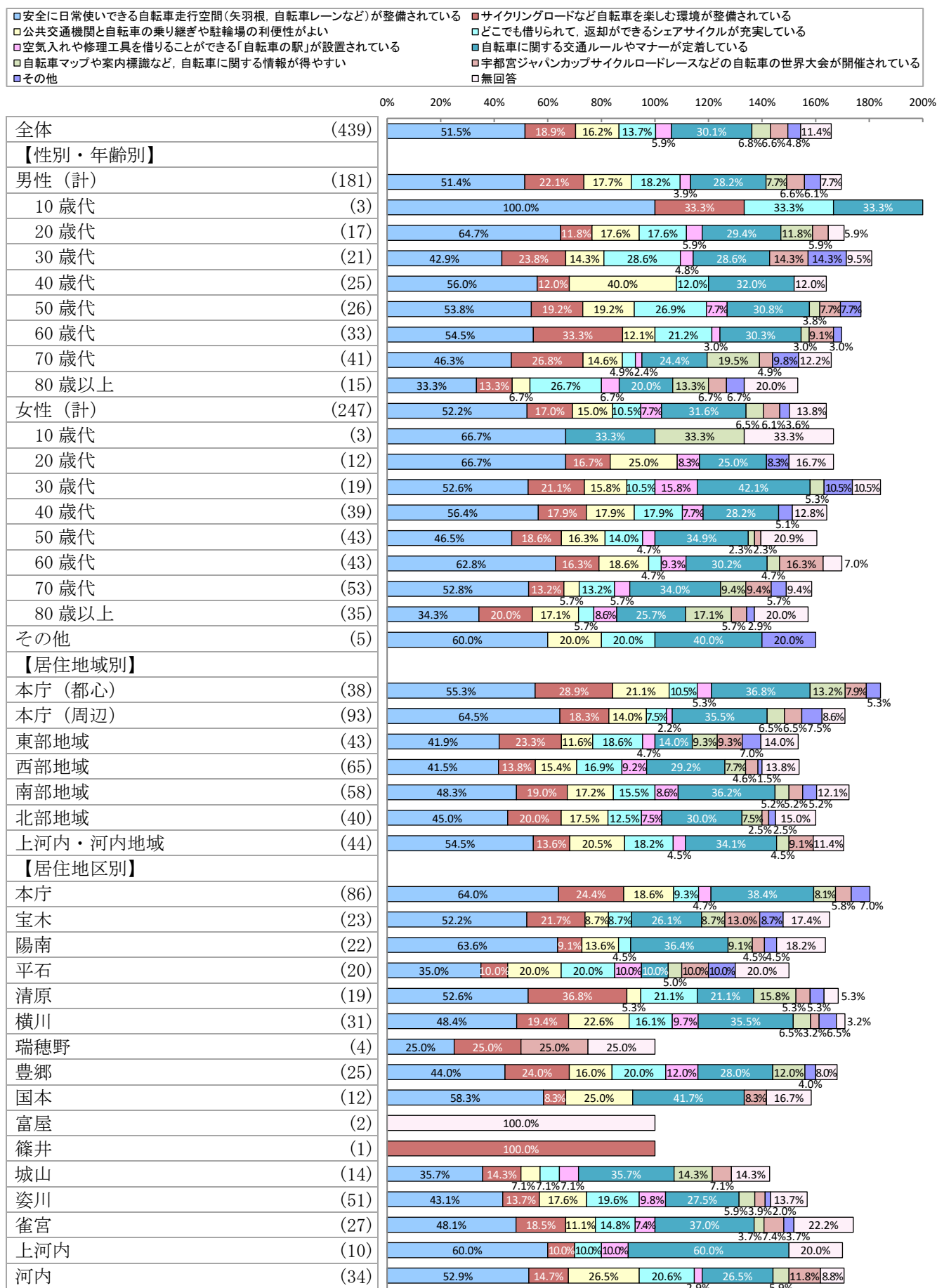
<参考>

性別・年齢別でみると、「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」は、＜男性10歳代＞が100.0%、＜女性10・20歳代＞がいずれも66.7%であった。「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」は＜その他＞を除くと、＜女性30歳代＞が42.1%で最も高く、次いで＜女性50歳代＞が34.9%であった。(図IV-13-4)

居住地域別でみると、「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」は＜本庁（周辺）＞が64.5%で最も高く、次いで＜本庁（都心）＞が55.3%であった。「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」は＜本庁（都心）＞が36.8%で最も高く、次いで＜南部地域＞が36.2%であった。(図IV-13-4)

居住地区別でみると、「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」は＜本庁＞が64.0%で最も高く、次いで＜陽南＞が63.6%であった。「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」は＜上河内＞が60.0%で最も高く、次いで＜国本＞が41.7%であった。(図IV-13-4)

<図Ⅳ－１３－４>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別



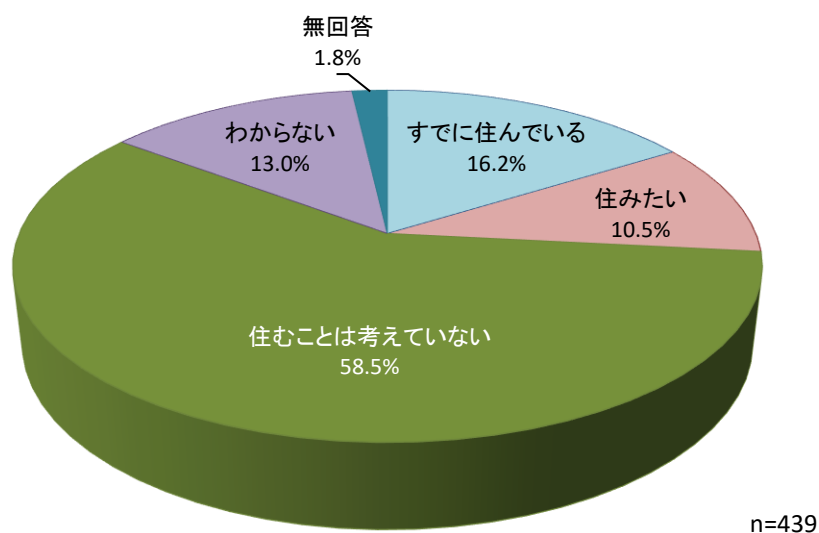
1 4. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に住みたいと思うか

◇「住むことは考えていない」が約6割

問 4 7 あなたは、中心市街地に住みたいと思いますか。		(○は1つ)
		n=439
1	すでに住んでいる	16.2%
2	住みたい	10.5%
3	住むことは考えていない	58.5%
4	わからない	13.0%
	(無回答)	1.8%

<図Ⅳ－1 4－1 全体>



中心市街地に住みたいと思うかについては、「住むことは考えていない」が 58.5%で最も高く、次いで「すでに住んでいる」が 16.2%であった。(図Ⅳ－1 4－1)

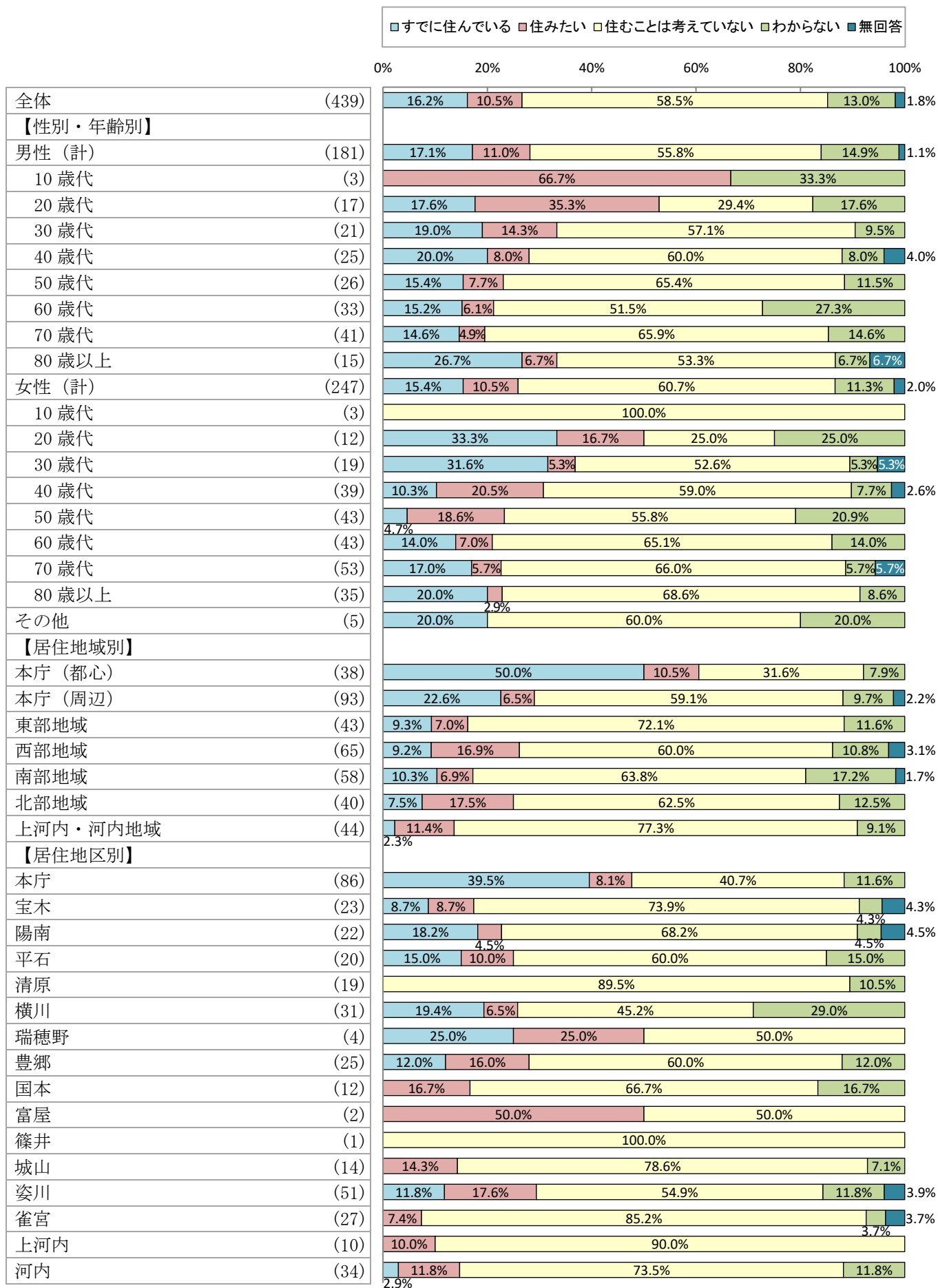
<参考>

性別・年齢別でみると、「住むことは考えていない」は、＜女性 10 歳代＞が 100.0%、＜女性 80 歳以上＞が 68.6%であった。「すでに住んでいる」は＜女性 20 歳代＞が 33.3%で最も高く、次いで＜女性 30 歳代＞が 31.6%であった。(図Ⅳ－1 4－2)

居住地域別でみると、「住むことは考えていない」は＜上河内・河内地域＞が 77.3%で最も高く、次いで＜東部地域＞が 72.1%であった。「すでに住んでいる」は＜本庁（都心）＞が 50.0%で最も高く、次いで＜本庁（周辺）＞が 22.6%であった。(図Ⅳ－1 4－2)

居住地区別でみると、「住むことは考えていない」は＜篠井＞が 100.0%、＜上河内＞が 90.0%であった。(図Ⅳ－1 4－2)

<図Ⅳ－１４－２>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別

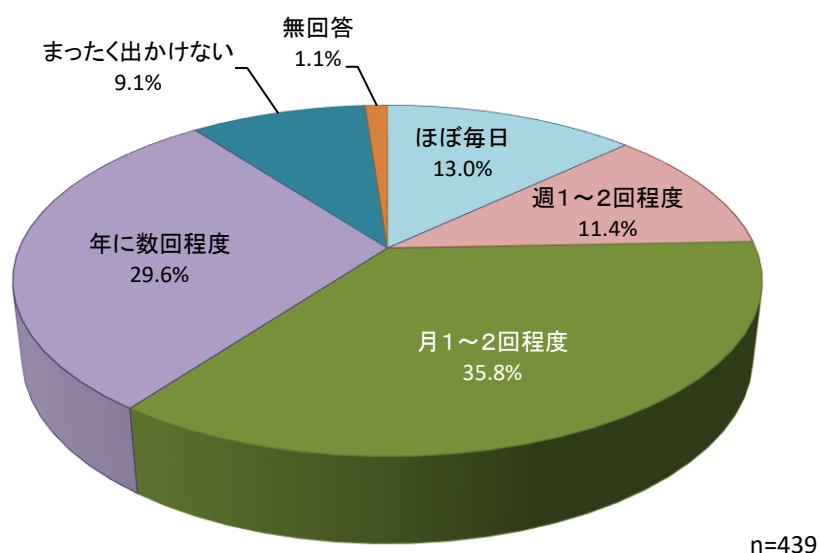


(2) 中心市街地に出かける頻度

◇「月１～２回程度」が３割半ば

問４８ あなたは、中心市街地にどのくらいの頻度で出かけますか。		(○は１つ)
		n=439
1	ほぼ毎日	13.0%
2	週１～２回程度	11.4%
3	月１～２回程度	35.8%
4	年に数回程度	29.6%
5	まったく出かけない	9.1%
	(無回答)	1.1%

<図Ⅳ－１４－３>全体



中心市街地にどのくらいの頻度で出かけるかについては、「月１～２回程度」が 35.8%で最も高く、次いで「年に数回程度」が 29.6%であった。(図Ⅳ－１４－３)

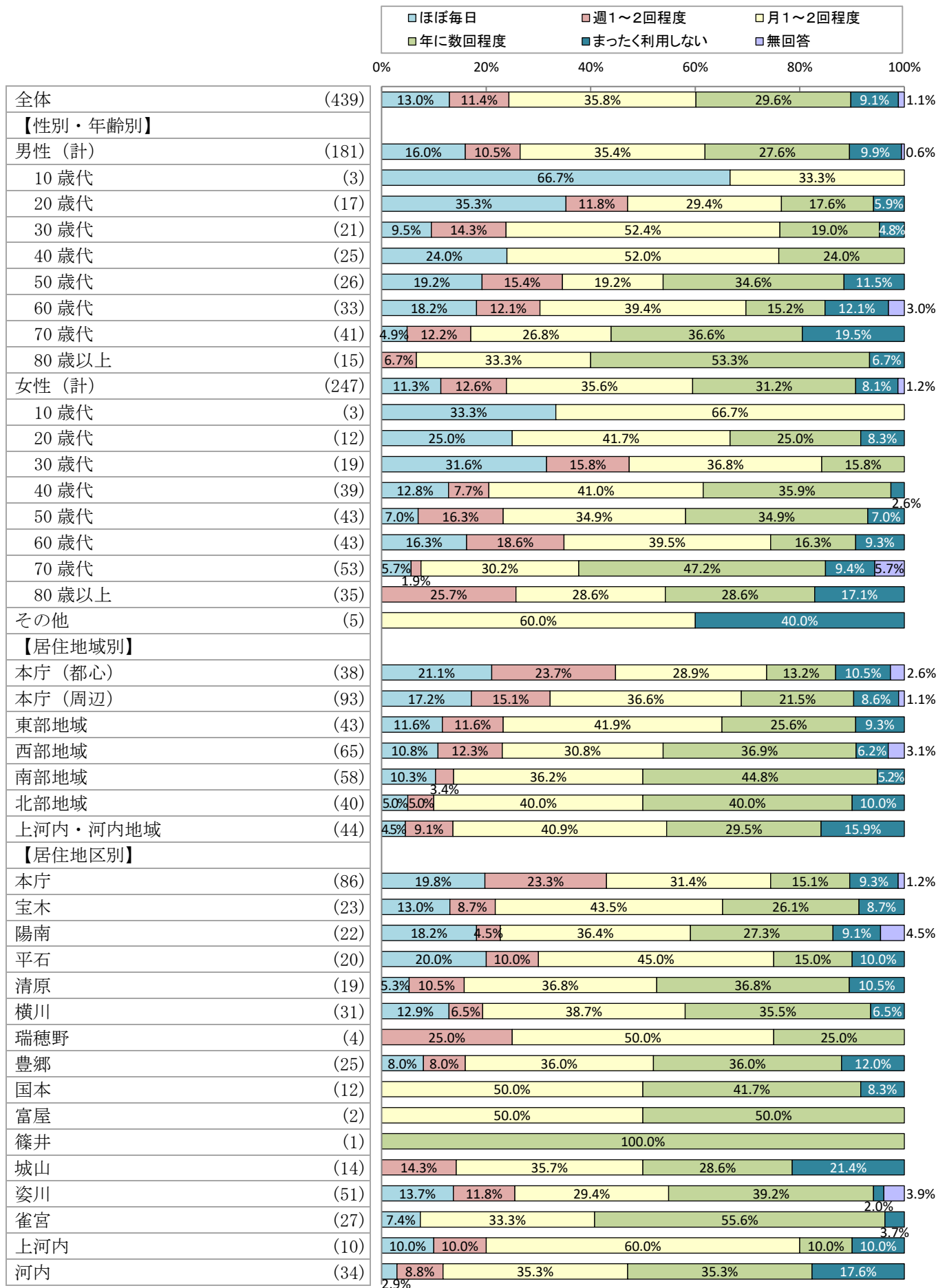
<参考>

性別・年齢別でみると、「月１～２回程度」は<その他>を除くと、<女性 10 歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<男性 30 歳代>が 52.4%であった。「年に数回程度」は<男性 80 歳以上>が 53.3%で最も高く、次いで<女性 70 歳代>が 47.2%であった。(図Ⅳ－１４－４)

居住地域別でみると、「月１～２回程度」は<東部地域>が 41.9%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が 40.9%であった。「年に数回程度」は<南部地域>が 44.8%で最も高く、次いで<北部地域>が 40.0%であった。(図Ⅳ－１４－４)

居住地区別でみると、「月１～２回程度」は<上河内>が 60.0%で最も高く、次いで<瑞穂野><国本><富屋>がいずれも 50.0%であった。「年に数回程度」は<篠井>が 100.0%、<雀宮>が 55.6%であった。(図Ⅳ－１４－４)

<図Ⅳ－１４－４>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別

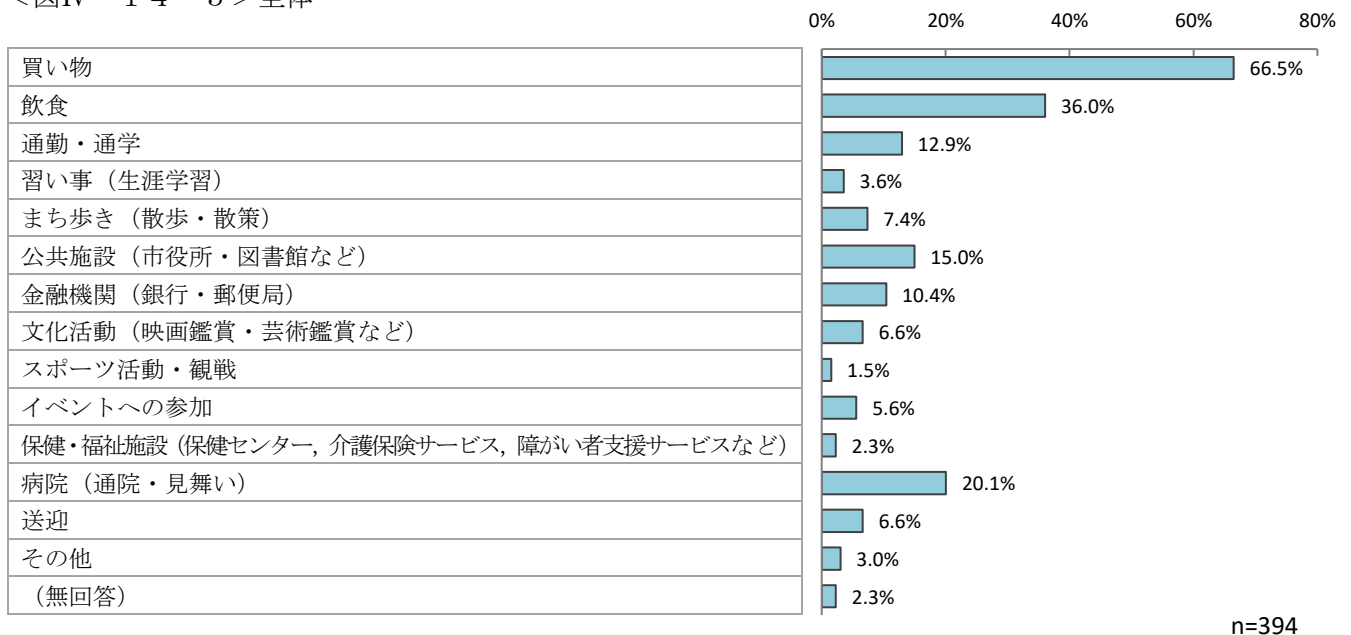


(3) 中心市街地へ出かける目的

◇「買い物」が7割弱

問49	問48で「1 ほぼ毎日」、「2 週1～2回程度」、「3 月1～2回程度」、「4 年に数回程度」と回答した方にお聞きします。あなたが中心市街地に出かける主な目的は何ですか。 (○は3つまで)	n=394
1	買い物	66.5%
2	飲食	36.0%
3	通勤・通学	12.9%
4	習い事(生涯学習)	3.6%
5	まち歩き(散歩・散策)	7.4%
6	公共施設(市役所・図書館など)	15.0%
7	金融機関(銀行・郵便局)	10.4%
8	文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)	6.6%
9	スポーツ活動・観戦	1.5%
10	イベントへの参加	5.6%
11	保健・福祉施設(保健センター、介護保険サービス、障がい者支援サービスなど)	2.3%
12	病院(通院・見舞い)	20.1%
13	送迎	6.6%
14	その他 (無回答)	3.0% 2.3%

<図IV-14-5>全体



中心市街地に出かける目的については、1位が「買い物」で66.5%、2位「飲食」で36.0%、3位「病院(通院・見舞い)」で20.1%、4位「公共施設(市役所・図書館など)」で15.0%、5位「通勤・通学」で12.9%、6位「金融機関(銀行・郵便局)」で10.4%と続いた。(図IV-14-5)

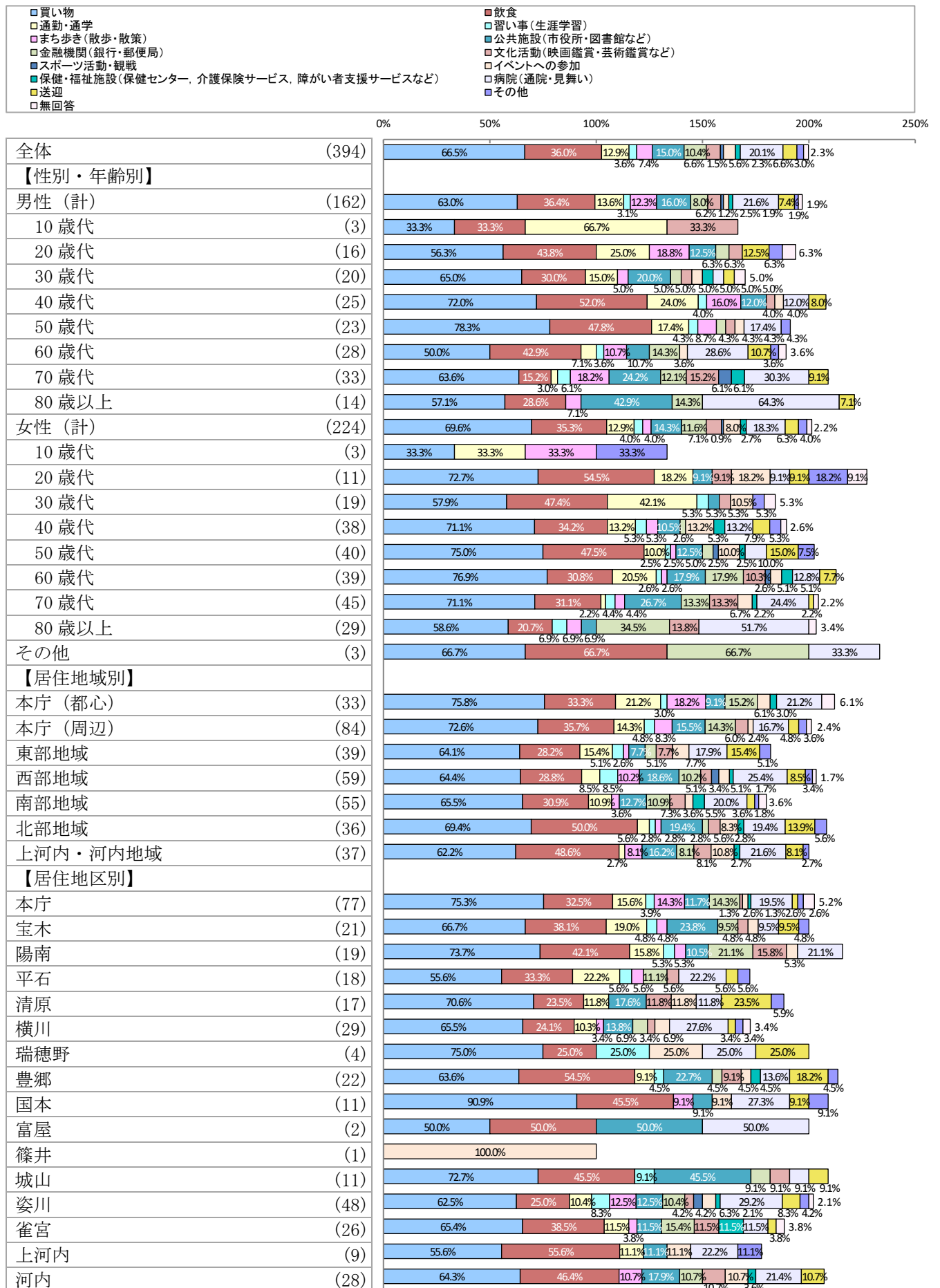
<参考>

性別・年齢別でみると、「買い物」は<男性 50 歳代>が78.3%で最も高く、次いで<女性 60 歳代>が76.9%であった。「飲食」は<その他>を除くと、<女性 20 歳代>が54.5%で最も高く、次いで<男性 40 歳代>が52.0%であった。(図IV-14-6)

居住地域別でみると、「買い物」は<本庁(都心)>が75.8%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が72.6%であった。「飲食」は<北部地域>が50.0%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が48.6%であった。(図IV-14-6)

居住地区別でみると、「買い物」は<国本>が90.9%で最も高く、次いで<本庁>が75.3%であった。「飲食」は<上河内>が55.6%で最も高く、次いで<豊郷>が54.5%であった。(図IV-14-6)

<図Ⅳ－１４－６>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別

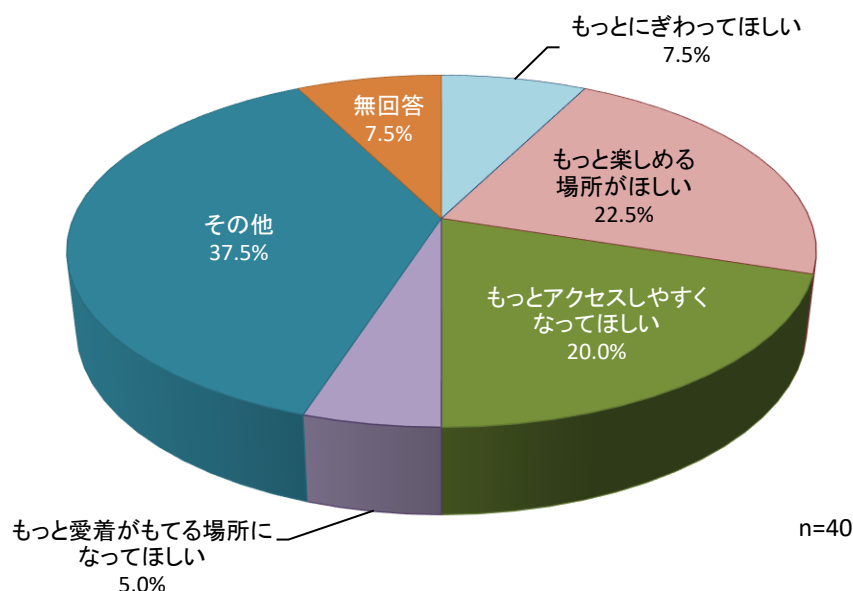


(4) 街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか

◇「もっと楽しめる場所がほしい」が2割強

問50	問48で「5 まったく出かけない」と回答した方にお聞きします。街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなりますか。	(○は1つ) n=40
1	もっとにぎわってほしい	7.5%
2	もっと楽しめる場所がほしい	22.5%
3	もっとアクセスしやすくなってほしい	20.0%
4	もっと愛着がもてる場所になってほしい	5.0%
5	その他	37.5%
	(無回答)	7.5%

<図IV-14-7>全体



街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるかについては、その他を除くと、「もっと楽しめる場所がほしい」が22.5%で最も高く、次いで「もっとアクセスしやすくなってほしい」が20.0%であった。

(図IV-14-7)

<参考>

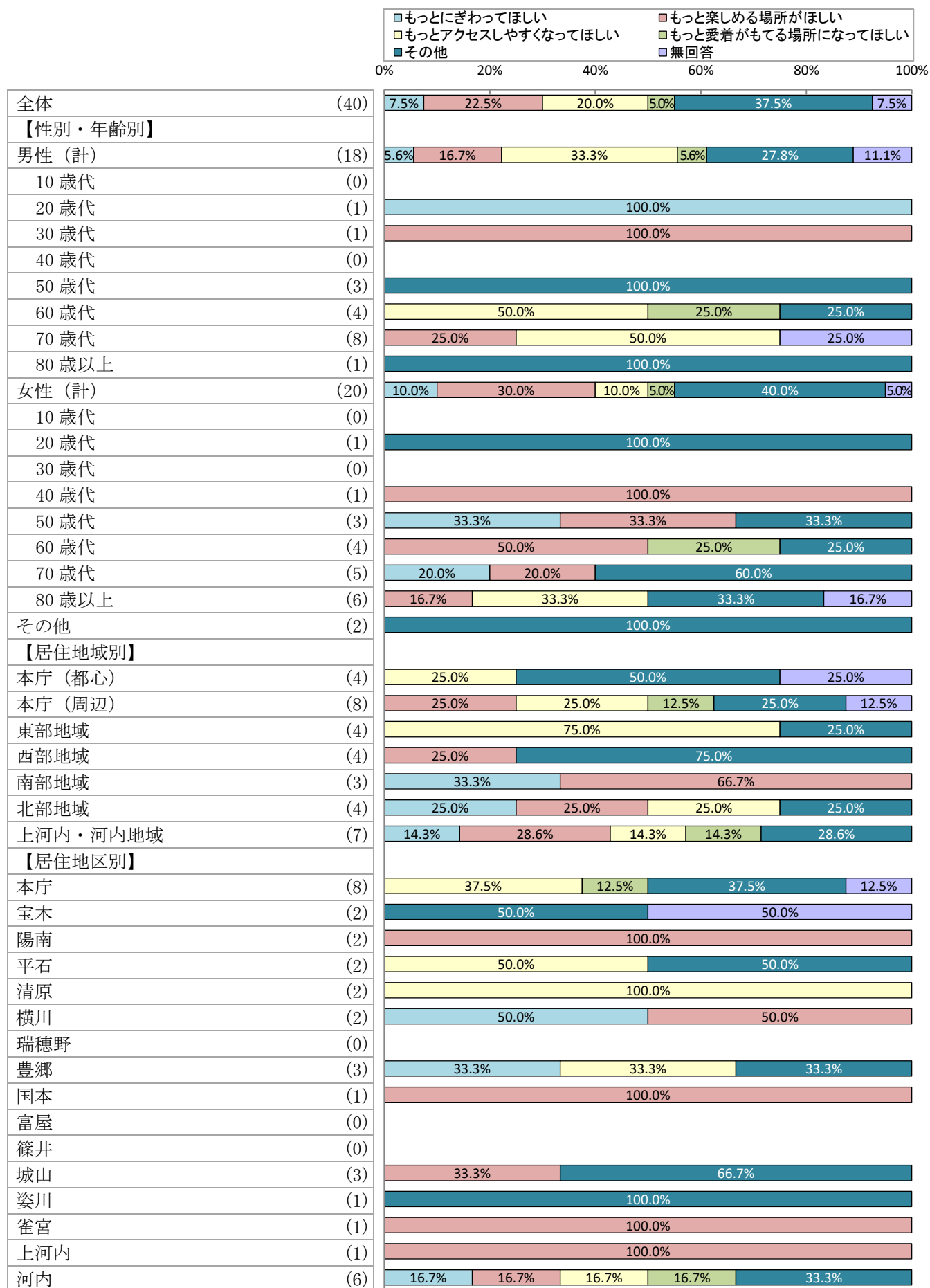
性別・年齢別でみると、「もっと楽しめる場所がほしい」は、＜男性30歳代＞＜女性40歳代＞が100.0%、＜女性60歳代＞が50.0%であった。「もっとアクセスしやすくなってほしい」は＜男性60・70歳代＞が50.0%で最も高く、次いで＜女性80歳以上＞が33.3%であった。(図IV-14-8)

居住地域別でみると、「もっと楽しめる場所がほしい」は＜南部地域＞が66.7%で最も高く、次いで＜上河内・河内地域＞が28.6%であった。「もっとアクセスしやすくなってほしい」は＜東部地域＞が75.0%で最も高く、次いで＜本庁(都心)＞＜本庁(周辺)＞＜北部地域＞がいずれも25.0%であった。

(図IV-14-8)

居住地区別でみると、「もっと楽しめる場所がほしい」は＜陽南＞＜国本＞＜雀宮＞＜上河内＞がいずれも100.0%、＜横川＞が50.0%であった。「もっとアクセスしやすくなってほしい」は＜清原＞が100.0%、＜平石＞が50.0%であった。(図IV-14-8)

<図Ⅳ－１４－８>性別・年齢別／居住地域別／居住地区別



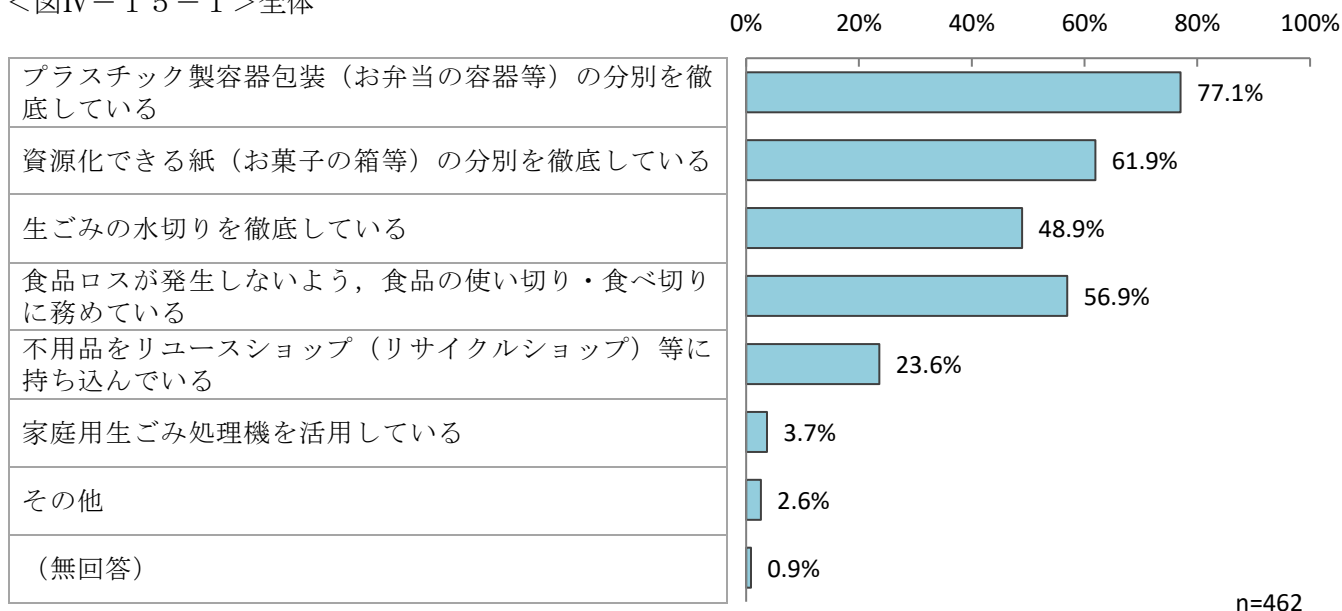
15. 焼却ごみ削減の取組について

(1) 焼却ごみ削減のため実施した取組

◇「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」が8割弱

問51	あなたは、焼却ごみの削減のため、どのような取組を実施していますか。（○はいくつでも）	n=462
1	プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している	77.1%
2	資源化できる紙（お菓子の箱等）の分別を徹底している	61.9%
3	生ごみの水切りを徹底している	48.9%
4	食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに務めている	56.9%
5	不用品をリユースショップ（リサイクルショップ）等に持ち込んでいる	23.6%
6	家庭用生ごみ処理機を活用している	3.7%
7	その他	2.6%
	（無回答）	0.9%

<図IV-15-1>全体



焼却ごみ削減のため実施している取組については、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」が77.1%で最も高く、次いで「資源化できる紙（お菓子の箱等）の分別を徹底している」が61.9%、「食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに務めている」が56.9%と続いた。（図IV-15-1）

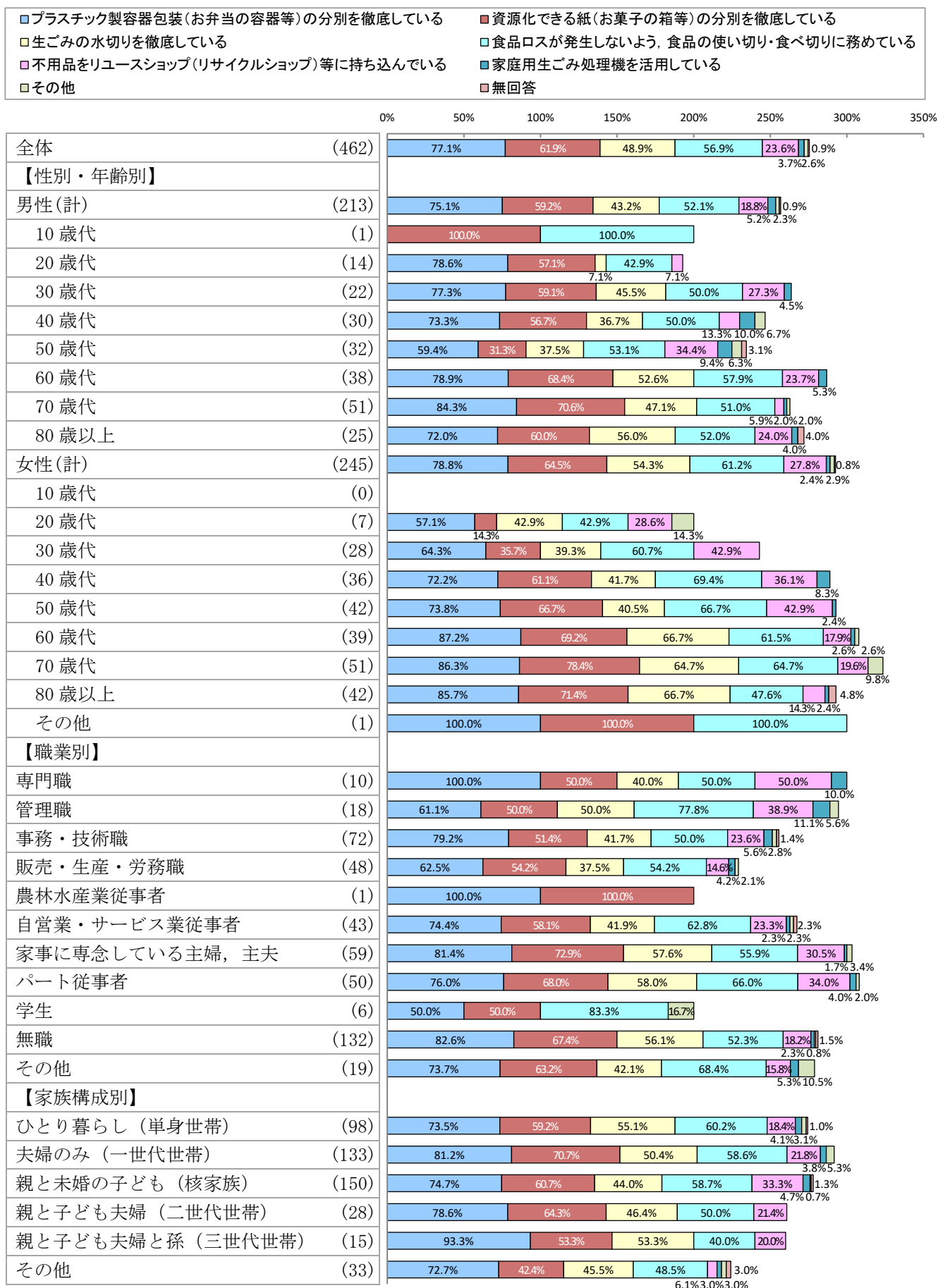
<参考>

性別・年齢別でみると、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」は<その他>を除くと、<女性60歳代>が87.2%で最も高く、次いで<女性70歳代>が86.3%であった。（図IV-15-2）

職業別でみると、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」は<専門職><農林水産業従事者>がいずれも100.0%、<無職>が82.6%であった。（図IV-15-2）

家族構成別でみると、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が93.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が81.2%であった。（図IV-15-2）

<図Ⅳ－１５－２>性別・年齢別／職業別／家族構成別

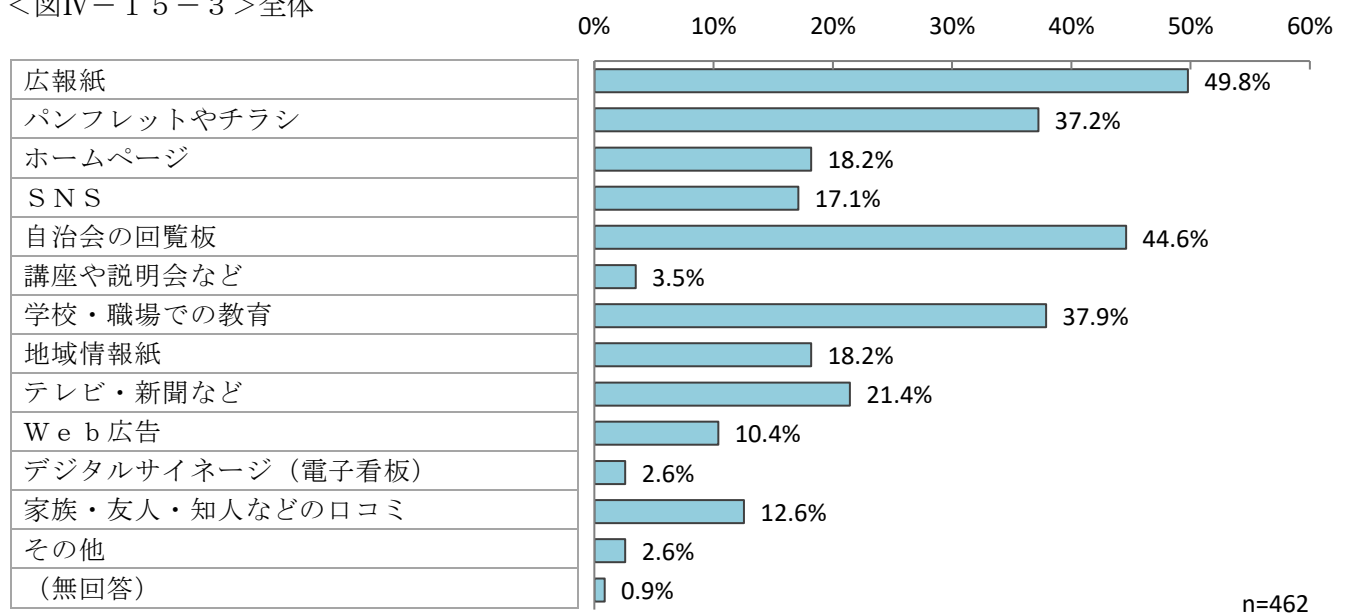


(2) 焼却ごみ削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組

◇「広報紙」が約5割

問 5 2 焼却ごみの削減や資源物の分別の周知方法として、有効な取組はどれだと思いますか。 (〇はいくつでも)		
		n=462
1	広報紙	49.8%
2	パンフレットやチラシ	37.2%
3	ホームページ	18.2%
4	S N S	17.1%
5	自治会の回覧板	44.6%
6	講座や説明会など	3.5%
7	学校・職場での教育	37.9%
8	地域情報紙	18.2%
9	テレビ・新聞など	21.4%
10	W e b 広告	10.4%
11	デジタルサイネージ（電子看板）	2.6%
12	家族・友人・知人などの口コミ	12.6%
13	その他	2.6%
	(無回答)	0.9%

<図Ⅳ－15－3>全体



焼却ごみの削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組については、1位が「広報紙」で49.8%、2位「自治会の回覧板」が44.6%、3位「学校・職場での教育」が37.9%、4位「パンフレットやチラシ」が37.2%、5位「テレビ・新聞など」が21.4%であった。（図Ⅳ－15－3）

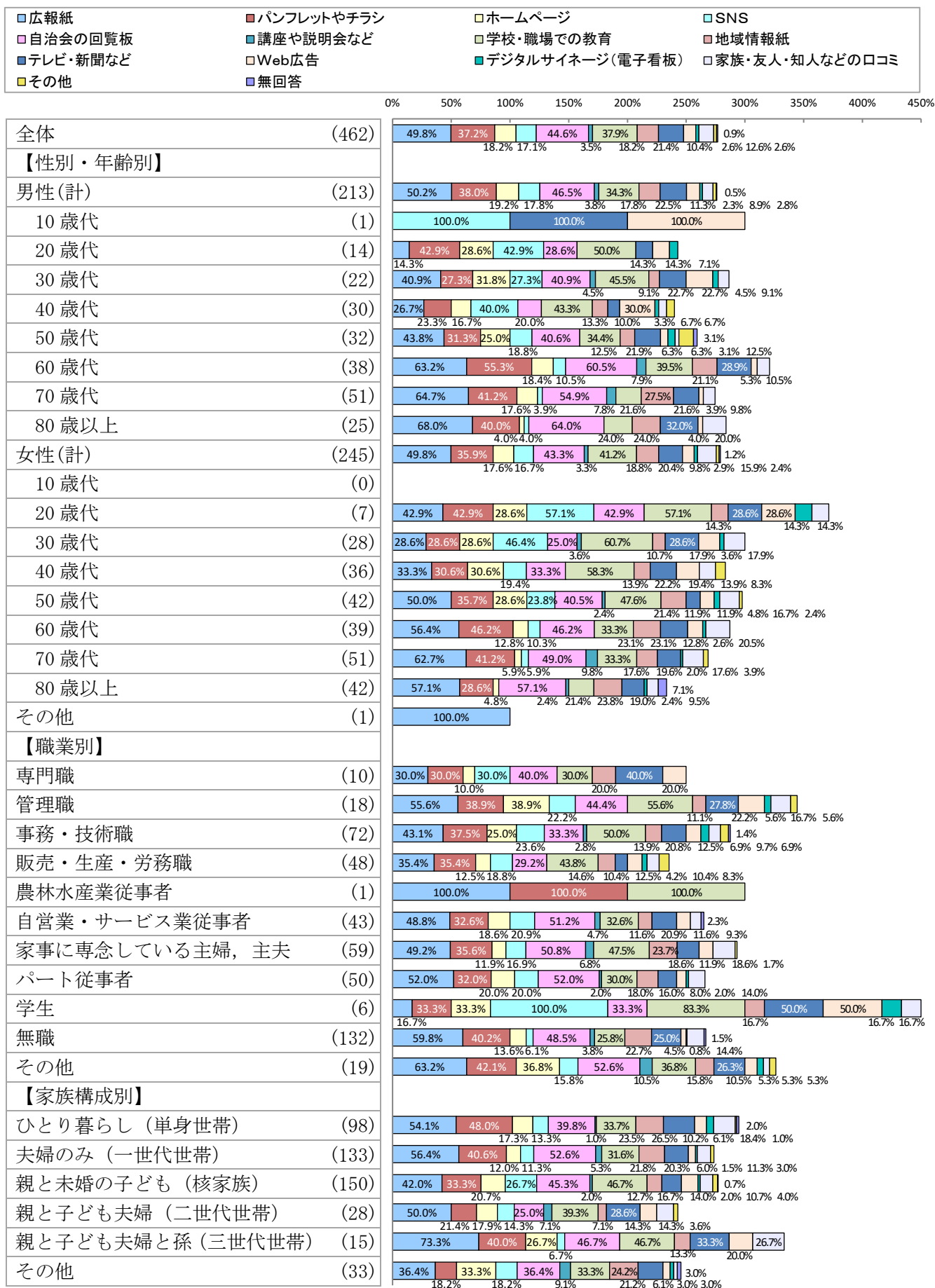
<参考>

性別・年齢別でみると、「広報紙」は<その他>を除くと、<男性 80 歳以上>が68.0%で最も高く、次いで<男性 70 歳代>が64.7%であった。（図Ⅳ－15－4）

職業別でみると、「広報紙」は<その他>を除くと、<農林水産業従事者>が100.0%、<無職>が59.8%であった。（図Ⅳ－15－4）

家族構成別でみると、「広報紙」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が73.3%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世帯世帯）>が56.4%であった。（図Ⅳ－15－4）

<図IV－１５－４>性別・年齢別／職業別／家族構成別



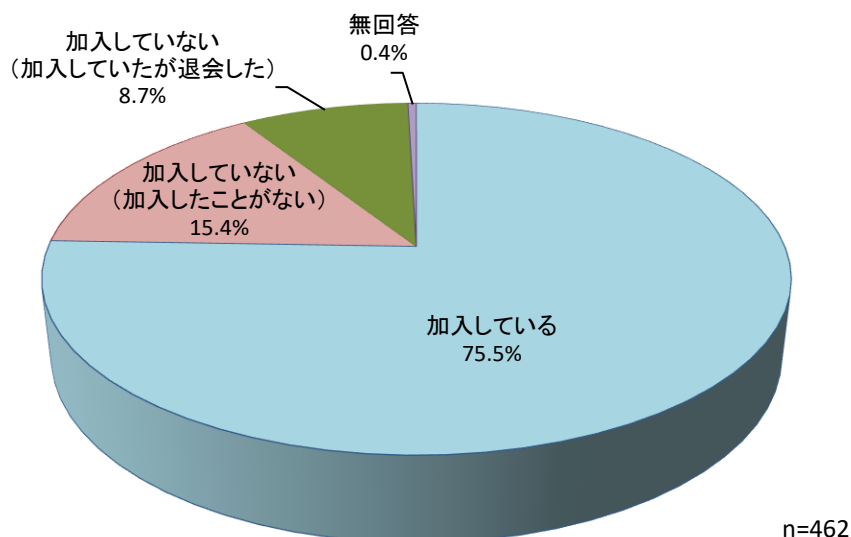
16. 自治会について

(1) 自治会に加入しているか

◇「加入している」が7割半ば

問53	本市では、防犯灯やごみステーションの維持管理をはじめ、地域の安全・安心を担い、顔の見える関係づくりを行う自治会を支援しています。あなた（あなたの世帯）は、自治会に加入していますか。	(○は1つ)
		n=462
1	加入している	75.5%
2	加入していない（加入したことがない）	15.4%
3	加入していない（加入していたが退会した）	8.7%
	（無回答）	0.4%

<図Ⅳ－16－1>全体



自治会に加入しているかについては、「加入している」が75.5%であった。一方、「加入していない（加入したことがない）」が15.4%、「加入していない（加入していたが退会した）」が8.7%であった。

（図Ⅳ－16－1）

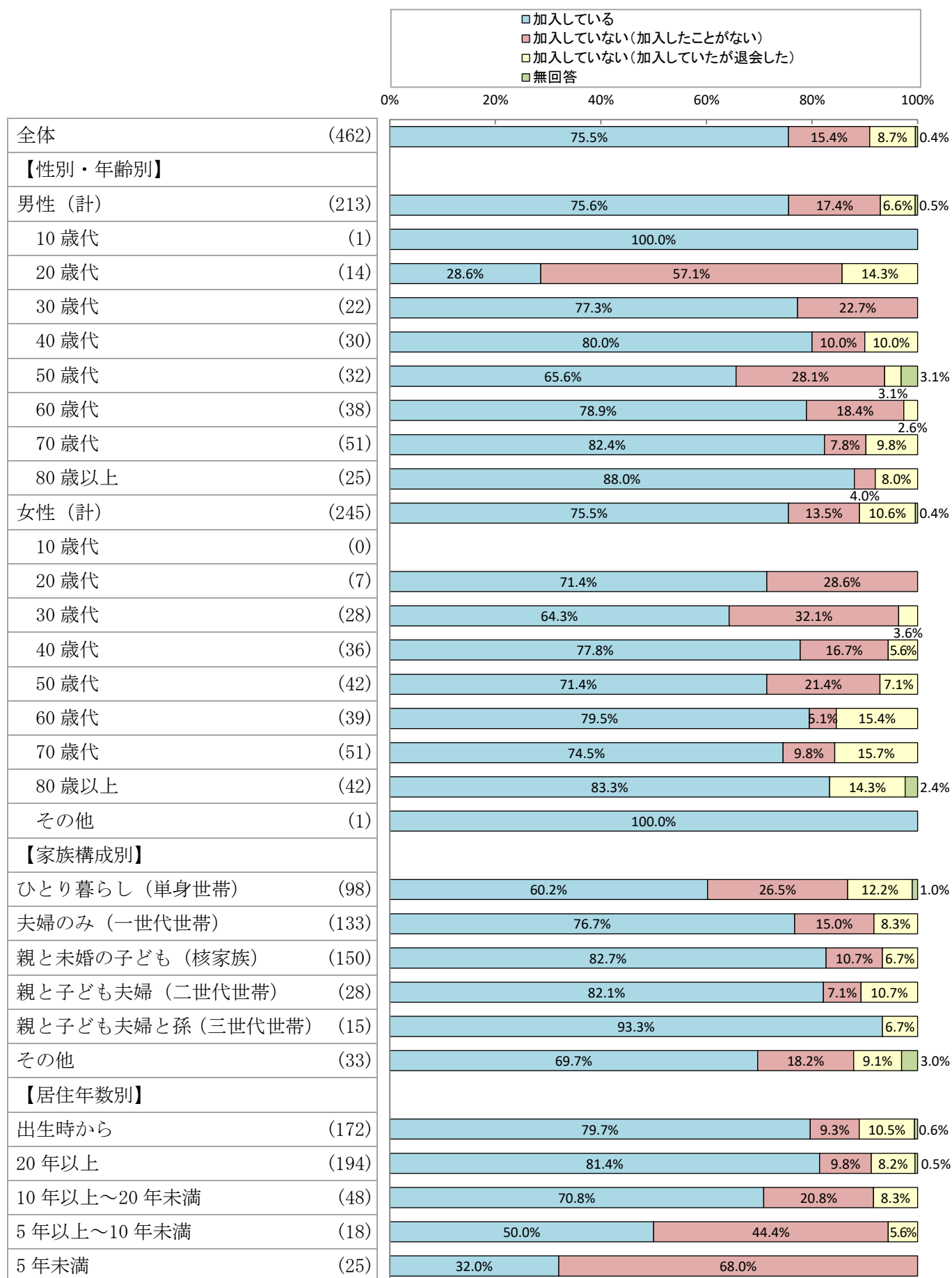
<参考>

性別・年齢別でみると、「加入している」は<その他>を除くと、<男性10歳代>が100.0%、<男性80歳以上>が88.0%、<女性80歳以上>が83.3%、<男性70歳代>82.4%と続いた。（図Ⅳ－16－2）

家族構成別でみると、「加入している」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が93.3%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が82.7%であった。（図Ⅳ－16－2）

居住年数別でみると、「加入している」は<20年以上>が81.4%で最も高く、次いで<出生時から>が79.7%であった。（図Ⅳ－16－2）

<図Ⅳ－１６－２>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



(2) 加入したきっかけ

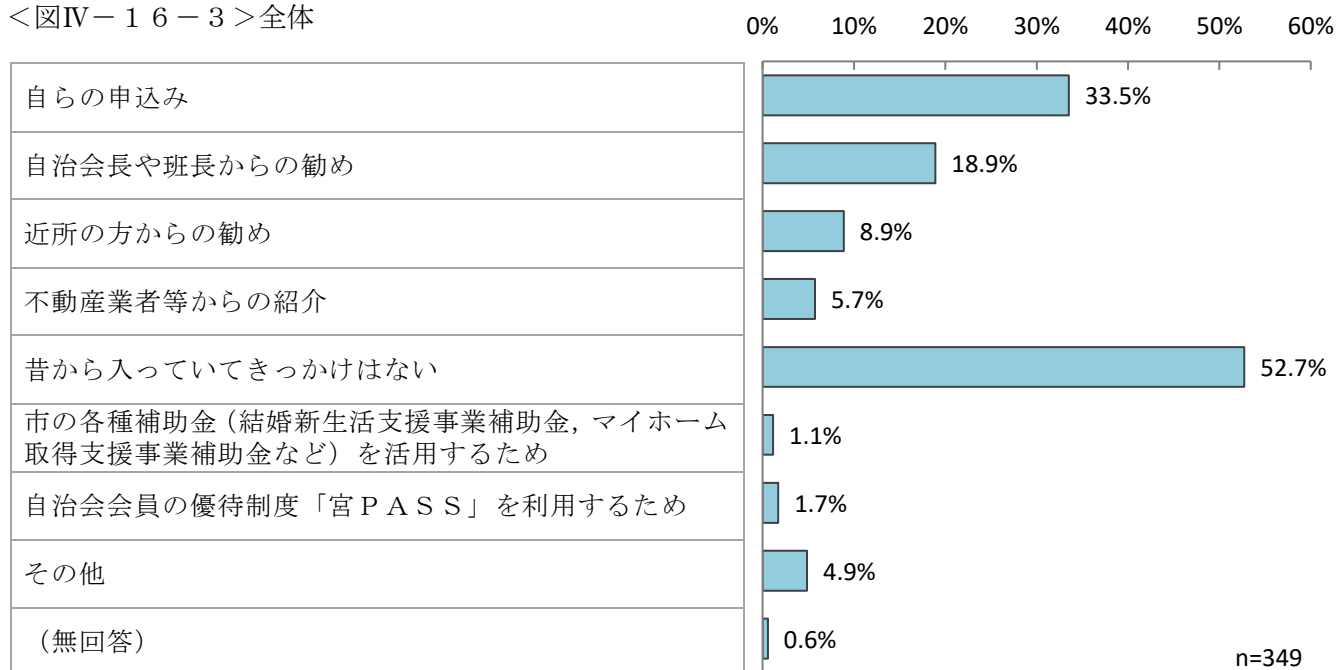
◇「昔から入っていてきっかけはない」が5割強

問54 問53で「1 加入している」と回答された方にお伺いします。加入したきっかけとして、あてはまるものはどれですか。(〇は3つまで)

n=349

1	自らの申込み	33.5%
2	自治会長や班長からの勧め	18.9%
3	近所の方からの勧め	8.9%
4	不動産業者等からの紹介	5.7%
5	昔から入っていてきっかけはない	52.7%
6	市の各種補助金（結婚新生活支援事業補助金、マイホーム取得支援事業補助金など）を活用するため	1.1%
7	自治会会員の優待制度「宮PASS」を利用するため	1.7%
8	その他	4.9%
	(無回答)	0.6%

<図IV-16-3>全体



加入したきっかけについては、「昔から入っていてきっかけはない」が52.7%で最も高く、次いで「自らの申込み」が33.5%、「自治会長や班長からの勧め」が18.9%と続いた。(図IV-16-3)

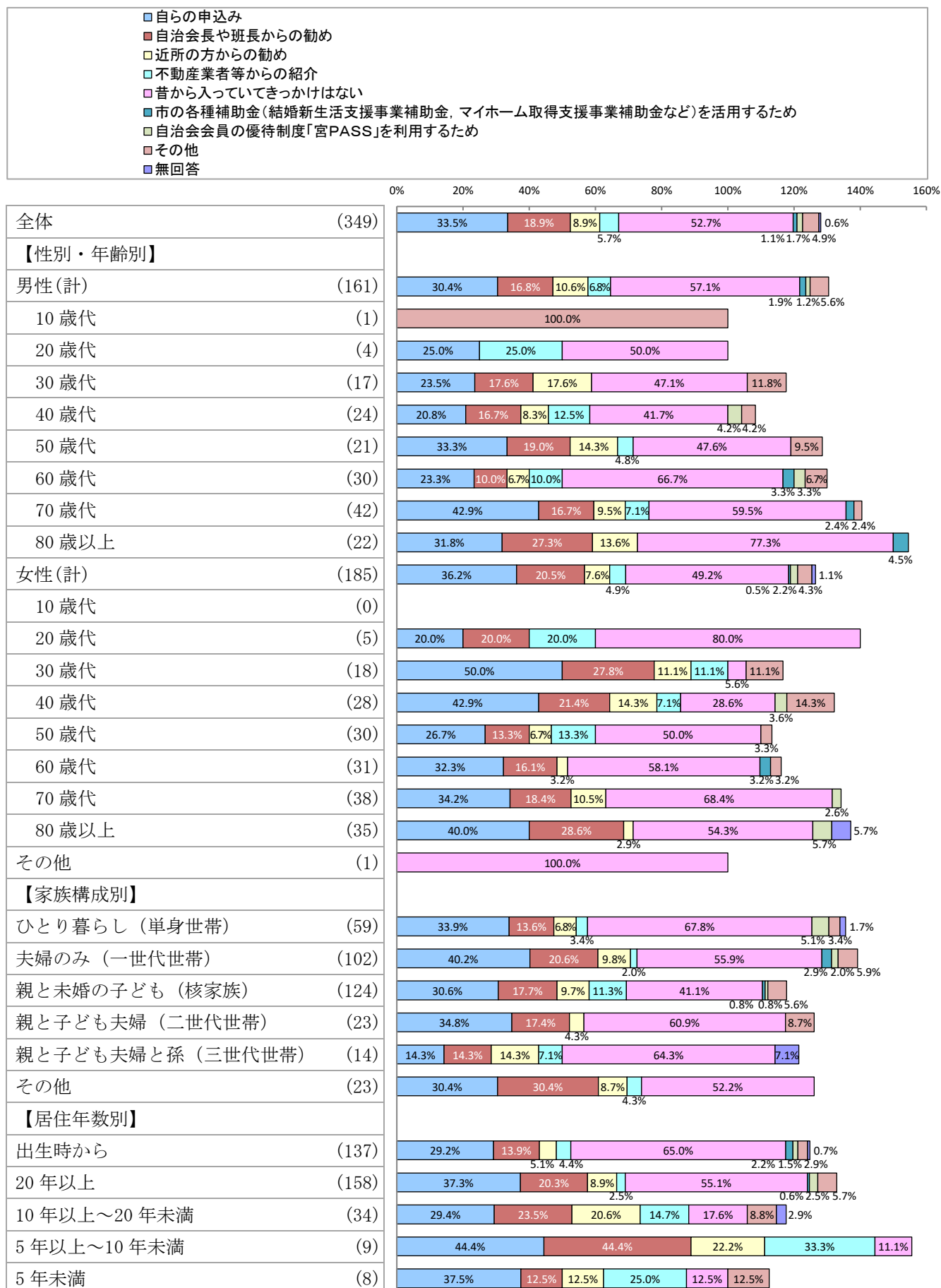
<参考>

性別・年齢別でみると、「昔から入っていてきっかけはない」は<その他>を除くと、<女性20歳代>が80.0%最も高く、次いで<男性80歳以上>が77.3%であった。(図IV-16-4)

家族構成別でみると、「昔から入っていてきっかけはない」は<ひとり暮らし(単身世帯)>が67.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が64.3%であった。(図IV-16-4)

居住年数別でみると、「昔から入っていてきっかけはない」は<出生時から>が65.0%で最も高く、次いで<20年以上>が55.1%であった。(図IV-16-4)

<図Ⅳ－１６－４>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

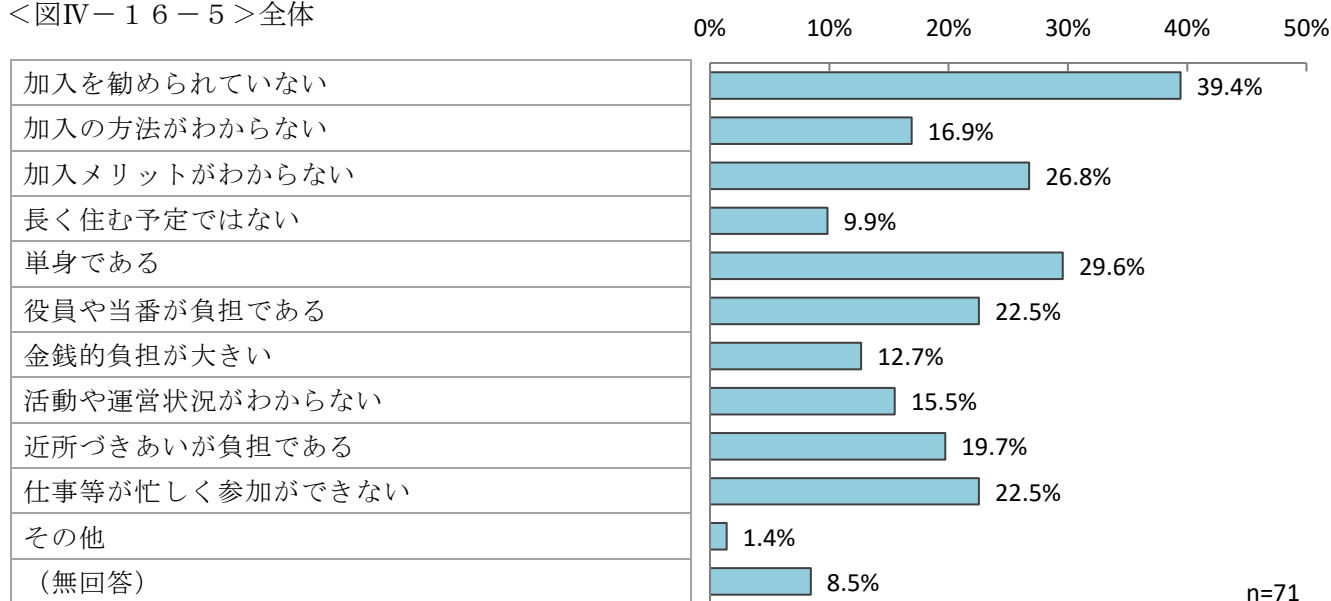


(3) 加入したことがない理由

◇「加入を勧められていない」が約4割

問55	問53で「2 加入していない（加入したことがない）」と回答された方にお伺いします。加入したことがない理由としてあてはまるものはどれですか。（〇は3つまで）	n=71
1	加入を勧められていない	39.4%
2	加入の方法がわからない	16.9%
3	加入メリットがわからない	26.8%
4	長く住む予定ではない	9.9%
5	単身である	29.6%
6	役員や当番が負担である	22.5%
7	金銭的負担が大きい	12.7%
8	活動や運営状況がわからない	15.5%
9	近所づきあいが負担である	19.7%
10	仕事等が忙しく参加ができない	22.5%
11	その他	1.4%
	（無回答）	8.5%

<図IV-16-5>全体



加入したことがない理由については、「加入を勧められていない」が39.4%で最も高く、次いで「単身である」が29.6%、「加入メリットがわからない」が26.8%、「役員や当番が負担である」と「仕事等が忙しく参加ができない」がいずれも22.5%と続いた。（図IV-16-5）

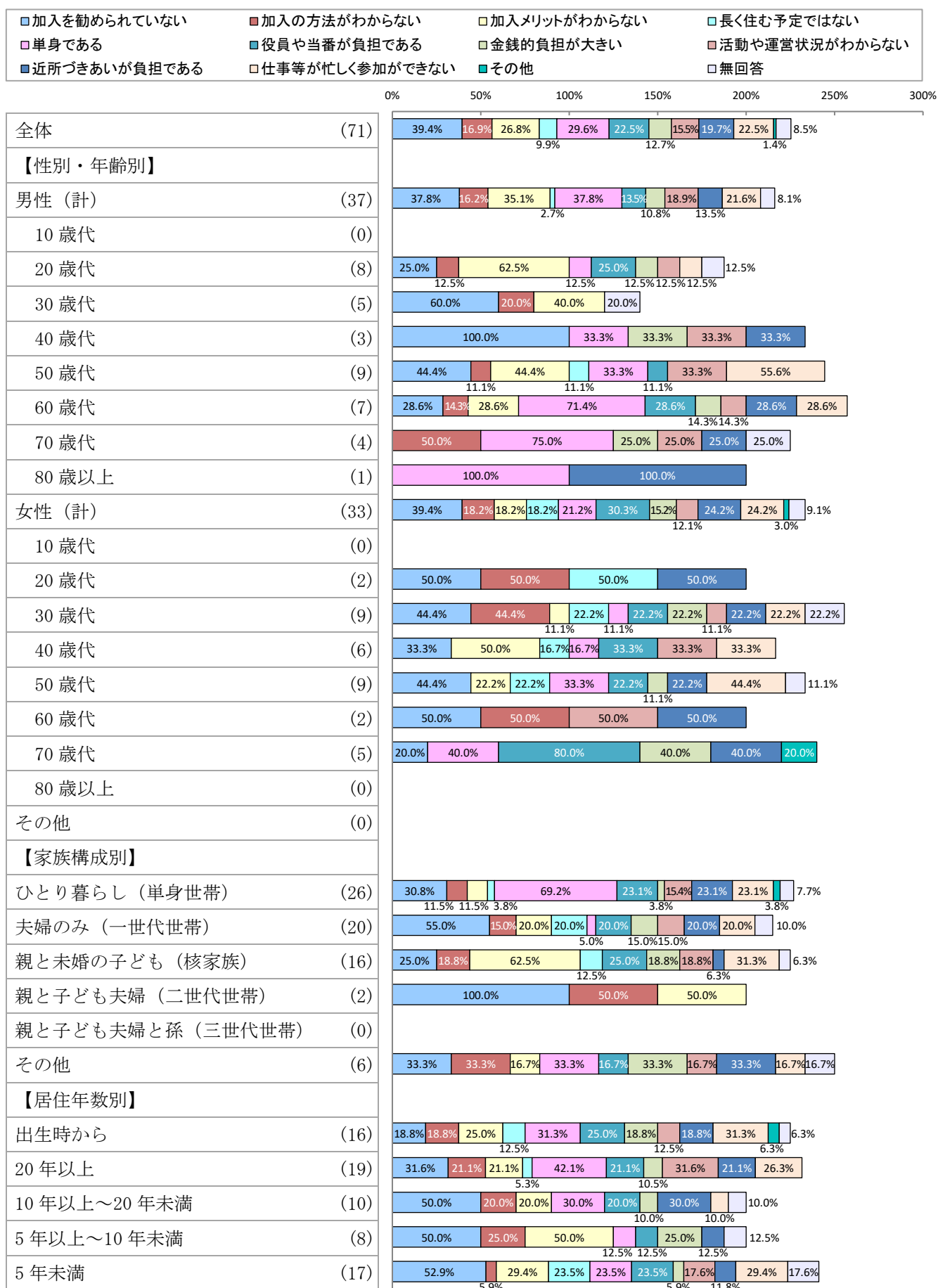
<参考>

性別・年齢別でみると、「加入を勧められていない」は＜男性 40 歳代＞が100.0%、＜男性 30 歳代＞が60.0%であった。（図IV-16-6）

家族構成別でみると、「加入を勧められていない」は＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が100.0%、＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞が55.0%であった。（図IV-16-6）

居住年数別でみると、「加入を勧められていない」は＜5年未満＞が52.9%で最も高く、次いで＜10年以上～20年未満＞＜5年以上～10年未満＞がいずれも50.0%であった。（図IV-16-6）

<図IV－16－6>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

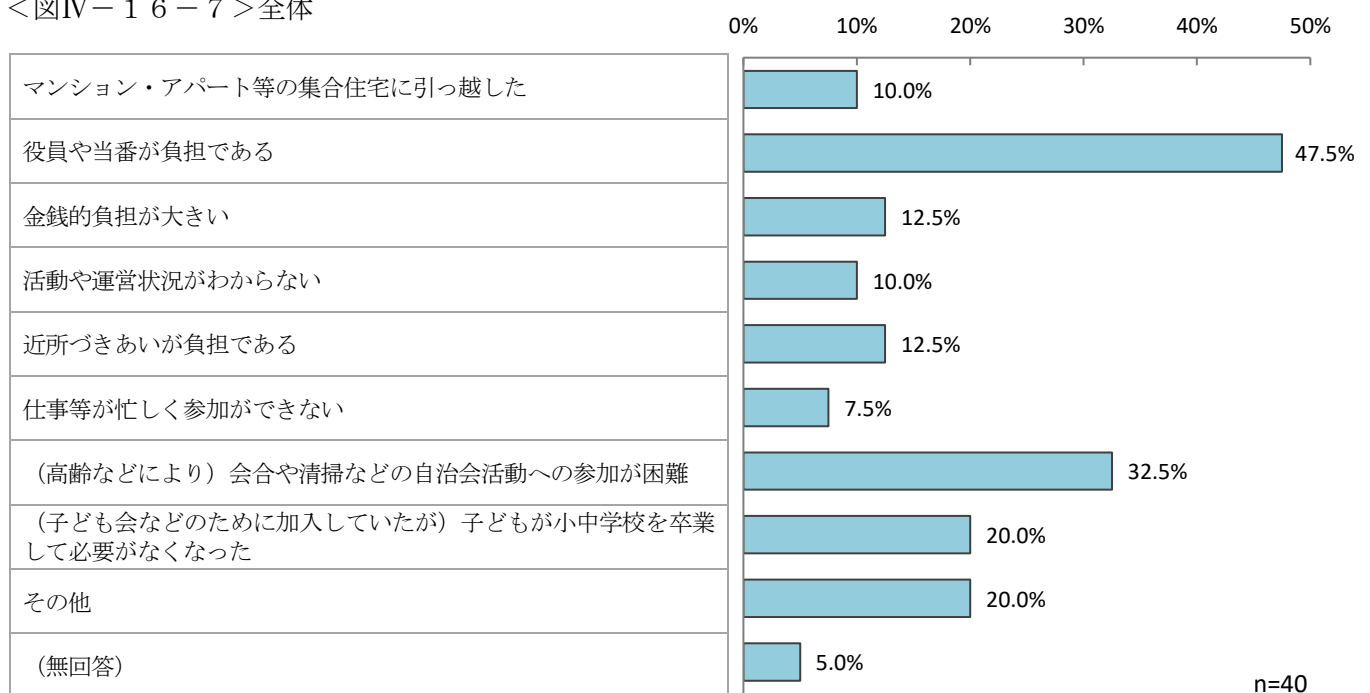


(4) 退会した理由

◇「役員や当番が負担である」が5割弱

問56	問53で「3 加入していない（加入していたが退会した）」と回答された方にお伺いします。退会した理由としてあてはまるものはどれですか。（○は3つまで）	n=40
1	マンション・アパート等の集合住宅に引っ越した	10.0%
2	役員や当番が負担である	47.5%
3	金銭的負担が大きい	12.5%
4	活動や運営状況がわからない	10.0%
5	近所づきあいが負担である	12.5%
6	仕事等が忙しく参加ができない	7.5%
7	（高齢などにより）会合や清掃などの自治会活動への参加が困難	32.5%
8	（子ども会などのために加入していたが）子どもが小中学校を卒業して必要がなくなった	20.0%
9	その他	20.0%
	（無回答）	5.0%

<図IV－16－7>全体



退会した理由については、「役員や当番が負担である」が47.5%で最も高く、次いで「(高齢などにより) 会合や清掃などの自治会活動への参加が困難」が32.5%であった。(図IV－16－7)

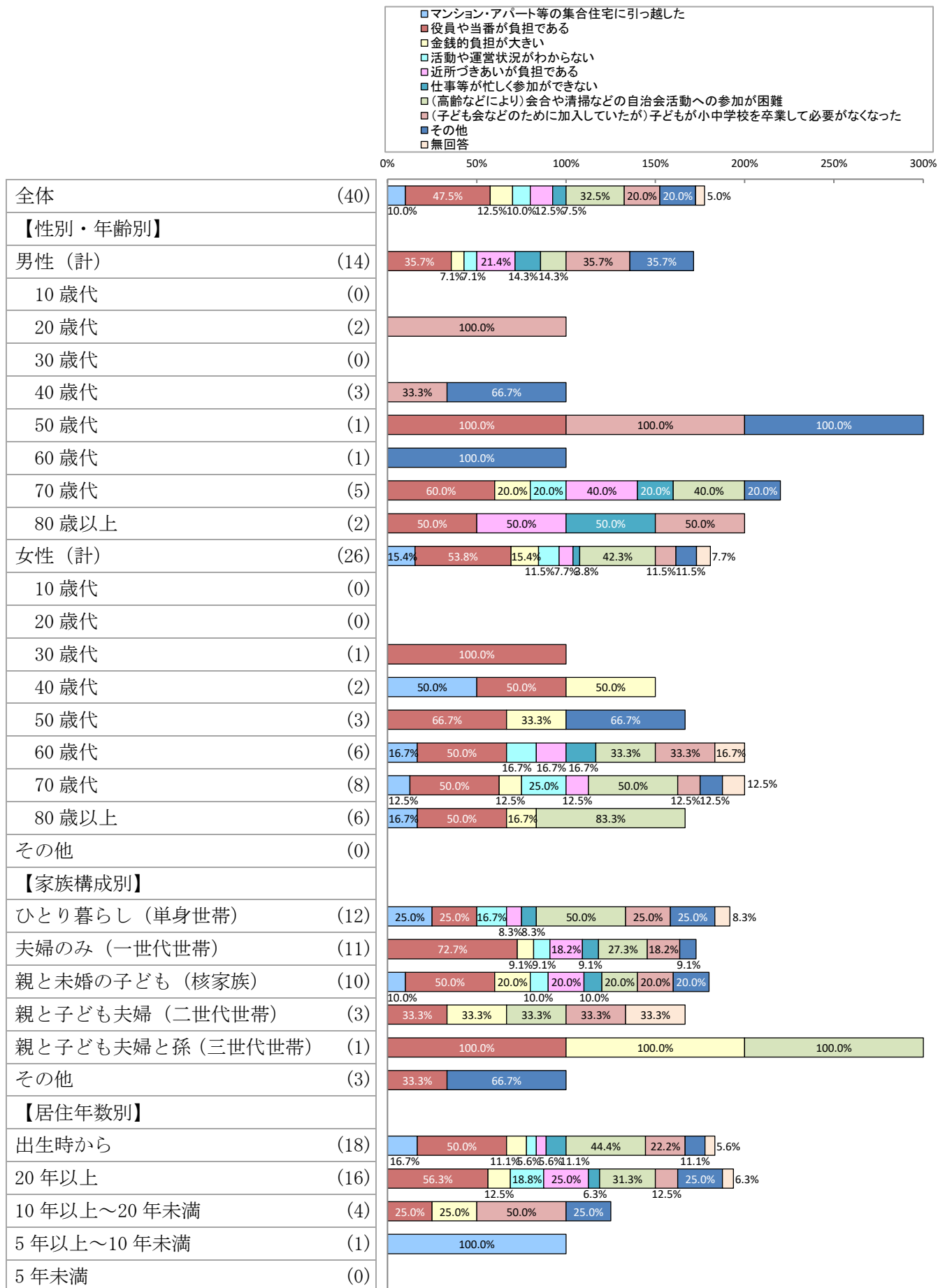
<参考>

性別・年齢別でみると、「役員や当番が負担である」は<男性50歳代><女性30歳代>がいずれも100.0%、<女性50歳代>が66.7%、<男性70歳代>が60.0%と続いた。(図IV－16－8)

家族構成別でみると、「役員や当番が負担である」は<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が100.0%、<夫婦のみ（一世帯世帯）>が72.7%であった。(図IV－16－8)

居住年数別でみると、「役員や当番が負担である」は<20年以上>が56.3%で最も高く、次いで<出生時から>が50.0%であった。(図IV－16－8)

<図Ⅳ－１６－８>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

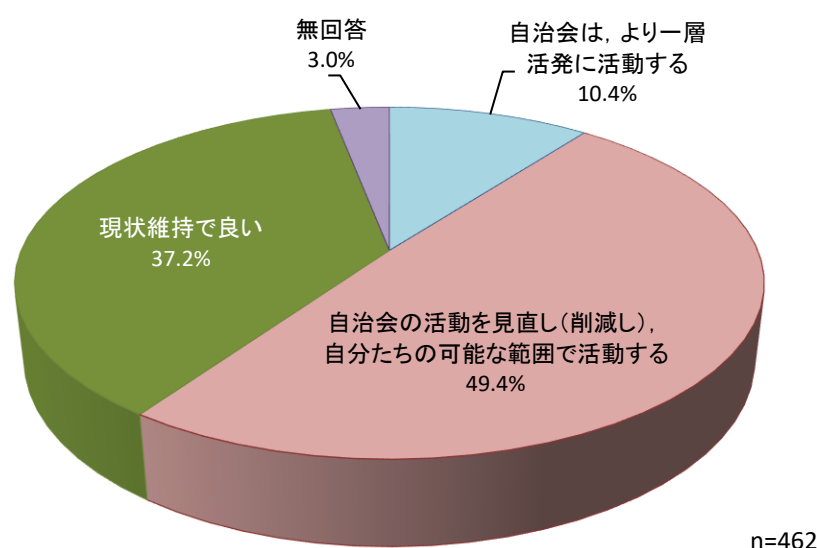


(5) 住みよい暮らしのための今後の自治会活動

◇「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」が約5割

問57 住みよい暮らしのため、自治会は今後どのようなになればよいと思いますか。（○は1つ）		(○は1つ)
		n=462
1	自治会は、より一層活発に活動する	10.4%
2	自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する	49.4%
3	現状維持で良い	37.2%
	（無回答）	3.0%

<図IV-16-9>全体



住みよい暮らしのため、自治会は今後どのようなになればよいかについては、「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」が49.4%で最も高く、次いで「現状維持で良い」が37.2%であった。（図IV-16-9）

<参考>

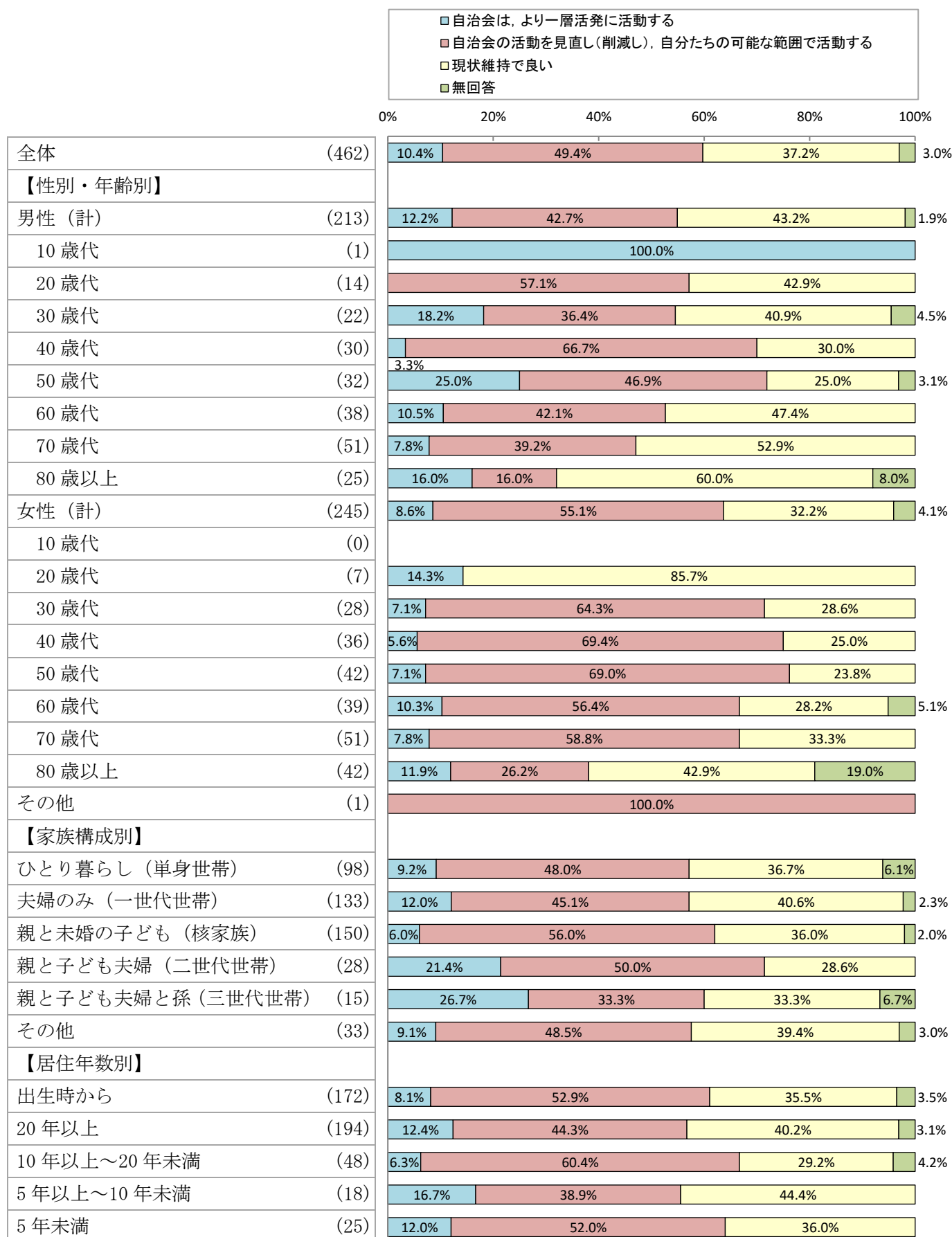
性別・年齢別でみると、「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」は<その他>を除くと、<女性40歳代>が69.4%で最も高く、次いで<女性50歳代>が69.0%であった。

（図IV-16-10）

家族構成別でみると、「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」は<親と未婚の子ども（核家族）>が56.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が50.0%であった。（図IV-16-10）

居住年数別でみると、「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」は<10年以上～20年未満>が60.4%で最も高く、次いで<出生時から>が52.9%であった。（図IV-16-10）

<図Ⅳ－１６－１０>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

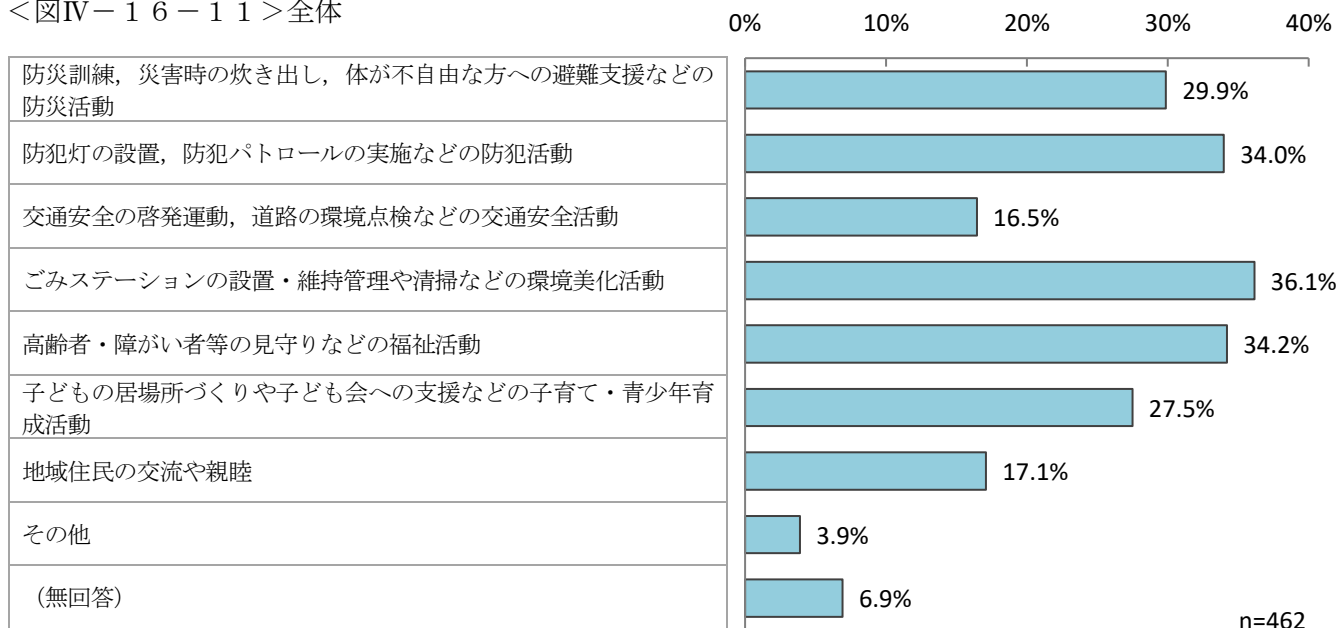


(6) 特にどのような活動に力をいれていくべきか

◇「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」が3割半ば

問 5 8 自治会は、今後、特にどのような活動に力を入れていくべきと思いますか。(○は3つまで)		n=462
1	防災訓練，災害時の炊き出し，体が不自由な方への避難支援などの防災活動	29.9%
2	防犯灯の設置，防犯パトロールの実施などの防犯活動	34.0%
3	交通安全の啓発運動，道路の環境点検などの交通安全活動	16.5%
4	ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動	36.1%
5	高齢者・障がい者等の見守りなどの福祉活動	34.2%
6	子どもの居場所づくりや子ども会への支援などの子育て・青少年育成活動	27.5%
7	地域住民の交流や親睦	17.1%
8	その他	3.9%
	(無回答)	6.9%

<図Ⅳ－16－11>全体



自治会は、今後、特にどのような活動に力を入れていくべきかについては、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」が36.1%で最も高く、次いで「高齢者・障がい者等の見守りなどの福祉活動」が34.2%、「防犯灯の設置，防犯パトロールの実施などの防犯活動」が34.0%、「防災訓練，災害時の炊き出し，体が不自由な方への避難支援などの防災活動」が29.9%と続いた。(図Ⅳ－16－11)

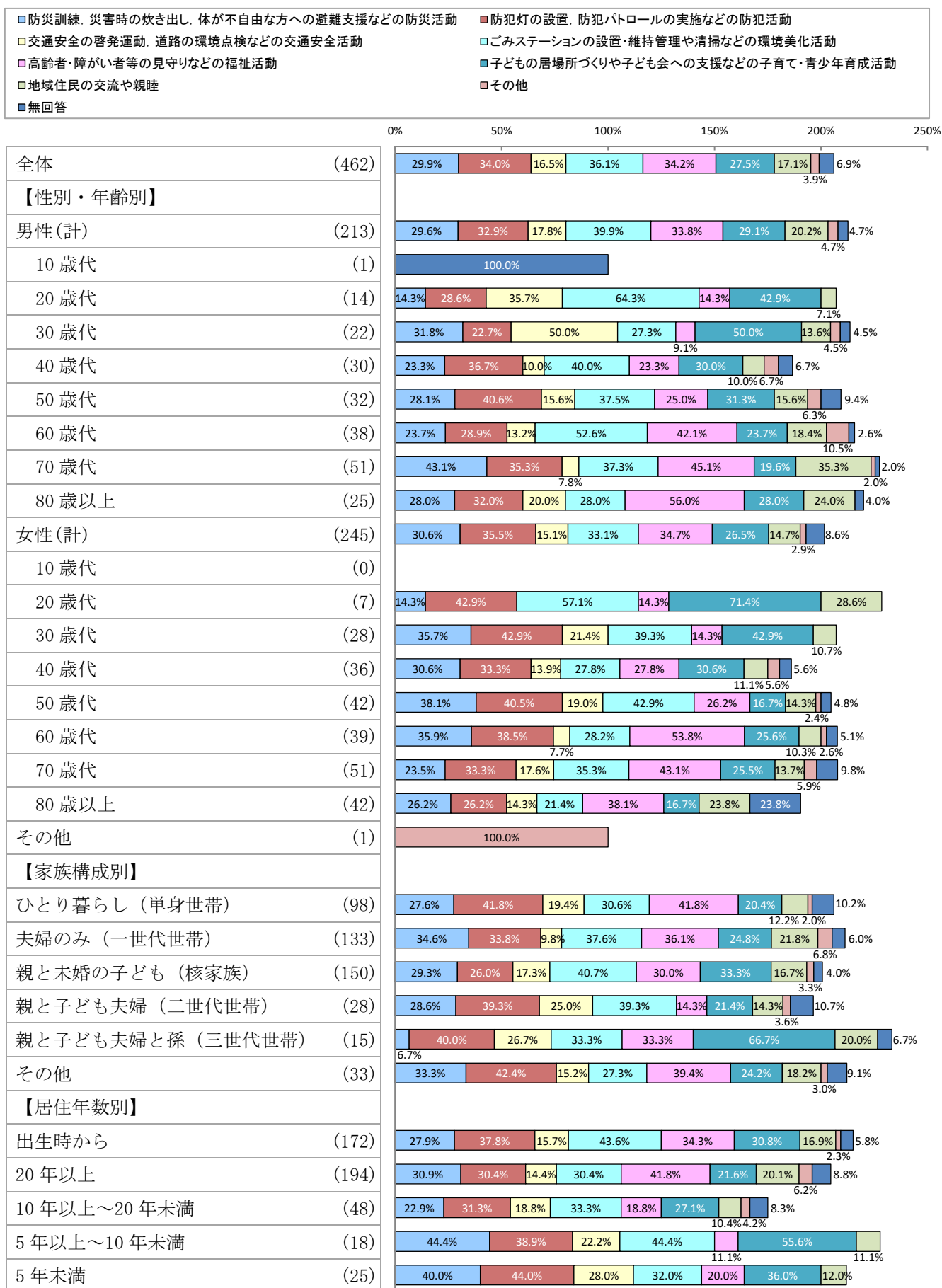
<参考>

性別・年齢別でみると、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」は<男性 20 歳代>が64.3%で最も高く、次いで<女性 20 歳代>が57.1%であった。(図Ⅳ－16－12)

家族構成別でみると、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」は<親と未婚の子ども(核家族)>が40.7%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が39.3%であった。(図Ⅳ－16－12)

居住年数別でみると、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」は<5 年以上～10 年未満>が44.4%で最も高く、次いで<出生時から>が43.6%であった。(図Ⅳ－16－12)

<図Ⅳ－１６－１２>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

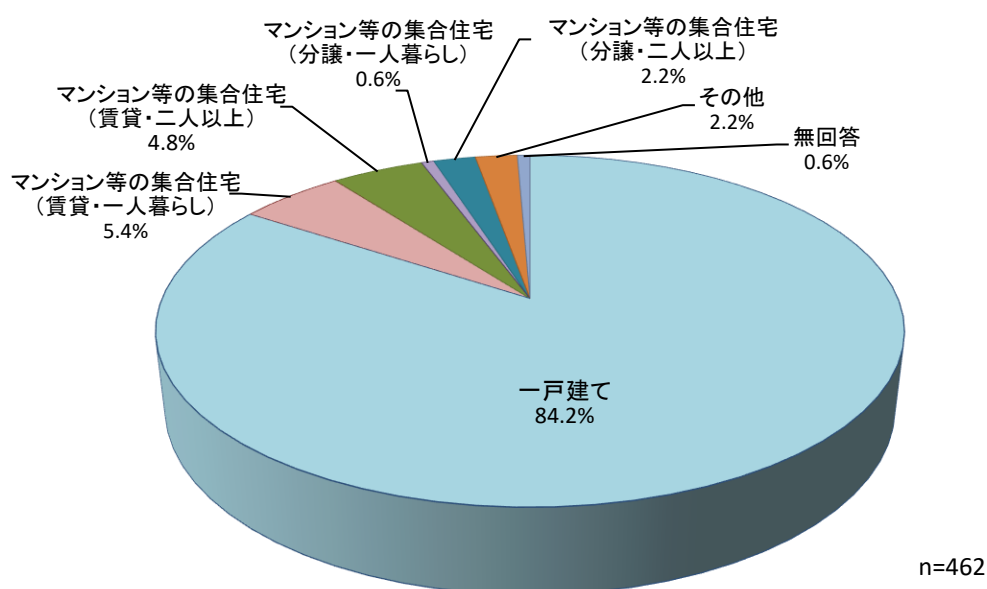


(7) 住まいについて

◇「一戸建て」が8割半ば

問 5 9 あなたの住まいについて当てはまるものはどれですか。		(○は1つ)
		n=462
1	一戸建て	84.2%
2	マンション等の集合住宅（賃貸・一人暮らし）	5.4%
3	マンション等の集合住宅（賃貸・二人以上）	4.8%
4	マンション等の集合住宅（分譲・一人暮らし）	0.6%
5	マンション等の集合住宅（分譲・二人以上）	2.2%
6	その他	2.2%
	(無回答)	0.6%

<図Ⅳ－16－13>全体



住まいについては、「一戸建て」が84.2%と最も高く、次いで「マンション等の集合住宅（賃貸・一人暮らし）」が5.4%、「マンション等の集合住宅（賃貸・二人以上）」が4.8%と続いた。（図Ⅳ－16－13）

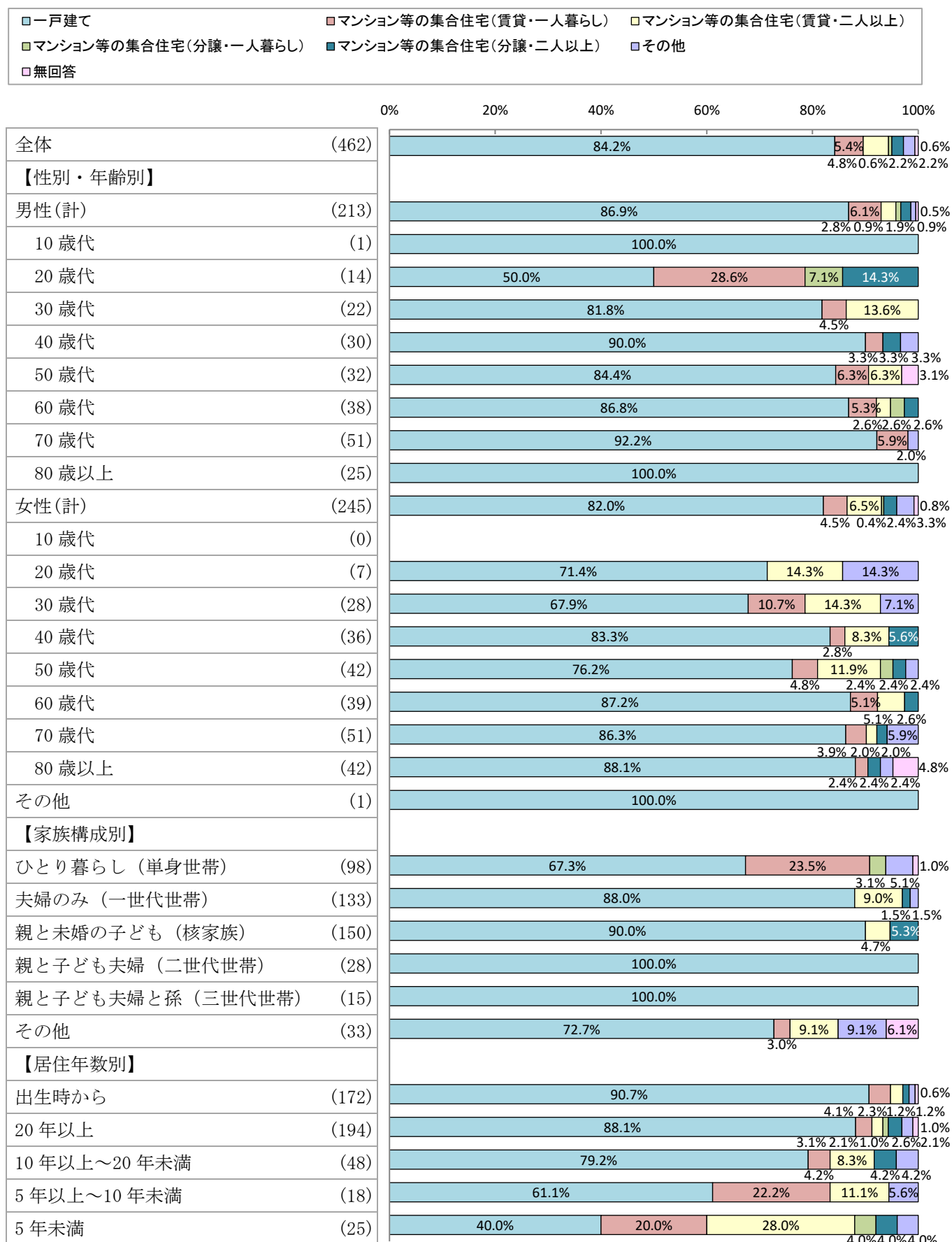
<参考>

性別・年齢別でみると、「一戸建て」は<その他>を除くと、<男性10歳代><男性80歳以上>がいずれも100.0%、<男性70歳代>が92.2%、<男性40歳代>が90.0%と続いた。（図Ⅳ－16－14）

家族構成別でみると、「一戸建て」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）><親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>がいずれも100.0%、<親と未婚の子ども（核家族）>が90.0%であった。（図Ⅳ－16－14）

居住年数別でみると、「一戸建て」は<出生時から>が90.7%で最も高く、次いで<20年以上>が88.1%であった。（図Ⅳ－16－14）

<図IV－１６－１４>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



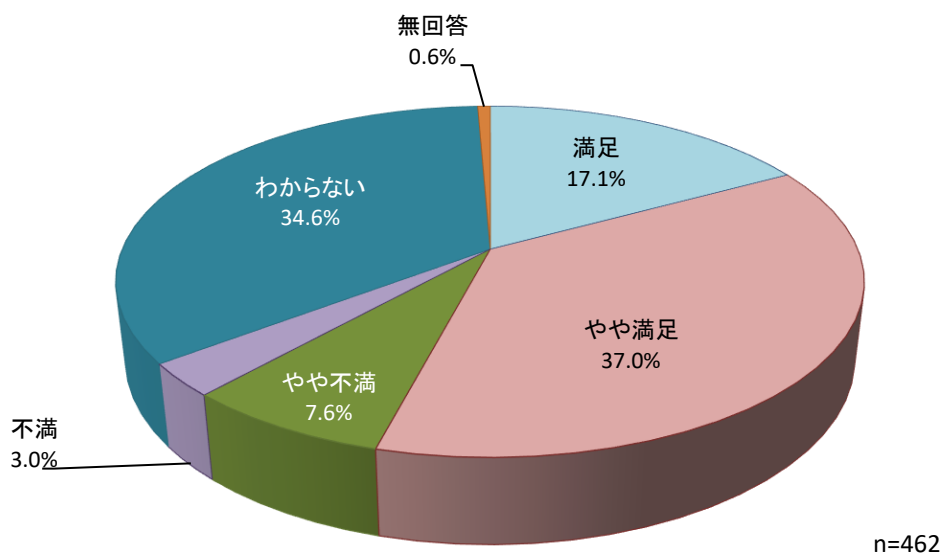
17. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

(1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか

◇「満足」と「やや満足」を合わせた【満足(計)】が5割半ば

問60	環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた本市の施策(※)に満足していますか。 ※ 本市では、良好な生活環境を確保するため、大気、水質、騒音に係る環境調査や、工場・事業場に対する立入検査・指導、事業者との相互協力による環境保全活動の推進などに取り組んでいます。(○は1つ)	n=462
1	満足	17.1%
2	やや満足	37.0%
3	やや不満	7.6%
4	不満	3.0%
5	わからない	34.6%
	(無回答)	0.6%

<図IV-17-1>全体



環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているかについては、「満足」が17.1%、「やや満足」が37.0%で、これらを合わせた【満足(計)】は54.1%であった。一方、「不満」が3.0%、「やや不満」が7.6%で、これらを合わせた【不満(計)】は10.6%であった。(図IV-17-1)

<参考>

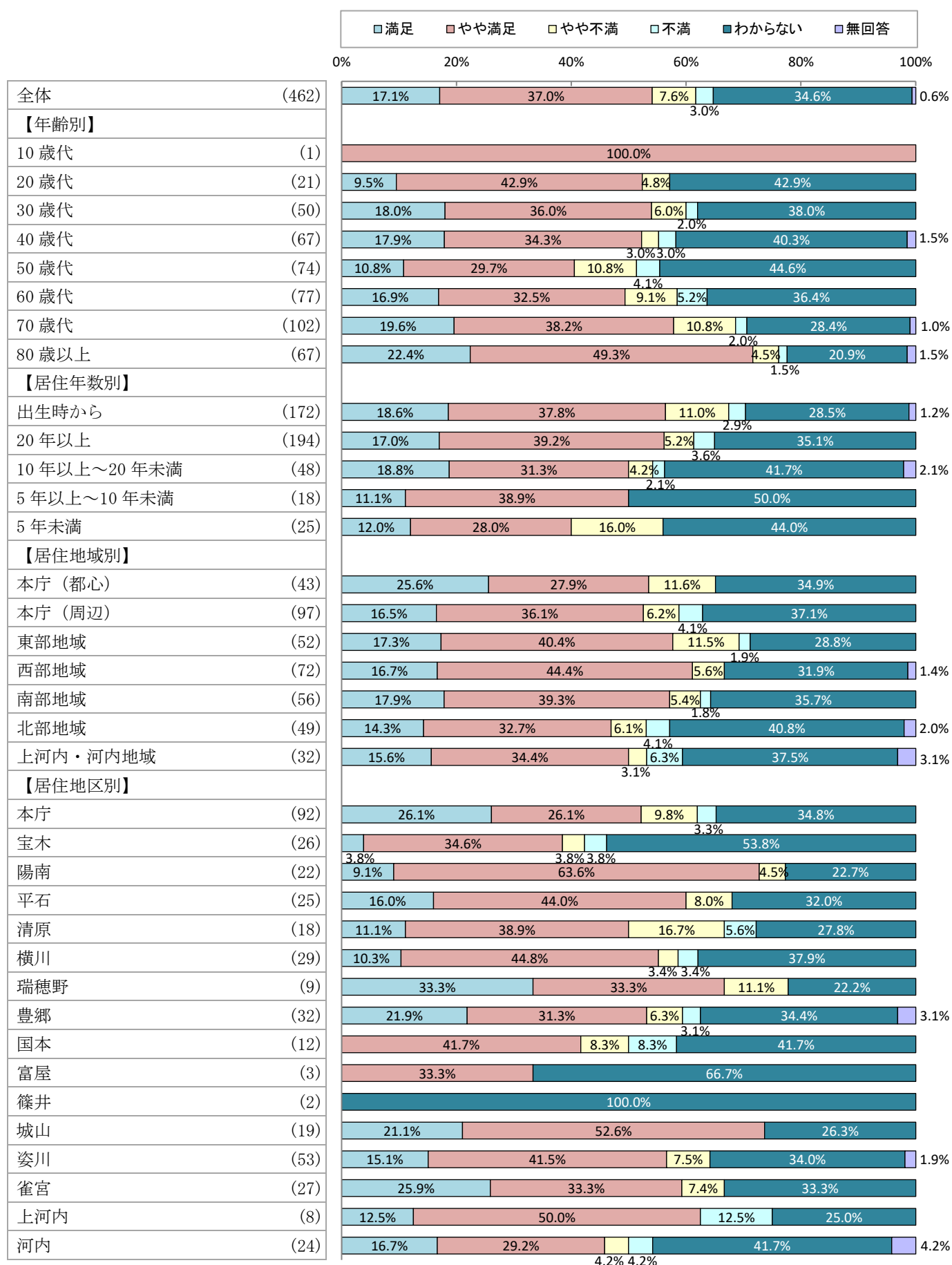
年齢別でみると、「やや満足」は<10歳代>が100.0%、<80歳以上>が49.3%、<20歳代>が42.9%と続いた。(図IV-17-2)

居住年数別でみると、「やや満足」は<20年以上>が39.2%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が38.9%であった。(図IV-17-2)

居住地域別でみると、「やや満足」は<西部地域>が44.4%で最も高く、次いで<東部地域>が40.4%であった。(図IV-17-2)

居住地区別でみると、「やや満足」は<陽南>が63.6%で最も高く、次いで<城山>が52.6%であった。(図IV-17-2)

<図Ⅳ－１７－２>年齢別／居住年数別／居住地域／居住地区別



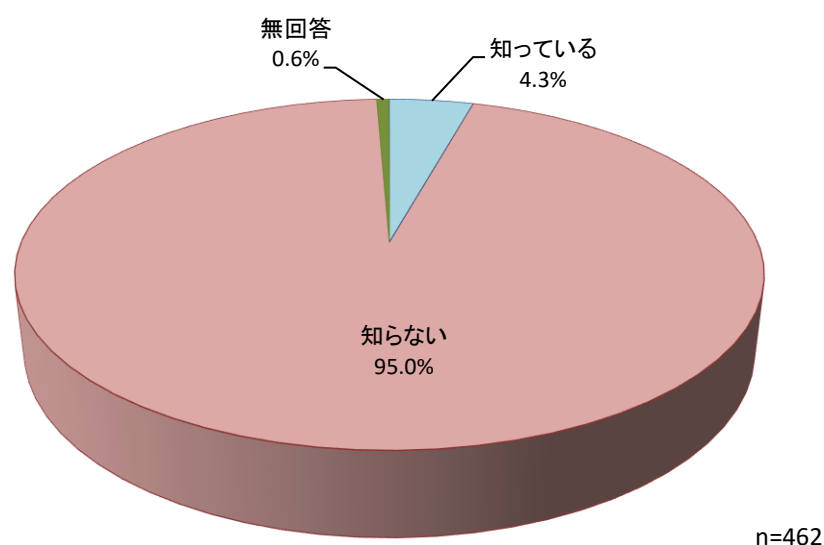
18. 保健と福祉のまると相談窓口メールUについて

(1) 保健と福祉のまると相談窓口メールUの認知度

◇ 「知らない」が9割半ば

問 6 1	保健と福祉のまると相談窓口メールUの存在を知っていますか。	(○は1つ)
		n=462
1	知っている	4.3%
2	知らない	95.0%
	(無回答)	0.6%

<図IV－18－1>全体



保健と福祉のまると相談窓口メールUの存在を知っているかについては、「知らない」が95.0%であった。一方、「知っている」は4.3%であった。(図IV－18－1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<男性10・20・40・60歳代>および<女性20・50・60歳代>がいずれも100.0%であった。(図IV－18－2)

<図Ⅳ－１８－２>性別・年齢別



(2) エールUの設置場所の認知度

◇ 「知らない」が9割半ば

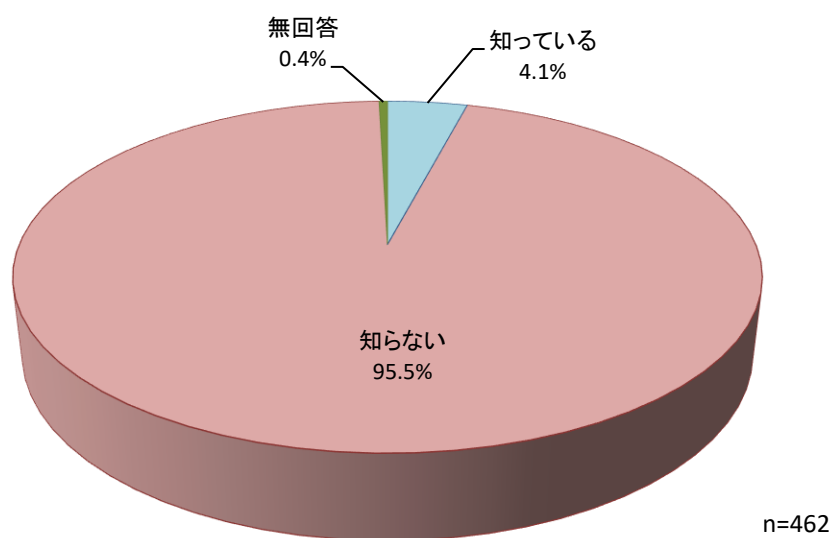
問 6 2 エールUがどこに設置されているか(※) 知っていますか。

※ エールUは市内25か所の地域包括支援センターと、市役所、さらに平石・富屋・姿川・河内の4つの地区市民センターに設置されています。(○は1つ)

n=462

1	知っている	4.1%
2	知らない	95.5%
	(無回答)	0.4%

<図IV-18-3>全体

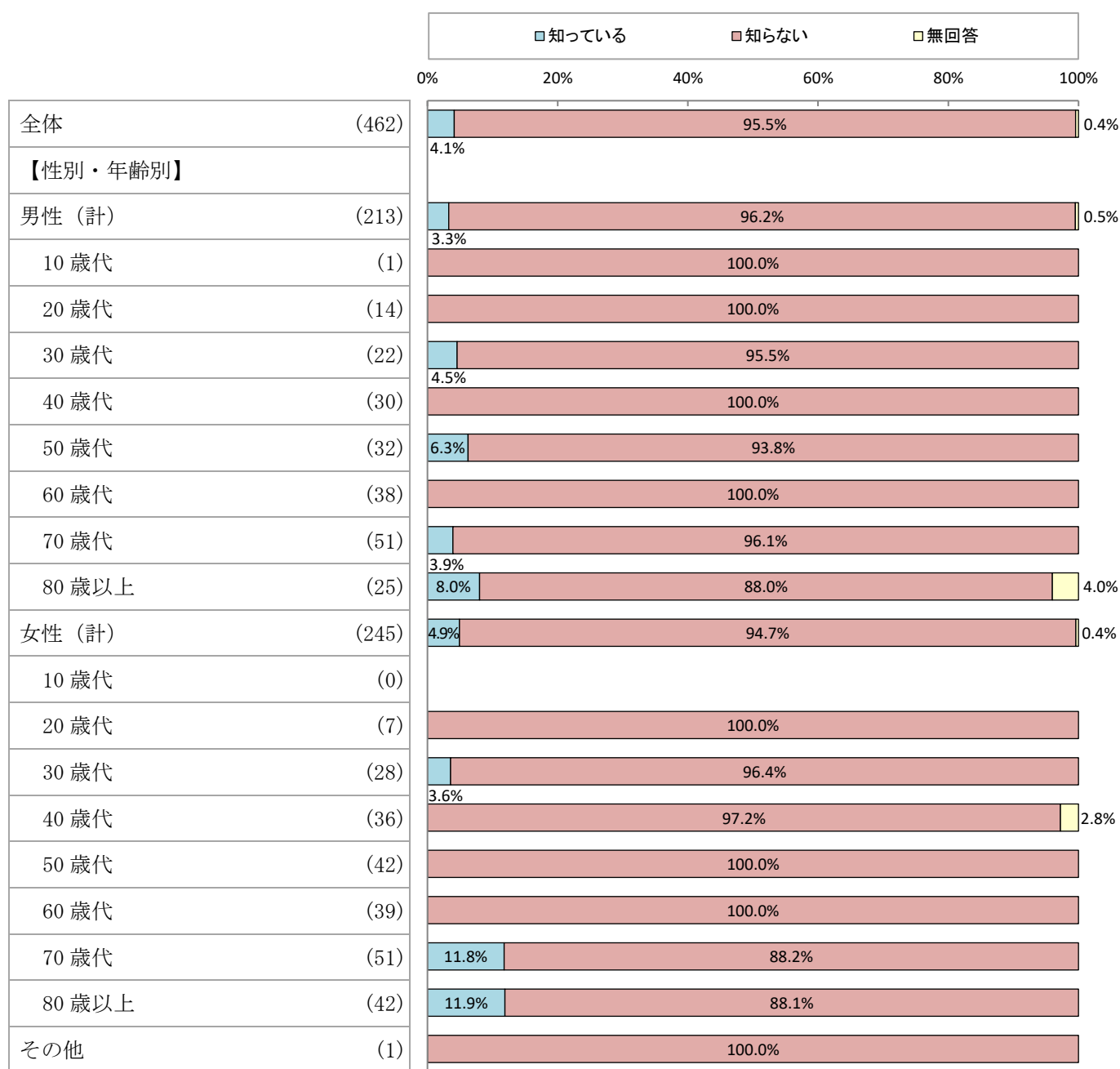


エールUがどこに設置されているかについては、「知らない」が95.5%、一方、「知っている」は4.1%であった。(図IV-18-3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<男性10・20・40・60歳代>および<女性20・50・60歳代>がいずれも100.0%であった。(図IV-18-4)

<図Ⅳ－１８－４>性別・年齢別



(3) エールUがどのような相談窓口かの認知度

◇「知らない」が9割半ば

問63 エールUがどのような相談窓口であるか(※)知っていますか。

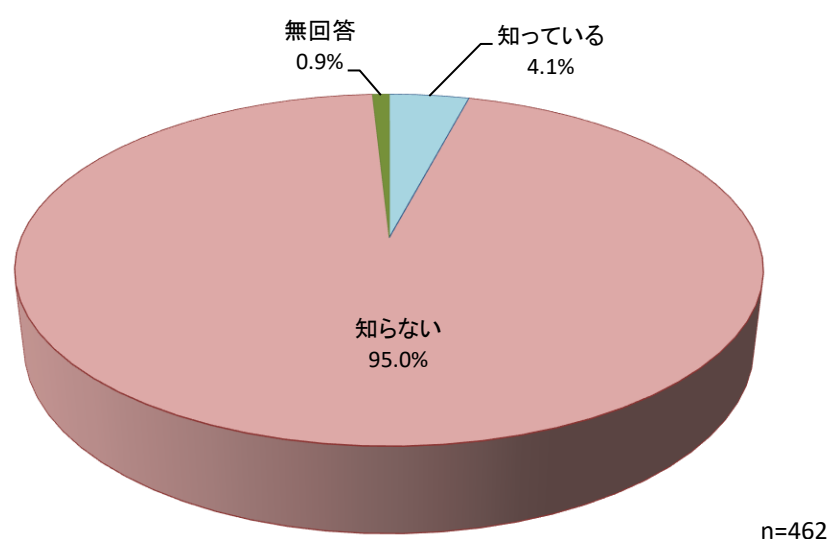
※ エールUは、複雑化・複合化した課題や、どこに相談してよいかわからない困りごとなどをまるごと受け止め、課題を解きほぐし、適切な相談支援機関につなぐ保健と福祉の相談窓口です。

(○は1つ)

n=462

1	知っている	4.1%
2	知らない	95.0%
	(無回答)	0.9%

<図IV-18-5>全体



エールUがどのような相談窓口であるかを知っているかについては、「知らない」が95.0%、一方、「知っている」は4.1%であった。(図IV-18-5)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<その他>を除くと、<男性10・20・40・60歳代>および<女性20・50・60歳代>がいずれも100.0%であった。(図IV-18-6)

<図Ⅳ－１８－６>性別・年齢別



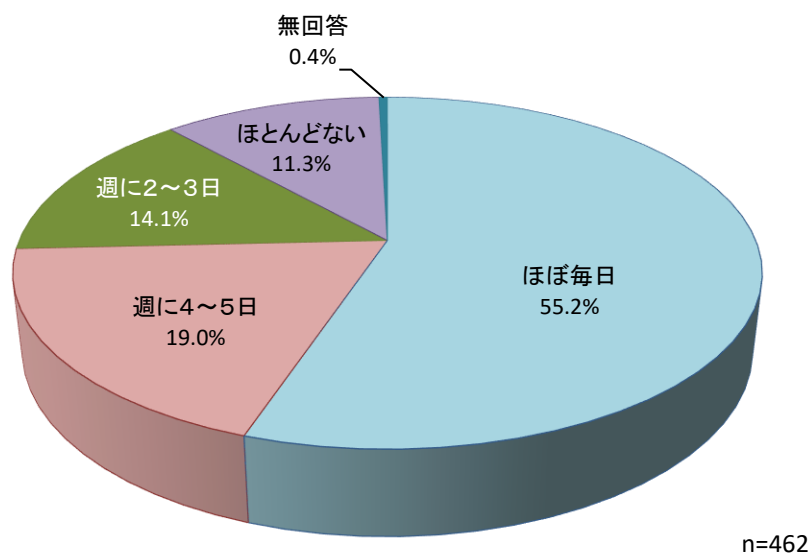
19. 健康づくりについて

(1) 主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度

◇ 「ほぼ毎日」が5割半ば

問64	主食・主菜・副菜（※）をそろえて食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。	
	※ 主食とは、ごはん・パン・めん類などの穀物でエネルギー源となるもの。主菜とは、肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理など。副菜とは、野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理など。	(○は1つ)
		n=462
1	ほぼ毎日	55.2%
2	週に4～5日	19.0%
3	週に2～3日	14.1%
4	ほとんどない	11.3%
	(無回答)	0.4%

<図IV-19-1>全体



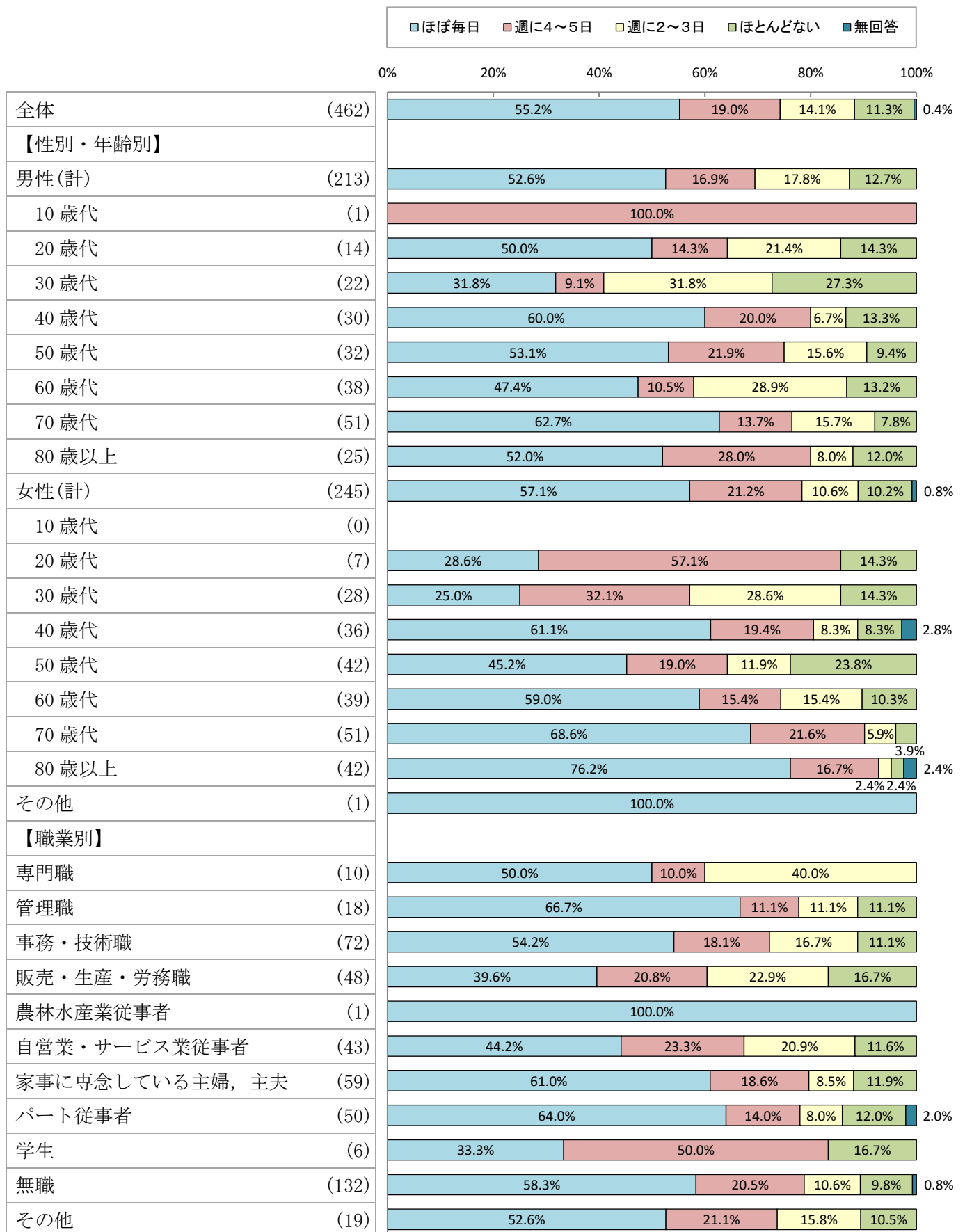
主食・主菜・副菜をそろえて食べることが1日2回以上あるのは週に何日あるかについては、「ほぼ毎日」が55.2%で最も高く、次いで「週に4～5日」が19.0%であった。(図IV-19-1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「ほぼ毎日」は<その他>を除くと、<女性80歳以上>が76.2%で最も高く、次いで<女性70歳代>が68.6%、<男性70歳代>が62.7%と続いた。(図IV-19-2)

職業別でみると、「ほぼ毎日」は<農林水産業従事者>が100.0%、<管理職>が66.7%、<パート従事者>が64.0%と続いた。(図IV-19-2)

<図Ⅳ－１９－２>性別・年齢別／職業別

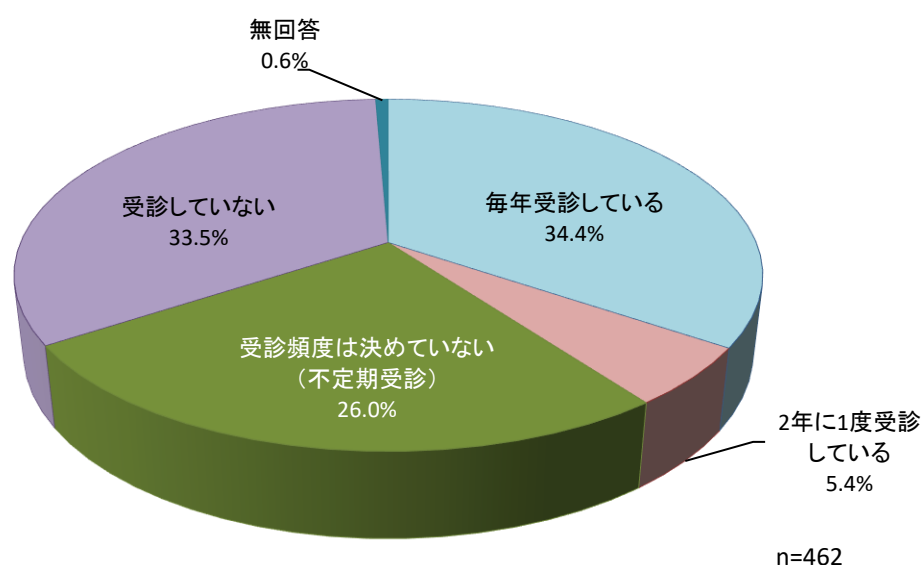


(2) がん検診を受診する間隔

◇「毎年受診している」が3割半ば

問 6 5	がん検診を受診する間隔について、該当するものに○をつけてください。	(○は1つ)
		n=462
1	毎年受診している	34.4%
2	2年に1度受診している	5.4%
3	受診頻度は決めていない(不定期受診)	26.0%
4	受診していない	33.5%
	(無回答)	0.6%

<図Ⅳ－19－3>全体



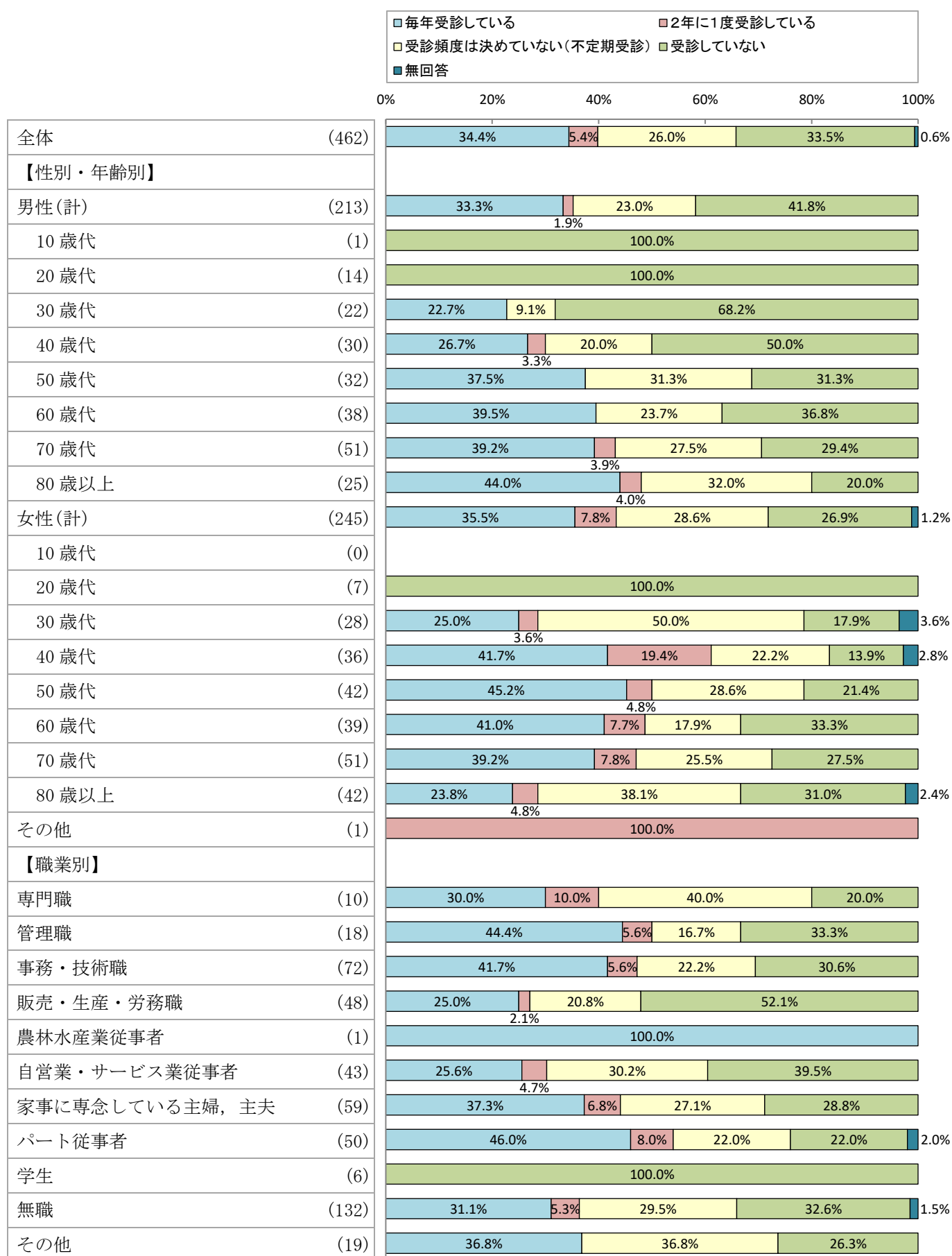
がん検診を受診する間隔については、「毎年受診している」が34.4%で最も高く、次いで「受診していない」が33.5%、「受診頻度は決めていない(不定期受診)」は26.0%であった。(図Ⅳ－19－3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「毎年受診している」は<女性 50 歳代>が45.2%で最も高く、次いで<男性 80 歳以上>が44.0%、<女性 40 歳代>が41.7%と続いた。(図Ⅳ－19－4)

職業別でみると、「毎年受診している」は<農林水産業従事者>が100.0%、<パート従事者>が46.0%、<管理職>が44.4%と続いた。(図Ⅳ－19－4)

<図Ⅳ－１９－４>性別・年齢別／職業別

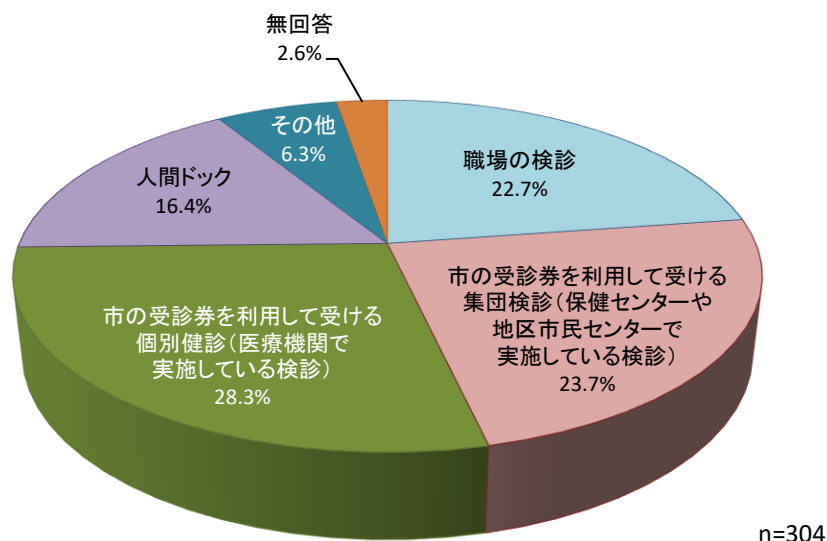


(3) 直近のがん検診の受診先

◇「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」が3割弱

問 6 6	問 6 5で「1 毎年受診している」,「2 2年に1度受診している」,「3 受診頻度はきめていない(不定期受診)」と回答した方に伺います。直近のがん検診の受診先について該当するものに○をつけてください。 (○は1つ)	n=304
1	職場の検診	22.7%
2	市の受診券を利用して受ける集団検診(保健センターや地区市民センターで実施している検診)	23.7%
3	市の受診券を利用して受ける個別検診(医療機関で実施している検診)	28.3%
4	人間ドック	16.4%
5	その他 (無回答)	6.3% 2.6%

<図IV-19-5>全体



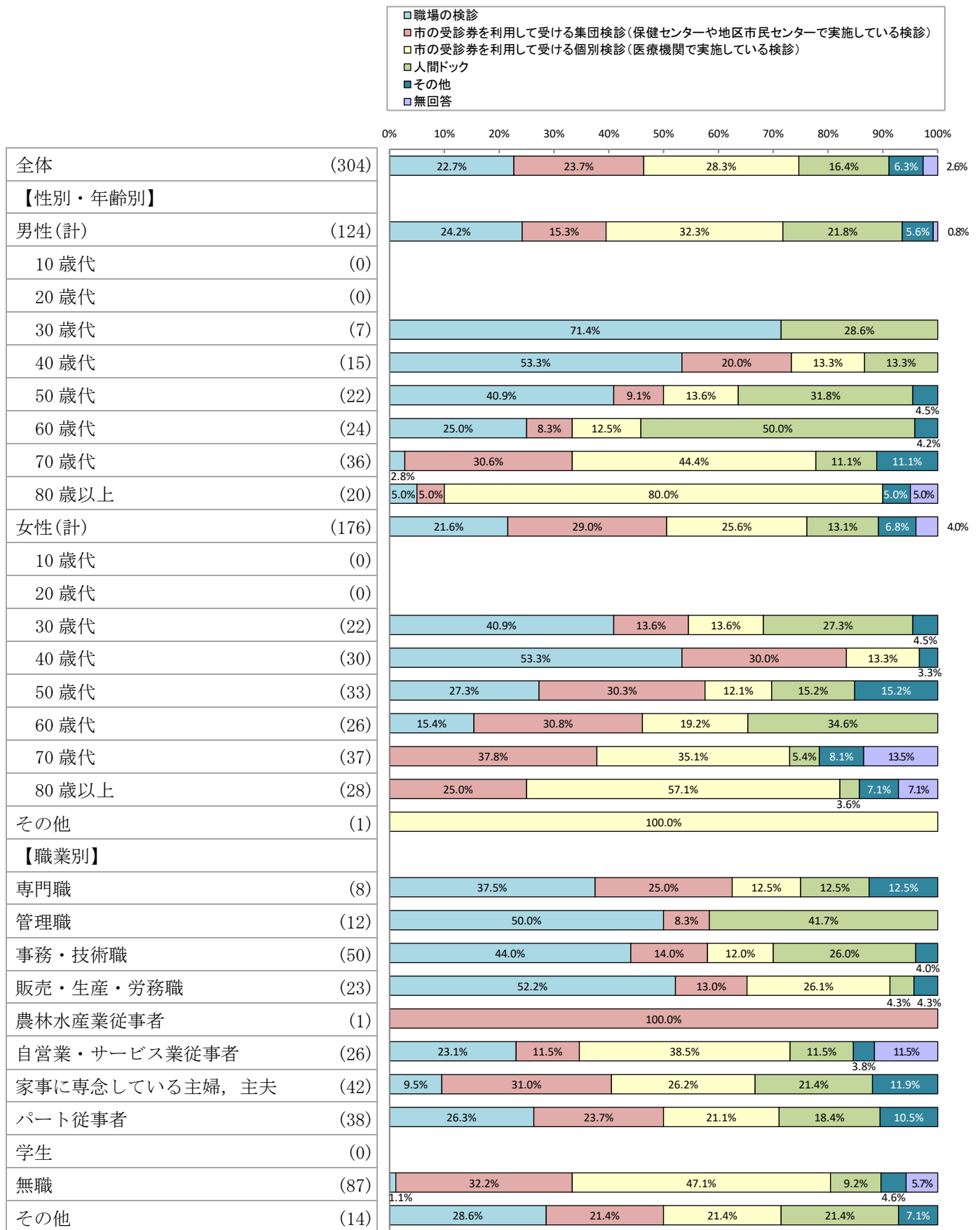
直近のがん検診の受診先については、「市の受診券を利用して受ける個別健診（医療機関で実施している検診）」が 28.3%で最も高く、次いで「市の受診券を利用して受ける集団検診（保健センターや地区市民センターで実施している検診）」が 23.7%、「職場の検診」が 22.7%と続いた。（図IV-19-5）

<参考>

性別・年齢別でみると、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」は<その他>を除くと、<男性 80 歳以上>が 80.0%で最も高く、次いで<女性 80 歳以上>が 57.1%、<男性 70 歳代>44.4%と続いた。（図IV-19-6）

職業別でみると、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」は<無職>が 47.1%で最も高く、次いで<自営業・サービス業従事者>が 38.5%、<家事に専念している主婦、主夫>が 26.2%と続いた。（図IV-19-6）

<図Ⅳ－１９－６＞性別・年齢別／職業別

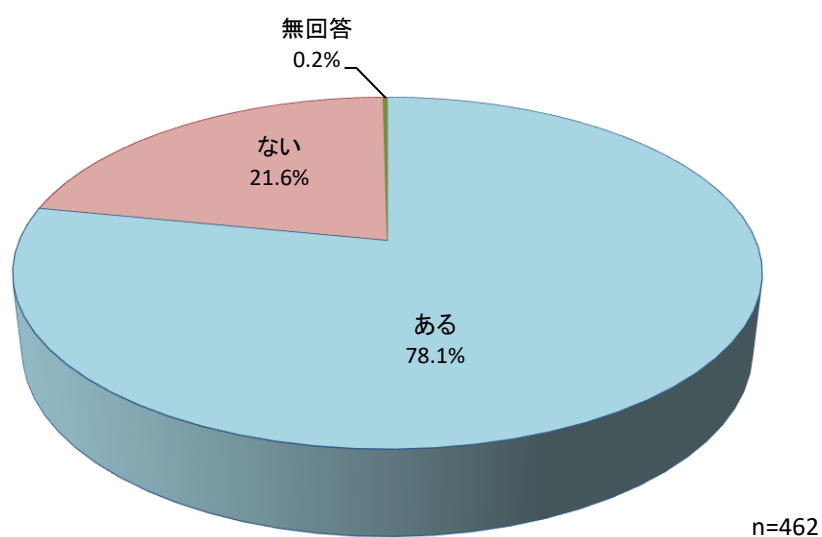


(4) 歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるか

◇「ある」が8割弱

問 6 7	歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はありますか。	(○は1つ)
		n=462
1	ある	78.1%
2	ない	21.6%
	(無回答)	0.2%

<図Ⅳ－19－7>全体



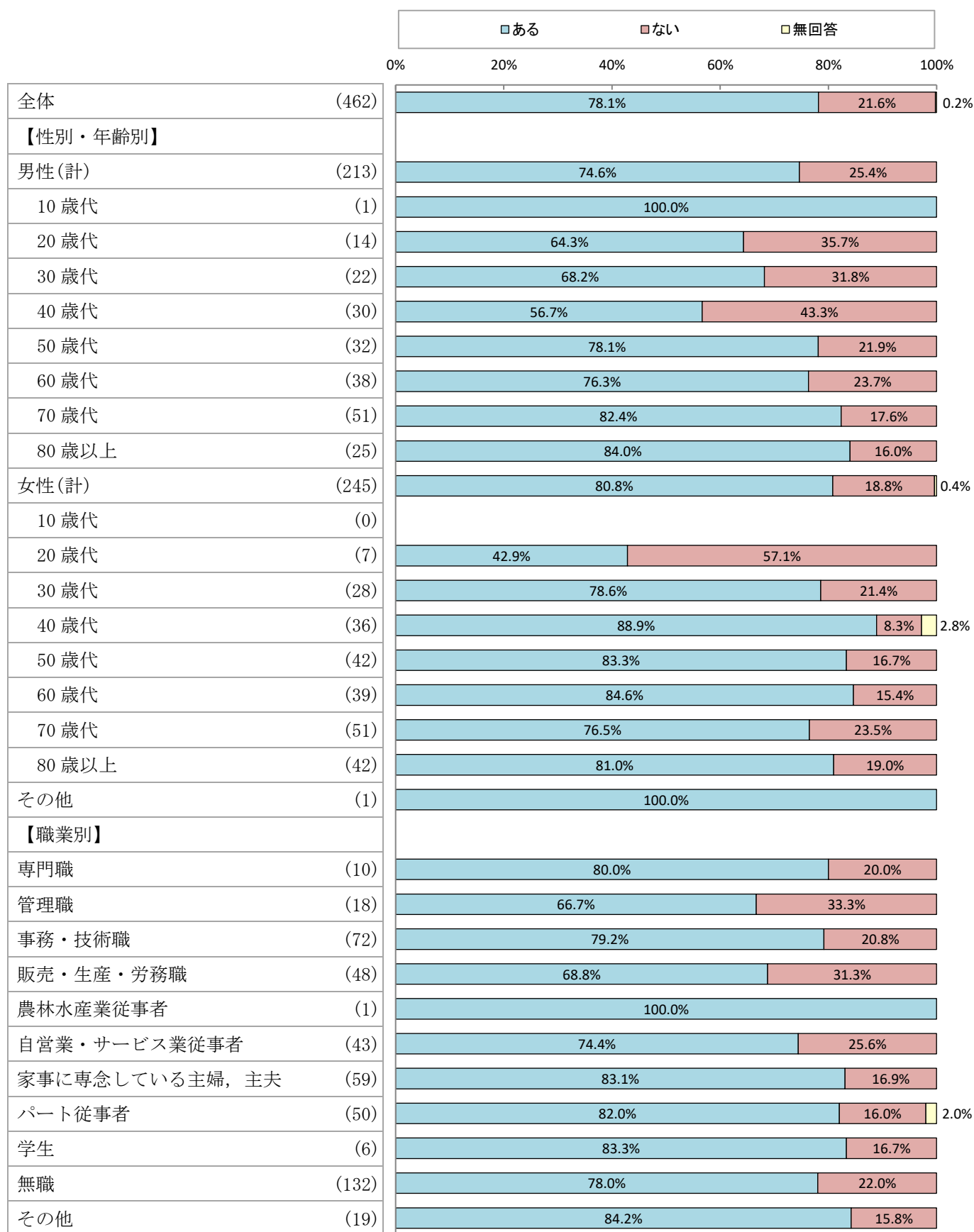
歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるかについては、「ある」が78.1%、一方、「ない」は21.6%であった。(図Ⅳ－19－7)

<参考>

性別・年齢別でみると、「ある」は<その他>を除くと、<男性 10 歳代>が 100.0%、<女性 40 歳代>が 88.9%、<女性 60 歳代>が 84.6%と続いた。(図Ⅳ－19－8)

職業別でみると、「ある」は<その他>を除くと、<農林水産業従事者>が 100.0%、<学生>が 83.3%、<家事に専念している主婦、主夫>が 83.1%と続いた。(図Ⅳ－19－8)

<図Ⅳ－１９－８>性別・年齢別／職業別



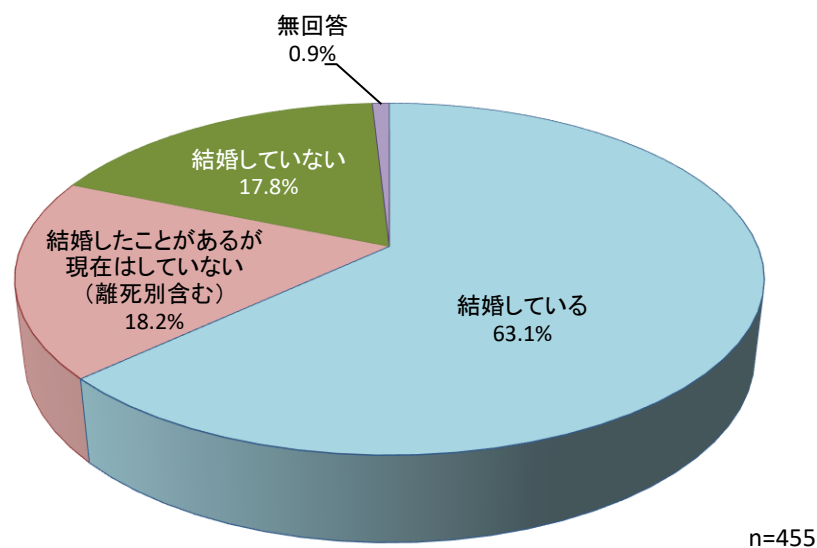
20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

◇「結婚している」が6割強

問68	あなたは結婚していますか。	(○は1つ)
		n=455
1	結婚している	63.1%
2	結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）	18.2%
3	結婚していない	17.8%
	（無回答）	0.9%

<図IV-20-1>全体



結婚しているかについては、「結婚している」が63.1%で最も高く、次いで「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が18.2%であった。一方、「結婚していない」は17.8%であった。

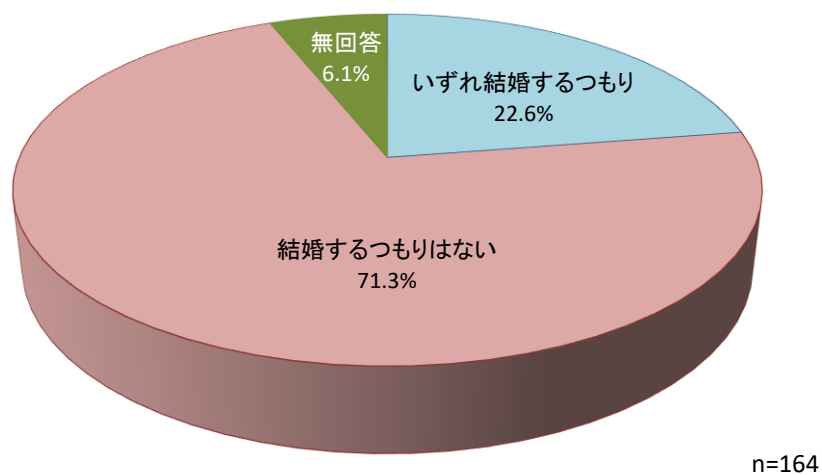
（図IV-20-1）

(2) 結婚するつもりがあるか

◇ 「結婚するつもりはない」が約7割

問69	問68で「2 結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」「3 結婚していない」と答えた方にお伺いします。あなたの結婚に対する考えは、次のうちどちらですか。（○は1つ）	n=164
1	いずれ結婚するつもり	22.6%
2	結婚するつもりはない (無回答)	71.3% 6.1%

<図Ⅳ－20－2>全体



結婚するつもりがあるかについては、「結婚するつもりはない」が71.3%，一方，「いずれ結婚するつもり」は22.6%であった。（図Ⅳ－20－2）

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

◇「2人」が5割強

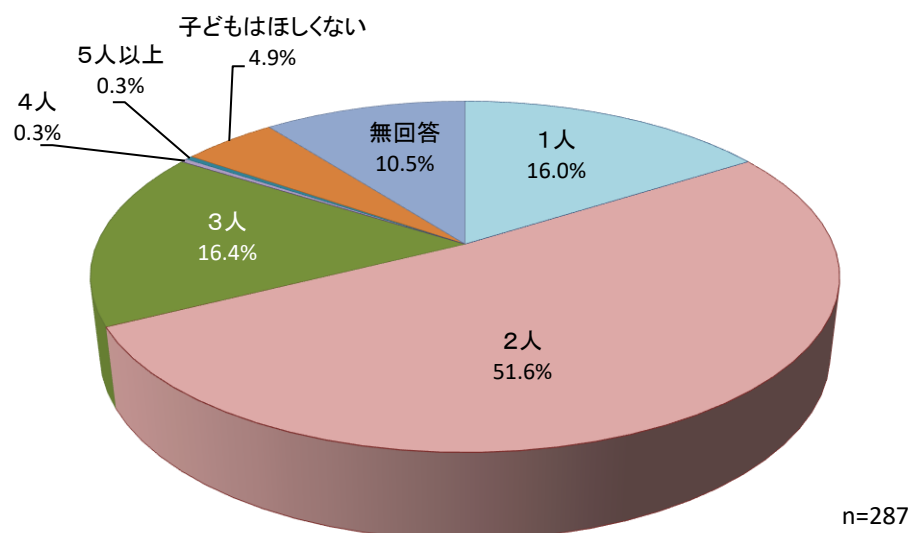
問70 問68で「1 結婚している」と答えた方にお伺いします。「現在のお子さん」と「今後のお子さんの予定」の数を合わせて、全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。

(○は1つ)

n=287

1	1人	16.0%
2	2人	51.6%
3	3人	16.4%
4	4人	0.3%
5	5人以上 (人)	0.3%
6	子どもはほしくない	4.9%
	(無回答)	10.5%

<図Ⅳ-20-3>全体



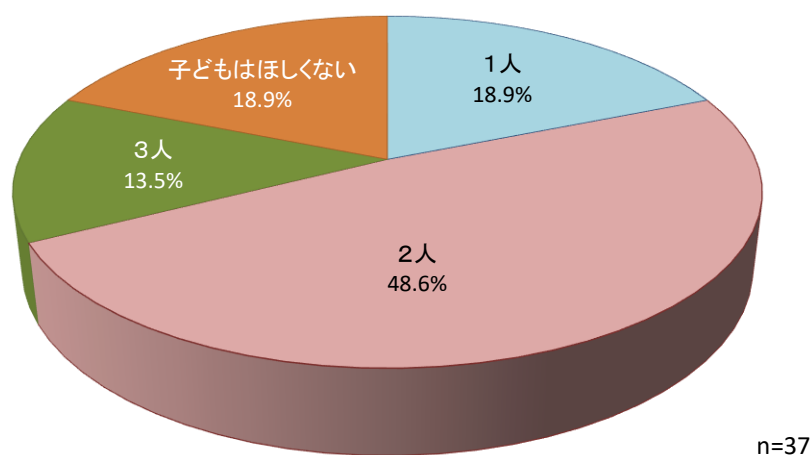
結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が51.6%で最も高く、次いで「3人」が16.4%、「1人」が16.0%と続いた。(図Ⅳ-20-3)

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

◇「2人」が約5割

問7 1 問6 9で「1 いずれ結婚するつもり」と答えた方にお伺いします。子どもは何人ほしいですか。 (○は1つ)		
		n=37
1	1人	18.9%
2	2人	48.6%
3	3人	13.5%
4	4人	0.0%
5	5人以上 (人)	0.0%
6	子どもはほしくない	18.9%
	(無回答)	0.0%

<図IV-20-4>全体



結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が48.6%で最も高く、次いで「1人」と「子どもはほしくない」が18.9%、「3人」が13.5%と続いた。(図IV-20-4)

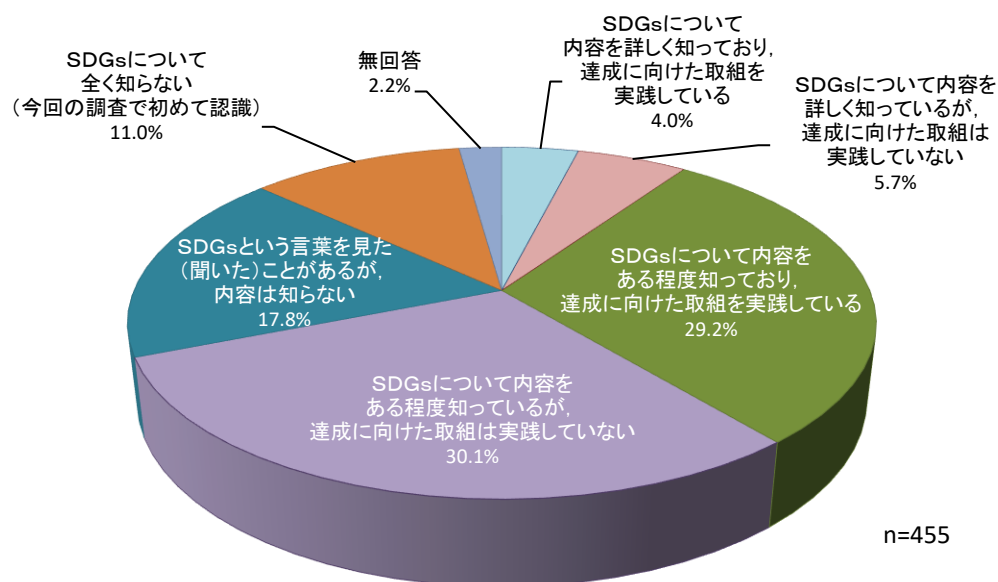
2 1. 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について

(1) SDGs についての認知度

◇ 「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が約 3 割

問 7 2 あなたはSDGs について、どの程度知っていますか。		(○は1つ)
		n=455
1	SDGs について内容を詳しく知っており、達成に向けた取組を実践している	4.0%
2	SDGs について内容を詳しく知っているが、達成に向けた取組は実践していない	5.7%
3	SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している	29.2%
4	SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない	30.1%
5	SDGs という言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない	17.8%
6	SDGs について全く知らない（今回の調査で初めて認識）	11.0%
	（無回答）	2.2%

<図Ⅳ－2 1－1> 全体



SDGs について、どの程度知っているかについては、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が 30.1%と最も高く、次いで「SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が 29.2%、「SDGs という言葉を見た（聞いた）ことがあるが、内容は知らない」が 17.8%と続いた。（図Ⅳ－2 1－1）

<参考>

性別・年齢別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<女性 20 歳代>が 75.0%、<男性 20 歳代>が 57.1%であった。（図Ⅳ－2 1－2）

職業別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<学生>が 66.7%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が 42.5%であった。（図Ⅳ－2 1－2）

家族構成別でみると、「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が 35.2%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が 30.7%であった。（図Ⅳ－2 1－2）

<図Ⅳ－２１－２>性別・年齢別／職業別／家族構成別

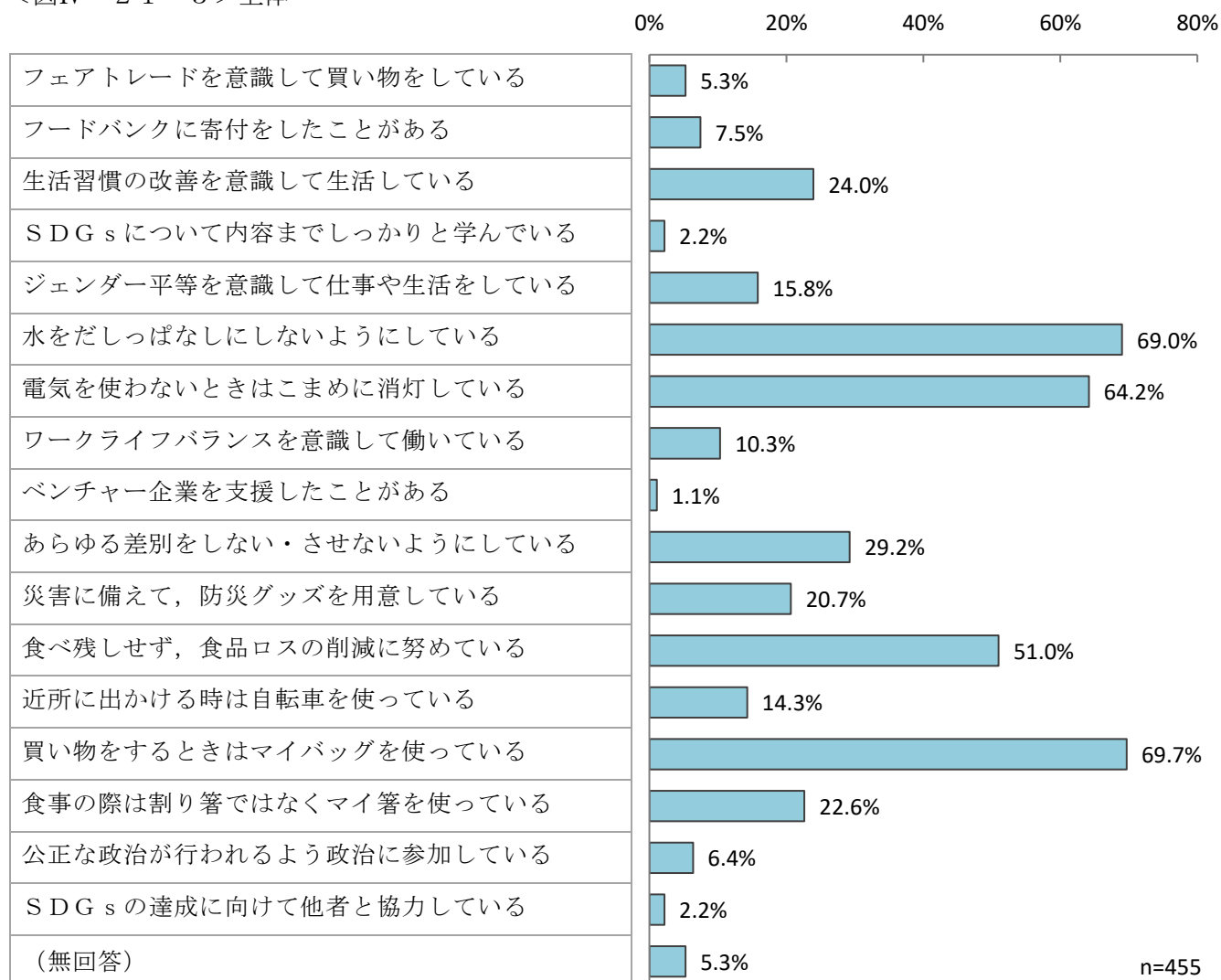


(2) SDG sにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

◇「買い物をするときはマイバッグを使っている」が約7割

問73 以下のSDG sにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものをお答えください。 (〇はいくつでも)		n=455
1	フェアトレード(※1)を意識して買い物をしている	5.3%
2	フードバンクに寄付をしたことがある	7.5%
3	生活習慣の改善を意識して生活している	24.0%
4	SDG sについて内容までしっかりと学んでいる	2.2%
5	ジェンダー平等を意識して仕事や生活をしている	15.8%
6	水をだしっぱなしにしないようにしている	69.0%
7	電気を使わないときはこまめに消灯している	64.2%
8	ワークライフバランスを意識して働いている	10.3%
9	ベンチャー企業(※2)を支援したことがある	1.1%
10	あらゆる差別をしない・させないようにしている	29.2%
11	災害に備えて、防災グッズを用意している	20.7%
12	食べ残しせず、食品ロスの削減に努めている	51.0%
13	近所に出かける時は自転車を使っている	14.3%
14	買い物をするときはマイバッグを使っている	69.7%
15	食事の際は割り箸ではなくマイ箸を使っている	22.6%
16	公正な政治が行われるよう政治に参加している	6.4%
17	SDG sの達成に向けて他者と協力している	2.2%
	(無回答)	5.3%
※1 主に発展途上国から原料や製品を適正な値段で継続的に購入し、生産者の待遇改善と自立を目指すしくみ		
※2 革新的な技術をもとに新規事業に取り組むため、設立された企業		

<図Ⅳ－２１－３>全体



SDGsにつながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「買い物をするときはマイバッグを使っている」が69.7%で最も高く、次いで「水をだしっぱなしにしないようにしている」が69.0%、「電気を使わないときはこまめに消灯している」が64.2%と続いた。(図Ⅳ－２１－３)

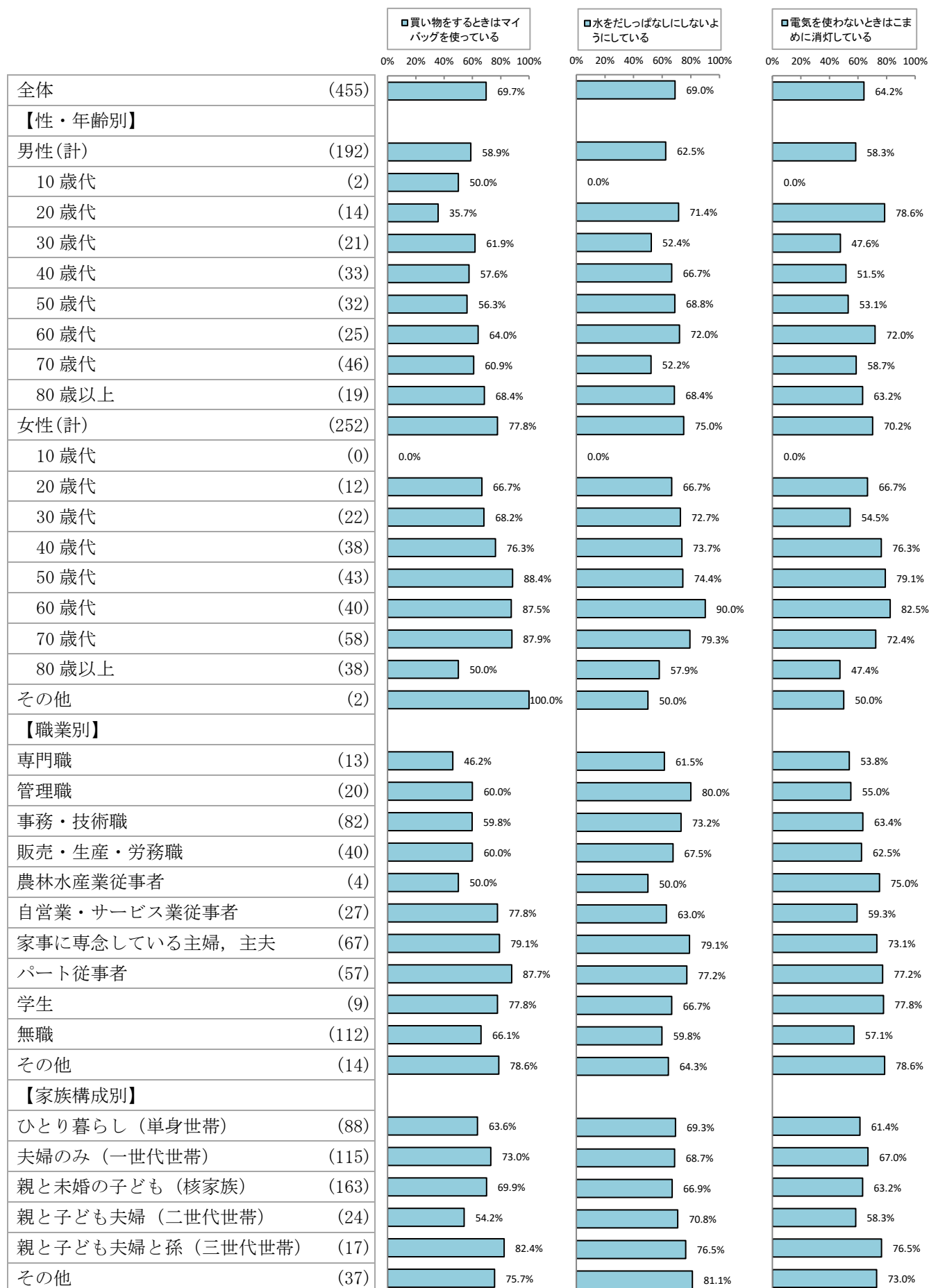
<参考>

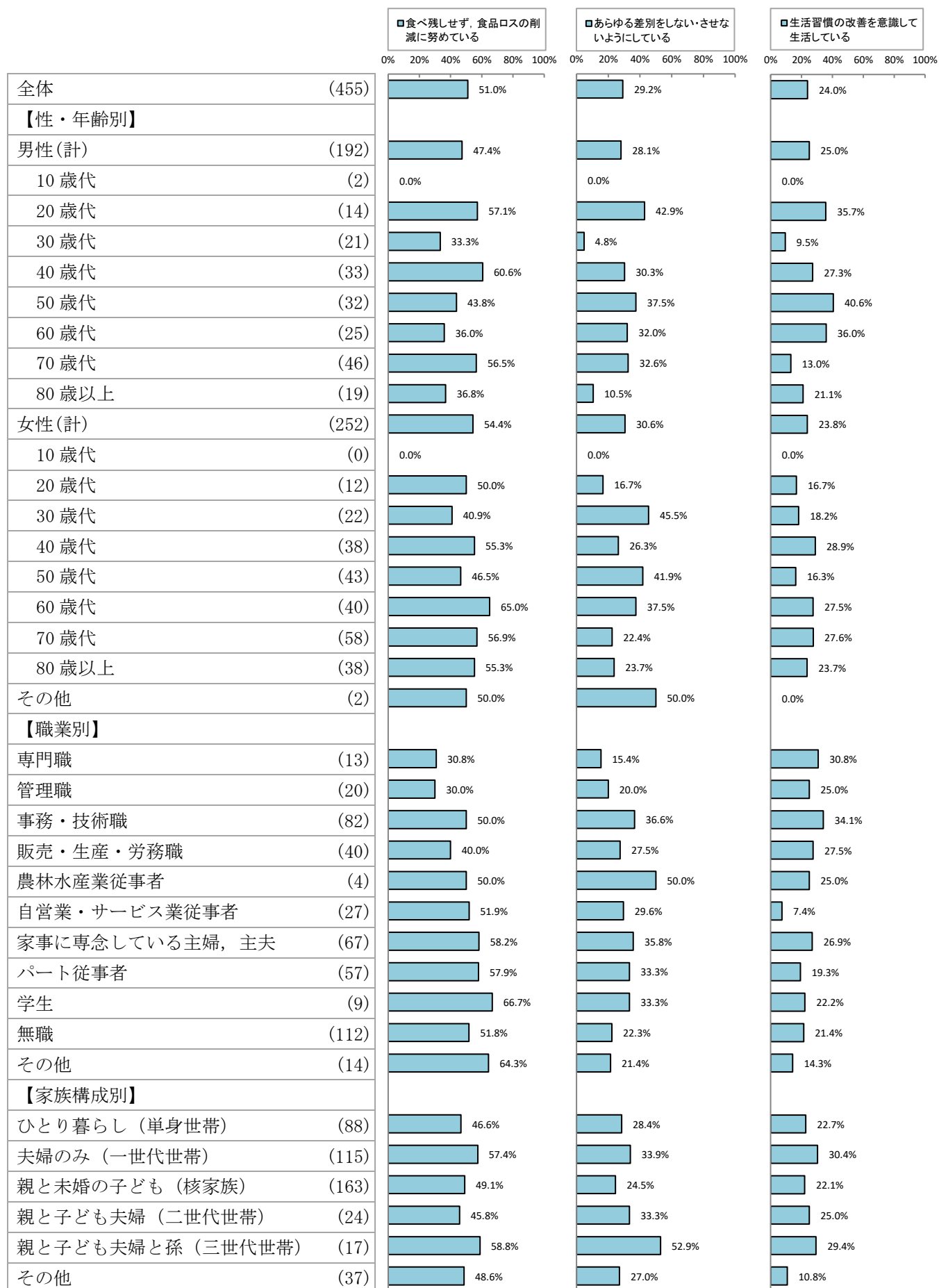
性別・年齢別でみると、「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<その他>を除くと、<女性50歳代>が88.4%で最も高く、次いで<女性70歳代>が87.9%であった。(図Ⅳ－２１－４)

職業別で、「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<パート従事者>が87.7%で最も高く、次いで<家事に専念している主婦、主夫>が79.1%であった。(図Ⅳ－２１－４)

家族構成別でみると、「買い物をするときはマイバッグを使っている」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が82.4%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が73.0%であった。(図Ⅳ－２１－４)

<図Ⅳ－２１－４>性別・年齢別／職業別／家族構成別



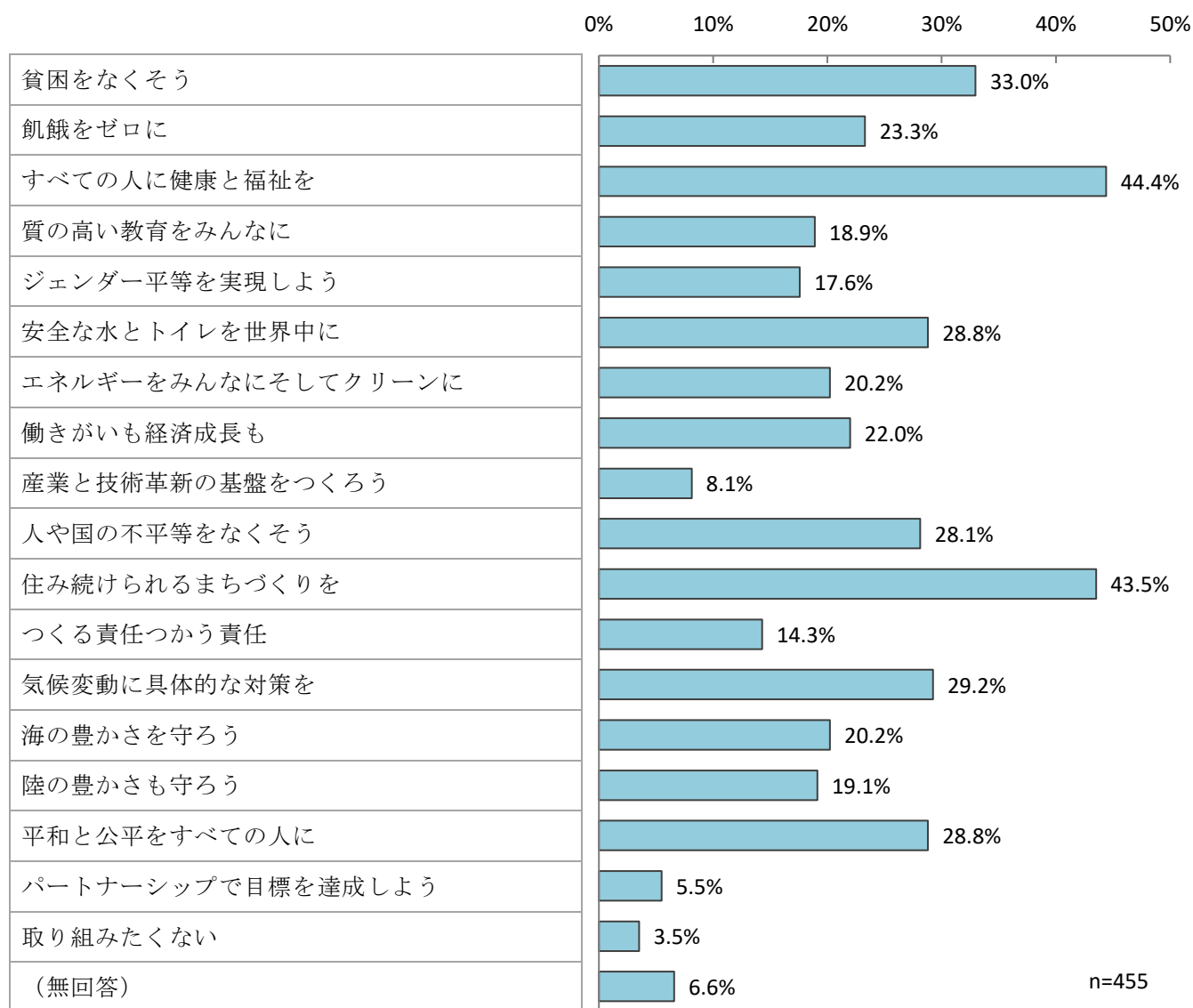


(3) SDGs のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野

◇ 「すべての人に健康と福祉を」が4割半ば

問 7 4 SDGs のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野をお答えください。 (〇はいくつでも)		n=455
1	貧困をなくそう	33.0%
2	飢餓をゼロに	23.3%
3	すべての人に健康と福祉を	44.4%
4	質の高い教育をみんなに	18.9%
5	ジェンダー平等を実現しよう	17.6%
6	安全な水とトイレを世界中に	28.8%
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	20.2%
8	働きがいも経済成長も	22.0%
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	8.1%
10	人や国の不平等をなくそう	28.1%
11	住み続けられるまちづくりを	43.5%
12	つくる責任つかう責任	14.3%
13	気候変動に具体的な対策を	29.2%
14	海の豊かさを守ろう	20.2%
15	陸の豊かさも守ろう	19.1%
16	平和と公平をすべての人に	28.8%
17	パートナーシップで目標を達成しよう	5.5%
18	取り組みたくない	3.5%
	(無回答)	6.6%

<図IV－2 1－5>全体



SDGsのゴールの中で、積極的に取り組みたい分野については、「すべての人に健康と福祉を」が44.4%で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が43.5%、「貧困をなくそう」が33.0%と続いた。(図IV－2 1－5)

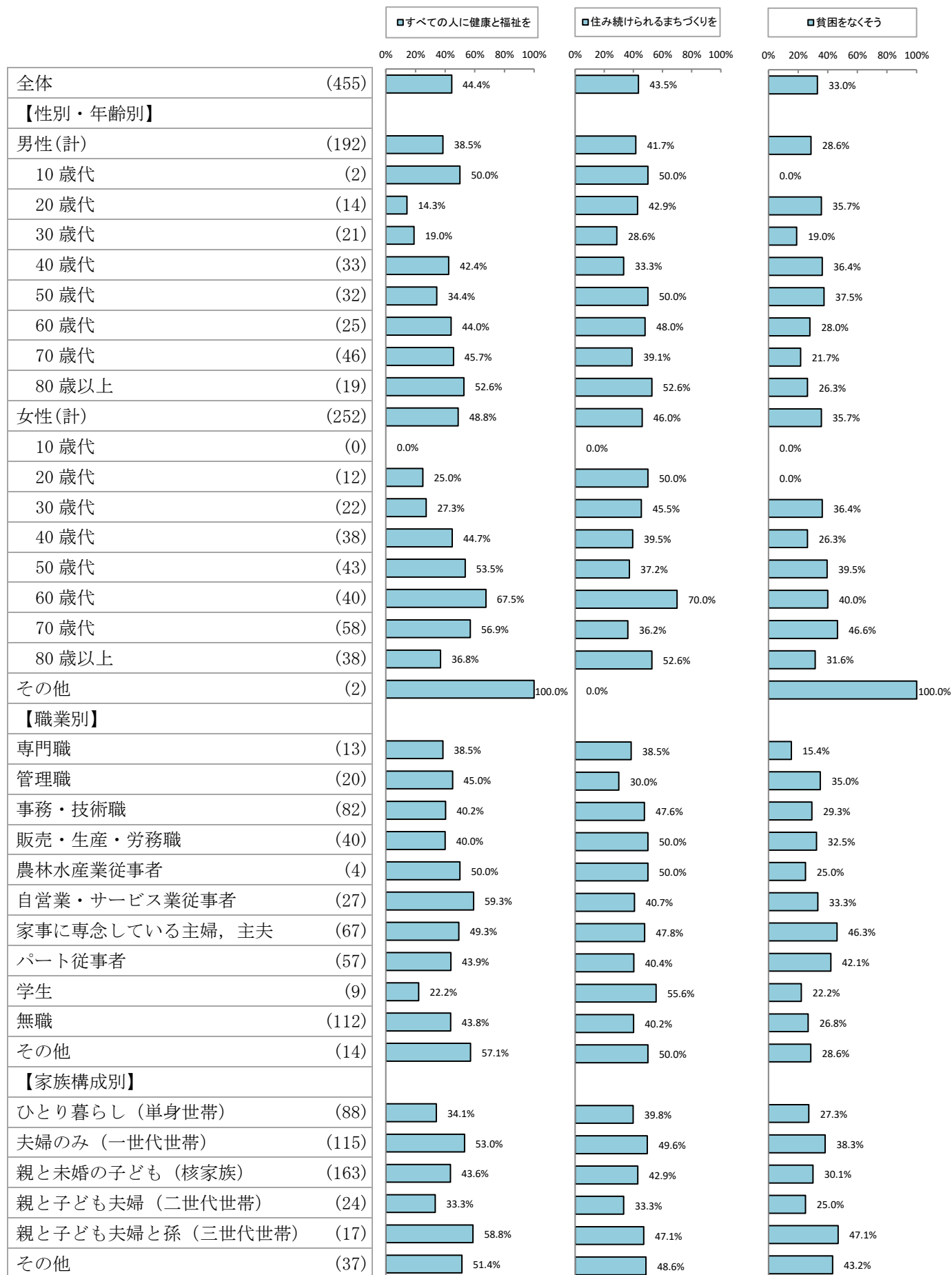
<参考>

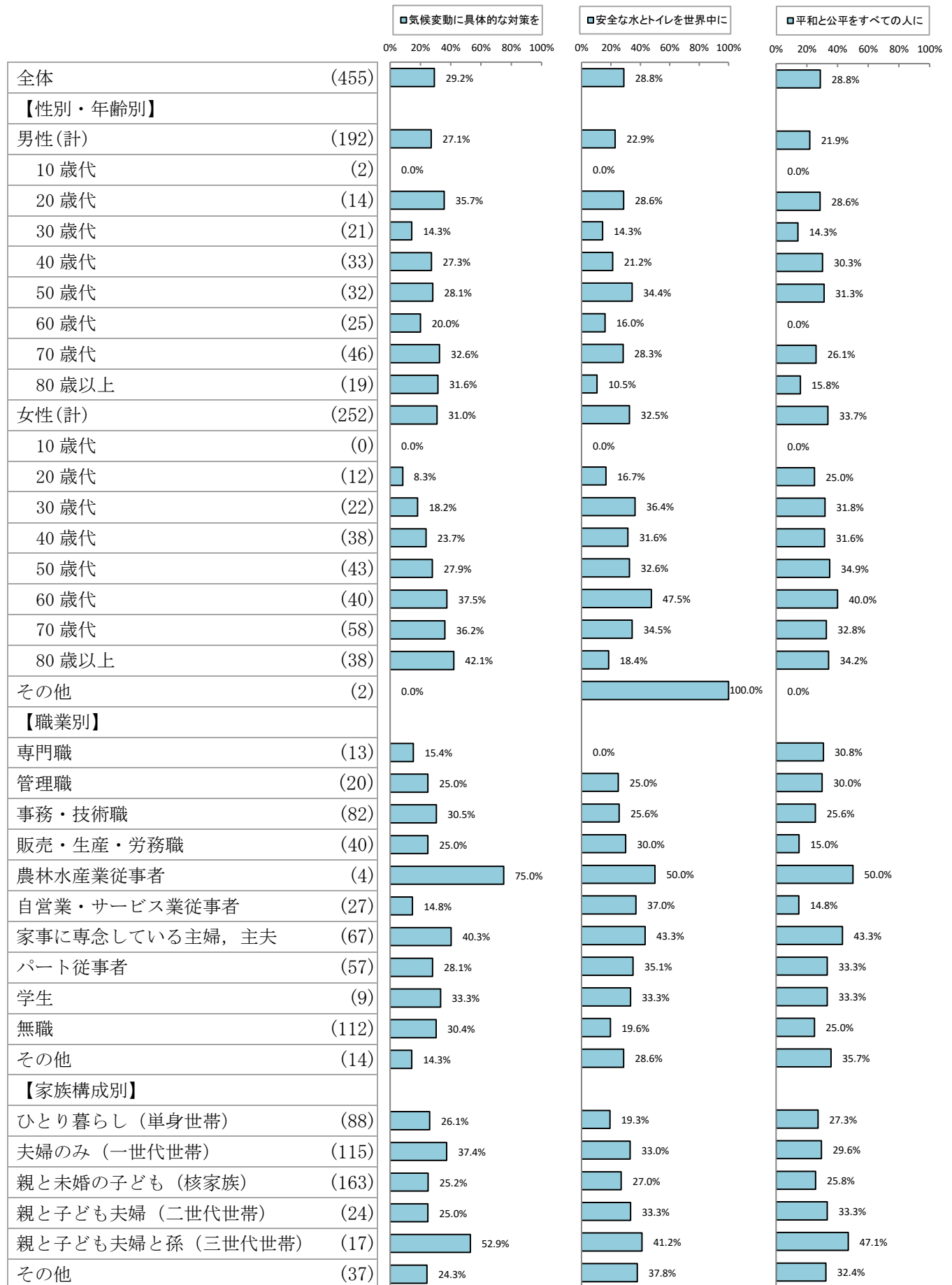
性別・年齢別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<その他>を除くと、<女性 60 歳代>が67.5%で最も高く、次いで<女性 70 歳代>が56.9%であった。(図IV－2 1－6)

職業別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<その他>を除くと、<自営業・サービス業従事者>が59.3%で最も高く、次いで<農林水産業従事者>が50.0%であった。(図IV－2 1－6)

家族構成別でみると、「すべての人に健康と福祉を」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が58.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が53.0%であった。(図IV－2 1－6)

<図Ⅳ－２１－６>性別・年齢別／職業別／家族構成別





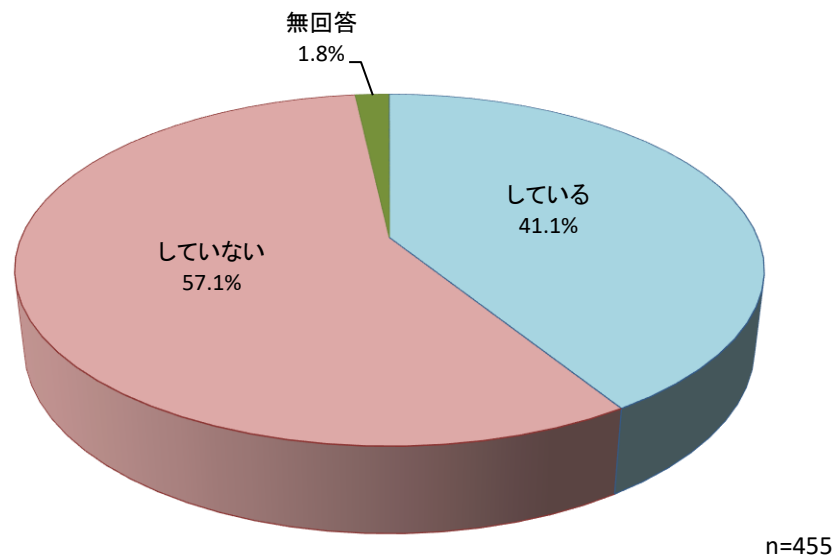
22. 生涯学習について

(1) 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているか

◇ 「していない」が約6割弱

問75 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしていますか。		(○は1つ)
		n=455
1	している	41.1%
2	していない	57.1%
	(無回答)	1.8%

<図IV-22-1>全体



現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているかについては、「していない」が57.1%，一方、「している」は41.1%であった。（図IV-22-1）

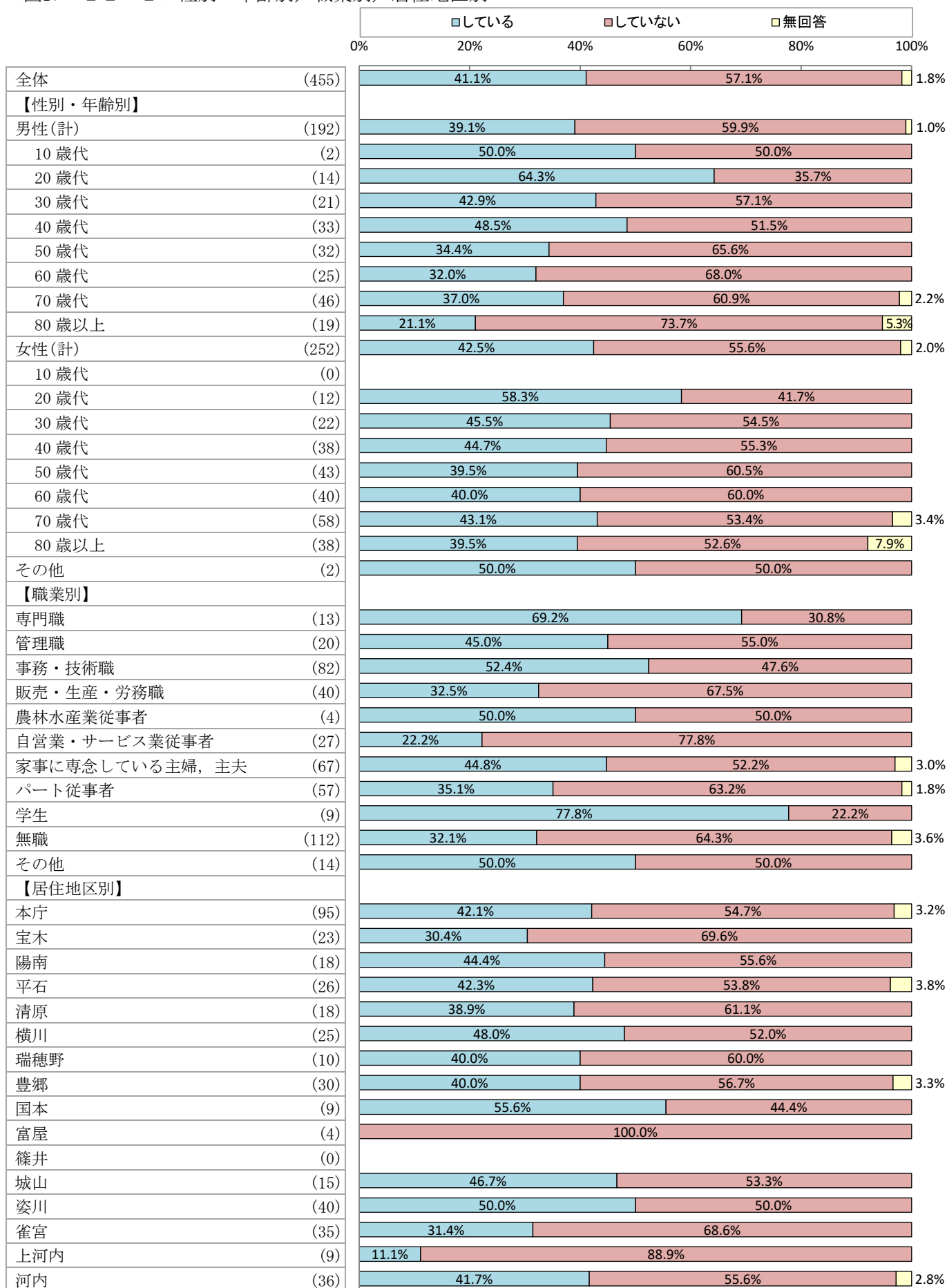
<参考>

性別・年齢別でみると、「していない」は＜男性80歳以上＞が73.7%，＜男性60歳代＞が68.0%であった。一方、「している」は＜男性20歳代＞が64.3%，＜男性40歳代＞が48.5%であった。（図IV-22-2）

職業別でみると、「していない」は＜自営業・サービス業従事者＞が77.8%，＜販売・生産・労務職＞が67.5%であった。一方、「している」は＜事務・技術職＞が52.4%，＜家事に専念している主婦，主夫＞が44.8%であった。（図IV-22-2）

居住地区別でみると、「していない」は＜宝木＞が69.6%，＜雀宮＞が68.6%であった。一方、「している」は＜姿川＞が50.0%，＜横川＞が48.0%であった。（図IV-22-2）

<図Ⅳ－２２－２>性別・年齢別／職業別／居住地区別



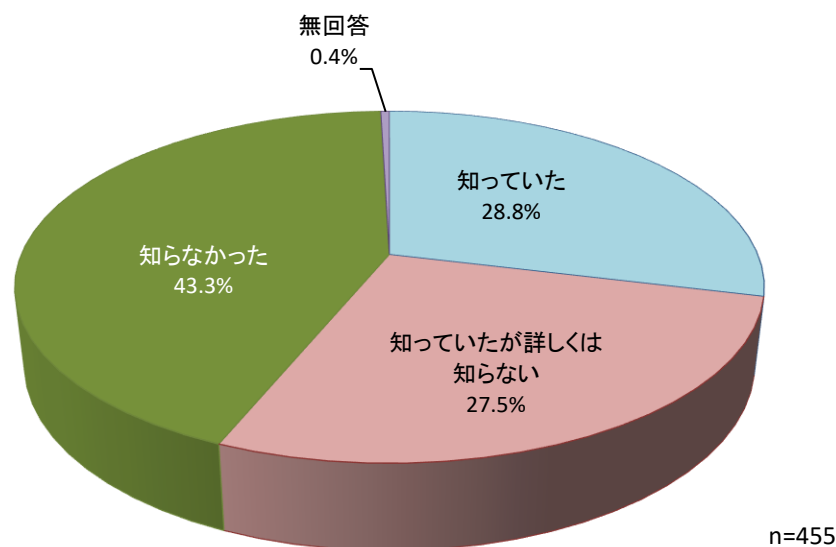
2 3. 火葬により生じる残骨灰の取り扱いについて

(1) 残骨灰の中に歯の治療等に用いられた金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることについての認知度

◇ 「知らなかった」が4割強

問 7 6	火葬後の残骨灰の中に、歯の治療等に用いられた金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることを知っていましたか。	(○は1つ)
		n=455
1	知っていた	28.8%
2	知っていたが詳しくは知らない	27.5%
3	知らなかった	43.3%
	(無回答)	0.4%

<図Ⅳ－2 3－1>全体



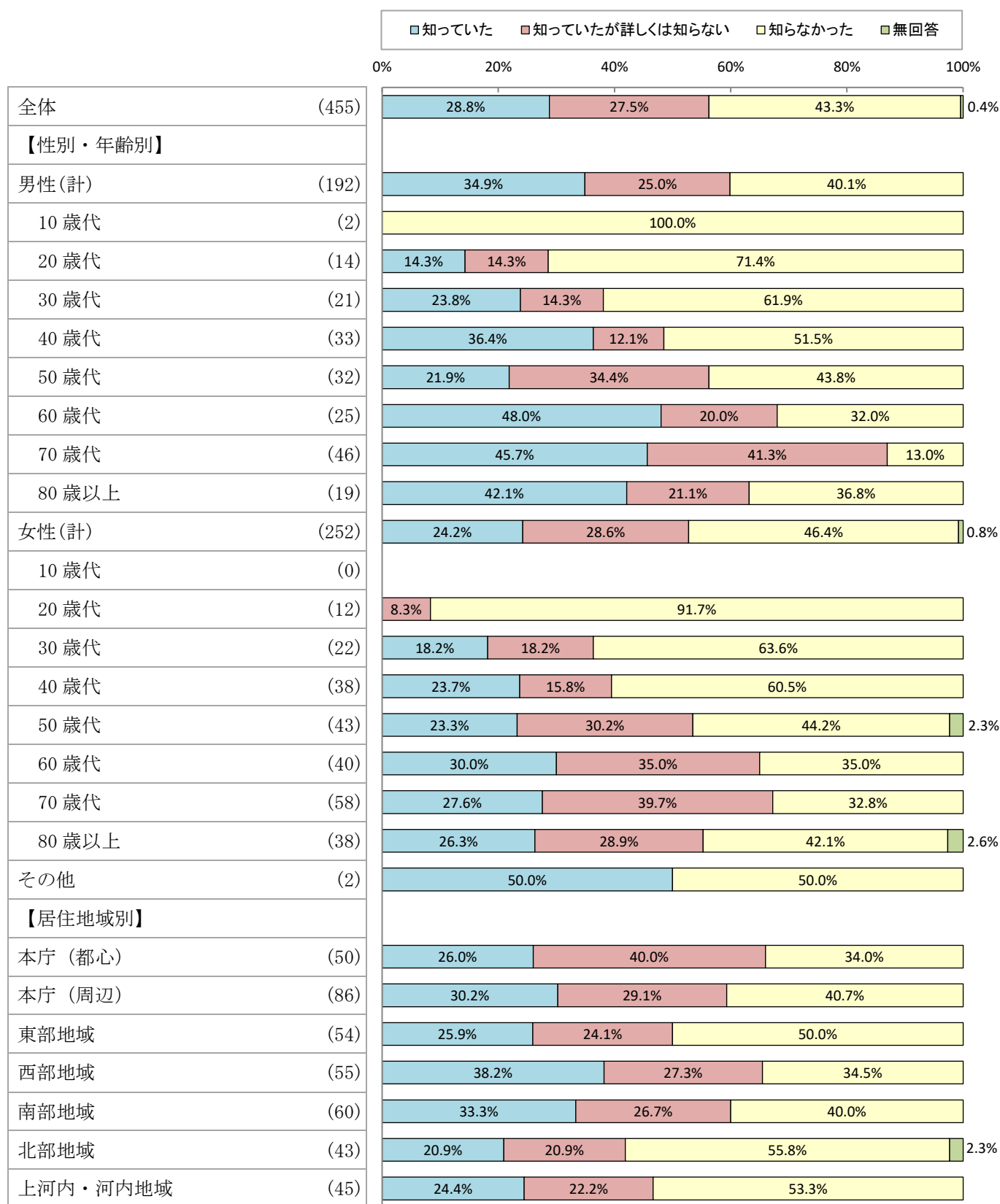
火葬後の残骨灰の中に、歯の治療等に用いられた金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることを知っていたかについては、「知らなかった」が43.3%で最も高く、次いで「知っていた」が28.8%であった。(図Ⅳ－2 3－1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らなかった」は<男性10歳代>が100.0%、<女性20歳代>が91.7%であった。(図Ⅳ－2 3－2)

居住地域別でみると、「知らなかった」は<北部地域>が55.8%で最も高く、次いで<上河内・河内地域>が53.3%であった。(図Ⅳ－2 3－2)

<図Ⅳ－２３－２>性別・年齢別／居住地域別

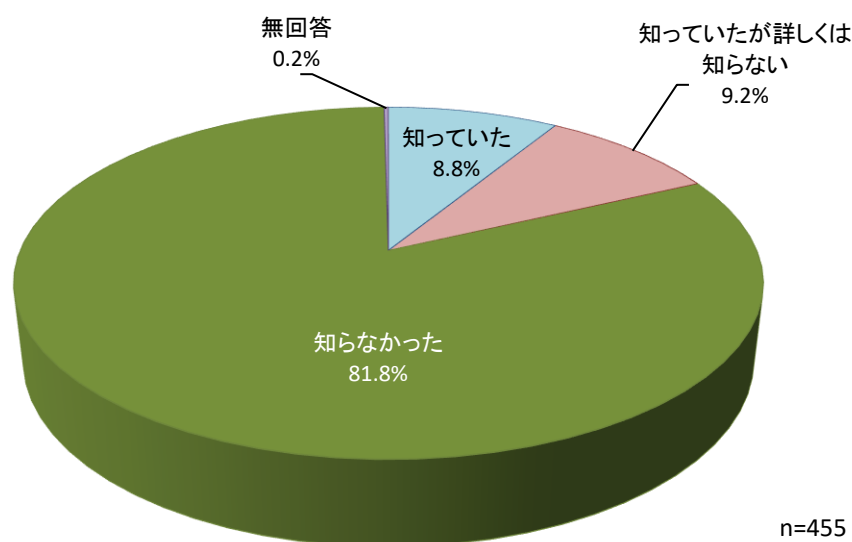


(2) 残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があること
についての認知度

◇「知らなかった」が8割強

問 7 7	残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることを知っていましたか。	(○は1つ)
		n=455
1	知っていた	8.8%
2	知っていたが詳しくは知らない	9.2%
3	知らなかった	81.8%
	(無回答)	0.2%

<図Ⅳ－23－3>全体



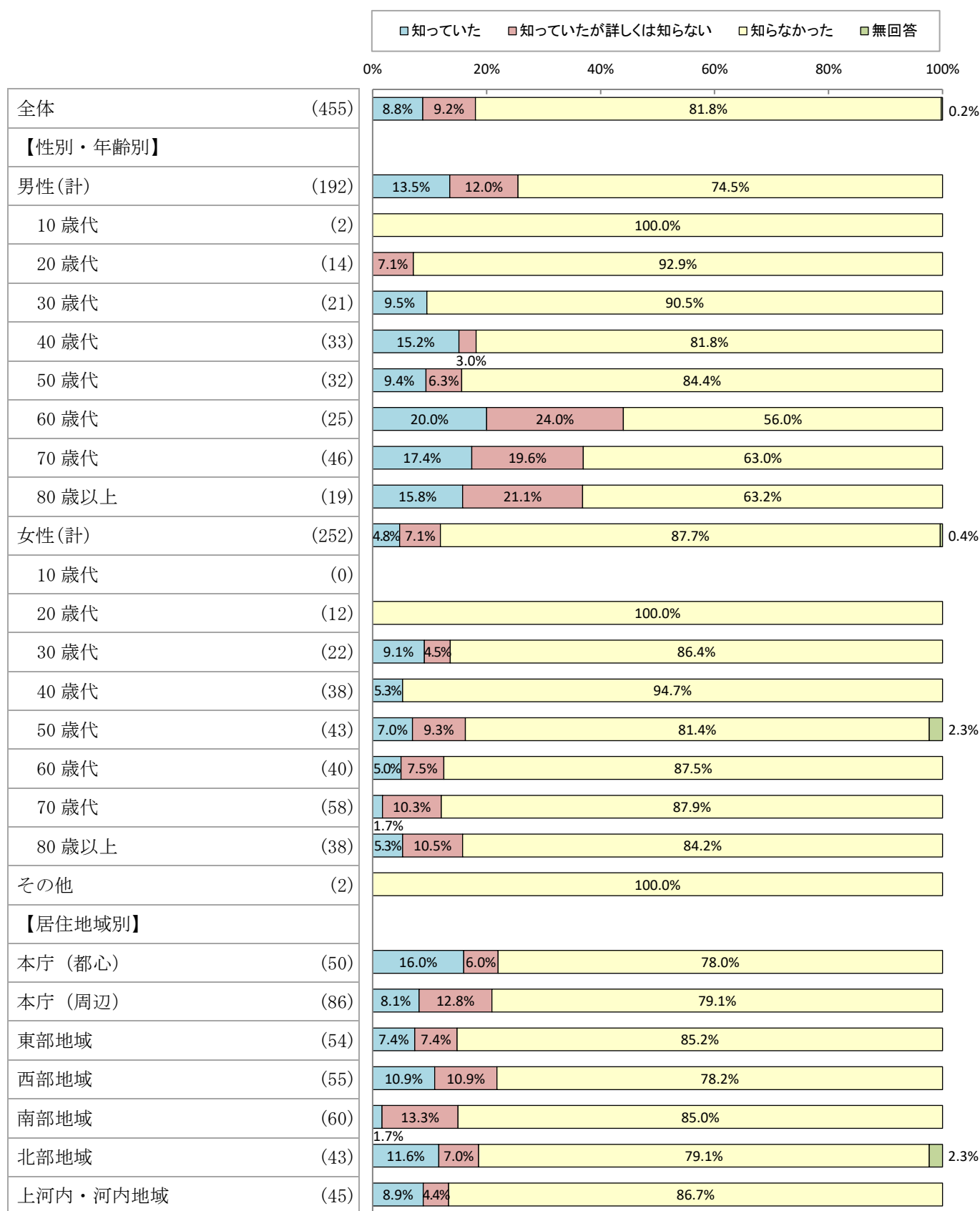
残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることを知っていたかについては、「知らなかった」が81.8%で最も高く、次いで「知っていたが詳しくは知らない」が9.2%であった。(図Ⅳ－23－3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らなかった」は<その他>を除くと、<男性10歳代><女性20歳代>がいずれも100.0%、<女性40歳代>が94.7%であった。(図Ⅳ－23－4)

居住地域別でみると、「知らなかった」は<上河内・河内地域>が86.7%で最も高く、次いで<東部地域>が85.2%であった。(図Ⅳ－23－4)

<図Ⅳ－２３－４>性別・年齢別／居住地域別

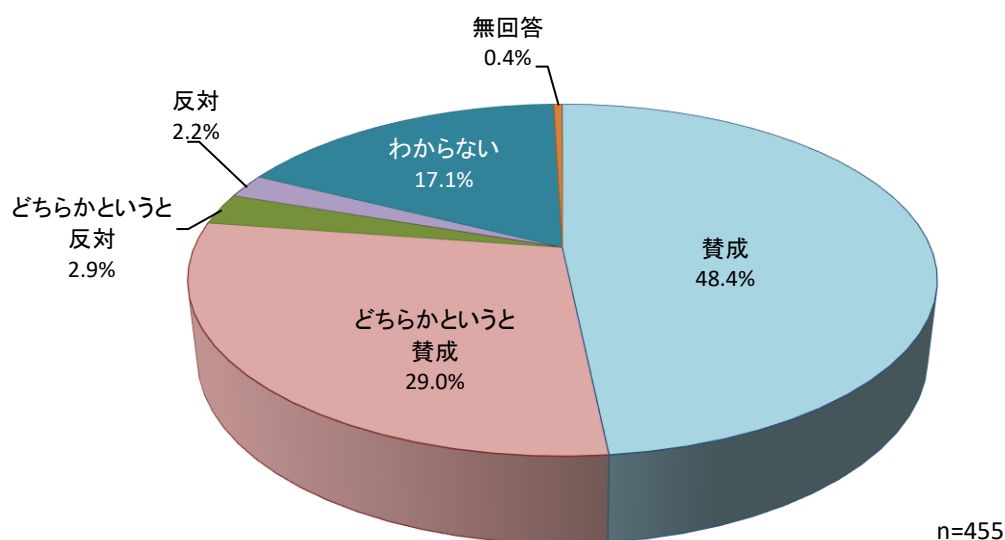


(3) 残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることについてどう
 思うか

◇「賛成」が5割弱

問 7 8	残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることについてどう 思いますか。	(○は1つ) n=455
1	賛成	48.4%
2	どちらかという賛成	29.0%
3	どちらかという反対	2.9%
4	反対	2.2%
5	わからない	17.1%
	(無回答)	0.4%

<図Ⅳ－23－5>全体



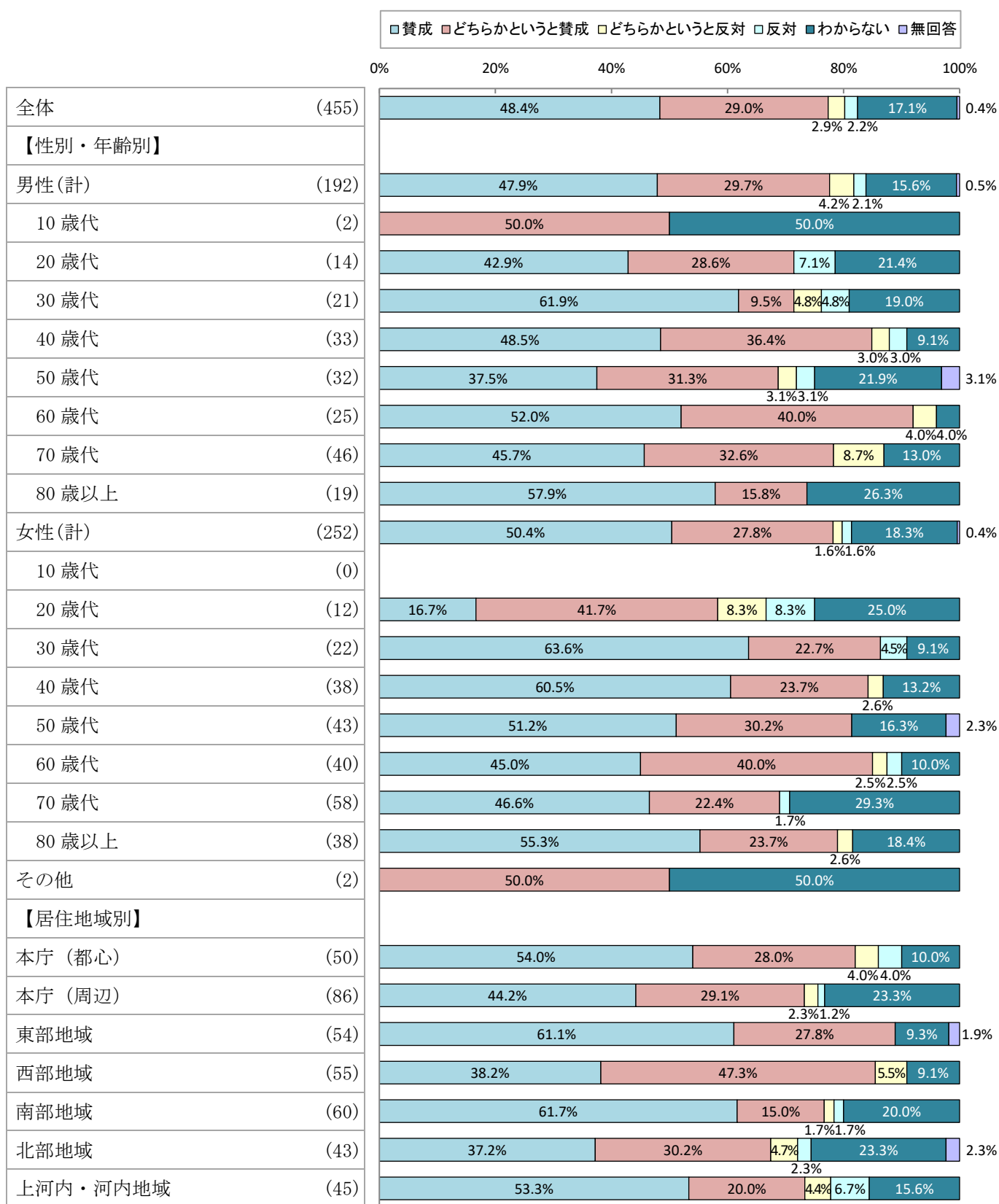
残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることについてどう思うかについては、「賛成」が48.4%、「どちらかという賛成」が29.0%で、これらを合わせた【賛成（計）】は77.4%であった。一方、「反対」が2.2%、「どちらかという反対」が2.9%で、これらを合わせた【反対（計）】は5.1%であった。（図Ⅳ－23－5）

<参考>

性別・年齢別でみると、「賛成」は＜女性30歳代＞が63.6%で最も高く、次いで＜男性30歳代＞が61.9%であった。また、「どちらかという賛成」は＜その他＞を除くと、＜男性10歳代＞が50.0%で最も高く、次いで＜女性20歳代＞が41.7%であった。（図Ⅳ－23－6）

居住地域別でみると、「賛成」は＜南部地域＞が61.7%で最も高く、次いで＜東部地域＞が61.1%であった。また、「どちらかという賛成」は＜西部地域＞が47.3%で最も高く、次いで＜北部地域＞が30.2%であった。（図Ⅳ－23－6）

<図Ⅳ－２３－６>性別・年齢別／居住地域別



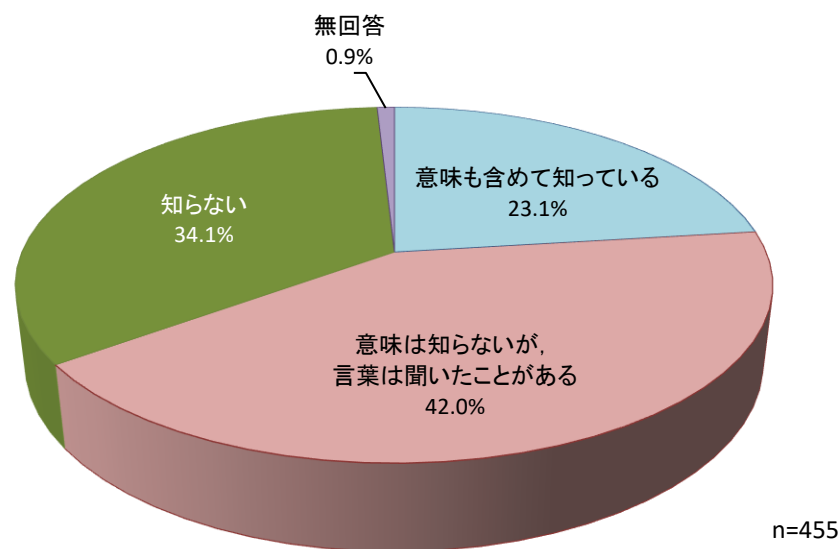
2 4. 地域共生社会について

(1) 地域共生社会の認知度

◇「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が4割強

問 7 9	地域共生社会を知っていますか。	(○は1つ)
		n=455
1	意味も含めて知っている	23.1%
2	意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	42.0%
3	知らない	34.1%
	(無回答)	0.9%

<図Ⅳ－2 4－1>全体

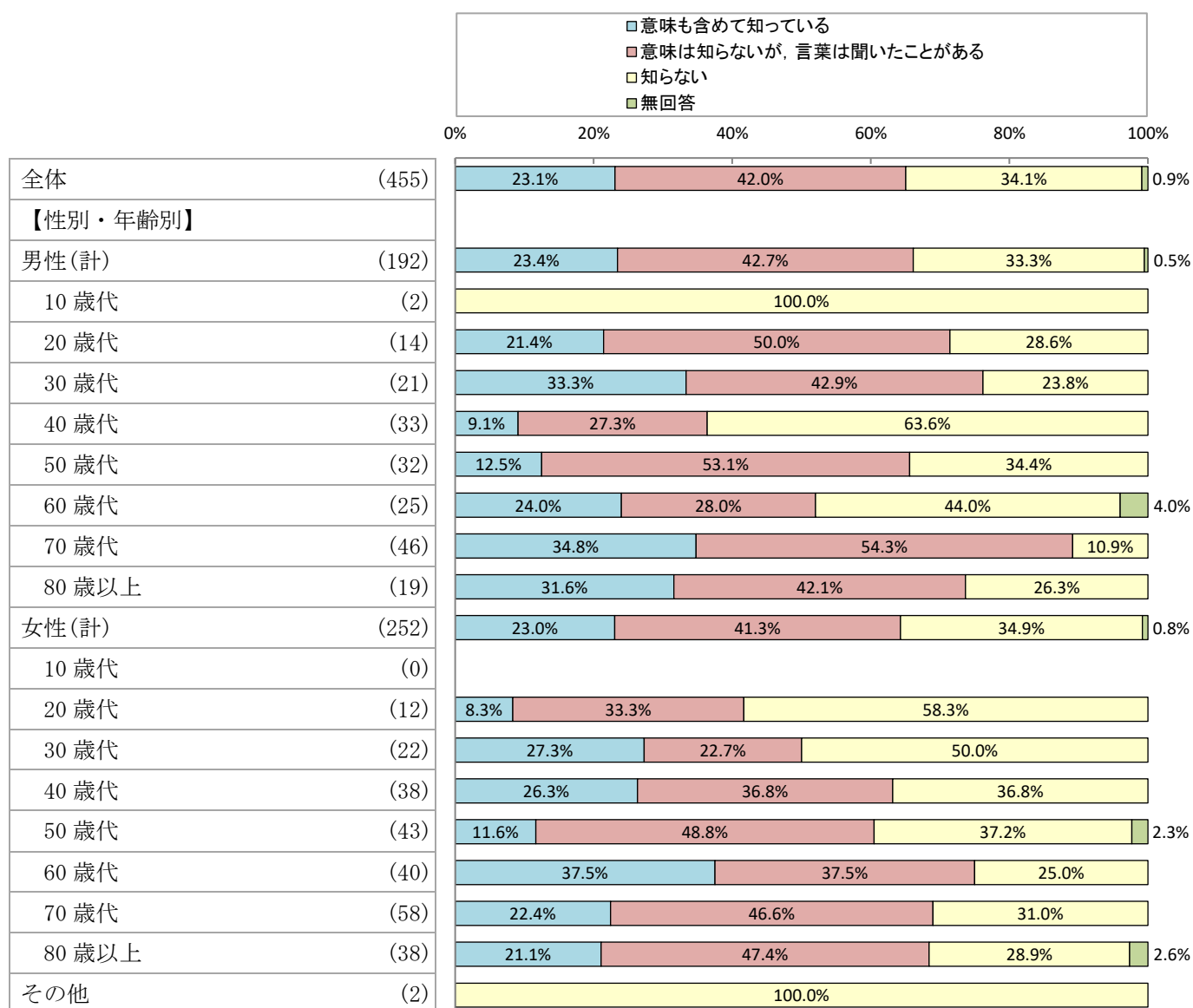


地域共生社会を知っているかについては、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が42.0%で最も高く、次いで「知らない」が34.1%であった。(図Ⅳ－2 4－1)

<参考>

性別・年齢別でみると、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」は<男性70歳代>が54.3%で最も高く、次いで<男性50歳代>が53.1%であった。(図Ⅳ－2 4－2)

<図Ⅳ－２４－２>性別・年齢別

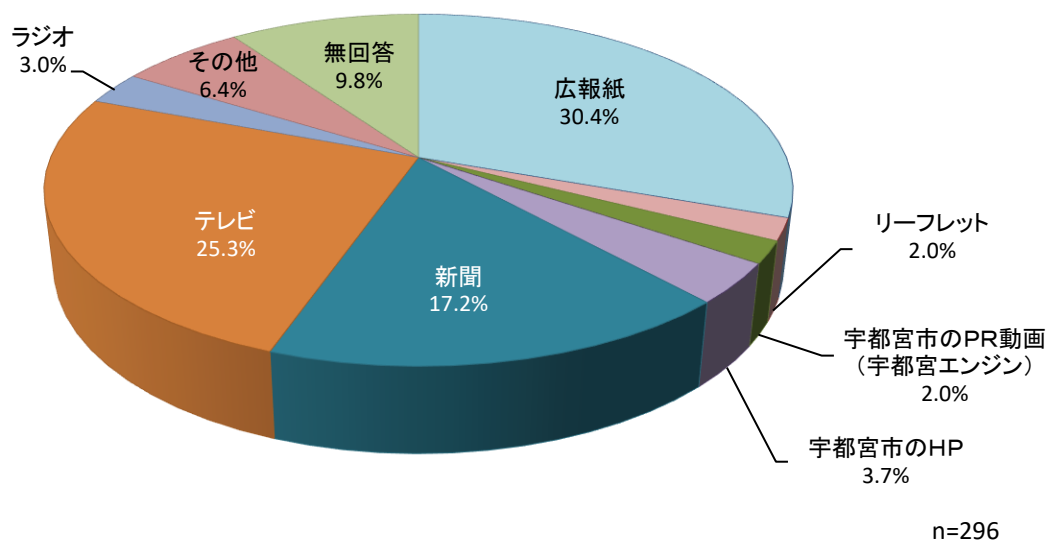


(1) どのようにして地域共生社会を知ったか

◇「広報紙」が約3割

問 8 0 どのようにして地域共生社会を知りましたか。		(○は1つ)
		n=296
1	広報紙	30.4%
2	リーフレット	2.0%
3	宇都宮市のPR動画（宇都宮エンジン）	2.0%
4	宇都宮市のHP	3.7%
5	新聞	17.2%
6	テレビ	25.3%
7	ラジオ	3.0%
8	その他	6.4%
	(無回答)	9.8%

<図Ⅳ－24－3>全体

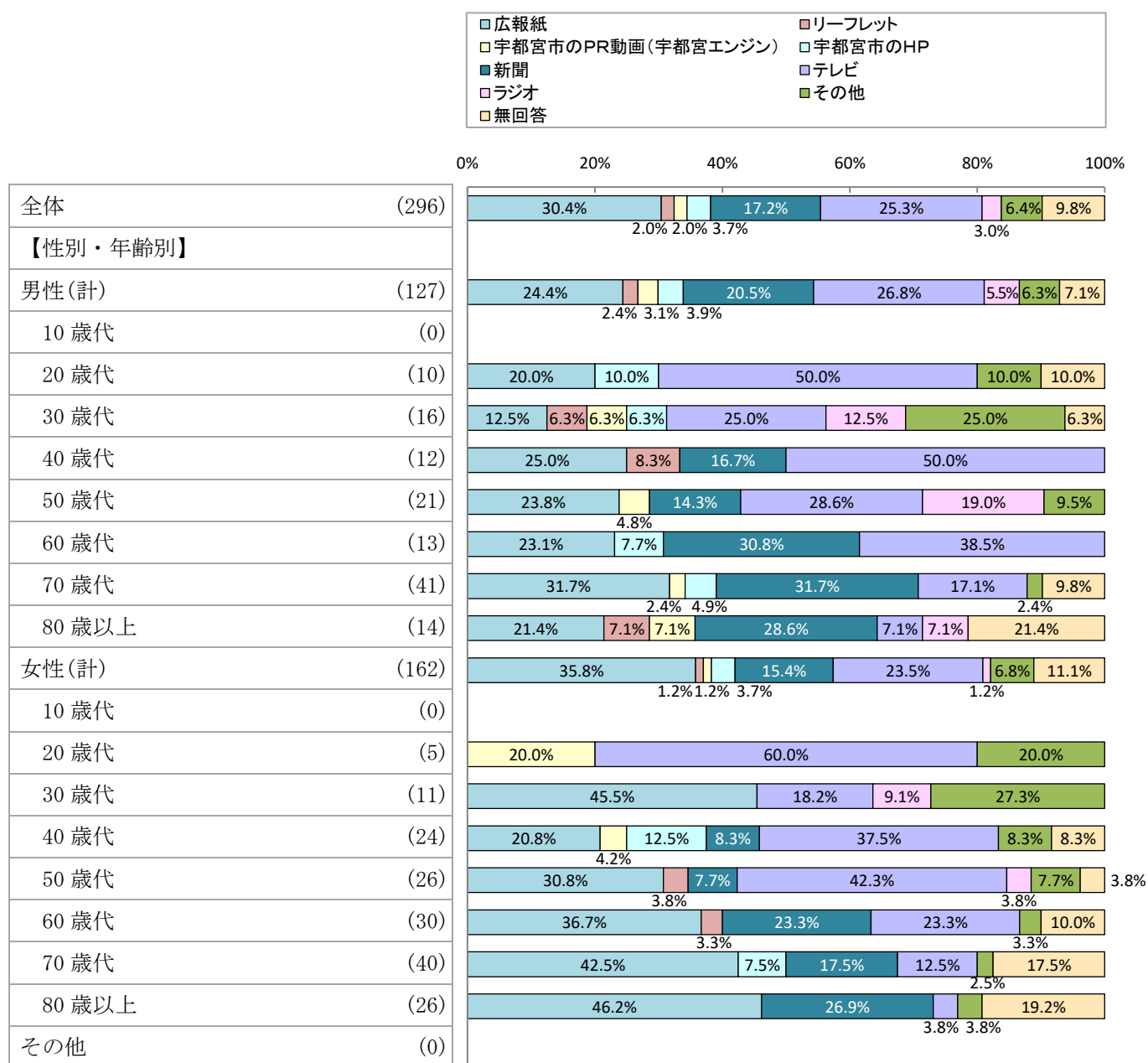


どのようにして地域共生社会を知ったかについては、「広報紙」が30.4%で最も高く、次いで「テレビ」が25.3%、「新聞」が17.2%と続いた。(図Ⅳ－24－3)

<参考>

性別・年齢別でみると、「広報紙」は＜女性80歳以上＞が46.2%で最も高く、次いで＜女性30歳代＞が45.5%であった。(図Ⅳ－24－4)

<図Ⅳ－２４－４>性別・年齢別



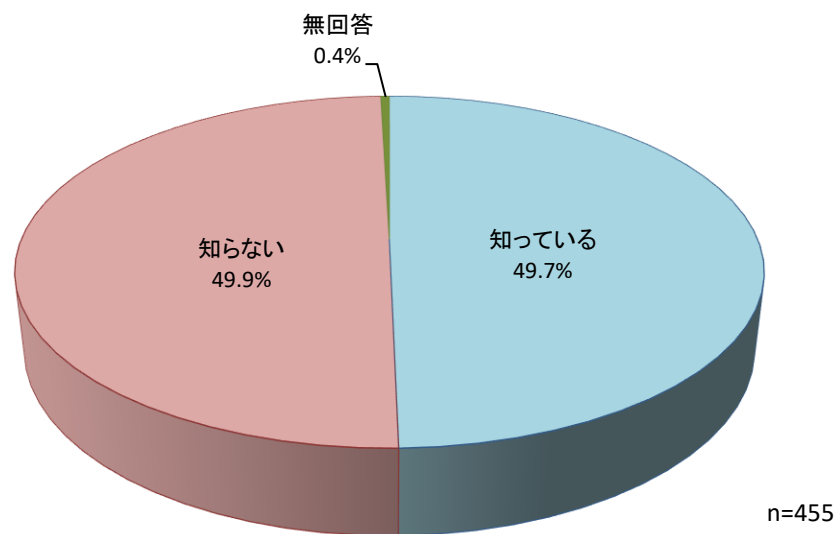
25. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度

◇「知っている」と「知らない」がいずれも約5割

問 8 1 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことを知っていますか。		(○は1つ)
		n=455
1	知っている	49.7%
2	知らない	49.9%
	(無回答)	0.4%

<図IV-25-1>全体



「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことを知っているかについては、「知らない」が49.9%、「知っている」が49.7%で、ほぼ同じであった。(図IV-25-1)

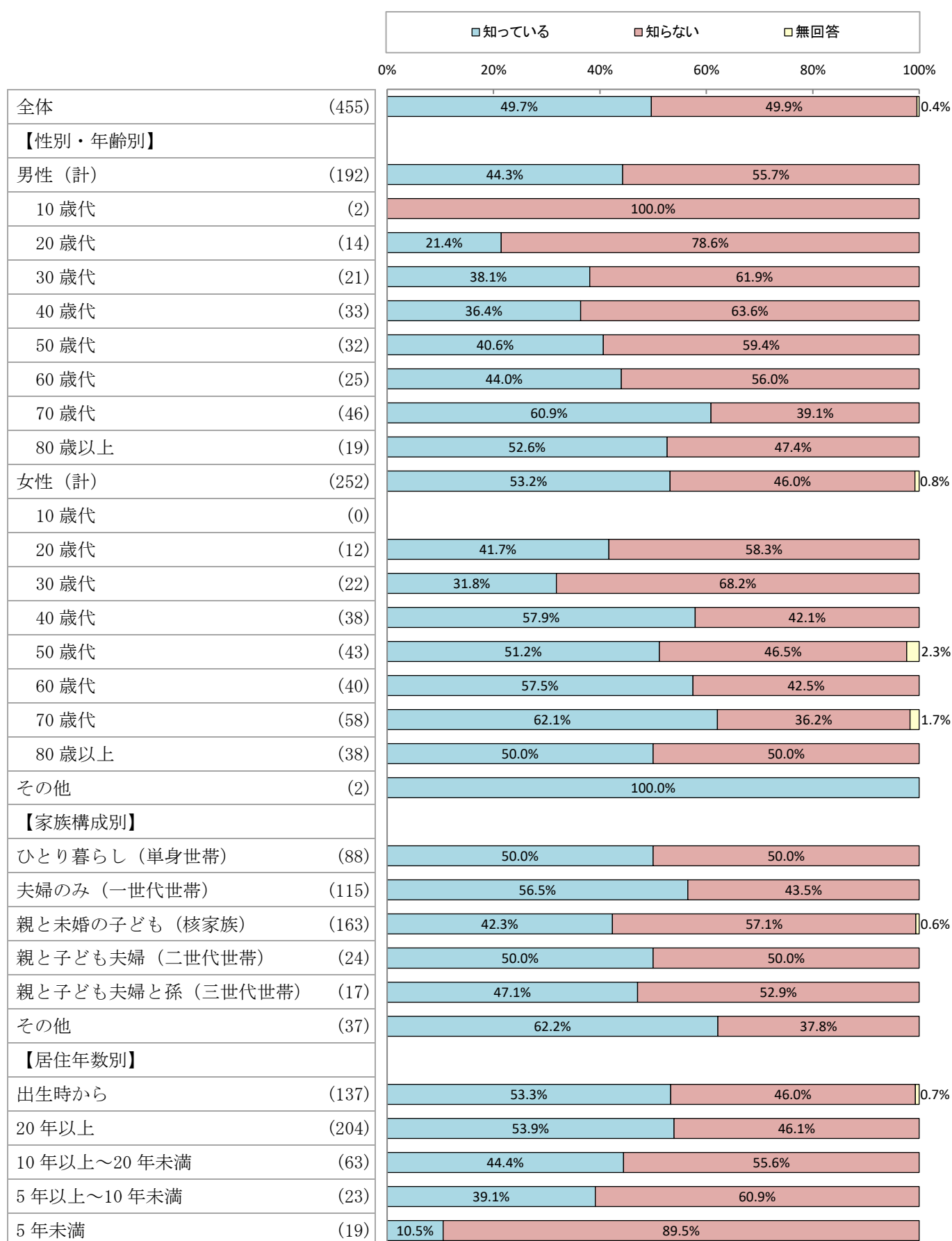
<参考>

性別・年齢別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<女性70歳代>が62.1%で最も高く、<男性70歳代>が60.9%であった。一方、「知らない」は<男性10歳代>が100.0%、<男性20歳代>が78.6%であった。(図IV-25-2)

家族構成別でみると、「知っている」は<その他>を除くと、<夫婦のみ(一世代世帯)>が56.5%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)><親と子ども夫婦(二世帯世帯)>がいずれも50.0%であった。一方、「知らない」は<親と未婚の子ども(核家族)>が57.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が52.9%であった。(図IV-25-2)

居住年数別でみると、「知っている」は<20年以上>が53.9%で最も高く、次いで<出生時から>が53.3%であった。一方、「知らない」は<5年未満>が89.5%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が60.9%であった。(図IV-25-2)

<図Ⅳ－２５－２>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

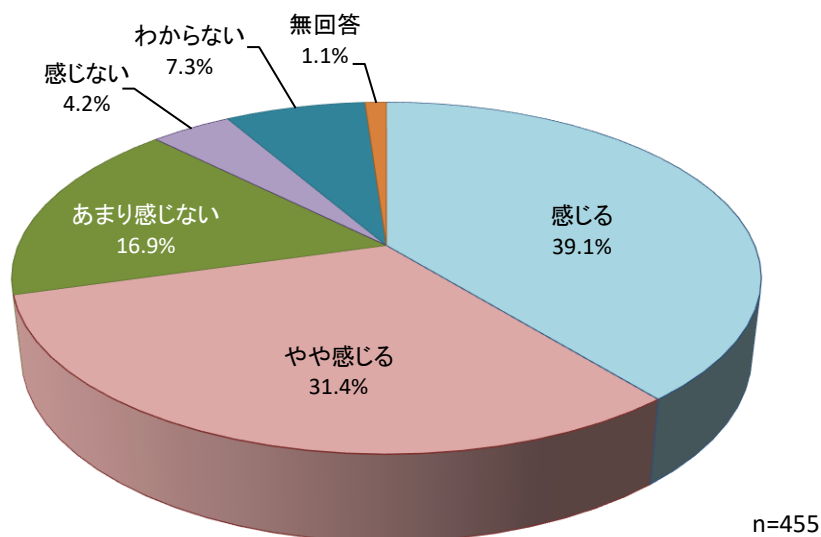


(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

◇「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる（計）】が約7割

問 8 2 本市の暮らしに息づいている「大谷石文化」を誇りに感じますか。		(○は1つ)
		n=455
1	感じる	39.1%
2	やや感じる	31.4%
3	あまり感じない	16.9%
4	感じない	4.2%
5	わからない	7.3%
	(無回答)	1.1%

<図Ⅳ－25－3>全体



「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」が 39.1%、「やや感じる」が 31.4%で、これらを合わせた【感じる（計）】は 70.5%であった。一方、「感じない」が 4.2%、「あまり感じない」が 16.9%で、これらを合わせた【感じない（計）】は 21.1%であった。(図Ⅳ－25－3)

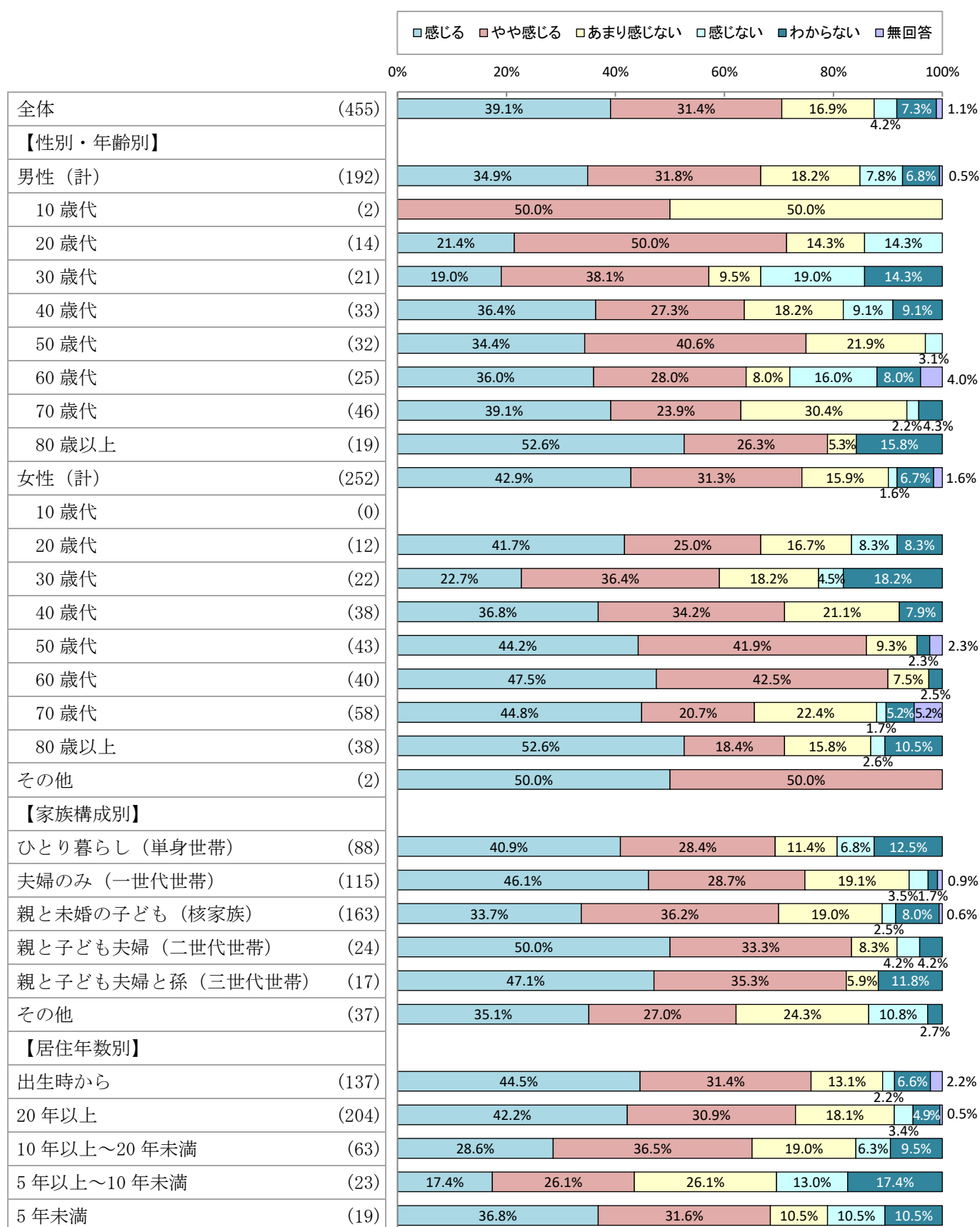
<参考>

性別・年齢別でみると、【感じる（計）】は<その他>を除くと、<女性 60 歳代>が 90.0%で最も高く、<女性 50 歳代>が 86.1%であった。一方、【感じない（計）】は<男性 10 歳代>が 50.0%で最も高く、次いで<男性 70 歳代>が 32.6%であった。(図Ⅳ－25－4)

家族構成別でみると、【感じる（計）】は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 83.3%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 82.4%であった。一方、【感じない（計）】は<夫婦のみ（一世帯世帯）>が 22.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が 21.5%であった。(図Ⅳ－25－4)

居住年数別でみると、【感じる（計）】は<出生時から>が 75.9%で最も高く、次いで<20 年以上>が 73.1%であった。一方、【感じない（計）】は<5 年以上～10 年未満>が 39.1%で最も高く、次いで<10 年以上～20 年未満>が 25.3%であった。(図Ⅳ－25－4)

<図Ⅳ－２５－４>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



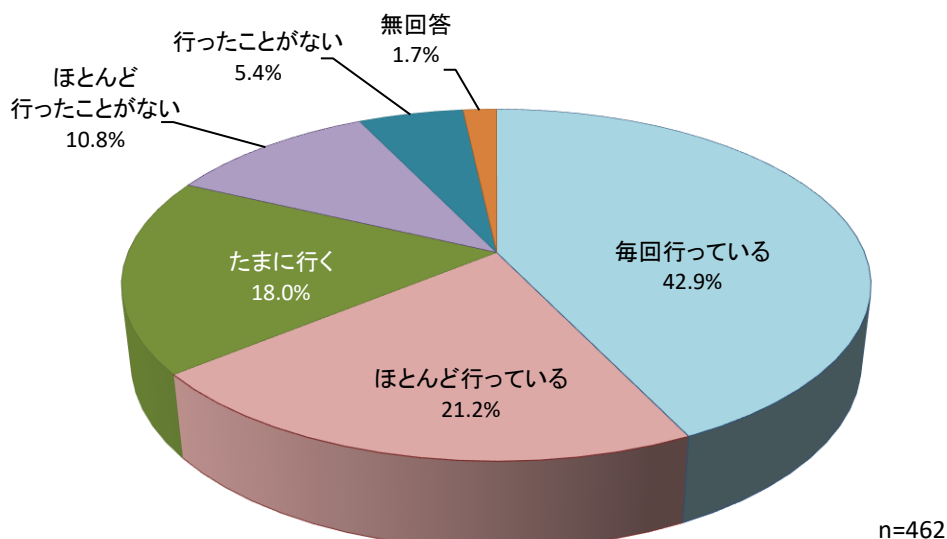
2 6. 選挙の投票率向上に向けた取組について

(1) 最近の選挙について投票に行っているか

◇「毎回行っている」が4割強

問 8 3 最近の選挙について、投票に行っていますか。		(○は1つ)
		n=462
1	毎回行っている	42.9%
2	ほとんど行っている	21.2%
3	たまに行く	18.0%
4	ほとんど行ったことがない	10.8%
5	行ったことがない	5.4%
	(無回答)	1.7%

<図Ⅳ－2 6－1>全体



最近の選挙について、投票に行っているかについては、「毎回行っている」が42.9%で最も高く、次いで「ほとんど行っている」が21.2%、「たまに行く」が18.0%と続いた。(図Ⅳ－2 6－1)

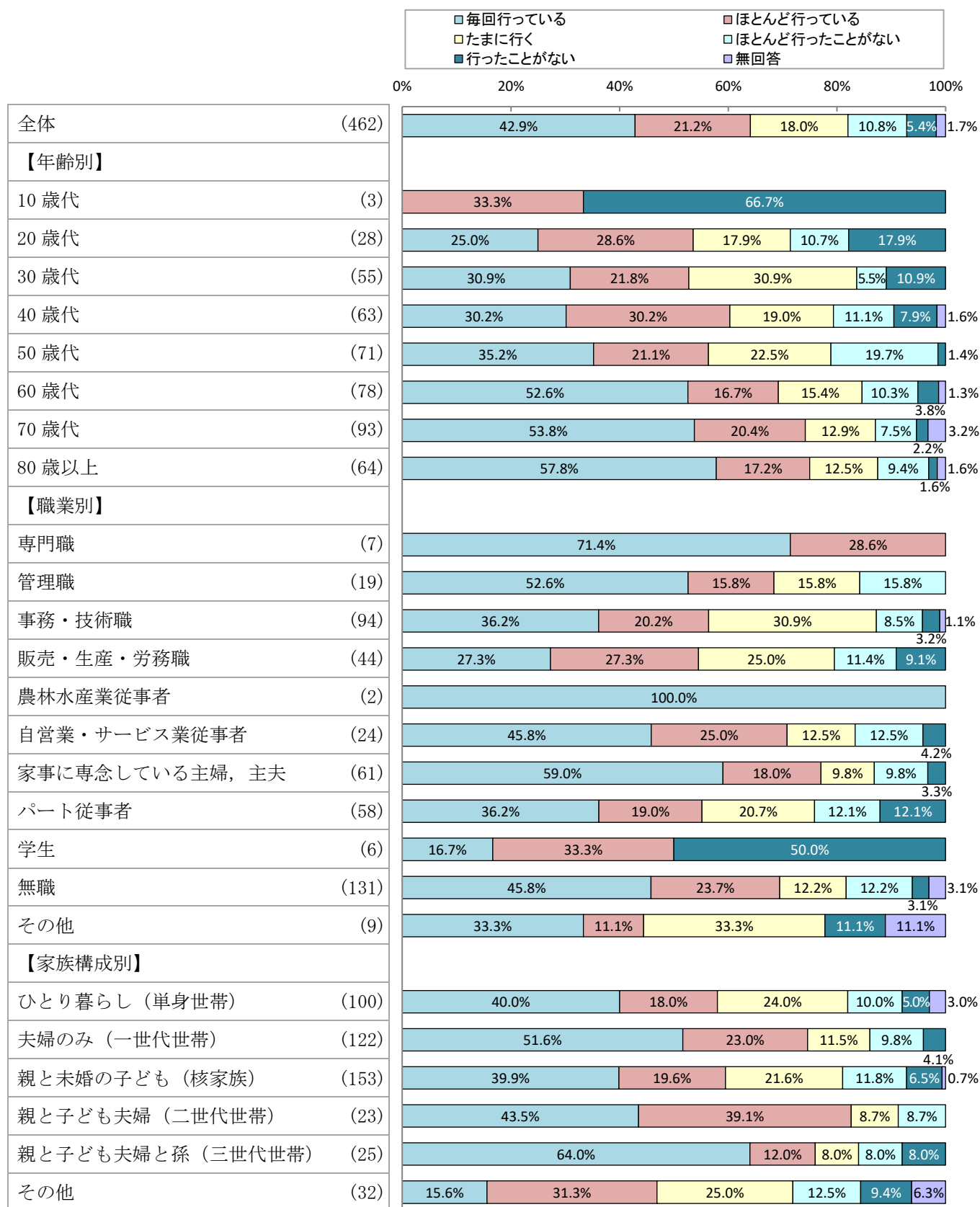
<参考>

年齢別でみると、「毎回行っている」は<80歳以上>が57.8%で最も高く、次いで<70歳代>が53.8%であった。一方、「行ったことがない」は<10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<20歳代>が17.9%であった。(図Ⅳ－2 6－2)

職業別でみると、「毎回行っている」は<農林水産業従事者>が100.0%、<専門職>が71.4%であった。一方、「行ったことがない」は<学生>が50.0%で最も高く、次いで<パート従事者>が12.1%であった。(図Ⅳ－2 6－2)

家族構成別でみると、「毎回行っている」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が64.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が51.6%であった。一方、「行ったことがない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が8.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が6.5%であった。(図Ⅳ－2 6－2)

<図Ⅳ－２６－２>年齢別／職業別／家族構成別

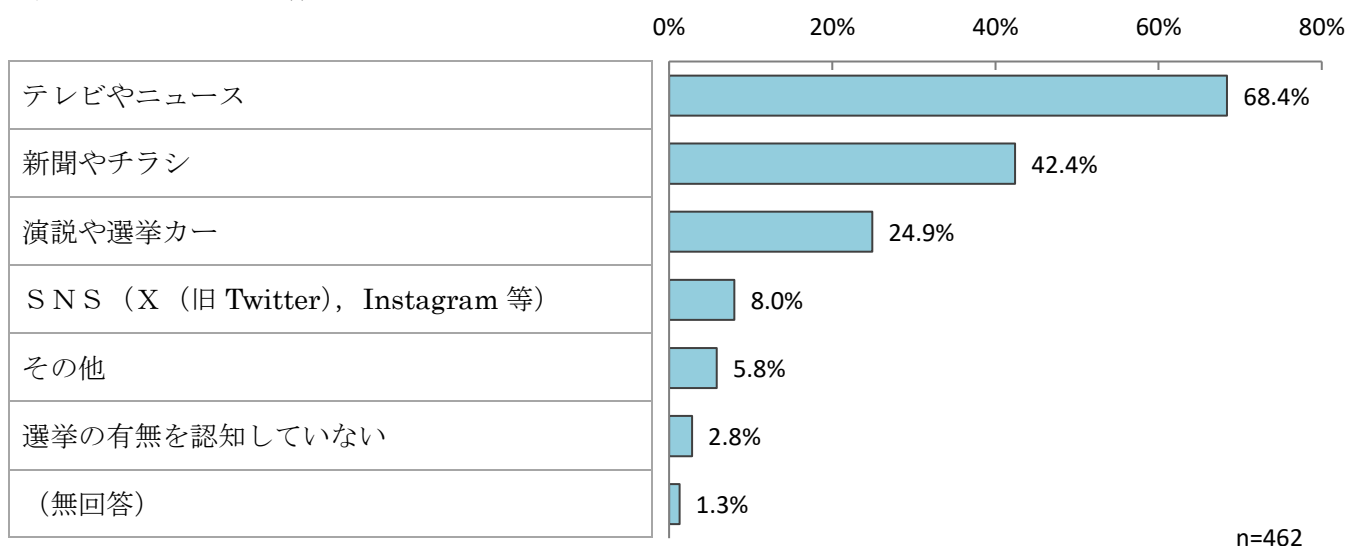


(2) 最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているか

◇「テレビやニュース」が7割弱

問 8 4 最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知していますか。(○はいくつでも)		n=462
1	テレビやニュース	68.4%
2	新聞やチラシ	42.4%
3	演説や選挙カー	24.9%
4	S N S (X (旧 Twitter), Instagram 等)	8.0%
5	その他	5.8%
6	選挙の有無を認知していない	2.8%
	(無回答)	1.3%

<図IV-26-3>全体



最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているかについては、「テレビやニュース」が68.4%で最も高く、次いで「新聞やチラシ」が42.4%、「演説や選挙カー」が24.9%と続いた。

(図IV-26-3)

<参考>

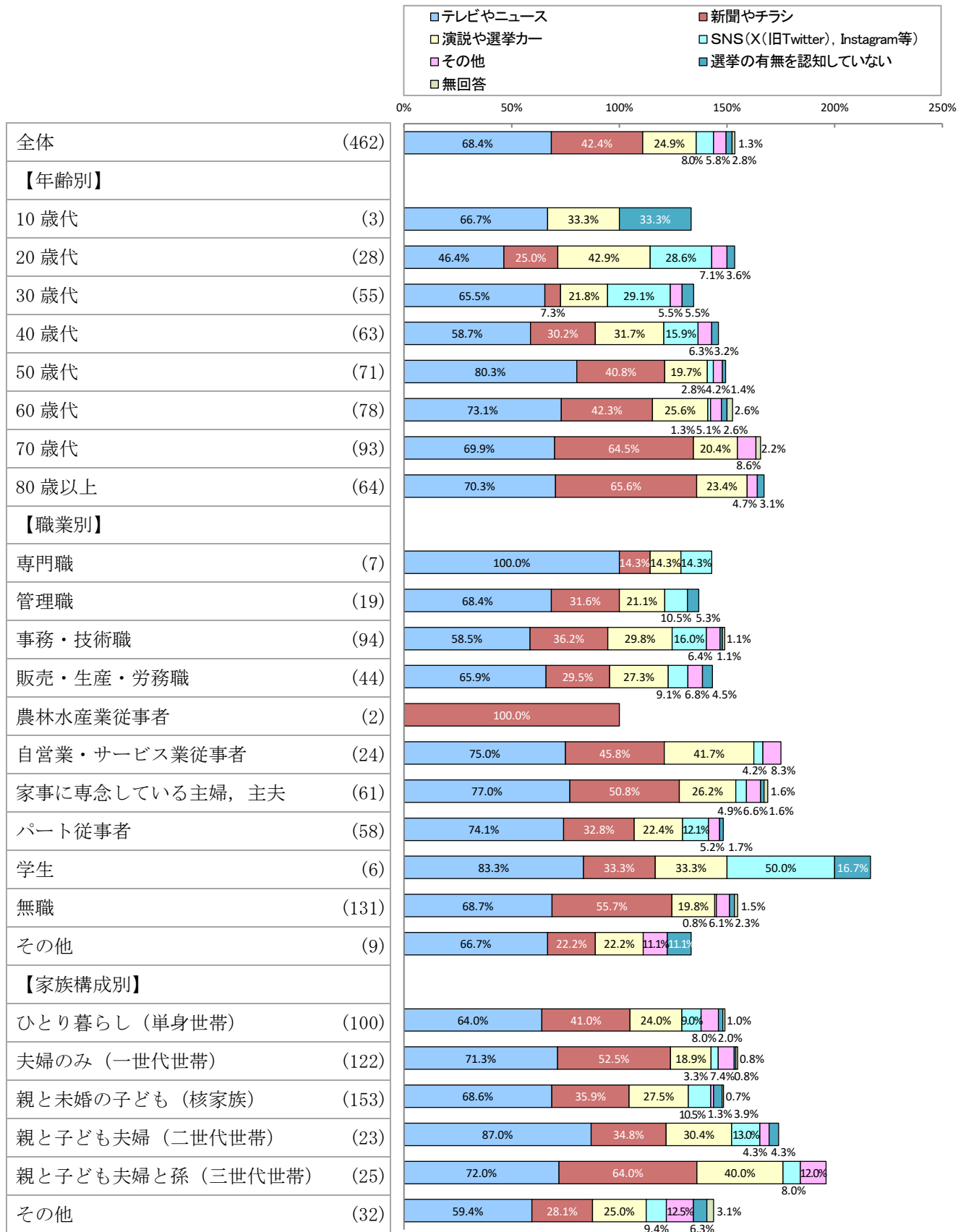
年齢別でみると、「テレビやニュース」は<50歳代>が80.3%で最も高く、次いで<60歳代>が73.1%であった。「新聞やチラシ」は<80歳以上>が65.6%で最も高く、次いで<70歳代>が64.5%であった。(図IV-26-4)

職業別でみると、「テレビやニュース」は<専門職>が100.0%、<学生>が83.3%であった。「新聞やチラシ」は<農林水産業従事者>が100.0%、<無職>が55.7%であった。(図IV-26-4)

家族構成別でみると、「テレビやニュース」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が87.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が72.0%であった。「新聞やチラシ」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が64.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が52.5%であった。

(図IV-26-4)

<図Ⅳ－２６－４>年齢別／職業別／家族構成別



(3) 昨年４月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由

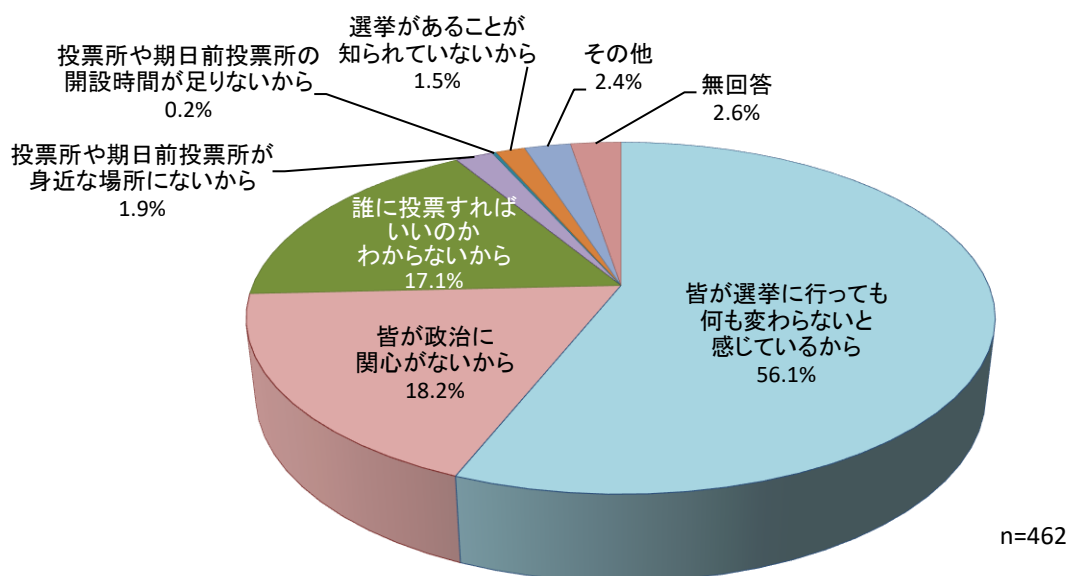
◇「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が５割半ば

問 8 5 昨年４月に執行した宇都宮市議会議員選挙の投票率は過去最低であり、全国においても低投票率が課題となっていますが、どのようなことが理由であるとお考えですか。 (○は１つ)

n=462

1	皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから	56.1%
2	皆が政治に関心がないから	18.2%
3	誰に投票すればいいのかわからないから	17.1%
4	投票所や期日前投票所が身近な場所がないから	1.9%
5	投票所や期日前投票所の開設時間が足りないから	0.2%
6	選挙があることが知られていないから	1.5%
7	その他	2.4%
	(無回答)	2.6%

<図Ⅳ－２６－５>全体



昨年４月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が 56.1%で最も高く、次いで「皆が政治に関心がないから」が 18.2%、「誰に投票すればいいのかわからないから」が 17.1%と続いた。(図Ⅳ－２６－５)

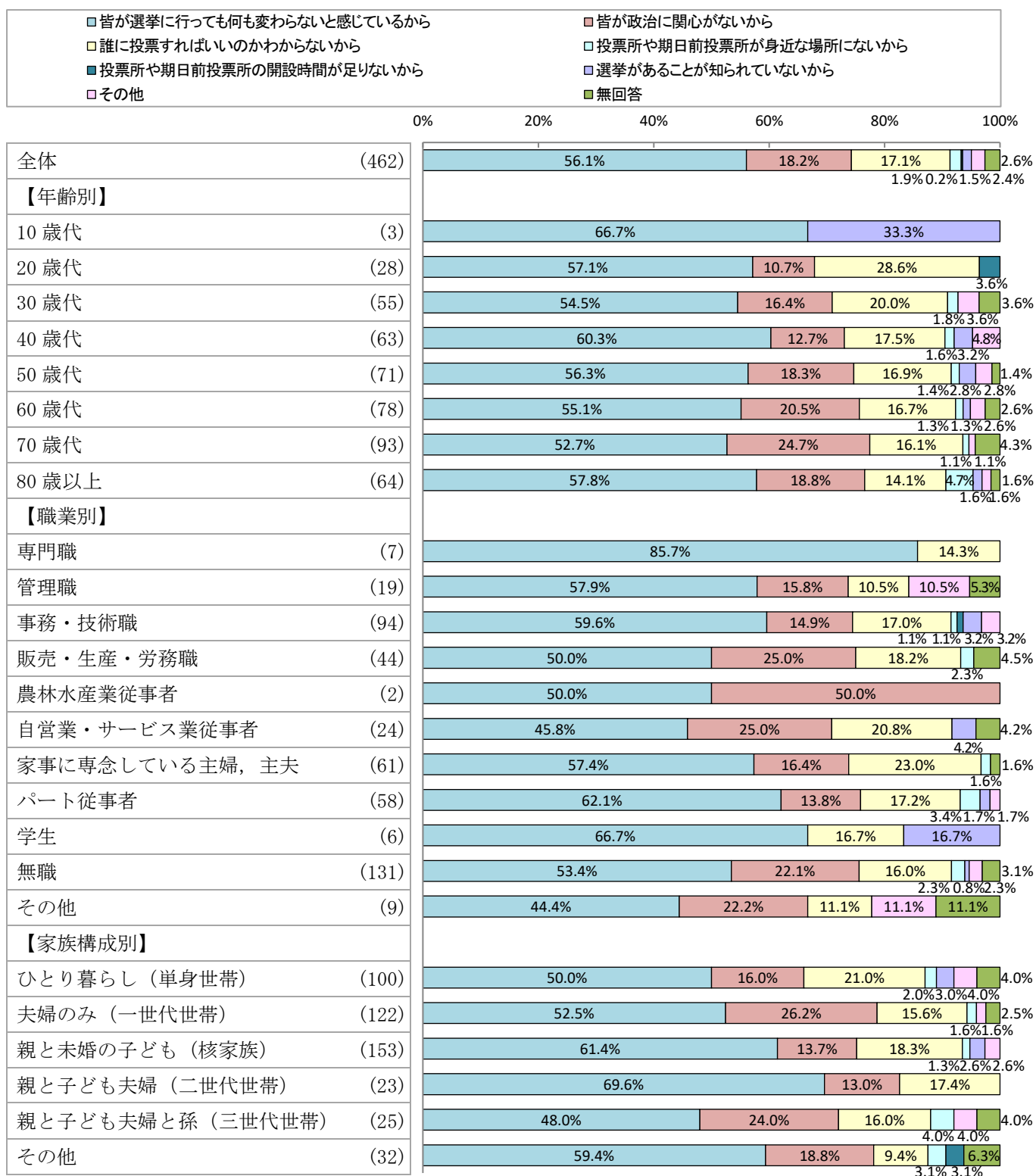
<参考>

年齢別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<10歳代>が 66.7%で最も高く、次いで<40歳代>が 60.3%であった。「皆が政治に関心がないから」は<70歳代>が 24.7%で最も高く、次いで<60歳代>が 20.5%であった。(図Ⅳ－２６－６)

職業別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<専門職>が 85.7%で最も高く、次いで<学生>が 66.7%であった。「皆が政治に関心がないから」は<農林水産業従事者>が 50.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職><自営業・サービス業従事者>がいずれも 25.0%であった。(図Ⅳ－２６－６)

家族構成別でみると、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 69.6%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども(核家族)>が 61.4%であった。「皆が政治に関心がないから」は<夫婦のみ(一世帯世帯)>が 26.2%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が 24.0%であった。(図Ⅳ－２６－６)

<図Ⅳ－２６－６＞年齢別／職業別／家族構成別

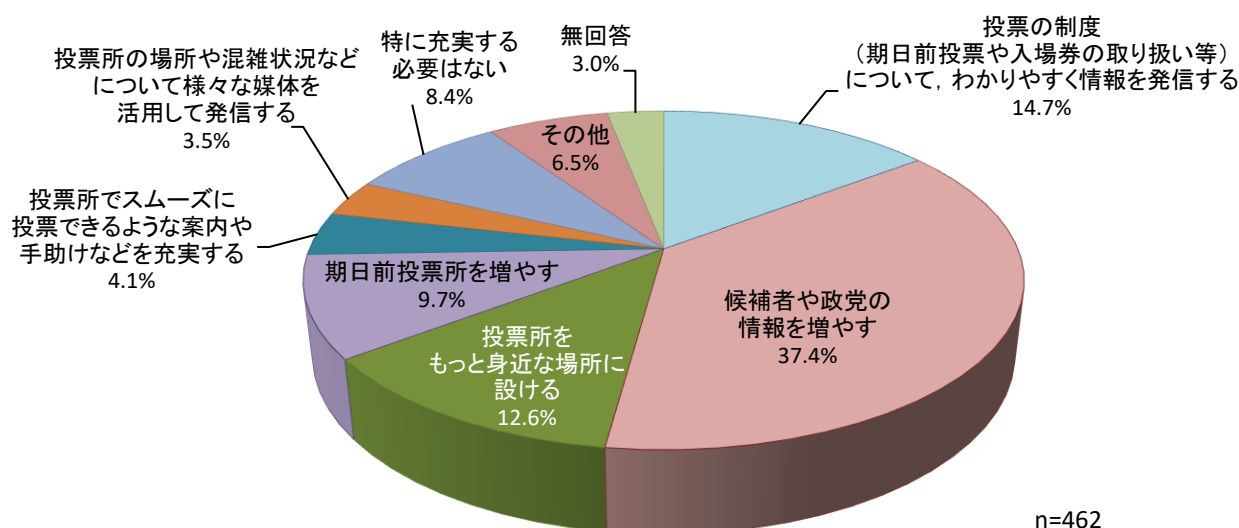


(4) 投票環境の充実を図るために必要な取組

◇「候補者や政党の情報を増やす」が4割弱

問 8 6 投票環境の充実を図るためにどのような取組が必要だと思いますか。(○は1つ)		n=462
1	投票の制度（期日前投票や入場券の取り扱い等）について、わかりやすく情報を発信する	14.7%
2	候補者や政党の情報を増やす	37.4%
3	投票所をもっと身近な場所に設ける	12.6%
4	期日前投票所を増やす	9.7%
5	投票所でスムーズに投票できるような案内や手助けなどを充実する	4.1%
6	投票所の場所や混雑状況などについて様々な媒体を活用して発信する	3.5%
7	特に充実する必要はない	8.4%
8	その他 (無回答)	6.5% 3.0%

<図IV－26－7>全体



投票環境の充実を図るために必要な取組については、「候補者や政党の情報を増やす」が37.4%で最も高く、次いで「投票の制度（期日前投票や入場券の取り扱い等）について、わかりやすく情報を発信する」が14.7%、「投票所をもっと身近な場所に設ける」が12.6%と続いた。（図IV－26－7）

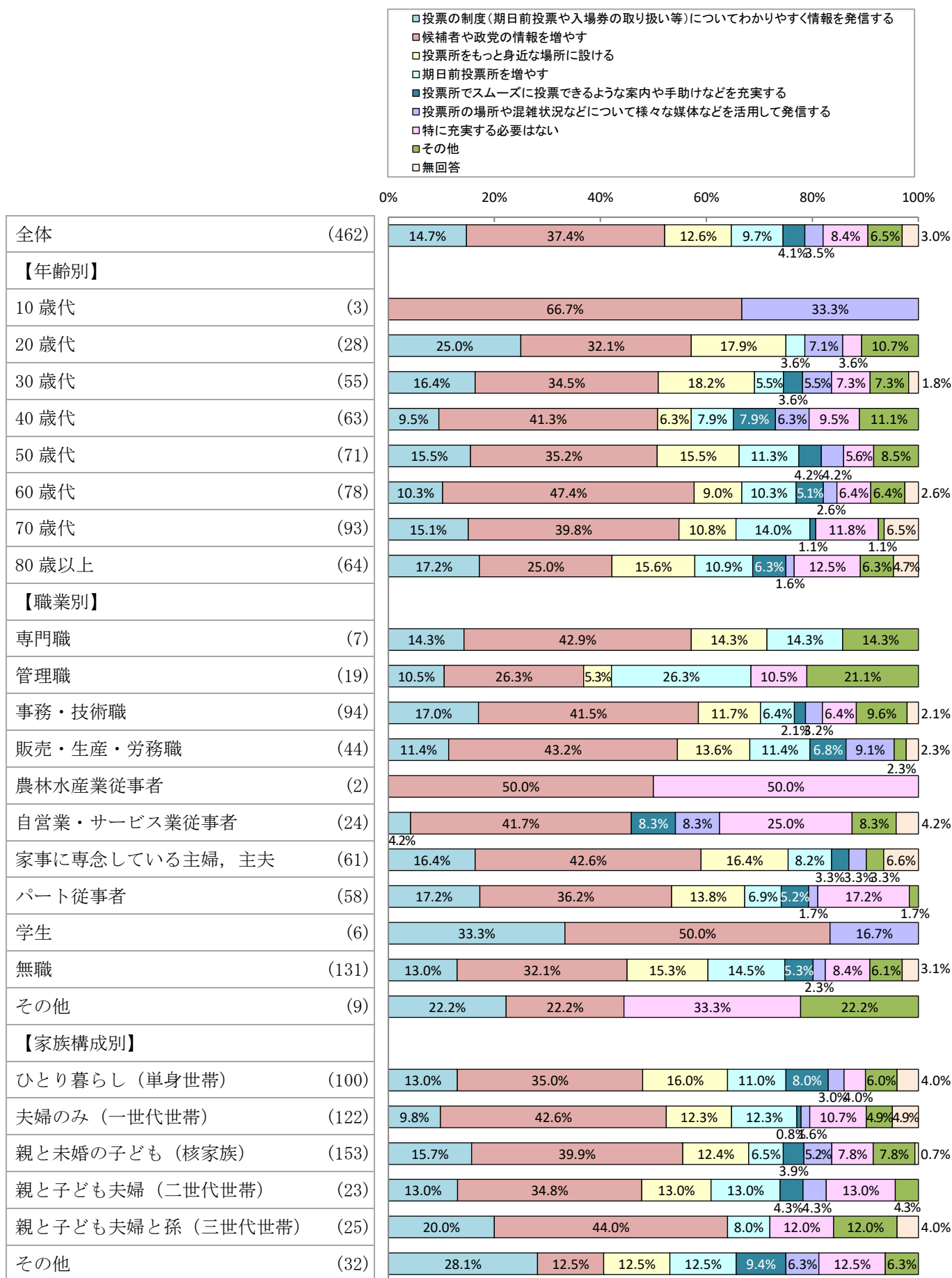
<参考>

年齢別でみると、「候補者や政党の情報を増やす」は<10歳代>が66.7%で最も高く、次いで<60歳代>が47.4%であった。「投票の制度（期日前投票や入場券の取り扱い等）について、わかりやすく情報を発信する」は<20歳代>が25.0%で最も高く、次いで<80歳以上>が17.2%であった。（図IV－26－8）

職業別でみると、「候補者や政党の情報を増やす」は<農林水産業従事者><学生>がいずれも50.0%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が43.2%であった。「投票の制度（期日前投票や入場券の取り扱い等）について、わかりやすく情報を発信する」は<その他>を除くと、<学生>が33.3%で最も高く、次いで<パート従事者>が17.2%であった。（図IV－26－8）

家族構成別でみると、「候補者や政党の情報を増やす」は<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が44.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が42.6%であった。「投票の制度（期日前投票や入場券の取り扱い等）について、わかりやすく情報を発信する」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が20.0%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が15.7%であった。（図IV－26－8）

<図Ⅳ－２６－８>年齢別／職業別／家族構成別



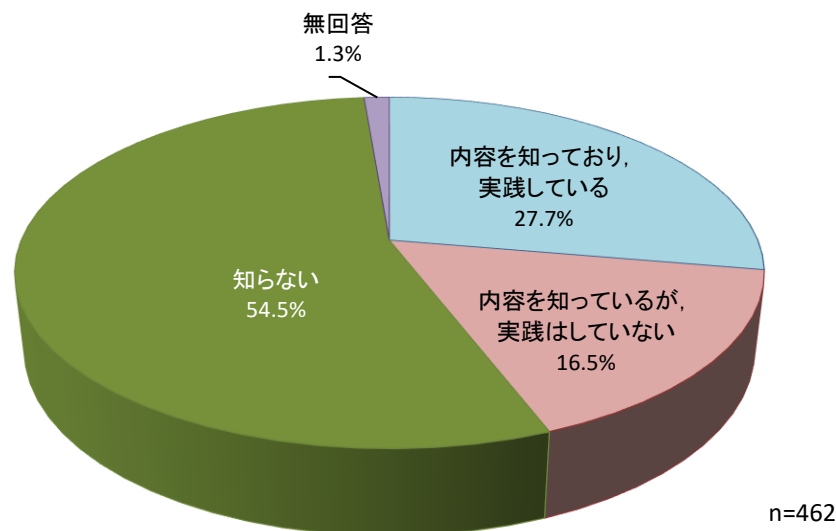
27. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

◇「内容を知っており、実践している」が3割弱、「内容を知っているが、実践はしていない」が2割弱

問87	宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っていますか。	(○は1つ)
		n=462
1	内容を知っており、実践している	27.7%
2	内容を知っているが、実践はしていない	16.5%
3	知らない	54.5%
	(無回答)	1.3%

<図IV-27-1>全体



「もったいない運動」を知っているかについては、「知らない」が54.5%、一方、「内容を知っており、実践している」は27.7%、「内容を知っているが、実践はしていない」は16.5%であった。

(図IV-27-1)

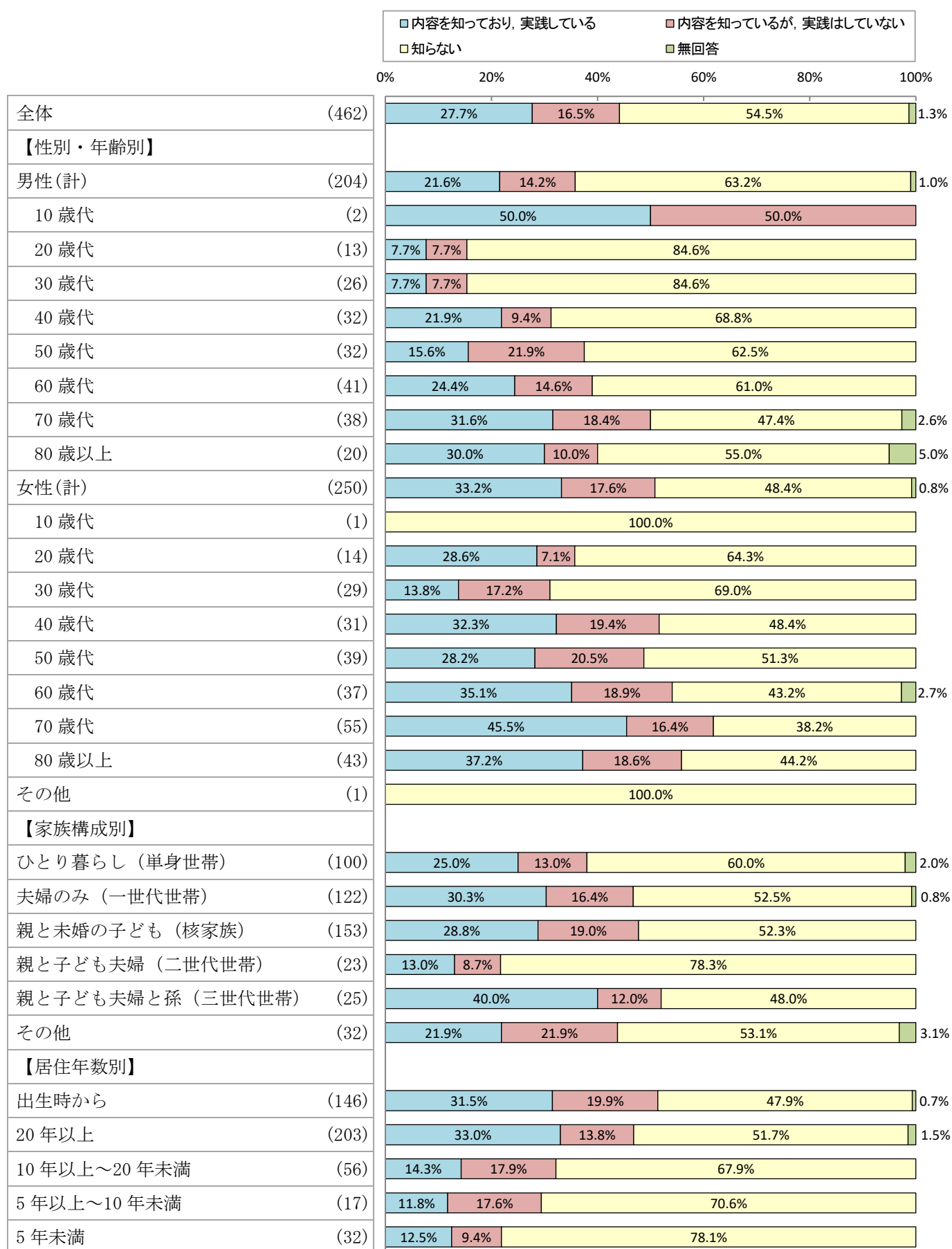
<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない」は<男性20・30歳代>がいずれも84.6%、<女性30歳代>が69.0%であった。「内容を知っており、実践している」は<女性70歳代>が45.5%、<女性80歳以上>が37.2%であった。(図IV-27-2)

家族構成別でみると、「知らない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が78.3%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が60.0%であった。「内容を知っており、実践している」は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が40.0%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が30.3%であった。(図IV-27-2)

居住年数別でみると、「知らない」は<5年未満>が78.1%で最も高く、次いで<5年以上～10年未満>が70.6%であった。「内容を知っており、実践している」は<20年以上>が33.0%で最も高く、次いで<出生時から>が31.5%であった。(図IV-27-2)

<図Ⅳ－２７－２>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

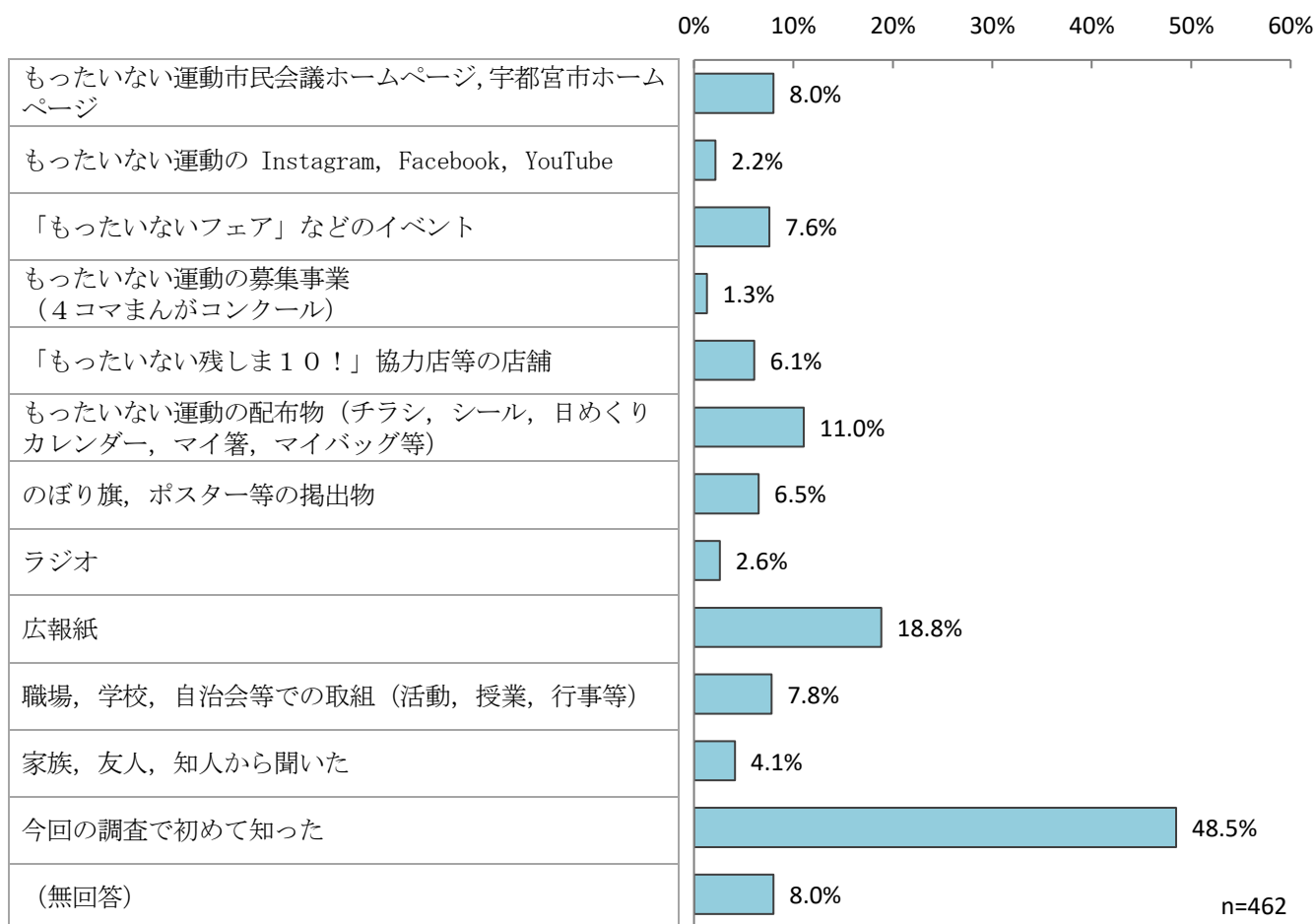


(2)「もったいない運動」を知った経緯

◇「今回の調査で初めて知った」が約5割

問 8 8	「もったいない運動」について、どのようにして知りましたか。	(○はいくつでも) n=462
1	もったいない運動市民会議ホームページ, 宇都宮市ホームページ	8.0%
2	もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube	2.2%
3	「もったいないフェア」などのイベント	7.6%
4	もったいない運動の募集事業 (4コマまんがコンクール)	1.3%
5	「もったいない残しま10!」協力店などの店舗	6.1%
6	もったいない運動の配布物 (チラシ, シール, 日めくりカレンダー, マイ箸, マイバッグ等)	11.0%
7	のぼり旗, ポスター等の掲出物	6.5%
8	ラジオ	2.6%
9	広報紙	18.8%
10	職場, 学校, 自治会等での取組 (活動, 授業, 行事等)	7.8%
11	家族, 友人, 知人から聞いた	4.1%
12	今回の調査で初めて知った	48.5%
	(無回答)	8.0%

<図Ⅳ-27-3>全体



「もったいない運動」について、どのようにして知ったかについては、「今回の調査で初めて知った」が 48.5%で最も高く、次いで「広報紙」が 18.8%、「もったいない運動の配布物（チラシ、シール、日めくりカレンダー、マイ箸、マイバッグ等）」が 11.0%と続いた。（図Ⅳ－27－3）

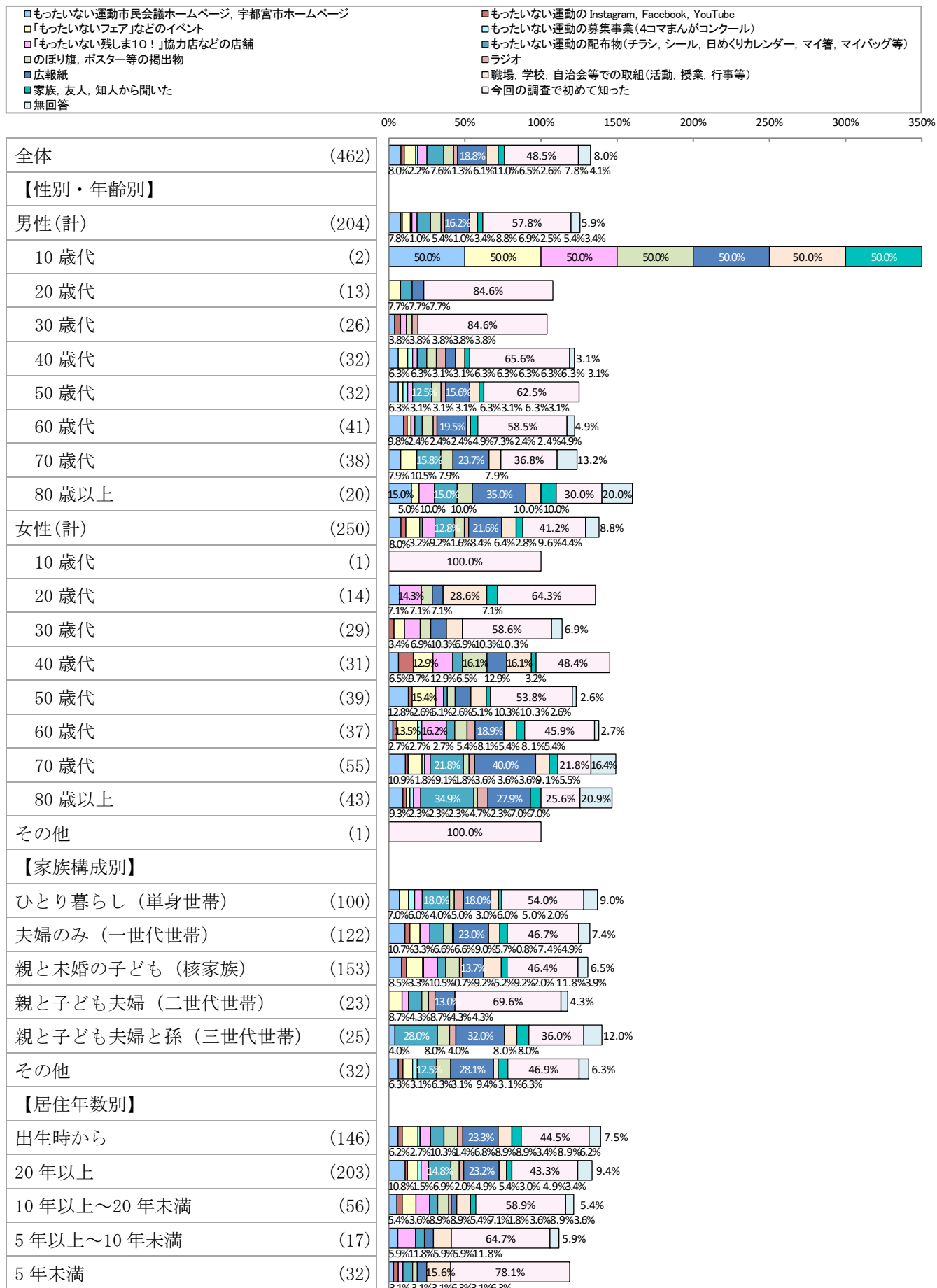
<参考>

性別・年齢別でみると、「今回の調査で初めて知った」は＜男性 20・30 歳代＞がいずれも 84.6%、＜男性 40 歳代＞が 65.6%であった。「広報紙」は＜女性 70 歳代＞が 40.0%、＜男性 80 歳以上＞が 35.0%であった。（図Ⅳ－27－4）

家族構成別でみると、「今回の調査で初めて知った」は＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が 69.6%で最も高く、次いで＜ひとり暮らし（単身世帯）＞が 54.0%であった。「広報紙」は＜その他＞を除くと、＜親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）＞が 32.0%で最も高く、次いで＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞が 23.0%であった。（図Ⅳ－27－4）

居住年数別でみると、「今回の調査で初めて知った」は＜5 年未満＞が 78.1%で最も高く、次いで＜5 年以上～10 年未満＞が 64.7%であった。「広報紙」は＜出生時から＞が 23.3%で最も高く、次いで＜20 年以上＞が 23.2%であった。（図Ⅳ－27－4）

<図Ⅳ－２７－４>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別

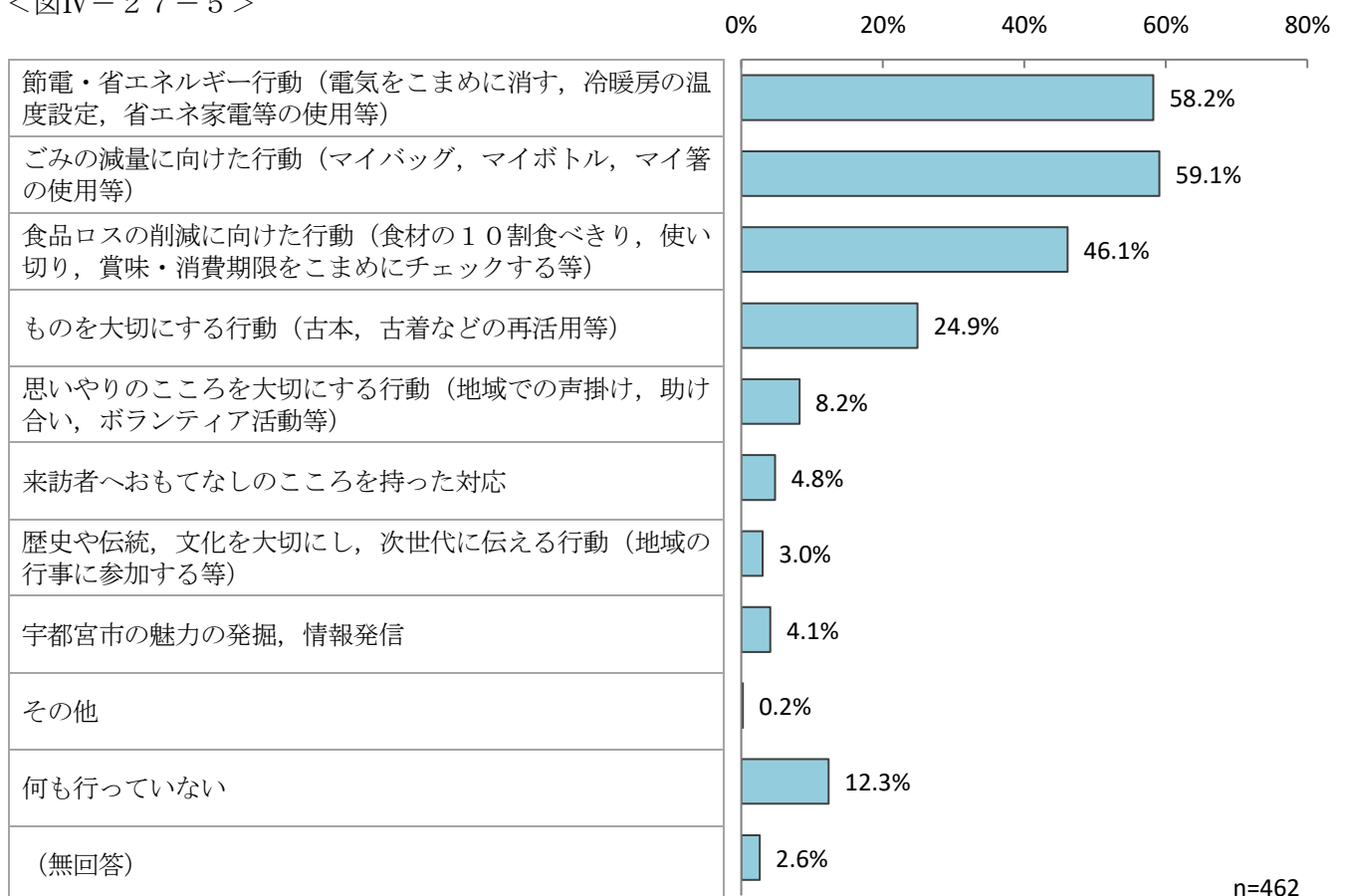


(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

◇「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」が約6割

問 8 9 あなたが日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」はどのようなことですか。 (〇はいくつでも)		
		n=462
1	節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電等の使用等）	58.2%
2	ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）	59.1%
3	食品ロスの削減に向けた行動（食材の10割食べきり、使い切り、賞味・消費期限をこまめにチェックする等）	46.1%
4	ものを大切にする行動（古本、古着などの再活用等）	24.9%
5	思いやりのところを大切にする行動（地域での声掛け、助け合い、ボランティア活動等）	8.2%
6	来訪者へおもてなしの場所を持った対応	4.8%
7	歴史や伝統、文化を大切にし、次世代に伝える行動（地域の行事に参加する等）	3.0%
8	宇都宮市の魅力の発掘、情報発信	4.1%
9	その他	0.2%
10	何も行っていない	12.3%
	(無回答)	2.6%

<図Ⅳ－27－5>



日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」が 59.1%で最も高く、次いで「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電等の使用等）」が 58.2%、「食品ロスの削減に向けた行動（食材の 10 割食べきり、使い切り、賞味・消費期限をこまめにチェックする等）」が 46.1%と続いた。
(図Ⅳ－27－5)

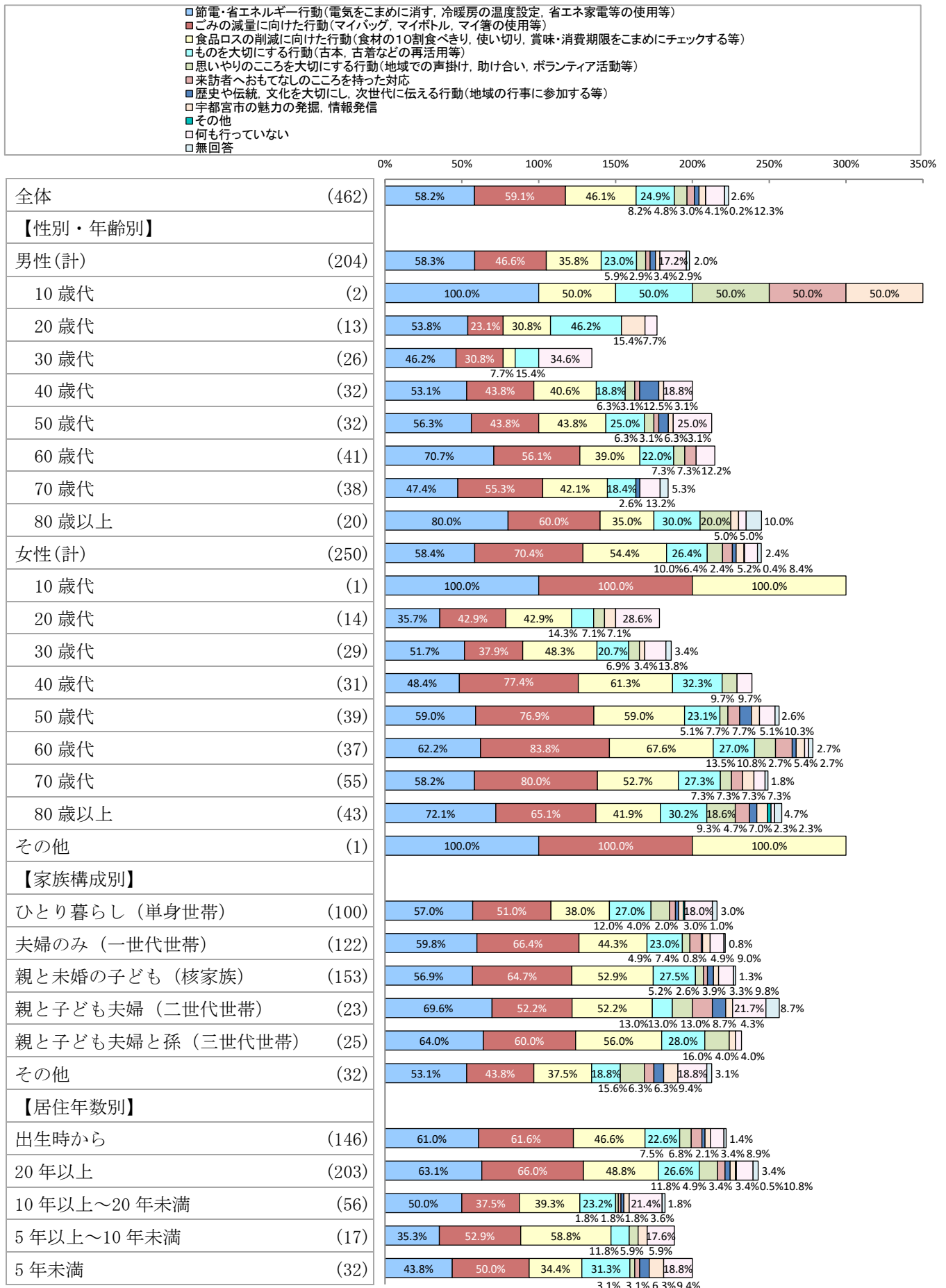
<参考>

性別・年齢別でみると、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」は<女性 60 歳代>が 83.8%、<女性 70 歳代>が 80.0%であった。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電等の使用等）」は<男性 80 歳以上>が 80.0%、<女性 80 歳以上>が 72.1%であった。(図Ⅳ－27－6)

家族構成別でみると、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」は<夫婦のみ（一世代世帯）>が 66.4%で最も高く、次いで<親と未婚の子ども（核家族）>が 64.7%であった。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電等の使用等）」は<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 69.6%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が 64.0%であった。(図Ⅳ－27－6)

居住年数別でみると、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」は<20 年以上>が 66.0%で最も高く、次いで<出生時から>が 61.6%であった。「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電等の使用等）」は<20 年以上>が 63.1%で最も高く、次いで<出生時から>が 61.0%であった。(図Ⅳ－27－6)

<図Ⅳ－２７－６>性別・年齢別／家族構成別／居住年数別



28. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

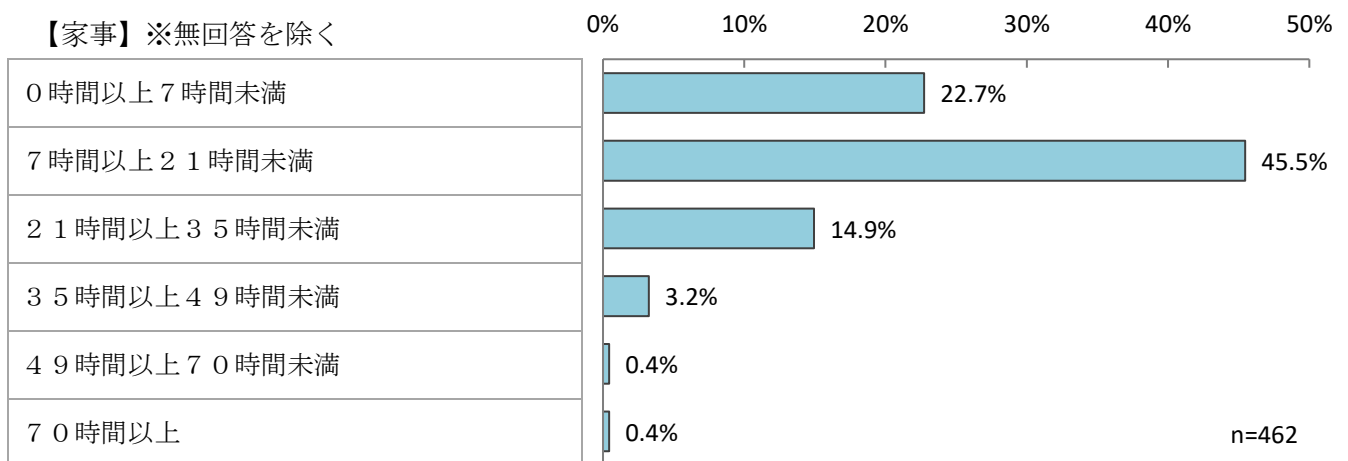
※ (①)について、月曜日から土曜日は1日3時間程度(3時間×6日＝18時間)、日曜日は1日2時間程度(2時間×1日＝2時間)を費やしている場合、回答は「20時間」となります。また、育児、介護について、対象者がいない場合は、②に○を付けてください

◇ 【家事】は「7時間以上21時間未満」が4割半ば

問90 一週間の生活の中で、家事・育児・介護におおよそどの程度の時間を費やしたかお答えください。
【家事】

	n=462
1 0時間以上7時間未満	22.7%
2 7時間以上21時間未満	45.5%
3 21時間以上35時間未満	14.9%
4 35時間以上49時間未満	3.2%
5 49時間以上70時間未満	0.4%
6 70時間以上	0.4%
(無回答)	12.8%

<図IV-28-1>全体



一週間の生活の中で、家事に費やした時間については、「7時間以上21時間未満」が45.5%で最も高く、次いで「0時間以上7時間未満」が22.7%、「21時間以上35時間未満」が14.9%であった。

(図IV-28-1)

<参考>

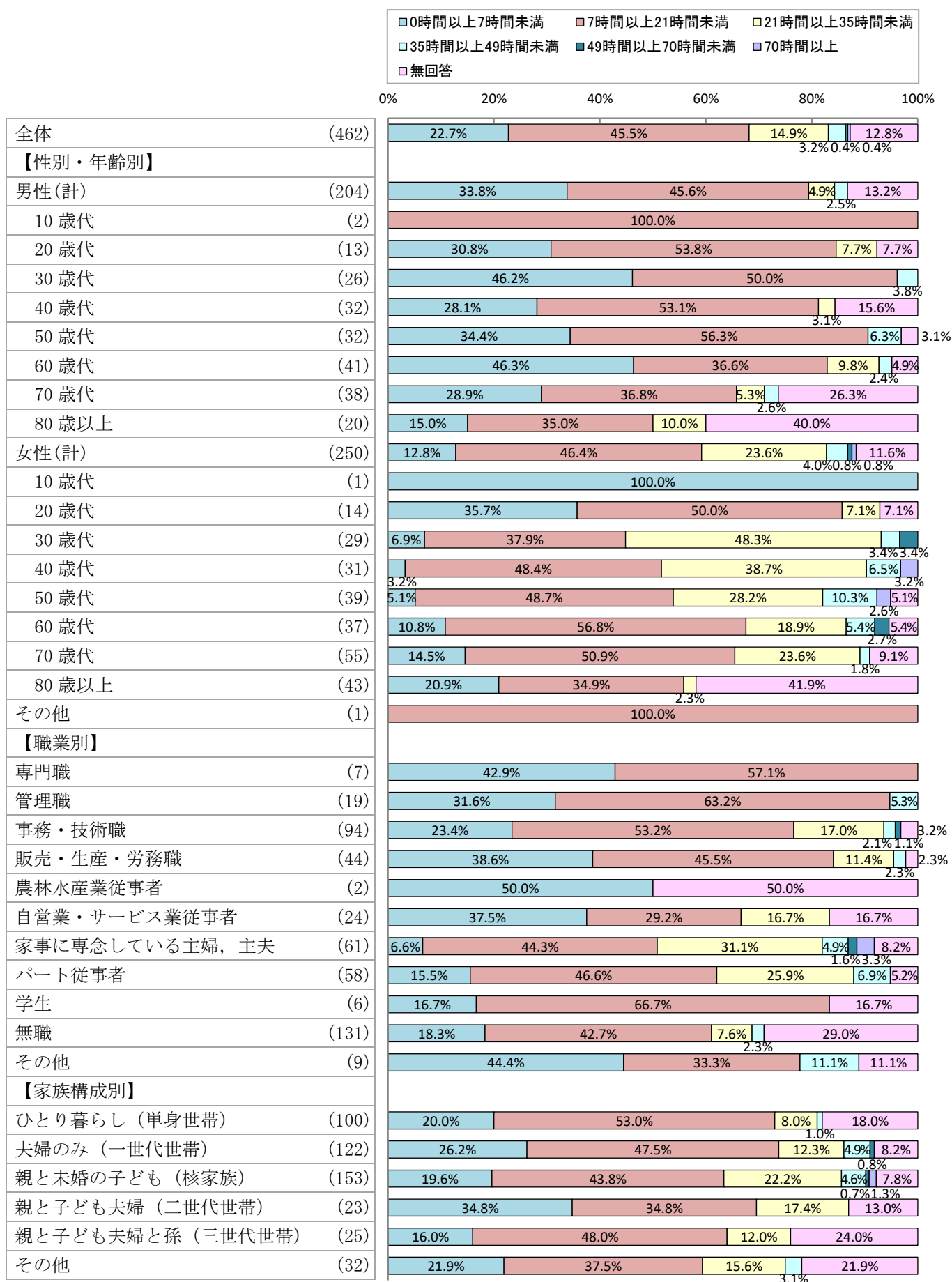
性別・年齢別でみると、<男性30歳代>は「21時間以上」が3.8%であるが、<女性30歳代>は55.1%となっている。(図IV-28-2)

職業別でみると、「21時間以上」は<家事に専念している主婦、主夫>が40.9%で最も高く、次いで<パート従事者>が32.8%と続いた。一方、<管理職>は5.3%、<専門職>は0.0%であった。

(図IV-28-2)

家族構成別でみると、「21時間以上」は<親と未婚の子ども(核家族)>が28.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が18.0%と続いた。(図IV-28-2)

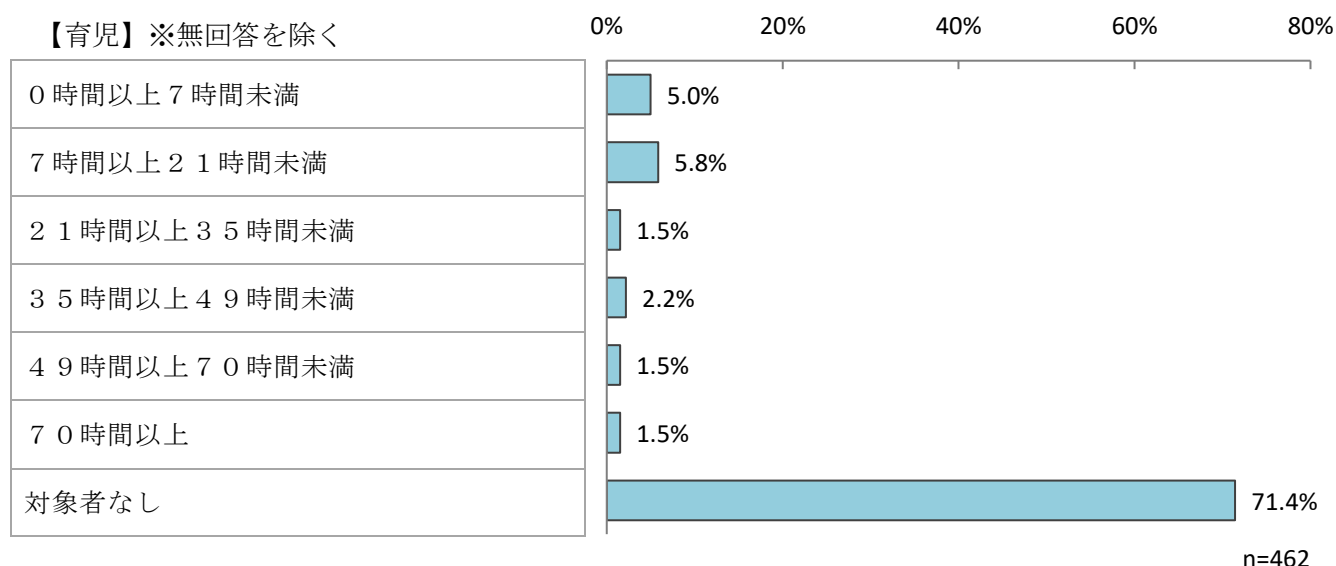
<図Ⅳ－２８－２>性別・年齢別／職業別／家族構成別



【育児】

		n=462
1	0 時間以上 7 時間未満	5. 0%
2	7 時間以上 2 1 時間未満	5. 8%
3	2 1 時間以上 3 5 時間未満	1. 5%
4	3 5 時間以上 4 9 時間未満	2. 2%
5	4 9 時間以上 7 0 時間未満	1. 5%
6	7 0 時間以上	1. 5%
7	対象者なし	71. 4%
	(無回答)	11. 0%

<図Ⅳ－２８－３>全体



一週間の生活の中で、育児に費やした時間については、「対象者なし」を除くと「7 時間以上 2 1 時間未満」が 5.8%で最も高く、次いで「0 時間以上 7 時間未満」が 5.0%であった。(図Ⅳ－２８－３)

<参考>

性別・年齢別でみると、＜女性 30 歳代＞は「4 9 時間以上」が 37.9%で高い一方で、＜男性 30 歳代＞は「4 9 時間以上」が 0.0%であった。(図Ⅳ－２８－４)

職業別でみると、「4 9 時間以上」は＜家事に専念している主婦、主夫＞が 9.9%で最も高く、次いで＜事務・技術職＞が 7.5%と続いた。(図Ⅳ－２８－４)

家族構成別でみると、「4 9 時間以上」は＜親と未婚の子ども（核家族）＞が 7.2%で最も高かった。(図Ⅳ－２８－４)

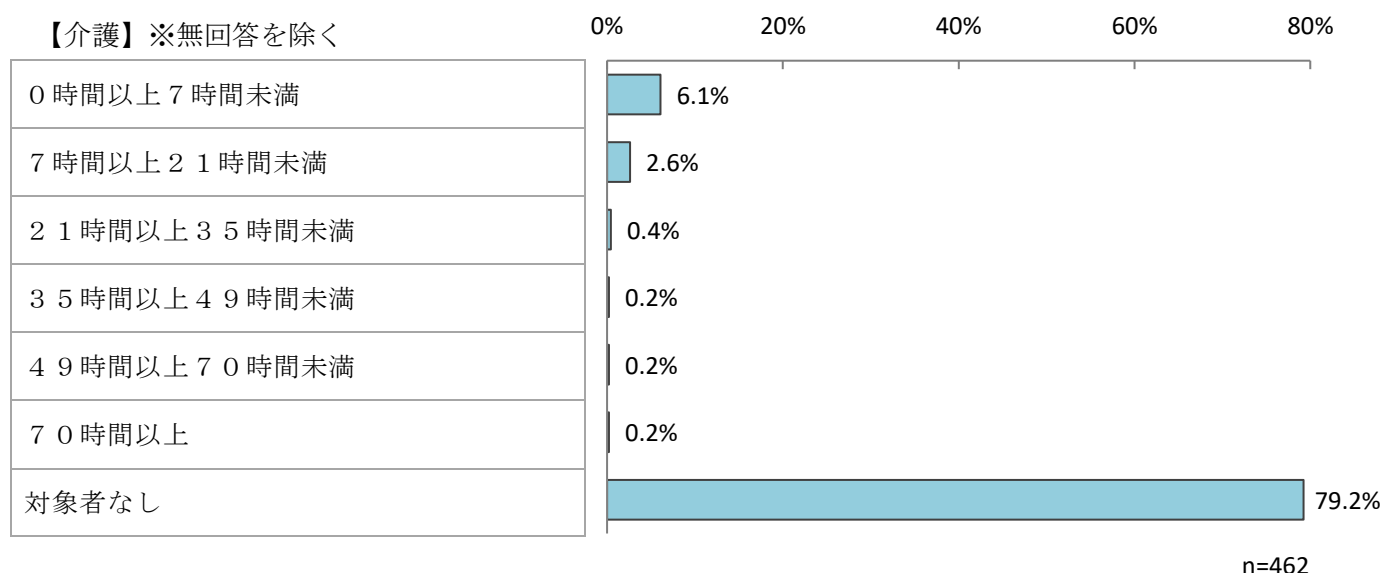
<図Ⅳ－２８－４>性別・年齢別／職業別／家族構成別



【介護】

		n=462
1	0 時間以上 7 時間未満	6.1%
2	7 時間以上 2 1 時間未満	2.6%
3	2 1 時間以上 3 5 時間未満	0.4%
4	3 5 時間以上 4 9 時間未満	0.2%
5	4 9 時間以上 7 0 時間未満	0.2%
6	7 0 時間以上	0.2%
7	対象者なし	79.2%
	(無回答)	11.0%

<図Ⅳ－２８－５＞全体



一週間の生活の中で、介護に費やした時間については、「対象者なし」を除くと「0 時間以上 7 時間未満」が 6.1%で最も高く、次いで「7 時間以上 2 1 時間未満」が 2.6%であった。（図Ⅳ－２８－５）

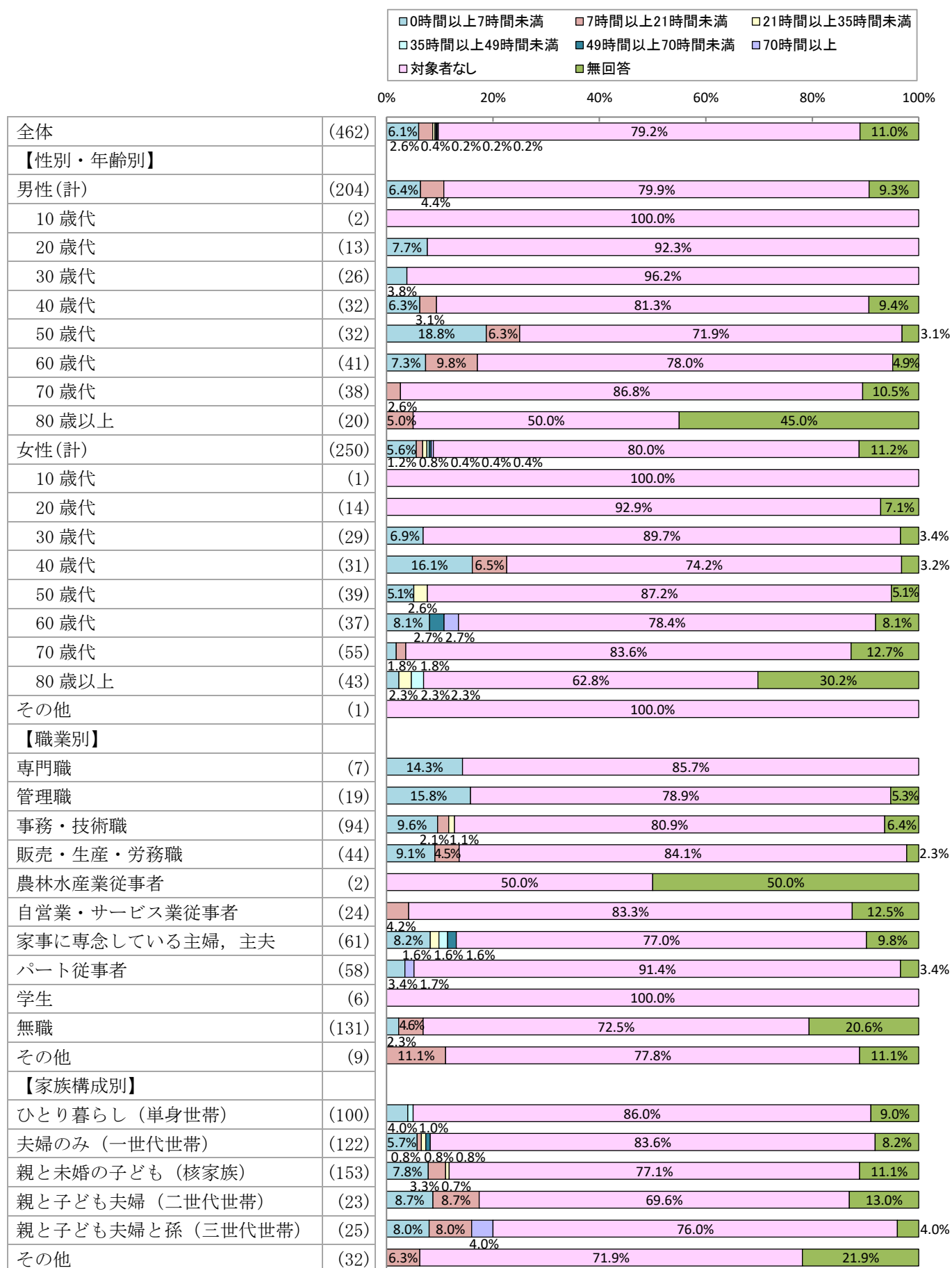
<参考>

性別・年齢別でみると、介護を行っている人の割合は＜男性 50 歳代＞が 25.1%で最も高く、次いで＜女性 40 歳代＞が 22.6%、＜女性 60 歳代＞が 13.5%と続いた。また、「4 9 時間以上 7 0 時間未満」と「7 0 時間以上」は、＜女性 60 歳代＞がいずれも 2.7%と最も高かった。（図Ⅳ－２８－６）

職業別でみると、介護を行っている人の割合は＜管理職＞が 15.8%で最も高く、次いで＜専門職＞が 14.3%と続いた。また、「4 9 時間以上」は＜家事に専念している主婦、主夫＞のみであった。（図Ⅳ－２８－６）

家族構成別でみると、介護を行っている人の割合は＜親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）＞が 20.0%で最も高く、次いで＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が 17.4%、と続いた。（図Ⅳ－２８－６）

<図Ⅳ－２８－６>性別・年齢別／職業別／家族構成別

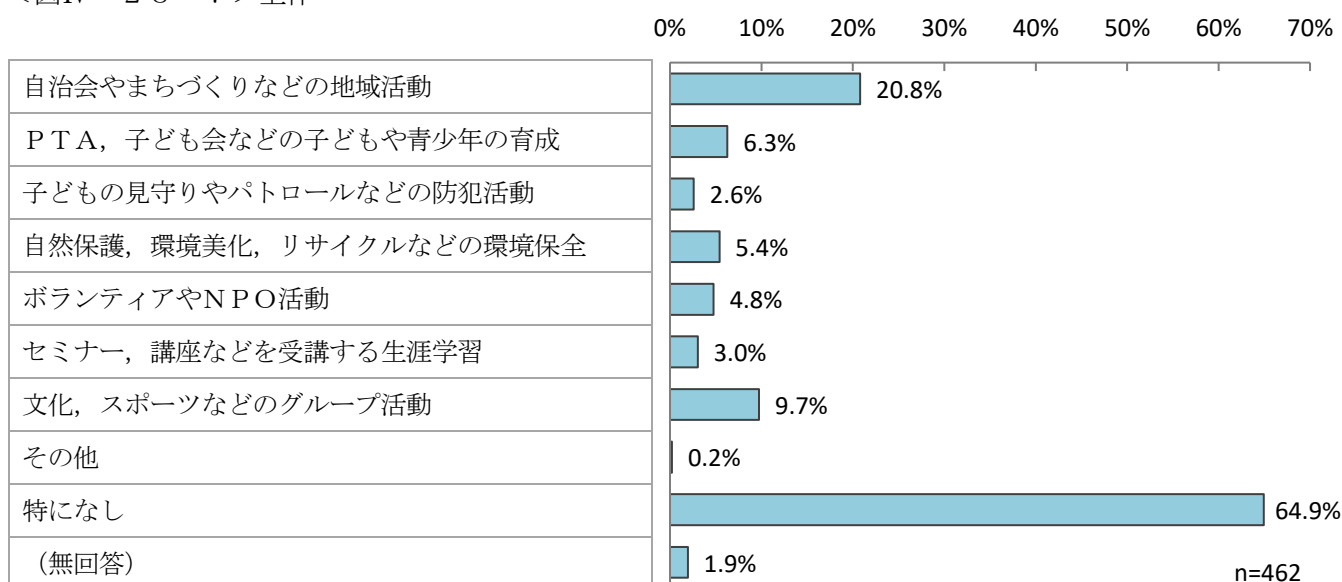


(2) 社会的な活動の実施状況

◇「特になし」が6割半ば

問 9 1 現在、地域などで社会的な活動を行っていますか。(〇はいくつでも)	
	n=462
1 自治会やまちづくりなどの地域活動	20.8%
2 P T A、子ども会などの子どもや青少年の育成	6.3%
3 子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動	2.6%
4 自然保護、環境美化、リサイクルなどの環境保全	5.4%
5 ボランティアやN P O活動	4.8%
6 セミナー、講座などを受講する生涯学習	3.0%
7 文化、スポーツなどのグループ活動	9.7%
8 その他	0.2%
9 特になし	64.9%
(無回答)	1.9%

<図IV-28-7>全体



現在、地域などで社会的な活動を行っているかについては、「特になし」が 64.9%で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が 20.8%、「文化、スポーツなどのグループ活動」が 9.7%と続いた。(図IV-28-7)

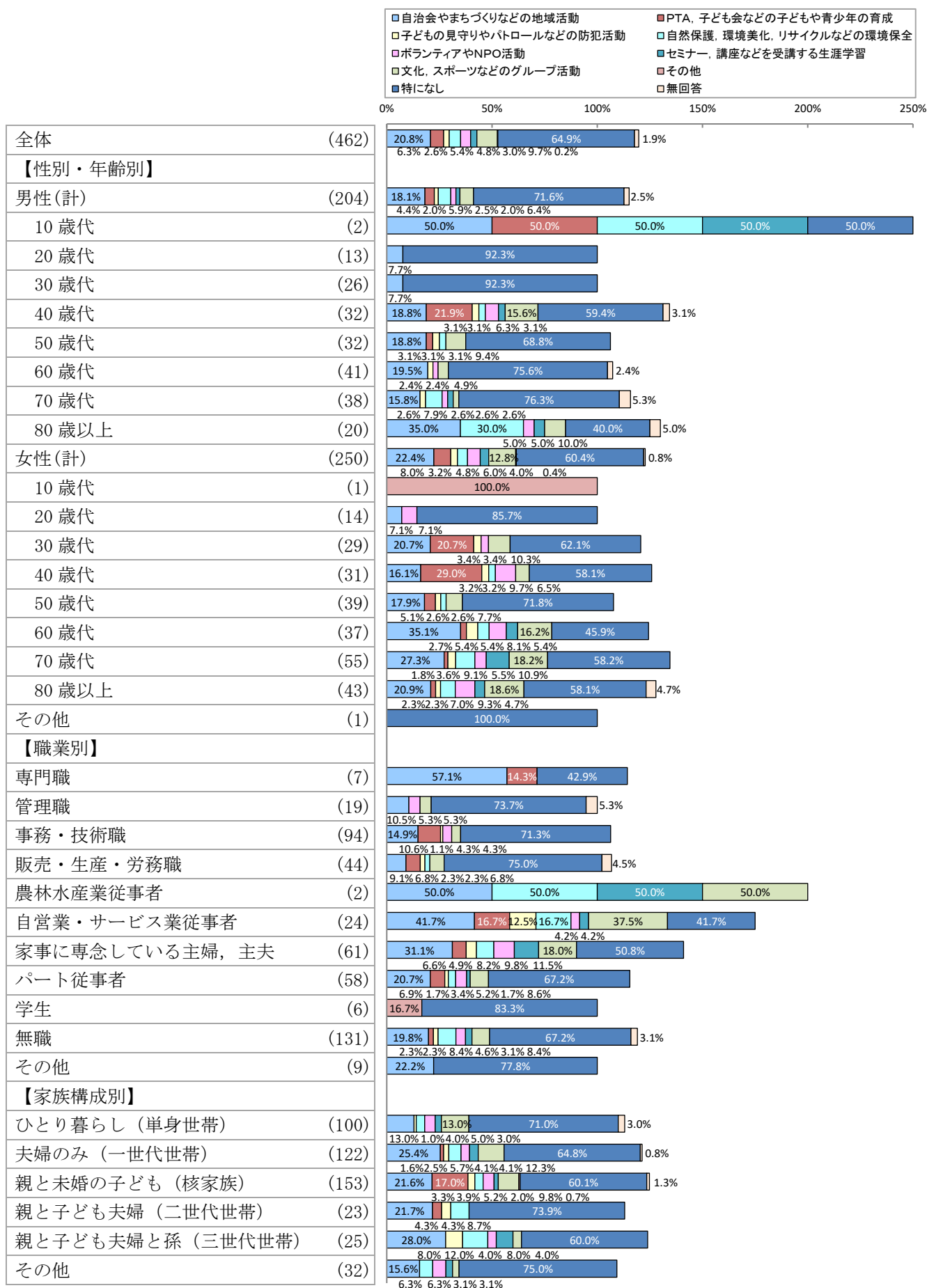
<参考>

性別・年齢別でみると、「特になし」は<その他>を除くと、<男性 20・30 歳代>が 92.3%で最も高く、次いで<女性 20 歳代>が 85.7%であった。(図IV-28-8)

職業別でみると、「特になし」は<その他>を除くと、<学生>が 83.3%で最も高く、次いで<販売・生産・労務職>が 75.0%であった。(図IV-28-8)

家族構成別でみると、「特になし」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が 73.9%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が 71.0%であった。(図IV-28-8)

<図Ⅳ－２８－８>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

◇「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり（計）】は、「精神的な暴力」が5.2%

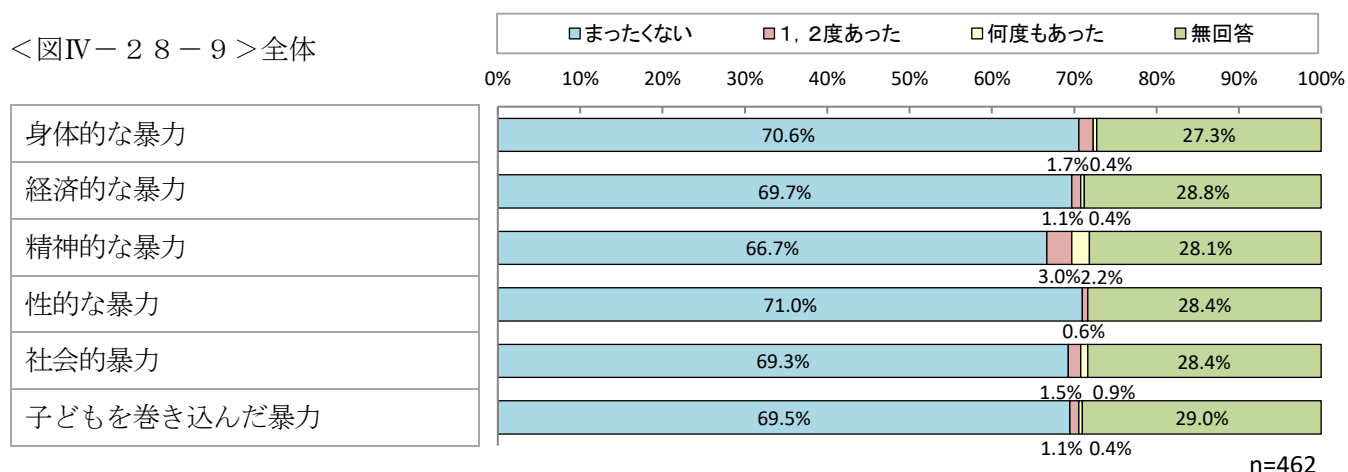
問92 過去1年間に配偶者から次のような暴力を受けたことがありますか。

(それぞれ項目ごとに○は1つ)

n=462

	項目	まったく ない	1, 2度 あった	何度も あった	無回答
1	身体的な暴力(殴る・蹴る・つねる・髪を引っ張る・物を投げつけるなど)	70.6%	1.7%	0.4%	27.3%
2	経済的な暴力(生活費を渡さない・給料や貯金を勝手に使われる・仕事をさせないなど)	69.7%	1.1%	0.4%	28.8%
3	精神的な暴力(言葉や態度で侮辱する・どなったり脅したりする・何を言っても無視する・別れるなら死ぬ, 又は殺すと言うなど)	66.7%	3.0%	2.2%	28.1%
4	性的な暴力(性行為を強要する・避妊に協力しない・無理やりアダルト動画を見せる・中絶を強要するなど)	71.0%	0.6%	0.0%	28.4%
5	社会的暴力(実家や友人との付き合いを制限する・携帯電話や郵便物を勝手に見る・外出を制限する・行動を監視するなど)	69.3%	1.5%	0.9%	28.4%
6	子どもを巻き込んだ暴力(子どもの前で「バカだ」「親の資格がない」などと非難する・「子どもに危害を加える」と言って脅すなど)	69.5%	1.1%	0.4%	29.0%

<図IV-28-9>全体



過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについては、「何どもあった」と「1, 2度あった」を合わせた【経験あり（計）】の割合は、「精神的な暴力」が5.2%で最も高く、次いで「社会的暴力」が2.4%、「身体的な暴力」が2.1%であった。(図IV-28-9)

<参考>

さらに暴力の種類ごとに性別・年齢別でみると【経験あり（計）】が最も多かったのは、「精神的な暴力」で<女性30歳代>が13.8%で最も高く、「社会的暴力」は<女性40歳代>が9.7%、「子どもを巻き込んだ暴力」は、<女性50歳以上>が7.7%であった。(図IV-28-10～図IV-28-15)

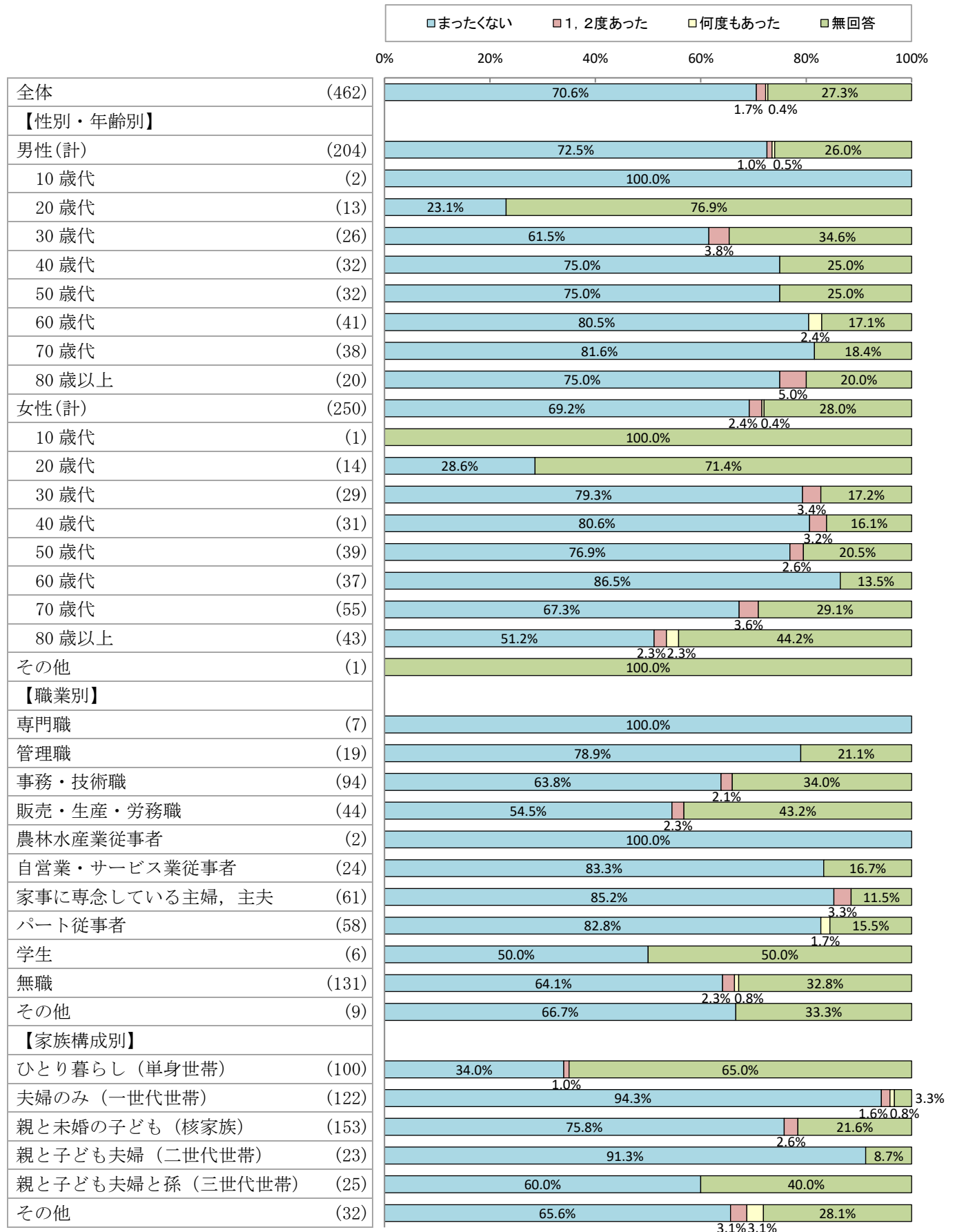
暴力を受けたことがある（総合）について性別でみると、【経験あり（計）】は<女性>が3.0%、<男性>が1.3%で<女性>が高かった。性別・年齢別でみると、【経験あり（計）】は<女性40歳代>が6.5%で最も高かった。(図IV-28-16 総合)

暴力を受けたことがある（総合）について職業別でみると、【経験あり（計）】は<その他>を除くと、<パート従事者>が4.6%で最も高かった。(図IV-28-16 総合)

暴力を受けたことがある（総合）について家族構成別でみると、【経験あり（計）】は<その他>を除くと、<親と未婚の子ども（核家族）>が4.0%で最も高かった。(図IV-28-16 総合)

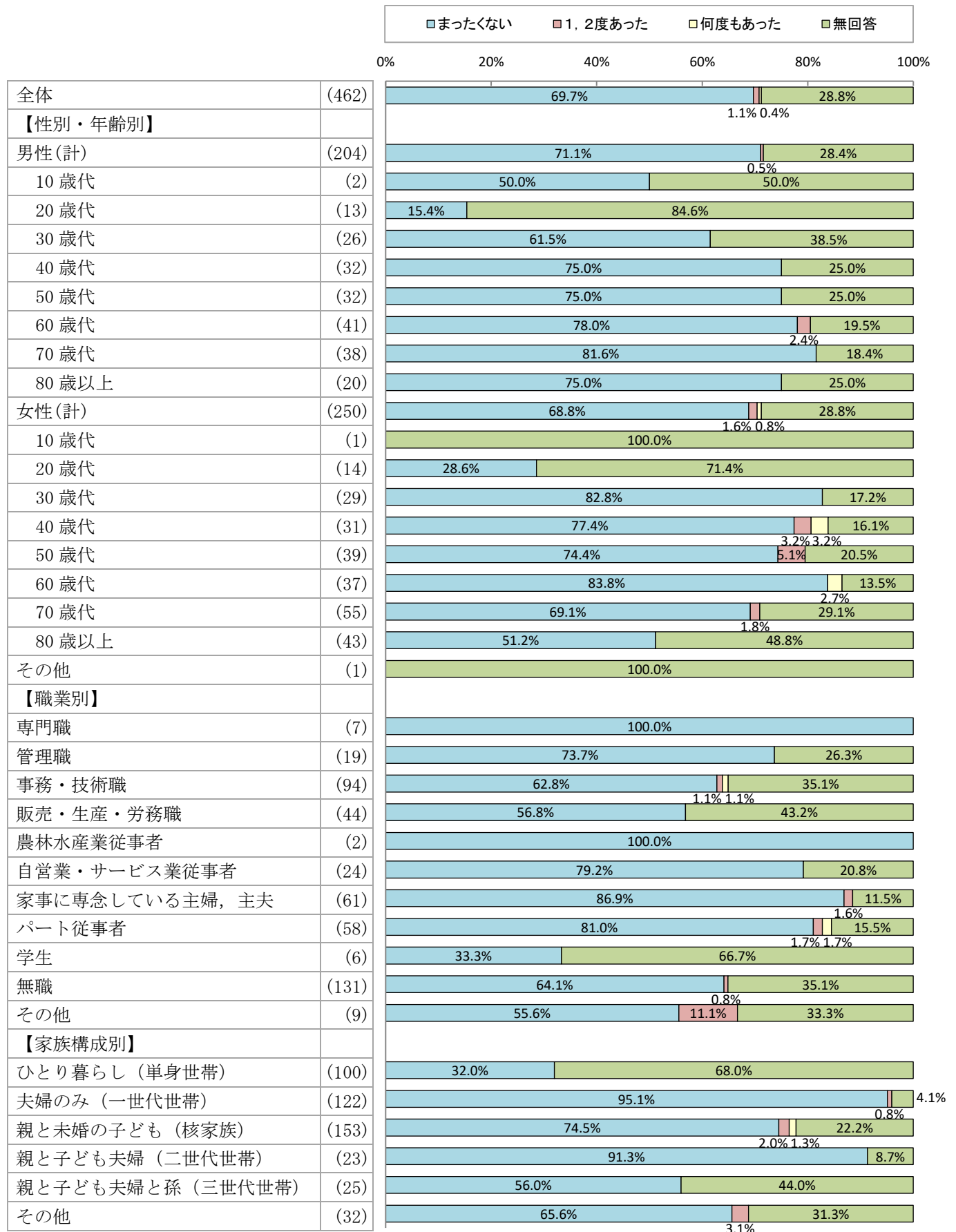
① 身体的な暴力

<図Ⅳ－２８－１０>性別・年齢別／職業別／家族構成別



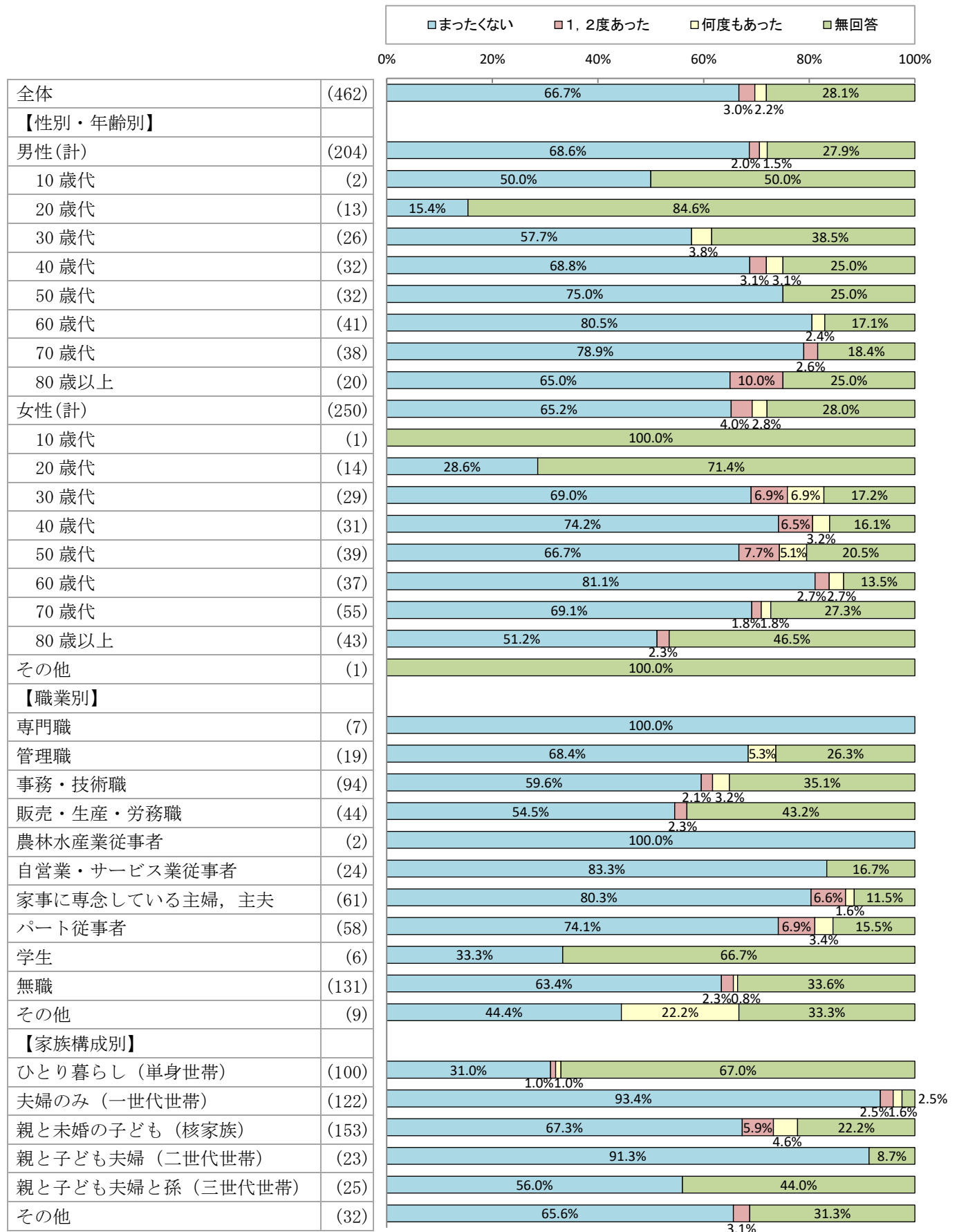
② 経済的な暴力

<図Ⅳ－２８－１１>性別・年齢別／職業別／家族構成別



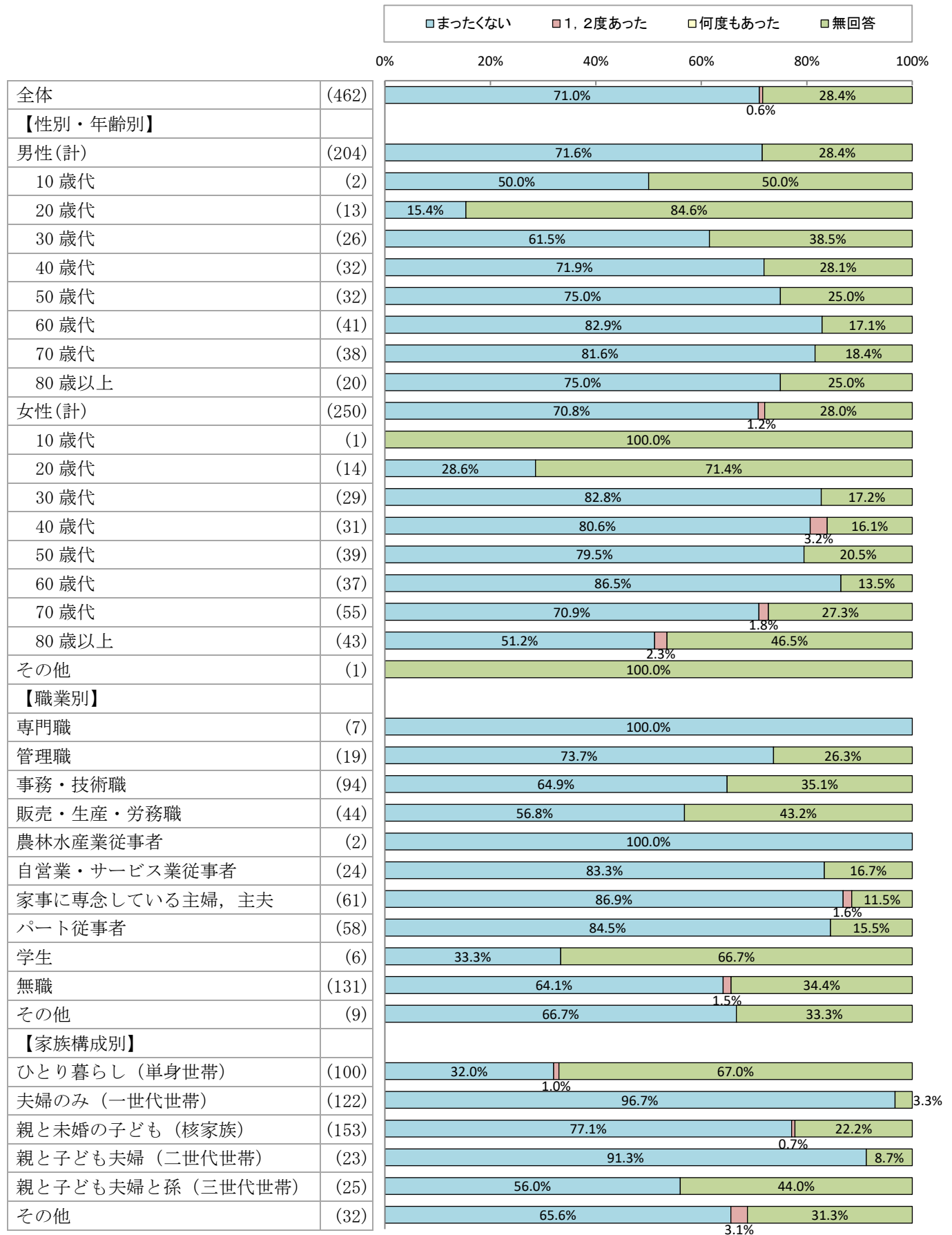
③ 精神的な暴力

<図Ⅳ－２８－１２>性別・年齢別／職業別／家族構成別



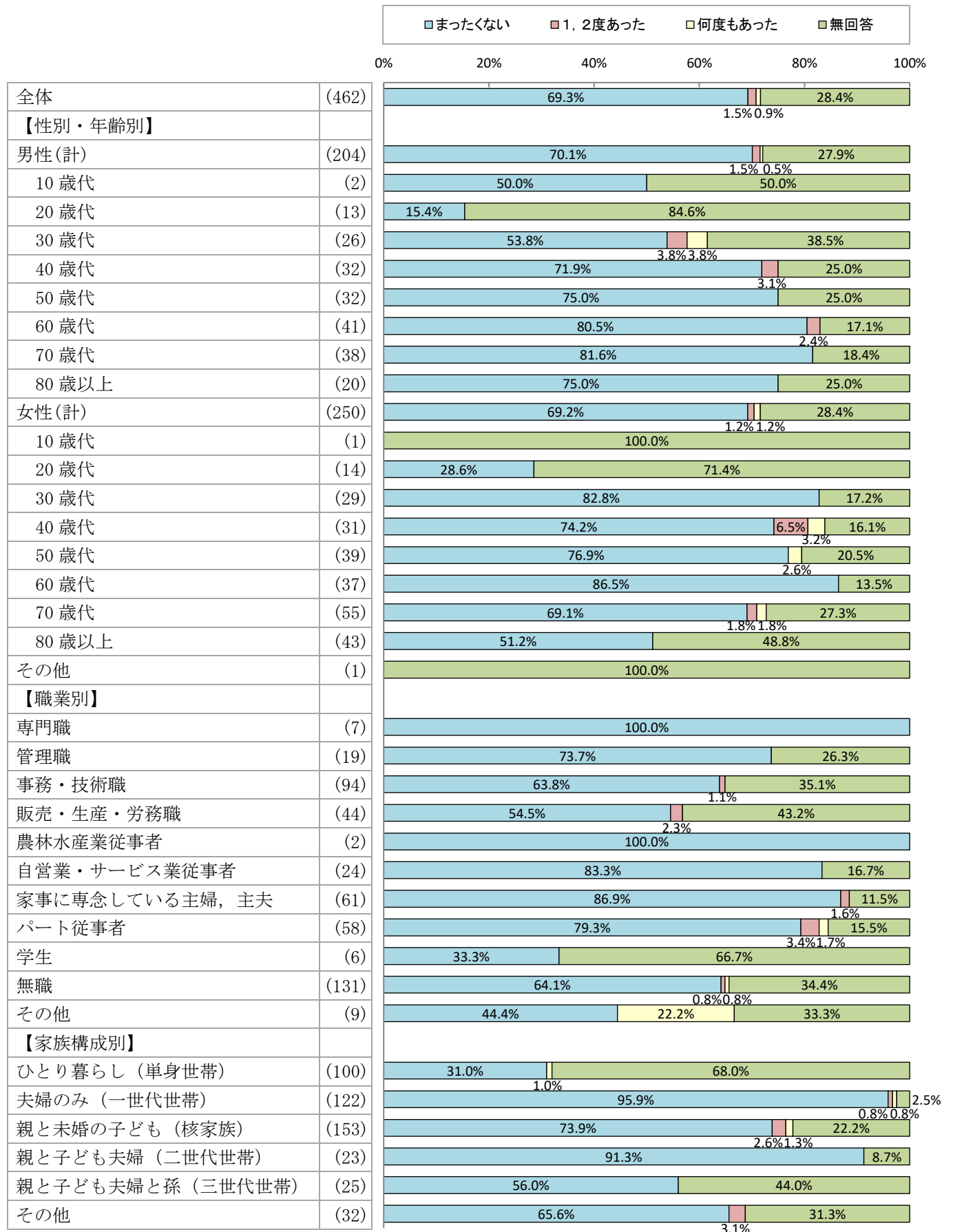
④ 性的な暴力

<図Ⅳ－２８－１３>性別・年齢別／職業別／家族構成別



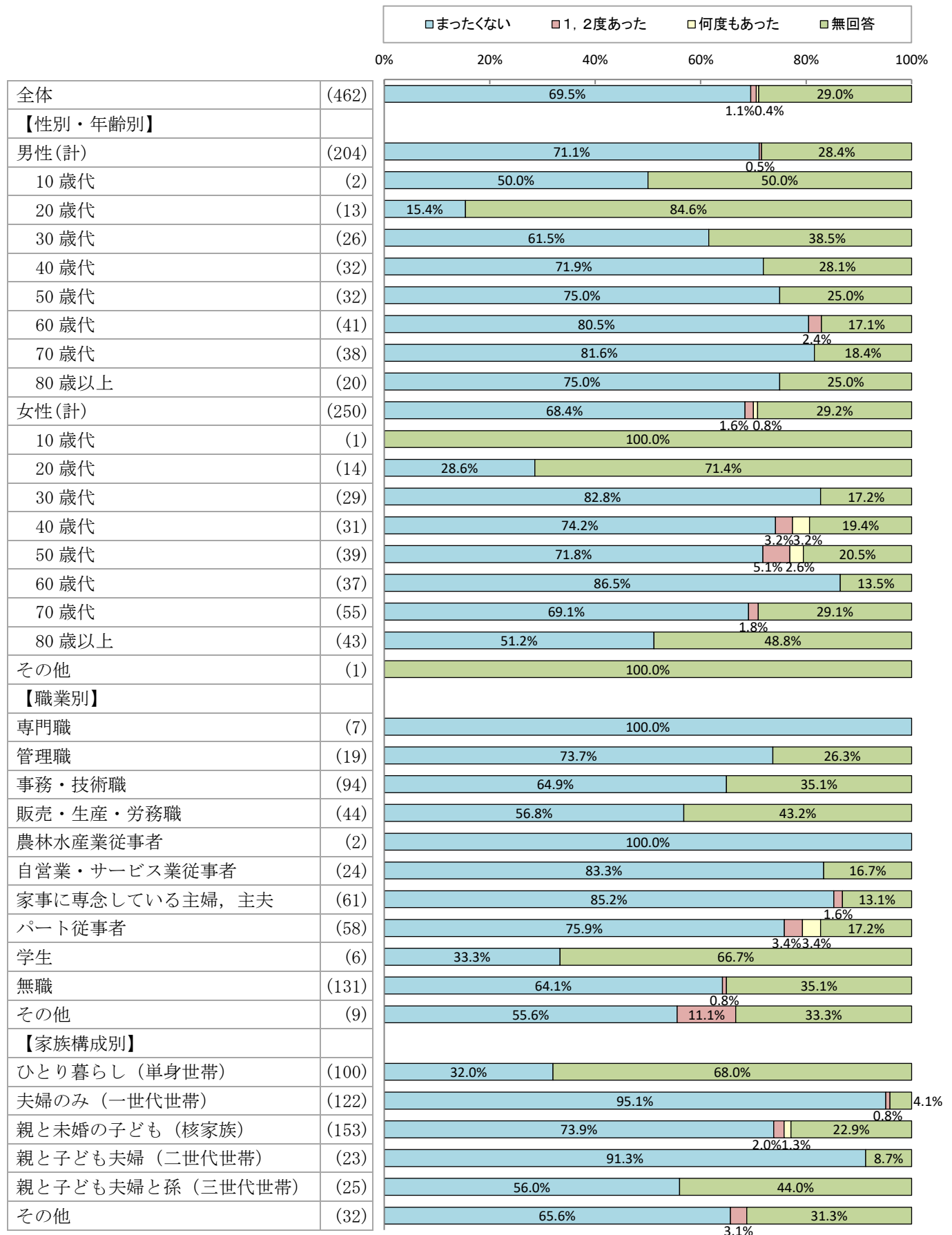
⑤ 社会的暴力

<図Ⅳ－２８－１４>性別・年齢別／職業別／家族構成別



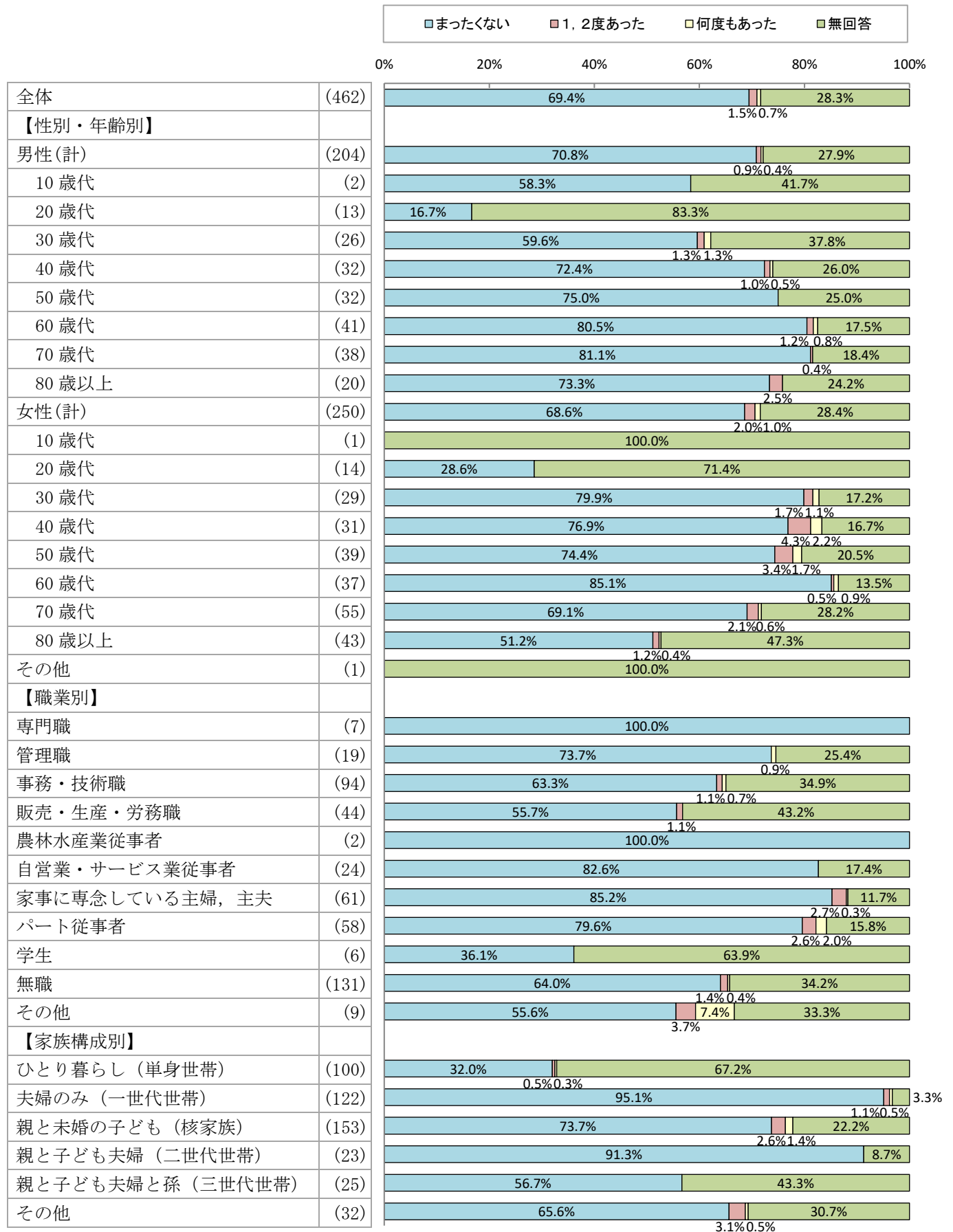
⑥ 子どもを巻き込んだ暴力

<図Ⅳ－２８－１５>性別・年齢別／職業別／家族構成別



⑦ 総合

<図Ⅳ－２８－１６>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(4) L G B T Q (エルジービーティーキュー) の認知度

◇ 「言葉も内容も知っている」が5割弱

問 9 3 L G B T Q (エルジービーティーキュー) ※という言葉について聞いたことがありますか。

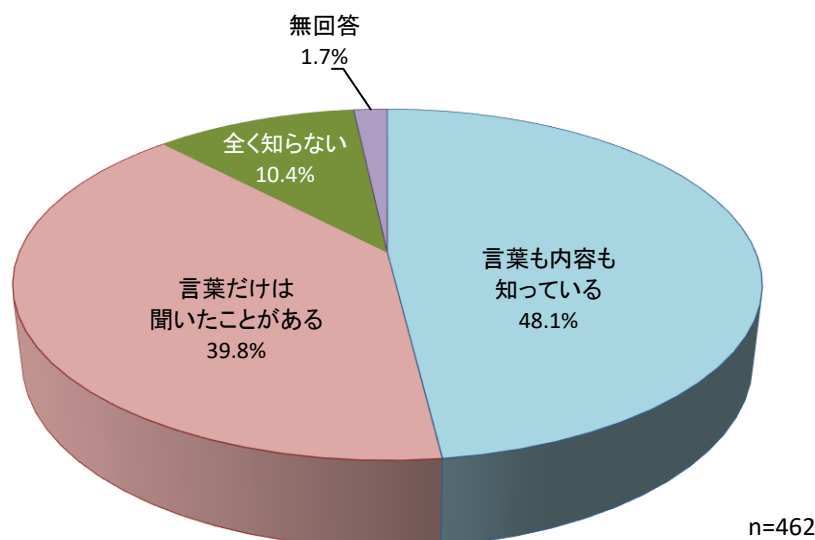
※L (レズビアン・女性同性愛者), G (ゲイ・男性同性愛者), B (バイセクシャル・両性愛者), T (トランスジェンダー・からだところの性が一致せず, 性別に違和感を覚える人), Q (クエスチョニング・性自認や性的指向が明確ではない人, 探している人, 決めかねている人/クイア・L G B Tに当てはまらない性的マイノリティや性的マイノリティを広範的に包括する概念) の5つの単語の頭文字をとった言葉で, 性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつ

(○は1つ)

n=462

1	言葉も内容も知っている	48.1%
2	言葉だけは聞いたことがある	39.8%
3	全く知らない	10.4%
	(無回答)	1.7%

<図Ⅳ－28－17>全体



L G B T Q (エルジービーティーキュー) ※という言葉について聞いたことがあるかについては, 「言葉も内容も知っている」が 48.1%で最も高く, 次いで「言葉だけは聞いたことがある」が 39.8%であった。(図Ⅳ－28－17)

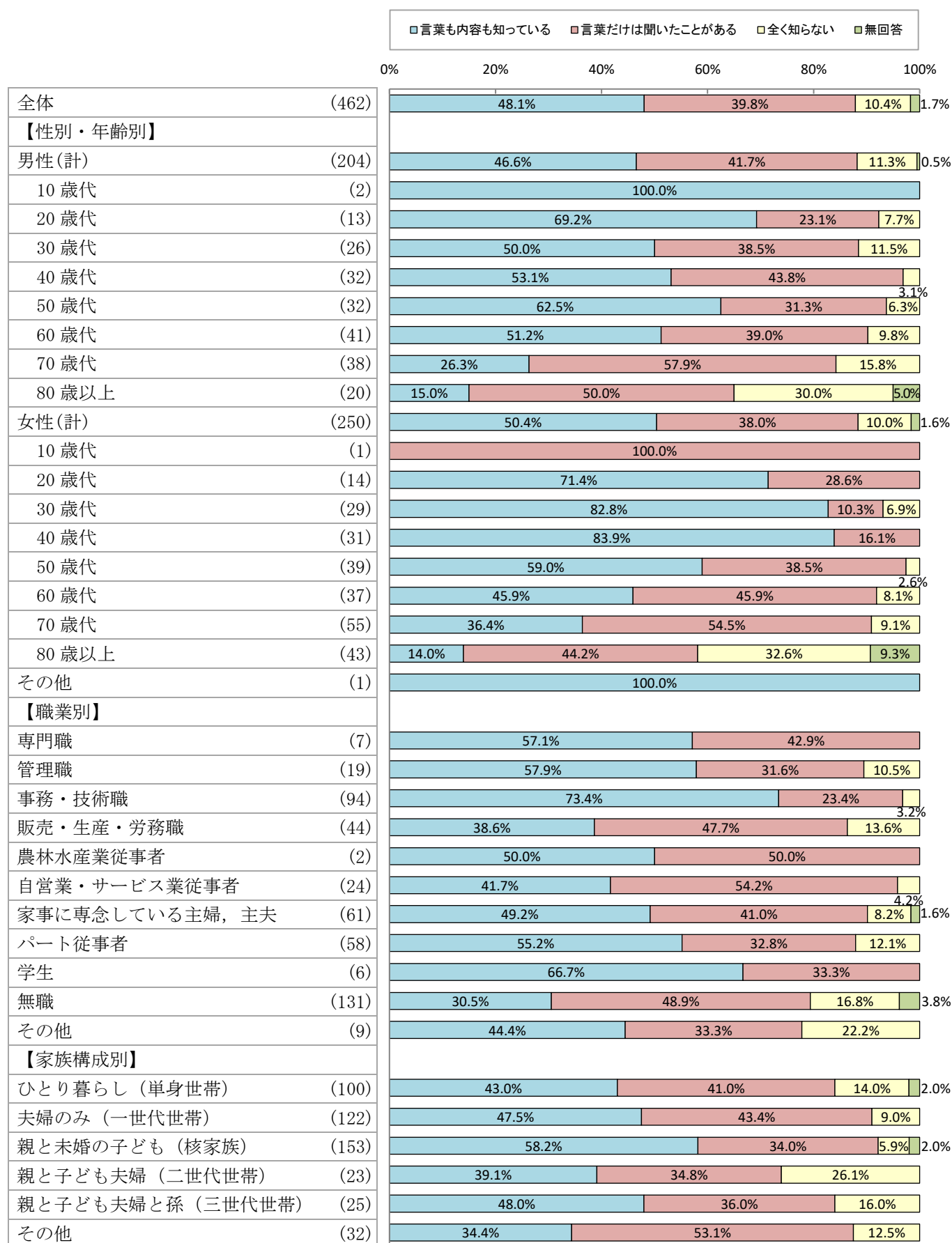
<参考>

性別・年齢別でみると, 「全く知らない」は<女性 80 歳以上>が 32.6%, 次いで<男性 80 歳以上>が 30.0%であった。(図Ⅳ－28－18)

職業別でみると, 「全く知らない」は<その他>を除くと, <無職>が 16.8%で最も高く, 次いで<販売・生産・労務職>が 13.6%であった。(図Ⅳ－28－18)

家族構成別でみると, 「全く知らない」は<親と子ども夫婦 (二世帯世帯)>が 26.1%で最も高く, 次いで<親と子ども夫婦と孫 (三世帯世帯)>が 16.0%であった。(図Ⅳ－28－18)

<図Ⅳ－２８－１８>性別・年齢別／職業別／家族構成別



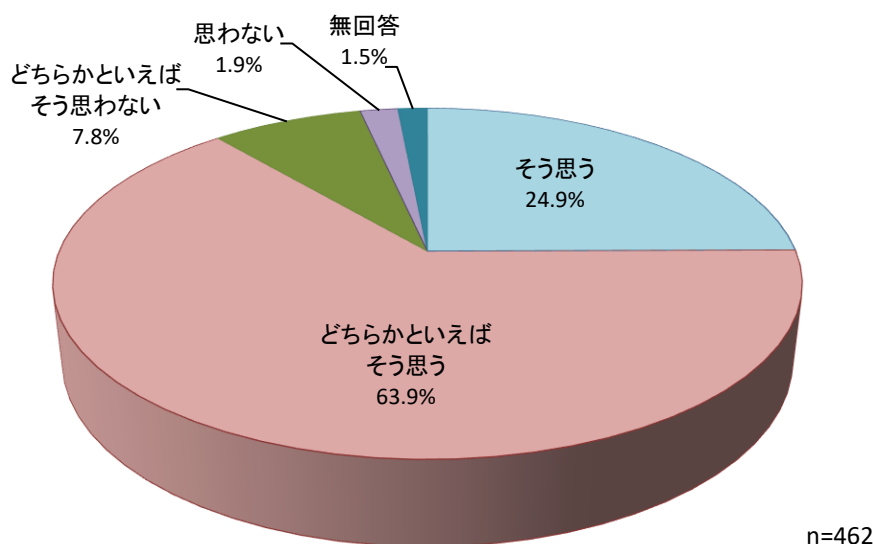
29. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

(1) 安心して暮らすことができているか

◇「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約9割

問94	宇都宮市では、犯罪のない安全で安心なまちづくりを目指した取組を推進していますが、あなたは普段、宇都宮市で生活する中で、安心して暮らすことができていると思いますか。（○は1つ）	n=462
1	そう思う	24.9%
2	どちらかといえばそう思う	63.9%
3	どちらかといえばそう思わない	7.8%
4	思わない	1.9%
	（無回答）	1.5%

<図IV-29-1>全体



安心して暮らすことができていると思うかについては、「そう思う」が24.9%、「どちらかといえばそう思う」が63.9%で、これらを合わせた【そう思う（計）】は88.8%であった。一方、「思わない」が1.9%、「どちらかといえばそう思わない」が7.8%で、これらを合わせた【思わない（計）】は9.7%であった。（図IV-29-1）

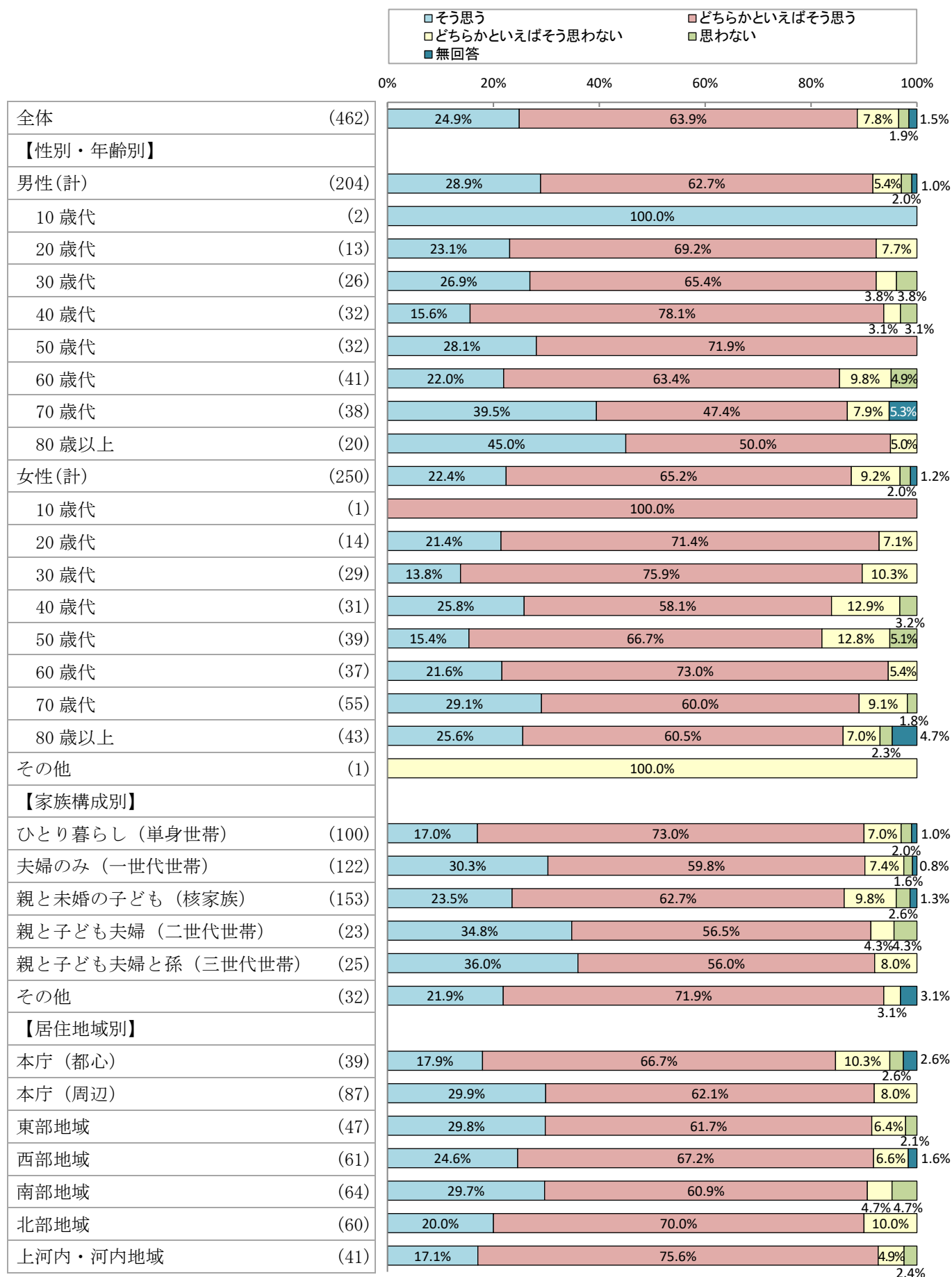
<参考>

性別・年齢別でみると、【そう思う（計）】は＜男性10・50歳代＞＜女性10歳代＞が100.0%、＜男性80歳以上＞が95.0%であった。【思わない（計）】は＜その他＞を除くと、＜女性50歳代＞が17.9%で最も高く、次いで＜女性40歳代＞が16.1%であった。（図IV-29-2）

家族構成別でみると、【そう思う（計）】は＜その他＞を除くと、＜親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）＞が92.0%で最も高く、次いで＜親と子ども夫婦（二世帯世帯）＞が91.3%であった。【思わない（計）】は＜親と未婚の子ども（核家族）＞が12.4%で最も高く、次いで＜ひとり暮らし（単身世帯）＞＜夫婦のみ（一世帯世帯）＞がいずれも9.0%であった。（図IV-29-2）

居住地域別でみると、【そう思う（計）】は＜上河内・河内地域＞が92.7%で最も高く、次いで＜本庁（周辺）＞が92.0%であった。【思わない（計）】は、＜本庁（都心）＞が12.9%で最も高く、次いで＜北部地域＞が10.0%であった。（図IV-29-2）

<図Ⅳ－２９－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



(2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

◇「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が約7割

問 9 5 自転車乗車中の交通事故で亡くなった人の半数以上が頭部に致命傷を負っていることなどから、本市では自転車利用者のヘルメット着用を推進しています。

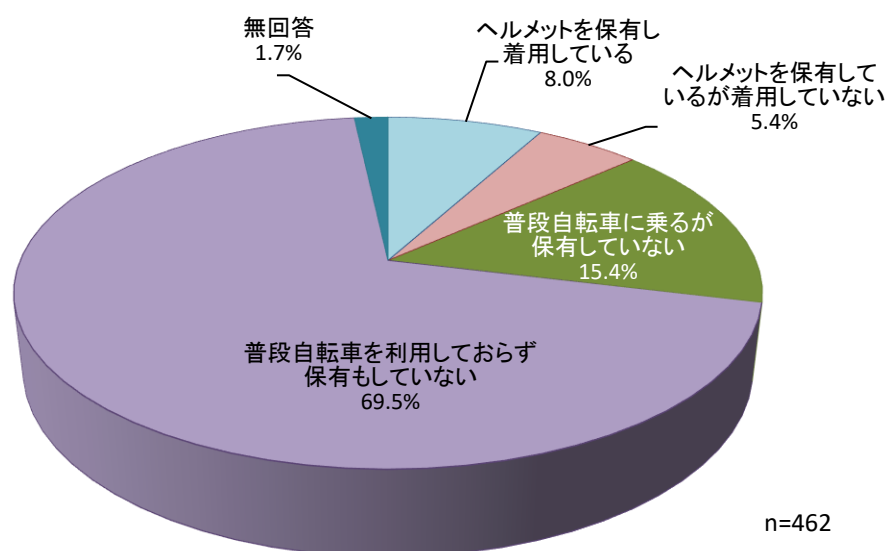
あなたは、自転車乗車用のヘルメットを保有していますか。また、自転車乗車中は着用していますか。

(○は1つ)

n=462

1	ヘルメットを保有し着用している	8.0%
2	ヘルメットを保有しているが着用していない	5.4%
3	普段自転車に乗るが保有していない	15.4%
4	普段自転車を利用しておらず保有もしていない	69.5%
	(無回答)	1.7%

<図IV-29-3>全体



自転車乗車用のヘルメットを保有および自転車乗車中の着用については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が69.5%で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が15.4%であった。(図IV-29-3)

<参考>

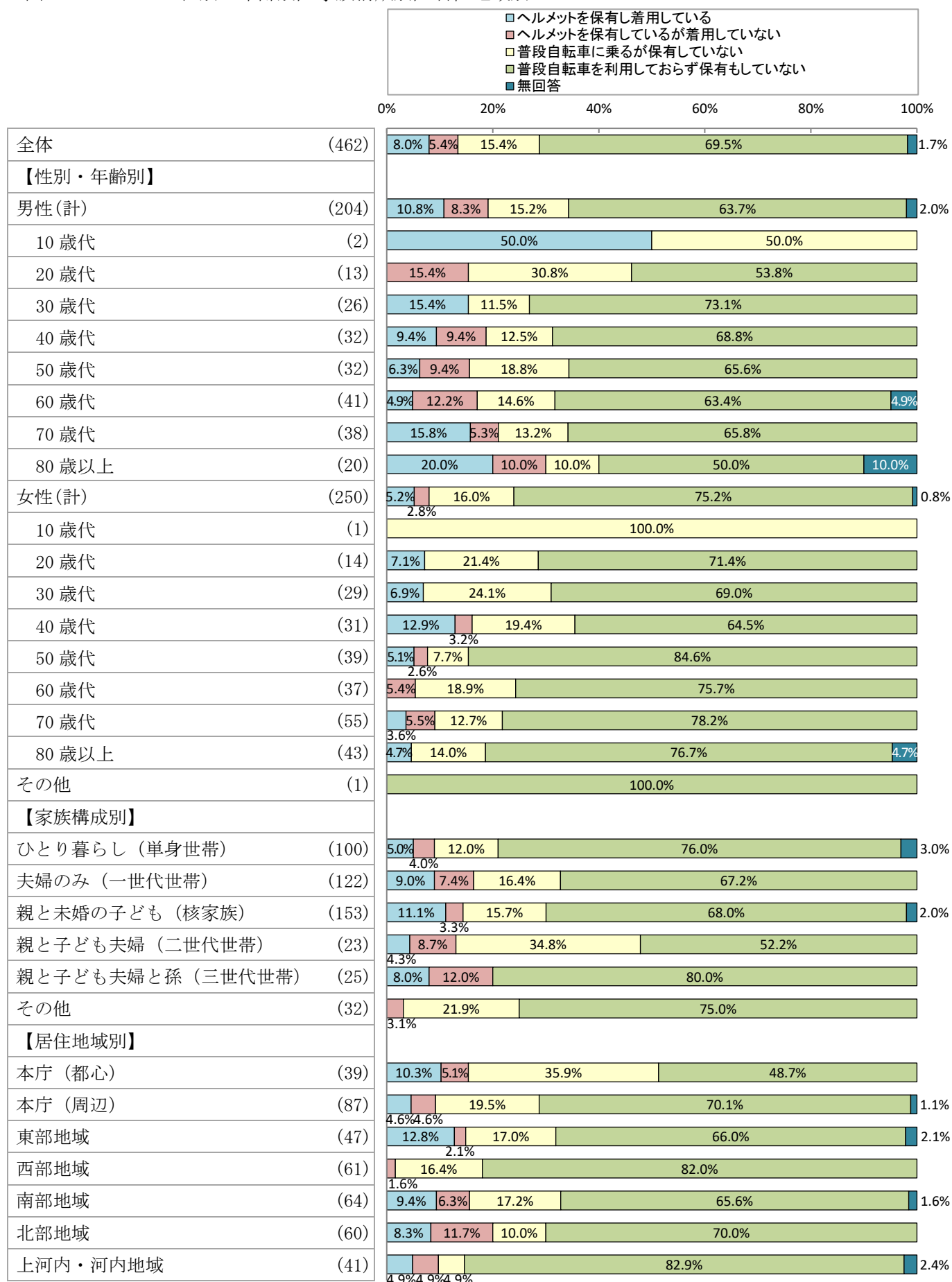
性別・年齢別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<その他>を除くと、<女性50歳代>が84.6%で最も高く、次いで<女性70歳代>が78.2%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<女性10歳代>が100.0%、<男性10歳代>が50.0%であった。(図IV-29-4)

家族構成別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が80.0%で最も高く、次いで<ひとり暮らし(単身世帯)>が76.0%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<その他>を除くと、<親と子ども夫婦(二世代世帯)>が34.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が16.4%であった。(図IV-29-4)

居住地域別で見ると、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」は<上河内・河内地域>が82.9%で最も高く、次いで<西部地域>が82.0%であった。「普段自転車に乗るが保有していない」は<本庁(都心)>が35.9%で最も高く、次いで<本庁(周辺)>が19.5%であった。

(図IV-29-4)

<図Ⅳ－２９－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別

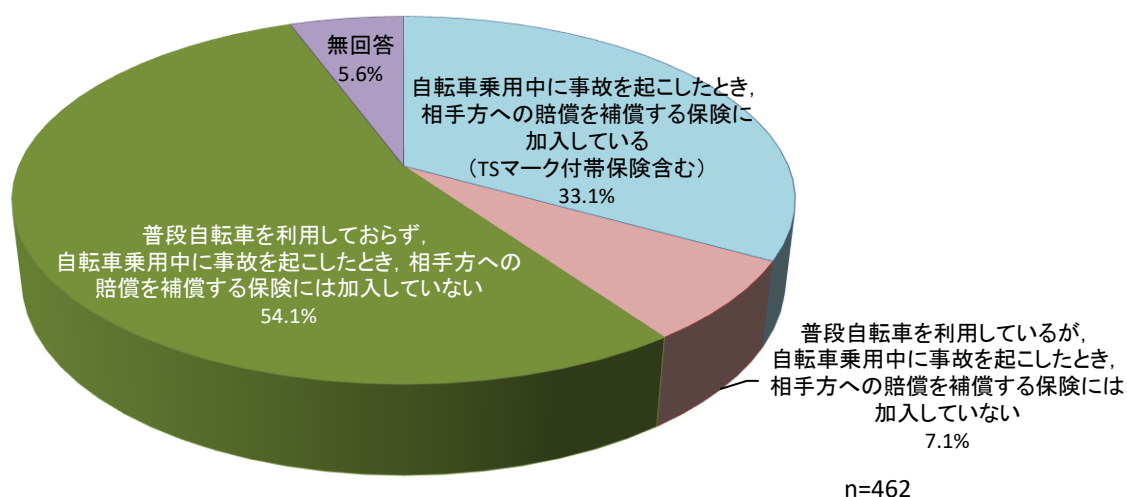


(3) 自転車保険の加入状況

◇「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が5割半ば

問 9 6	宇都宮市では、「交通事故のない社会」を目指し、総合的な交通安全対策を推進していますが、あなたは、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入していますか。	(○は1つ) n=462
1	自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険に加入している (TS マーク付帯保険含む)	33.1%
2	普段自転車を利用しているが、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない	7.1%
3	普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない (無回答)	54.1% 5.6%

<図Ⅳ－29－5>全体



自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手のけがの治療費などを補償する保険（自転車保険）に加入しているかについては、「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が 54.1%で最も高く、次いで「自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険に加入している（TS マーク付帯保険含む）」が 33.1%であった。

(図Ⅳ－29－5)

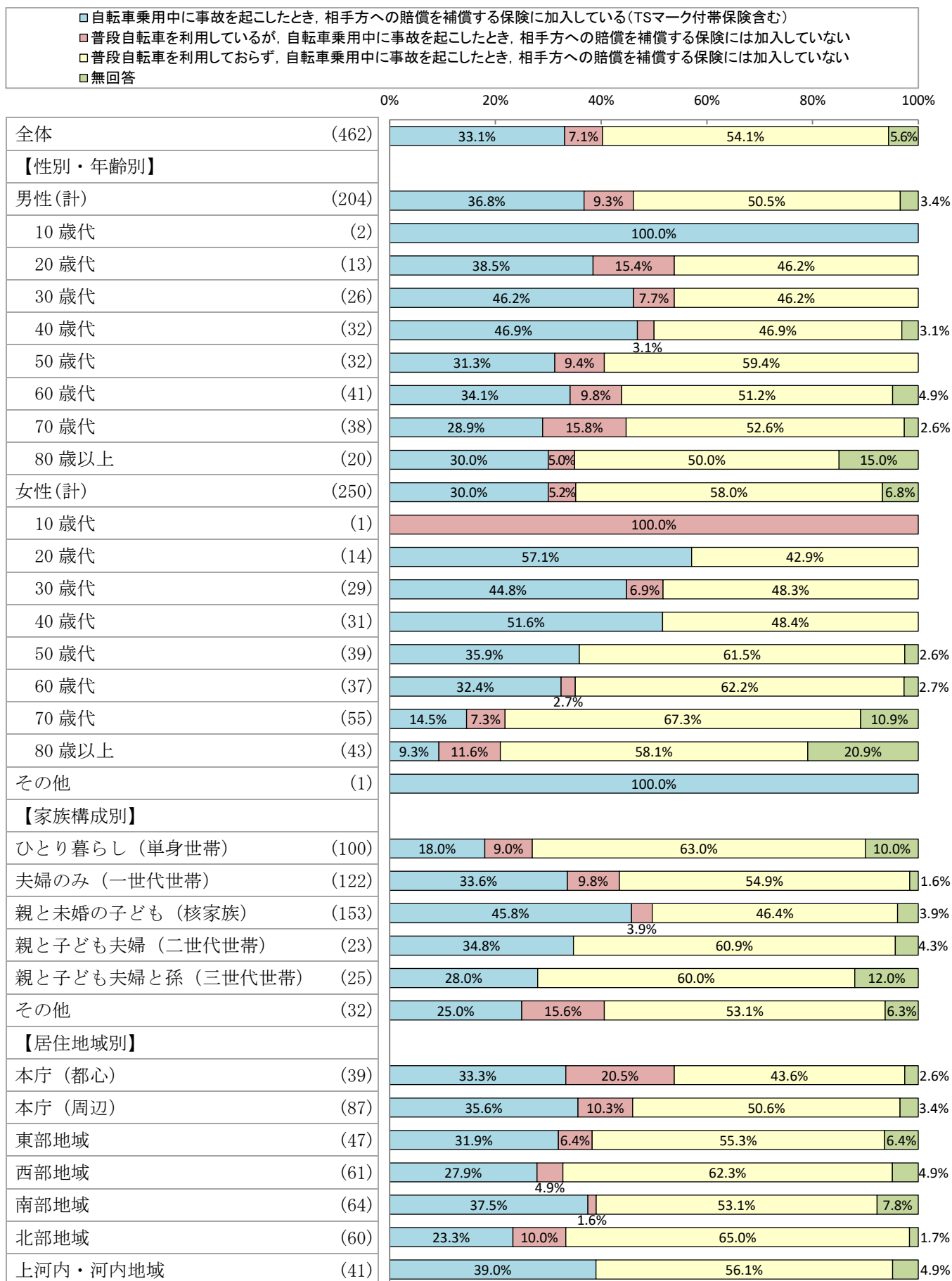
<参考>

性別・年齢別でみると、「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」は<女性 70 歳代>が 67.3%で最も高く、次いで<女性 60 歳代>が 62.2%であった。(図Ⅳ－29－6)

家族構成別でみると、「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が 63.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が 60.9%であった。(図Ⅳ－29－6)

居住地域別でみると、「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」は<北部地域>が 65.0%で最も高く、次いで<西部地域>が 62.3%であった。(図Ⅳ－29－6)

<図Ⅳ－２９－６>性別・年齢別／家族構成別／居住地域別



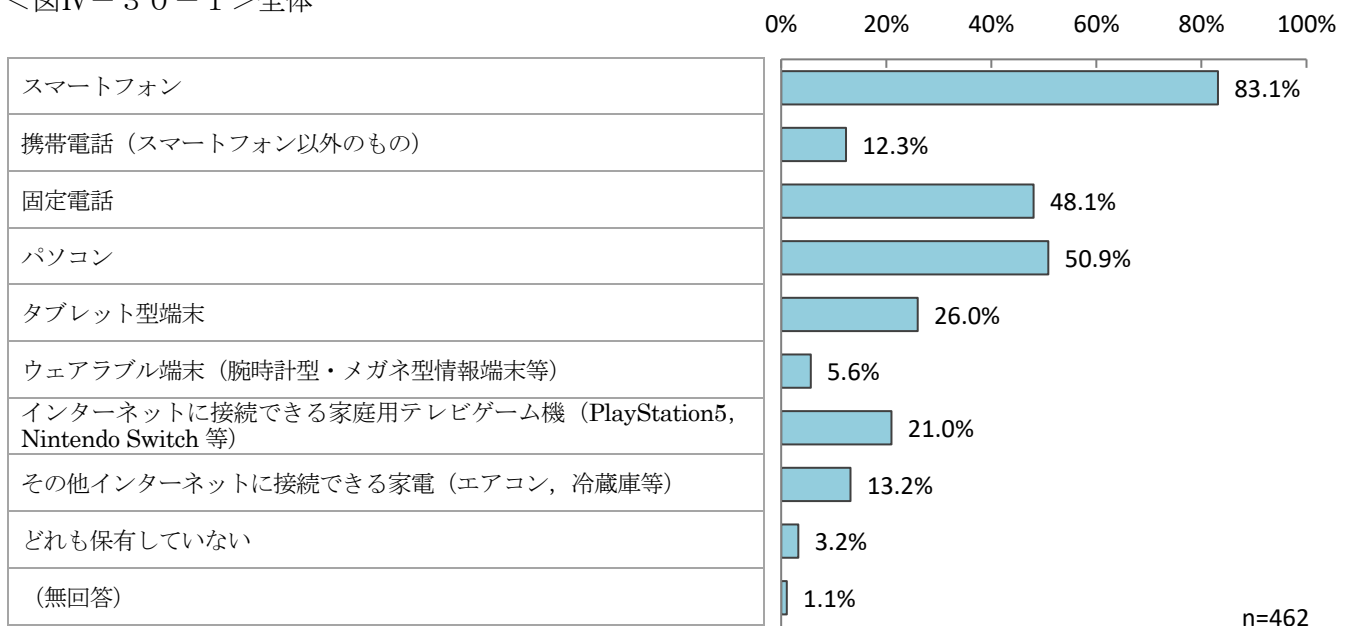
30. デジタル化について

(1) デジタル機器の所有状況

◇「スマートフォン」が8割強

問97 あなたはどんなデジタル機器をお持ちですか。		(○はいくつでも)
		n=462
1	スマートフォン	83.1%
2	携帯電話（スマートフォン以外のもの）	12.3%
3	固定電話	48.1%
4	パソコン	50.9%
5	タブレット型端末	26.0%
6	ウェアラブル端末（腕時計型・メガネ型情報端末等）	5.6%
7	インターネットに接続できる家庭用テレビゲーム機（PlayStation5, Nintendo Switch 等）	21.0%
8	その他インターネットに接続できる家電（エアコン, 冷蔵庫等）	13.2%
9	どれも保有していない	3.2%
	（無回答）	1.1%

<図IV-30-1>全体



デジタル機器の所有状況については、「スマートフォン」が83.1%で最も高く、次いで「パソコン」が50.9%、「固定電話」が48.1%、「タブレット型端末」が26.0%と続いた。（図IV-30-1）

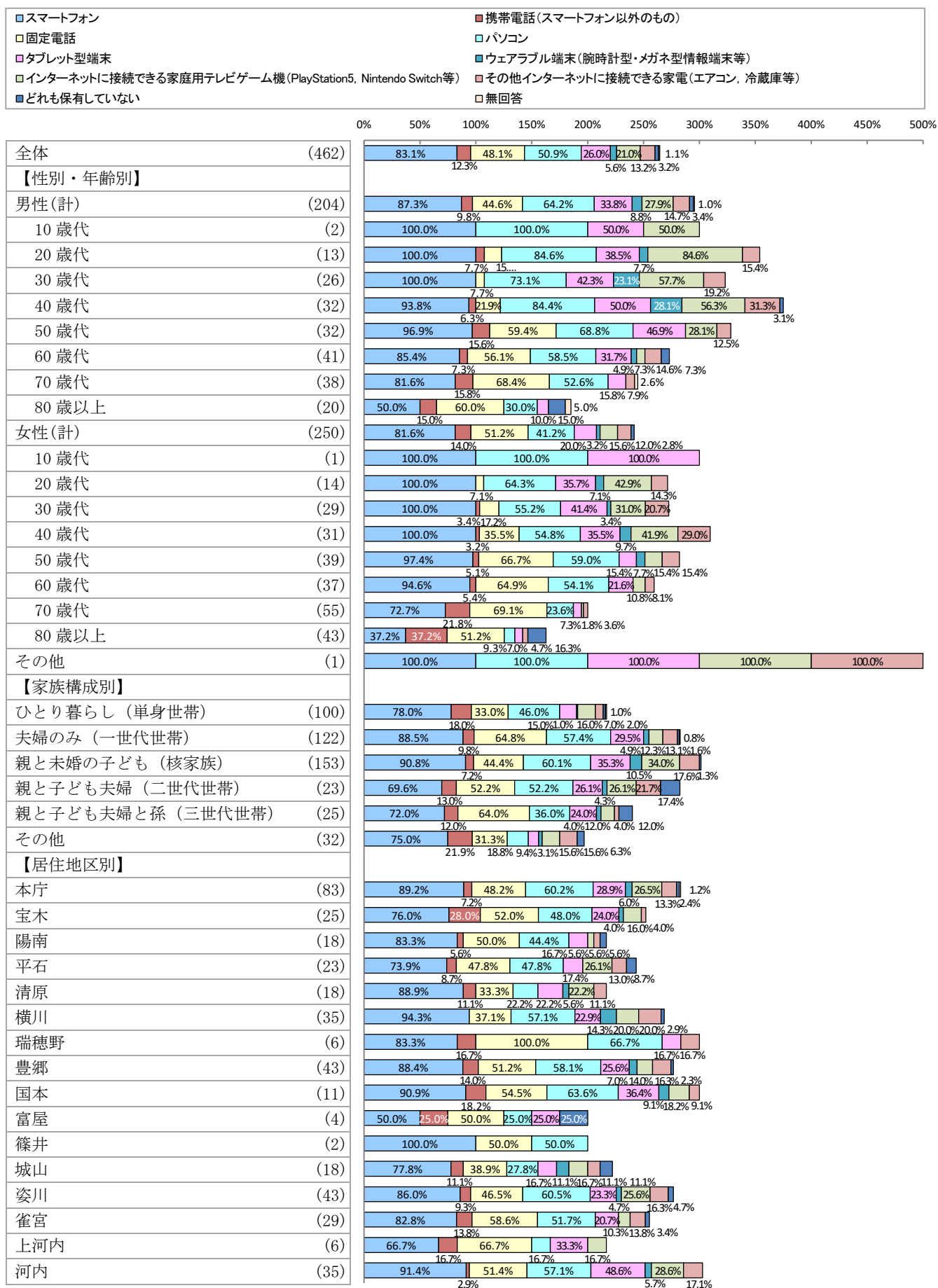
<参考>

性別・年齢別でみると、「スマートフォン」は<その他>を除くと、<男性10・20・30歳代><女性10・20・30・40歳代>が100.0%、<女性50歳代>が97.4%であった。「パソコン」は<その他>を除くと、<男性10歳代><女性10歳代>が100.0%、<男性20歳代>が84.6%であった。（図IV-30-2）

家族構成別でみると、「スマートフォン」は<親と未婚の子ども（核家族）>が90.8%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が88.5%であった。「パソコン」は<親と未婚の子ども（核家族）>が60.1%で最も高く、次いで<夫婦のみ（一世代世帯）>が57.4%であった。（図IV-30-2）

居住地区別でみると、「スマートフォン」は<篠井>が100.0%、<横川>が94.3%であった。「パソコン」は<瑞穂野>が66.7%で最も高く、次いで<国本>が63.6%であった。（図IV-30-2）

<図Ⅳ－３０－２>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

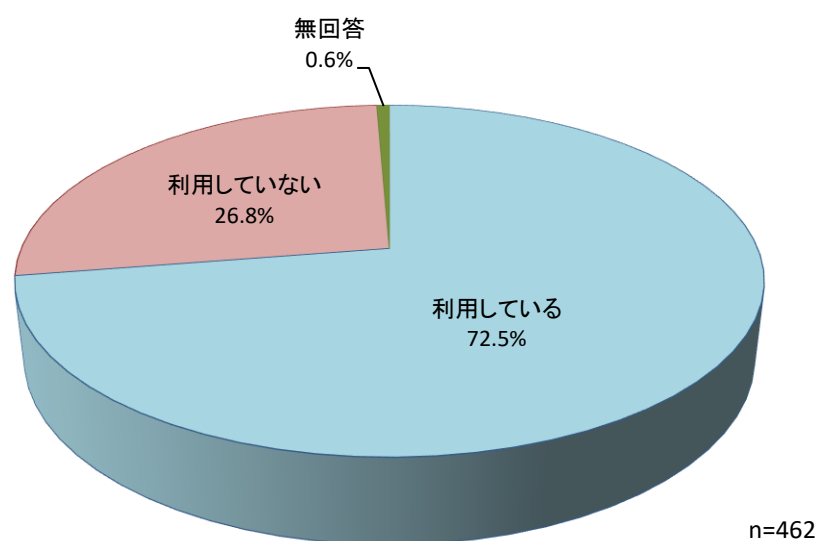


(2) インターネットを利用しているか

◇「利用している」が7割強

問98	あなたは、インターネットを利用していますか。	(○は1つ)
		n=462
1	利用している	72.5%
2	利用していない	26.8%
	(無回答)	0.6%

<図Ⅳ－30－3>全体



インターネットを利用しているかについては、「利用している」が72.5%、一方、「利用していない」は26.8%であった。(図Ⅳ－30－3)

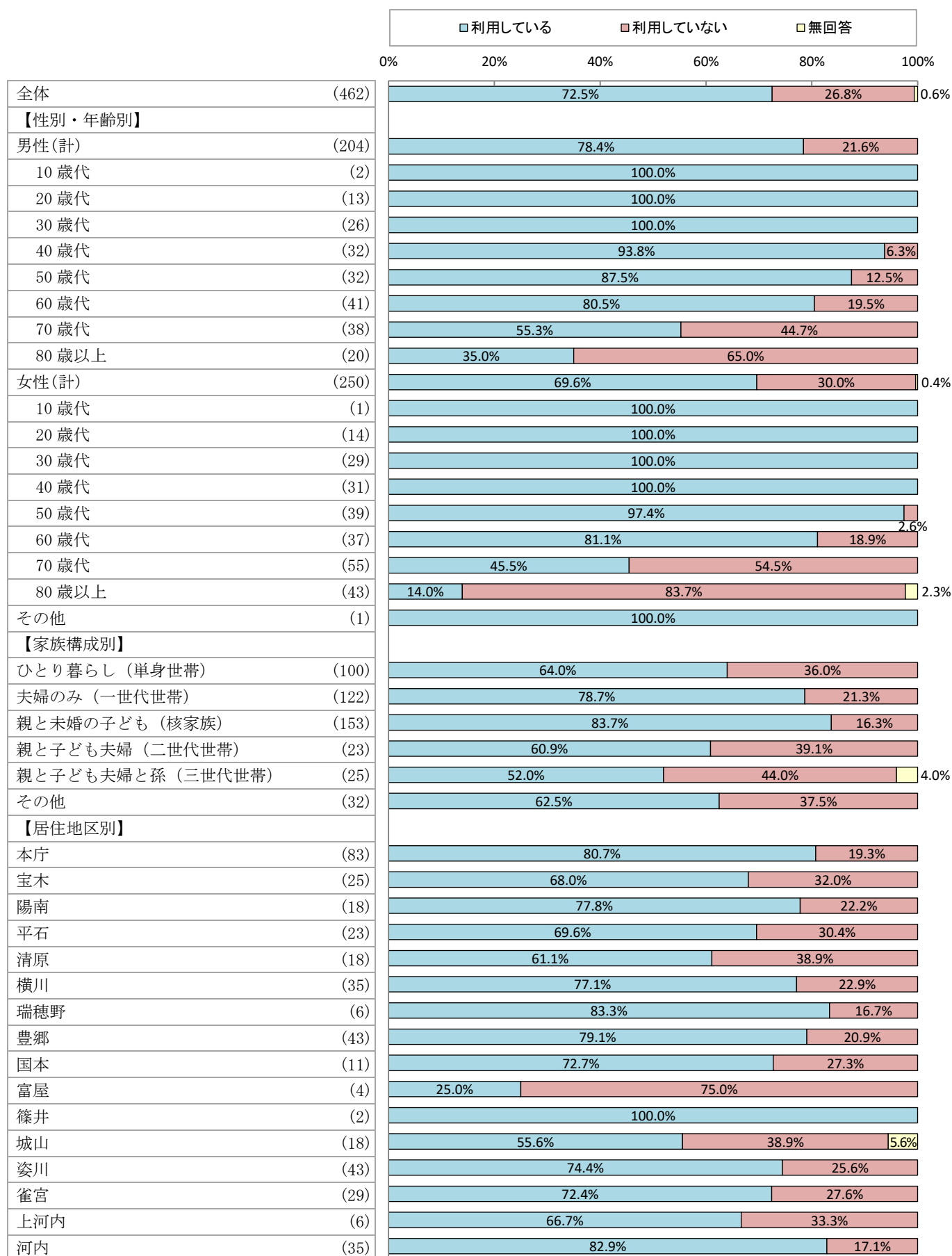
<参考>

性別・年齢別でみると、「利用している」は<その他>を除くと、<男性10・20・30歳代><女性10・20・30・40歳代>が100.0%、<女性50歳代>が97.4%であった。「利用していない」は<女性80歳以上>が83.7%で最も高く、次いで<男性80歳以上>が65.0%であった。(図Ⅳ－30－4)

家族構成別でみると、「利用している」は<親と未婚の子ども(核家族)>が83.7%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世代世帯)>が78.7%であった。「利用していない」は<親と子ども夫婦と孫(三世代世帯)>が44.0%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が39.1%であった。(図Ⅳ－30－4)

居住地区別でみると、「利用している」は<篠井>が100.0%、<瑞穂野>が83.3%であった。「利用していない」は<富屋>が75.0%で最も高く、次いで<清原><城山>が38.9%であった。(図Ⅳ－30－4)

<図Ⅳ－３０－４>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

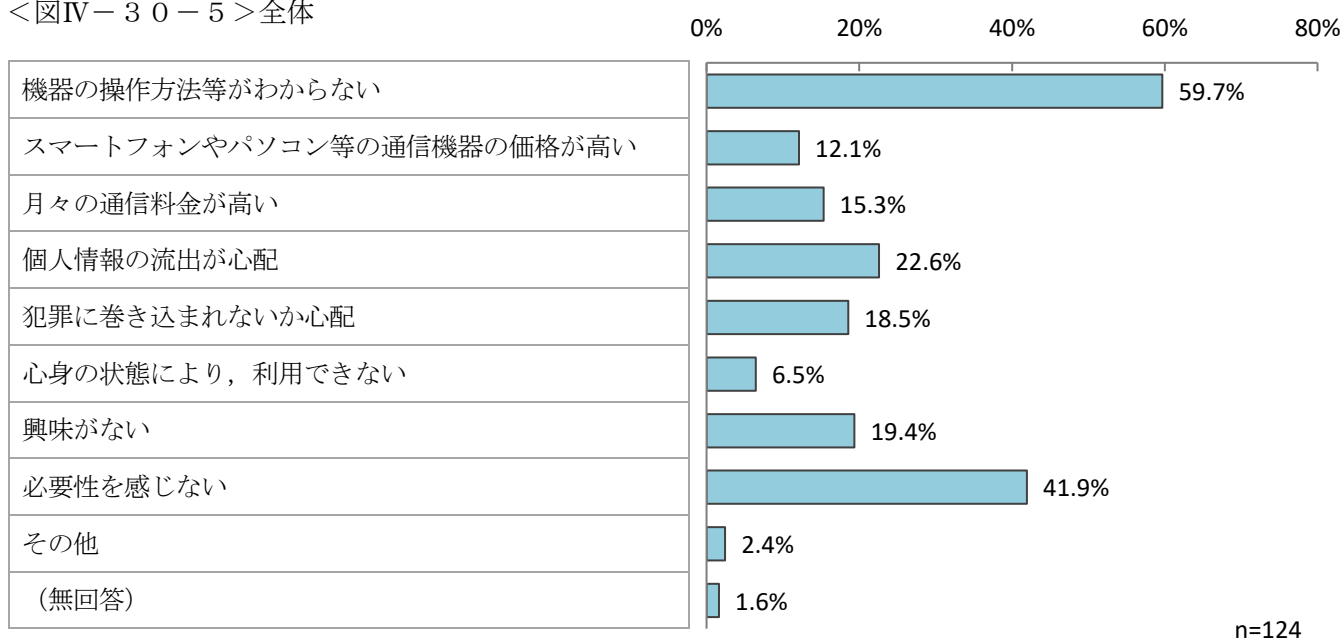


(3) インターネットを利用しない理由

◇「機器の操作方法等がわからない」が約6割

問99	問98で「2 利用していない」と回答した方にお伺いします。あなたが、インターネットを利用しない理由は何ですか。	(〇はいくつでも)	n=124
1	機器の操作方法等がわからない		59.7%
2	スマートフォンやパソコン等の通信機器の価格が高い		12.1%
3	月々の通信料金が高い		15.3%
4	個人情報の流出が心配		22.6%
5	犯罪に巻き込まれないか心配		18.5%
6	心身の状態により、利用できない		6.5%
7	興味がない		19.4%
8	必要性を感じない		41.9%
9	その他		2.4%
	(無回答)		1.6%

<図IV-30-5>全体



インターネットを利用しない理由については、「機器の操作方法等がわからない」が59.7%で最も高く、次いで「必要性を感じない」が41.9%、「個人情報の流出が心配」が22.6%、「興味がない」19.4%と続いた。(図IV-30-5)

<参考>

性別・年齢別でみると、「機器の操作方法等がわからない」は<女性50歳代>が100.0%、<男性50歳代>が75.0%であった。「必要性を感じない」は<女性70歳代>が60.0%で最も高く、次いで<女性60歳代>が57.1%であった。(図IV-30-6)

家族構成別でみると、「機器の操作方法等がわからない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が77.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が72.7%であった。「必要性を感じない」は<親と子ども夫婦(二世帯世帯)>が55.6%で最も高く、次いで<夫婦のみ(一世帯世帯)>が53.8%であった。(図IV-30-6)

居住地区別でみると、「機器の操作方法等がわからない」は<瑞穂野><上河内>が100.0%、<河内>が83.3%であった。「必要性を感じない」は<瑞穂野>が100.0%、<平石>が71.4%であった。(図IV-30-6)

<図Ⅳ－３０－６>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別



V 調査結果の考察

V 調査結果の考察

宇都宮大学の中村祐司教授に御協力をいただき、専門的、客観的な立場から、各テーマについて、調査結果を考察していただきました。

●中村祐司教授のプロフィール●

1991年3月、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程を満期退学し、早稲田大学人間科学部助手(1991年4月～1993年3月)を経て、1993年4月に宇都宮大学に赴任。博士(政治学)。2003年4月に宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授。2016年4月から宇都宮大学地域デザイン科学部教授。2019年4月から同大学院地域創生科学研究科教授(現在に至る)。

専門は行政学・地方自治。現在、うつのみや市政研究センター運営協議会委員など、主として栃木県内の地方自治体における審議会等の活動に積極的に従事している。単著に、『スポーツの行政学』(成文堂、2006年)、『“とちぎ発” 地域社会を見るポイント100』(下野新聞新書、2007年)、『スポーツと震災復興』(成文堂、2016年)、『政策を見抜く10のポイント』(同、2016年)、『危機と地方自治』(同、2016年)、『2020年東京オリンピックの研究—メガ・スポーツイベントの虚と実—』(同、2018年)、『2020年東京オリンピックを問う—自治の終焉、統治の歪み—』(同、2020年)、『2020年東京オリンピックの変質—コロナ禍で露呈した誤謬—』(同、2021年)、『2020年東京オリンピックとは何だったのか—欺瞞の祭典が残したもの—』。共著に、『日本の公共経営』(北樹出版、2014年)、『地方自治の基礎』(一藝社、2017年)など多数。

1. 宇都宮市に対する感じ方について

「どちらかといえば好き」を含め、9割以上(93.3%。前年91.9%。前々年92.5%)が宇都宮市を「好き」と回答した。経年変化では9割を少し超える横ばい状況が続くものの、もう少しで95%に届くところまできた。次回調査ではこの9割台後半を目標にしたいところだ。

内訳は、「好き」が47.7%で前年(47.7%)と同じであった。「どちらかといえば好き」は45.6%と前年(44.2%)から僅かに上昇した。

例年どおり割合は低いものの、「どちらかといえば嫌い」は3.5%と前年(4.7%)よりも下降したものの、「嫌い」が1.1%と前年(0.6%)よりも少し上昇した。トータルでは、嫌いは4.6%(前年5.3%)なので、横ばい状況と言えようか。

好きな理由としては、「自然災害の少なさ」が45.8%(前年44.2%。前々年50.8%)、「買い物など日常生活の便利さ」が40.7%(前年40.1%。前々年47.5%)といったようにいずれも4割台であった。この二つの項目も横ばい状況が続いている。

3割台の項目はなく、続いたのが「慣れ親しんだところ」(27.2%)と「自然環境の豊かさ」(26.4%)であった。好きな理由をめぐる市民の間での分散傾向はあるものの、「自然災害の少なさ」と「買い物など日常生活の便利さ」が、好きな理由の双璧であり続けている。

嫌いな理由となると、「交通マナーの悪さ」(29.5%) がぎりぎりではあるものの、遂に 2 割台となった。経年変化では前年が 31.1%。前々年が 35.5%、その前の年が 37.0%なので、確実に下がってきている。日常生活において横断歩道を渡る人優先の交通マナーが着実に浸透しつつあるということだろう。

ただ、「交通渋滞の多さ」(26.6%。前年 27.5%。前々年 25.9%) を見ると、L R T 開業の影響はまだまだ限定的なのだろうか。また、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」(20.2%。前年 18.5%。前々年 24.5%) が前年比では若干上昇したのが気掛かりだ。たとえば L R T の各停留場へのアクセスにおいてもバスは鍵となる交通機関であり、両者がリンクしている点に注目したい。

「街に活気がないところ」(21.6%。前年 24.2%。前々年 31.3%) について、明らかに改善傾向にある。スポーツイベントや多彩な催し、飲食店の出店、それらの P R 戦略などが市の活気感の上昇につながっているのだろう。

2. 広報媒体の活用状況について

広報媒体の活用について、「よく見る（聞く）」でも「ときどき見る（聞く）」でも「広報うつのみや」の存在感が高い傾向が定着している（前者 39.9%、後者 41.2%。前年は前者 39.9%、後者 41.5%。前々年は前者 41.6%、後者 41.0%）。

「よく見る（聞く）」に注目すると広報以外では、「暮らしの便利帳」(10.5%。前年 9.0%。前々年 10.8%) がほぼ 1 割で、それに続くのが「宇都宮ホームページ」(5.5%。前年 4.9%。前々年 8.1%) であり、広報との格差は大きいままである。今後は 3.8%の L I N E（教えてミヤリー）や 0.8%の X（旧 Twitter）が伸びてくるのだろうか。

一方で「ときどき見る（聞く）」では、トップは「宇都宮市ホームページ」(43.9%。前年 47.9%。前々年 48.3%) で、4 割台を維持している。「暮らしの便利帳」(37.4%。前年 43.0%。前々年 39.8%) も「広報うつのみや」と「宇都宮ホームページ」に次ぐ高い割合を維持している。市民は行政に関する情報のツボを押さえた上で取得しているようである。

「広報うつのみや」の入手方法では、「新聞折込で自宅に届いている」(54.8%。前年 57.0%。前々年 60.8%) の割合が最も高いものの、下降傾向にある。広報の伝達手段として、紙媒体の新聞折込以外が伸び悩んでいるのが気になる。

「送付で自宅に届いている」(10.1%。前年 11.1%。前々年 8.7%) は横ばい状況か。「市の公共施設などで手に入れている」(4.0%。前年 4.9%。前々年 3.5%) や「市ホームページに掲載されている P D F や電子書籍を閲覧している」(2.7%。前年 3.9%。前々年 2.9%) についても同様である。「手に入っていない」(25.4%。前年 21.1%。前々年 20.3%) の率が上昇傾向にあることから、広報の市民への届け方には工夫の余地があると思われる。5 人に 1 人は市政情報の詰まっている「広報うつのみや」に接していないのは残念だ。行政には「手に入っていない」(25.4%) 市民を開拓するための知恵がさらに求められている。

「広報うつのみや」を入手していない理由が、「入手方法を知らないため」(30.6%。前年 39.0%。前々年 40.0%) で大幅に減った。これは喜ぶべき変化ではないだろうか。広報の入手方法を知らなければ、広報へのアクセスのスタート地点にも立てないからである。しかし、それでも「特に必要でないため」(48.8%。前年 48.8%。前々年 50.0%) と考える市民の割合に変化がないのは、広報の持つ豊富なコンテンツという魅力がまだまだ市民に届いていないのだろうか。

「広報うつのみや」で読んでいる主な記事について、「市政情報」(55.0%。前年 53.5%。前々年 69.9%) と「うつのみやのイベント」(53.8%) がトップに並んだ。「特集」(45.6%。前年 36.2%。前々年 48.0%) がこれに続い

た。市政情報は日常性が強いのに対して、イベントや特集は非日常性の情報提供の色合いが濃い。両方のバランスが広報の肝なのかもしれない。なお、「未来へ進むライトライン」(20.7%)と「教えてイイトコうつのみや LRTで宇都宮旅」(15.3%)を合わせると3割台後半に達していることから、LRT効果が続いていることがわかる。

一方で「相談窓口」(25.2%)など、市民は市役所の担当者と接する機会を求めている。広報はそのつなぎ役を果たしている。

「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報について、前年調査に続き、市民の自由記載が柱となっており、選択回答では把握しきれない市民の問題意識が把握できる。他のアンケート対象分野においても、こうした質問項目を設けたらどうだろうか。

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」(43.3%。前年 39.2%。前々年 40.1%)が着実に伸びているのに対して、「パソコン」(17.0%。前年 18.3%。前々年 23.5%)は微減傾向にある。とくに前年調査と同様、両者には倍以上の開きが生じた。アクセス手段に関しては立場が完全に逆転したといえよう。果たしてスマホ全盛時代はこれからも続くのだろうか。

ホームページで知りたい情報をトップ画面のどこから探すかについて、暮らし、産業・ビジネス、市政情報、よくある質問、宇都宮ブランドといった「大分類」(51.8%。前年 53.3%。前々年 47.3%)がトップであった。まずはここにアクセスすれば、市民にとっては目当ての情報に行きやすいということだろう。その意味で「大分類」は有効に機能している。「キーワード検索」(44.5%。前年 37.6%。前々年 56.1%)の場合、前年比では盛り返している。

ところが、「ホームページで知りたい情報は探しやすいか」について、「探しやすい」(8.7%。前年 8.7%。前々年 9.6%)は伸びずに、「どちらかといえば探しやすい」(55.9%。前年 54.1%。前々年 58.6%)も経年変化では横ばいである。「探しやすい」が合わせて 64.6%(前年 62.8%。前々年 68.2%)となり、大きな変化は見られない。今はAI(人工知能)検索が当たり前になるまでの過渡期的なのかもしれない。

ホームページに関する感想や充実してほしい機能や情報について、前年調査に続き、市民からの率直な要請が記載されている。回答者の自由記載は調査分析の幅を広げる効果があると思われ、ぜひ継続してほしい。

市政情報をどんな手段で知りたいかについて、「広報うつのみや」(56.7%。前年 56.2%。前々年 60.8%)の割合が最も高い傾向が続いている。「ホームページ」(27.3%。前年 35.3%。前々年 36.6%)の場合、低下傾向にあり、「新聞」(21.4%。前年 21.6%。前々年 27.3%)は踏みとどまってはいるものの、前年と同様僅かながらテレビ(23.3%。前年 21.9%)の方が上回った。

「LINE(教えてミヤリー)」(12.2%)はともかく、「X(旧 Twitter)」(8.2%)や「Instagram」(7.4%)が1割にも達してないのはなぜだろうか。市政情報とSNSとの内容的な相性に課題があるのだろうか。

3. 成年後見制度について

成年後見制度の認知度について、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」(42.6%)が「制度の内容を知っている」(30.5%)を10ポイント以上上回った。それでも「名前を聞いたことがある」は、制度理解への入り口となる。認知度としては、7割を超えている。

4. 生物多様性について

生物多様性という言葉について、今回調査では「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」(36.6%。前年 38.6%。前々年 35.5%) が前年比で若干減り、「言葉も意味も知っていた」(37.6%。前年 34.7%。前々年 44.6%) が 3 ポイント上昇した。少しずつではあるが、認知者の割合が上がる傾向にある。

外来種が及ぼす影響については、「知っていた」(87.1%。前年 88.4%。前々年 85.8%) の場合、経年変化では横ばいである。認知度が定着したといってもいい。「言葉は知っていたが、その影響までは知らなかった」(10.6%。前年 9.2%。前々年 11.4%) についても同様である。前回と同じ指摘となるが、市民に対するインパクトとしては、「生物多様性」より「外来種」の方が明らかに強い。外来種をめぐる報道に接する中で、市民はその脅威を他人事ではないと捉えている。

5. 宇都宮産の農産物について

「宇都宮産」の農産物の購入意欲について、「非常にそう思う」(24.9%。前年 27.5%。前々年 27.2%) が若干下がり、「そう思う」(57.5%。前年 56.2%。前々年 57.5%) はほぼ横ばいであった。合わせると 82.4%という高い割合なので、安定・定着ぶりは明白である。それでも「非常にそう思う」市民の割合が高ければ高いほど、農産物の範疇を超えた市全体の魅力向上に直結するはずであり、「非常に」を重視した取り組みを今後とも続けてほしい。

そのことは宇都宮の農業を大切にしたいと思う市民についてもいえる（「非常にそう思う」が 31.5%。前年 35.9%。前々年 39.1%。「そう思う」が 58.8%。前年 54.7%。前々年 53.6%）。多くの市民が地元農業に対する愛着を持っていること自体は誇っていいのだが、やはり「非常に」を増やしたい。市と関係者との協働・共創事業を継続展開し、「宇都宮産」農産物にさらに磨きをかけてもらいたい。

環境に配慮して生産された農産物を積極的に選択して購入したいかについて、「非常にそう思う」(24.3%。前年 28.0%) と「そう思う」(61.9%。前年 58.9%) を合わせれば 8 割台後半となった。後者よりも前者の割合が増えてほしい。環境配慮と宇都宮産農産物を強く結びつけてほしい。この点で行政からの後押しが必要である。

6. カーボンニュートラル（脱炭素）について

カーボンニュートラルの認知度は相当に浸透している（「言葉の意味も含めて知っている」53.1%。前年 55.0%。「言葉は知っているが、意味はよくわからない」39.7%。前年 36.9%）。しかし、「意味も含めて知っている」に注目すると前年比で若干後退している。ただ、言葉だけでなく意味を知っている回答者の割合の方が高い状況にあり、今後に期待したい。合わせると 9 割を優に超えるため、現在の認知度を維持していくことも大切だ。

取り組みの必要性についても「必要だと思う」(60.7%。前年 58.2%) と「どちらかといえば必要だと思う」(29.2%。前年 31.7%) を合わせると 9 割を超えた。今回調査では若干ではあるものの、前者が上昇傾向、後者が下降傾向にあり、市民の後押しが強まりつつあるといえる。加えて、「必要だと思わない」が僅か 2.7%（前年 1.7%）というのは、市民への意識の浸透ぶりがはっきり出た結果であろう。

カーボンニュートラルにつながる市民の実践についてはどうか。「実践している」の場合、最上位の「LED照明の使用」(72.5%)はともかく、これに続き4割台で並んだのが、「運転の際のエコドライブ」(48.2%)、「給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用」(46.7%)、「自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる」(40.8%)の三項目であった。エコドライブ、省エネ、庭木、グリーンカーテンは、キーワードとして市民に受容されやすい。一方で、「新築や改修はZEHやLCCM住宅に、建築資材に地元産の木材を使用」(11.0%。前年17.1%)といったカーボンニュートラルと基幹的につながる項目の市民への浸透は、まだまだこれからなのだろう。前年比で6ポイントも下がっているのが気になる。

ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることについて、「知っている」(20.3%。前年31.7%)、「知らない(今回の調査で初めて認識)」(64.7%。前年66.1%)という結果となった。前者の大幅な落ち込みはなぜなのだろうか。このことは開業後も車内広告枠などを使って粘り強くPRし続けてほしい。

7. 水災害(洪水など)への備えについて

ハザードマップの存在について、「知っており内容を確認している」(48.0%。前年48.3%)と「知っているが、内容を確認したことはない」(46.1%。前年45.5%)が前回調査と同様、拮抗する結果となった。ただ用語自体は9割台半ば近くの市民に浸透しており、十分な認知度だといえる。自然災害の脅威を他人事とは捉えない市民が圧倒的に多くなった。

実際に「住んでいる建物(住宅)は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か」との設問には、「洪水浸水想定区域内に立地している」(6.6%。前年6.7%)、「洪水浸水想定区域外に立地している」(56.7%。前年67.1%)、「わからない」(34.9%。前年24.8%)となった。「区域外への立地」が大幅に減り、「わからない」が大幅に増えた。

区域外での立地が困難になっているのだろうか。設定の変更など他の要因があるのだろうか。情報以外の面も含めた洪水・浸水への備えという点では、「わからない」が上昇傾向にあるのが懸念材料である。

水災害への備えに取り組んでいるかについて、他の項目と比べて圧倒的に高率だったのが前回調査と同様、「災害時の避難場所の確認」(53.3%。前年55.4%)と「備蓄品・非常用持出品の準備(飲料水・食料品、生活用品、衣類など)」(50.1%。前年41.3%)であった。後者の大幅上昇が目立つ。長期保存する飲料水・食料品などの入れ替えが円滑にできるかが継続の秘訣となる。保存スペース確保の工夫も問われる。

前回調査と比べて、「特に取り組んでいない」(27.1%。前年32.7%)と減少したのは、行政にとっては一つの安心材料である。前回と同様の指摘となるが、たとえば、避難訓練に遊びや楽しみを盛り込み、参加者の満足感を高めるやり方はありだと思うし、市民が地道に向き合う実践につながっていくと考える。

8. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

貯留タンク(雨どいから雨水を貯めるタンク)や浸透ます(雨水を地下にしみ込ませるもの)について、「知っている」(41.2%)が最も高かったものの、「まったく知らない」(29.8%)もほぼ3割に達した。認知度5割を目指してはどうだろうか。

補助金制度について、「知っている」(30.4%)は、「知らない」(68.9%)の半分以下であった。補助金は設置に向けた有効な後押しとなる。行く行くは両者の開きを逆転させたい。

貯水タンクや浸透ますなどの設置効果についてはどうであろう。「知っている」(39.5%)が「知らない」(59.4%)に届いていない。補助金制度と設置効果をセットにした形でPRを続けてほしい。

設置意向となると、「設置したい」(21.6%)が「設置したくない」(14.6%)を引き離しているが、「わからない」(57.9%)の割合が最も高い。市民の間では行政が望む方向とは逆の膠着状態に陥っているのかもしれない。

「設置したい」「既に設置してある」と回答した市民にその理由を聞いたところ、「雨水を庭木の水やりに利用するため」(54.0%)と「水の節約になるため」(48.4%)が上位に並んだ。市民は節約と水やりという二重効果に関心を寄せる。一方で、「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」(30.2%)の認知度は3割に過ぎない。

さらに踏み込んで設置したくない理由として挙げられたトップが、「敷地に設置できる場所がないため」(42.0%)と「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」(42.0%)の二項目であった。前者はハード面で後者は心理面といった違いはあるものの、両者とも難題であり、解消に向けて行政はこれまで以上に知恵を出してほしい。設置スペース確保の工夫やわかりやすい維持管理マニュアルの提供などを打ち出してほしい。

9. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

「宮っこを守り・育てる都市宣言」について、「名称は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」(34.5%)と「名称も内容も知らない」(54.3%)を合わせると9割近くに達した。しかも前者は後者に20ポイント差を広げられた。認知度を上げるのはこれからなので悲観には及ばない。ただ、「名称も内容も知っており、行動を実践している」(2.7%)では、「行動を実践している」ハードルが高いと受け止められる面もありそうだ。問の後に実践事例をいくつか挙げたらどうだろうか。

10. まちづくり活動への参加意識について

まちづくり活動への参加の中身について、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」(23.7%)、「高齢者・障がい者などを対象とした社会福祉に関する活動」(22.3%)、「健康や医療サービスに関する活動」(21.0%)の三つの項目が2割を超えた。いずれのまちづくり参加活動も、その内容は能動的・積極的なものであり、こうした受け身ではない様々な活動の展開こそが、多様性というまちづくりの意義にも直結するように思われる。

まちづくり活動に参加していないと回答した理由について、「参加するチャンス・きっかけがない」(43.9%)が最上位であった。参加したい気持ちがあっても、仕事や時間確保の事情などのため、機会そのものが狭まってしまうと受け止める市民が多いと推察される。続いたのが、「どのように参加すれば良いかわからない」(20.9%)であった。市民がスムーズに情報把握できる環境を整えるのが行政の責任であろう。

「参加する事に興味や関心がない」(18.8%)とはいうものの、関連の情報取得が容易になれば、この割合が減少していく余地はあると思う。

1 1. 公共交通の運賃負担軽減策等について

普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度について、「ほとんど利用しない」（72.2%）が7割を超えている。これに続くのが「月1回程度」（18.2%）であり、公共交通の利用頻度をめぐる自分のイメージとだいぶ乖離していることに驚いた。

活発とはいえない利用頻度に反するかのように、交通系 IC カード「totra」については「知っている」（69.0%）が「知らない」（30.5%）の倍以上となり、認知度の高さが明らかとなった。

ところが、交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」（1乗車あたり最大400円）の認知度は決して高いとはいえない結果となった（「知っている」が27.6%、「知らない」が72.0%）。日中（9時～16時）に限定されるとはいつても、行先によっては非常にお得な運賃となり、その誘因力は大きい。人々の活発な移動を促す効果を生み出す制度であることは間違いない。

「totra」を利用した「乗継割引制度」についても同様な結果となった（「知っている」が27.6%、「知らない」が72.0%）。この二つの制度を組み合わせた今後のPRの強化を期待したい。

1 2. スポーツに関することについて

大規模スポーツイベント開催の認知度について、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース」のクリテリウム（66.1%）とロードレース（64.9%）が上位に並んだ。「FIBA 3x3 ワールドツアー宇都宮オープナー」（46.2%）も4割台後半である。競技の魅力とPRが相俟って認知度はかなり高くなったといえる。「宇都宮シクロクロス」（14.1%）も決して低過ぎるとはいえない。

会場観戦の経験となるとクリテリウム（26.6%）、ロードレース（17.5%）、オープナー（17.2%）とかなり下がり、シクロクロス（9.7%）は1割に達しなかった。それでも実際に会場に足を運ぶコアなファンが一定割合に達していることがわかる。とくにクリテリウムの場合、認知している市民の3人に1人以上が会場観戦している。

会場観戦のない市民に対し「どのような要素があればスポーツイベントに行こうと思いますか」との質問には、「駐車場など充実した交通環境」（59.7%）を挙げる市民が圧倒的に多かった（二番目は「音楽や食を楽しむ」で25.7%）。ただ「駐車場など」の「など」が微妙である。たとえばLRTの停留場からすぐにアクセスできるのも「交通環境」である。設問としては「など」の中身を具体的に記載した方がよかったのではないかな。駐車場をどんどん整備すれば良いということではないと思う。

スポーツに関する指導を行ってみたいかについて、「行いたくない」（62.2%。前年50.7%）が前年比でほぼ10ポイント上昇し、6割超となった。指導経験の有無にかかわらず、「今後も行ってみたい」についても合わせて5.5%（前年9.7%）と4ポイント以上も下降した。これはなかなか厳しい結果である。

まずは「どちらともいえない」（23.2%）層の一定割合を「今後は行ってみたい」層に引き上げたい。同時に「行いたくない」層の一定割合を「どちらともいえない」層に移行させたい。そのためには「スポーツに関する指導経験」の対象幅を広げ、たとえば組織運営面での指導を含めてもいい。

アーバンスポーツについての関心について、「観戦することに関心がある」（39.9%。前年45.0%）が「まったく関心がない」（49.2%。前年43.1%）を下回る結果となった。都市型スポーツ＝若者スポーツとのイメージが

広がっているのだろう。世代によって関心の度合いが違うのではと推察する。たとえば間口を広げたPRなど工夫すれば、高齢者が都市型スポーツに関心を持つようになる余地があると思う。

1 3. 自転車のまちづくりについて

自転車を使いやすいまちだと思うかについて、「そう思う」(7.3%)と「ややそう思う」(18.5%)を合わせても3割に届かず、「どちらとも言えない」(29.6%)と「あまりそう思わない」(25.3%)が上位に並んだ。「そうは思わない」(17.3%)もかなり高い。これは「自転車のまち」をかかげる宇都宮市としては残念な結果である。

必要な取組について、「安全に日常使いできる自転車走行空間（矢羽根、自転車レーンなど）が整備されている」(51.5%)が最上位であった。確かに矢羽根は工夫が凝らされており、ガードレールの設置などと異なり、比較的安いコストでハード面の効果をあげている。「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」(30.1%)も重要なソフト面の取組だ。

1 4. 中心市街地の活性化について

「中心市街地に住みたいと思うか」との問いに対して、最上位は「住むことは考えていない」(58.5%)だが、悲観する必要はないと思う。住むとなると希望とは別に金銭負担など多くの要素が絡んでくるからである。

中心市街地に出かける頻度について、「月1～2回程度」(35.8%。前年28.2%)が「年に数回程度」(29.6%。前年32.7%)を上回った。前年調査では逆の結果であり、今回調査は吉報に近い。

それでも手放しでは喜べない。「週1～2回程度」(11.4%。前年21.0%)が前年比でほぼ10ポイントも下がった。本来、中心市街地の良さは、ぶらっと週1～2回出かけるといった日常生活の延長に連なる魅力的な場所であるので、この層の落ち込みは痛い。

中心市街地へ出かける目的では、「買い物」(66.5%。前年52.0%)が圧倒的に多く、前年比でも大きく伸びた。購買意欲につながる魅力が向上しているのは間違いない。「飲食」(36.0%。前年29.0%)も「買い物」ほどではないとしても上昇傾向にある。

「公共施設」(市役所・図書館など)(15.0%。前年10.9%)は上昇したが、「まち歩き(散歩・散策)」(7.4%。前年10.1%)や「イベントへの参加」(5.6%。前年8.4%)は下がり、文化活動(映画鑑賞・芸術鑑賞など)(6.6%。前年5.9%)は横ばいである。

このように中心市街地へ出かける目的はまだら模様の様相を呈している。中心市街地の魅力はこうした点にあり、それでいいのではないだろうか。

「まったく出かけない」(9.1%)層に対する質問「街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか」に対して、「もっと楽しめる場所がほしい」(22.5%)と「もっとアクセスしやすくなってほしい」(20.0%)が上位に並んだ。「楽しめる」と「アクセス」の良さは、中心市街地活性化の命綱なのだろう。

1 5. 焼却ごみ削減の取組について

市民がごみ削減のため実施した取組について、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」（77.1%。前年 73.2%）が 4 ポイント以上上昇した。「徹底」はなかなかハードルが高いはずで、喜ばしい結果である。

「資源化できる紙（お菓子の箱等）の分別を徹底している」（61.9%。前年 61.3%）はほぼ横ばい、「食品ロスが発生しないよう、食品の使い切り・食べ切りに務めている」（56.9%。前年 55.2%）もほぼ横ばいであった。それでもこうした項目についての市民の取組実施率は高いといえる。市民の粘り強い継続力も伝わってくる。

「焼却ごみの削減や資源物の分別の周知方法として、有効な取組」について、「広報紙」（49.8%）がほぼ 5 割に達し、「自治会の回覧板」（44.6%）、「学校・職場での教育」（37.9%）、「パンフレットやチラシ」（37.2%）も効果的だと市民は考えている。この面での教育活動を広報紙や回覧板で紹介するなど、三つをうまくつなげることができれば効果は倍増するはずだ。

1 6. 自治会について

自治会加入の有無について、「加入している」（75.5%）が「加入していない（加入したことがない）」（15.4%）を大きく上回った。50 万人都市としての加入率は相当高いのではないだろうか。

加入したきっかけでは、「昔から入っていてきっかけはない」（52.7%）が 5 割を超え、「自らの申込み」（33.5%）が続く。「自治会長や班長からの勧め」は 18.9%であった。「自らの申込み」が予想外に高い。ただし推察だが、「自治会長や班長からの勧め」により自ら申し込んだケースもあるだろう。両者が峻別できる質問内容を工夫してほしい。

「加入していない（加入したことがない）」とした回答者にその理由を尋ねたところ、「加入を勧められていない」（39.4%）が最上位で、「単身である」（29.6%）と「加入メリットがわからない」（26.8%）が続いた。加入を勧められれば自治会に入るということだろうか。これに加えて「単身者である」から、また、「加入メリットがわからないから」加入しないというのは、あくまでも建前の理由かもしれない。

むしろ、未加入者の本音は「役員や当番が負担である」（22.5%）や「仕事等が忙しく参加ができない」（22.5%）にありそうだ。

そのことは退会した理由とも連動しているように思われる。「役員や当番が負担である」（47.5%）と「（高齢などにより）会合や清掃などの自治会活動への参加が困難」（32.5%）の割合が高いからである。役員や当番、自治会清掃活動などが面倒だと見られるのは致し方ない。それでは、どうすればいいのか。

「住みよい暮らしのため、自治会は今後どのようなになればよいと思いますか」との設問に対して、「自治会の活動を見直し（削減し）、自分たちの可能な範囲で活動する」（49.4%）が「現状維持で良い」（37.2%）を上回った。自治体関係者が相当なショックを受けるような結果である。ただ裏返せば、これは自治会活動のあり方を考える良い機会が提供されたといえるのではないだろうか。自治会活動全般にある程度の一律性を設けるのか、あるいは自分たちが決めれば多種多様であっていいのか。上記の設問と回答結果には自治会をめぐる重要な論点が含まれている。

「自治会は、今後、特にどのような活動に力を入れていくべきだと思いますか」に対する回答は、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」(36.1%)、「高齢者・障がい者等の見守りなどの福祉活動」(34.2%)、「防犯灯の設置、防犯パトロールの実施などの防犯活動」(34.0%)、さらには「防災訓練、災害時の炊き出し、体が不自由な方への避難支援などの防災活動」(29.9%)、「子どもの居場所づくりや子ども会への支援などの子育て・青少年育成活動」(27.5%)といった具合に分散化した。自治会の役割機能を取捨選択したり絞り込んだりするのには、実際にはなかなか難しいことがわかる。

自治会がやるべきことよりも、今現在、自治会は何をやっているのかについての共通認識を持つことから始めてはどうだろうか。

17. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

「環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているか」との質問に対して、「満足」(17.1%。前年 11.3%)、「やや満足」(37.0%。前年 40.2%)と前年比で満足が相当伸び、喜ばしい結果となった。

ただ、「わからない」(34.6%。前年 34.3%)は横ばい状況である。この層に改善の余地がありそうだ。行政は施策の周知に粘り強く取り組んでほしい。説明書きとして、具体的活動の事例を少しでも盛り込むと回答者の理解が進むのではないだろうか。

18. 保健と福祉のまると相談窓口エールUについて

「相談窓口エールU」の認知度は極めて低い(95.0%)。当然に次の設問である「エールUがどこに設置されているか知っていますか」に対しても、「知らない」(95.5%)がほとんどという結果となった。その流れは「エールUがどのような相談窓口であるか知っていますか」に対する回答(「知らない」が95.0%)となった。

エールUの市民への認知度が低い今回の結果を受けて、行政はどのような見直しを図るか注目したい。

19. 健康づくりについて

「主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度」について、「ほぼ毎日」(55.2%)がトップで、大きく離れて「週に4～5日」(19.0%)が続いた。5割台半ばが模範を示すかのように実践している。

「がん検診を受診する間隔」について、「毎年受診している」(34.4%)と「受診していない」(33.5%)が拮抗する結果となった。何らかの形で受診している市民は合計で65.8%(前年64.5%)と前年とほぼ変わらなかった。

そのうち直近のがん検診の受診先では、「市の受診券を利用して受ける個別検診(医療機関で実施している検診)」(28.3%。前年34.9%)がトップで、「市の受診券を利用して受ける集団検診(保健センターや地区市民センターで実施している検診)」(23.7%。前年18.8%)、「職場の検診」(22.7%。前年21.1%)が続いた。前回と同様な指摘となるが、市(行政)や職場(勤務先)といったように他者の力を借りる形での受診は、健康をめぐるセーフティーネット機能の活用であり、今後とも安定的な充実の継続が望まれる。

「歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院」の有無について、「ある」(78.1%)が「ない」(21.6%)を大きく上回った。「かかりつけ」は市民にとって心強い存在だ。この割合を継続してほしい。

20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

「結婚している」(63.1%。前年 66.9%。前々年 66.0%)以外で、現段階において「結婚していない」(結婚経験者と合わせて 36.0%。前年 32.1%。前々年 31.7%)とした回答者に対して、結婚するつもりがあるか聞いたところ、「いずれ結婚するつもり」(22.6%。前年 30.0%。前々年 30.1%)、「結婚するつもりはない」(71.3%。前年 60.0%。前々年 65.9%)という結果となった。

経年変化が見られるのは、結婚率が減り、するつもり率が減り、つもりなしが増えるという深刻な傾向がはっきりした。もちろん結婚をめぐる是非論ではないし、正しいだとか間違っているだとかの解はない。

行政は結婚後の出産とその人数を見据えており、この点からすれば、結婚している場合に持ちたい子どもの数は「2人」(51.6%。前年 54.6%。前々年 58.6%)となり、この点でも低下傾向にある。大きく差が開く形で「3人」(16.4%。前年 22.9%。前々年 18.0%)が続くが、下降傾向にある。「1人」(16.0%。前年 12.2%。前々年 12.5%)が増加傾向にある。

結婚率やその希望率が下がり、結婚した場合に希望する子どもの数も減る傾向がはっきりした。転入者による出産というケースもあるが、出産減に歯止めが掛からなくなると、人口減少対策の面からは深刻な課題が突き付けられたことになる。

結婚予定者(結婚するつもり)の市民に対して持ちたい子どもの数を聞いたところ、「2人」(48.6%。前年 51.3%。前々年 43.2%)が最も高い割合であった。「1人」(18.9%。前年 7.7%。前々年 16.2%)が「3人」(13.5%。前年 10.3%。前々年 18.9%)を上回った。

結婚している市民と結婚するつもりの方では、持ちたい子どもの数のトップは「2人」だが、それ以外となると前者の場合、「1人」と「3人」にはほとんど差がなく、後者の場合、「1人」の方が「3人」よりも多い(ほぼ5ポイントの差)。

結婚している場合、「子どもはほしくない」は僅か4.9%だが、結婚予定者の場合、18.9%に達している。両者の乖離をどう考えればいいのか。少子化対策とはいってもなかなか一筋縄ではいかない。

21. 「SDGs」について

SDGsについての認知度は、「全く知らない」(11.0%。前年 13.8%。前々年 14.7%)が低下傾向にある。ただ、「内容を詳しく知っている」(9.7%。前年 11.3%。前々年 15.7%)も減っている。そのうちの実践派(4.0%。前年 4.9%。前々年 8.2%)は前々年比でほぼ半分の割合となった。

ただ、「内容をある程度知っている」実践派(29.2%。前年 25.9%。前々年 29.1%)は横ばい傾向にある。実践派の合計(33.2%。前年 30.8%。前々年 37.3%)についても同様である。とくにSDGsについては認知と実践が連動する点に価値があり、政策の推進力にもなる。認知派と実践派との乖離が埋まることが重要である。

日頃の実践内容について、「水をだしっぱなしにしないようにしている」(69.0%。前年 73.6%。前々年 67.8%)が下降したため、僅かな差ではあるが、「買い物をするときはマイバッグを使っている」(69.7%。前年 72.1%。前々年 72.7%)が最上位となった。「電気を使わないときはこまめに消灯している」(64.2%。前年 68.9%。前々

年 66.5%) もやや低下した。設問項目からも SDG s の実践対象は身近にいろいろある。言い換えれば実践率を上げる素材に事欠かないということなので、まずはできるところから着手していきたいものだ。

SDG s のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野について、「すべての人に健康と福祉を」(44.4%。前年 45.9%。前々年 48.7%) と「住み続けられるまちづくりを」(43.5%。前年 41.2%。前々年 43.3%) が最上位であった。いずれも若干ではあるが、前者は低下傾向、後者は上昇傾向にある。

「貧困をなくそう」(33.0%。前年 34.8%。前々年 40.2%) も 3 割台をキープした。SDG s の場合、積極的に取り組みたいと思わせる項目が多岐にわたっていて、その気になれば複数の掛け持ち行動ができるのが強みである。

2.2. 生涯学習について

生涯学習としての学習、文化・スポーツ活動等について、「している」(41.1%。前年 38.5%) と「していない」(57.1%。前年 60.5%) との差が前年よりも若干縮まった。両者の割合の逆転が理想なのかもしれないが、市民の 4 割以上が実践しているというのは、まさに「学べば愉快だ宇都宮」を掲げてきた結果ではないだろうか。市民の学ぶ意欲は決して低くない。前回と同様の指摘となるが、「していない」とした回答者のうちの一定割合は「やってみたい」という意識を持っているし、実践派に転ずる敷居も決して高くないはずだ。

2.3. 火葬により生じる残骨灰の取り扱いについて

残骨灰の中に歯の治療等に用いられた金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることの認知度について、詳しいかどうかはともかく、「知っていた」(56.3%) が「知らなかった」(43.3%) を上回った。

しかし、さすがに「残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があること」については、「知らなかった」(81.8%) が 8 割を超えた。設問自体が回答者の認識を深める役割を果たしている。

「残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てること」について、賛成派が 7 割台後半となった(「賛成」48.4%。「どちらかという」と賛成)29.0%)。死者が身に付けていた有価物を有効に使わせてもらう方途として、「火葬場などの財源」に充てることの共通理解がほぼあるといえそうだ。

2.4. 地域共生社会について

地域共生社会について、「知らない」(34.1%) が「意味も含めて知っている」(23.1%) を 10 ポイント以上上回ったものの、悲観する必要はない。「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(42.0%) が 4 割超であり、この層が「意味も含めて知っている」に移行するハードルは高くないと思われるからである。

どのようにして地域共生社会を知ったかについて、「広報紙」(30.4%) と「テレビ」(25.3%) が上位で、「新聞」(17.2%) が続いた。地域共生社会を知るルートは、たとえば「クチコミ」などいろいろあっていい。

25. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度について、「知っている」(49.7%。前年 48.6%。前々年 41.8%) が僅かだが上昇した。「知らない」(49.9%。前年 50.2%。前々年 57.2%) がかろうじて 5 割を下回った。確かに、認知度が上がることが大谷石の魅力をさらに発信していくためには不可欠だろうが、この種の認知度の結果に慌てる必要はなく、長期的さらには歴史的視点から、即効性を期待せずじつくりと着実に上げていくことが大切である。

「大谷石文化」を誇りに感じるかについて、「感じる」(39.1%。前年 32.6%。前々年 33.1%) が前年比で 7 ポイント近く上昇した。「やや感じる」(31.4%。前年 35.0%。前々年 34.1%) から「感じる」への移行が窺われる。

「あまり感じない」(16.9%) であっても、ここから「やや感じる」へ、さらには「感じる」へと至る道筋がはっきりと開けたようにも思われる。

26. 選挙の投票率向上に向けた取組について

最近の選挙で投票に行っているかについて、「毎回行っている」(42.9%。前年 45.0%) と「ほとんど行っている」(21.2%。前年 23.0%) が合計で 64.1%と 6 割後半に届かなかった。前年が 68.0%なので、ほぼ 5 ポイント低下した。選挙離れがじわじわと進んでいる。

連動するかのように「ほとんど行ったことがない」(10.8%。前年 9.4%) と「行ったことがない」(5.4%。前年 4.7%) についても、合わせると 16.2%で少しずつ着実に増える傾向にある。

最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているのかについて、「テレビやニュース」(68.4%) が最上位で、「新聞やチラシ」(42.4%) が続いた。メディアからの情報発信がやはり大きい。ただ、「演説や選挙カー」(24.9%) で直接的に知る機会もある。「SNS (X (旧 Twitter), Instagram 等)」(8.0%) が 1 割にも届いていないのは意外であった。公的な周知発信の機能としてはまだまだ脆弱なのかもしれない。裏を返せば、行政の注力によって認知の割合を上昇させる余地があるということだろう。

宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由について、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」(56.1%。前年 53.7%) が今回調査でも圧倒的に高い割合となった。議員、議会、政治に対する期待感が持てないという意識の現れであろう。「何も変わらない」という意識を変えるにはどうすればいいのだろうか。今やこのことが積年の課題となっている。

投票環境の充実を図るために必要な取組について、「候補者や政党の情報を増やす」(37.4%。前年 33.7%) が最も高い割合となった。正論の最たるものだが、一口に「情報を増やす」とはいっても、情報過多と受け止める有権者も実際には多いのではないだろうか。情報提供手段や内容など検討すべき課題は多いと思われる。前回と同じ指摘となるが、質的にも量的にも適正な投票PR情報をどう有権者に届けられればいいのか。SNSなどを使ったさらなる工夫に加えて、その内容のあり方について重い課題が突き付けられた。

投票制度のわかりやすい情報発信(14.7%。前年 11.6%)と身近な場所への投票所の設置(12.6%。前年 11.1%)は、前年比で上昇傾向にある。ただわかりやすい情報発信はともかく、投票所の新たな設置の実現はなかなか難しいであろう。また、「身近な場所」がどこなのか有権者による認識が異なるからである。

期日前投票所の増加(9.7%。前年 11.4%)については、前年比で見れば既に一定の到達点に達したということだろうか。

27. 「もったいない運動」について

「もったいない運動」の認知度について、実践の有無にかかわらず認知している市民が 44.2%（「内容を知っており、実践している」27.7%。「内容を知っているが、実践はしていない」16.5%）で、「知らない」（54.5%）を 10 ポイントも下回った。

この運動は長期にわたって行政が市民に訴え続け、市民側も呼応して定着・浸透したとばかり思っていたが、まだまだ認知されているとは言い難い結果となった。近年は確かにトーンが少し下がったような印象もあるが、それでも声高に強調し続けないと、市民の認識は離れていってしまうものなのだろうか。

「もったいない運動」を知った経緯について、「今回の調査で初めて知った」（48.5%。前年 49.8%。前々年 40.8%）が最も高かった。行政には市民への世代を超えた働きかけが必要だということだろうか。

「広報紙」（18.8%。前年 21.8%。前々年 25.8%）について、下降傾向がはっきりした。続いたのが「もったいない運動の配布物（チラシ、シール、日めくりカレンダー、マイ箸、マイバッグ等）」（11.0%。前年 15.6%。前々年 26.1%）であり、今後は原点に戻ってこの項目に力点を置いたらどうだろうか。

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動（マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等）」（59.1%。前年 63.6%。前々年 67.2%）が経年変化で下降傾向にあることがはっきりした。6 割を下回ったことは、実践力の弱化を示している。

「節電・省エネルギー行動（電気をこまめに消す、冷暖房の温度設定、省エネ家電の使用等）」（58.2%。前年 70.5%。前々年 64.6%）についても同様な傾向だ。行政は危機感を持って受け止めてほしい。「食品ロスの削減に向けた行動（食材の 10 割食べきり、使い切り、賞味・消費期限をこまめにチェックする等）」（46.1%。前年 54.7%。前々年 52.5%）も同じ傾向にある。

市民の間でごみ減量行動は定着傾向にあり、節電・省エネルギー行動はまだまだ伸びしろがあると受け止めていたが、こうした捉え方を変えなければいけないかもしれない。

28. 男女共同参画について

家事・育児・介護それぞれに費やした時間について、家事の場合、「7 時間以上 21 時間未満」（45.5%。前年 47.3%。前々年 43.9%）の割合が高く、経年変化としては横ばい状況にある。育児の場合、「7 時間以上 21 時間未満」（5.8%。前年 6.7%。前々年 5.9%）が他項目との比較で最も高かったものの、同様に横ばい傾向が明らかとなった。

また、介護の場合は、「7 時間以上 21 時間未満」（2.6%。前年 5.4%。前々年 2.6%）が前々年比とほぼ同じで、「0 時間以上 7 時間未満」（6.1%。前年 5.2%。前々年 4.7%）の場合は前々年から若干ではあるが上昇傾向にある。介護に割く時間は今後どのように変化していくのであろうか。

社会的活動の実施状況について、「特になし」（64.9%）を除けば、「自治会やまちづくりなどの地域活動」（20.8%。前年 21.8%。前々年 18.9%）が最上位であった。「文化、スポーツなどのグループ活動」（9.7%。前年 9.4%。前々年 9.6%）は横ばい傾向にあり、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」（6.3%。前年 6.7%。前々年 9.0%）も前年比では同様であった。

過去 1 年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、今回調査でも「精神的な暴力」（「1, 2 度あった」と「何度もあった」の合計）（5.2%。前年 7.7%。前々年 7.5%）が、他の項目よりも比較的高い割合となったものの、前年比で低下傾向となった。「身体的な暴力」（2.1%。前年 3.7%。前々年 3.1%）も低下傾向にあり、

精神的・身体的な暴力が改善する兆候が見られた。

このことは「経済的な暴力」(1.5%。前年 2.2%。前々年 3.4%)や「性的な暴力」(0.6%。前年 0.9%。前々年 1.8%)についても当てはまる。

また、いずれの項目でも「無回答」が、今回ほぼ 3 割弱となった(「身体的な暴力」27.3%。前年 24.5%。前々年 19.1%。「精神的な暴力」28.1%。前年 25.2%。前々年 19.4%。「経済的な暴力」28.8%。前年 25.2%。前々年 20.2%)。「無回答」に共通しているのはいずれも上昇傾向にあることだ。実態としては「隠れた形での〇〇的暴力」があるのではと懸念される。無回答として理由を問う設問を用意した方がいいように思われる。

LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度について、「言葉も内容も知っている」(48.1%。前年 54.2%。前々年 68.2%)が明らかに下降している。前々年比で 20 ポイントもの低下は深刻レベルに達しているのではないだろうか。前々年調査ではQの記載はなかったことも影響しただろうが、認知度の高さは当事者をめぐる社会活動に直結すると思われるだけに心配である。連動するかのように、「全く知らない」(10.4%。前年 8.4%。前々年 4.9%)が上昇傾向にある点も気掛かりだ。

29. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

安心して暮らすことができているかとの問いに対して、「そう思う」(24.9%。前年 29.7%。前々年 21.4%)が前年比で 4.8 ポイント低下し、「どちらかといえばそう思う」(63.9%。前年 59.4%。前々年 67.4%)が前年比で上昇した。「どちらかといえば」を含めれば、全体としては 9 割近くの市民が「そう思う」と回答したことを心強く受け止めた。それでも、「そう思う」と「どちらかといえば」が拮抗するぐらいを目指したい。安全と安心を断言できる市民の割合はコミュニティの底力につながるからである。

自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況について、着用派が増える傾向にある(8.0%。前年 6.9%。前々年 4.1%)。一方で、着用に踏み出せない市民も多いのではないだろうか。「普段自転車に乗るが保有していない」(15.4%。前年 20.5%。前々年 22.5%)市民が減少傾向にあるだけに、ヘルメット保有者が着用派に転じる余地は大きいはずだ。行政はまず「ヘルメットを保有しているが着用していない」(5.4%。前年 4.5%。前々年 3.9%)に働きかけてはどうだろうか。自転車から降りた際などの安心なヘルメット保管の仕方など、工夫した仕掛けを打ち出してほしい。

自転車保険の加入状況について、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」(54.1%。前年 54.0%)を除けば、保険加入者(33.1%)は未加入者(7.1%)よりも圧倒的に高い割合である。

前回と同様な指摘となるが、保険に入っていればそれですべて安全が確保されるというわけではない。さらに、保険加入が乱暴な自転車運転の歯止めとなるとも限らないであろう。それでも自転車利用者の中で保険加入がほぼ前提となっているのは、好ましい状況だといえる。行政には粘り強い取り組みの継続を期待したい。

30. デジタル化について

デジタル機器の所有状況について、「スマートフォン」(83.1%)が圧倒的に多く、30 ポイント以上の差で「パソコン」(50.9%)と「固定電話」(48.1%)が続く結果となった。

インターネットについて、「利用している」(72.5%)が 7 割超となったが、「利用していない」(26.8%)市民もほぼ 4 人に 1 人いることがわかる。この中には利用したい気持ちがあるのに、ネット環境、費用、操作など

の点で利用をあきらめている市民が相当いるのではないか。今やネット環境は行政にとっても公的情報基盤となっている。その意味で希望者にはネット環境の整備も含めて何らかの支援措置をもっと検討してもいいのではないだろうか。

また、利用しない理由を尋ねたところ、「機器の操作方法等がわからない」(59.7%)の割合が最も高かった。もちろん「必要性を感じない」(41.9%)や「興味がない」(19.4%)市民に対して使用を無理強いしてはいけないだろう。

しかし、使用を希望しているにもかかわらず、それが実現しないのは、他の設問にあるように、操作方法以外にも通信機器や通信料金の高さ、さらには個人情報流出など複合的な要因が絡んでいる。こうしたことをすべて個人責任に帰着させずに、スマホ・パソコン操作教室の拡充や使用をめぐる留意点をわかりやすく説明書きするなど、行政が打てる手はいろいろあるはずで、市民に対するこうした公的アプローチの強化を望みたい。

VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

VI 宇都宮市の取組についての意識調査の結果

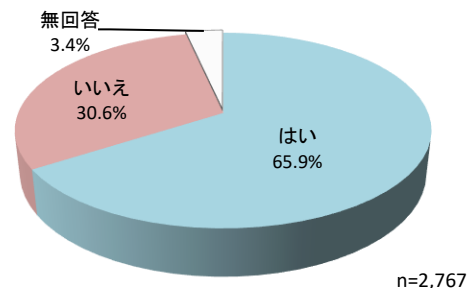
1. あなたのことについて

(1-1) 結婚について

問 1-1(1) あなたは、現在、結婚していますか。

n=2,767

	回答数	構成比
はい	1,824	65.9%
いいえ	848	30.6%
無回答	95	3.4%
計	2,767	100.0%



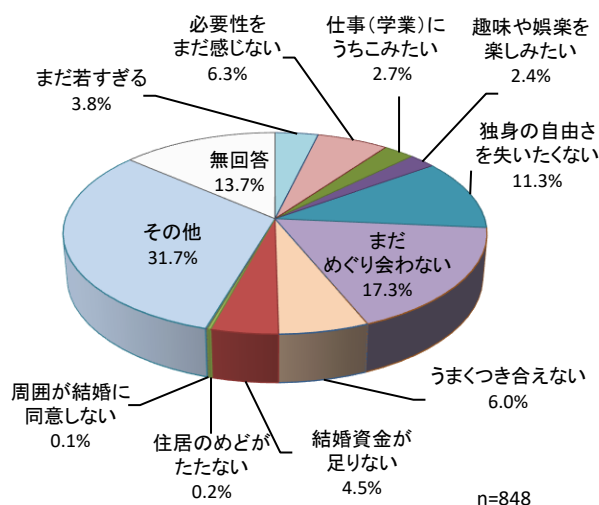
現在、結婚しているかについては、「はい」が6割半ば、「いいえ」が約3割であった。

(1-2) 結婚していない理由について

問 1-1(2) あなたが結婚していない最も大きな理由は何ですか。

n=848

	回答数	構成比
結婚するにはまだ若すぎる	32	3.8%
結婚する必要性をまだ感じない	53	6.3%
今は、仕事(または学業)にうちこみたい	23	2.7%
今は、趣味や娯楽を楽しみたい	20	2.4%
独身の自由さや気楽さを失いたくない	96	11.3%
適当な相手にまだめぐり会わない	147	17.3%
異性とうまくつき合えない	51	6.0%
結婚資金が足りない	38	4.5%
結婚生活のための住居のめどがたたない	2	0.2%
親や周囲が結婚に同意しない(だろう)	1	0.1%
その他	269	31.7%
無回答	116	13.7%
計	848	100.0%

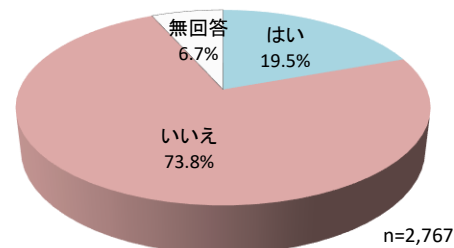


前問で「いいえ」と答えた人(848人)の、結婚していない最も大きな理由については、「その他」を除くと「適当な相手にまだめぐり会わない」が17.3%で最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくない」が11.3%であった。

(2-1) 子育ての関わりについて

問 1-2(1) あなたは、現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがありますか。 n=2,767

	回答数	構成比
はい	539	19.5%
いいえ	2,043	73.8%
無回答	185	6.7%
計	2,767	100.0%

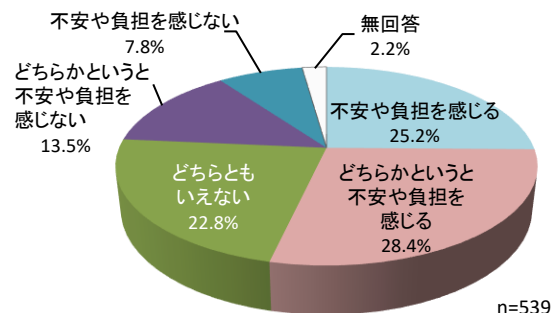


現在、小学生まで（12歳以下）のお子さんの子育てに関わりがあるかについては、「いいえ」が7割半ば、「はい」が約2割であった。

(2-2) 子育てに関して不安感や負担感を感じるかどうかについて

問 1-2(2) あなたは、子育てに関して不安感や負担感を感じることはありますか。 n=539

	回答数	構成比
不安や負担を感じる	136	25.2%
どちらかという不安や負担を感じる	153	28.4%
どちらともいえない	123	22.8%
どちらかという不安や負担を感じない	73	13.5%
不安や負担を感じない	42	7.8%
無回答	12	2.2%
計	539	100.0%

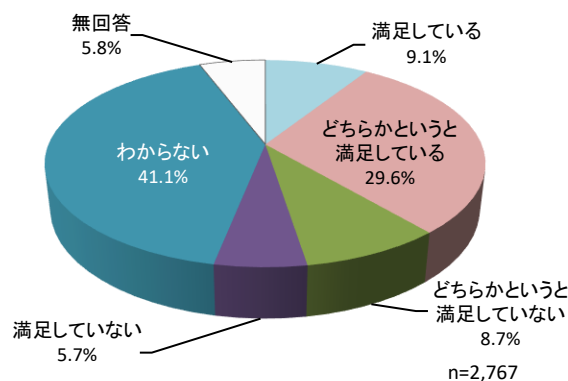


前問で「はい」と答えた人（539人）に、子育てに関して不安感や負担感を感じるかどうかについて聞いたところ、「どちらかという不安や負担を感じる」が28.4%で最も高く、「不安や負担を感じる」の25.2%を合わせると、不安や負担を感じている人は5割半ばであった。

(3) 学習や活動を行う機会や生涯学習センターや図書館などの学習環境について

問 1-3 あなたは、学習や活動を行う機会、生涯学習センター、図書館などの学習環境に満足していますか。 n=2,767

	回答数	構成比
満足している	251	9.1%
どちらかという満足している	820	29.6%
どちらかという満足していない	242	8.7%
満足していない	157	5.7%
わからない	1,137	41.1%
無回答	160	5.8%
計	2,767	100.0%



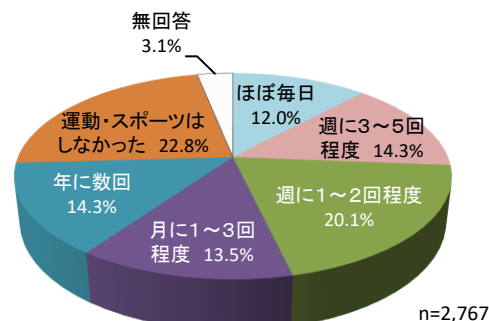
学習や活動を行う機会、生涯学習センター、図書館などの学習環境に満足しているかについては、「わからない」が41.1%で最も高く、次いで「どちらかという満足している」が29.6%であった。

(4) 運動やスポーツの活動状況について

問 1-4 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で運動・スポーツを行いましたか。複数の運動・スポーツを行っている場合は、合計の回数でお答えください。

n=2,767

	回答数	構成比
ほぼ毎日	331	12.0%
週に3～5回程度	395	14.3%
週に1～2回程度	556	20.1%
月に1～3回程度	373	13.5%
年に数回	395	14.3%
運動・スポーツはしなかった	630	22.8%
無回答	87	3.1%
計	2,767	100.0%



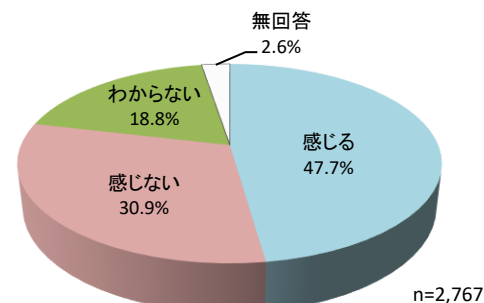
この1年間にどのくらいの頻度で運動・スポーツを行ったかについては、「週に1～2回程度」が20.1%で最も高く、「ほぼ毎日」、「週に3～5回程度」と合わせると、週1回以上運動・スポーツを行った人は4割半ばで、運動やスポーツに対する意識は高い傾向にある。一方、「運動・スポーツはしなかった」は22.8%であった。

(5) 地域の中での「絆」や「つながり」について

問 1-5 地域の中で「絆」や「つながり」を感じますか。

n=2,767

	回答数	構成比
感じる	1,321	47.7%
感じない	856	30.9%
わからない	519	18.8%
無回答	71	2.6%
計	2,767	100.0%



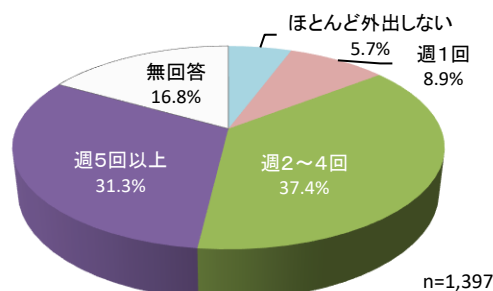
地域の中で「絆」や「つながり」を感じるかについては、「感じる」が47.7%で最も高く、「感じない」は30.9%であった。

(6) 65歳以上の方の外出状況について

問 1-6 65歳以上の方にお伺いします。あなたは週に何回くらい外出していますか。

n=1,397

	回答数	構成比
ほとんど外出しない	79	5.7%
週1回	124	8.9%
週2～4回	522	37.4%
週5回以上	437	31.3%
無回答	235	16.8%
計	1,397	100.0%

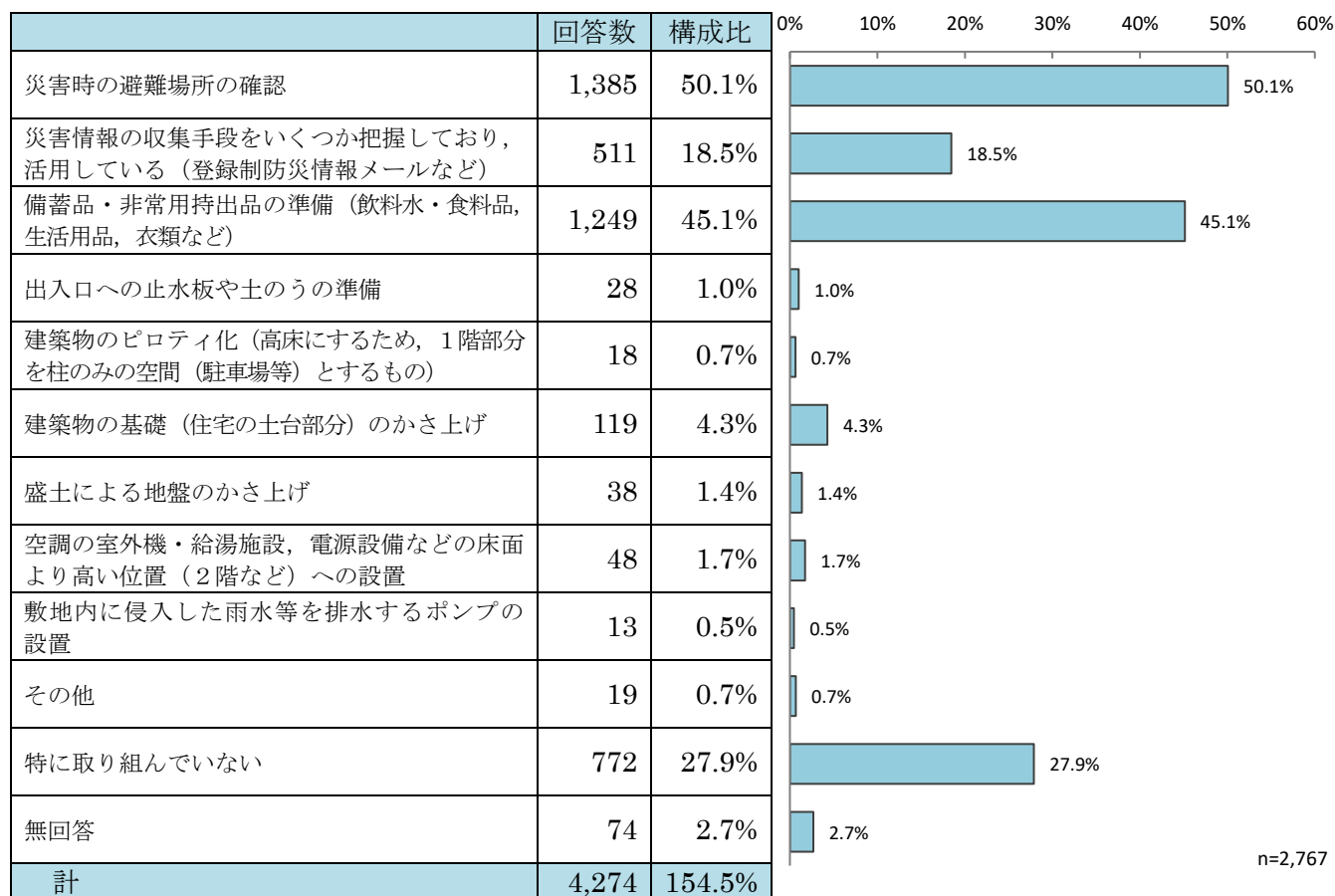


65歳以上の方に、週に何回くらい外出しているかについて聞いたところ、「週2～4回」が37.4%で最も高く、「週1回」、「週5回以上」を合わせた、週1回以上外出している人は8割弱であった。

(7-1) 災害を想定した備えについて

問 1-7(1) あなたは、災害を想定して、以下の備えに取り組んでいますか。

n=2,767

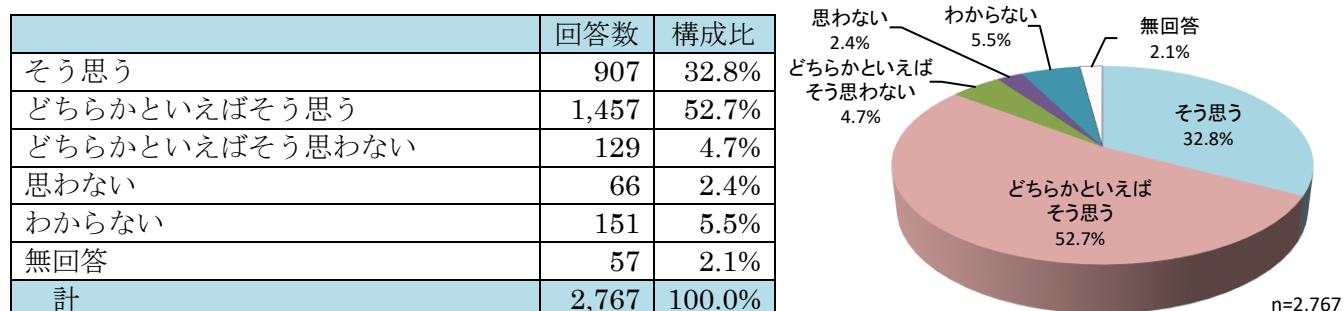


災害を想定しての備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が 50.1%で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備」が 45.1%、「特に取り組んでいない」が 27.9%と続いた。

(7-2) 安心した生活が送れているかについて

問 1-7(2) 日ごろから、戸締りなどの防犯や交通安全、詐欺に気を付けた消費生活（買い物）、食材の保存などの食品安全、ペットの正しい飼い方などの生活衛生に気を配り、安心した生活が送れていると感じていますか。

n=2,767



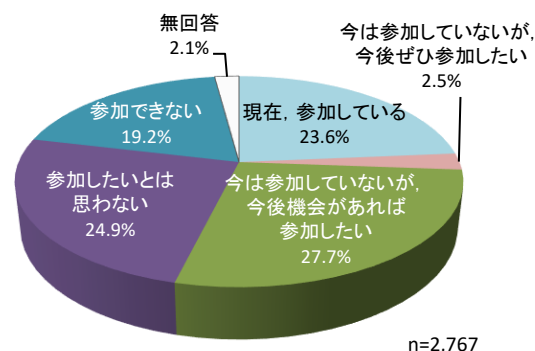
安心した生活が送れているかについては、「どちらかといえばそう思う」が 52.7%で最も高く、「そう思う」の 32.8%と合わせると 8 割半ばであった。一方、「どちらかといえばそう思わない」、「思わない」を合わせると 1 割弱であった。

(8) まちづくり活動の参加状況について

問 1-8 あなたの「まちづくり活動」の参加状況について教えてください。

n=2,767

	回答数	構成比
現在、参加している	654	23.6%
今は参加していないが、今後ぜひ参加したい	70	2.5%
今は参加していないが、今後機会があれば参加したい	766	27.7%
参加したいとは思わない	688	24.9%
参加できない	531	19.2%
無回答	58	2.1%
計	2,767	100.0%



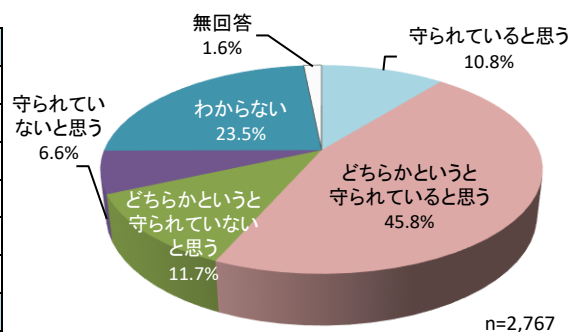
まちづくり活動の参加状況については、「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が 27.7% で最も高く、次いで「参加したいとは思わない」が 24.9% であった。

(9) 一人一人の権利が守られているかについて

問 1-9 あなたは、子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じていますか。

n=2,767

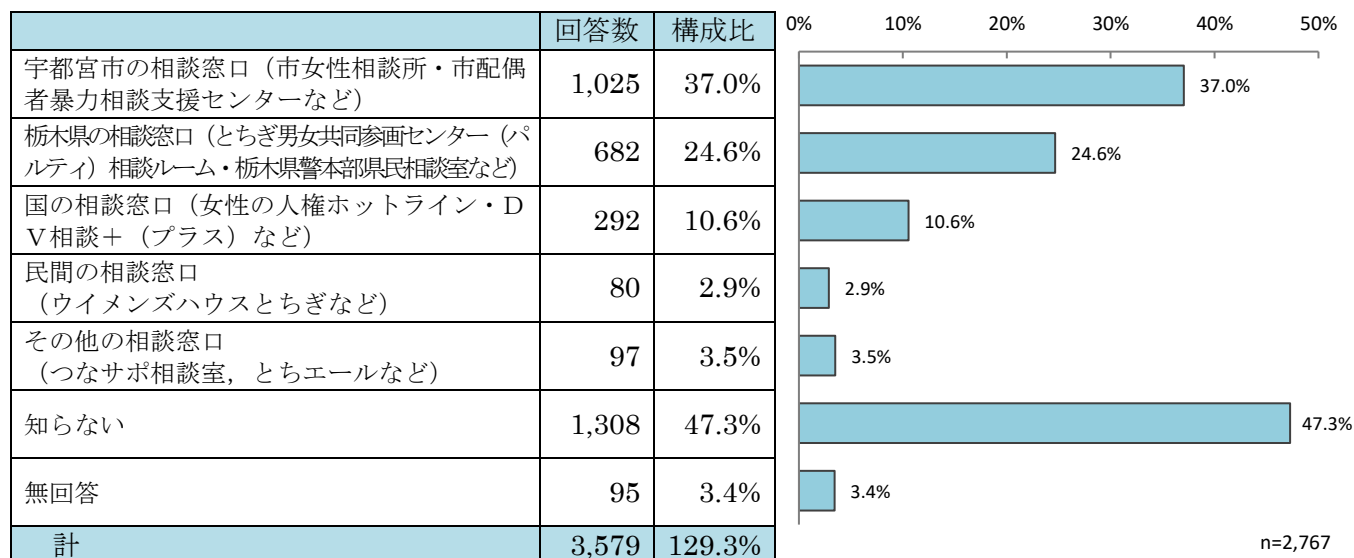
	回答数	構成比
守られていると思う	299	10.8%
どちらかというと守られていると思う	1,268	45.8%
どちらかというと守られていないと思う	324	11.7%
守られていないと思う	182	6.6%
わからない	651	23.5%
無回答	43	1.6%
計	2,767	100.0%



子どもから高齢者まで、一人一人の権利が守られていると感じているかについては、「どちらかというと守られていると思う」の 45.8% と「守られていると思う」の 10.8% を合わせると 6 割弱であった。一方、「どちらかというと守られていないと思う」、「守られていないと思う」を合わせると 2 割弱であった。

(10) 女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口の認知度について

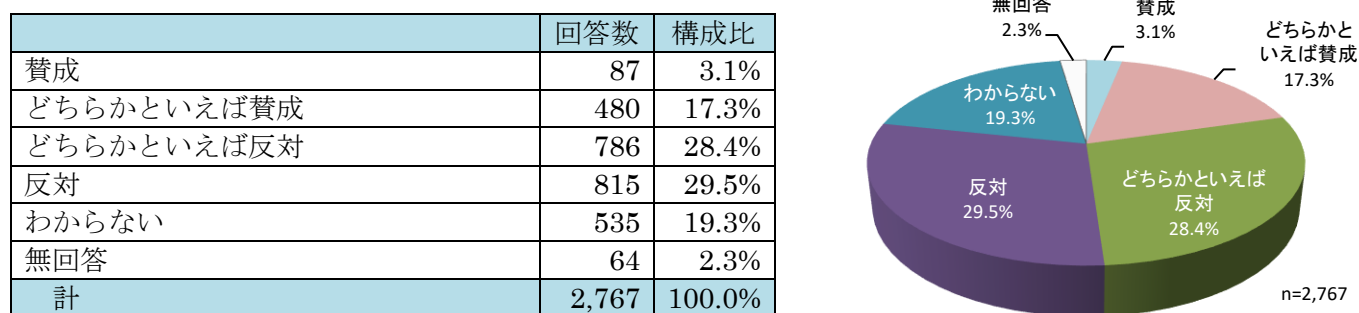
問 1-10 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口を知っていますか。
n=2,767



女性に対する暴力や様々な悩みなどについて相談できる窓口を知っているかについては、「知らない」が47.3%で最も高く、次いで「宇都宮市の相談窓口（市女性相談所・市配偶者暴力相談支援センターなど）」が37.0%、「栃木県の相談窓口（とちぎ男女共同参画センター（パルティ）相談ルーム・栃木県警本部県民相談室など）」が24.6%と続いた。

(11) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問 1-11 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
n=2,767

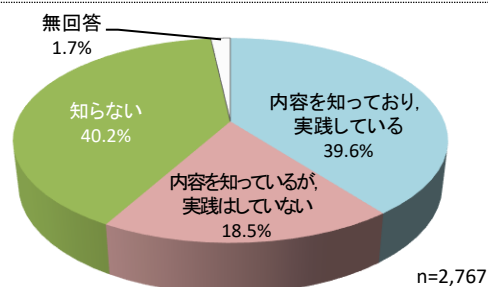


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、「反対」が29.5%で最も高く、「どちらかといえば反対」の28.4%と合わせると6割弱であった。一方、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると約2割であった。

(12) 「もったいない運動」について

問 1-12 あなたは、宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っていますか。 n=2,767

	回答数	構成比
内容を知っており、実践している	1,095	39.6%
内容を知っているが、実践はしていない	513	18.5%
知らない	1,111	40.2%
無回答	48	1.7%
計	2,767	100.0%

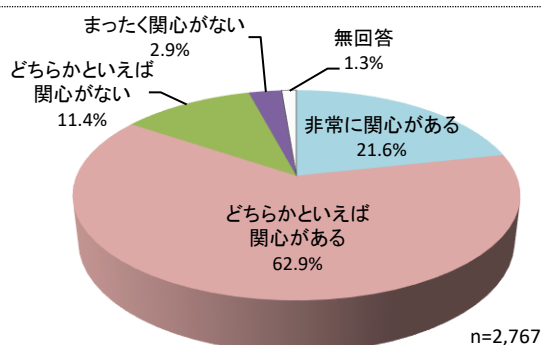


宇都宮市で取り組んでいる「もったいない運動」を知っているかについては、「知らない」が40.2%で最も高かった。一方、「内容を知っており、実践している」が39.6%と僅差で2番目に入り「内容を知っているが、実践はしていない」の18.5%を合わせると6割弱であった。

(13) 自然環境について

問 1-13 あなたは、自然環境について関心がありますか。 n=2,767

	回答数	構成比
非常に関心がある	597	21.6%
どちらかといえば関心がある	1,740	62.9%
どちらかといえば関心がない	316	11.4%
まったく関心がない	79	2.9%
無回答	35	1.3%
計	2,767	100.0%

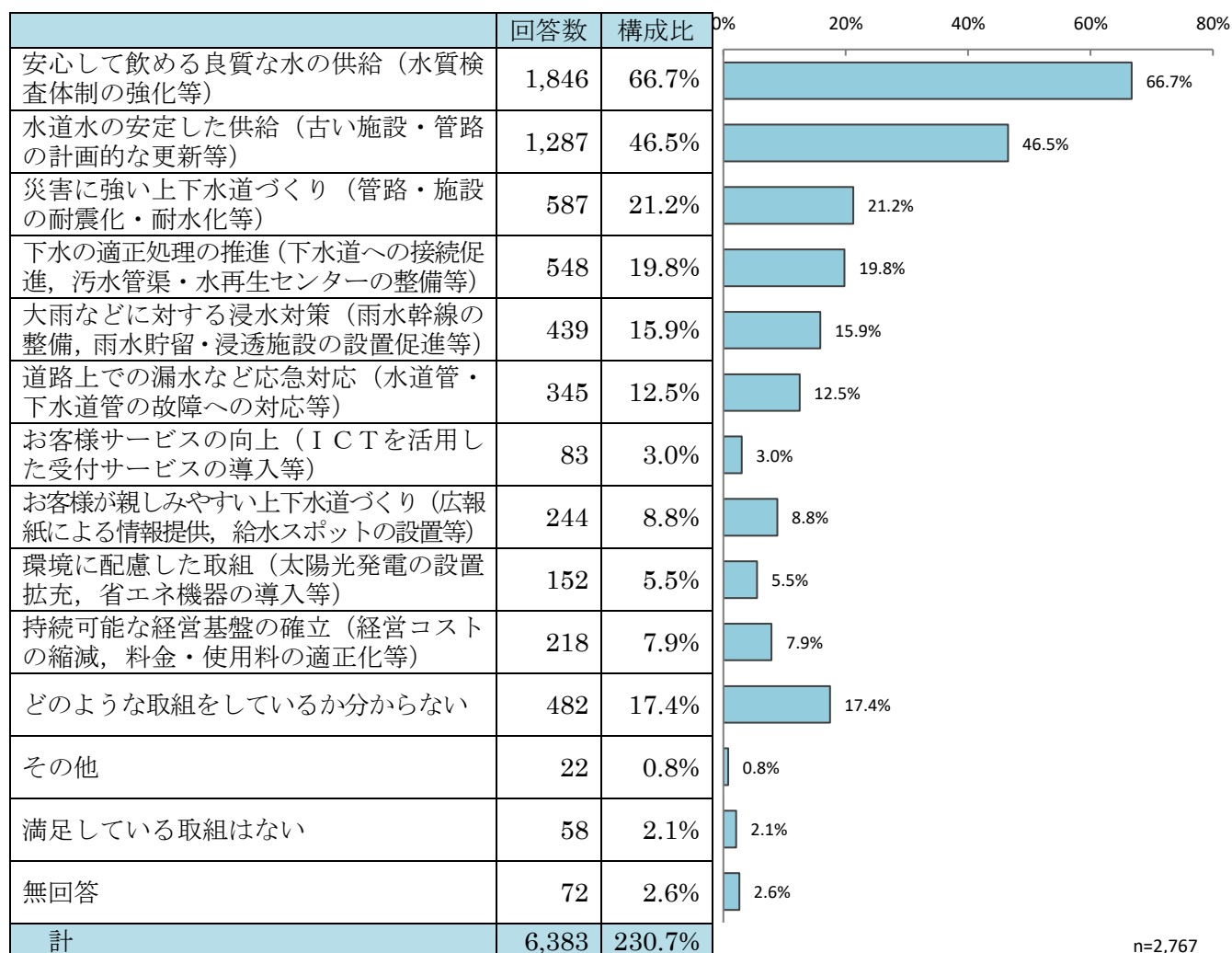


自然環境について関心があるかについては、「どちらかといえば関心がある」が62.9%で最も高く、「非常に関心がある」の21.6%を合わせると8割半ばであった。一方、「どちらかといえば関心がない」、「まったく関心がない」を合わせると1割半ばであった。

(14) 上下水道事業の取組について

問 1-14 あなたは、上下水道事業のどのような取組に満足していますか。

n=2,767

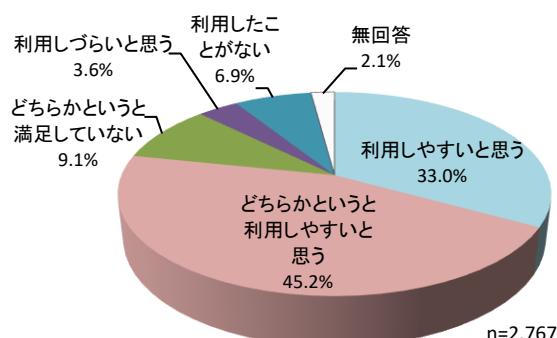


上下水道事業のどのような取組に満足しているかについては、「安心して飲める良質な水の供給（水質検査体制の強化等）」が 66.7%で最も高く、次いで「水道水の安定した供給（古い施設・管路の計画的な更新等）」が 46.5%、「災害に強い上下水道づくり（管路・施設の耐震化・耐水化等）」が 21.2%と続いた。

(15) 地域行政機関を利用しやすいと感じているかについて

問 1-15 あなたは、地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じていますか。
n=2,767

	回答数	構成比
利用しやすいと思う	914	33.0%
どちらかという利用しやすいと思う	1,251	45.2%
どちらかという利用しづらいと思う	253	9.1%
利用しづらいと思う	100	3.6%
利用したことがない	191	6.9%
無回答	58	2.1%
計	2,767	100.0%

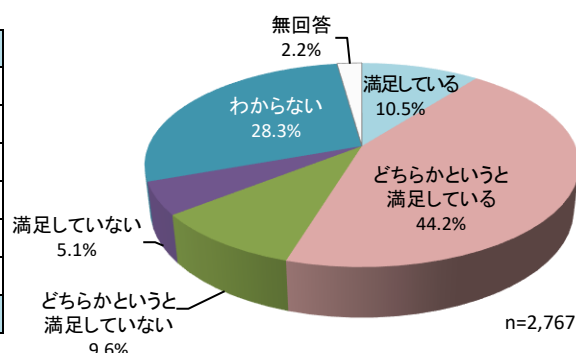


地区市民センターや出張所などの地域行政機関を利用しやすいと感じているかについては、「どちらかという利用しやすいと思う」が 45.2%で最も高く、「利用しやすいと思う」の 33.0%を合わせると 8 割弱であった。

(16) 市が提供するサービスの内容や手段に満足しているかについて

問 1-16 市が提供するサービスの内容や手段に満足していますか。
n=2,767

	回答数	構成比
満足している	291	10.5%
どちらかという満足している	1,223	44.2%
どちらかという満足していない	267	9.6%
満足していない	142	5.1%
わからない	783	28.3%
無回答	61	2.2%
計	2,767	100.0%

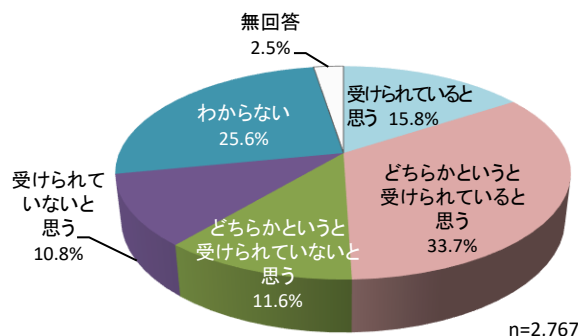


市が提供するサービスの内容や手段に満足しているかについては、「どちらかという満足している」が 44.2%で最も高く、「満足している」の 10.5%を合わせると 5 割半ばであった。

(17) デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じているかについて

問 1-17 あなたは、日々の暮らしの中で、身近な人（親など）も含め、それぞれのニーズにあったデジタルサービスを利用し、デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じますか。
n=2,767

	回答	構成比
受けられていると思う	437	15.8%
どちらかという受けられていると思う	933	33.7%
どちらかという受けられていないと思う	321	11.6%
受けられていないと思う	298	10.8%
わからない	708	25.6%
無回答	70	2.5%
計	2,767	100.0%



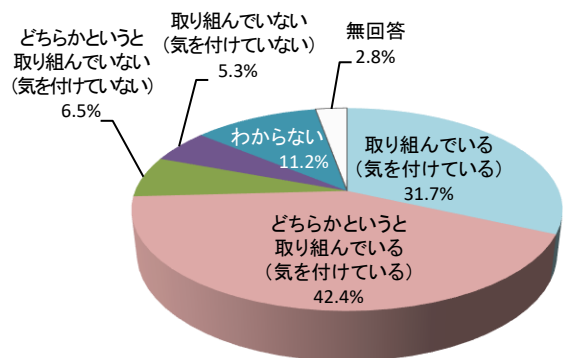
日々の暮らしの中で、身近な人（親など）も含め、それぞれのニーズにあったデジタルサービスを利用し、デジタルの恩恵を受けられている（便利である）と感じるかについては、「どちらかという受けられていると思う」が 33.7%で最も高く、「受けられていると思う」の 15.8%を合わせると約 5 割であった。

(18) 情報セキュリティ対策や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいるかについて

問 1-18 あなたは、スマートフォンなどを利用するに当たり、情報セキュリティ対策（ウイルス対策ソフトの利用など）や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいますか。

n=2,767

	回答数	構成比
取り組んでいる（気を付けている）	878	31.7%
どちらかというに取り組んでいる（気を付けている）	1,173	42.4%
どちらかというに取り組んでいない（気を付けていない）	181	6.5%
取り組んでいない（気を付けていない）	147	5.3%
わからない	310	11.2%
無回答	78	2.8%
計	2,767	100.0%



n=2,767

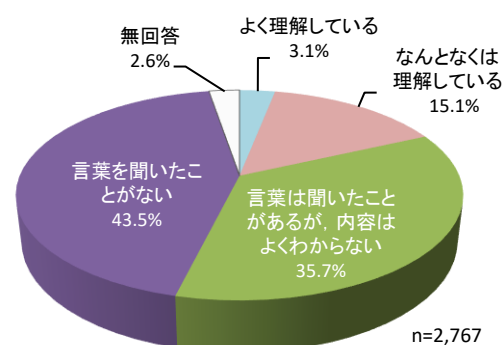
スマートフォンなどを利用するに当たり、情報セキュリティ対策（ウイルス対策ソフトの利用など）や不審なメールによるフィッシング詐欺などへの適切な対応に取り組んでいるかについては、「どちらかというに取り組んでいる（気を付けている）」が42.4%で最も高く、「取り組んでいる（気を付けている）」の31.7%を合わせると7割半ばであった。

(19) スーパースmartシティに関してどの程度知っているかについて

問 1-19 あなたは、本市が目指すまちの姿「スーパースmartシティ」について、どの程度知っていますか。

n=2,767

	回答数	構成比
よく理解している	85	3.1%
なんとなくは理解している	418	15.1%
言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない	987	35.7%
言葉を聞いたことがない	1,204	43.5%
無回答	73	2.6%
計	2,767	100.0%



n=2,767

本市が目指すまちの姿「スーパースmartシティ」について、どの程度知っていますかについては、「言葉を聞いたことがない」が43.5%で最も高く、「言葉は聞いたことがあるが、内容はよくわからない」の35.7%を合わせると約8割であった。

2. 現在の宇都宮市について

問2 宇都宮市がまちづくりとして実施している各種取組について、お伺いします。
あなたは、下記の取組の「重要度」と「満足度」をどう感じていますか。 (1つに○)

(1) 宇都宮市が実施している取組 (14 政策 53 施策) の重要度

①政策の柱Ⅰ:「子育て・教育・学習」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
1. 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現	結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	66.2
	子育て支援の充実	68.3
	子ども・若者の健全育成環境の充実	64.7
	子どもを守り育てる支援の充実	68.1
2. 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現	新たな時代に必要となる資質・能力の育成	64.7
	誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進	70.0
	児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実	68.3
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	61.3
	生涯にわたる学習活動の促進	64.9
3. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現	生涯にわたるスポーツ活動の推進	64.5

②政策の柱Ⅱ:「健康・福祉・医療」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
4. 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現	健康づくりの推進	82.5
	感染症対策の推進	87.3
	安心して医療を受けられる環境の充実	87.7
5. あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現	安心して暮らせる福祉基盤の充実	79.7
	高齢期の生活の充実	81.4
	障がいのある人の生活の充実	79.1
	共に支え合う地域づくりの推進	73.2

③政策の柱Ⅲ:「安心・協働・共生」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
6. 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現	危機に対する体制・都市基盤の強化	82.5
	総合的な治水・雨水対策の推進	81.1
	消防・救急体制の充実	85.9
	日常生活の安心感の向上	83.1
	快適で衛生的な生活環境の確保	79.0
7. 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現	地域主体の協働によるまちづくりの推進	62.0
	市政への理解と参画の促進	61.5
	かけがえのない個人の尊重	70.2
	男女共同参画の推進	64.9
	多文化共生の推進	58.5

④政策の柱Ⅳ:「魅力・交流・文化」

政策	政策を構成する施策 (53項目)	重要度
8. 地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現	個性豊かな観光と交流の創出	71.9
	MICEの推進による魅力と交流の創出	51.1
	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	64.3
	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	67.1
9. 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現	都市ブランド戦略の推進	68.0
	移住定住支援の充実	60.6

⑤政策の柱Ⅴ:「産業・環境」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
10. 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現	地域産業の創造性・発展性の向上	67.9
	商工・サービス業の活力の向上	69.5
	農林業の生産力・販売力・地域力の向上	69.9
11. 脱炭素で循環型、自然共生社会の実現	環境配慮行動の推進	66.2
	脱炭素化の推進	69.5
	ごみの減量化・資源化と適正処理の推進	84.2
	自然との共生の推進	79.3

⑥政策の柱Ⅵ:「都市空間・交通」

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
12. 魅力的で持続可能な都市空間の形成	地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	62.3
	安心で快適な住まいづくりの促進	68.6
	空き家・空き地対策の推進	69.7
	緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出	67.5
	質の高い上下水道サービスの提供	85.7
13. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現	公共交通ネットワークの充実・強化	79.0
	公共交通の利便性向上と利用促進	70.6
	円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進	76.4
	「自転車のまち宇都宮」の推進	46.8

■各政策の柱を支える行政経営基盤

政策	政策を構成する施策（53項目）	重要度
14. 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立	新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	60.0
	地区行政の推進	71.9
	行政の組織マネジメント力の向上	56.3
	財政基盤の更なる強化	72.7

(2) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の現在の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
1. 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現	結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	22.9
	子育て支援の充実	27.1
	子ども・若者の健全育成環境の充実	20.0
	子どもを守り育てる支援の充実	16.8
2. 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現	新たな時代に必要となる資質・能力の育成	21.2
	誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進	14.5
	児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実	22.3
	学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	22.7
	生涯にわたる学習活動の促進	23.5
3. 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現	生涯にわたるスポーツ活動の推進	27.3

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
4. 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現	健康づくりの推進	61.7
	感染症対策の推進	62.8
	安心して医療を受けられる環境の充実	56.0
5. あらゆる市民が安心し、支え合いながら自立して生活できる社会の実現	安心して暮らせる福祉基盤の充実	35.3
	高齢期の生活の充実	35.5
	障がいのある人の生活の充実	26.2
	共に支え合う地域づくりの推進	26.0

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
6. 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現	危機に対する体制・都市基盤の強化	45.6
	総合的な治水・雨水対策の推進	42.6
	消防・救急体制の充実	47.6
	日常生活の安心感の向上	41.0
	快適で衛生的な生活環境の確保	40.1
7. 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現	地域主体の協働によるまちづくりの推進	32.6
	市政への理解と参画の促進	34.2
	かけがえのない個人の尊重	28.0
	男女共同参画の推進	24.1
	多文化共生の推進	22.3

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
8. 地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現	個性豊かな観光と交流の創出	59.7
	MICEの推進による魅力と交流の創出	33.3
	スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化	51.9
	暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進	44.8
9. 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現	都市ブランド戦略の推進	44.2
	移住定住支援の充実	30.3

⑤政策の柱Ⅴ:「産業・環境」

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
10. 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現	地域産業の創造性・発展性の向上	26.8
	商工・サービス業の活力の向上	30.5
	農林業の生産力・販売力・地域力の向上	30.3
11. 脱炭素で循環型、自然共生社会の実現	環境配慮行動の推進	35.2
	脱炭素化の推進	29.9
	ごみの減量化・資源化と適正処理の推進	50.8
	自然との共生の推進	32.7

⑥政策の柱Ⅵ:「都市空間・交通」

個性豊かな観光と交流の創出	政策を構成する施策（53項目）	満足度
12. 魅力的で持続可能な都市空間の形成	地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	40.0
	安心で快適な住まいづくりの促進	27.9
	空き家・空き地対策の推進	19.9
	緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出	39.6
	質の高い上下水道サービスの提供	72.3
13. 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現	公共交通ネットワークの充実・強化	40.7
	公共交通の利便性向上と利用促進	42.4
	円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進	34.6
	「自転車のまち宇都宮」の推進	31.0

■各施策の柱を支える行政経営基盤

政策	政策を構成する施策（53項目）	満足度
14. 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立	新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	31.4
	地区行政の推進	49.4
	行政の組織マネジメント力の向上	26.2
	財政基盤の更なる強化	48.7

3. 各施策についての重要度

(1) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の重要度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現 (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	476	47.5	18.7	2.7	1.5	23.7	5.9
子育て支援の充実		51.3	17.0	1.9	1.5	22.3	6.1
子ども・若者の健全育成環境の充実		45.4	19.3	4.6	1.1	22.7	6.9
子どもを守り育てる支援の充実		51.3	16.8	3.2	0.2	21.6	6.9

全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現について、【重要】と【やや重要】を合わせた【重要(計)】（以下【重要(計)】とする）は「子育て支援の充実」と「子どもを守り育てる支援の充実」がいずれも7割弱であった。

①-2 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現 (%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
新たな時代に必要となる資質・能力の育成	476	43.5	21.2	4.6	1.1	23.1	6.5
誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進		50.8	19.1	2.3	0.2	21.0	6.5
児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実		49.6	18.7	2.9	1.1	20.6	7.1
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実		36.3	25.0	7.8	0.8	23.5	6.5
生涯にわたる学習活動の促進		35.5	29.4	6.7	0.4	21.4	6.5

誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現について、【重要(計)】は「誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進」が約7割で最も高く、次いで「児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実」が7割弱であった。

①-3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
生涯にわたるスポーツ活動の推進	476	32.1	32.4	11.6	2.1	15.8	6.1

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現について、【重要(計)】は「生涯にわたるスポーツ活動の推進」が6割半ばであった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
健康づくりの推進	473	50.1	32.3	3.0	0.0	9.1	5.5
感染症対策の推進		60.3	27.1	1.3	0.4	6.6	4.4
安心して医療を受けられる環境の充実		67.7	20.1	1.1	0.2	6.1	4.9

誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現について、【重要(計)】は「感染症対策の推進」と「安心して医療を受けられる環境の充実」がいずれも9割弱であった。

②-5 あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
安心して暮らせる福祉基盤の充実	473	54.8	24.9	3.0	0.8	11.4	5.1
高齢期の生活の充実		53.7	27.7	2.3	1.3	10.8	4.2
障がいのある人の生活の充実		56.2	22.8	1.7	0.8	11.6	6.8
共に支え合う地域づくりの推進		43.1	30.0	5.1	1.1	14.8	5.9

あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現について、【重要(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」と「高齢期の生活の充実」がいずれも約8割であった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-6 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
危機に対する体制・都市基盤の強化	439	62.2	20.3	0.7	0.5	13.4	3.0
総合的な治水・雨水対策の推進		57.9	23.2	1.1	0.0	13.7	4.1
消防・救急体制の充実		63.8	22.1	1.1	0.2	9.8	3.0
日常生活の安心感の向上		55.4	27.8	2.3	0.2	10.9	3.4
快適で衛生的な生活環境の確保		51.9	27.1	3.9	0.2	13.4	3.4

誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現について、【重要(計)】は「消防・救急体制の充実」が8割半ばで最も高く、次いで「日常生活の安心感の向上」が8割強であった。

③-7 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域主体の協働によるまちづくりの推進	439	25.5	36.4	12.1	3.2	18.5	4.3
市政への理解と参画の促進		23.7	37.8	11.6	2.7	19.4	4.8
かけがえのない個人の尊重		38.0	32.1	4.8	1.6	17.5	5.9
男女共同参画の推進		31.7	33.3	8.7	2.1	20.7	3.6
多文化共生の推進		22.3	36.2	11.2	4.3	22.1	3.9

市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現について、【重要(計)】は「かけがえのない個人の尊重」が約7割で最も高く、次いで「男女共同参画の推進」が6割半ばであった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-8 地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
個性豊かな観光と交流の創出	462	37.2	34.6	7.4	1.7	16.2	2.8
MICE の推進による魅力と交流の創出		24.0	27.1	8.7	4.1	32.3	3.9
スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化		31.0	33.3	7.4	3.7	21.0	3.7
暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		32.9	34.2	4.8	2.4	22.1	3.7

地域資源を守り、活用した賑わいと活力ある社会の実現について、【重要(計)】は「個性豊かな観光と交流の創出」が7割強で最も高く、次いで「暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進」が7割弱であった。

④-9 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
都市ブランド戦略の推進	462	37.9	30.1	7.4	2.6	19.5	2.6
移住定住支援の充実		30.7	29.9	8.0	3.2	24.7	3.5

着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現について、【重要(計)】は「都市ブランド戦略の推進」が7割弱で「移住定住支援の充実」が約6割であった。

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

⑤-10 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域産業の創造性・発展性の向上	455	43.3	24.6	2.6	1.5	22.4	5.5
商工・サービス業の活力の向上		41.3	28.1	3.1	0.7	20.9	5.9
農林業の生産力・販売力・地域力の向上		47.0	22.9	2.9	0.4	21.1	5.7

各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現について、【重要(計)】は「商工・サービス業の活力の向上」と「農林業の生産力・販売力・地域力の向上」がいずれも約7割であった。

⑤-11 脱炭素で循環型，自然共生社会の実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
環境配慮行動の推進	455	35.6	30.5	5.7	2.2	20.0	5.9
脱炭素化の推進		42.2	27.3	4.6	1.5	19.1	5.3
ごみの減量化・資源化と適正処理の推進		62.6	21.5	1.5	0.7	8.4	5.3
自然との共生の推進		52.7	26.6	1.5	0.4	13.4	5.3

脱炭素で循環型，自然共生社会の実現について，【重要(計)】は「ごみの減量化・資源化と適正処理の推進」が8割半ばで最も高く，次いで「自然との共生の推進」が約8割であった。

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-12 魅力的で持続可能な都市空間の形成

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	462	31.4	31.0	9.7	3.2	19.3	5.4
安心で快適な住まいづくりの促進		37.0	31.6	6.1	0.6	20.1	4.5
空き家・空き地対策の推進		40.3	29.4	4.8	1.3	19.9	4.3
緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出		29.0	38.5	8.9	2.6	16.0	5.0
質の高い上下水道サービスの提供		68.0	17.7	0.6	0.6	8.4	4.5

魅力的で持続可能な都市空間の形成について，【重要(計)】は「質の高い上下水道サービスの提供」が8割半ばで最も高く，次いで「空き家・空き地対策の推進」が約7割であった。

⑥-13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
公共交通ネットワークの充実・強化	462	48.7	30.3	3.5	3.0	10.0	4.5
公共交通の利便性向上と利用促進		36.6	34.0	8.9	3.5	13.2	3.9
円滑，快適，安全・安心な道路づくりの推進		44.8	31.6	4.5	0.9	14.3	3.9
「自転車のまち宇都宮」の推進		18.4	28.4	21.4	8.4	18.8	4.5

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現について，【重要(計)】は「公共交通ネットワークの充実・強化」が約8割で最も高く，次いで「円滑，快適，安全・安心な道路づくりの推進」が7割半ばであった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

14 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立

(%)

市の取組	n	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない	わからない	無回答
新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	462	29.4	30.5	5.2	2.4	27.7	4.8
地区行政の推進		40.5	31.4	2.8	1.1	20.3	3.9
行政の組織マネジメント力の向上		29.0	27.3	7.8	2.6	29.0	4.3
財政基盤の更なる強化		40.0	32.7	2.8	1.3	19.7	3.5

持続可能な公共的サービスの提供体制の確立について，【重要(計)】は「地区行政の推進」と「財政基盤の更なる強化」がいずれも7割強であった。

4. 各施策についての満足度

(1) 宇都宮市が実施している取組（14 政策 53 施策）の満足度

①政策の柱Ⅰ：「子育て・教育・学習」

①-1 全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現 (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実	476	5.0	17.9	10.3	4.6	54.6	7.6
子育て支援の充実		6.3	20.8	9.0	5.0	51.5	7.4
子ども・若者の健全育成環境の充実		4.0	16.0	12.2	4.4	55.5	8.0
子どもを守り育てる支援の充実		3.6	13.2	10.9	4.0	61.1	7.1

全ての子どもが安心して健やかに成長できる社会の実現について、【満足】と【やや満足】を合わせた【満足(計)】（以下【満足(計)】とする）は「子育て支援の充実」が3割弱で最も高く、次いで「結婚や妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実」が2割強であった。

①-2 誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現 (％)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
新たな時代に必要となる資質・能力の育成	476	4.4	16.8	8.2	2.9	58.8	8.8
誰もが生き生きと学ぶ学校教育の推進		2.5	12.0	9.7	6.7	60.9	8.2
児童生徒の学びと教職員を支える学校教育環境の充実		5.5	16.8	9.0	5.0	55.9	7.8
学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実		5.3	17.4	7.8	2.1	59.0	8.4
生涯にわたる学習活動の促進		3.8	19.7	8.4	3.2	56.7	8.2

誰もが夢や希望を持ち必要な教育を享受できる社会の実現について、【満足(計)】は「生涯にわたる学習活動の促進」が2割半ばで最も高く、次いで「学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実」が2割強であった。

①-3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
生涯にわたるスポーツ活動の推進	476	4.4	22.9	9.2	4.2	51.3	8.0

誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会の実現について、【満足(計)】は「生涯にわたるスポーツ活動の推進」が3割弱であった。

②政策の柱Ⅱ：「健康・福祉・医療」

②-4 誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
健康づくりの推進	473	15.6	46.1	7.8	2.1	23.7	4.7
感染症対策の推進		18.8	44.0	12.1	2.3	16.5	6.3
安心して医療を受けられる環境の充実		17.3	38.7	15.2	3.2	20.5	5.1

誰もが心身ともに健康に生活できる社会の実現について、【満足(計)】は「健康づくりの推進」と「感染症対策の推進」がいずれも6割強であった。

②-5 あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
安心して暮らせる福祉基盤の充実	473	7.6	27.7	13.1	4.2	41.0	6.3
高齢期の生活の充実		6.3	29.2	11.6	5.7	42.7	4.4
障がいのある人の生活の充実		5.1	21.1	11.8	4.0	50.1	7.8
共に支え合う地域づくりの推進		5.3	20.7	12.3	5.3	50.1	6.3

あらゆる市民が安心して、支え合いながら自立して生活できる社会の実現について、【満足(計)】は「安心して暮らせる福祉基盤の充実」と「高齢期の生活の充実」がいずれも3割半ばであった。

③政策の柱Ⅲ：「安心・協働・共生」

③-6 誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
危機に対する体制・都市基盤の強化	439	6.8	38.7	8.4	3.6	38.5	3.9
総合的な治水・雨水対策の推進		8.0	34.6	11.2	3.6	38.0	4.6
消防・救急体制の充実		12.8	34.9	6.4	1.6	38.7	5.7
日常生活の安心感の向上		8.2	32.8	17.3	4.1	33.5	4.1
快適で衛生的な生活環境の確保		9.1	31.0	8.2	2.1	46.2	3.4

誰もが安全・安心に日常生活を送ることができる社会の実現について、【満足(計)】は「消防・救急体制の充実」が5割弱で最も高く、次いで「危機に対する体制・都市基盤の強化」が4割半ばであった。

③-7 市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域主体の協働によるまちづくりの推進	439	5.2	27.3	13.0	5.0	45.8	3.6
市政への理解と参画の促進		7.5	26.7	9.3	6.6	45.6	4.3
かけがえのない個人の尊重		4.6	23.5	9.6	4.1	54.7	3.6
男女共同参画の推進		4.3	19.8	10.0	4.3	58.1	3.4
多文化共生の推進		4.1	18.2	10.0	4.3	60.1	3.2

市民が互いに尊重し、支え合う社会の実現について、【満足(計)】は「市政への理解と参画の促進」が3割半ばで最も高く、次いで「地域主体の協働によるまちづくりの推進」が3割強であった。

④政策の柱Ⅳ：「魅力・交流・文化」

④-8 地域資源を守り，活用した賑わいと活力ある社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
個性豊かな観光と交流の創出	462	13.0	46.8	9.5	2.6	24.9	3.2
MICE の推進による魅力と交流の創出		6.9	26.4	9.1	5.0	48.7	3.9
スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化		14.3	37.7	6.1	3.2	34.6	4.1
暮らしに息づく文化の継承・創造・活用の推進		8.4	36.4	7.4	4.3	39.6	3.9

地域資源を守り，活用した賑わいと活力ある社会の実現について，【満足(計)】は「個性豊かな観光と交流の創出」が約6割で最も高く，次いで「スポーツを通じた都市の魅力向上・地域活性化」が5割強であった。

④-9 着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
都市ブランド戦略の推進	462	10.6	33.5	15.8	4.8	32.3	3.0
移住定住支援の充実		7.1	23.2	10.4	4.5	51.3	3.5

着実な定住の促進や移住・関係人口の増加による持続可能な地域社会の実現について，【満足(計)】は「都市ブランド戦略の推進」が4割半ばで，「移住定住支援の充実」が約3割であった。

⑤政策の柱Ⅴ：「産業・環境」

⑤-10 各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域産業の創造性・発展性の向上	455	3.3	23.5	15.2	5.5	47.3	5.3
商工・サービス業の活力の向上		5.3	25.3	16.5	6.4	40.0	6.6
農林業の生産力・販売力・地域力の向上		6.2	24.2	14.7	6.6	42.9	5.5

各種産業の強みを生かした持続的に発展する社会の実現について，【満足(計)】は「商工・サービス業の活力の向上」と「農林業の生産力・販売力・地域力の向上」がいずれも約3割であった。

⑤-11 脱炭素で循環型，自然共生社会の実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
環境配慮行動の推進	455	5.3	29.9	11.6	3.5	43.3	6.4
脱炭素化の推進		4.0	25.9	15.2	8.6	41.3	5.1
ごみの減量化・資源化と適正処理の推進		11.4	39.3	18.2	6.8	18.7	5.5
自然との共生の推進		6.2	26.6	14.9	7.9	39.6	4.8

脱炭素で循環型，自然共生社会の実現について，【満足(計)】は「ごみの減量化・資源化と適正処理の推進」が約5割で最も高く，次いで「環境配慮行動の推進」が3割半ばであった。

⑥政策の柱Ⅵ：「都市空間・交通」

⑥-12 魅力的で持続可能な都市空間の形成

(%)

取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成	462	3.5	36.6	20.1	7.4	27.3	5.2
安心で快適な住まいづくりの促進		3.5	24.5	17.5	5.8	42.2	6.5
空き家・空き地対策の推進		3.7	16.2	17.3	10.6	45.9	6.3
緑豊かで魅力ある都市景観の保全・創出		3.9	35.7	13.9	5.6	35.1	5.8
質の高い上下水道サービスの提供		26.4	45.9	5.0	2.6	15.2	5.0

魅力的で持続可能な都市空間の形成について，【満足(計)】は「質の高い上下水道サービスの提供」が7割強で最も高く，次いで「地域特性を生かした安全で魅力ある都市空間の形成」が約4割であった。

⑥-13 誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
公共交通ネットワークの充実・強化	462	7.8	32.9	22.5	16.9	16.2	3.7
公共交通の利便性向上と利用促進		8.0	34.4	15.6	10.4	27.5	4.1
円滑、快適、安全・安心な道路づくりの推進		4.8	29.9	21.6	11.3	28.4	4.1
「自転車のまち宇都宮」の推進		5.6	25.3	16.5	7.1	41.6	3.9

誰もが快適に移動できる総合的な交通ネットワークの実現について、【満足(計)】は「公共交通の利便性向上と利用促進」が4割強で最も高く、次いで「公共交通ネットワークの充実・強化」が約4割であった。

■各政策の柱を支える行政経営基盤

14 持続可能な公共的サービスの提供体制の確立

(%)

市の取組	n	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答
新たなニーズに対応できる持続可能な行政経営の推進	462	6.1	25.3	12.8	5.0	47.0	3.9
地区行政の推進		11.9	37.4	11.9	4.3	30.3	4.1
行政の組織マネジメント力の向上		6.7	19.5	8.9	4.5	55.0	5.4
財政基盤の更なる強化		13.0	35.7	8.9	4.1	34.8	3.5

持続可能な公共的サービスの提供体制の確立について、【満足(計)】は「地区行政の推進」と「財政基盤の更なる強化」がいずれも約5割であった。

市政に関する世論調査報告書

—第 5 7 回 令和 6 年度—

発行日／令和 6 年 1 2 月

発行／宇都宮市総合政策部広報広聴課

〒320-8540（宇都宮市役所専用番号）

宇都宮市旭 1 丁目 1 番 5 号

電話 028-632-2025